外邦織工渡來辨々　三
類聚萬類夾纈考　三
日本工藝篇
増補訂正工藝志料　三
日本歷史篇
日本書紀を讀む心得　四
天智帝時代文學及社會文化狀況　四
朝綱史　四
纂輯御系圖指瑕答辨　四
長慶院非讓位辨　四
蘇那曷叱知來朝考　四
源義仲論　四
天海僧正血統考　四
蝦夷人種論　四
日本風俗篇
日本古代衣食住大意　四
日本古代女子風俗　四
日本制度篇
後宮篇　五
總追捕使起原考　五
日本民法大意　五
古量考　五
考證篇
天皇禮冠考　五
菊桐御章考　五
天皇御華押考　五
東大寺正倉院藏子日鋤及子日考證　五
東大寺獻物帳考證　五
大膳菓小鰭菓考　五
上代石器考　五
日本古典年代說　四
天平時代文學及社會狀況　四
日本上古の外交　四
南山長松幹枝論　四
天日槍歸化時代考　四
在原業平朝臣辨　四
豐臣太閤略譜　四
三條內大臣行狀繪詞稿　四
鎌倉大草紙考　四
日本風俗說　四
日本古代婦人粧飾　四
勳位考　五
日本佩刀沿革　五
商法篇　五
崇神帝以前無年貢考　五
御冠沿革考　五
御諱名沿革考　五
聖德太子御像辨　五
工藝志料徵　五
穴居考　五
日本人口總計考　五
古代四季考　五
俳優考　五
米由來說略　五
大豆由來說略　五
煙草傳來說略　五
山林由來說略　五
論說篇
本敎大意　六
學問の本末　六
君臣說　六
俗祭說略　六
政事刑事の本義　六
道の大意　六
大和魂說　六
祭政說略　六
日本文學篇
日本學問說　六
日本文學大要　六
日本言語說　六
日本書籍刊考　六
色葉歌作者考　六
詠歌奬勵說　六
歌語解說　六
日本語學篇
日本文典大意　六
日本文典初步　六
詞の栞打聽　六
もこそ問答　六
字音問答案　六
日本小文典　六
日本文章法初步　六
玉の緒變格辨　六
詞の八衢講義　六
日本文學說　六
物語繪詞說　六
支那文字傳來考　六
假字新說　六
今樣歌起原沿革　六
和歌所考　六

鷄肋集 七篇(篇五缺) 上田恭輔撰 大正四至四・昭和二 洋・小 冊 類 イ 四 號 八四一

松本博士の大黒天考を難ず　一
天羅安樂經　三
生殖器崇拜敎の話　二
露西亞時代の大連　四

元凱十著 小鷹狩元凱撰 昭和五 洋・中　一　イ 四 一七一
藝藩三十三年錄　廣島藩求次編　一
廣島藩求次編　藝備協會略志　一
藝備協會略志　弘洲雨屋蟲千集外篇　一
弘洲雨屋蟲千集外篇　自慢白島年中行事　二
自慢白島年中行事　子孫繁昌の話(ゾラ)　二
玄耳庵支那叢書 澁川柳次郎撰・玄耳叢書刊行會刊 大正一三・一四 洋・小　六　イ 四 一〇九六
神仙　一
女・家・國　一
法家・刑獄　三
國民叢書 第一至三二(有缺) 德富猪一郎撰・民友社刊 明治二七至三九　初至二五版 洋・小　二四　イ 四 二五三
進步乎退步乎　一
青年と敎育　三
第二靜思餘錄　五
天然と人　七
家庭小訓　九
單刀直入錄　二
文學漫筆　三
世間と人間　五
生活と處世　七
第二日曜講壇　九
第七日曜講壇　二
處世小訓　三
堺利彦全集 六卷 堺利彦撰譯・中央公論社刊 昭和八 洋・小　六　イ 四 一三一
不知所往列傳(小說)　一
蝶くらぶ(小說)　一
萬朝報時代　一
枯川隨筆　一
家庭の新風味　二
百年後の新社會(ベラミー)　二
平民日記(一至三)　三
週刊「平民新聞」所載(發刊の序外一七篇)　三
週刊「直言」所載(共產黨宣言公判外一二篇)　三
週刊「光」所載(「國家社會主義梗概」を讀む外九篇)　三
日刊「平民新聞」所載(社會主義とは何ぞや外六篇)　三
「大阪平民新聞」所載(ハーデー翁外三篇)　三
「日本平民新聞」所載(社會新聞と小生等との關係外八篇)　三
勞働問題(ゾラ)　三
谷川の水(ショウ)　三
貝塚より　四
「近代思想」揭載(大杉と荒畑外二篇)　四
「へちまの花」より　四
ジェルミナール(ゾラ)　四
「新社會」所載(小き旗上外三篇)　五
野性の呼聲(ロンドン)　五
日本社會主義運動史話　六
日本社會主義運動に於ける無政府主義の役割　六
日本社會主義運動小史　六
志賀重昂全集 八卷 同集刊行會刊 昭和二至四 洋・中　八　イ 四 一一三
經世治國篇　一
歷史地理篇　二
外國地理參考書　三
世界山水圖說　三
日本風景論　四
望鄉臺(隨筆)　一
三十歲記(日記)　一
言文一致普通文　一
「家庭雜誌」より　二
子孫繁昌の話(ゾラ)　二
理想鄉(モリス)　三
白頭の戀(小說)　四
「賣文集」より　四
ショウ劇梗概　四
社會講談(鐘掛松外三篇)　五
雜錄(予の自傳外一二篇)　五
堺利彦傳　六
雜錄(三本松外一四篇)　六
附・堺利彦略歷及著作年譜　六
海外事情篇　一
人文地理學講義　二
南洋時事(附錄共)　三
山水叢書 河及湖澤　三
眼前萬里　四

地理學 四 大役小志 五—六
世界の奇觀 五 續世界山水圖說 六
讀賣新聞發行 世界當代地理 六 知られざる國々 六
札幌在學日記 七—八 講演集（自治の精神外三七篇） 七—八
詩藻 七 序文集 七
隨筆集（私の學生時代外一三篇） 八 尺牘 八
諸家の追悼文 八 志賀重昂全集賛助員芳名錄 八
附錄・世界寫眞圖說（拔萃） 八

澁澤榮一全集 六卷 山本勇夫編・平凡社刊 冊 六 類 四 號 一二八一
新編 青淵百話 一 實驗論語 二
社會論叢 三 經濟講話 四
年譜・逸話・世界名士接見錄 五 隨筆及隨想錄 六

春汀全集 三卷 鳥谷部銑太郎撰・博文館編刊 三 イ 四 七三
明治人物月旦 一—二 各種の評論 三

逍遙選集 一二卷・別冊三卷 坪内雄藏撰譯・春陽堂刊 一五 イ 四 一一三
大正一五・昭和二 洋・中
桐一葉（讀み本體） 一 同（實演用） 一
沓手鳥孤城落月 一 役の行者 一
行者と女魔 一 法難 一
大いに笑ふ淀君 一 附錄・上演年表（第一） 一
牧の方（第一作） 二 改作 牧の方 二
名殘の星月夜 二 義時の最期 二
靈驗 二 現代男 二
ある富豪の夢 二 囘春泉の試驗 二
骨董熱 二 附錄・上演年表（第二） 二
新曲浦島 三 長生新浦島 三
新曲赤映姫 三 鉢かづき姫 三
俄仙人 三 金毛狐 三
一休禪師 三 ※夏狂亂 三

初夢 三 小袖物狂 三
寒山拾得 三 お七吉三 三
歌麿と北齋 三 和歌の浦 三
墮天女 三 常闇 三
聖德太子と惡魔 三
舞踊論 三
新樂劇論 三
『浦島』の寓意 三 『浦島』を作せし顚末 三
『竹取』について 三 『赫映姫』について 三
國民樂の將來 三 音樂と繪畫 三
諸曲文は歌なりや文なりや 三 能樂研究の順序 三
諸ひもの〻文章 三 美文としての謠曲文（其一・二） 三
宗教と樂劇 三 能樂の將來につきて 三
音樂と文學 三 日本舞踊の現在及び將來 三
舞踊劇に對する予が作意の過去及び將來 三 舞踊について 三
初夢の曲と振 三 外國の舞踊劇と將來の振事 三
試みとしての日本オペラ 三 歌劇の輸入 三
舞踊劇 三 明治の舞踊 三
浮世繪と我が舞踊劇 三 音樂と其背景 三
舞臺上の色彩と舞踊劇 三 名畫の筆意にもとづく新舞踊劇 三
新舞踊劇の試演に就いて 三 わが在來の舞踊に就いて 三
をどり 三 代表的型物 三
劇場振附及び舞踊師系譜 三 わが六大舞踊派の特質 三
日本舞踊改造の最後の一策 三 『近代舞踊史論』序 三
わが舞踊の行くべき道 三
附錄・上演年表（第三） 四 眞夏の夜の夢（同上） 四
テムペスト（シェークスピヤ） 四 ヘンリー四世第二部（同上） 四
ヘンリー四世第一部（同上） 四 アントニーとクレオパトラ（同上） 五
じやじや馬馴らし（同上） 四 マクベス（同上） 五
以尺報尺（同上） 五

沙翁劇に關する雜筆 五
日本に於ける沙翁研究・飜案及び上演の略誌 五
沙翁劇の飜譯に就いて 五
沙翁劇の飜譯に對する私の態度の變遷 五
醒めたる女（最後のド・ムラン家）（ハンキン） 五
ウォーレン夫人の職業（ショー） 五
主として倫理講話者のために 六
方今の小・中學德育幷びに其弊 六
方今の修身講話者 六
德教頹廢の警喩觀 六
倫理觀の障壁 六
中學修身訓の主旨 六
主として少・青年のために 六
隨時少年訓 六
修身奉公訓 六
孔子とソクラテス 六
理想の語義を辯ず 六
公德訓幷びに圖表 六
惡德の種類及び原因の圖表 六
自殺の分類及び其是非 六
禮の分析幷びに圖表 六
刺客論幷びに圖表 六
教育上より觀たる文藝 六
文學藝術の三作用 六
人生と道樂 六
少年讀書家のために 六
文藝に對する三つの異つた標準 六
劇は敎化機關なりや？ 六
附錄・敎育家としての著者 六
倫理敎育時代の坪内先生（金子馬治） 六

教育家としての坪内先生（五十嵐力） 七
芝居繪と豐國及び其門下 七
芝居繪 七
世界に類例のないわが芝居繪の價値 七
『芝居錦繪集成』序 七
活動寫眞とわが劇の過去 七
廣義に謂ふ演劇の定義幷びに芝居錦繪の分類 七
演劇史料としての我が國の芝居繪幷びに其圖表 七
わが劇畫に現はれたバセチックなアブナ趣味 七
女歌舞伎に關する古畫八種 七
歷史小說・歷史畫・歷史劇 七
歷史小說に就きて 七
三たび夢幻劇を論ず 七
志賀松節一代記 七
史劇に關する疑ひを再び『太陽』記者に質す 七
藝術上に所謂歷史的といふ語の眞義如何 七
再び歷史畫を論ず 八
春廼家漫筆 八
壹圓紙幣の履歷ばなし 八
政界叢話 八
人生四季 八
何故に滑稽作者は出でざるか？ 八
詩人の二性格 八
「文明」の研究 八
ノルダウの『現代の墮落』の序 八
近世文學思想の源流 八
『天の網島』（明治二三） 八
近松が時代物 八
近松研究會發會の辭 八
『戀八卦柱曆』 八

善惡根柢一覽 七
倫理入門講話 七
武弊と文弊 七
千歲一遇の機 七
惡德の解剖 七
常識善惡圖表 七
有目的の自殺の圖表 七
惡德矯正法幷びに圖表 七
酒と藝術 八
今の小說を讀む若き人々の爲に 八
文部大臣の訓令につきて 八
文藝取締り問題 八
プレートーの少年敎育と文藝 八
史劇及び史劇論の變遷 八
をかし 八
梓神子 八
所謂新しい女 八
如何なる人が最もよく笑ふか？ 八
學者頭と詩人頭 八
牛のよだれ 八
馬骨人言 八
近松の淨瑠璃 八
『女殺油地獄』 八
『めいどの飛脚』 八
『槍權三重帷子』 八
『天の網島』（明治三〇） 八

『雪女五枚羽子板』 八
近松とシェークスピヤ 八
特種の偶人劇としての我が操り芝居の研究 八
外國の操り芝居 八
近松二百年記念事業に對する希望 八
近松二百年記念事業に就いて（再び） 八
藝術と社會
新時代に對する藝術の職能 九
民衆本位と我が劇の前途 九
禍亂の防止策としての公共藝術の奬勵 九
新民衆劇を起さんとする理由 九
ペーヂェントの適用範圍 九
新國民演藝としての英米のペーヂェント 九
戸外劇三種 九
近松ペーヂェント 九
藝術と家庭
文化力としての童話及び童話術 九
兒童劇の三種類 九
演劇と青年教育 九
兒童劇の種類及び使命 九
兒童劇に對する種々の杞憂 九
家庭用及び學校用脚本
兒童劇の效用（再び） 九
家庭用兒童劇の地方巡回公演に際して 九
初等教育に於ける演劇 九
附錄・家庭用兒童劇及びペーヂェント上演顚末（伊達豐・大村弘毅） 九
女形の前途と歌舞伎の前途 一〇
『國性爺合戰』
時代おくれの脚本 八
わが舊劇に似た外國の劇 八
『市川團十郎の代々』序 八
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 八
四世鶴屋南北の傳 八
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 八
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 九
我が演劇の前途
觀劇の目安 九
寫實劇と素人俳優 九
演劇刷新の依然として困難なる所以 九
近頃の劇の面白からぬ理由 九
歌舞伎劇に對する希望 九
新脚本と其前途 九
普通の見物人の好まぬ劇 九
近松の新改作 九
帝國劇場と歌舞伎劇 九
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 九
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 九
老近松を世界に紹介すべし 九
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 九
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一〇
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一〇
美辭論稿 一〇
讀書法と朗讀法に關する論說 一〇
讀法を興さんとする趣意 一〇
國文學の將來 一〇
英詩文訓釋 一〇
英詩文の訓釋法に就いて 一〇
文學としての我が在來脚本 一〇
時代おくれの脚本 一〇
わが舊劇に似た外國の劇 一〇
『市川團十郎の代々』序 一〇
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一〇
四世鶴屋南北の傳 一〇
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一〇
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一〇
我が演劇の前途
觀劇の目安 一〇
寫實劇と素人俳優 一〇
演劇刷新の依然として困難なる所以 一〇
近頃の劇の面白からぬ理由 一〇
歌舞伎劇に對する希望 一〇
新脚本と其前途 一〇
普通の見物人の好まぬ劇 一〇
近松の新改作 一〇
帝國劇場と歌舞伎劇 一〇
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一〇
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一〇
老近松を世界に紹介すべし 一〇
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一〇
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一一
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一一
美辭論稿 一一
讀書法と朗讀法に關する論說 一一
讀法を興さんとする趣意 一一
國文學の將來 一一
英詩文訓釋 一一
英詩文の訓釋法に就いて 一一
文學としての我が在來脚本 一一
時代おくれの脚本 一一
わが舊劇に似た外國の劇 一一
『市川團十郎の代々』序 一一
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一一
四世鶴屋南北の傳 一一
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一一
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一一
我が演劇の前途
觀劇の目安 一一
寫實劇と素人俳優 一一
演劇刷新の依然として困難なる所以 一一
近頃の劇の面白からぬ理由 一一
歌舞伎劇に對する希望 一一
新脚本と其前途 一一
普通の見物人の好まぬ劇 一一
近松の新改作 一一
帝國劇場と歌舞伎劇 一一
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一一
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一一
老近松を世界に紹介すべし 一一
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一一
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一二
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一二
美辭論稿 一二
讀書法と朗讀法に關する論說 一二
讀法を興さんとする趣意 一二
國文學の將來 一二
英詩文訓釋 一二
英詩文の訓釋法に就いて 一二
文學としての我が在來脚本 一二
時代おくれの脚本 一二
わが舊劇に似た外國の劇 一二
『市川團十郎の代々』序 一二
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一二
四世鶴屋南北の傳 一二
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一二
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一二
我が演劇の前途
觀劇の目安 一二
寫實劇と素人俳優 一二
演劇刷新の依然として困難なる所以 一二
近頃の劇の面白からぬ理由 一二
歌舞伎劇に對する希望 一二
新脚本と其前途 一二
普通の見物人の好まぬ劇 一二
近松の新改作 一二
帝國劇場と歌舞伎劇 一二
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一二
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一二
老近松を世界に紹介すべし 一二
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一二
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一三
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一三
美辭論稿 一三
讀書法と朗讀法に關する論說 一三
讀法を興さんとする趣意 一三
國文學の將來 一三
英詩文訓釋 一三
英詩文の訓釋法に就いて 一三
文學としての我が在來脚本 一三
時代おくれの脚本 一三
わが舊劇に似た外國の劇 一三
『市川團十郎の代々』序 一三
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一三
四世鶴屋南北の傳 一三
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一三
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一三
我が演劇の前途
觀劇の目安 一三
寫實劇と素人俳優 一三
演劇刷新の依然として困難なる所以 一三
近頃の劇の面白からぬ理由 一三
歌舞伎劇に對する希望 一三
新脚本と其前途 一三
普通の見物人の好まぬ劇 一三
近松の新改作 一三
帝國劇場と歌舞伎劇 一三
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一三
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一三
老近松を世界に紹介すべし 一三
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一三
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一四
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一四
美辭論稿 一四
讀書法と朗讀法に關する論說 一四
讀法を興さんとする趣意 一四
國文學の將來 一四
英詩文訓釋 一四
英詩文の訓釋法に就いて 一四
文學としての我が在來脚本 一四
時代おくれの脚本 一四
わが舊劇に似た外國の劇 一四
『市川團十郎の代々』序 一四
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一四
四世鶴屋南北の傳 一四
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一四
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一四
我が演劇の前途
觀劇の目安 一四
寫實劇と素人俳優 一四
演劇刷新の依然として困難なる所以 一四
近頃の劇の面白からぬ理由 一四
歌舞伎劇に對する希望 一四
新脚本と其前途 一四
普通の見物人の好まぬ劇 一四
近松の新改作 一四
帝國劇場と歌舞伎劇 一四
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一四
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一四
老近松を世界に紹介すべし 一四
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一四
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一五
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一五
美辭論稿 一五
讀書法と朗讀法に關する論說 一五
讀法を興さんとする趣意 一五
國文學の將來 一五
英詩文訓釋 一五
英詩文の訓釋法に就いて 一五
文學としての我が在來脚本 一五
時代おくれの脚本 一五
わが舊劇に似た外國の劇 一五
『市川團十郎の代々』序 一五
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一五
四世鶴屋南北の傳 一五
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一五
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一五
我が演劇の前途
觀劇の目安 一五
寫實劇と素人俳優 一五
演劇刷新の依然として困難なる所以 一五
近頃の劇の面白からぬ理由 一五
歌舞伎劇に對する希望 一五
新脚本と其前途 一五
普通の見物人の好まぬ劇 一五
近松の新改作 一五
帝國劇場と歌舞伎劇 一五
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一五
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一五
老近松を世界に紹介すべし 一五
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一五
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一六
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一六
美辭論稿 一六
讀書法と朗讀法に關する論說 一六
讀法を興さんとする趣意 一六
國文學の將來 一六
英詩文訓釋 一六
英詩文の訓釋法に就いて 一六
文學としての我が在來脚本 一六
時代おくれの脚本 一六
わが舊劇に似た外國の劇 一六
『市川團十郎の代々』序 一六
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一六
四世鶴屋南北の傳 一六
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一六
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一六
我が演劇の前途
觀劇の目安 一六
寫實劇と素人俳優 一六
演劇刷新の依然として困難なる所以 一六
近頃の劇の面白からぬ理由 一六
歌舞伎劇に對する希望 一六
新脚本と其前途 一六
普通の見物人の好まぬ劇 一六
近松の新改作 一六
帝國劇場と歌舞伎劇 一六
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一六
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一六
老近松を世界に紹介すべし 一六
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一六
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一七
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一七
美辭論稿 一七
讀書法と朗讀法に關する論說 一七
讀法を興さんとする趣意 一七
國文學の將來 一七
英詩文訓釋 一七
英詩文の訓釋法に就いて 一七
文學としての我が在來脚本 一七
時代おくれの脚本 一七
わが舊劇に似た外國の劇 一七
『市川團十郎の代々』序 一七
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一七
四世鶴屋南北の傳 一七
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一七
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一七
我が演劇の前途
觀劇の目安 一七
寫實劇と素人俳優 一七
演劇刷新の依然として困難なる所以 一七
近頃の劇の面白からぬ理由 一七
歌舞伎劇に對する希望 一七
新脚本と其前途 一七
普通の見物人の好まぬ劇 一七
近松の新改作 一七
帝國劇場と歌舞伎劇 一七
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一七
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一七
老近松を世界に紹介すべし 一七
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一七
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一八
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一八
美辭論稿 一八
讀書法と朗讀法に關する論說 一八
讀法を興さんとする趣意 一八
國文學の將來 一八
英詩文訓釋 一八
英詩文の訓釋法に就いて 一八
文學としての我が在來脚本 一八
時代おくれの脚本 一八
わが舊劇に似た外國の劇 一八
『市川團十郎の代々』序 一八
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一八
四世鶴屋南北の傳 一八
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一八
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一八
我が演劇の前途
觀劇の目安 一八
寫實劇と素人俳優 一八
演劇刷新の依然として困難なる所以 一八
近頃の劇の面白からぬ理由 一八
歌舞伎劇に對する希望 一八
新脚本と其前途 一八
普通の見物人の好まぬ劇 一八
近松の新改作 一八
帝國劇場と歌舞伎劇 一八
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一八
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一八
老近松を世界に紹介すべし 一八
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一八
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 一九
新民衆藝術の發祥地としての大阪 一九
美辭論稿 一九
讀書法と朗讀法に關する論說 一九
讀法を興さんとする趣意 一九
國文學の將來 一九
英詩文訓釋 一九
英詩文の訓釋法に就いて 一九
文學としての我が在來脚本 一九
時代おくれの脚本 一九
わが舊劇に似た外國の劇 一九
『市川團十郎の代々』序 一九
『歌舞伎脚本傑作集』第三卷緒言 一九
四世鶴屋南北の傳 一九
默阿彌作「網模様燈籠菊桐」 一九
作の上より見たる我が劇壇の現在及び未來 一九
我が演劇の前途
觀劇の目安 一九
寫實劇と素人俳優 一九
演劇刷新の依然として困難なる所以 一九
近頃の劇の面白からぬ理由 一九
歌舞伎劇に對する希望 一九
新脚本と其前途 一九
普通の見物人の好まぬ劇 一九
近松の新改作 一九
帝國劇場と歌舞伎劇 一九
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？ 一九
東京劇壇の現況と外國劇界の趨勢 一九
老近松を世界に紹介すべし 一九
『假名手本忠臣藏』の劇としての價値 一九
『妹背山婦女庭訓』
自己を失はない程度の新藝術 二〇
新民衆藝術の發祥地としての大阪 二〇
美辭論稿 二〇
讀書法と朗讀法に關する論說 二〇
讀法を興さんとする趣意 二〇
國文學の將來 二〇
英詩文訓釋 二〇
英詩文の訓釋法に就いて 二〇

ウァーヅワースの抒情詩 二
破格の名文 二
國字及び國文に關する論說 二
新文壇の二大問題 二
言文一致について 二
所謂漢字節減案の分析的批判 二
史論に關するもの
史論四派 二
『世界文明史物語』序 二
脚本に關する訴訟事件の鑑定 二
默阿彌作「青砥稿花紅彩畫」の鑑定 二
演藝と演劇の別 二
「檜山實記」事件 二
「二蓋笠柳生實記」事件 二
義太夫は改良すべからず 二
百合若傳說の本源 二
賴朝の女・大姫 二
『平家詩史』序 二
『阿修羅帖』序 二
三絕披露の事 二
少年時代 二
私の寺子屋時代 二
學生時代の追憶 二
新舊過渡期の文學 二
曲亭馬琴 二
回憶漫談（其一・二） 二
劇に關する回想 二
內地で初めて觀た外國俳優のシェークスピヤ劇の印象 二
古河（河竹）默阿彌 二
九世團十郎 二
譯詩
文のすがた 二
普通教育に漢字を全廢すべし 二
文章上の擧國一致 二
『國民の日本史』序 二
『日本南國物語』序 二
『春色梅開曆』事件 二
『近江源氏先陣館』事件 二
『箱崎文庫』事件 二
西洋の八人藝 二
百合若・酒顚童子・金太郎等 二
大隈伯の『菁公談』跋 二
『漫遊人國記』序 二
『あぶな繪集』序 二
十歲以前に讀んだ本 三
新舊過渡期の回想 三
京童 三
細君 三
松のうち 三
春風情話（スコット） 三
自由太刀餘波銳鋒（シェークスピヤ） 三
贋貨つかひ（カサリン女史） 三
小說神髓 三
沒理想論 三
熱海に關する追憶 三
故人錄 三
狩野芳崖（其一・二） 三
齋藤綠雨（其一・二） 三
山田一郎（愛川）（其一・二） 三
二葉亭四迷（其一・二） 三
杉谷代水 三
舞踊の師西川嘉義 三
饗庭篁村 三
坪內大造 三
增子喜一郎 三
文藝協會史料 三
文藝協會組織一新の趣意 三
文藝協會々則 三
文藝協會演劇研究所規定 三
日本に沙翁劇を興さんとする理由 三
「ハムレット」に就いて 三
「故鄕」に就いて 三
何故に新しき劇を必要とするか？ 三
附錄・逍遙年譜 三
同・著者の業績に關する諸家の回想 三
東京專門學校文學科の創設（市島謙吉） 三
前期文藝協會（水口薇陽） 三
後期文藝協會（河竹繁俊） 三
「ハムレット」公演に先きだちて 三
文藝協會內規 三
余丁町の演劇研究所 三
日本で演ずる「ハムレット」 三
「ハムレット」公演後の所感 三
敎化の目的と文藝協會 三
文藝協會研究所創立まで 三
大西祝 三
小泉八雲（ラフカヂオ・ハルン） 三
綱島梁川 三
田原菜 三
島村抱月 三
大隈老侯 三
森鷗外 三
東儀鐵笛 三
妹と脊かゞみ（新聲） 三
未來の夢（內地雜居） 三
春窗綺話（泰西活劇） 三
慨世士傳（リットン）（開卷驚奇） 三
ふたごころ（諷刺奇談） 三

我れにあらずして汝にあり　一
沒理想の語義を辨ず　二
其意は違へり　二
『早稻田文學』が谷「時文評論」村の緣起　二
罵の字　二
解嘲　二
逍遙印譜　二
逍遙著譯年表　二
『逍遙選集』の刊行に就きて　一
エスキラスの三段曲　二
『鴨』の梗概　二
『蘇生の日』序　二
ハウプトマン作『孤寮』の梗概　二
『ソネットの黒婦人』に就いて　二
文體の成り行き　二
外國語學と外國文學　二
翻譯すべき外國文學　二
『小學國語讀本』編纂要旨　二
『中學新讀本』編纂方針　二
新聞小說鑑裁の標準　二
性格と性根　二
三諦互融論　二
讀韓圖哲學　二
同　一　イ四　六二六
同　五　イ四　一三〇〇

我が國は海の國　大海原　總　一九八
早稻田中學校々歌　蜂屋小學校々歌
菅原小學校々歌
附錄
逍遙著譯年表
『逍遙選集』の刊行に就きて　一冊　イ四類　八〇〇號
論語識　長井洿撰　大正三・和大
幽雅　木筆詩
藏名山房雜著　第一集　岡千仞撰　明治一四・唐・小　八　イ四　八九二
東旋詩紀　一
禺于日錄　二
北游詩草　三
涉史續筆　六—八
蘇峰叢書　第一至七・一〇冊　德富猪一郎撰・民友社刊　昭和三・四・洋・小　八　イ四　一二三八
皇室と國民　一　名山遊記　二
國民と政治　三　好書品題　四
書齋感興　五　人物偶錄　六
關東探勝記　七　新聞記者と新聞　八
立花文學士遺稿　立花銑三郎撰・正木直彥編　明治三六・洋・中　一　イ四　六二五
老子ノ哲學　三諦互融論
法相宗四重田體論　讀韓圖哲學
北光（佛・ウオルテール）
同　一　イ四　六二六
樗牛全集　高山林次郎撰・齋藤信策・姉崎正治編　大正一三至一五・二〇至二七版・洋・中　五　イ四　一三〇〇

美學及美術史
美學上の研究　一
文藝及史傳
日本美術史未定稿　一
文藝評論
平相國　二—三
史傳雜纂
釋迦
時勢及思索
當公傳
想華及消息
文藝評論補遺
瀧口入道　四
雜篇　感想　四
消息　五
外篇
改訂註釋樗牛全集　高山林次郎撰・姉崎正治・笹川種郎編　大正一四至昭和六・初至三版・洋・小　六　イ四　一一〇七
美學及美術史　一　文藝評論　二
史論及史傳　三　時論及思索　四
世界文明史及近世美學　五　想華及感激　六
增補縮刷樗牛全集　第三卷　高山林次郎撰・姉崎正治等編　大正七（一七版）洋・小　一　イ四　九八二
鼎軒田口卯吉全集　八卷（內卷三缺）　同集刊行會編　昭和二至四・洋・中　七　イ四　一三七

史論及史傳

歷史概論外二一篇　一
附錄・大日本人名辭書第一版の卷末に書す外九編　一
附・著作年表・解說（黒板勝美）　一

文明史及社會論

日本開化小史　二　日本開化之性質　二
日本之意匠及情交　二　日本古代通貨は如何外五編　二
支那開化小史　二　新體支那歷史を讀む外一篇　二
商業史歌外三篇　二　古代の研究外三篇　二
破黃禍論外一篇　二　社會氣運の變化外七篇　二

隨筆及感想

樂天錄　七　隨筆及感想（日記外七六篇）　七
時事（東京府小學讀本の採用如何外二二篇）　七
人事（編輯長吉岡太三獄中に死す外三四篇）　七
書籍（緒言外四四篇）　七　紀行（安房の土產外八篇）　七

詠草(歌合戰外一篇) 七
附・解說(長谷川萬次郎) 七

天心遺稿 赤沼金三郎撰・高橋作衛編 明治三五 洋・中 七

歐洲古代哲學史概論
古代倫理學東西比較論
大小二乘の比較論
外人接遇考

天台道士著作集 杉浦重剛撰・日本中學校校友會編 大正四 洋・中 一

鬼哭子
鬼怒子
日本教育原論
倫理書
鬼哭論集
航英日記
病餘々錄

東洋論集 小野梓述 寫本(逃者・刪補) 和・中 一

商況論
貨幣ノ制ハ硬貨ノ主義ヲ持ス
施政ノ要義(同上)
告我黨人(同上)(明治十五年三月卅日代首領筆作)
祝東京專門學校之開校
輸入減少之源因

得庵全書 鳥尾小彌太撰・川合清丸編 明治四四 洋・中 一

時文體(智德發達論等一四種)
漢文體(正法論等四種)

書翰 七
附・田口先生略歷及び年譜 七

泊翁叢書 西村茂樹撰・日本弘道會編 明治四二 洋・中 一冊 イ 類 四 號 二七八

佛教と孔老二家の學との比較
道義起源論
道義哲學概
漢文

原敬全集 同集刊行會刊 昭和四 洋・中 二 イ 四 一一五二

鬼笑子
樊噲夢物語(一名新平民回天談)
哲學こなし
天台道士教育論纂
鬼哭年表
梅窓一朶
附錄・貞照庵回想錄

同 二 イ 四 一一〇〇

福澤全集 五卷 福澤諭吉撰・時事新報社編 明治三一 洋・中 五 イ 四 三九九

福澤全集緒言
西洋事情
西洋旅案內
西洋衣食住
洋兵明鑑
清英交際始末
世界國盡
學問のすゝめ
かたわ娘
帳合之法
第二文字之教
會議辨

明治會堂演說草稿
宣言(改進黨)
規約(同上)

論郵便

言文體(眞正哲學無神論等八種)
訓文體(併行日記等六種)

國家道德論
建言稿
自識錄
東奧紀行
泊翁先生詩集
泊翁先生年譜略
泊翁先生論說目錄

書簡篇
演說・講演篇
原敬年表

華英通語
雷銃操法
條約十一ヶ國記
窮理圖解
掌中萬國一覽
英國議事院談
啓蒙手習之文
童蒙教草
改曆辨
第一文字之教
文字之教附錄
文明論之概略

分權論

民間經濟錄
通貨論
通俗國權論
時事小言
帝室論
兵論
全國徵兵論
日本婦人論
士人處世論
日本男子論
國會の前途
治安小言
實業論

福澤文集
通俗民權論
民情一新
時事大勢論
德育如何
學問の獨立
通俗外交論
品行論
男女交際論
尊王論
國會難局の由來
地租論

福澤全集 五卷 福澤諭吉撰・時事新報社編 明治三一 洋・中 五 イ 四 一〇四八

匏菴遺稿 栗本鯤撰・同秀二郎編 明治三三 洋・中 一 イ 四 一一七三

鉛筆紀聞
曉窗追錄補
獨寐寤言
箱館叢記
養獄起原
匏菴手東拾遺
匏菴文集

曉窗追錄
漫錄
五月雨草紙(喜多村香城)
七重村樂園起原
漫錄追抄
匏菴詩集

同 二 イ 四 九〇三

抱月全集 八卷 島村瀧太郎撰譯・本間久雄等編 大正八・九 初・再版 洋・中 八 イ 四 一三〇一

文藝評論 西鶴論外二一四篇
美學及歐洲文藝史

美學概論
美術講話
サンダイヤルマーシャルリップス 美學綱要
藝術論講話
歐洲文藝思潮史講話

新美辭學及文學概論

新美辭學
文章雜考
明治文學略史

飜譯

故鄉(獨・ズーダーマン)
ペレアスとメリサンド(白・マーテルリンク)
七王女(同上)
海の夫人(諾・イプセン)
クレオパトラ(英・シエーキスピアー)

小說

しろあらし外二〇篇

戲曲

清盛と佛御前
海濱の一幕
競爭

文藝雜纂

劇壇(英國の劇壇外二九篇)
趣味(日本趣味と西洋趣味外九篇)

隨筆・日記・書簡

紀行(沙翁の墓に詣づるの記外四篇)
小品(風を追ふ外六篇)
滯歐通信

文壇雜報
雜俎(文學入門者に外二四篇)
序文及公開狀(鑑修者の序外五篇)

美學及美術上の研究
美學未定稿
文學概論
悲劇論

新文章論
文學概論

人形の家(諾・イプセン)
モンナ・ヴンナ(同上)
復活(露・トルストイ)

運命の丘
復讐
赤と黃の夕暮

文壇(英國の小說界外二三篇)

風光
隨筆(對墓庵漫筆外七篇)
書簡

抱月全集第三・四卷 大正八 洋・中 島村瀧太郎撰・本間久雄等編 冊二 イ四類 九三六

文學博士三宅米吉著述集 同集刊行會編 昭和四 洋・中 二 イ四 二二四

著書

日本史學提要(第一編) 一 習字教授案 一
小學歷史編纂法 一 益軒ノ教育法 一
幕末以前日歐交通年表略 一 文學博士那珂通世君傳 一
御卽位禮と大嘗祭 一 聖堂略志 一

論文

歷史(我國の土壁に就てチャンバアレン氏の說を評す外三一篇) 一
國語(かなづかひのこと外一六篇) 一
考古學及人類學(法隆寺所藏四天王紋錦旒外五〇篇) 二
地理(磐梯山の噴火外一一篇) 二 教育(學士の義務外四一篇) 二
雜(雜誌「文」の目的外五九篇) 二

梁川全集七卷 大正一〇・二一 洋・小 綱島榮一郎撰・梁川會編 七 イ四 九八九

東西倫理思想史

歐洲倫理思想史 一 春秋倫理思想史 一
西洋倫理學史 二

倫理學說研究 マッケンダー氏 シジウィック氏 倫理學綱要 三 スチーブンス氏倫理學 三
倫理學方案(第一篇) 三 倫理問題の發達 三
快樂派倫理 三

倫理教育論集

倫理學序論 四 道德的理想論 四
倫理教育宗教に關する論文(『福翁百話』を讀む外二九篇) 四 附錄・道德的理想論外四篇 四
倫理問答 四

病間錄 五 回光錄 五
病窓雜筆 五 附錄・雜記 五

感想集

觀堂外集 兩周金石文韻讀 二 爾雅草木蟲魚鳥獸釋例 二
史籀篇疏證 二 觀堂古金文考釋五種 三
唐韻佚文 三 校松江本急就篇(校補共) 三
殷禮徵文 四 唐寫本唐韻校記 四
補高郵王氏說諧聲譜 七 聯綿字譜 一五—一六
簡牘檢署考 八 釋幣 一七
漢魏博士題名考 九 魏石經殘石考(附錄共) 一九
耶律文正年譜(餘錄共) 二 清眞先生遺事 二〇
兩浙古刊本考 三 五代兩宋監本考 三三
國朝金文著錄表 四 宋代金文著錄表 三四
今本竹書紀年疏證 二六—二八 古本竹書紀年輯校 三五
蒙韃備錄箋證(改訂本) 二九 古行記四種校錄 三〇
聖武親征錄校注 三〇 黑韃事略箋證(改訂本) 三〇
乾隆浙江通志考異殘稿 三一 長春眞人西遊記校注 三一
觀堂譯稿 三二—三四 室韋考(津田左右吉) 三五
中亞細亞探檢談(匈・斯坦因) 三六 後村別調(補遺共) 三七
唐五代二十一家詞輯 三七 錄鬼簿校注 三七
人間詞話(增補本) 三八 唐宋大曲考 三八
宋元戲曲考 三八 古劇脚色考 三九
戲曲考源 三九 錄曲餘談 三九
優語錄 三九
曲錄 四〇—四三

洪北江先生遺集二四種・年譜等附 清・洪亮吉撰 光緒三至五 重刊 唐・大 八四 イ四 三六八

洪北江先生年譜 一 卷施閣集 二一—一五
更生齋集(附・鮚軒詩集) 一六—二五 更生齋詩餘 三〇
擬兩晉南北史樂府(附・鮚軒外集) 三一 北江詩話 三三—三五
曉讀書齋雜錄 三四—三五 傳經表 三六
通經表 三七 六書轉注錄 三八—四一

弟子職箋釋 四二 史目表 四三
春秋左傳詁 四三—五三 漢魏晉 五三
比雅 五四—五五 乾隆府廳州縣圖志 五六—七五
補三國疆域志 七六—七七 東晉疆域志 七九—八〇
十六國疆域志 八〇—八三 遺戍伊犁日記 八四
天山客話 八四 外家紀聞 八四

春在堂全書 清・俞樾撰 唐・中 (光緒八年重定本) 六四 イ四 四八四

群經平議 一—一三 諸子平議 一三—一九
第一樓叢書 二〇—二六 曲園雜纂 二七—三三
俞樓雜纂 三四—四一 宋代金文著錄表 三五
春在堂雜文(續・三篇共) 四五—四九 古本竹書紀年輯校 四九—五一
春在堂詞錄 五一 古行記四種校錄 五二—五三
春在堂尺牘 五四—五五 長春眞人西遊記校注 五五
四書文 五七 檀驂錄存 五七
柚中書 五八 太上感應篇纘義 五七
右台仙館筆記 五九—六四 游藝錄 五八

眞西山全集 宋・眞德秀撰 唐・大 (清版) 九〇 イ四 九二六

大學衍義 一—一〇 文章正宗 一一—二〇
讀書記 三一—六〇 西山文集 六一—八七
西山年譜(清・眞采編) 八八 心經 八七
政經 九〇

西河合集二三種(內五種原缺)・徐都講詩附 清・毛奇齡撰・毛際可等重輯 一三〇 イ四 九四六

經集

仲氏易 一—七 推易始末 八
河圖洛書原舛編 九—一〇 太極圖說遺議 九
易小帖 九—一〇 易韻 一一
古文尙書冤詞 一二—一三 尙書廣聽錄 一四
舜典補亡 一五 國風省篇 一五

笠岡漫遊雜誌 六 消夏漫筆 六
偶思錄 六 所思斷片 六
自省錄 六 我親手びかえ 六
我觀錄 六 雜記(其一至五) 六
寸光集 六 隨感錄(第一至四) 六
梁川隨筆 六 枕頭雜筆 六
附錄・雜記(書入) 六

文藝雜纂

美術文藝に關する論文(スペンサーの美論外三八篇) 七
雜篇(月前狂外一六篇) 七 漢文評釋 七

支那全集・支那選集(個人)

王船山經史論十二種 清・王夫之撰 光緒二九(石印) 唐・小 二四 冊 イ四 類 七五三 號

周易內傳 一—三 周易外傳 四—五
尙書引義 六 詩廣傳 七
春秋家說 八—九 讀四書大全說 一〇—一三
春秋世論 一四 續春秋左氏傳博議 一五
讀通鑑論 一六—二一 宋論 二三—二三
永曆實錄 二四 黃書 二四

甌北全集七種・傳・年譜等附 清・趙翼撰 唐・中 (清版) 六六 イ九 五六四

廿二史劄記 二—一七 陔餘叢考 一八—三三
皇朝武功紀盛 三三 簷曝雜記 三四—三五
甌北詩鈔 三六—四五 甌北詩話 四六—四八
甌北集 四九—六六 傳・年譜・墓誌銘 一

甌北全集缺本 清・趙翼撰 光緒三 重刊 唐・大 二九 イ四 三六五

海甯王忠慤公遺書四集四三種 王國維撰 民國一六 唐・小 四二 イ四 一六一

イ 總類 四 叢書

毛詩寫官記 一五—一六
詩傳詩說駁義 一七
續詩傳鳥名卷 一八
廟制折衷 一九
北郊配位章西向議 二〇
辨定祭禮通俗譜 二一—二三
曾子問講錄 二五—二六
春秋屬辭比事記 三六
春秋占筮書 四〇
四書索解 四一
大學證文 四三
中庸說 四四—四五
四書賸言補 四七
逸講箋 四八
竟山樂錄 四九—五〇
李氏學樂錄 五一—五三
周禮問 五三
明堂問 五四
郊社禘祫問 五五
經問補 五六

文集

詰 六一
主客辭 六一
議 六二
史館劄子 六三
書 六四—六五
箋 六五
題跋詞題端 六五
跋 六四—七四

頌 六一
奏疏 六二
揭子 六三
史館擬判 六三
牘札 六四—六五
序 六六—七三
引弁首 七四
書後緣起 七四

王文成傳本 八一
墓表 八二
神道碑銘 八七
事狀 八八
記事 八八
說 八九
制科雜錄 八九
越語肯綮錄 八九
湘湖水利志 九〇
杭志三詰三誤辨 九二
館課擬文 九二
答三辨文 九三
辨聖學非道學文 九三
古禮今律無繼嗣文 九四
禁室女守志殉死文 九五
武宗外記 九五—一〇〇
讎司合志 一〇三
賦 一〇四
誄文 一〇四
詞話 一〇六
連廂詞 一〇七
七言絕句 一〇九—一一二
七言古詩 一一二—一一四
七言律詩 一一七—一一九
五言格詩 一一九—一二〇
附・徐都講詩（清・徐昭華） 一二〇

墓碑銘 八一
墓誌銘 八二—八六
塔誌銘 八七
年譜 八八
集課記 八九
錄 八九
後觀石錄 八九
何御史孝子祠主復位錄 九〇
蕭山縣志刊誤 九一
天問補註 九二
折客辨學文 九二
釋二辨文 九三
辨忠臣不徒死文 九三
古今無慶生日文 九四
勝朝彤史拾遺記 九四—九五
後鑒錄 九六—九七
讀學要指 一〇一—一〇二
九懷詞 一〇二
詩話 一〇四—一〇五
填詞 一〇六—一〇七
二韻詩（五言絕句） 一〇八
排律 一一一—一一三
五言律詩 一一五—一一六
七言排律 一一六
雜體詩 一一九

西河合集 二三種（內五種原缺）・徐都講詩附 清・毛奇齡撰・毛鸞輯等重輯 一三〇 イ 四 一六二

石泉書屋全集 缺本 清・李佐賢撰 咸豐八至光緒元 底・大

坦室遺文（李文耜） 一
石泉書屋類稿 三—五
石泉書屋尺牘 八
石泉書屋館課詩 一〇—一一
石泉書屋制藝補鈔 一四
武定詩續鈔（李佐賢編） 一七—二四

坦室雜著（同） 二
石泉書屋詩鈔 六—七
石泉書屋律賦 九
石泉書屋制藝 一三—一六
吾廬筆談 一五—一六

惜抱軒全集 一四種 同治五 重刊 清・姚鼐撰 唐・中

惜抱軒文集 一—三
惜抱軒詩集 六—八
惜抱軒外集 八
左傳補注 九
穀梁傳補注 九
惜抱軒筆記 一〇—一一
五言今體詩鈔 一五

惜抱軒文後集 四—五
惜抱軒詩後集 八
惜抱軒法帖題跋 九
公羊傳補注 九
國語補註 九
惜抱軒九經說 一三—一四
七言今體詩鈔 一六

船山遺書 同治四 重刊 唐・大 一〇〇 イ 四 七四二

經類

周易內傳（發例共） 一—七
周易稗疏 八
周易外傳 九—一二
倘書引義 一四—一五
詩經攷異 一八
詩廣傳 一九—二〇
春秋家說 二六—二八
春秋世論 四〇—四一
讀四書大全說 四三—五一
四書攷異 五三

周易大象解 八
周易攷異 八
書經稗疏 一二—一三
詩經稗疏 一六—一八
詩經叶韻辨 一八
禮記章句 二一—二五
春秋稗疏 二六
續春秋左氏傳博議 四二
四書稗疏 五三
說文廣義 五五—五九

史類

讀通鑑論 五六—七〇

宋論 七一—七四

子類

張子正蒙注 七九—八三
俟解 八四
黃書 八五
老子衍 八五
莊子通 九〇

思問錄內外篇 八三
噩夢 八四
識小錄 八五
莊子解 八六—九〇
愚鼓辭 九〇

集類

楚辭通釋 九一—九二
薑齋五十自定稿 九四
薑齋七十自定稿 九五
落花詩（夕堂戲墨卷一） 九五
和梅花百詠詩（同卷三） 九五
鴈字詩（同卷五） 九五
獄餘集 九六
鼓棹二集 九六
詩譯（薑齋詩話卷一） 九七
夕堂永日緒論外篇 九七
龍舟會雜劇 九七
王船山叢書校勘記（清・劉毓崧） 九九
龍源夜話 九九
薑齋詩編年稾 九九
薑齋文集補遺 一〇〇

薑齋文集 九三
薑齋六十自定稿 九四
柳岸吟（薑齋詩集卷四） 九五
遣興詩（同卷二） 九五
洞庭秋詩（同卷四） 九六
倣體詩（同卷六） 九六
鼓棹初集 九六
瀟湘怨詞（夕堂戲墨卷七） 九七
夕堂永日緒論內篇（同卷二） 九七
南窗漫記（薑齋詩話卷三） 九七
經義 九八
薑齋詩賸稿 九九
憶得 九九
薑齋詩分體藁 一〇〇

永厥實錄 七五—七七 蓮峰志 七八

曾文正公全集 一三種・年譜附 清・曾國藩撰 二八 イ 四 三四九

曾文正公奏稿 一—三〇
經史百家襍鈔（同上） 五一—七〇
曾文正公詩集 七二—七八
曾文正公書札 八二—九七
曾文正公批牘 一〇四—一〇五
十八家詩鈔（曾國藩編） 三一—五〇
鳴原堂論文 七一—七三
曾文正公文集 七九—八一
曾文正公批牘 九八—一〇三
求闕齋讀書錄 一〇六—一〇九
曾文正公雜著 一〇四—一〇五

求闕齋日記類鈔　二一〇—二一
經史百家簡編(同上)　二一三—二一四
曾文正公全集 缺本 光緒一四 唐・小　曾國藩撰　清・曾國藩撰
亭林遺書 二三種・附錄三種 光緒一四 唐・大　清・顧炎武撰・席威・朱記榮編　二〇 イ 九 五八〇
左傳杜解補正　一
五經同異　二—三
聖安紀事　四
明季實錄　五
聲平二州地名記　九
京東攷古錄　一〇
通鑑十事　一一
金石文字記　一二—一四
菰中隨筆　一五
亭林雜錄　一六
亭林詩集　一六—一九
亭林帙詩　二〇
附・亭林先生神道表(清・全祖望)　二〇
藤花亭十種 清・梁廷枏撰 道光一〇 唐・中　一二 イ 四 五四一
論語古解　一
南漢書考異　五—七
南漢文字略　八—九
續金石稱例　一〇
博考書餘　一一
東塾叢書 初函四種・附一種 清・陳澧撰 唐・大(清版)　八 イ 四 一〇八九
漢儒通義　一—二
切韻考　三—四
考正德清胡氏禹貢圖(陳宗誼)　八
桐城吳先生全書 六種一八卷 清・吳汝綸撰 唐・大(清版)　一三 冊 イ 四 七七〇
易說　一—二
夏小正私箋　三
詩集　四—五
尚書故　三—五
文集　六—九
尺牘　一〇—一三
桐城吳先生全書 缺本 唐・大(清版)　清・吳汝綸撰　五 イ 四 七三一
豐川全集 存省稿正編二八卷 唐・大(清版)　清・王心敬撰　一〇 イ 四 八九六
語錄(一・二)　一
侍側紀聞(門人編)　二—三
學旨　四
傳道諸儒評　五
課程　五
答問成人之要　五
序　五
家訓　六—七
孟子要略(曾國藩編)　一三
曾文正公年譜(清・黎庶昌編)　二五—二八
九經誤字　一
韻補正　二—三
顧氏譜系考　四
歷代帝王宅京記　四
昌平山水記　六—九
山東攷古錄　一〇
求古錄　一一
石經考　一二
救文格論　一三
亭林文集　一五
亭林餘集　一六
附・顧亭林先生年譜(清・吳映奎編)　一六—一七
附・同志贈言(清・沈岱瞻編)　一九
語錄(上下)　一
侍側紀聞(王勉勤・王功勍編)　二
證心錄　四
評諸子　五
明學　五
書　五
雜著　六—八
六—九
楊園先生全集 一五種 清・張履祥撰 寫本 和・大　八 イ 四 一二七六
經正錄　一
問目　一
書　二—三
學規　四—五
答問　六
言行見聞錄　六
近鑑　七
農書　八
願學記　一
備忘　一
初學備忘　二—三
訓子語　五
門人所記　六
近古錄　七
喪祭雜記　八
呂新吾司寇全集 明・呂坤撰 唐・大(清重刊本)　三六 イ 四 五一四

呻吟語　一六—二一
救命書　三〇
四禮疑　三一
宗約歌　三二
閫戒　三二
天日　三三
展城戎問　三三
反輓歌　三四
續小兒語(附・小兒語(明・呂得勝))　三五
實政錄　三三—三九
河工書　三〇
四禮翼　三一
好人歌　三二
省心紀　三三
修城書　三三
黃帝陰符經(呂坤註)　三四
墓誌銘　三四
交泰韻　三六

論文集・講演集

岡倉先生記念論文集 Lovejoy(Chamberlain) 外二六篇 昭和三 洋・中　一 イ 四 一三七
學界餘談 第一編 昭和三 二つの希望(櫻井錠二)外一七篇 東京朝日新聞社學藝部編　一 イ 四 一三八
財團法人啓明會紀要 第三至一三號(有缺) 大正一四至昭和七 洋・中　同會刊　九 イ 四 一二七
支那財政ノ眞相ト其革新策ニ就テ(木村增太郎)　一
支那の關稅改正問題(特別關稅會議と其の對策)(同上)　二
假名の研究(大矢透)　三
日本式「キモノ」より西洋式「勞働服」に至る經過(日本產業推移の經路)(米・ホーランド)　四
米國少年裁判所の研究(芳川顯雄)　五
世界大戰の獨逸教育に及ぼしたる影響(獨・ケルレルマン撰・大久保利武譯)　六
佛獨白諸國農村の瞥見(笠森傳繁)　七
農村問題と教育との一考察(山本良吉)　八
日本モンロー主義と滿洲(金子堅太郎)　九
齋藤報恩會學術研究總務部 總報研究報告別刷集 第一至六 同部刊 大正一五至昭和五 洋・大三　イ 四 一二七八
擴壓器に用ふる内地製增幅器及び增幅用變壓器の特性(千葉茂太郎)　一
膵内泌ニ關スル研究(續報)(熊谷岱藏・鵜飼哲)　一
高壓聽診器の研究(第二回報告)(佐藤彰・抜山平一)　一
膵ほるもん注射ニヨル血液ノ物理的性質及ビ血液像ノ影響(菊池捷二・得田慶市)　一
擬似電話ケーブルによる電話中繼器の實驗(千葉茂太郎)　一
膵ホルモンノ吸收ニ就テ(桂重鴻・小塚喜四郎)　一
ラヂオ周波數交流ポテンショメーター其他ブリッヂに就て(抜山平一)　一
特別高周波に於ける三極眞空管定數の測定(渡邊寧・西大立目信雄)　一
ベンゾール・トルオール系の凝固曲線及び二・三の物理的性質に就て(箕作新六・中土晃)　一
ベンゾール：mキシロール系・トルオール：mキシロール系・及mキシロール：pキシロール系の凝固曲線に就て(中土晃)　一
ダル・エミツターに就て(岡部金治郎)　一
可聽周波數增幅器の一段增幅比(千葉茂太郎)　一
永久磁石の特性に就て(小林勝一郎)　一
淋巴ノ糖量及腸管ヨリノ含水炭素吸收路ニ關スル研究(桂重鴻)　一
エチルエーテル・酒精及び木精の融解熱に就て(箕作新六・原賢次)　一
血液及淋巴越幾斯ノ血糖ニ對スル影響ニ就テ(佐藤基)　一
膵臟内分泌ト迷走神經(星醫吾)　一
魚類ノ膵構造ニ就テ(鵜飼哲)　一
尿中ノ血糖降下物質ニ就テ(小塚喜四郎)　一
種々ノ狀態ニ於ケル血中ほるもんニ就テ(星醫吾)　一
青化水素の蒸氣壓(篠崎平馬等)　一
甲狀腺發育不全型侏儒ノ尿成分・血液かたらーぜ・竝ニ次亞硫酸曹達排泄ニ對スル甲狀腺劑ノ影響(吉松駿一・櫻田彬)　一
體液無機硫酸ノ微量比色定量法(吉松駿一)　一
血液無機硫酸・無機燐酸・竝ニくろーる微量比色定量法(同上)　一
Circular Tube に於ける Skin Effect の計算(抜山平一・堀川初夫)　一
だぜーるノ生物學的意義(二)(だぜーるニ依ルあるかろいど吸着)(吉松駿一)　一
簡單ナル尿中沃度微量比色定量法(吉松駿一・櫻田彬)　一
血液かりうむ微量比色定量法(吉松駿一)　一
高壓器に就て(抜山平一)　一
奥羽北部の石器時代文化に於ける古代支那文化の影響に就いて(喜田貞吉)　一
サイアノゼンの接觸酸化及其中間酸化生成物に就て(阿部末吉・原龍三郎)　一
高壓聽診器の研究(第二回報告)(佐藤彰・抜山平一)　一
空中線の組合せと其方向性(宇田新太郎)　一
三極眞空管驗波リレーに就て(抜山平一・芝崎徠祿)　一

ピエゾ共振子に依る周波數安定作用に就て（渡邊寧） 一
梯子型位相矯正囘路に就いて（千葉茂太郎） 一
濾波器に於ける瞬時現象（同上） 一
東北大學に於ける電氣通信の研究に就て（八木秀次） 一
金屬電着に用ふる添加劑の共通性（第四報）（伏屋義一郎・長野昌隆） 一
膠ほるもんト鹽類代謝（第一報）（武内宗四郎） 一
五十サイクル用增幅器（千葉茂太郎） 一
無線操縱の一方法（同上） 一
定周波發振裝置竝に其發振周波數に就て（抜山平一・永井建三） 一
Ternary system CaO-Al_2O_3-SiO_2 の水化作用に就て（内田寒郎・眞田義彰） 一
三極眞空管急動繼電器を應用した定溫爐竝びに定周波裝置に關する實驗（抜山平一） 一
低溫度に於けるエチルエーテル・アセトン及び木精の粘度（冀作新六・外村德三） 二
波長計の標準化に使用する multivibrator の發振周波數の簡略計算式（抜山平一・永井健三） 二
指向性水平偏波の輻射に就て（宇田新太郎） 二
無線電信受信用トリツガー其他再生式檢波法に就て（千葉茂太郎） 二
膠ほるもんト鹽類代謝（第二報）（武内宗四郎） 二
家兎涙腺組織ノ寒冷ニ對スル抵抗力ニ就テ（松井仁） 二
ネオン・ランプ繼電器と其電氣通信工學上の一應用（千葉茂太郎） 二
電氣聽診器（Magnoscope）の研究（佐藤彰・抜山平一） 二
漏電多き架空線路に於ける電信法（千葉茂太郎） 二
超短電波發生用眞空管及び其れに依つて起る二三の電子的異常現象に就て（岡部金治郎） 二
集合空中線による指向性（宇田新太郎） 二
Public Address System 特に受話器（擴聲器）に於ける瞬時現象（千葉茂太郎） 二
青化水素の研究（其二）（青化水素の蒸氣及液體密度に就て）（篠崎平馬） 二
青化水素の研究（其三）（二三の熱力學的數値の計算）（同上） 二
文化七年（一八一〇）の男鹿地震と鮪川斷層（大橋良一） 二
大島池の成因に就て（安齋徹） 二
無線音變成器（抜山平一） 二
二極眞空管に依る短波長及超短波電波長の增幅及檢波に就て（岡部金治郎） 三
送電網の双曲線函數理論（其三）（發振器）（抜山平一・堀川初夫） 三
スクリーン・グリット眞空管に依る增幅に就て（千葉茂太郎） 三
市販三極眞空管の二次電子放電射特性（永井健三・釜范善一） 三
衝撃試驗より觀たる二三の避雷器の特性に就て（望月重雄） 三
音響變成器及喇叭の双曲線變數・集音器の實用理論及音響傳達系の一般考察竝設計に就て（小林勝一郎） 三
活火山と地震（中村左衞門太郎） 三
電氣通信研究論文表（第一〇一至一九七號）（附・萬國工業會議提出論文表）（東北帝大工學部電氣通信研究室） 三
日高見國の研究（喜田貞吉・以下同） 三
蝦夷編年史料 三 オシラ神に關する二三の臆説
越の國及び越人の研究 三 夷弓に關する臆説
北海道手宮洞窟内彫刻に就て 三
衝撃電壓上昇過度中に於ける火花放電に就て（第四報）（避雷器に關する實驗）（望月重雄） 三
新型超短波用受信機に就て（宇田新太郎） 三
高壓聽診器（マグノスコープ）に就て（佐藤彰・抜山平一） 三
ホーン（喇叭）の特性に就て（抜山平一） 三
ネオン・ランプ繼電器に就て（千葉茂太郎） 三
短波長ビームに就て（第一一報告）（宇田新太郎） 三
漏電障害ある電信線路に於ける通信法（千葉茂太郎） 三
陸奥椿山海岸より發掘せるエオリス様の石片に就て（曾根廣） 三
中繼線に依る各地放送局中繼放送電波間の時差測定（千葉茂太郎） 三
野兎病々原體の實驗的研究（續報）（附・大原一芳賀球菌の培養法・二（大原八郎） 三
個食ニヨル實驗的眼乾燥症家兎血漿ヲ以テセル角膜組織ノ體外培養（松井仁） 三
オイルド・ペーパーの絶緣耐力に就て（第二報）（望月重雄） 三
極超短波に依る無線電話（極短波研究・二）（宇田新太郎） 三
衝撃電壓上昇過渡中に於ける火花放電に就て（第五報）（避雷器に關する實驗）（望月重雄） 三
電氣音響傳達系の設計に關する考察（小林勝一郎） 三
避雷器に關する研究の推移に就て（望月重雄） 三

金屬電著に用ふる添加劑の共通性（第六報）（伏屋義一郎・湯本良治） 二
沿面コロナのダイナミック的研究（望月重雄） 二
搬送波式電話に關する研究（幸前治一・杉山榮一） 二
大地を歸路とせる交流囘路の誘導作用を利用せる通信法（千葉茂太郎・成田達） 二
增濾波器と濾波發振器による搬送多重電信法（抜山平一・永井健三） 二
標準音源及び音響強度測定器として Vibrometer の應用（小林勝一郎） 二
火花の遲れの測定法に對する定性的考察（望月重雄） 二
送電網の双曲線函數理論（其二）（無損失送電網の特性）（永井健三） 二
微振動の聽取測定竝に記錄（抜山平一） 二
無線電信電話に於ける同時送受信法（千葉茂太郎） 二
複合リアクタンス囘路と其應用（同上） 二
格子狀共振器（岡部金治郎） 二
桃樹の水素イオン濃度と二種の Valsa 菌の發育に就て（富樫浩吾） 二
普通の三極管に依つて得らるゝ短波の Practical Limit（宇田新太郎） 二
交流電氣抵抗爐の自働恒溫裝置（永井健三・原龍三郎） 二
濾波器と增濾波器（抜山平一） 二
金屬電著に用ふる添加劑の共通性（第七・八報）（伏屋義一郎） 二
スーパー・ヘテロダイン式受信機に就て（千葉茂太郎） 二
指向性空中線に依る超短波無線二重通信に關する實驗（千葉茂太郎・山崎信次） 二
大電力放送受信に關する實驗竝に放送受信機に現はれた新傾向（千葉茂太郎） 二
空中の超音波による通信（抜山平一） 二
内地に於ける蝦夷の末路（喜田貞吉） 二
無灰ゼラチンの稀薄水溶液の粘度に就て（伏屋義一郎等） 二
純炭素鋼の變態點（佐藤知雄） 二
プレート檢波に際しL・Cのプレート電流に對する影響（永井健三） 二
正常竝ニ所謂寡血糖性痙攣ヲ起セル家兎ノ腦實無機鹽類含有量ニ就テ（武内宗四郎） 二
最近一年間の東北帝國大學に於ける電氣通信法の研究に就て（千葉茂太郎） 三
男鹿半島の地體構造（大橋良一） 三

烏頭屬植物中のアルカロイドに就て（第五報）（烏頭屬植物含有の新アルカロイドメサコニチン及びヒパコニチンに就て）（森尾森一） 三
二十世紀新論十種 民友社譯編 明治三四 洋・小 一 イ 四 一二九
亞細亞に於ける歐洲の勢力（英・タウンセンド） 一 イ 四 一二九
支那改革論（英・ハート） 滿洲論（英・ディロン） 一 イ 四 一二九
英國實業の衰頽（米・カーネギー） 露國藏相ウイッテと露國財政（英・ディロン） 一 イ 四 一二九
露國の自由思想（露・ウォルコウスキー） 伊太利政海の狀態（英・チンメルン女史） 一 イ 四 一二九
世界の國債（米・オースチン） 藝術論（露・トルストイ） 一 イ 四 一二九
文學に於ける斬新（瑞西・シンツ） 一 イ 四 一二九
蘇峰先生古稀祝賀知友新稿 同祝賀記念刊行會編 昭和六 洋・中 一 イ 四 一三〇
高野山阿彌陀二十五菩薩來迎圖（東伏見邦英） 一 イ 四 一三〇
修史を論ず（大谷光瑞） 一 イ 四 一三〇
東山御文庫及びその歷代宸翰について（黒板勝美） 一 イ 四 一三〇
肥前風土記猪熊本に就いて（井上通泰） 一 イ 四 一三〇
神皇正統記を論ず（山田孝雄） 一 イ 四 一三〇
織田豐臣德川三公の性格概論（三上參次） 一 イ 四 一三〇
織田信長の復古政治（渡邊世祐） 一 イ 四 一三〇
梵僧指空禪師と達磨大師の畫像（高楠順次郎） 一 イ 四 一三〇
佛敎美術研究の現在竝に將來を考へて苗本圖像の研究に及ぶ（小野玄妙） 一 イ 四 一三〇
小倉文紀と五山の名匠（森大狂） 一 イ 四 一三〇
東大寺大佛の頭頂を補鑄せる山田道安に就いて（後藤是山） 一 イ 四 一三〇
天海僧正年齡考（辻善之助） 一 イ 四 一三〇
藤原惺窩の文集と遺墨（附・惺窩の病症に就て）（土肥慶藏） 一 イ 四 一三〇
明治時代の法制（三浦周行） 維新史の見方一二（藤井甚太郎） 一 イ 四 一三〇
幕末の討幕計畫に關する一考察（井野邊茂雄） 一 イ 四 一三〇
司馬凌海と松林飯山（入澤達吉） 一 イ 四 一三〇
肥後に於ける西洋醫學（附・横井小楠の之が奬）（山崎正董） 一 イ 四 一三〇
橋本景岳先生（平泉澄） 俊傑眞木泉州（勝田孫彌） 一 イ 四 一三〇
大日本國政典に就いて（尾佐竹猛） 兆民先生行狀記（小泉策太郎） 一 イ 四 一三〇

日本史前學の前途（大山柏）
玉に對する古代亞細亞民族の先天的崇敬心に就ての考察（上田恭輔）
世界貝塚發見史としての大森貝塚（鳥居龍藏）
擬策一道（内藤虎次郎）
鄒所南の露根蘭と心史とにつきて（中山久四郎）
吳曇井傳辨誤二則（石田幹之助）　玄菟の樂浪は今の旅順（淺見倫太郎）
朝鮮典籍の一考察（素王事紀に就て）（稻葉君山）
三朝史話（菊池謙讓）　朝鮮人蔘（三宅驥一）
日本人の美術鑑賞（正木直彦）　萬葉人と植物（佐佐木信綱）
足利學校遺蹟圖書館現藏貴重書を一瞥して（長澤規矩也）
德川初期の地誌（髙木利太）　水戸學（川崎三郎）
いぶきのまうた（安藤和風）　作文趣味（高橋義雄）
賴山陽を如何に觀る（木崎愛吉）　大通餅大通燒（三田村玄龍）
日本住宅雜感（岡田信一郎）　古曾部の古甕（齋藤弔花）
古染付の皿（小野賢一郎）　世界一の贅澤新聞（奥村信太郎）
時事新報社の K君（下村宏）　小林さん（吉屋信子）
君子蘭（赤星陸治）　親ごころ（鳩田青峰）
齡にまつはる文化（三宅やす子）　口腹追慕の一節（松崎天民）
マルキシズムとレーニニズム（河田嗣郎）
平和及軍縮より見たる國防（佐藤鐵太郎）　戰爭とその記錄者（櫻井忠溫）
大型巡洋艦の運命（伊藤正德）
農業の振興に關する根本問題（瀧本誠一）　消費を縛る力（下田將美）
桂内閣と濱口内閣（阿部賢一）　社會事業家の精神（山室軍平）
感化事業（留岡幸助）　心の健康を計れ（增田義一）
逆の味ひ（野間清治）　峨眉山記（松内則信）
唯物史觀論（深井英五）　西山の櫻（高濱虛子）
星と語る時代（馬場恒吾）　タウンセンド・ハリスの一私信（新村出）
姬街と三方ケ原（白柳秀湖）
エネチヤに於ける日本使者（木下杢太郎）
歐洲新聞に現はれた最初の日本記事（木村毅）

「ラグビー」のトマス・アーノルド（水崎基一）
江芸閣及ゾーフの樂翁公五十の賀詞（武藤長藏）
リットン・ストレチイ氏の「女王ヴィクトリヤ」（戸川秋骨）
アンドルウ・マアゼル（竹友藻風）　猶太の詩歌（湯淺吉郎）
新聞について（築田欽次郎）　新聞通信に就て（光永星郎）
現代新聞の論壇（坂口二郎）　新聞時務一家言（山根眞治郎）
ノースクリフとスチード（米田實）　政治家と新聞（伊藤龜雄）
新聞記者としての司馬遷（福良竹亭）　雜誌記者論（山本實彦）
雜誌修業（石川武美）　「新聞に就て」に就いて（杉村廣太郎）
誰が讀んでくれるか（石川六郎）　新聞紙と文章道（千葉龜雄）
何故に「國民」を夕刊新聞としたか（伊達源一郎）
古稀を祝して德富蘇峰翁に贈る（本山彦一）　少年時代の蘇峰君（浮田和民）
蘇峰先生の誠實（小笠原長生）　蘇峰先生の存在（伊藤仁太郎）
德富蘇峰と予（綱島佳吉）　先生を繞る數氏と私（永代靜雄）
兄か伯父か（巖谷小波）　德富蘇峰先生に就て（高田畊安）
蘇峰兄と小生（松村介石）
民友社の金蘭簿（結城禮一郎）
新聞記者及び歷史家としての蘇峰先生（濱田佳澄）

由井正雪事件と德川幕府の養子法（穗積陳重）　一
諱に關する疑（同上）　二

東洋協會調査部學術報告第一册　東洋協會編　明治四二　洋・大　一　イ四　三七九

滿洲の佛寺建築（伊東忠太）　韓國慶州に於ける新羅時代の遺蹟（關野貞）　一　イ四　三七一
清朝國號考（市村瓚次郎）　日韓兩國語同系論（金澤庄三郎）　一　イ四　三七二
間島國境問題（幣原坦）　蒙古驛傳考（羽田亨）　一　イ四　三七三

日獨叢書　第一編　日獨文化協會刊　昭和三　洋・中　一　イ四　三八〇

新國際良心（アルフ）　新獨逸の行くべき道（ストレーゼマン）

日佛文化　第一至三輯　日佛會館學藝部編　昭和二至四　洋・中　三　イ四　二八一

現代佛蘭西音樂と我音樂界との交渉（小松耕輔）外六篇　一
十八世紀以降のフランス化學界瞥見（朝比奈貞一）外七篇　二
歐羅巴に於ける印刷の初期（ド・ビイ）外七篇　三

壬寅新民叢報全編　尾卷缺　維新室校刊　光緒二九　唐・小　一五　イ四　七五三

井上博士講論集　第一編　交情餘韻附　井上圓了撰・佐村八郎編　明治二七　洋・小　一　イ四　二四一
内田銀藏講論集　講話・論著五六篇　内田銀藏撰　大正一一　洋・中　（内田銀藏遺稿全集本）　一　イ四　二一〇五

教育及宗教
人物
雜
地理及紀行
書籍・批評

同

湯原先生記念出版　易水想波　易水漢詩文存附　湯原先生記念會編　昭和三　洋・中　一　イ四　二一〇六
學說乞丐袋　表裏反對の問違ひづくし外三六篇　加藤弘之撰　明治四四　洋・中　一　イ四　二四三
思潮評論　大西祝撰　明治三七　洋・中　（大西博士全集本）　一　イ四　二四四
巽軒論文　初・二集　井上哲次郎撰　明治三二　洋・中　二　イ四　二四五
〔樗牛〕時勢及思索　高山林次郎撰　明治三八　洋・中　（樗牛全集）　一　イ四　二四〇〇
途上偶感　民主主義外一六篇　矢野恒太撰　大正一四　洋・小　一　イ四　二一七三
偶評　西先生論集　西周撰・土居光華評　明治一五　再版　洋・小　一　イ四　二一三五
西村茂樹先生論說集　卷之一　松平直亮編　明治二七　和・中　一　イ四　二四六

武藤元信論文集　清少納言傳外一四篇・前附小傳　武藤元信遺著　刊行會刊　昭和四　洋・小　一　イ四　二一〇七
甫水論集　明治三十五年を迎ふるの辭外三四篇　井上圓了撰　明治三七　再版　洋・中　一　イ四　二一七一
黎明　曉の鐵外四類　茅原廉太郎撰　大正五　洋・小　一　イ四　二一七二

◎

朝日講演集　第五輯　朝日新聞社編　大正九　洋・小　一　イ四　二四七

藝術と實行（島崎藤村）　文化の變轉と新展望（姉崎正治）
日本民族の將來（下村宏）　家族制度と婦人問題（河田嗣郎）
俳句雜感（松瀨青々）

慶應義塾宇都宮講演　慶應義塾刊　大正四　洋・中　一　イ四　二一四四

教育と哲學的精神（鹿子木員信）　農村問題（氣賀勘重）
栃木縣工業の發展と同縣人の覺悟（星野半六）
公民教育（板倉卓造）

大阪府立圖書館長在職廿年記念講演集　記念會記事　同會刊　昭和三　洋・中　一　イ四　二四八

今井貫一君

近世人の大阪觀（本庄榮治郎）　圖書の保存に就て（武田五一）
葉茂堂の一遺著に就て（新村出）　寬政時代の藏書家市橋下總守（内藤虎次郎）

學術講演錄　第一至三輯　大日本文明協會編　大正四・五　洋・中・小　三　イ四　二四九
財團法人啓明會講演集　第一至五〇回（有缺）　同會事務所刊　大正八至昭和八　洋・中　五　イ四　二六二

法律上より觀たる國際聯盟（山川端夫）
經濟方面より觀たる國際聯盟（深井英五）
獨逸の近況（髙楠順次郎）
露國の最近社會變動の經過及因由（今井時郎）
スタイン氏發見の敦煌畫に就て（瀧精一）
朝鮮李王家の古樂舞―我が宮中の舞樂との關係（田邊尚雄）

支那佛教史蹟踏査報告（常盤大定） 一
臺灣及琉球の音樂に就きて（田邊尚雄） 一
德川時代に於ける民教育の教科書たる往來物に就きて（岡村金太郎） 一
建築の理想と實際（伊東忠太） 二
波斯・メソポタミヤ方面視察談（縫田榮四郎） 二
ブラジル移民問題に就きて（富田愛次郎） 二
琉球史概觀（東恩納寬惇） 二 南島研究の現狀（柳田國男） 二
古琉球の歌謠に就きて（伊波普猷） 二
琉球美術工藝に就きて（鎌倉芳太郎） 二
琉球藝術の性質（伊東忠太） 二 琉球の音樂に就いて（山内盛彬） 二
新土耳古國の建設（内田定槌） 二 土耳其の經濟事情（土・ペー） 二
眼前の異人種問題（柳田國男） 二 アイヌ研究の現狀（金田一京助） 二
アイヌの生活と博物館のアイヌ品陳列棚（八田三郎） 二
白老コタンのアイヌの生活（同上） 二 アイヌ生活の變遷（伏根弘三） 二
アイヌ語の本質（バチラー） 二
我が國の古舞古樂に就きて（高野辰之） 三
附・邦樂實演會詞曲・朗詠譜・法相聲明譜・天臺聲明譜 三
歐洲に於ける勞働問題の趨勢（前田多門） 三 國際經濟會議に就きて 三
支那最近の政情（笹川潔） 三
Final Report of the World Economic Conference. 三
滿蒙に於ける人類學上の研究に就きて（鳥居龍藏） 三
日本の立場より見たる西洋美術（矢代幸雄） 四 滿蒙の經濟的價値（木村增太郎） 四
希臘事情（川島信太郎） 四
軍縮會議の開かるゝに臨みて（南郷次郎） 四
產業の合理化（吉野信次） 四
歐洲勞働運動の趨勢と失業問題（富田愛次郎） 四
航空研究の最近の情況（斯波忠三郎） 四
歐米諸國補習教育の近況と我國教育制度の改善（田尻常雄） 四
支那建築と其の裝飾（伊東忠太） 四 支那陶器の鑑賞（奥田誠一） 四
支那漆藝の發達と其趣味（六角紫水） 五
支那金工に就て（香取秀眞） 五 支那文樣の特質（安田祿造） 五
支那國民性とその染織（鹿島英二） 五 支那の瓦塼（關野貞） 五
支那工藝に關する文獻（田邊孝次） 五 東洋文化の世界的意義（安岡正篤） 五
金本位の作用・殊に金融との關係（山崎覺次郎） 五
民法改正と婚姻問題（穗積重遠） 五
滿洲支那領土說の批判と滿洲國の建國（矢野仁一） 五
現代思潮講演集 慶應義塾大學編 大正一四 洋・中 一冊 イ 四類 一三五〇號
現代哲學の趨勢（川合貞一） 現代教育思潮概說（小林澄兄）
古典派經濟學の復興（高橋誠一郎） 新民約論（板倉卓造）
近世社會思想上に於ける改良主義と革命主義（小泉信三）
ホヰトマンと近代思想（野口米次郎） 英詩の推移（同上）
同 一 イ 四 一三七四
當代名流五十家訪問錄 坪谷善四郎編 明治三二 洋・小 一 イ 四 一三五一
當代名流五十家訪問錄 坪谷善四郎編 明治三二 再版 洋・小 一 イ 四 一三五二
最新思潮講話 文藝協會編 明治四一 洋・中 一 イ 四 一三五三
宇宙觀（三宅雄二郎） 現今の哲學（金子馬治）
雌雄の起原及進化（丘淺次郎） 近世美學上の問題（島村瀧太郎）
ハムレット講話（坪内雄藏）
大禮記念通俗講演集 東北帝國大學編 大正五 洋・中 一 イ 四 一三四
臺灣日日新報壹萬號記念講演集 所謂「試驗地獄」に就いて（三遍綴）外二三篇 臺灣日日新報社編 昭和四 洋・小 一 イ 四 一三五五
同 一 イ 四 一三五六
日獨文化講演集 第一至八輯（有缺） 日獨文化協會刊 昭和二至七 洋・中 七 イ 四 一三六三
獨逸思想界の現狀（桑木嚴翼）

世界の文化發展に對する獨逸國民の貢獻（坂口昂） 一
大乘佛教の使命（ゾルフ演・グンデルト譯） 一
獨逸學者の理化學研究に與へたる教訓（長岡半太郎） 二
航空生理に就いて（永井潛） 二
現今に於ける航空機發達の趨勢（ベルゲル） 二
獨逸博物館とミラ博士（棚橋源太郎） 三
科學及び工業博物館に就いて（ミラ） 三
電氣工業幼年時代の思出（同上） 三 獨逸文學の特色（山岸光宣） 四
經濟學上に於ける獨逸の貢獻（鹽澤昌貞） 四
西獨側面觀（下オナアト） 四
獨逸の學校制度に於ける新方針竝びに新組織（クルツ） 四
獨逸の合理化運動（向井鹿松） 五 對獨賠償問題に就て（大竹虎雄） 六
獨逸側より觀たる賠償金問題（クノル） 六
獨逸演劇の現狀に就て（杉野橋太郎） 七
日露協會講演會速記錄 第五回 大正四 同會編 洋・中 一 イ 四 一三六四
時局と露西亞（大庭景秋） 日露貿易に就て（川上俊彦）
〔日露協會〕講演會速記錄 大正二四二年 極東露領の產業に就て（鶴野進）外三編 同會編 大正一四・二五 和・中 一 イ 四 一三六五
文明協會講演集 大正九年度第三至一三年度第三 同會刊 大正九至一三 洋・中 七 イ 四 一三七七
三越講演集 第一至三輯 千代田城石垣の話（日比翁助）外六篇 三越石垣會編 大正一五至昭和二 洋・小 三 イ 四 一三六八
名流談海 大橋又太郎編 明治三二 再版 洋・小 一 イ 四 一〇七七
黎明會講演集 第一卷第一輯至第二卷第四輯 同會編 昭和八・九 洋・中 二 イ 四 一三〇七

○

歸鄉記念大隈侯爵講演集 同記念刊行會編 大正七 洋・中 一 イ 四 一三九九
敬宇先生演說集 中村正直述・木平讓編 明治二一 和・小 一 イ 四 一三六一

イ 總類 五 雜纂

加藤弘之講演全集 第四册 明治三三 洋・中 加藤照麿等編 一 イ 四 一三六一
杉先生講演集 杉先生實歷談附 明治三五 洋・中 杉亨二述・世良太一編 一 イ 四 一三六三
同 一 イ 四 一三七〇
高田早苗博士大講演集 大日本雄辯會編 昭和二 三版 洋・小 一 イ 四 一三六四
高田早苗博士大講演集 大日本雄辯會編 昭和二 六版 洋・小 一 イ 四 一三六五
傳仁演說集 米・デニング述・雨倉子城譯編 明治一九 洋・中 一 イ 四 一三六六
同 一 イ 四 一三六七

○

梁任公學術講演集 第一至三輯 民國一二 梁啓超撰 洋・中 三 イ 四 一三六八

五 雜纂

雜纂

日本隨筆索引 太田爲三郎編 明治三四 洋・中 一冊 イ 五類 八六九號
同 一 イ 五 一五五
日本隨筆索引 太田爲三郎編 大正一五 增訂版 洋・中 一 イ 五 一六六
日本隨筆索引 續共 太田爲三郎編 大正一五 增訂・昭和七 洋・中 二 イ 五 一〇九六

○

稿本隨筆集 五種 船越政一郎編校 昭和四 洋・中 一 イ 四 一三三二
晴翁漫筆（木村明啓） 籠耳集（草間直方） 一 イ 四 一三六二

明和雜記　綺語文章（西澤一鳳）
うめのはつ花（渡邊保敎）
四大奇書集古隨筆　明治三二　魁眞樓刊　和・中　一冊　イ 類 五 一三
平義器談（伊勢貞丈）　墨水消夏錄（東蘭洲）
搜奇錄（岩瀨醒編）　耳袋（根岸鎭衞）

同　一　イ 五 一二五

隨筆文學選集　一二卷・續六卷　楠瀨恂編　昭和二・三　洋・小　一八　イ 五 一二四

東の花勝見（永下堂波靜）　一　花街漫錄（西村伊之）　一
無名翁隨筆（笹屋邦教等）　一　目ざまし草（清中亭淑親）　一
狂歌烟草百首（橘薰）　一　さや〳〵草紙（木下幸文）　一
あがたの三月よつき（大伴大江丸）　一　婆心錄（松平定信）　一
天保佳話（丈我老圃）　一　鳴呼矣草（田宮仲宣編）　二
錦所談（山田以文）　二　劇場漫錄（默々漁隱）　二
つゞれの錦（傾城買息子傳授）（渡邊定靜）　二
花街漫錄正誤及附考（喜多村信節・山崎美成）　二　西洋畫談（司馬江漢）　二
鉛筆紀聞（栗本鋤）　二　神のかをり（井手曙覽）　二
西洋畫談（高森觀好）　二　雅游漫錄（大枝流芳）　三
禿筆餘興（松平定信）　二　浪花青樓志（墨江閑）　三
文晁誘掖（中林成昌）　三　鶯育草（梅香舍柳列）　三
改過筆記（瀧澤解）　三　日本異國往來記（遠山信武）　三
木芽說（前田夏蔭）　三
孿生抄（一度に數多の子をうむ事）（遊佐好生）　三　傘笠考（屋代弘賢）　三
二見の浦（伊勢貞丈）　三　蓼莚小牘（小野職博）　四
繰錦舍隨筆（村田春海）　四　鮫皮精墾錄（淺尾遠祖）　四
役者論語（八文字自笑編）　四　温古裝彙（梨田永年）　四
燈袋圖（川崎千虎補）　四

貓瞳寬窄辨（梅川重高）　二　三樹考（小山田與清）　二
扇之記（西村義忠）　二　老人雜話（江村宗具）　二
陶器樂草（神原芳野）　二　漫畫隨筆（鈴木煥卿）　二
象の貢獻（中村平吾）　二　秋はきの譜（横山潤編）　二
月雪花寢物語（中村仲藏）　三　歌詞考（小山田與清）　三
改訂 新說 弩水夜話（大槻茂質）　三　小品考（西村廣休）　三
腰刀燧奩圖記（中盛彬）　三　畫證錄（喜多村信節）　三
神巷談苑（神原玄輔）　三　單騎要略被甲辨（村井昌弘編）　三
提醒紀談（山崎美成編）　三　見世物雜志（卷一至三）（小寺廣路）　三
耽奇漫錄（第一集）（山崎美成編）　三　見世物雜志（卷四・五）（小寺廣路）　四
耽奇漫錄（第二集）（山崎美成編）　四　千草の根ざし（殿村常久）　四
壺廬圃漫筆（卷一至四）　四　壺廬圃漫筆（卷五）　五
耽奇漫錄（第三集）（山崎美成編）　五　本邦刀劍考（神原長俊）　五
耳囊（根岸鎭衞）　五　相劍正傳（近藤時憲）　五
黃昏隨筆（風・月の卷）（玄何）　六　耽奇漫錄（第四集）（山崎美成編）　六
見聞雜誌（卷一・二）（森島中良）　六　壺廬圃雜記（卷一至四）　六
耽奇漫錄（第五・六集）（山崎美成編）　七　黃昏隨筆（花・鳥の卷）（玄何）　七
壺廬圃雜記（卷五・六）　七　旅路のうちき〻（清水濱臣）　七
壺廬圃雜記（卷七・八）　八　耽奇漫錄（第七・八集）（山崎美成編）　八
街談文々集要（石塚豐芥子）　八　醬油集說（神原芳野）　八
糅譜（同上）　八

隨筆文學選集　一二卷・續六卷　楠瀨恂編　昭和二・三　洋・小　一八　イ 五 一二七
日本隨筆全集索引・補遺共二〇卷　國民圖書株式會社編　昭和二至五　洋・中　二〇　イ 五 一三三

寸錦雜綴　一　祖徠先生南留別志（宇佐美惠校）　一
東牖子（田宮仲宣）　一　善庵隨筆（朝川鼎）　一
思齊漫錄（中村弘毅）　一　秋苑日涉（村瀨之熙）　一
睡餘小錄（附錄共）（河津吉迪編）　二　圓珠庵雜記（契沖）　二
河社（同上）　二　著作堂一夕話（瀧澤解）　二

寬至天見聞隨筆（一名寃懲當保）（稻光舍編）　四　金魚養玩草（安達喜之）　四
缺舌或問（渡邊定靜）　四　藥玉之考（大塚嘉樹）　五
五月雨草紙（喜多村直寬）　五　江の霞（上田秋成）　五
茱萸囊之考（同上）　五　白猿ひとりごと（五世圓十郎）　五
蘿月庵國書漫抄（尾崎雅嘉）　五　古量考（異本）　五
增補 洞房語園（庄司勝富）　五　音曲鼻毛ぬき（耳鳥齋）　六
寸錦雜綴　五　簞窓抄錄　六
妙貞問答（下卷）（不干齋巴鼻庵）　六　月舍遺抄（横山由清抄）　六
劇場新話　六　和蘭通舶（司馬江漢）　六
五色絲　六　遊相醫話（森立之）　六
野の舍隨筆（大石千引）　六　形影夜話（杉田翼）　七
尾陽戲場事始（指掌堂）　七　萍花漫筆（桃花園）　七
北野茶會記（西田直養）　七　震雷記（後藤光生編）　七
善庵隨筆（附錄共）（朝川鼎）　七　輶軒小錄（伊藤長胤）　七
釣書ふきよせ　七　能面目利書（喜多七太夫）　八
陸庵書簡（宗補）　八　不盡の煙（近藤守重編）　八
花散る里（高柴三雄撰・阪田諸遠補）　八　河美錄（津輕采女）　八
吉原十二時（石川雅望）　八　萍の跡（立綱）　八
作者店おろし（三升屋二三治）　八　三絃考（小山田與清）　八
地震考（小島好謙）　八　相撲隱雲解（式守蝸牛）　九
ひとり寢（柳澤里恭）　九　誹諧世說　九
鼻わらひ（耳鳥齋）　九　鼈頭奧の細道（此花庵鶯宿注）　九
艸廬先生河內道之記（龍公美）　九　心太平庵隨筆稿（海保元備）　九
やれ旅籠　九　紫のひともと（戶田茂睡）　一〇
煙華漫筆　一〇　種菊要法（蘿居編）　一〇
女粧考（伊東南堂編）　一〇　となりのはなし　一〇
澤庵禪師書簡（宗彭）　一〇　異本 筆の御靈（田沼善一）　一〇
月代考（本多忠憲）　一〇　鞍鐙目利書（大澤繁豐編）　一〇
遠乘漫筆（田中世誠）　一〇　腹切考（山岡俊明）　一一
宗湛日記（神屋宗湛）　一一

文會雜記（湯淺元禎）　二　松屋叢話（小山田與清）　二
三養雜記（山崎美成）　三　駿臺雜話（室直清）　三
烹雜の記（瀧澤解）　三　孝經樓漫筆（山本信有）　三
袋著聞集（八島春信）　三　花街漫錄（西村伊之）　四
嚶々筆語（野之口隆正編）　四　北窻瑣談（橘南谿）　四
擁書漫筆（小山田與清）　四　南屏燕語（宮瑆）　四
湖亭涉筆（安積覺）　四　燕石雜志（瀧澤解）　五
芳洲先生たはれぐさ（雨森俊良）　五　漫畫隨筆（鈴木煥卿）　五
蒹葭堂雜錄（木村孔恭）　五　常山樓筆餘（湯淺元禎）　五
好古小錄（藤井貞幹）　六　年山紀聞（安藤爲章）　六
乘燭譚（伊藤長胤）　六　閑田耕筆（伊貴芳）　六
提醒紀談（山崎美成編）　六　好古日錄（藤井貞幹）　七
閑田永筆（栗原信充）　七　南嶺遺稿（多田義俊）　七
柳莖隨筆（栗原信充）　七　茅窓漫錄（茅原定）　七
坤齋日抄（西島長孫）　七　南嶺遺稿（多田義俊）　七
雅遊漫錄（大枝流芳）　六　玄同放言（瀧澤解）　八
聖學隨筆（石川安貞）　八　柳莖雜筆（栗原信充）　八
松亭漫筆（中村經年編）　八　還魂紙料（柳亭種彥編）　九
橘聰茶話（雨森俊良）　九　北邊隨筆（富士谷御杖）　九
閑窓瑣談（佐々木貞高）　九　雲錦隨筆（木村明啓）　九
用捨箱（柳亭種彥編）　一〇　閑際筆記（藤井蕙編）　一〇
梅園日記（北愼言）　一〇　赤穗義士隨筆（山崎美成編）　一〇
宮川舍漫筆（宮川政運）　一〇　近世奇跡考（岩瀨醒）　一一
比古婆衣（卷一至一一）（伴信友）　一一　愚雜俎（田宮仲宣）　一二
年々隨筆（石原正明）　一二　理齋隨筆（志賀忍）　一二
難波江（岡本保孝）　一二　骨董集（岩瀨醒）　一三
雲萍雜志（柳澤里恭）　一三　假名世說（大田覃）　一三
夏山閑話（小野高尙）　一三　花月草紙（松平定信）　一三
秋齋閒語（多田義俊）　一四　四方の硯（畑維龍）　一四
退閑雜記（松平定信）　一四　蜘蛛の絲卷（岩瀨百樹）　一四

瓦礫雜考（喜多村信節） 一四
南畝莠言（大田覃） 一五
艮齋閒話（安積信） 一五
翁草（神澤貞幹） 一五
輶軒小錄（伊藤長胤） 一六
茶山翁筆のすさび（菅晉帥） 一七
塵塚物語 一七
桂林漫錄（森島中良） 一八
玲瓏隨筆（宗彭） 一八
雨窓閑話 一九
鬮祕錄 一九
日本隨筆全集 索引・補遺共二〇卷 國民圖書株式會社編 昭和二至五 洋・中 二〇冊
日本隨筆大成 三期三七卷・別卷二冊 同編輯部編 昭和二至六 洋・小 三九冊

第一期

梅村載筆（林信勝） 一
壬戌羈旅漫錄（瀧澤解） 一
春波樓筆記（司馬江漢） 一
紙魚室雜記（城戶千楯） 一
柳亭記（柳亭種彥） 一
雲錦隨筆（木村明啓） 二
榧園隨筆（中島廣足） 二
蘿月庵國書漫抄（尾崎雅嘉） 二
煙霞綺談（西村白鳥） 二
磯山千鳥（堀秀成） 二
玄同放言（瀧澤解） 三
織錦舍隨筆（村田春海） 三
八水隨筆 三

茶山翁筆のすさび（菅晉帥） 一
仙臺開語（林良通） 一
瓦礫雜考（喜多村信節） 一
桂林漫錄（森島中良） 一
尙古造紙揷 一
松屋棟梁集（小山田與清） 二
近世女風俗考（生川正香） 二
畫譚雞肋（仲山高陽） 二
柳亭筆記（柳亭種彥） 二
橘窓自語（橘本經亮） 二
都の手ぶり（石川雅望） 三
睡餘小錄（河津吉迪） 三
歷世女裝考（岩瀨百樹） 三

鳴呼矣草（同上編） 一〇
一宵話（秦鼎） 一〇
續昆陽漫錄（補共）（同上） 一〇
南嶺遺稿評（伊勢貞丈） 一〇
花街漫錄正誤（喜多村信節） 一〇
嘉良喜隨筆（山口幸充） 一一
三のしるべ（藤井高尙） 一一
好古小錄（附錄共）（同上） 一一
茅窻漫錄（茅原定） 一一
こがねぐさ（石川雅望） 一一
別卷・一話一言（大田覃） 一三—一四

草廬漫筆（武田信英編） 一五
提醒紀談（山崎美成編） 一五
假名世說（大田覃編） 一五
梅の塵（梅の舍） 一五
筱舍漫筆（西田直養） 一六
兎園小說外集（瀧澤解等） 一六
八十翁囈昔話（新見正朝） 一六
雲萍雜志（柳澤里恭） 一六
畫證錄（喜多村信節） 一六
兎園小說拾遺（同上） 一七
梅園拾葉（三浦晉） 一七
雉岡隨筆（五十嵐篤好） 一七
清風瑣言（上田秋成） 一七
近世奇跡考（岩瀨醒） 一七
筠庭雜錄（喜多村信節） 一八
蜘蛛の糸巻（岩瀨百樹） 一八
一擧博覽（鈴木忠侯） 一八
筠庭雜考（喜多村信節） 一八

積翠閑話（中村經年編） 一四
松の落葉（藤井高尙） 一五
鄰女晤言（慈延） 一五
玉かつま（本居宣長） 一五
梧窻漫筆（太田元貞） 一七
梅窻筆記（橋本香菓） 一七
一宵話（秦鼎） 一七
にぎはひ草（佐野紹益） 一八
比古婆衣（續篇）（巻二至二〇）（伴信友） 一八
遠碧軒隨筆（黑川道祐） 一九
蒼梧隨筆（大塚嘉樹） 一九

檜の落葉物語（伊林光平） 三
錦屑譚（谷川士清） 三
雨窻閑話 三
寸錦雜綴 四
泊洦筆話（清水濱臣） 四
心の變紙（松平定信） 四
嚶々筆語（野之口隆正編） 五
遠碧軒記（黑川道祐） 五
著作堂一夕話（瀧澤解） 五
遊藝園隨筆（川路聖謨） 五
古老茶話（柏崎永以） 六
四方の硯（畑維龍） 六
野の舍隨筆（大石千引） 六
鼈甲圖 鼈甲閑窻瑣談（佐々木貞高） 六—七
擁書漫筆（小山田與清） 六
思ひの儘の記（勢多章甫） 七
向岡閑話（大田覃） 七
松陰隨筆（鈴木基之） 七
蓑蔑堂雜錄（木村孔恭） 七
昌庵隨筆（若槻敬） 七
燕居雜話（目尾瑜） 八
かしのしつ枝（中島廣足） 八
松屋叢考（小山田與清） 八
駒谷芻言（松村延年） 八
異說まち〳〵（烏江正路） 九
獨語（太宰純） 九
南嶺子（多田義俊） 九
世事百談（山崎美成） 九
閑田次筆（同上） 九
筆の御靈（田沼善一） 一〇

東騷子（田宮仲宣） 一〇
齊諧俗談（大鼎義道） 一〇
昆陽漫錄（青木敦書） 一〇
南嶺遺稿（多田義俊） 一〇
秉穗錄（岡田挺之） 一〇
年々隨筆（石原正明） 一一
烹雜の記（瀧澤解） 一一
好古日錄（藤井貞幹） 一一
奇遊談（川口好和） 一一
庖丁書錄（林信勝） 一一
耽奇漫錄（五卷）（瀧澤解編） 一二

第二期

兎園小說（瀧澤解等） 一五
松屋叢話（小山田與清） 一五
圓珠庵雜記（契沖） 一五
一時隨筆（岡西惟中） 一五
當代江都百化物（馬場文耕） 一五
華花漫筆（桃華園） 一六
兎園小說別集（瀧澤解） 一六
牟藝古雅志（瀨川如皐編） 一六
閑なるあまり（松平定信） 一六
兎園小說餘錄（瀧澤解） 一七
保敬隨筆（小泉保敬） 一七
新著閑集 一七
三養雜記（山崎美成） 一七
尤の草紙 一七
它山石（松井輝昌） 一八
勇魚鳥（北山久備） 一八
橘聰茶話（雨森俊良） 一八
うき草のあと（立綱） 一八

目さまし草（清中亭淑親） 一八
閑窻自語（柳原紀光） 一八
先進繡像玉石雜誌（栗原信充編） 一九
飛鳥川（續共） 一九
積翠閑話（中村經年） 一九
閑窻筆記（西村遠里） 一九
櫻の林（千家尊澄） 一九
新增補浮世繪類考（附・戲作者略傳）（笹屋邦教等編） 二〇
笈埃隨筆（百井塘雨） 二〇
十八大通（三升屋二三治） 二〇
河社（契沖） 二一
本朝世事談綺正誤（山崎美成） 二一
隣女晤言（慈延） 二一
足薪翁記（柳亭種彥） 二一
比古婆衣（巻一至四）（伴信友） 二一
南留別志（荻生雙松） 二一
非なるべし（富士谷成章） 二二
あるまじ（伊勢貞丈） 二二
北窻瑣談（橘南谿） 二二
三省錄（志賀忍） 二二
火浣布略說（平賀國倫） 二二
遊京漫錄（清水濱臣） 二二
柳庵隨筆初編（栗原信充） 二二
柳庵隨筆餘編（同上） 二二
曲肱漫筆 二三
立路隨筆（林百助） 二三
答問雜稿（清水濱臣） 二三
諼草小言（同上） 二三
猿著閑集（八島春信） 二三
靜軒痴談（寺門良） 二三

反古籠（森島中良） 一八
雜說囊話（林正森編） 一八
二川隨筆（山川信意・細川季明） 一九
江戶雀 一九
尾崎雅嘉隨筆 一九
梅翁隨筆 二〇
玲瓏隨筆（宗彭） 二〇
本朝世事談綺（菊岡沾凉） 二〇
たはれぐさ（雨森俊良） 二一
桑楊庵一夕話（岸誠之） 二一
尊菜草紙（多田義寬） 二一
奴師勞之（大田覃） 二一
西山公隨筆（德川光圀） 二一
可成三註（篠崎維章等） 二一
南留別志の辨 二二
ざるべし（谷眞潮） 二二
醒中清話（小島知足） 二二
三省錄後編（原義胤） 二二
年山紀聞（安藤爲章） 二三
胡蝶庵隨筆（聖應） 二三
柳庵隨筆（以字篇至奴字篇）（同上） 二三
蕙風雜話（澁川時英） 二三
北國奇談巡杖記（鳥翠臺北塁） 二三
南屏燕譚（宿峴） 二三
楓軒偶記（小宮山昌秀） 二四
南柯の夢（畑銀鷄） 二四
燕石襍志（瀧澤解） 二四
閑散餘錄（南川維遷） 二四

於路加於比（柳亭種秀） 二四
夏山雜談（小野高尚） 二四
難波江（岡本保孝） 二五
松の落葉（藤井高尚） 二五
閑の曙（新井祐登） 二五
雅遊漫錄（大枝流芳） 二六
思齋漫錄（中村弘毅） 二六
晤語（名島政方） 二六
莘野茗談（平秩東作） 二六
諸國里人談（菊岡沾凉） 二六

第三期

傍廂（齋藤彦麿） 二七
ねざめのすさび（石川雅望） 二七
花月双紙（松平定信） 二七
異本洞房語園（莊司勝富） 二七
洞房語園後集 二七
おほうみのはし（富士谷成章） 二七
柳庵雜筆（栗原信充） 二八
俗耳蛻吹（大田覃） 二八
賤のをだまき（森山孝盛） 二八
近世商賈盡狂歌合（石塚豐芥子） 二八
蒼梧隨筆（大塚嘉樹） 二九
關の秋風（松平定信） 二九
烟癖談（上田秋成） 二九
とはずがたり（中井誠之） 二九
駿臺雜話（室直清） 二九
南向茶話（酒井忠昌） 二九
妙々奇談（周滑平） 三〇
天野政德隨筆 三〇
蓬轡錄（高橋宗直） 三〇
只今御笑草（瀨川如皐） 二四
折々草（建部綾足） 二五
下馬のおとなひ（堀秀成） 二五
蜃の燒藻の記（森山孝盛） 二五
卯花園漫錄（石上宣續） 二六
赤穗義士隨筆（山崎美成） 二六
南畝莠言（大田覃） 二六
輶軒小錄（伊藤長胤） 二六
なゐの日竝（笠亭仙果） 二六
傍廂糾繆（岡本保孝） 二七
理齋隨筆（志賀忍） 二七
浪華百事談 二七
洞房語園異本考異（同上） 二七
筆のすさび（橘泰） 二七
中陵漫錄（佐藤成裕） 二八
古今雜談思出草紙（栗原東隨舍） 二八
消閑雜記（岡西惟中） 二八
醒睡笑（安樂庵策傳） 二八
天朝墨談（五十嵐篤好） 二九
梅窓筆記（橋本經亮） 二九
浪華の風（久須美祐雋） 二九
三餘叢談（長谷川宣昭） 二九
近來聞噂の苗（木村明啓） 二九
むさしあぶみ（淺井了意） 二九
後松日記（松岡行義） 三〇
見た京物語（二鐘亭半山） 三〇
凌雨漫錄 三〇
訓蒙淺語（太田敎） 三〇

榊巷談苑（榊原玄輔） 三〇
我宿草（太田道灌） 三一
松亭漫筆（中村經年） 三一
孝經樓漫筆（山本信有） 三一
關祕錄 三一
春雨譚（高井伴寬） 三一
松竹問答（松岡辰方） 三一
麓の花（山崎美成） 三三
雞後言（花垣幸國） 三三
瀨田問答（瀨名貞雄答） 三三
白石先生紳書（新井君美） 三三
甲子夜話（一〇〇卷）（松浦清） 三三—三四
翁草（二〇〇卷）（神澤貞幹） 三七—三九
百草 三一
愚雜俎（田宮仲宣） 三一
鳥おどし（川崎重恭） 三一
金剛談（小林元儁） 三一
牛馬問（新井祐登） 三一
春湊浪話（土肥經平） 三一
百草露（含弘堂偶齋） 三一
しりうごと（小說家主人） 三三
梅園日記（北愼言） 三三
後は昔物語（平澤常富） 三三
桃岡雜記（八田知紀） 三三
鹽尻（一〇〇卷）（天野信景） 三五—三六

日本隨筆大成 第一・二期 二四卷・別卷二冊 同編輯部編 昭和二至四 洋・小 二六冊 イ 類 五 一二七 號

百家隨筆 二三種 國書刊行會編 大正六・七 洋・中 三冊 イ 四 八八二 六—八

九桂草堂隨筆（廣瀨謙） 六
閑室漫錄（山崎美成） 六
園の池水（伴林光平） 六
況齋雜話（岡本保孝） 七
月齋雜考（清水濱臣） 七
高ねおろし（穗井田忠友） 七
喪志編（棹取魚彦） 八
活版經籍考（吉田漢官） 八
非時文摘鈔（橋本稻彦） 八
蕉齋筆記（小川子英原撰） 八
文歎溫故批考（狩谷望之・屋代弘賢） 八
北窻雜話（片山圓然） 八
羅月庵國書漫抄（尾崎雅嘉） 六
敗簏添塵（多田義俊） 六
落栗物語（藤原家孝） 六
楓軒偶記（小宮山昌秀） 七
南窻筆記（加藤宜樹） 七
海西漫錄（鶴峯戊申） 八
多氣窻螢（北畠村親） 八
清水千清遺書 八
たかはゝき（齋藤彦麻呂） 八
能樂考（瀧澤愷） 八
傍廂糾繆（岡本保孝） 八

未刊隨筆百種 二三冊 各冊索引附 昭和二至四 洋・小 二三冊 イ 五 一二九

操曲入門口傳之卷 一
江戸拾葉 二
文政年間漫錄 二
博奕仕方風聞書 二
俗事百工起源（宮川政運） 三
勝扇子 三
天明紀聞 四
濟生堂五部雜錄（惠海） 四
迂鈍 五
村擇記（村山鎭） 五
支政外肥天保改革雜談 六
傾城百人一首 七
かくやいかにの記（長谷川元寬編） 八
文化祕筆 八
及瓜漫筆（原田光風） 九
祕登利古刀 一〇
實丙密か祕とつ（馬場文耕） 一〇
きゝのまにまに（喜多村信節） 一〇
白石先生實貨事略追加（祐植英勝） 一一
實夢錄（野呂尙景編） 一一
江戸圖書目提要 一一
洛水一滴抄 一一
江戸愚俗徒然噺 一一
柳亭淨瑠璃本目錄（柳亭種彥） 一八
六國列香之辨（常伯） 一八
在京在阪中日記（中西關次郎） 一九
文政雜說集 一九
絛山砂子 一九
雪の降道（津村正恭） 二〇
大江戸春秋（源信綱） 二〇
寬政祕策 二〇
天保新政錄 二一
峽陽來書 二一
近世珍談集 二一
門前地改更之實錄（快善） 二二
玉川參登鯉傳（日浦祿） 二二

岡場遊廓考（石塚豐芥子） 一
新役龍の庖丁 一
吉原春秋二度の景物（桐屋五兵衞） 二
慶應雜談（山本鍊三郎編） 二
享和雜記（柳川亭） 三
淺草志 三
青樓年曆考（一名庄司家譜） 四
寬政紀聞 四
尾陽戲場事始（指峯堂） 五
吉原失鑒 五
事々錄 六
業要集（扇谷定繼） 六
古今東名所（毛利元義） 七
戲言養氣集 七
七種實納記（香西賴山） 八
天保見聞祕錄（東都一統界）江戸節根元集（愚性老可柳撰・有錢堂清覆補） 一〇
きくまゝの記（矢島飛蝶） 一〇
寬延雜祕錄 一〇
世のすがた 一〇
豐島郡淺草地名考（岩井守義） 一一
俗語問屋場始末 一一
關東潔競傳（一名關東血氣物語） 一三
家守杖 一三
鄙雜俎 一三
素謠世々之蹟（一名徒歌原始錄）（佐々木春行） 一三
崎陽賊船考（如有子） 一三
露草雙紙（不老軒轉） 一四
柔話 一四
一德物語 一四
柳營諸略（中川忠英） 一五
水戸前中納言殿御系記（御守鑒遊女諸事出入書留（寬文年中至享保年中） 一五
踊之著慕駒連 一六
雜交苦口記（中田竹翁軒） 一六
愚痴拾遺物語（馬場文耕） 一六
使奏心得之事 一六
享保通鑑 一七
獄祕書（福澤半次郎） 一七
小うた打聞 一八
新徵組目錄 一八
六國四季之火合 一八
貴賤上下考（三升屋二三治） 一九
天狗驟動實錄 一九
十寸見廓曲編年集（川尻蕙洲） 一九
花柳古鑑（三世一九） 一九
東台見聞誌 二〇
江戸芝居年代記 二一
川越松山之記（竹村立義） 二一
身延攻 二一
難廼爲可話（小寺廣路） 二二
桐竹紋十郎手記 二二
一本草 二三
公鑑 一五
三十三ヶ條案文（小澤半助） 一五
眞佐喜のかつら（青葱堂冬圃） 一六
角力め組壽人足一條 一六
頃日全書（同上） 一六
公矣照績（水原豐寬） 一七
狩野五家譜 一七
裏見寒話（鷄鳳子） 一八
柳亭淨瑠璃本目錄（柳亭種彥） 一八
六國列香之辨（常伯） 一八
在京在阪中日記（中西關次郎） 一九
文政雜說集 一九
絛山砂子 一九
雪の降道（津村正恭） 二〇
大江戸春秋（源信綱） 二〇
寬政祕策 二〇
天保新政錄 二一
峽陽來書 二一
近世珍談集 二一
門前地改更之實錄（快善） 二二
玉川參登鯉傳（日浦祿） 二二

○

好古集說 卷一至三 佐伯利齋編・好古社刊 三 イ 五 二七
（明治一七）和・大

好古叢誌 初・二編各一二卷・第三編卷一・二 好古社編 二六 イ 五 四
明治二五至二七 和・中

如蘭社話 五〇卷（有缺）・別錄一卷 如蘭社刊 三六 イ 五 一二四
明治二一至大正三 和・中

◎

あふひつくり 伊勢貞丈撰 寫本 和・中 | 一 | イ 五 類 四三八 號 | 一三三
縣居雜錄外題縣居雜錄補抄 (文化九) 賀茂眞淵撰・長野美波留校注 和・大 | 一 | イ 五 | 一三三
秋の寢覺 寫本 和・大 | 五 | イ 五 | 七五
蜑の燒藻 森山孝盛撰 寫本 和・大 | 一 | イ 五 | 三二
安良滿保志 三卷 寫本 和・大 | 二 | イ 五 | 六八六
安齋雜考 二卷 伊勢貞丈撰・今泉定介校編 明治三三 和・中 (故實叢書) | 二 | ワ 三 | 二四一 一一三
安齋隨筆 三二卷 伊貞丈撰・今泉定介校編 明治三三 和・中 (故實叢書) | 一〇 | ワ 三 | 二四一 三一三
安齋隨筆 赤鳥記 伊勢貞丈撰 寫本 和・大 | 一 | イ 五 | 一三五四
安齋筆記 一名安齋隨筆 寫本 和・大 伊勢貞丈撰 | 一四 | イ 五 | 四九四
磯足ものがたり 一名河廼邊翁物語 加藤磯足撰 寫本 和・中 | 一 | イ 五 | 一二六三
一話一言 四八卷・首目各一卷 大田覃撰・同堅・島崎榮貞校 明治一六 和・小 | 五〇 | イ 五 | 三九六
同 | 五〇 | イ 五 | 一〇六二
一枝堂遺稿 貼込帖 村田了阿記 自筆本 和・大 | 帖三 | イ 五 * | 六七三
一甫漫集 繪入 西原一甫編 寫本 和・大 | 一〇 | イ 五 * | 三五
隱居硯 寫本 和・大 | 一 | イ 五 | 一二五一
陰陽外傳磐戶開 初編 梅辻規清撰 (明治二) 和・中 | 二 | イ 五 | 一二四一
陰陽外傳磐戶開 一〇卷 寫本 和・中 梅辻規清撰 | 九 | イ 五 | 六五九
雨念齋箚記 朝鮮・李鳳煥撰 唐・大 (雨念齋詩文鈔) | 一 | ヘ 一六 | 二三七七 四

雲錦隨筆 四卷 (文久元) 木村明啓 (曉鐘成) 撰 和・中 | 一 | イ 五 類 一五〇 號 | 一二一〇
圓珠庵雜記 契沖撰 洋・中 (契沖全集) | 一 | ヘ 二 八 | 四二四四
燕石襍志 五卷 (文化八) 瀧澤解撰 和・大 | 六 | イ 五 | 一二六
同 | 六 | イ 五 | 一一八七
遠碧軒記 黑川道祐撰 寫本 和・中 | 二 | イ 五 | 六七六
櫻陰腐談 二卷 梅國撰 正德二 和・大 | 三 | イ 五 | 一三〇九
應需雜記 契沖撰 洋・中 (契沖全集) | 一 | ヘ 二 八 | 四二四四
太田道灌隨筆 寫本 和・中 | 一 | イ 五 | 五三三
應問錄 第一・二輯 國學院刊 明治三五・三六 初・三版 洋・小 | 二 | イ 五 | 一三九〇
翁草 二〇〇卷・首一卷 神澤貞幹編・池邊義象校 明治三八・三九 和・中 | 二一 | イ 五 | 四四九
落葉籠 浩然堂編 寫本 和・中 | 四 | イ 五 | 五二八
小山田與清雜稿 寫本 和・大 | 四 | イ 五 * | 六五三
折々くさ 建部綾足撰・幸田成行校 明治四一 洋・小 (名著文庫) | 一 | ヘ 二 三〇 | 九一八
女重寶記 五卷 繪入 和・大 | 一 | イ 五 | 六六九
海北獨語 海保皐鶴撰・河東乘五郎校 (大正五) 和・中 | 一 | イ 五 | 一二六二
膾餘雜錄 永田道慶撰 承應二 和・大 | 五 | イ 五 | 四八
海錄 二〇卷 大正四 山崎美成撰 洋・中 (國書刊行會叢書) | 一 | イ 四 | 七九九 三三
學山錄 中村明遠撰 寬延四・五 和・大 | 六 | イ 五 | 三八九
傍廂板下 三卷 齋藤彦麿撰 寫—金瓶 和・中 | 三 | イ 五 * | 六七四

甲子夜話 一〇〇卷・續篇一〇〇卷 明治四三・四四 洋・中 松浦清撰 (國書刊行會叢書本) | 六 | イ 五 | 七三八
甲子夜話 一〇〇卷 明治二五至三三 和・中 松浦清撰 | 四七 | イ 五 | 二三八
甲子夜話 缺本 明治二五至三二 和・中 松浦清撰 | 三〇 | イ 五 | 六
甲子夜話 天保八至一二年 寫本 和・大 着色圖入 松浦清撰 | 七 | イ 五 * | 八〇四
盍簪錄 伊藤長胤撰 寫本 和・大 | 四 | イ 五 | 三八
盍簪錄 伊藤長胤撰 寫本 和・大 | 二 | イ 五 | 七九一
過庭紀談 原瑜撰 天保五 和・中 | 五 | イ 五 | 三七
同 | 五 | イ 五 | 一一三七
假名世說 大田覃編 (文政七) 和・中 | 二 | イ 五 | 三九
神代餘波 三卷 繪入 寫本 和・中 齋藤彦麿撰 | 一 | イ 五 | 三一八
河社 契沖撰 寫本 和・大 | 二 | イ 五 | 一二八五
寬延奇談 七卷 寫本 和・大 | 一 | イ 五 | 一一八八
閑散餘錄 南川維遷撰 寫本 和・中 | 二 | イ 五 | 一二五〇
閑田耕筆 伊資芳撰 享和元 和・大 | 四 | イ 五 | 二一
同 | 四 | イ 五 | 九二二
閑田次筆 伊資芳撰 文化三 和・大 | 四 | イ 五 | 二三
閑度雜談 中村弘毅編 (嘉永元) 和・大 | 三 | イ 五 | 一二五九
刊謬正俗 附・作文眞訣外四條 伊藤長胤撰 寫本 和・大 | 一 | イ 五 | 一〇六九
刊謬正俗 上 伊藤長胤撰 明治九 重刻 和・大 | 一 | イ 五 | 一二四三

貴賤上下考 三升屋二三治撰 洋・小 (未刊隨筆百種) | 一 | イ 五 | 一二九 九
貴賤上下考 三升屋二三治撰 寫本 和・大 | 二 | 又 五 | 四三三
橘庵漫筆 初・二編 田宮仲宣撰 享和元 和・中 | 一〇 | イ 五 | 三四八
橘隱茶話 三卷 雨森俊良撰 天明六 和・大 | 三 | イ 五 | 四七
同 | 三 | イ 五 | 一一九四
橘窓茶話 三卷 雨森俊良撰 洋・中 (日本倫理彙編) | 一 | ロ 九 | 八五三 七
九桂草堂隨筆 九卷 洋・中 廣瀨謙撰 (國書刊行會叢書・百家隨筆ノ內) | 一 | イ 四 | 八八二 六
「九桂草堂隨筆」を讀む 内田銀藏撰 大正七 洋・中 (史林拔刷本) | 一 | イ 五 | 九一八
舊蹟紀聞 一名宇幾久左乃安止 立綱撰 文政八 和・大 | 二 | イ 五 | 三三
匡正錄 井上立元撰・笹本廉校 安永五 和・大 | 一 | イ 五 | 一三四
曲亭雜記 五卷 瀧澤解撰・渥美正幹編 明治一二 洋・小 | 一 | イ 五 | 一〇八
近世奇跡考 五卷 岩瀨醒撰 (文化元) 和・大 繪入 | 二 | イ 五 | 七五五
同 | 二 | イ 五 | 一〇六
錦所談 山田以文撰 (天保五) 和・大 | 二 | イ 五 | 一一四五
寓意艸 寫本 和・大 | 一 | イ 五 | 五〇七
寓意艸 寫本 和・大 | 二 | イ 五 | 一一八三
窒華談叢 妙龍撰 天明六 和・大 | 四 | イ 五 | 五八七
孔雀樓筆記 清田絢撰 明和五 和・大 | 一 | イ 五 | 五五四
久保之取蛇尾 (スサビ) 初篇 入江昌喜撰 天明四 和・大 | 三 | イ 五 | 四一五

蜘蛛の絲卷三三條・追加一七條　岩瀨百樹撰　寫本　和・中　一冊　イ 類 三五 號 三一七

群書拔萃一　寫本　和・中　一　イ 五 *二六七

秡苑日涉　村瀨之熙撰　文化四　和・大　一二　イ 五 一四六

秡苑日涉　村瀨之熙撰　文政二　和・大　一二　イ 五 一〇

桂館野乘並桂館漫筆　原瑜撰　文化一四　和・大　一　イ 五 四二七

契沖雜考　三帖・一三卷　契沖撰　洋・中（契沖全集）　一　ヘ 二 四二四四 八

桂林漫錄　森島中良撰　享和三　和・大　二　イ 五 四三

闕餘散筆　朝鮮・金邁淳撰　和・大（藁山集）　三　ヘ 六 二三八二 八—一〇

讒園遺編二〇卷・目一卷　荻生雙松撰　寫本　和・大　五　イ 五 四八一

讒園隨筆　四卷・附文戒　荻生雙松撰　正德四　和・大　三　イ 五 五三

讒園隨筆　四卷・附文戒　荻生雙松撰　寫本　和・中　一　イ 五 二六九

讒園談餘　六卷　荻生雙松撰　寫本　和・大　一　イ 五 二一〇

讒園談餘　六卷　荻生雙松撰　寫本　和・中　一　イ 五 二〇一

讒園二筆　荻生雙松撰　寫本　和・中　一　イ 五 二四一

讒園二筆　三筆至八筆・十筆共　荻生雙松撰　寫本　唐・大　六　イ 五 二五三

蒹葭堂雜錄　木村明啓（曉鐘成）撰・半山畫　安政六　和・大　五　イ 五 三

玄同放言　三卷　瀧澤解撰・琴嶺・畢山畫　文政元至三・弘化三　和・大　六　イ 五 二三三

玄同放言　缺本　瀧澤解撰・琴嶺・畢山畫　文政三　和・大　五　イ 五 二三一

けんどん問答　寫本　和・大　一　イ 五 三八六

見聞偶筆　藤田彪撰　洋・中（東湖全集）　一　イ 四 七四

樂善堂見聞隨載　寫本　和・中　一　イ 五 六三九

孝經樓手抄　山本信有記　自筆本　和・中　一　イ 五 *六四五

孝經樓漫筆　山本信有編　嘉永三　和・大　四　イ 五 五四

好古小錄　藤井貞幹撰　（寬政六）　和・大　二　リ 二 二九

好古日錄　藤井貞幹撰　寬政九　和・大　二　リ 二 二八

江談抄　大江匡房談・藤原實兼錄　神田本複製—昭和五　和・大　一　イ 五 *一三一

皇都午睡　西澤一鳳撰　（明治一二）　和・中　一　イ 五 七〇五

皇都午睡　初編　西澤一鳳撰　寫本　和・大　一　イ 五 *六八四

國學忘貝　三卷　森長見編　天明七　和・大　四　イ 五 一二四八

黑甜瑣語　四編　人見寧撰　明治二九　和・中　四　イ 五 三六〇

娛語　摩島長弘撰　天保一五　和・中　四　イ 五 四八五

故事附問答　上・中　小林藤丸撰　寫本　和・大　二　イ 五 三一三

五色絲　寫本　和・大　二　イ 五 三二六

梧窓漫筆　三編　太田元貞撰　天保一一　和・大　六　イ 五 一九

同　　六　イ 五 一二〇四

骨董集　上編三卷　繪入　岩瀨醒編　洋・中（百家說林）　一　イ 四 四七六 四

骨董集　上編後帙　繪入　岩瀨醒編　（文化・二）　和・大　二　イ 五 二三三

湖亭涉筆　安積覺撰　（享保一二）　和・大　四　イ 五 一二五五

艮齋閒話　二卷・續二卷　安積重信撰　天保一二・嘉永四　和・大　四　イ 五 一一五

同　　四　イ 五 六六〇

艮齋閒話　二卷　安積重信撰　寫本　和・中　二　イ 五 一二五七

坤齋日抄　西島長孺撰　（文政一一）　和・小　三　イ 五 六八

同　　三　イ 五 四〇〇

紺珠　三卷　新井君美撰　寫本　和・中　三　イ 五 七九三

紺珠　二卷　新井君美撰　寫本　和・大　一　イ 五 六三三

雜交苦口記　三卷　洋・小　（未刊隨筆百種）　一　イ 五 一四六

雜書　寫本　和・大　一　イ 五 *一八四

眞香雜記　穗積眞香記　寫本　和・中　一　ヘ 一六 一三三三 一〇

養笠雨談　初編・繪入　瀧澤解撰　享和四　和・中　一　イ 五 *八九二 一六

三淵漫錄　朝鮮・金昌翕撰　和・大（三淵集）　一　イ 五 *五四三

三官記　四卷　朝鮮・趙克善撰　朝鮮寫本　和・大　三　イ 五 九八三

三才因緣辨疑　村上後清撰　（享保一一）　和・大　一　イ 五 *一三六八

三養雜記　山崎美成撰　明治二三　和・大　一　イ 五 一〇九

鹽尻　五篇　天野信景撰　寫本　和・大　一　イ 五 *三六八

志保之里抄　寫本　和・中　一　イ 五 六四一

自覺談　村山漢撰　嘉永五　和・中　二　イ 五 一〇九

しからみ　廣瀨政典撰　和・中（桑名前修遺書）　一　イ 四 八五六 七

睡餘小錄	河津吉迪撰 文政五 和・大	一	イ 五	三四七
春臺獨語 五卷	太宰純撰 寫本 和・中	一	イ 五	六七一
涉園漫錄	寫本 和・中	一	イ 五	八九四
松窩雜說	朝鮮寫本 和・大 （竹泉閑話ト合册）	一	ヘ 一六	二三七九 七
橡軒隨筆	朝鮮・安鼎福撰 和・大（順菴先生文集）	一	イ 四	七八七 一
〔象山〕雜說	佐久間啓撰 洋・中（象山全集）	一	イ 四	＊六〇〇 一八八
松窩雜錄	石川疊翠撰 寫本 和・大（曲亭叢書）	三	イ 五	五〇九
蕉窓漫筆	義海撰 明和四 和・大	二	イ 五	四六二
松亭漫筆	中村經年編 和・大	一	イ 五	三三五
織錦隨筆	村田春海撰 寫本 和・中	四	イ 五	九三
愼夏漫筆	西島長孺撰 弘化四 和・大	一	イ 五	四一
榊巷談苑	榊原玄輔撰 和・中（南畝叢書本）	二	イ 五	七九八
清人答問覺書	荻生觀記 寫本 和・大	三	イ 五	九五
津川紀聞	吉村寬泰編 寫本 和・大	二	イ 五	八七七
ちんてき問答	和・大（活字本）	一	イ 五	＊二六六
ちんてき問答	繪入 和・小	一	イ 五	一二六二
親燈餘影	鶯津宣光撰 明治一五 和・小	四	イ 五	七九七
爛錄	市河三陽撰 大正一四 洋・小	一	イ 五	一〇九七
水言鈔	巻四・五 内題江談抄 大江匡房談・藤原實兼錄 醍醐寺本複製—大正一四 和・中	一	イ 五	＊一三〇
隨見隨抄	寫本 和・大	一四	イ 五	四四八

睡餘小錄	河津吉迪撰 文政五 和・大	二	イ 五	七〇六
還魂紙料	柳亭種彥編 文政九 和・大	二	イ 五	一〇三
井畦漫錄 三卷・附要石雜記一卷・繪入	移山人編 寫本 和・小	四	イ 五	＊四八六
西園叢子	山縣顧抄 寫本 和・中	五	イ 五	五七五
靜軒痴談	寺門良撰 明治八 和・中	二	イ 五	七一
成山錄	村田了阿記 自筆本 和・小	三	イ 五	＊七五七
聲文私言	吉田令世撰（文政一〇） 和・大	一	イ 五	六四
墨水傾鼠漫筆 一五卷	黑川春村編・同眞道校 遺稿 明治三八 洋・中	一	イ 五	四六二
同		一	イ 五	一二七三
世事百談	山崎美成撰 天保一四 和・中	四	イ 五	三四九
善庵隨筆	朝川鼎撰 嘉永三 和・大	二	イ 五	七九八
鉏雨亭隨筆	東粲撰 嘉永五 和・大	三	イ 五	九五
增補男重寶記 五卷・繪入	和・大	一	イ 五	六六八
息心筆記	趙養撰 寫本（一册自筆） 和・中	三	イ 五	＊二七〇
無底囊（ソコナシ） 卷四	山上有誠編 寫本 和・中	一	イ 五	五五二
徂徠先生南留別志 五卷・附和歌世話	宇佐美惠校 寶曆一二 和・大	三	イ 五	二九八
代奕雜抄	石川安貞撰 寬政一三 和・中	二	イ 五	一一〇三
大翁手記	附・勤王烈士詩 寫本 和・中	一	イ 五	七七六
退閑雜記 一三卷・後編四卷	松平定信撰 明治二五 洋・中	一	イ 五	二〇九

退私錄 三卷	新井君美撰 洋・中（新井白石全集）	一	イ 四	二一九 五
退私錄 三卷	新井君美撰 寫本 和・大	一	イ 五	三三〇
退私錄附言 三卷	新井君美撰 洋・中（新井白石全集）	一	イ 四	二一七九 五
太宰春臺獨言拔抄	附・近世畸人傳序目 寫本 和・中	一	イ 五	一二八五
玉かつま 一四卷・目一卷	本居宣長撰（文化九） 和・大	一五	イ 五	三四
多波連具佐	雨森俊良撰 寬政元 和・大	三	イ 五	四五
同		三	イ 五	二〇七
多波禮具佐	雨森俊良撰 文政八 和・中	一	イ 五	四五
譚海	津村正恭撰 大正六 洋・中（國書刊行會叢書）	一	イ 四	八八二 五
談鋒資銳	荒井堯民撰（文政一二） 和・大	二	イ 五	二九
竹泉閑話	朝鮮寫本 和・大	一	イ 五	八九四
竹抓子	小林溪舍編 寫本 和・大	二	イ 五	五
朝鮮博物志 一五卷	原名山林經濟・朝鮮鄉居雜識・朝鮮研究會譯 大正三 再版 洋・中（朝鮮研究會叢刊本）	一	イ 五	五
聽聞雜話	禁中幷公家衆諸法度其他 寫本 和・中	一	イ 五	一一四〇
著作堂一夕話 三卷	繪入 瀧澤解撰 嘉永三 和・大	三	イ 五	一二三
槻の落葉信濃下向病床漫錄 上	荒木田久老撰 寫本 和・大	一	イ 五	九六九
槻の落葉信濃漫錄	荒木田久老撰 文政四 和・大	二	イ 五	六六三
提醒紀談	山崎美成編・佐竹永海畫 嘉永五 和・大	五	イ 五	七三
天保佳話	丈我老圃撰 天保八 和・中	一	イ 五	五一

侗菴筆記	古賀煜撰 嘉永五 和・中	二	イ 五	一九三
同		二	イ 五	一二九
東海談	篠崎維章撰 寫本 和・中	一	イ 五	一〇三
東海談 下編	篠崎維章撰 寬政元 和・中（南畝叢書本）	一	イ 五	四〇
東見記 二卷	人見壺編 貞享三 和・中	一	イ 五	九六
東見記 二卷	人見壺編 寫本 和・中（直道翁叢書）	一	イ 四	＊七七五 二八四
陶犬新書	繪入 中洲漁叟撰（天保一二） 和・中	三	イ 五	四三一
譚海	津村正恭撰 大正六 洋・中（國書刊行會叢書）	一	イ 五	四五二
東湖隨筆	藤田彪撰 洋・中（東湖全集）	一	イ 四	七二四
東齋隨筆	一條兼良撰 寫本 和・中	一	イ 五	四四五
陶齋隨筆	趙養撰 竝書・村上恒菴編 摹刻—文政九 和・大	一	イ 五	五四三
陶齋隨筆	村上恒菴編 寫本 和・大	一	イ 五	四八七
榻鳴曉筆 二三卷	鈴鹿連胤補訂 寫本 和・大	一〇	イ 五	六三五
冬讀書餘 三卷・拾遺一卷	尾藤孝肇撰 和・大（拙修齋叢書）	二	イ 四	一〇六九 六四—六五
答問錄	本居宣長撰 天保六 補刻 和・大	一	イ 五	五九四
答問錄	本居宣長撰 寫本 和・大	一	イ 五	一三八
兎園小說 一二集・繪入	瀧澤解等編 洋・中（百家說林）	一	イ 四	四七六 二
兎園小說外集	瀧澤解等編 洋・中（國書刊行會叢書・新燕石十種ノ內）	一	イ 四	七六五 四
兎園小說別集・餘錄・拾遺	瀧澤解編 洋・中（國書刊行會叢書・新燕石十種ノ內）	一	イ 四	七六五 四
獨語 五卷	一名春臺獨語 太宰純撰 寫本 和・中	一	イ 五	六七九

獨語 五卷 寫本 太宰純撰 和・中
它山石（トヤマノ） 初編 松井暉星撰 弘化二 和・大

同

屠龍工隨筆 小栗百萬撰 明治一八 和・小 （存採叢書）
難廼爲可話（タメ） 五卷 小寺廣路編 洋・小 （未刊隨筆百種）
何物語 兒玉信棨撰 寛文七 和・大
雙樹落葉 名島政方撰 （天保一二） 和・大
南柯餘編 安積重信撰 寫本 和・中
南嶺遺稿 多田義俊撰・細谷文卿校 （寶曆七） 和・大
南嶺子 多田義俊撰 （寬延二） 和・大
にきはひ草 佐野紹益撰 寫本 和・大
二川隨筆 山川信意・細川季明撰 寫本 和・大
烹雜の記 前集二卷 瀧澤解編・辰齋等畫 （文化八） 和・中
ねさめのすさひ 三卷 石川雅望撰 自筆稿本 和・大
ねざめのすさび 三卷 石川雅望撰 洋・中 （百家說林）
菟絲子（ネナシカヅラ） 純澤書 和・小

同

年々隨筆 辛酉至甲子 石原正明撰 和・中
農巖雜識 朝鮮・金昌協撰 和・大 （農巖叢集）

飛呂非加幾 橘茂世撰 寫本 和・大
風俗醉茶夜談 前編一五卷 多羅福山人撰 寫本 和・大
楓林腐草 蜂屋椎園撰 洋・小 （未刊隨筆百種）
藤田東湖先生雜記 自筆本 和・大
不審紙 辻本嘉茂編 （享保九） 和・中

同

筆のまゝ 一名ねさめの記 寫本 和・大
筆の儘 新井祐登撰 天保一四 和・大
筆の儘 五一條 寫本 和・大 白鳥撰
不亡鈔 室直清撰 寫本 和・大
文會雜記 六卷 湯淺元禎撰・同明善校 洋・中 （日本隨筆全集）
文會雜記 二卷・附錄一卷 湯淺元禎撰・同明善校 寫本 和・大
文會雜記 卷一 湯淺元禎撰 和・小 （續史籍集覽）
文政年間漫錄 洋・小 （未刊隨筆百種）
秉燭譚 五卷 伊藤長胤撰 寶曆一三 和・中
秉燭譚 五卷 伊藤長胤撰 寶曆一三 和・大
秉燭談抄 寫本 和・中
編浦叢話並卷懷叢話目錄 寫本 和・中
寶永記 四中齋撰 寫本 和・中 （玉梟叢書）

冊	類號		
一	イ 五	六八	後は昔物語 平澤常富（朋誠堂喜三二）撰 寫・瀧澤馬琴 和・大 （曲亭叢書）
四	イ 五	三	梅園拾葉 三卷 三浦晉撰 洋・中 （日本倫理彙編）
一	ロ 九	八五一 一〇	梅園叢書 三卷 三浦晉撰 洋・中 （日本倫理彙編）
四	イ 五	一八一	梅窓筆記 橋本經亮撰 文化三 和・大
一	イ 四	五一三 四五	梅村載筆 寫本 和・大
一	イ 五	一二九 三三	梅村載筆 寫本 和・大
三	イ 五	五一三	梅林遺稿 寫本 和・大
一	イ 五	一二〇	博雅堂漫錄 森尙源撰 寫本 和・大
一	イ 五	三七八	白石遺稿 進呈の案等七種 新井君美撰 寫本 和・中
三	イ 五	六三四	白石雜稿 新井君美撰 寫本 和・大
一	イ 五	五九二	白石隨筆 新井君美撰 寫本 和・中
一	イ 五	四三六	白石先生諸考辨 寫本 和・大
一	イ 四	一七九 五	白石先生紳書 一〇卷 新井君美撰 洋・中 （新井白石全集）
一	イ 五	一六四	白石先生紳書卷十一 寫本 和・中
一	イ 五	五四四 一枚	新刻增補萬寶雜書 須原屋茂兵衛刊 （天保二）
一	イ 四	六四六 四	比古婆衣 二〇卷 洋・中 伴友撰 （伴信友全集）
四	イ 五	三三	比古婆衣 四卷 伴信友撰 文久元 和・大
三	イ 五	七四	一宵話 秦鼎撰・牧墨僊畫刊 （文化七） 和・中
一	イ 五	四〇八	獨寢 柳澤里恭撰 寫本 和・中
一	イ 五	六六	備忘隨筆 寫本 和・中

冊	類號		
一	イ 四	* 六〇〇 一八七	北窓瑣談 三卷 橘南谿撰・關牛畫 文政八 和・大
三	イ 五	一三〇	校
八	イ 五	一三四	正 北窓瑣談 二編八卷 橘南谿撰・嘉言畫 文政一二 和・大
一	イ 五	一二九 一四	北窓瑣談 二編八卷 橘南谿撰・永井一孝校 洋・小 （有朋堂文庫本・東西遊記ト合刊）
一	イ 五	* 一二六九	本朝要樞 繪入 和田定胤撰 天明二 和・中
五	イ 五	六九三	眞佐喜のかつら 一〇冊 青葱堂冬圃撰 洋・小 （未刊隨筆百種）
五	イ 五	三一九	松戶隨筆 初筆 性均撰 寬延元 和・大
二	イ 五	四〇五	松の落葉 四卷・首一卷 藤井高尙撰 和・大
四	イ 五	六七	松のおち葉 寫本 和・中
一	イ 五	六一五	松屋外集 缺本 小山田與清撰 刊・寫本 和・中
四	イ 五	一〇四五	松屋棟梁集 卷一・繪入 小山田與清撰 和・大
一	イ 五	一一三 二	松屋筆記 六卷 小山田與清撰 明治四一 洋・中 （國書刊行會叢書本）
五	イ 五	四六三	同
一	リ 四	三〇〇一 四六	漫畫隨筆 二卷 鈴木煥卿撰 嘉永二 和・大
一	イ 五	一二九 二	見聽雜記 一・四・五 寫本 和・中
五	イ 五	七九二	身志理事 繪入 偏眞胡撰 寫本 和・大
二	イ 五	三〇	耳囊 六卷 根岸鎭衞撰 洋・中 （日本藝林叢書）
一	イ 五	四四〇	耳囊 四卷 根岸鎭衞撰 寫本 和・大
一	イ 五	一三四	耳囊 五卷（內卷一缺） 根岸鎭衞撰 寫本 和・大
一	イ 四	* 六九六 二〇一	眠雲札記 附・文章書式 朝川鼎辰撰 嘉永六 和・大

茗會文談 太田元貞撰 寫本 和・大 冊 イ 類 四九 號
茗話 五井純祇撰 明治四四 和・中（懷德堂遺書） 一 イ 四 八五 一四
默史 附・疑問錄・語叢 求心齋記 寫本 和・中 一 イ 五 二四五
尤之双紙 慶安二 和・大 一 へ 三 ＊三六 一
養痾漫錄 二卷 和・中（桑名前修遺書） 片山成器撰 一 イ 四 八五六 九
擁書漫筆 小山田與清撰 文化一四 和・大 四 イ 五 一五五
羅山先生隨筆 林信勝撰 寫本 和・大 一 イ 五 九一
柳莽隨筆 栗原信充撰 文政三 和・大 一 イ 五 四一三
良山堂茶話 初・二編 阿部溫撰 文政一一 和・大 二 イ 五 四六
隣女晤言 慈延撰 享和二 和・大 二 イ 五 五七三
櫟翁稗說 二集四卷・續四卷・後集四卷 高麗・李齊賢撰 朝鮮小字舊鋟覆刻 大正二 和・大（成簣堂叢書本） 二 イ 五 ＊八九七
櫟翁稗說 二集四卷 高麗・李齊賢撰 洋・中（朝鮮群書大系・益齋集ノ內） 一 イ 四 七二六 一九
老媼茶話 一〇卷 寫本 和・大 九 イ 五 五六
和學辨 五卷 寫本 篠崎雜章撰 一 イ 五 六五
和漢珍書考或問 鶉洞信興撰 寫本 和・大 二 イ 五 三四

○

半峯・春城・逍遙三翁熱海漫談 薄田貞敬編 昭和五 洋・小 一 イ 五 一二五
一覽博識歐米百家隨筆 森斌譯輯 明治二〇 洋・小 一 イ 五 二六

○

蔚堂譚叢 庭園繪畫刀銀圖碁 明治四〇 和・中 秋元興朝撰 一〇 イ 五 四八九 號
芸窓襍載 橫井時冬撰 明治三七 洋・中 一 イ 四 八五一 一四
圓了茶話 井上圓了撰 明治三五 洋・小 一 イ 五 二四五
圓了隨筆 井上圓了撰 明治三四 洋・小 一 へ 三 ＊二六一
嚶々筆語 一・二編 野之口隆正等撰 天保一三 和・大 一 イ 四 八五六 九
應問錄 第一・二輯 國學院編 明治三六 初・三版 洋・小 四 イ 五 一五五
歐米小感 床次竹二郎撰 明治四三 洋・小 一 イ 五 九一
雅三俗四 文藝漫錄 石井研堂撰 明治三四 洋・小 一 イ 五 四一三
我樂多籠 高橋義雄撰 洋・小 二 イ 五 四六
蛙のはらわた 中村進午撰 大正二 洋・小 二 イ 五 五七三
邯鄲市上昨非談 赤松光映撰 明治二三 和・大 一 イ 五 七六
閑話集 矢野文雄撰 明治三九 洋・小 一 イ 五 三七七
己亥叢說 井上賴圀撰・同賴文・吉岡賴教編 明治三二 和・中 二 イ 五 五七六
同 二 イ 五 五九
龜桑夜談 赤松光映撰（慶應三） 和・大 二 イ 五 一四一
丘言 川越篇・熊谷篇 大川貞作撰 昭和八 洋・小（常盤叢書本） 一 イ 五 一二八一
況翁閑話 附・況翁談片 石黑忠悳撰 明治三六 再版 洋・中 二 イ 五 一三九
況翁叢話 石黑忠悳撰 明治三四 洋・小 一 イ 五 三七一
況翁叢話 愚人の力 愚人の哲學外四類 大正四 洋・小 野依秀一撰 一 イ 五 一一六
愚人の力 愚人の哲學外四類 大正四 洋・小 野依秀一撰 一 イ 五 八三一

稽古隨筆 不言庵物外記 自筆本 和・大 一 イ 五 六四〇
硯堂叢書 福羽美靜撰 明治二八 洋・中 一 イ 五 一三一
好古叢誌 三篇三六卷 前田健次郎等編 明治二五至二八 和・中 三六 イ 五 一四三
好書品題 德富猪一郎撰 昭和三 洋・小（蘇峰叢書） 一 イ 四 一二三八 四
吾園隨筆 細川潤次郎撰 明治一九 唐・中 三 イ 五 九一三
吾園隨筆續編 細川潤次郎撰 明治三五 和・中 三 イ 五 六〇二
吾人の記憶 竹內健撰 明治三八 洋・小 一 イ 五 一一〇六
今昔較 岡三慶撰 明治九 和・中 二 イ 五 一一三
異聞奇話 琅談片々 あきしく（菊池清）編 明治三四 洋・小 一 イ 五 一三八〇
自識錄 西村茂樹撰 明治三三 洋・中 一 イ 五 三七〇
自識錄 西村茂樹撰 明治三五 再版 洋・中 一 イ 五 一三七
自傷錄 湯原元一撰 大正五 洋・小 一 イ 五 八五八
自然と人生と國家 柿花啓正撰 大正七 洋・小 一 イ 五 九〇一
書齋感興 德富猪一郎撰 昭和三 洋・小（蘇峰叢書） 一 イ 四 一二三八 五
生活と書籍 德富猪一郎撰 昭和五 洋・小 一 イ 五 一二六一
世相錄 山崎傳之助撰 昭和七 洋・小 一 イ 五 一二七四
滄浪頓首錄 澤田純一撰 明治四二 洋・中 一 イ 五 七二九
退耕錄 澤柳政太郎撰 明治四二 三版 洋・小 一 イ 五 七一〇
譚林 寫本 和・中 二 イ 五 一二三

紳士淑女談話之種草 松尾久太郎撰 明治二一 洋・小 一 イ 五 一〇一
痴遊隨筆 伊藤仁太郎撰 大正一四 洋・小 一 イ 五 一〇九四
長語 幸田成行撰 明治三四 洋・中 一 イ 五 三三三
出鱈目の記 矢野文雄撰 明治三八 洋・小 一 イ 五 四七七
天則百話 加藤弘之撰 明治三四 五版 洋・中 一 イ 五 一一一八
呑吐天地 第二・三 島村瀧太郎記 自筆本 和・大 二 イ 五 ＊九四七
なゝしくさ 細川潤次郎撰 明治三〇 和・中 二 イ 五 四〇九
成る程の記 林荘次郎撰 明治三七 和・中 一 イ 五 五四七
成る程の記 林荘次郎撰 明治三七 再版 和・中 一 イ 五 四〇三
白茅一家言 第一 佐田白茅撰 明治一六 和・小 一 イ 五 一三五一
波上の日本 國家的意識外四類 佐藤鐵太郎撰 大正六 再版 洋・小 一 イ 五 八八四
鼻くらべ雙紙 野之口隆正撰・春厓等畫 寫本 和・大 一 イ 五 四八四
鼻競草子 野之口隆正撰 寫本 和・大 一 イ 五 六四四
海舟先生 氷川清話 續・續々共 吉本襄編 明治三一 再・四・八版 洋・小 三 イ 五 一〇四四
海舟先生 氷川清話 吉本襄編 明治四二 校訂版 洋・中 一 イ 五 一一四九
福翁百話 福澤諭吉撰 明治三〇 三版 洋・小 一 イ 五 一二一七
福翁百話 福澤諭吉撰 明治三一 一〇版 洋・小 一 イ 五 一二三三
福翁百話 福澤諭吉撰 明治四四 五三版 洋・小 一 イ 五 一二三八
勉強十種 漫錄・獨寢寤言・喜多村香城五月雨草紙 栗本鯤撰・岡敬孝校編 明治二五 和・中 一 イ 五 九一四

匏菴十種	栗本鋤撰・岡敬孝校編 明治二五・和・中	一	イ 五 類	二一二 號	雲間雜誌 三卷 唐・小（奇晉齋叢書）
耄錄	況翁閑話後篇 石黑忠悳撰 大正一三・四版・洋・小	一	イ 五	一〇九一	閑古隨筆 明・穆文熙編 和・大
北強文集 第一輯	桑島彌太郎撰・大木拾藏編 大正七・和・中	一	イ 五	一三一六	簷曝雜記 七卷 唐・中（歐北全集）
また寐の夢	寫本・和・中	一	イ 五	一二六一	簷曝雜記 卷一至四 文政一二・清・趙翼撰 和・大
常識教科書	閒違ひ感違ひ 樋口龍陽撰 大正一一・洋・小	一	イ 五	一一一三	鷗陂漁話 六卷 唐・小（筆記小說大觀）
南方隨筆	續共 南方熊楠撰・中山太郎編 大正一五・洋・小	二	イ 五	一〇九九	甕牖餘談 八卷 唐・小（筆記小說大觀）
無用の書	子之卷・丑之卷 中井喜太郎撰 大正一二・初・再版・洋・小	二	イ 五	五九六	戒庵漫筆 明・李詡撰 唐・小（藏說小萃）
本居雜考	朝綱の張弛外一四篇 本居豐顯撰 明治三七・和・中	二	イ 五	一一四三	外家紀聞 清・洪亮吉撰 唐・大（洪北江先生遺集）
本居雜考	朝綱の張弛外一四篇 本居豐顯撰 明治三八・再版・洋・中	一	イ 五	一二九四	快雪堂漫錄 卷一至四 唐・小（奇晉齋叢書）
陽春廬雜考 八卷	小中村清矩撰 明治三〇・和・中	八	イ 五	七	陔餘叢考 四三卷 唐・中（歐北全集）
陽春廬雜考 八卷	小中村清矩撰 明治三一・洋・中	一	イ 五	一〇一八	陔餘叢考 四三卷（有缺） 清・趙翼撰 唐・中（歐北全集本）
讌言	幸田成行撰 明治三四・洋・中	一	イ 五	三四四	海錄 明・葉益蕃編 唐・大（明版）
龍溪閑話	矢野文雄撰 大正一三・洋・小	一	イ 五	一〇九五	鶴山渠陽讀書雜鈔 二卷 唐・中（明版）
老梅居雜著	內藤鳴雪撰 明治四〇・洋・中	一	イ 五	一一〇七	鶴山筆錄 宋・魏了翁撰 唐・小（奇晉齋叢書）
隈侯閑話	大隈重信述・池田林儀編 大正一一・洋・小	一	イ 五	一〇〇〇	學範 二卷 明・曆二和・大
		一	イ 五	一三七	鶴林玉露 新刊 一八卷 寬文二・和・大
		九	イ 五	一三三	同
		九	イ 五	一一六八	可言 一四卷 唐・大（天蘇閣叢刊二集）
		六	イ 四	一〇九九 一一六	巖下放言 三卷 唐・大（觀古堂彙刻書）
		一	イ 四	四三〇八	

支那雜纂

鷃林子 五卷	明・趙弘撰・清・胡珽等校 唐・大（清版）	一	イ 五 類	二三五 號	同
猗覺寮雜記 二卷	宋・朱翌撰 唐・小（筆記小說大觀）	一	イ 四	一〇一四 一七九一	可言 一四卷 唐・大（天蘇閣叢刊二集）
雨窗消意錄 四卷	清・牛應之編 唐・小（筆記小說大觀）	一	イ 五	一〇〇〇	學範 二卷 明曆二・和・大
		一	イ 五	一三七	鶴林玉露 新刊 一八卷 寬文二・和・大
		九	イ 五	一三三	同
		九	イ 五	一一六八	可言 一四卷 唐・大（天蘇閣叢刊二集）
		六	イ 四	一〇九九 一一六	巖下放言 三卷 唐・大（觀古堂彙刻書）
		一	イ 四	四三〇八	

灌畦暇語	唐・小（奇晉齋叢書）	一	イ 四 類	一〇〇七 七一八 號	香祖筆記 一二卷 唐・小（筆記小說大觀） 清・王士禛撰
簡齋漫錄	寫本・和・中	一	イ 五	四五〇	廣陽雜記 五卷 唐・小（筆記小說大觀） 清・劉獻廷撰
宦遊紀聞	明・張誼撰 唐・小（藏說小萃）	一	イ 九	五九六	公餘日錄 明・湯沐撰 唐・小（藏說小萃）
蛾術編 八二卷	道光二二・清・王鳴盛撰・述鶴壽校 唐・中	一六	イ 五	五〇〇	古今注 三卷 寬延二・和・大
癸辛雜識 四集六卷	宋・周密撰 唐・大（清版）	四	イ 五	七六三	古今注 三卷 唐・大（子書百家） 晉・崔豹撰
歸田瑣記 八卷	清・梁章鉅撰 唐・小（筆記小說大觀）	二	イ 四 一九一	一〇一四 一九二	古今注 三卷 唐・大（祕書廿一種） 晉・崔豹撰・明・吳中珩校
扈書	章炳麟撰 共和二七四五・洋・中	一	イ 五	一〇八	古今注 三卷 寫本・和・大 晉・崔豹撰
扈書	章炳麟撰 共和二七四六・再版・洋・中	一	イ 五	一二三	五雜組 明・謝肇淛撰 寬文元・和・大
曉讀書齋雜錄 八卷	清・洪亮吉撰 唐・大（洪北江先生遺集）	二	イ 四	三六八 三四一三五	五雜組 一六卷 寬政七・明・謝肇淛撰 補刻・和・中
金壺七墨 全集 一九卷	清・黃鈞宰撰 唐・小（筆記小說大觀）	四	イ 四	一〇一四 六七一七〇	菰中隨筆 清・顧炎武撰 唐・大（亭林遺書）
金樓子 六卷	梁・孝元帝撰 唐・大（子書百家）	二	ロ 三	九六三 六七一六八	壺天錄 三卷 唐・小（筆記小說大觀） 清・百一居士撰
月日紀古	清・顧智漢編 道光二八・唐・大	二	イ 五	七四三 一五一一六	吾廬筆談 八卷 光緒元・唐・大（石泉書屋全集） 清・李佐賢撰
堅瓠集 一五集六六卷	清・褚人穫編 唐・小（筆記小說大觀）	二〇	イ 四 一二九一	一〇一四 一四八	困學紀聞 二〇卷（有缺） 和・大（元版） 宋・王應麟撰
暖妹由筆	明・徐充撰 唐・小（藏說小萃）	一	イ 九	五九六	困學紀聞 二〇卷 同治九・重刊・唐・大 宋・王應麟撰
硯北雜志 二卷	元・陸友撰 唐・小（筆記小說大觀）	一	イ 四	一〇一四 二六七	困學紀聞注 二〇卷 道光五・唐・大 清・翁元圻編
攷古質疑 六卷	宋・葉大慶撰 享和二・和・大	二	イ 五	一〇九〇	茶香室叢鈔 二三卷・續鈔二五卷・三鈔二九卷 清・俞樾撰・唐・小（筆記小說大觀）
孔氏雜說	陳眉公訂正・四卷 唐・中（明版） 宋・孔平仲撰	一	イ 五	一二一〇	札迻 一二卷 光緒二一・清・孫詒讓撰 唐・大
甲申雜記 一卷	宋・王鞏撰 唐・小（筆記小說大觀）	一	イ 四	一〇一四 二五二	茶餘客話 一二卷 唐・小 清・阮葵生撰
香祖筆記 一二卷	清・王士禛撰 唐・小（筆記小說大觀）	二	イ 四	一〇一四 一八三一	茶餘客話 一二卷 唐・小（筆記小說大觀） 清・阮葵生撰
		四	イ 五	五七一	
		四	イ 五	一二八七	
		一六	イ 四	一〇一四 三〇三一	
		八	イ 五	七三七	
		一六	イ 五	一二三三	
		一	イ 四	一二四七 一九	
		一	イ 五	一一九二	
		一	ロ 三	九六三 八二	
		四	イ 四	一〇一四 一七九一	
		一	イ 九	五九六	
		一	イ 九	五八〇 一五	
		二	イ 四	一〇一四 七五一七六	
		二	イ 四	七四三 一五一一六	
		五	イ 五	※一〇七三	
		四	イ 五	一二七二	
		一二	イ 五	四九五	
		一六	イ 四	一〇一四 三〇三一	
		四	イ 五	一二八七	
		四	イ 五	五七一	
		二	イ 四	一〇一四 一八三一	

冊	類	號	
一	イ	一〇四 五二	三異筆談 四卷 清・許仲元撰 唐・小（筆記小說大觀）
二	イ	一〇二六 一〇一一	山樵暇語 一〇卷 明・俞弁撰 唐・小（涵芬樓祕笈）
一	イ	五一七 二五	三水小牘 宋・皇甫枚撰 唐・中（廣百川學海）
一	イ	一〇一四 二六二	志雅堂雜鈔 二卷 宋・周密撰 唐・小（筆記小說大觀）
四	イ	一〇二六 五一八	識小錄 四卷 清・徐樹丕撰 唐・小 手稿本影印（涵芬樓祕笈）
一	イ	一〇一四 一一〇	此中人語 六卷 清・程麟撰 唐・小（筆記小說大觀）
一	イ	一〇〇八 三	日貫齋塗說 清・梁同書撰 唐・小（清人說薈）
三	イ	九九二	紫桃軒雜綴 四卷 明・李日華撰 唐・小
一	イ	九九三	紫桃軒又綴 二卷 明・李日華撰 唐・小
六	イ	一二六〇	自得語 三二卷 明・朱謀㙔編 唐・大（明版）
八	イ	八九〇	十駕齋養新錄 二〇卷・餘錄三卷 清・錢大昕撰 光緒二一重刻 唐・中
八	イ	六〇八	同
一	イ	三七六	集古偶錄 清・陳星瑞撰・井田讓校 和・小
一	イ	一〇〇八 八	十二硯齋隨錄 四卷 清・汪鋆撰 唐・小（清人說薈）
四	イ	一三三	主津新集 清・鶯江先生撰 和・小（清版）
三	イ	一〇一四 一六〇—一六二	春在堂隨筆 一〇卷 附・小浮梅閒話一卷 清・俞樾撰 唐・小（筆記小說大觀）
二	イ	四八四 五二—五三	春在堂隨筆 卷一至八 清・俞樾撰 唐・中（春在堂全書）
三	イ	一〇一六 一四一—一六	消夏閑記摘抄 三卷 清・顧公燮撰 唐・小（涵芬樓祕笈）
四	イ	五 四五七	椒生隨筆 八卷 清・王之春撰 唐・大（清版）

冊	類	號	
二	イ	五 四一	千百年眼 一二卷 明・張燧編 寫本 和・大
四	イ	一〇一四 七七—八〇	曾文正公雜著 四卷 清・曾國藩撰 唐・小（曾文正公全集）
一	イ	五一七 二五	草木子 明・葉子奇撰 寬文九 和・大
一	イ	五一三	同
四	イ	一〇二六 一一六	棗林雜俎 六集 明・談遷撰 唐・小（筆記小說大觀）
一	イ	一〇一四 二四四	續博物志 一〇卷 宋・李石撰（子書百家）
一	イ	一〇一四 二六二	續博物志 一〇卷 宋・李石撰（祕書廿一種）
四	イ	一〇一四 五一八	續墨客揮犀 一〇卷 宋・彭乘撰 唐・小（涵芬樓祕笈）
一	イ	一〇一四 一一〇	退庵隨筆 二二卷 清・梁章鉅編 唐・小（筆記小說大觀）
一	イ	一〇〇八 三	大雲山房雜記 二卷 清・惲敬撰 唐・大（思適齋叢書）
一	イ	九九三	太平清話 明・陳繼儒撰 慶應元 和・大
六	イ	一二六〇 一五八—一五九	多暇錄 二卷 清・程庭鷺撰（靈自得齋叢書）
八	イ	八九〇	丹鉛總錄 二七卷 明・楊慎撰 乾隆五九 重刻 唐・小
八	イ	六〇八	池北偶談 二六卷 清・王世禎撰 唐・大（清版）
一	イ	三七六	中華古今注 三卷 五代・馬縞編 唐・大（祕書廿一種）
一	イ	一〇〇八 八	蟲鳴漫錄 二卷 清・宋犖子編 唐・小（筆記小說大觀）
四	イ	一〇一四 二四四	冕氏客語 宋・晁迥撰 寫本 和・大
一	イ	一〇一四 二六二	張文襄幕府紀聞 二卷 清・漢濱讀易者撰 唐・小（清人說薈）
一	イ	一〇一四 二六三	重論文齋筆錄 二卷 清・王端履撰 唐・小（筆記小說大觀）

冊	類	號	
六	イ	一〇五一	訂譌雜錄 一〇卷 清・胡鳴玉撰 文久元 和・大
一	イ	四 六三五 四二	定香亭筆談 清・阮元撰 光緒一〇 唐・小
四	イ	五 一〇三一	亭林雜錄 清・顧炎武撰 唐・大（亭林遺書）
二	イ	五 二七七	輟耕錄 三〇卷 明・陶宗儀撰 和・大
六	イ	四 一〇一四 一〇一—一〇六	桃溪客語 五卷 清・吳騫撰 唐・小（拜經樓叢書）
一	ロ	三 九六三 九七	東洲几上語 宋・施清臣撰 唐・小（涵芬樓祕笈）
一	イ	四 一〇二六 五五	東洲枕上語 宋・施清臣撰 唐・小（涵芬樓祕笈）
二	イ	四 一〇二六 一一二	東塾讀書記 清・陳澧撰 唐・大
六	イ	四 一〇二四 二八九—二九四	鐙窗叢錄 五卷・補遺一卷 清・吳熨撰 唐・小（涵芬樓祕笈）
一	イ	四 二七三 二二	牘外餘言 清・袁枚撰 唐・小（隨園三十種）
二	イ	五 三六三	讀書鏡 一〇卷 明・陳繼儒撰 和・大（明版）
一	イ	九 五六五 一五	讀書雜志 一〇卷・餘編二卷 清・王念孫撰 唐・大（清版）
二	イ	五 三六八	讀書小記 二卷 清・焦廷琥撰 唐・大（鶴齋叢書）
一〇	イ	五 三六	獨斷 漢・蔡邕撰 唐・大（子書百家）
一	イ	四 二四七 一八	南園漫錄 明・張志淳撰 民國元 唐・大
一	イ	四 一〇二四 一四九	南漘楛語 八卷 清・蔣超伯編 唐・小（筆記小說大觀）
一	イ	五 四四三	梅花草堂集 一四卷 明・張大復撰 唐・小（筆記小說大觀）
一	イ	四 一〇〇八 六	博物志 一〇卷 晉・張華撰・周日用等注（子書百家）
三	イ	四 一〇一四 二九九—三〇一	博物志 一〇卷 晉・張華撰・周日用等注（祕書廿一種）

		冊	類	號
博物志 一〇卷 晉・張華撰・周日用等注 唐・小 (黃氏叢書)		一	イ	四 一〇五七
博物志 一〇卷・續(宋・李石) 一〇卷共 晉・張華撰・周日用等注 和・大		四	イ	五 一一〇
避暑錄話 宋・葉夢得撰 道光二五 唐・中		二	イ	五 三六四
筆麈 明・莫是龍撰 唐・小 (吾吾齋叢書)		一	イ	四 一〇〇七 六
筆說竝試筆 宋・歐陽修撰 寫本 和・大		一	イ	五 二九二
風俗通義 一〇卷 漢・應劭撰・明・鍾惺評 萬治三 漢・應劭撰 和・大		四	イ	五 三六二
同		四	イ	五 一一〇二
風俗通義 一〇卷 唐・大 (子書百家)	漢・應劭撰	二	ロ	一三 九六三 八〇一八一
風俗通義 四卷 唐・大・(祕書廿一種)	漢・應劭撰	一	イ	四 一二四七 一九
復齋日記 二卷 唐・小 (涵芬樓祕笈)	明・許浩撰	一	イ	四 一〇一六 四
物類相感志 元祿三	宋・蘇軾撰 和・大	一	イ	五 一三一
不徹底原理 民國一八 洋・中	盧信撰	一	イ	五 一二五
辟寒部 四卷 唐・中 (明版)	明・陳繼儒撰	一	イ	五 五五〇
傍秋亭雜記 三卷 唐・小 (涵芬樓祕笈)	明・顧清撰	一	イ	四 一〇一六 三二
蓬窓日錄 萬曆一九	明・陳全之撰 重梓 和・大	八	イ	五 五五五
墨園隨筆 民國二一 洋・小	李墨卿撰	二	イ	五 一三八三
北窗囈語 清・不元盧撰 唐・大 (觀自得齋叢書)		一	イ	九 五六五 一六
北牕炙輭錄 二卷 唐・小 (吾吾齋叢書)	宋・施彥執撰	一	イ	四 一〇〇七 三
墨餘錄 四卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・毛祥麟撰	三	イ	四 一〇一四 五六 一一四 八

		冊	類	號
夢餘筆談 一卷 唐・大 (黎氏一家稿)	清・黎安理撰	一	イ	九 五八三 一
明齋小識 一二卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・諸聯編	四	イ	四 一〇一四 二八三—二八六
野客叢書 陳眉公重訂 承應二 和・大	一二卷 宋・王楙撰	六	イ	五 一一九
游宦紀聞 一〇卷 唐・小 (筆記小說大觀)	宋・張世南撰	一	イ	四 一〇一四 二四八
右台仙館筆記 一六卷 唐・中 (春在堂全書)	清・俞樾撰	六	イ	四 四八四 五九—六四
湧幢小品 三二卷 唐・小 (筆記小說大觀)	明・朱國禎編	一二	イ	四 一〇一四 八五—九六
酉陽雜俎 唐段少卿 唐・大 (明版)	二集三〇卷 唐・段成式撰・明・李雲鵠校	四	イ	五 二三
榆巢雜識 二卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・趙慎畛撰	二	イ	四 一〇一四 二一九—二三〇
庸閒齋筆記 一二卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・陳其元撰	四	イ	四 一〇一四 六三—六六
容齋隨筆 一六卷(續筆・三筆四筆各一六卷・五筆一〇卷(內四筆・五筆明刊) 宋・洪邁撰 鄱刊本 和・中		一三	イ	五 四一〇
履園叢話 二四卷 唐・中 (清版)	清・錢泳編	八	イ	五 四六七
履園叢話 二四卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・錢泳編	八	イ	四 一〇一四 一九七—二〇四
兩般秋雨盦隨筆 八卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・梁紹壬編	六	イ	四 一〇一四 四六—五一
蠡海集 宋・王逵撰・明・商濟校 正保二 和・中		一	イ	五 一三七
冷廬雜識 八卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・陸以湉撰	六	イ	四 一〇一四 二二三—二二八
瑯環記 元・伊世珍撰 寫本 和・中		一	イ	五 六〇三
浪蹟叢談 一一卷・續談八卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・梁章鉅撰	五	イ	四 一〇一四 一五三—一五七
泬水亭雜識 四卷 唐・小 (筆記小說大觀)	清・納蘭性德撰	一	イ	四 一〇一四 一八五
蘆浦筆記 一〇卷 唐・小 (筆記小說大觀)	宋・劉昌詩撰	一	イ	四 一〇一四

〔岡山縣青年會〕創立五十周年記念　同會編　昭和五　洋・中　一　イ 六 二七五一

金曜會報告 第二至一〇輯(有缺) 同會編　澁田鞏一外八氏講演筆記　明治四三至大正二　洋・大　一　イ 六 七五六

財團法人啓明會事業報告書 第二至一四回(大正九至昭和七年度) 同會刊　洋・中　一三　イ 六 二七二七

國民精神文化研究所々報 第一號　昭和八　同所編　洋・中　一　イ 六 二七五〇

〔齋藤報恩會學術研究總務部〕事業年報 第一至九(大正二至昭和七年度)　同部刊(大正一四至昭和八)　洋・大　一　イ 六 二七二三

財團法人齋藤報恩會　同會刊　洋・中　一　イ 六 二七二五

〔齋藤報恩會學術研究總務部〕事業年報 第一至九(大正二至昭和七年度)　同部刊(大正一四至昭和八)　洋・大　九　イ 六 二七二八

財團法人齋藤報恩會學術研究總務部要覽　同部刊(大正一四)　洋・小　一　イ 六 二七二九

時局の研究 第一・三至七　大正七・八　洋・中　一　イ 六 八二

社團法人中日文化協會事業報告 昭和三至五年度・附會員名簿　中日文化協會編　昭和六　洋・小　一　イ 六 二七四一

財團法人日獨文化協會寄附行爲竝發會式報告　同協會刊　(昭和二)　洋・中　一　イ 六 二七三四

財團法人日佛會館報告 第八・九回　同館刊　洋・中　二　イ 六 二七四七

日佛協會報告 第一九回　同佛文附　同協會刊　(昭和二)　洋・中　一　イ 六 二七三五

〔日佛文化協會〕定款　附・會員名簿　昭和六　洋・中　關西日佛學館編　一　イ 六 二七四五

日露協會報告 第五至六五號(有缺)　大正六至昭和六　洋・中　日露協會編譯　二六　イ 六 二五七七

千九百十七年前半期に於ける露國企業の狀況其他　一
新露西亞及其の合衆國との關係其他　二
克崇考(島野三郎)其他　三
露西亞の農業問題　四
露國に於ける產業組合運動　四
勞農露國豫算に就いて　六

露紙抄譯　七
ソヴエート・ロシヤに於ける經濟政策の變遷(スミルガ原撰)　八
ソヴエート・ロシヤの勞働賃銀制度(ラフシーツ原撰)　八
ヨーロッパとアメリカ(トロツキー原撰)　九
ソヴエート・ロシヤに於ける產業組合(セヴルーク原撰)　一〇
ソヴエート・ロシヤの鑛業(チモフエーエフ原撰)　一一
經濟上より見たる北樺太(ゼーヲフ原撰)其他　一三
ソヴエート聯邦の利權政策其他　一三
ニージニイ・ノーヴゴロド年市五個年の成績其他　一四
露領極東地方の米作其他　一五
浦鹽オデッサ間定期航路の復活其他　一六
ソヴエート聯邦民の租稅負擔に關する研究(上)其他　一七
北樺太東海岸の森林(イワシケーヴィチ原撰)　一八
第十五回共產黨大會に就て其他　一九　ソヴエート聯邦の國內狀態其他　二一—二三
ソヴエート聯邦の民族共和國及自治州其他　二三
ソヴエート聯邦の單一農業稅・所得稅及社會保險其他　二三
露領極東地方の金鑛業　二三
モスクワに開催された日本兒童書籍展覽會について其他　二三
ソヴエート聯邦利權政策の積極化其他　二三
蘇聯邦民間飛行と其の計畫其他　二四
蘇聯邦とアメリカとの經濟關係其他　二四
ソ聯邦一九二六年の國勢調査に就いて其他　二四
英國實業團の訪露其他　二四　ロシヤ共和國の內情其他　二四
ソ聯邦の都市公益事業利權計畫其他　二四
ソヴエート聯邦の國內問題其他　二四　露紙抄譯　二五—二六

日本讀書協會　同會事務所刊(大正一五)　洋・小　一　イ 六 二七三六
〔服部報公會〕事業報告 昭和八年度　同會刊　洋・中　一　イ 六 二七五四
滿洲國協和會之概要 大同二年六月　同會刊　一　イ 六 二七四九

七 一般雜誌

海外に於ける寫眞報道に關する調査 大正一三年度（大正一二） 外務省情報部刊 洋・大 | 冊 | イ 八 | 類 八八 | 號

「外國の新聞と雜誌」解說書目 第一至一四三號・日本讀書協會編 大正一五・昭和二 洋・小 | 二 | イ 八 | 九七

新舊雜誌展覽目錄 大正記念長岡市立互尊文庫刊 昭和八 洋・小 | 一 | イ 七 | 八五

新聞雜誌の作り方と讀み方 住谷成一撰 大正一三 洋・小 | 一 | イ 八 | 八六

新聞雜誌貼込帖 明治初年ノ分 | 一帖 | イ 八 | 一

東天紅 明治新聞雜誌文庫所藏目錄 瀨木博尙編 昭和五 洋・大 | 一 | イ 二 | 一八六四

○

出版月評 號一至四〇（有缺） 月評社刊 明治二〇年八月至二四年八月 | 三 | サイ | 三五

書誌 年一册二至年二册一（有缺） 書物同好會刊 大正一四年一二月至一五年一一月 洋・中 | 一 | サイ | 一六

書誌學 卷一號一（昭和八年一月）ヨリ 日本書誌學會刊 洋・中 | | サイ | 五五

書物往來 卷一號一至卷三號五 從吾所好社刊 大正一三年五月至一五年六月 洋・中 | 一 | サイ | 八

書物春秋 號一至二四 書物春秋會刊 昭和五年一〇月至九年三月 洋・中 | 五 | サイ | 四三

書物展望 卷一號一（昭和六年七月）ヨリ 書物展望社刊 洋・中 | 一 | サイ | 五〇

新刊圖書雜誌月報 卷一三號一至一二（號四缺） 東京堂刊 大正一五年一至一二月 洋・中 | 一 | サイ | 三

東京堂月報 卷一四號一（昭和二年一月）ヨリ（有缺） 東京堂刊 洋・大 | | サイ | 二三

圖書月報 卷一號五至卷二九號三〇（有缺） 東京書籍商組合事務所刊 明治三六年一月至大正一二年一月 洋・中 | 一九 | サイ | 三

圖書世界 卷四號三至卷六號一（有缺） 圖書世界社刊 明治三六年三月至三八年一月 洋・中 | 二 | サイ | 二

藝文 年一號一至年一五號一二 京都帝大文學會刊 明治四三年四月至大正一三年一二月 洋・中 | 二六 | サイ | 一八

原理日本 卷一號一（大正一四年一一月）ヨリ 原理日本社刊 洋・中 | | サイ | 五六

古本屋 號一至一〇 荒木書店刊 昭和二年四月至六年一月 洋・中 | 三 | サイ | 二四

○

亞細亞 卷二號一至卷三號三（有缺） 政敎社刊 明治二六年二月至二七年一〇月 洋・中 | 二 | サイ | 八四

亞細亞時論 卷一號一至卷五號一〇（有缺） 黑龍會刊 大正六年七月至一〇年一〇月 洋・中 | 九 | サイ | 九八

燕京學報 號五（民國一六年六月）ヨリ 燕京學報編輯委員會編 洋・大 | | サイ | 五四

嚶鳴雜誌 號一至三五 求友社刊 明治一三年四月至一四年一二月 和・小 | 二 | イ 七 | *四五

改造 卷三號一（大正一〇年一月）ヨリ 改造社刊 洋・中 | | サイ | 三

我觀 卷一（大正一二年一〇月）ヨリ（有缺） 我觀社刊 洋・大・中 | | サイ | 三九

學藝雜誌 號一至一四 學藝社刊 明治一八年八月至一一月 和・小 | 一 | イ 七 | *二

學藝志林 卷一至一七（册一至一〇〇）（有缺） 東京大學編 明治一〇年八月至一八年一一月 洋・小 | 一五 | サイ | 七〇

學燈 年七號一（明治三六年一月）ヨリ 丸善刊 洋・中 | | サイ | 二七

雅俗新聞 號二一至三〇 可以觀刊 明治九年一・二月 和・小 | 一 | イ 七 | *五七

極東時報 號八至九一（有缺） 極東時報社刊 大正六年一月至八年四月 洋・大 | 六 | サイ | 一〇〇一〇六

佛蘭西時報 號九二至一〇三 佛蘭西時報社刊 大正六年六月至九年五月 洋・大（極東時報改題） | 二 | サイ | 一〇〇七一八

近事評論 號三二至四一 共同社刊 明治一〇年一・二月 和・小 | 一 | イ 七 | *五五

京城帝國大學法文學部紀要 卷一（昭和四年三月）ヨリ 同大學編 洋・大 | | サイ | 一九

鄕歌及び吏讀の研究（小倉進平） | 一

庚寅新誌 號六五至九八（有缺） 庚寅新誌社刊 明治二五年一一月至二七年三月 洋・中 | 四 | サイ | 一三

講演 號五四（昭和三年一〇月）ヨリ（有缺） 東京講演會刊 洋・中 | | サイ | 二六

好學雜誌 號一三至五九（有缺） 好學會刊 明治三七年七月至四一年五月 洋・大 | 三 | サイ | 六

江湖 號一至五 江湖社刊 明治四一年三至八月 洋・中 | 一 | サイ | 一三

江湖新報 號二至七〇（有缺） 四通社刊 明治一三年一月至一四年六月 和・小 | 一 | イ 七 | *五六

交詢雜誌 號二五至二一八（有缺） 交詢社刊 明治一三年一〇月至一九年三月 洋・中 | 六 | サイ | 七四

好事雜報 號三至八・一〇至二一・二三至二五 好事社刊 明治一一年七月至一二年六月 和・小 | 一 | イ 七 | *二五

皇典講究所講演 第一至一七〇 明治二二年二月至二九年三月 洋・小 | 一七 | サイ | 一〇

國學院大學紀要 第一卷（昭和七年一一月）ヨリ 同大學編 洋・大 | | サイ | 五一

惟神の出典と其の新解釋（山本信哉） | 一

統治關係の基本思想と「まつり」及び「まつりごと」の意義（稙木直一郎） | 一

明治初年の敎化運動（河野省三） | 一

宮庭儀禮の民俗學的考察（折口信夫） | 一

維新當初の御用金穀の調達と會計基金（澤田章） | 一

明治中期までの國語敎育と國語學（松尾捨治郎） | 一

萬葉集卷第五の傳來（武田祐吉） | 一

國學季刊 卷一號一（民國二年一月）ヨリ 北京大學國學季刊 編輯委員會編 洋・大 | | サイ | 五三

國光 卷五號一至卷一一號三（有缺） 國光社刊 明治二五年一〇月至二八年一二月 洋・大 | 五 | サイ | 七三

國民之友 號一至三七二（有缺） 民友社刊 明治二〇年二月至三一年八月 洋・中 | 二九 | サイ | 二六

國民之友 號一七一至三七一（有缺） 民友社刊 明治二五年一一月至三一年七月 洋・中 | 二三 | サイ | 三〇

國民之友 卷一册一至卷二册八（有缺） 民友社刊 明治二九年一月至三〇年八月 洋・中 | 二 | サイ | 二元

英文

精神 號一九至七〇（有缺） 精神社刊 明治二六年一月至二八年一〇月 洋・中 | 三 | サイ | 八一

青年 卷八號二至卷九號六（有缺） 精美堂 明治四三年一〇月至四四年六月 洋・中 | 二 | サイ | 一三

青年 創刊號至卷六號一〇 大日本青年協會刊 明治三三年一二月至七年一一月 洋・中 | 一一 | サイ | 九三

青年雄辯 卷三號六至卷五號五（有缺） 青年雄辯社刊 大正七年六月至九年六月 洋・中 | 三 | サイ | 一〇四

西洋雜誌 卷一至五 柳河春三編 （慶應三年一〇月） 和・小 | 五 | イ 七 | *八二

世界之日本 卷一號四至卷五號五五（有缺） 開拓社刊 明治二九年九月至三三年二月 洋・大・中 | 八 | サイ | 一五

大觀 卷一號一至卷五號四 實業之日本社刊 洋・中
大正七年五月至一一年四月

太湖 號八四(昭和八年一月)ヨリ 太湖社刊
洋・大

大正公論 卷二號一〇至卷四號四 大正公論社刊
大正元年一〇月至三年四月 洋・大

大帝國 卷一號七至卷三號八(有缺) 博文堂刊
明治三二年九月至三三年一〇月 洋・中

大東 年四號二至年五號四 亞細亞議會刊
明治四四年二月至四五年四月 洋・大

大日本 卷三號八至卷一一號五(有缺) 大日本社刊
明治三三年六月至四〇年五月 洋・大

大日本 卷一號一至卷七號九(有缺) 大日本社刊
大正三年一〇月至九年九月 洋・大

週刊太平洋 卷二號一至卷三號五〇 太平洋社刊
明治三四年一月至三五年一二月 洋・大

太陽 卷一號一至卷三四號二(有缺) 博文館刊
明治二八年一月至昭和三年二月 洋・大・中

大陸 號一至五一 大陸社刊
大正二年六月至六年一〇月 洋・大

玉藻冊子 冊一至一〇 香川縣學友會刊
明治二三年一一月至二四年九月 洋・中

地球 卷一號一至卷二號六(有缺) 博文館刊
明治四五年四月至大正二年六月 洋・大

中央公論 卷二五號二(明治三四年二月)ヨリ(有缺) 中央公論社刊
洋・中

中外 卷一號一至卷三號四(有缺) 中外社刊
大正六年一〇月至八年四月 洋・大

朝鮮之光 號七三至九三 朝鮮之光社刊
昭和二年一一月至五年一一月

著作評論 號一至六 日本著作家組合刊
大正九年四至九月 洋・中

帝國民 卷一號一至卷三號六(有缺) 大道社刊
大正七年一月至九年六月 洋・中

天地人 號三至五五(有缺) 三才社刊
明治三一年三月至三四年五月 洋・中

東亞 號一九至二六 東亞青年會刊
明治四〇年三至一〇月 洋・中

冊	類	號	
四	サイ	一〇二	東京學士會院雜誌 編四號一至編二三號三(有缺) 東京學士會院刊 明治一五年一月至三四年三月 洋・小
	サイ	六〇	東京獨立雜誌 號二五至七二 東京獨立雜誌社刊 明治三二年三月至三三年七月 洋・大
二	サイ	九六	東京文理科大學文科紀要 第一卷(昭和六年九月)ヨリ 同大學編 洋・大
三	サイ	八二	祖徠學(加藤仁平) 一
			唐音十八考(中山久四郎) 一
			表出と言語及び其の研究 一
			賀茂傳說考(肥後和男) 二
四	サイ	三三	同人 第七至四九(有缺) 同人發行所刊 大正六年一月至九年七月 洋・中
一四	サイ	九四	東洋學報 東京 冊一(昭和六年三月)ヨリ 洋・大
二	サイ	二四	東方公論 卷一號一至卷二號一 東方公論社刊 大正一五年一月至昭和二年一一月 洋・中
五	サイ	一四	東方時論 卷一號一至卷八號六(有缺) 東方時論社刊 大正五年九月至一二年六月 洋・中
一七	サイ	九七	東方之國 年一號一至年六號一二(有缺) 東方之國社刊 昭和二年一〇月至七年九月 洋・中
六	サイ	五九	東洋學會雜誌 編二號四至編四號一〇(有缺) 東洋學會刊 明治二一年二月至二三年一一月 洋・中
三	サイ	五	東洋學藝雜誌 號一至五六七(有缺) 東洋學藝社刊 明治三四年七月至昭和五年一二月 洋・中
四〇	サイ	一	東洋學報 卷一號一(明治四四年一月)ヨリ 東洋協會學術調査部刊 洋・大
一一三	サイ	七	東洋時論 卷一號一至卷三號四 東洋經濟新報社刊 明治四三年五月至四五年四月 洋・中
五	サイ	五九	讀書會雜誌 卷七號七至卷一三號一二 滿鐵讀書會刊 大正九年七月至昭和元年一二月 洋・中
一三	サイ	三六	獨立評論 卷一號一至卷二號二(有缺) 獨立評論社刊 明治三六年一月至三七年二月 洋・中
三	サイ	一三	二十世紀 號一至六・新號一至七 二十世紀社刊 明治三三年二月至三四年一一月 洋・大
一	サイ	七六	

日佛文化 新輯一(昭和六年八月)ヨリ 日佛會館刊
洋・中

日華公論 卷六號一至卷一〇號一一(有缺) 日華公論社刊
大正八年八月至一一年一一月 洋・中

日本一 卷六號四至卷七號一二(有缺) 南北社刊
大正九年四月至一〇年一二月 洋・中

日本國民 卷一號一至七 日本國民社刊
昭和七年五至一一月 洋・中

日本人 號一至四四九(有缺) 政教社刊
明治二六年一〇月至三九年一二月 洋・大

日本及日本人 號四〇(明治四一年一月)ヨリ(有缺) 政教社刊
洋・大 (日本人改題)

日本新論 卷九號一至一一 日本新論協會刊
昭和七年一至一一月 洋・中

日本評論 號一至六一(有缺) 日本評論社刊
明治二三年三月至二七年四月 洋・大

博聞雜誌 號八八 博聞雜誌社刊
明治二四年六月 洋・中

發行禁止諸雜誌 大正二年乃至昭和八年刊・二九種
洋・大・中

人 號二八一(昭和七年一月)ヨリ(有缺) 刑務協會刊
洋・大

評論 號一至一〇 女學雜誌社刊
明治二六年四至八月 洋・中

評論新聞 號二至一〇六(有缺) 集思社刊
明治八年四月至九年七月 和・小

武相 號九至二二 武相社刊
明治二五年一一月至二六年一二月 洋・中

文明協會ニュース 昭和三年一冊(昭和三年一月)ヨリ(有缺) 文明協會刊
洋・小

文明協會ニュース 昭和四年一冊(昭和四年一月)ヨリ(有缺) 文明協會刊
洋・小

文明新誌 號二至五 集思社刊
明治九年一・二月 和・小

文明大觀 大正一三年第一至一四年第一〇(有缺) 大日本文明協會刊
大正一三年五月至一四年一〇月 洋・中

北京週報 號二四五至二六六
昭和二年二至七月 楊東新信社刊
洋・大

龍門雜誌 號四三七(大正一四年二月)ヨリ 龍門社刊
洋・中

繪入豐年溫故誌 號三三至三七 溫故社刊
人情 明治一六年一・二月 和・中

名家叢談 號一至四〇 談叢社刊
明治二八年一〇月至三年三月 初・再版 和・小

明義 卷一號一至卷九號七(有缺) 明義雜誌社刊
明治三三年四月至四一年七月 洋・中

明治會叢誌 號一至一一・七一至八四 明治會刊
明治二一年二月至二九年一月 洋・中

明治協會雜誌 號三五至一二三(有缺) 明治協會雜誌局刊
明治一六年一月至一九年七月 洋・大

明治評論 卷五號一至卷六號一一(有缺) 精神社刊
明治六年三月至三〇年一〇月 洋・大(精神改題)

中外時論 號一至四 精神社刊
明治三一年一月至四月 洋・大 (明治評論改題)

〔明治文化全集〕雜誌篇 吉野作造編
昭和三 洋・中

西洋雜誌(慶應三)(柳河春三編) 新塾月誌(明治二)(山東一郎編)
明六雜誌(同七)(明六社編) 民間雜誌(同)(小幡篤次郎等編)
講學餘談(同一〇) 報四叢談(同七)(大內青巒編)
萬國叢話(同八) 評論新聞(同)(海老原穆等編)
七一雜報(同)(村上俊吉編) 家庭叢談(同九)(箕浦勝人編)
文部省雜誌(同六) 近事評論(同九)(林正明等編)
日々新聞(同元) 公私雜報(同)
そよふく風(同) 新聞日誌(同)
諷歌新聞(同)
博問新報(同二)(山本常五郎・川口常藏編) 附錄・明治雜誌年表(宮武外骨編)
六合新聞(同)(清水卯三郎編)

明六社雜誌 號一至四三(有缺) 明六同社刊
明治七年二月至八年一一月 和・小

明六社雜誌 號一至一〇 明六同社刊
和・小

洋々社談 號六七・六九至七五・七七至八〇 洋々社刊
明治一三年六月至一四年一〇月 和・小

冊	類	號	
一	イ	七	八四
	イ	七	八六
	サイ	一〇	七九
	サイ	二	明
	サイ	二三	明
	サイ	二	明
	サイ	一	明
	サイ	一	明
	サイ	一	明
	サイ	一	明
	サイ	一	明
	サイ	一	明
	サイ	一	中
	サイ	二	明
	イ	七	〔明
	イ	七	* 八三
	イ	七	* 八一
	サイ	六一	
	サイ	二五	
	イ	七	* 五三
	サイ	二一〇	
	サイ	四〇	
	サイ	四一	明
	イ	七	* 西
	サイ	一〇九	洋
	サイ	六六	龍

隣人之友 號七四（昭和八年一月）ヨリ 隣人之友社刊 洋・中 | 冊 サイ 類 四四 號
和光雜誌 號六至一五 和光社刊 明治一一年一一月至一二年四月 和・小 | 一 イ 七 * 五〇
早稲田講演 號一至二・新巻一號一至巻六號六 早大出版部刊 明治四三年五月至大正五年三月 洋・中 | 一五 サイ 六七
我等 巻一號一至巻一二號二（號一至一二八） 我等社刊 大正八年二月至昭和五年三月 洋・中 | 二一 サイ 一一九
批判 巻一號一至巻五號二（號一二九至一七〇） 我等社刊 昭和五年五月至九年二月 洋・中（我等改題） | 七 サイ 二一一七

八 新聞

英國新聞開明鑑記 安川繁成編 明治八・和・大 | 冊 イ 類 二四 號
英字新聞の研究 花園兼定撰 大正八 五版 洋・小 | 一 イ 八 一〇七
大阪毎日新聞社史 小野秀雄撰 大正一四 洋・小 | 一 イ 八 八九
大阪毎日新聞社大観 附錄新聞記事の讀み方 島屋政一撰 大正一三 洋・中 | 一 イ 八 八七
三十七八年役大阪毎日新聞戰時事業誌 附「日露戰役日表」大阪毎日新聞社刊 明治四一 洋・小 | 一 イ 八 一八
海外に於ける寫眞報道に關する調査 大正一二年度 外務省情報部刊（大正一三） 洋・大 | 一 イ 八 八八
「外國の新聞と雜誌」解說書目 第一至一四三號 日本讀書協會編 大正一五・昭和二 洋・小 | 二 イ 八 九七
五十年の回顧 大朝創刊五十周年記念 大阪朝日新聞社編 昭和四 洋・小 | 一 イ 八 九九
現代ヂャーナリズムの理論と動向 内外社刊 昭和六 洋・中 | 一 イ 八 一一三

ブルジョア・ヂャーナリズム論（長谷川如是閑）
ヂャーナリズム心理學（杉山榮） ヂャーナリズム感覺論（小澤正元）
ヂャーナリズム道德論（井上吉次郎） 近代思想とヂャーナリズム（千葉龜雄）
ヂャーナリズム（馬場恒吾） 經濟とヂャーナリズム（下田將美）

文學とヂャーナリズム（平林初之輔） 科學とヂャーナリズム（西村眞琴）
輿論とヂャーナリズム（杉山榮） 女性とヂャーナリズム（長谷川時雨）
廣告とヂャーナリズム（瀨木博尙）
ヂャーナリズムとセンセエショナリズム（室伏高信）
ヂャーナリズムと檢閱制度（石川六郎）
ヂャーナリストの生活及勞働條件（西島芳二）

最近新聞紙學 杉村廣太郎撰 大正五 洋・小 | 一 イ 八 七一
支那に於ける新聞發達小史 伊藤武雄撰 昭和二 洋・中（經濟資料） | 一 ヨ 一 二九五三 二五
社會より見たる新聞の使命 實業同志會調査部編 昭和三 洋・中（實同調査資料本） | 一 イ 八 一〇三
ジャーナリズムの理論と現象 喜多壯一郎撰 昭和七 洋・小 | 一 イ 八 一二八
新聞界人物評傳 宮居康太郎撰 昭和四 洋・中 | 一 イ 八 一〇〇
新聞學 歐米新聞事業 松本君平撰 明治三二 洋・中 | 一 イ 八 八五
新聞學概論 棟尾松治撰 昭和五 洋・中 | 一 イ 八 一〇四
新聞學全書 大日本新聞學會刊 大正八 洋・中 | 三 イ 八 七六
新聞記者と新聞 德富猪一郎撰 昭和四 洋・小（蘇峰叢書） | 一 イ 四 一二八 八
新聞研究室研究報告 第一回 東大文學部新聞研究室編 昭和六 洋・中 | 一 イ 八 一一三
新聞雜誌の作り方と讀み方 住谷成一撰 大正一三 洋・小 | 一 イ 八 八六
新聞雜誌貼込帖 明治初年之分 | 帖 イ 八 * 一
新聞紙研究 後藤武男撰 昭和二 洋・中 | 一 イ 八 九六
新聞紙講話 後藤武男撰 大正一五 洋・小 | 一 イ 八 九一
新聞紙實歷 福地源一郎撰 洋・小（續往事談ノ附錄） | 一 リ 五 四七六〇

新聞紙上の露西亞 一九二六年六七月號時事臨報之部 滿鐵哈爾濱事務所編 洋・中 | 二 イ 八 一〇六
新聞紙ニ關スル制度ノ比較研究 稻田周之助撰 洋・中 | 一 イ 八 二九
同 | 一 イ 八 三〇
新聞紙になるまで 附錄大毎社長本山彥一君の新聞經營雜談 魚川關太郎撰 大正六 洋・中 | 一 イ 八 七三
新聞紙の內外 附・日本の新聞紙の變遷外二篇（英文） 杉村廣太郎撰 昭和二 洋・小 | 一 イ 八 四四
新聞紙販賣の科學的研究 附錄豫約及仄記讀賣式外五項 ホスコット撰・伊勢兵次郎譯 大正六 洋・小 | 一 イ 八 七八
新聞重要記事日錄 昭和五年一・三月號 滿鐵哈爾濱事務所編 洋・小 | 二 イ 八 一〇五
新聞全集 第一至四卷 新聞之新聞社刊 昭和六 洋・小 | 四 イ 八 一〇八

英國新聞論（寺田四郎）
フランス革命前後のフランス新聞の動搖（喜多壯一郎）
生きた新聞廣告論（疾守勘一）
新聞經營論（刀禰館正雄）

新聞總覽 明治四三・四四・大正二・五・一四・一五・昭和二年版 日本電報通信社編 明治四三至昭和二 洋・中 | 七 イ 八 二六
新聞そのをりをり 太田正孝撰 大正一五 洋・小 | 一 イ 八 九二
新聞展望臺 喜多壯一郎撰 昭和四 洋・小 | 一 イ 八 一〇一
同 | 一 イ 八 一〇九
新聞になるまで 新聞製作過程實見の記錄・附錄・創刊から今日まで 東京朝日新聞社編 大正一二 洋・中 | 一 イ 八 一〇九
新聞年鑑 第一至五卷（大正五ノ一二至六ノ五） 大正六 洋・小 | 四 イ 八 一四四
新聞遍路 二十五年記者生活錄 佐藤巖撰 昭和七 再版 洋・小 | 一 イ 八 一二四
新聞名鑑 日本電報通信社編 明治四二 再版 洋・中 | 一 イ 八 四二

日本新聞歷史 小池洋二郎撰 洋・中（明治文化全集） | 一 イ 四 一一三二 一七
世界新聞鳥瞰論 內外社刊 昭和六 洋・中 | 一 イ 八 一一一

現代新聞論（緒方竹虎）
イギリス新聞論（上野精一）
ソビエート・ロシア新聞論（黑田乙吉）
フランス新聞論（渡邊紳一郎）

世界新聞早わかり 岩崎英祐撰 昭和八 洋・小 | 一 イ 八 三三
全國新聞名鑑 日本廣告株式會社刊 明治四〇 洋・中 | 一 イ 八 一三五
大學新聞街 齋藤昌武編 昭和六 洋・小 | 一 イ 八 一一〇
地方新聞廣告行數統計月報 其一至三 大正三・和・中（日本電報通信社編 日本電報第四〇八三號附錄） | 一 イ 八 六七
帝通の一年有半 松井鐵夫撰 洋・中 | 一 イ 八 九八
東天紅 明治新聞雜誌文庫所藏目錄 瀨木博尙編 昭和五 洋・大 | 一 イ 二 一六六四
越佐新聞長岡日進社紀要 附錄二十年間の回顧（鹽井一）外九篇 同社創立友會編 明治四四 洋・中 | 一 イ 八 三七
日本新聞協會二十年史 附・同會々則 同會刊 昭和七 和・大 | 一 イ 八 一一九

同

日本新聞年鑑 大正一四・昭和七年版 新聞研究所編 大正一四・昭和六 和・書原 洋・中 | 二 イ 八 九〇
日本新聞發達史 附錄大阪毎日新聞・東京日日新聞事業史 小野秀雄編 大正一一 洋・中 | 一 イ 八 八一
北越新報一萬號記念志 附・同記念帖 北越新報社刊 大正元 和・小 | 二 イ 八 三元
本邦新聞史 朝倉龜三撰 明治四四 和・大 | 一 イ 八 二六
明治・新聞雜誌資料・竝筆禍文獻 新聞編第一期 梅原北明編 昭和二 洋・中（變態資料本） | 一 イ 八 九五

大正二年十二月二日本山社長演説大要筆記 大阪毎日新聞社刊 於東京日日新聞社 (大正二) 和・小 | 一冊 | イ 八類 六八號 | 江湖新聞 第一至二二號(慶應四閏四・五月) 小野秀雄校 複刻 洋・小(増補新報もしほ草ト合刊) | 一 | イ 八 * 三
本山社長演説速記 大阪毎日新聞社刊 (大正三) 和・小 | 一 | イ 八 一三 | 公私雑報 第一(慶應四ノ四ノ二七)三號(同閏四ノ七) | 一 | イ 八 * 三
○ | | | 公私雑報會社刊 和・中 | | |
ジャーナリズム 巻一號一(大正一五年四月)ヨリ(有缺) | | | 國會 第三九(明治三ノ八)至第六八號(同三ノ一〇ノ三) | | |
新聞評論社刊 洋・中 | | | 國會新聞社刊 | | |
新聞及新聞記者 巻二號二至巻五號八(號五至八七)(有缺) 新聞及新聞記者社刊 大正一〇年二月至一五年五月 洋・中 | 六 | イ 八 一五一 | 國民新聞 第六四二號(明治二五ノ二ノ二)ヨリ | | イ 八 一五九
新聞研究所報 號二(一)(有缺) 新聞研究所刊 洋・大 | 一 | イ 八 一五六 | 國民新聞社刊 | | |
新聞と社會 巻一號一(昭和五年一二月)ヨリ(有缺) | | | 開成新聞 此はな新書 繪入 第一・三至六輯(自慶應四年五月) 和・小 | 一 | イ 八 * 一六
新聞と社會社刊 洋・大 | 四 | イ 八 一五四 | 時事新報 第二四〇號(明治一五ノ一二ノ一五)ヨリ | | イ 八 一三三
○ | | | 時事新報社刊 | | |
有喜世新聞 繪入 第一三〇(明治一二ノ六ノ一)至一四九號(同一六ノ一二) | 一一 | イ 八 * 六 | 自由の燈 號外(第一(明治一七ノ五ノ一)至四一五號(同一八ノ一ノ一五) 内第二三一號缺) 是非新聞社刊 洋・大 | 四 | イ 八 * 一四八
(有缺) 有喜世新聞社刊 和・中 | | | 新聞雑誌 第一至二〇號 日新堂刊 | | |
大阪朝日新聞 第七〇一五號(明治三四ノ八ノ一九至二四ノ八ノ三〇) 大阪朝日新聞社刊 (大正 | | | 明治四年五月至一一月 和・中 | 四 | イ 八 * 二一七
一二ノ八ノ三〇) | | | 新聞六種 和・中 | | |
大坂安部之合戰之圖 (瓦版) | 一巻 | イ 八 一四二 | 每週新聞 第十號(明治五ノ五)(横濱活版社刊) | 一 | イ 八 * 五六
大阪新聞 第一(明治五ノ三)至六六號(同五ノ一二ノ二七) | | | 海外各国翻譯新聞紙 第六號(明治六ノ三)(信報堂刊) | | |
書籍會社刊 和・中 | 三 | イ 八 * 六九 | 郵便報知新聞 第四十六號(明治六ノ四)(太田金右衛門刊) | | |
大阪毎日新聞 第四八一七號(明治三〇ノ四ノ一二)ヨリ | | | 日要新聞附錄文通自由(明治六)(轉新堂刊) | | |
大阪毎日新聞社刊 | | イ 八 一四一 | 遠近新聞 第十九號(慶應四ノ閏四ノ一〇)至二〇號(同五ノ一八) | | |
遠近新聞 第一(慶應四ノ閏四ノ一〇)至二〇號(同五ノ一八) | 一 | イ 八 * 一七 | 遠近新聞社編 和・中 | | |
遠近新聞社編 和・中 | | | 中外新聞 第一(慶應四ノ二ノ二四)至三四號(同五ノ九) | 五 | イ 八 * 九
海外新聞別集 繪入 上下巻(中巻缺) 萬屋兵四郎刊 (官板) | 二 | イ 八 * 三 | 柳河春三編・開物社刊 再刻 和・小 | | |
文久二年閏八月・一〇月 和・中 | | | 中外新報 第二・六・三號(慶應元ノ二月至二ノ正月寧波版ノ翻刻) | 一 | イ 八 * 一〇
開花新聞 第三(明治二六ノ三ノ三)至四三號(同二七ノ七ノ三) | 七 | イ 八 * 七 | 萬屋兵四郎刊 和・中 (官板) | 三 | イ 八 * 四
開花新聞社編 和・中 | | | 朝野新聞 第元至三(明治二〇ノ一)至第五八三號(同三ノ二ノ三〇) | | |
江湖新聞 繪入 第一(慶應四ノ閏四ノ三)至三號(同五ノ三) | 二 | イ 八 * 二 | 朝野新聞社刊 | | |
福地源一郎刊 和・小 | | | 東京朝日新聞 第一(明治一四ノ四ノ二)ヨリ | | イ 八 一三七
江湖新聞 繪入 第一至二一號 | 一 | イ 八 * 二〇 | 東京朝日新聞社刊 | | |
福地源一郎刊 和・小 | | | | | |
江湖新聞 繪入 第一(慶應四ノ閏四ノ三)至一八號 和・小 | 一 | イ 八 * 六二 | | | |

東京朝日新聞 縮刷版 第一號(大正八年七月)ヨリ | | イ 八 一五二 | 内外新報(同) | | 四 | 内外新報前記(同) | | 四
東京朝日新聞社刊 洋・大 | | | 内外新報別集(同) | | 四 | 繙譯新報もしほぐさ(慶應四至明治三) | | 四
東京繪入新聞 第五六八(明治一〇ノ六ノ五至一五三號(同三ノ六ノ三〇)有缺) | 二 | イ 八 * 三五 | 内外新報會社刊 和・小 | | 四 | 外國新聞(慶應四) | | 四
繪入新聞兩文社刊 和・洋・大 | | | 萬國新聞 第一(慶應四ノ四ノ一〇)至五〇號(同六ノ一・内外新報字類第一 | 一 | イ 八 * 二 | 浮世新聞(同) | | 五
東京圖回新聞 第二(明治五ノ三ノ三)至四四一號(同三ノ一ノ三) | 一七 | イ 八 * 五 | 至四號附 海軍會社刊 和・小 | | | 都鄙新聞(同) | | 五
日報社刊 和・大 | | | 萬國新聞紙(慶應三・四) | 二 | 五 | 諷歌新聞(同) | | 五
東京日日新聞 第三六(明治九ノ一四至一九七號(同一ノ六ノ二九) | 五 | イ 八 * 六五 | 萬國新聞社編 和・小 | | | 内外新聞(同) | | 五
日報社刊 洋・大 | | | 萬國新聞(明治二) | 二 | 五 | 新聞事略(慶應四) | | 五
東京日日新聞 第二八一六號(明治一四ノ五ノ二)ヨリ | | イ 八 一三〇 | 各國新聞紙(慶應四) | 二 | 五 | | | |
東京日日新聞社刊 | | | 別段中外新聞(同) | 三 | 五 | | | |
東京毎日新聞 第六七七(明治二八ノ七ノ一)至一三九七號(明治四〇ノ三ノ七) | | イ 八 一三四 | 日々新聞(同) | 三 | 五 | | | |
東京毎日新聞社刊 | | | 日新通志(明治元) | 三 | 五 | | | |
東洋新報 第三二(明治一一ノ三ノ一)至三五號(同五ノ三) | 一 | イ 八 * 四九 | | | | | | |
岡本監輔編 和・小 | | | | | | | | |
内外新報 第一至四七號・内外新報字類第一至四號・内外新報 | 六 | イ 八 * 一五 | | | | | | |
別集第一號附 海軍會社刊 和・小 | | | | | | | | |
内外新報 第一至四七號・内外新報字類第一至四號・内外新報 | 三 | イ 八 * 五九 | | | | | | |
別集第一號附 海軍會社刊 和・小 | | | | | | | | |
日〻新聞 第一(慶應四ノ閏四ノ三)至一〇輯(同五ノ四) | 一 | イ 八 * 一三 | | | | | | |
博聞會社刊 和・中 | | | | | | | | |
日新眞事誌 明治八年第三三(三ノ一四)至六九號(三ノ三)(有缺) | 一 | イ 八 * 四二 | | | | | | |
一新社刊 洋・大 | | | | | | | | |
日本 第四四八(明治三ノセノ二六)至第九二四號(大正三ノ一二ノ三一) | 一 | イ 八 一三六 | | | | | | |
日本新聞社刊 | | | | | | | | |
都新聞 第九六三五號(大正三ノ一二ノ一)ヨリ | | | | | | | | |
都新聞社刊 | | | | | | | | |
讀賣新聞 第六六八(明治一〇ノ四ノ二)至七八號(同五ノ三一) | 一 | イ 八 三三 | | | | | | |
日就社刊 和・大 | | | | | | | | |
讀賣新聞 第二三三七號(明治一五ノ一ノ二)ヨリ | 一 | イ 八 一三一 | | | | | | |
讀賣新聞社刊 | | | | | | | | |
萬朝報 第一三一〇號(明治三〇ノ四ノ八)ヨリ | 一 | イ 八 一四〇 | | | | | | |
萬朝報社刊 | | | | | | | | |
〔明治文化全集〕新聞篇 吉野作造編 昭和三 洋・中 | 一 | イ 四 一二三 一七 | | | | | | |

日本貿易新聞(文久三至慶應元) 一 日本貿易新聞補遺 一
日本新聞(慶應元・二) 一 日本新聞外編(同) 一
中外新聞紙(慶應三) 一 香港新聞紙(元治元) 一
官 バタビヤ新聞(文久元) 二 板 海外新聞(同) 二
ヒ 海外新聞(元治二至慶應二) 二 萬國新聞紙(慶應三・四) 二
萬國新聞(明治二) 二 官 海外新聞別集(文久二) 二
各國新聞紙(慶應四) 三 板 海外新聞(同) 三
別段中外新聞(同) 三 中外新聞外篇(同) 三
日々新聞(同) 三 そよふく風(同) 三
日新通志(明治元) 三 江湖新聞(慶應四) 四

内外新報(同) 四
内外新報別集(同) 四
繙譯新聞のりあひばなし(初編)(明治元) 四
東西新聞(同) 五
公私雑報(同) 五
此花新書(同) 五
海陸新聞(同) 五
海外新聞(明治三) 五

中外新聞（明治二・三）	中外新聞（慶應四）					
都鄙新聞（同）	崎陽雜報（同）					
附錄・明治新聞年表（宮武外骨編）						
露紙抄譯 第二・三輯 大正四年三・七月	日露協會刊	洋・中	冊	イ 九類	八	一五三
露紙抄譯 第六六號（昭和六ノ二ノ五）ヨリ	日露協會刊	洋・大		イ 九類	八	一五三

九 寧齋文庫

詩文（詩集・文集・詩文合集・詞科藝・詞曲・戲曲・小說）

愛日堂詩集 二八卷 唐・大	清・陳元龍撰	（清版）	冊	イ 九類	六	一
葦閒詩集 五卷・目一卷 道光四	清・姜宸英撰	重刊 唐・大		イ 九類	三	二
飴山詩集 二〇卷 光緒一一	清・趙執信撰	重刊 唐・大		イ 九類	四	三
怡志堂詩初編 八卷 唐・大	清・朱琦撰	（清版）		イ 九類	二	四
倚松閣詩鈔 一五卷・附錄二卷・首一卷	清・馮錫鏞撰	同治九 唐・大		イ 九類	四	五
一粟園叢書甲編詩二〇卷ノ內一二卷	清・陳壽蒿撰	唐・小（清版）		イ 九類	一	六
尹文端公詩集 一〇卷 唐・大	清・尹繼善撰	（清版）		イ 九類	六	八
汪齋詩鈔 八卷・外集一卷・首一卷	清・梁煦南撰	光緒一四 唐・大		イ 九類	二	九
益戒堂自訂詩集 八卷・目一卷 唐・大		（清版）		イ 九類	四	一〇
遠音集 五卷 唐・大	清・顧鑒撰	（清版）		イ 九類	一	一一
烟嶼樓詩集 一八卷・首一卷・附遊杭合集一卷	清・徐時棟撰	同治七 唐・大		イ 九類	四	七
嚶鳴館百疊集	清・孫點撰	光緒一六 唐・大		イ 九類	一	一三

（君異使東十種本）

滬羅盦詩藁 八卷・附吳淵蘐詩選	清・法良撰	道光二七 唐・大				
溫飛卿詩集箋注 九卷	唐・溫庭筠撰・明・曾益注・清・顧予咸補	光緒八 唐・大	冊	イ 九類	二	一四
海愚詩鈔 一二卷 乾隆五九	清・朱孝純撰	唐・大		イ 九類	四	一五
懷清堂集 二〇卷 唐・大	清・湯右曾撰	（清版）		イ 九類	四	一六
覺生詩鈔 一〇卷・詠物四卷・詠史三卷・感舊二卷・續鈔四卷・附錄一卷	清・鮑桂星撰	同治四 唐・大		イ 九類	一〇	一八
鶴半巢詩續鈔 五卷 唐・大	清・馮培撰	（清版）		イ 九類	二	一九
嘉樹山房詩集 一八卷 唐・大	清・李中簡撰	（清版）		イ 九類	六	二〇
畫石軒詩集 四卷	附臥遊籬錄四卷・清・朱逢泰撰	唐・大（清版）		イ 九類	四	二一
花天月地吟 八卷 唐・大	清・蔣坦撰	（清版）		イ 九類	四	二三
瓦釜集 一二卷 唐・小	清・高蘭曾撰	（清版）		イ 九類	四	二三
觀樹堂詩集合刻 七種一五卷 唐・中	清・朱樟撰	（清版）		イ 九類	四	二四
硎東詩鈔 一〇卷 光緒九	清・歐陽輅撰	唐・中		イ 九類	四	二五
九梅村詩集 二〇卷 光緒元	清・魏燮均撰	唐・大		イ 九類	六	二六
紀文達公遺集 一六卷 唐・大	清・紀昀撰・孫樹鑿編	（清版）		イ 九類	六	二七
曲園自述詩	清・兪樾撰	明治二三 和・大		イ 九類	一	二八
據梧詩集 一五卷・附小遊僊集一卷	清・管棆撰	唐・大（清版）		イ 九類	六	二九
御製詩初集四四卷・目四卷・二集九〇卷・目一〇卷	清・高宗御撰	唐・中（清版）		イ 九類	四八	三〇
御製詩三集 一〇〇卷・目一卷 唐・大		（清版）	冊	イ 九類	三〇	三一
御製詩餘集 一二卷・目二卷 唐・大	清・高宗御撰	（清版）		イ 九類	八	三三

漁洋山人精華錄 一〇卷（有補寫）	唐・大（清版）	清・王士禎撰・林佶編	冊	イ 九類	一〇	三三
欣遇齋詩集 一六卷 咸豐四	清・沈峻撰	重刊 唐・大		イ 九類	六	三四
屈翁山詩集 八卷・附錄一卷 唐・大	清・屈大均撰・徐肇元編	（清版）		イ 九類	四	三五
敬業堂集 五〇卷 唐・大	清・查慎行撰	（清版）		イ 九類	一二	三六
敬業堂詩鈔	清・查慎行撰・樾山精一編	嘉永二 和・大		イ 九類	四	三七
元遺山詩集箋注 一四卷首尾各一卷	金・元好問撰・清・施國祁注	道光二 唐・大		イ 九類	六	三八
寧經室詩錄 五卷 道光一三	清・阮元撰	唐・大		イ 九類	四	三九
香樹齋詩集 一八卷・續集三六卷 唐・大	清・錢陳撰	（清版）		イ 九類	一六	四〇
江西觀蓮集	服部敏撰	明治三二 唐・大		イ 九類	一	一六二
黃石齋集 第一・二 明治二三	岡本迪撰	唐・大		イ 九類	四	四一
香蘇山館詩鈔 古體一七卷・今體一九卷・首一卷	清・吳嵩梁撰	光緒二三 重刊 唐・大		イ 九類	八	四二
紅豆詩人集 一九卷・附錄一卷 唐・大	清・董潮撰	（清版）		イ 九類	四	四三
紅豆樹館集 詩稿一四卷・詞八卷 唐・中	清・陶樑撰	（清版）		イ 九類	四	四四
黃葉樓初集 四卷・首末各一卷 嘉慶二 唐・大	清・喬煒撰			イ 九類	四	四五
湖山消閑集 二卷・附錄一卷 明治一四 和・中	小野長愚（橫山卷）撰			イ 九類	二	一六三
吳詩集覽 二〇卷・首目各一卷・附・吳詩談藪・吳詩補註	清・吳偉業撰・靳榮藩編	唐・中（清版）		イ 九類	一六	四七
五百四峰堂詩鈔 二五卷 唐・大	清・黎簡撰	（清版）		イ 九類	八	四八
查浦詩鈔 一二卷・目一卷 唐・大	清・查嗣瑮撰	（清版）		イ 九類	四	四九
三十六灣草廬稿 一〇卷 唐・大	清・黃本驥撰	（三長物齋叢書本）		イ 九類	三	五〇

山陽詩鈔 八卷（內卷一・二缺）	和・大	賴襄撰	冊	イ 九類	三	一六四
思詒堂詩稾 一二卷 同治五	清・金衍宗撰	重刊 唐・大		イ 九類	四	五一
賜硯齋詩鈔 四卷 唐・大	清・伊朝棟撰	（清版）		イ 九類	二	五五
指翠堂絕句鈔	逸見三省撰	明治三六 和・大		イ 九類	一	一六六
師竹軒詩集 四卷・附韻香閣詩草 唐・大	清・劉樹堂撰	（清版）		イ 九類	一	五六
質園詩集 三二卷 唐・大	清・商盤撰	（清版）		イ 九類	四	五七
思補齋詩集 四卷 唐・中	清・潘世恩撰	（清版）		イ 九類	八	五八
秋錦山房集 一〇卷・目一卷 唐・大	清・李良年撰	（清版）		イ 九類	四	五九
秋錦山房集 一〇卷・目一卷 唐・中	清・李良年撰	（清版）		イ 九類	二	五六
秋水詩鈔 一七卷・續集一〇卷・附林下堂詩卷九卷 唐・大	清・程鑾撰	（清版）		イ 九類	三	五三
秋邨遺稿 三卷・附錄一卷 明治三四 唐・大		柴華撰		イ 九類	六	五三
菽園外集 第一種 唐・大	清・邱煒萲撰	（清版）		イ 九類	四	四三
壽藤齋詩 二六卷（內卷八・一三・一四原缺） 嘉慶一三	唐・大	清・鮑倚雲撰		イ 九類	四	四四
春巢詩鈔 七卷・附同人題贈錄四卷 唐・大	清・何承燕撰	（清版）		イ 九類	四	四五
賞雨茅屋詩集 八卷 嘉慶九 唐・大	清・曾煥撰			イ 九類	二	四六
賞雨茅屋詩集 二二卷・外集一卷 嘉慶二四 唐・大	清・曾煥撰			イ 九類	七	五五
小鷗波館詩鈔 一〇卷 唐・大	清・潘曾瑩撰	（清版）		イ 九類	五	六六
小鷗波館詩鈔 一〇卷・附詞鈔一卷 唐・大	清・潘曾瑩撰	（清版）		イ 九類	五	六七
小睡足寮詩錄 四卷 光緒一三 唐・大	清・秦敏樹撰			イ 九類	一	六八

	冊	類	號
邵潛夫先生詩選二卷 唐・大 (明版)	二	イ九	六九
松竹幽居小藁 附・倡和詩 明治二七 大竹溫撰 唐・大	一	イ九	一六七
松竹幽居第二集 大竹溫撰 明治三四 唐・大	二	イ九	一六八
松風閣詩鈔二六卷 唐・大 (清版) 清・彭蘊章撰	八	イ九	七〇
小浮山人閉門集六卷 光緒五 唐・大 清・潘曾沂撰	二	イ九	七一
章文毅公詩集一卷・首一卷 光緒二九 唐・大 明・章曠撰	一	イ九	七二
蕭鳴韋 唐・中 (清版) 清・壺亭傳撰	一	イ九	七三
小容齋詩鈔一〇卷 唐・大 (清版) 清・洪占銓撰	二	イ九	七四
昌黎先生詩增注証訛一一卷・首一卷 黃鉞校 咸豐七 唐・大 清・顧嗣立撰・	四	イ九	七五
壬寅編 奉在堂詩編第十九 唐・大 (清版) 清・俞樾撰	一	イ九	七六
津門徵獻詩八卷 唐・大 (清版) 清・華鼎元撰	四	イ九	七七
萃錦唫 卷三・四・一二至一四 唐・大 (清版) 清・恭親王撰	五	イ九	七八
栖雲閣詩一六卷・拾遺三卷 唐・大 (清版) 清・高珩撰	六	イ九	七九
星巖集甲至丁・閨集・附錄二種 天保二二至弘化四 梁川孟緯撰	三	イ九	一六九
西軒詩艸七卷 唐・中 (清版) 清・馮印撰	四	イ九	八〇
征清詩史 明治三〇 和・大 高橋利貞撰	一	イ九	一七〇
清芬堂集一六卷・續集六卷 嘉慶二〇至道光六 唐・大 清・潘際雲撰	一二	イ九	八一
靜廉齋詩集二四卷 唐・大 (清版) 清・金姓撰	六	イ九	八二
石帆詩鈔一〇卷・附聽雪齋詩鈔・雪泉詩存 唐・大 (清版) 清・嚴光祿撰	四	イ九	八三
石蘭堂詩稿九集 道光七 唐・大 清・張德懋撰	二	イ九	六九
船菴集 一二卷・附船庵詞一卷 光緒五 唐・大 清・潘曾沂撰	一	イ九	一六七
船山詩草二〇卷 同治一三 唐・中 清・張問陶撰	二	イ九	一六八
巢經巢詩鈔九卷・後集四卷 光緒二三 唐・大 清・鄭珍撰	八	イ九	七〇
棗香書屋詩鈔一卷・附行狀一卷 同治元 唐・大 清・黃樂之撰	二	イ九	七一
雙藤書屋詩集一二卷・試帖二卷・附月波舫遺稿・退學詩齋詩集 道光一三 重刻 唐・大 清・何道生撰	一	イ九	七二
蘇詩查注補正四卷 光緒八 唐・大 清・沈欽韓撰	一	イ九	七三
測海集六卷 同治四 重刊 唐・大 清・彭紹升撰	二	イ九	七四
退亭園詩鈔 明治三四 唐・大 江馬正人撰	四	イ九	七五
退遂齋詩鈔八卷・續集二卷 光緒七至一〇 唐・中 清・倪鴻撰	一	イ九	七六
大能寒軒詩鈔八卷・首末各一卷 唐・大 (清版) 清・吳爲棋撰	四	イ九	七七
薤石齋詩集五〇卷 唐・大 (清版) 清・錢載撰	五	イ九	七八
多歲堂詩集四卷・詩載賡集二卷・試律詩集一卷・賦集一卷 清・成書撰 唐・大 (清版)	六	イ九	七九
澹盦自娛草二卷・附仲安遺草一卷 清・金應瀛撰 光緒一九 唐・小	三	イ九	一六九
竹雨吟鈔二卷 同治八 唐・中 清・姚吉祥撰	四	イ九	八〇
竹下詩鈔 (明治一七) 唐・大 橋本旋撰	一	イ九	一七〇
竹溪詩文鈔 明治三五 唐・大 藤谷英撰	一二	イ九	八一
竹嘯軒詩鈔一八卷 唐・大 (清版) 清・沈德潛撰	六	イ九	八二
知足齋詩集二〇卷・目一卷 唐・大 (清版) 清・朱珪撰	四	イ九	八三
知白齋詩鈔五卷 光緒二四 唐・大 清・江人鏡撰	二	イ九	一〇一
忠雅堂詩詞全集 詩二七卷・詞二卷・補遺二卷 清・蔣士銓撰 唐・大 (清版)	六	イ九	九八
蜨庵詩鈔八卷 同治二 唐・大 清・楊棨撰	二	イ九	六三
蜨庵賦鈔箋註 咸豐一〇 唐・大 清・楊棨撰・包國璋注	二	イ九	六三
澄懷園詩選一二卷 光緒一七 重刊 唐・大 清・張廷玉撰	四	イ九	一四四
長吟閣詩集一〇卷・附野鴻詩的一卷 唐・大 (清版) 清・黃子雲撰	一〇	イ九	一〇五
陳忠裕公集一五卷・首一卷 嘉慶七 唐・大 明・陳子龍撰・清・朱墉編	一六	イ九	一〇六
定山堂詩集四三卷・附錄四卷・目首各一卷・附芳草詞 清・龔鼎孳撰 光緒九 重刊 唐・大	一六	イ九	一〇七
聽松廬詩略二卷 唐・大 (清版) 清・張維屏撰・陳澧編 (學海堂叢刻本)	四	イ九	一〇八
聽松濤館詩鈔一一卷 唐・大 (清版) 清・阮文藻撰	一	イ九	一〇九
丁辛老屋集一二卷 唐・大 乾隆五二 清・王又曾撰	二	イ九	一一〇
適吾廬詩存 嘉慶二四 唐・大 清・臨瞻雲撰	四	イ九	一一一
鐵崖詩集三種二六卷 光緒一四 元・楊維楨撰・清・樓卜瀍註補刻 唐・大	六	イ九	一一三
鐵兜遺稿二卷・附錄一卷 明治三二 唐・大 河野維摺撰	三	イ九	一七三
鐵樞詩存三卷 明治三六 大江卓撰 唐・大	一	イ九	一七四
傳經堂詩鈔一二卷 唐・大 (清版) 清・韋謙恒撰	四	イ九	一一四
東洲艸堂詩鈔二七卷・詩餘一卷 同治六 唐・大 清・何紹基撰	六	イ九	一一五
唐女郎魚玄機詩 附・魚玄機事略等 唐・大 (清覆宋版)	一	イ九	一一六
投筆集 唐・大 (清版) 清・錢謙益撰	一	イ九	一一七
杜詩鏡銓二〇卷・首目各一卷・附錄一卷 唐・杜甫撰・清・楊倫編 唐中	一二	イ九	一一八
杜詩諺解 未完 唐・杜甫撰・森泰二郎解 和中 (新詩綜・附錄本)	一	イ九	一一九
敦拙堂詩集一三卷 乾隆六〇 唐・中 清・陳奉茲撰	六	イ九	一二〇
二知軒詩續鈔 唐・中 (清版) 清・方濬頤撰	四	イ九	一二一
二南詩續鈔二卷・補遺一卷 道光二九 唐・小 清・周樂撰	二	イ九	一二三
日本雜事詩二卷 光緒五 唐・小 清・黃遵憲撰 (飛園叢書本)	一	イ九	一二三
佩石齋詩鈔 明治三五 和・大 安國淡雲撰	一	イ九	一七五
梅莊詩鈔一六卷 同治九 唐・大 清・華長卿撰	四	イ九	一二四
梅潭詩鈔 明治三五 唐・大 杉浦誠撰	二	イ九	一七六
白雲詩集七卷・別集一卷 唐・大 清・盧存心撰	四	イ九	一二五
曝書亭詩箋注一二卷 唐・大 (清版) 清・朱彝尊撰・江浩然注	六	イ九	一二六
八指頭陀詩集一〇卷・附櫟文一卷 唐・大 (清版) 清・敬安撰	二	イ九	一二七
粊湖詩錄六卷 (有缺)・首一卷・附釣者風一卷 清・吳敏樹撰 唐・中 (清版)	四	イ九	一二八
晚晴軒詩鈔五卷 道光四 唐・大 清・蔣廷恩撰	四	イ九	一二九
晚晴樓詩鈔二卷 明治一九 和・中 土屋弘撰	一	イ九	一七七
半舫齋編年詩二〇卷・目一卷 唐・大 (清版) 清・夏之蓉撰	四	イ九	一三〇
湄湖吟集一一卷・附遺文一卷 唐・大 (清版) 清・杜漪撰	四	イ九	一三一
復初齋詩集二〇卷 唐・大 (清版) 清・翁方綱撰	四	イ九	一三三

芙蓉山館詩鈔 六卷 清・楊芳燦撰 唐・大（清版）	一	イ九	一二四	一七
餅水齋詩集 一七卷・別集二卷・詩話一卷 清・舒位撰 光緒一二 唐・大	八	イ九	一三五	一九五
抱沖齋詩集 七一卷・附錄一卷・首一卷 清・斌良撰 道光二九 唐・大	一二	イ九	一三七	一九六
牧齋初學集詩註 二〇卷 清・錢謙益撰・錢曾註 唐・大（清版）	一二	イ九	一四〇	一九七
牧齋初學集詩註 二〇卷 清・錢謙益撰・錢曾註 明治一四 唐・大	一四	イ九	一四一	一九八
牧齋有學集詩註 一四卷 清・錢謙益撰・錢曾註 明治一六 唐・大（清版）	一二	イ九	一四三	一九九
牧齋有學集詩註 一四卷 清・錢謙益撰・錢曾註 明治一六 唐・大	一二	イ九	一四五	二〇〇
梵潮餘響 附・明月雪時 久保田日龜撰 明治三四 和・中	一	イ九	一五六	二〇一
澹欲亭集 三二卷・後集一二卷 清・祁寯藻撰 唐・大（清版）	六	イ九	一四四	二〇二
妙吉祥堂詩鈔 六卷 清・溥知讓撰 嘉慶一四 唐・大	四	イ九	一四五	二〇三
妙香詩草 八卷 清・滿兆撰 道光二 唐・小	一	イ九	一四六	二〇四
味和堂詩集 六卷 唐・大 清・高其倬撰（清版）	二	イ九	一三三	二〇五
眠琴閣詩鈔 一二卷・續編三卷 清・呂廷燁撰 同治二 唐・大	六	イ九	一四七	二〇六
夢月巖詩集 二〇卷・附錄一卷 清・呂履恒撰 唐・大（清版）	六	イ九	一三六	二〇七
夢綠草堂詩鈔 一二卷・首末各一卷・續集二卷 清・蔡壽祺撰 咸豐七 唐・小	七	イ九	一三八	二〇八
夢樓詩集 二四卷 清・王文治撰 乾隆六〇 唐・大	四	イ九	一三九	二〇九
綿津山人集 二七卷・首一卷 清・宋犖撰 唐・大（清版）	四	イ九	一四八	二一〇
默庵遺集 八卷 清・馮舒撰 唐・大（清版）	一	イ九	一四九	二一一
又其次齋詩集 七卷 清・吳世涵撰 唐・大（清版）	四	イ九	一五〇	二一二

○

瀛奎律髓刊誤 四九卷 清・紀昀批點・李光垣編 唐・大（清版）	一二	イ九	一八一	二一三
永平詩存 二四卷 清・史夢蘭編 唐・中（清版）	六	イ九	一八二	二一四
越風 三〇卷・首一卷 清・商盤編 唐・大（清版）	一二	イ九	一八三	二一五
海雲禪藻集 清・徐作霖等編 道光一〇 重刊 唐・大	二	イ九	一八四	二一六
海東律詩 朝鮮寫本 和・大	一	イ九	二四九	二一七
亥白船山詩草合集 光緒七 重刊 唐・大	一〇	イ九	一七	吳會英才集 二四卷 唐・大 清・畢沅編（清版）
亥白詩草（清・張問安） 一—二 船山詩草（清・張問陶） 三—一〇				湖海詩傳 四六卷 唐・大 清・王昶編（清版）
樂府詩集 一〇〇卷・目二卷 同治一三 重刊 宋・郭茂倩編 唐・大	一六	イ九	一八五	湖海詩傳小傳 六卷 清・王昶撰 光緒四 唐・小
感舊集 一六卷 唐・大 清・王士禎編・盧見曾補傳（清版）	八	イ九	一八六	國初十大家詩鈔 七五卷 清・王相編 唐・大（清版）
篋衍集 一二卷 清・陳維崧編 唐・大	四	イ九	一八七	國朝畿輔詩傳 三八卷・首一卷 清・陶樑編 道光一九 唐・大
玉臺新詠箋註 一〇卷 清・吳兆宜撰（清版）	六	イ九	一八八	國朝杭郡詩輯 三二卷・續輯四六卷 清・吳顥編・吳振棫重編 同治一三至光緒二 重刊 唐・大
御選唐宋詩醇 四七卷・目二卷 清・高宗御編 唐・小（清版）	二〇	イ九	一八九	國朝山左詩鈔 六〇卷・目一卷 清・盧見曾編 唐・大（清版）
御定全唐詩錄 一〇〇卷・年表一卷・目一卷 清・徐倬編・徐元正校 唐・中（清版）	二四	イ九	一九〇	國朝三槎存雅 二卷・補選二卷 清・甘受和編 光緒九 唐・中
今詩所見集選 一五卷 清・黃承增輯 唐・大（清版）	八	イ九	一九一	國朝詩鐸 二六卷・首一卷 清・張應昌編 同治八 唐・大
近人詩錄 清・陳詩編 光緒二九 唐・大	一	イ九	一九二	國朝詩別裁集 三二卷・補遺四卷 清・沈德潛纂評 光緒九 唐・小
今世名家詩鈔 池田觀編 明治一二 和・中	三	イ九	二四四	國朝松陵詩徵 二〇卷・首一卷 清・袁景輅編 唐・大（清版）
欽定國朝詩別裁集 三二卷 清・沈德潛纂評 唐・大（清版）	一六	イ九	一九三	國朝全閩詩錄 初集二一卷・同續一一卷 清・鄭杰編 嘉慶五 唐・中
庚寅讌集三編 清・孫點編 光緒一六 唐・大	三	イ九	二五一	國朝滄州詩鈔 一二卷 清・王國均編 唐・大（清版）
弘正四傑詩集 七三卷 清・張雨珊編刊 光緒二一 唐・大	一六	イ九	一九四	國朝中州詩鈔 三二卷 清・楊淮編 唐・大（清版）
李空同詩集（明・李夢陽） 一—一六 何大復詩集（明・何景明） 七—一〇				國朝武定詩鈔 一二卷・補鈔二卷 清・李衍孫編 唐・中（清版）
邊華泉詩集（明・邊貢） 二—一四 徐迪功詩集（明・徐禎卿） 一五				國朝歷下詩鈔 清・王鍾霖編 光緒四 唐・大
重選徐迪功外集（同上） 一六				國朝六家詩鈔 八卷 清・劉執玉編 乾隆三一 唐・大
江西詩徵 九四卷・補遺一卷・附刻一卷 清・曾燠編 光緒五 重刊 唐・大	四八	イ九	一九五	湖山樓詩屏風 第一・二集 橫山卷編 嘉永元・五 和・中
江浙十二家詩選 二四卷 清・王鳴盛編 乾隆三〇 唐・大	六	イ九	一九六	古詩源 一四卷 清・沈德潛編 唐・大（清版）
江蘇詩徵 一八三卷・目一卷 清・王豫編 唐・大（清版）	四〇	イ九	一九七	

古詩選 三二卷 清・王士禎編 同治七 重刊 唐・大
五名家近體詩 一六卷 清・王覩編 唐・大 (清版)
崑崙集 一卷・續一卷・附一卷 清・葉德輝編 光緒二五 唐・大
三岳莊唱和編 金井之恭編 明治三七 唐・中
三籟集 附・乩筆 隆琦編 萬治三 和・大
七子詩選 一四卷 清・沈德潛編 唐・大 (清版)
十種唐詩選 附・唐賢三昧集 清・王士禎刪纂 唐・大 (清版)
重訂唐詩別裁集 二〇卷 清・沈德潛編 唐・小 (清版)
師友風義錄 三編 臺灣・鄭鵬雲編 (明治三六) 唐・小
章門萍約詩選 清・黃鳳題等撰 道光二 唐・中
新安先集 二〇卷 清・朱之榛編 同治一三 唐・大
清廿四家詩 中島一男編 明治一一 唐・大
津門詩鈔 三〇卷 清・梅成棟編 唐・大 (清版)
清六大家絕句鈔 二六卷 梁川孟緯編 (嘉永五) 和・中
絕句類選 卷一至九 津坂孝綽編 文政一一 和・小
浙西六家詩鈔 清・吳應和・馬洵編 道光七 唐・大
粧樓摘豔 清・錢三錫編 道光一三 唐・小
楚辭 一七卷・附楚辭音 漢・王逸章句 寬延三 和・大
苔岑集 二四卷・同附錄二卷・二集一〇卷・同附錄一卷 清・王鳴盛編 乾隆三一 唐・大 (清版)

冊	類	號	
一二	イ	九	二四
五	イ	九	二五
一	イ	九	二六
一	イ	九	二四六
一	イ	九	二七
六	イ	九	二九
六	イ	九	三〇
一	イ	九	二四七
一〇	イ	九	二八
一	イ	九	二五〇
一二	イ	九	三一
六	イ	九	二三二
三	イ	九	二三三
一〇	イ	九	二三四
一二	イ	九	二三五
一	イ	九	二三六
六	イ	九	二三七
四	イ	九	二三八
三	イ	九	二三九
八	イ	九	二四〇

中州集 一〇卷・首一卷・附中州樂府一卷 金・元好問編 唐・大 (汲古閣版)
唐詩品彙 九〇卷・拾遺一六卷・首一卷 明・高棅編 唐・大 (明版)
東武詩存 一〇卷 清・王賡言編 嘉慶二五 唐・大
佩文齋詠物詩選 初・二編 清・張玉書等原編・館機鈔錄 文政一・三至嘉永三 初・再版 和・小
冰泉唱和集 一卷・續和・再續和・附錄各一卷 清・金武祥編 唐・小 (清版) (粟香室叢書本)
扶桑驪唱集 清・葉煒編 光緒一七 唐・大
未開牡丹詩 山路濟編 (安政三) 和・中
明三十家詩選 二集一六卷 清・汪端編 同治一二 重刊 唐・大
明詩綜 一〇〇卷・首一卷 清・朱彝尊編 唐・大 (清版)
明詩別裁集 一二卷 清・沈德潛・周準編 唐・大 (清版)
明治三十八家絕句 額田正編 明治四 和・中
榕村詩選 八卷・首目各一卷 清・徐用錫編 雍正八 唐・大
兩浙輶軒錄 四〇卷・首一卷・補遺一〇卷 清・阮元校 光緒一六 重刻 唐・大
嶺南三大家詩選 二四卷 清・王隼編 唐・大 (清版)
嶺南四家詩鈔 六册 (內終册缺) 清・劉彬華編 唐・大 (清版)

冊	類	號	
八	イ	九	二五一
五	イ	九	二五三
二	イ	九	二五五

雨村詩話 一六卷 清・李調元撰 唐・小 (清版)
海山詩屋詩話 一〇卷 清・李文泰編 光緒四 唐・小
漁洋感舊集小傳 四卷 清・盧見曾撰 光緒四 唐・小

螢雪軒叢書 一〇卷 (內卷六缺) 近藤元粹評訂 明治二五至三〇 和・小
元詩紀事 二四卷 清・陳衍編 唐・大 (清版)
峴傭說詩 和・小
侯鯖集 一〇卷 清・李友棠集句 唐・大 (清版)
香石詩話 清・黃培芳撰 嘉慶一六 和・中
國朝詩人徵略 六〇卷・二編六四卷 清・張維屏編 唐・中 (清版)
射鷹樓詩話 二四卷 清・林昌彝編 咸豐元 唐・大
緝雅堂詩話 二卷 清・潘衍桐撰 光緒一七 唐・中
小石帆亭著錄 清・翁方綱撰 唐・大 (清版)
小滄浪詩話 四卷 清・張燮承撰 咸豐九 唐・中
養藥漫抄 二卷 清・葉煒撰 光緒一七 唐・大
詩律兆 一卷 中井積善撰 安永五 和・大
靜志居詩話 二四卷 (有缺) 清・朱彝尊撰 唐・大 (清版)
全閩詩話 一二卷 清・鄭方坤編 唐・中 (清版)
帶經堂詩話 三〇卷・首一卷 清・王士禎撰・張宗柟編 同治一二 重刊 唐・大
耐冷譚 一六卷 清・宋咸熙撰 唐・小 (清版)
唐詩金粉 一〇卷 清・沈炳震編 安永三 和・中
鳧亭詩話 清・陶元藻撰 唐・大 (清版)
別集摘要 古賀煜稿 和・中

冊	類	號	
九	イ	九	二五六
六	イ	九	二五七
一	イ	九	二五八
四	イ	九	二五九
四	イ	九	二六〇
一六	イ	九	二六二
八	イ	九	二六四
一	イ	九	二六三
二	イ	九	二六五
二	イ	九	二六六
一	イ	九	二六七
二	イ	九	二六八
一八	イ	九	二六九
一〇	イ	九	二七〇
一〇	イ	九	二七二
六	イ	九	二七四
二	イ	九	二七五
一	イ	九	六三六

明治詩話碎金 檜崎隆存編 明治一一 和・小
養一齋詩話 一〇卷・附李杜詩話三卷 清・潘德輿撰 唐・小 (清版)
蘭言詩鈔 清・李瑞撰・穆騰註 光緒一二 重刊 唐・小
柳亭詩話 三〇卷 (有補寫) 清・宋長白撰 唐・大 (清版)

◎

飴山文集 一二卷・附錄一卷 清・趙執信撰 乾隆三九 唐・大
怡志堂文初編 六卷 清・朱琦撰 同治三・四 唐・大
益壯圖記 第一册 清・黃璟撰 唐・大 (清版)
烟嶼樓文集 四〇卷・首一卷 清・徐時棟撰 光緒元 唐・大
袁文箋正 一六卷 清・石韞玉撰 光緒一四 唐・小
鮚埼亭集 三八卷・首目各一卷・經史問答一〇卷・外編五〇卷・同目一卷 清・全祖望撰 唐・中 (清版)
杏廬文鈔 八卷 清・諸福坤撰 唐・中 (清版)
玉芝堂文集 六卷 清・邵齊燾撰 光緒八 唐・小
御製文 初集三〇卷・目二卷・二集四二卷・目三卷 清・高宗御撰 唐・大 (清版)
顯志堂稿 一二卷 清・馮桂芬撰 光緒二 唐・大
三魚堂文集 一二卷・外集六卷・附錄一卷 清・陸隴其撰 康熙四〇 唐・大
思詁堂文稾 清・金衍宗撰 同治五 唐・大
集虛齋學古文 一二卷 清・方棨如撰 乾隆一九 唐・大
思綺堂文集 清・章藻功撰 唐・大 (清版)

冊	類	號	
四	イ	九	二七九
四	イ	九	二七六
四	イ	九	二七七
六	イ	九	二七八
四	イ	九	二八〇
二	イ	九	二八一
一	イ	九	二八三
八	イ	九	二八二
二	イ	九	二八四
三二	イ	九	二八五
三	イ	九	二八六
二	イ	九	二八七
四	イ	九	二八八
八	イ	九	二八九
一〇	イ	九	二九〇
四	イ	九	二九一
四	イ	九	二九二
一〇	イ	九	二九四

		冊	類	號
自娛集文藁一二卷	清・高蘭曾撰 道光二八 唐・小	四	イ九	二九五
小謨觴館文集四卷	清・彭兆蓀撰 光緒六 重刊 唐・小	二	イ九	二九六
清芬樓遺藁四卷	清・任啓運撰 光緒一四 唐・大	二	イ九	二九七
節齋遺稿	森田益撰 明治一五 和・大	二	イ九	三一三
潛研堂文集五〇卷・目一卷	清・錢大昕撰 唐・中 (清版)	一六	イ九	二九八
崇雅堂駢體文鈔四卷・首一卷	清・胡敬撰 光緒二五 唐・中	二	イ九	二九九
增訂袁文箋正四卷	清・魏大縉撰 唐・小 (清版)	一	イ九	三〇〇
息軒遺稿	安井衡撰 明治一一 和・中	四	イ九	三一四
存研樓文集初集一六卷	清・儲大文撰 光緒元 重刊 唐・大	八	イ九	三〇一
大雲山房文藁二集八卷・言事二卷	清・惲敬撰 嘉慶二〇 唐・大	八	イ九	三〇三
大雲山房文鈔	清・惲敬撰・鈴木魯鈔 明治一一 和・中	二	イ九	三〇二
湛園未定藁六卷(有補寫)	清・姜宸英撰 唐・大 (清版)	六	イ九	三〇四
忠雅堂文集一二卷・補遺二卷	清・蔣士銓撰 嘉慶二一 重刊 唐・大	六	イ九	三〇五
中洲文稿二集六卷	三島毅撰 明治三一至三三 和・中	六	イ九	三一五
陳檢討四六二〇卷	清・陳維崧撰・程師恭註 乾隆三五 唐・大	六	イ九	三〇六
復初齋文集三五卷・目一卷	清・翁方綱撰 唐・大 (清版)	八	イ九	三〇七
問字堂集六卷	清・孫星衍撰 光緒一〇 唐・大	二	イ九	三〇八
文貞公集一二卷	清・張玉書撰 乾隆五七 唐・大	六	イ九	三〇九
方望溪先生全集文集一六卷・集外文一〇卷・補遺二卷・年譜一卷・方苞撰・戴鈞衡編		一六	イ九	三一〇

墨花吟館輯志圖文詩附・海外疊絲等 清・嚴辰撰・沈瑞琳畫 光緒一六 唐・大 — 冊 一 類 イ九 號 三一一

茗柯文編四編五卷 清・張惠言撰 唐・小 (清版) — 四 イ九 三一二

猶存遺稿 片山重範撰 明治三一 和・大 — 一 イ九 三一六

○

湖海文傳七五卷・目一卷 清・王昶編 道光一七 唐・大 — 一六 イ九 三一七

國朝古文所見集一三卷 清・陳兆麟編 (天保一三) 唐・中 — 一 イ九 三一八

國朝常州駢體文錄三一卷・附結一宦駢體文 清・屠寄編 唐・大 (清版) — 八 イ九 三一九

國朝二十四家文鈔二四卷 清・徐斐然編 道光一〇 唐・小 — 一〇 イ九 三二〇

國朝駢體正宗評本一二卷・首一卷 清・姚燮撰 唐・小 (清版) — 六 イ九 三二一

古文辭類纂七四卷・首一卷 清・姚鼐編 唐・大 (清版) — 一二 イ九 三二二

山左古文鈔 清・李景嶧・劉鴻翱編 唐・大 (清版) — 八 イ九 三二四

湛園札記四卷 清・姜宸英撰 唐・小 (清版) — 一 イ九 三二三

續古文辭類纂三四卷・首一卷 清・王先謙編 唐・大 (清版) — 八 イ九 三二三

忠雅堂評選四六法海八卷・首一卷 清・蔣士銓評選 唐・大 — 八 イ九 三二六

唐宋八大家文讀本 清・呂葆中編・關機點 明治九 和・大 — 一〇 イ九 三二七

八家四六 清・吳熹鈔 唐・小 (清版) — 八 イ九 三二八

評本文章軌範七卷 賴襄講義・中村鼎五校編 明治一一 和・中 — 三 イ九 三二九

文海指針 川田剛評・小藥昌造・日下寬編 明治九 和・中 — 一 イ九 三三〇

絕海錄 中津撰 文化一二 和・大 — 三 イ九 三三一

文家金丹 清・魏禧撰・士屋弘編 明治一三 和・中 — 二 イ九 三三二

培遠堂手札節存 清・陳宏謀撰 同治一三 重刊 唐・大 — 三 イ九 三三三

賴古堂尺牘新鈔二選二六卷・三選一六卷・目各一卷 清・周在梁等鈔 唐・大 (清版) — 一六 イ九 三三四

麗體金膏八卷 清・馬俊良編 唐・小 (清版) — 八 イ九 三三五

◎

安雅堂集六種 清・宋琬撰 唐・大 (清版) — 一六 イ九 三三六

詒晉齋集八卷・後集一卷・隨筆一卷 清・成親王撰 唐・大 (清版) — 四 イ九 三三七

惟清齋全集文鈔八卷・詩鈔九卷・年譜二卷 清・鐵保撰 道光二 唐・大 — 一〇 イ九 三三八

印雪軒集詩鈔一六卷・文鈔三卷・附錄一卷 清・俞鴻漸撰 同治一三至光緒二 唐・大 — 三 イ九 三四〇

隱拙齋集詩集一二卷・文鈔六卷 清・沈廷芳撰 乾隆二二 唐・大 — 一〇 イ九 三四一

篁谷詩文集三二卷 清・查揆撰 道光一五 唐・大 — 一〇 イ九 三四二

淵雅堂全集詩二〇卷(有缺)・文二六卷(有缺)・外集七卷・續集三卷・附錄二種 清・王豈孫撰 唐・大 (清版) — 一五 イ九 三四三

煙霞萬古樓集文六卷・詩二卷 光緒二二 唐・小・清・王曇撰 (粵雅堂叢書本) — 四 イ九 三三九

學福齋集詩三七卷・首一卷・文二〇卷 清・沈大成撰 唐・大 (清版) — 一〇 イ九 三四四

花甲閒談一六卷 清・張維屏撰・槃夢草畫 光緒一〇 洋・小 — 四 イ九 三四五

何氏集二六卷 明・何景明撰 唐・大 (清版) — 四 イ九 三四六

看山閣集 清・黃圖珌撰 唐・中 (清版) — 五 イ九 三四七

寒支集二集一二卷 清・李世熊撰 道光二〇 重印 唐・中 — 一二 イ九 三四八

鑑止水齋集二〇卷・首一卷・附古奉軒詩鈔二卷 清・許宗彥撰 唐・大 (清版) — 八 イ九 三四九

瞰蕉全集文八卷・詩六卷・附喪禮詳考・周官隨筆 清・張義年撰 光緒一九 唐・大 — 六 イ九 三五〇

毅堂丙集 鶯津宣光撰 明治一三 唐・小 — 五 イ九 三五一

九谷集六卷 清・方殿元撰 唐・大 (清版) — 四 イ九 三五一

居易堂集二〇卷 清・徐枋撰 嘉慶一二 重刊 唐・大 — 九 イ九 三五三

唐堂集五〇卷・補遺二卷・續八卷・附冬錄一卷 清・黃之雋撰 唐・大 (清版) — 一二 イ九 三五四

御覽集 清・葉志詵撰 道光元 唐・大 — 五 イ九 三五五

瞿忠宣公集一〇卷 明・瞿式耜撰 光緒一三 重刊 唐・大 — 四 イ九 三五六

揅經室集四集四〇卷・外集五卷・續集一一卷・再續集六卷 清・阮元撰 唐・大 (清版) — 二四 イ九 三五七

兼濟堂集二〇卷 清・魏裔介撰 唐・大 (清版) — 一〇 イ九 三五八

壺園集七種二五卷 清・徐寶善撰 唐・大 (清版) — 一〇 イ九 三五九

湖海樓全集四集五〇卷・首一卷 清・陳維崧撰 光緒一七至一九 重刊 唐・中 — 二〇 イ九 三六〇

古歡堂集詩五卷・文三卷附黔書三卷・長河志籍考一〇卷・年譜一卷 清・田雯撰 唐・大 (清版) — 一二 イ九 三六一

國子先生全集文詩各一八卷・詞七卷・首一卷 清・金兆燕撰 嘉慶一二至道光二六 唐・大 — 一二 イ九 三六二

三松堂集詩二六卷・目二卷・文四卷・目一卷 清・潘奕雋撰 同治九至一一 重刊 唐・大 — 八 イ九 三六三

山帶閣集三卷・附錄一卷・目一卷 明・朱曰藩撰 唐・大 (明版) — 六 イ九 三六四

蠶尾集一〇卷・後集二卷 清・王士禛撰 唐・大 (清版) — 五 イ九 三六五

筠河集詩集二〇卷・目一卷・文集一六卷・首一卷 清・朱筠撰 唐・大 (清版) — 一六 イ九 三六六

施愚山先生全集文集二六卷・詩集二〇卷・文集七卷・別集四卷・附剩園詩集 清・施閏章撰 唐・大 (清版) — 二〇 イ九 三六七

春融堂集 六八卷・目一卷・年譜二卷・附禊記八種 清・王昶撰 光緒一八重修 唐・大	二〇	イ九	類 三六八	號
尚絅堂集 詩集五二卷・詞集二卷・駢體文二卷・制藝一卷・試帖二卷・律賦一卷 清・劉嗣綰撰 同治七・八重刊 唐・大	一四	イ九	三六九	
蕉堅藁 一卷・附錄一卷 中津撰・慧燕編 和・大	二	イ九	四二九	
小謨觴館全集 詩集八卷・續集二卷・附錄二卷・文集四卷・續集二卷 清・彭兆蓀撰 唐・大（清版）	六	イ九	三七〇	
匠門書屋文集 三〇卷・目一卷 清・張大受撰 唐・大（清版）	六	イ九	三七一	
逍遙遺稿 二編・附詠草・雜錄 中野重太郎撰 明治二八 和・中	二	イ九	四三〇	
初月樓四種 二五卷 清・吳德旋撰 光緒九 唐・小	八	イ九	三七二	
初月樓文鈔 一—一四	五—六			
初月樓詩鈔 七	八			
附・程子香文鈔（程德賚）	八			
沈歸愚詩文全集 清・沈德潛撰 唐・大（清版）	二四	イ九	三七三	
矢音集 一	說詩晬語 一			
八秩壽詩 二	九秩壽詩 二			
黃山遊草 二	台山遊草 二			
南巡詩 二	浙江通省志圖說 二			
歸田集 三	年譜 四			
歸愚詩鈔 五—九	歸愚詩鈔餘集 一〇—一二			
歸愚詩餘 一三	歸愚文鈔 一三—二四			
歸愚文鈔餘集 三—一四				
沈寄廬詩文集 文集一六卷・詩集六卷 清・沈寓撰 乾隆一九 唐・大	一〇	イ九	三七四	
遂初堂集 詩集一六卷・文集一二卷・別集四卷 清・潘耒撰 清・毛奇齡撰・汪晫等選評	一〇	イ九	三七五	
西河文選 一卷 唐・中（清版）	六	イ九	三七六	
帶經堂集 七編九二卷 清・王士禎撰 唐・大（清版）	三二	イ九	三八九	
太師誠意伯劉文成公集 二〇卷・首一卷 明・劉基撰 光緒元 重修 唐・大	一六	イ九	三九〇	
大梅山館集 詩問三四卷・駢體文二卷・賦影樓詞五卷 清・姚燮撰 唐・中（清版）	二四	イ九	三九一	
清吟堂全集 一二種 唐・大 清・高士奇撰（清版）	一二	イ九	三七七	
清吟堂集 一	經進文稾 二			
竹窻詞 三	蔬香詞 三			
隨輦集 三—四	隨輦續集 五			
苑西集 五—六	城北集 七—八			
扈從東巡日錄 八	扈從西巡日錄 九			
獨旦集 九—一〇	歸田集 一一—一三			
世澤堂遺稿 清・多羅果敏貝勒撰 光緒一五 唐・大	三	イ九	三七八	
西堂全集 一六種五五卷・附湘中草六卷 清・尤侗撰 唐・大（清版）	二四	イ九	三七九	
石笥山房集 文集六卷・補遺一卷・詩集三卷・補遺二卷・續補遺三卷・首一卷 清・胡天游撰 咸豐三 重刊 唐・大	一〇	イ九	三八〇	
錢南園先生遺集 五卷 清・錢澧撰 光緒一九 重刻 唐・中	四	イ九	三八一	
錢牧齋先生箋註杜工部集 二〇卷・首目各一卷・附錄一卷・年譜一卷 清・季振宜校 唐・大（清版）	八	イ九	三八二	
壯悔堂集 文集一〇卷・遺稿一卷・詩集六卷 清・侯方域撰 唐・大（清版）	二	イ九	三八三	
藏密齋集 二二卷 明・魏大中撰 唐・大（明版）	一二	イ九	三八四	
孫宇台集 四〇卷（有缺） 清・孫治撰 唐・大（清版）	五	イ九	三八五	
孫淵如先生全集 詩錄一〇卷・文集一二卷・附長離閣集一卷 清・孫星衍撰 光緒一一・一二 唐・大	一〇	イ九	三八六	
存悔齋集 二八卷・外集四卷 清・劉鳳誥撰 道光一〇 唐・大	八	イ九	三八七	
存素堂集 文藁五卷・詩藁一三卷 清・錢寶琛撰 唐・大（清版）	四	イ九	三八八	

託素齋詩文集 詩四卷・文六卷 唐・大（清版） 清・黎士弘撰	一〇	イ九	三九二	
天眞閣集 五四卷・外集六卷・附長眞閣集七卷 唐・大（清版） 清・孫原湘撰	一六	イ九	三九三	
銅鼓書堂遺藁 三二卷 唐・大 清・查禮撰	四	イ九	三九四	
道古堂集 文集四六卷・詩集二六卷 唐・大（清版） 清・杭世駿撰	一六	イ九	三九五	
道古堂全集 文集四八卷・詩集三六卷・集外文詩各一卷・軼事一卷 唐・大 清・杭世駿撰	一六	イ九	三九六	
讀書堂綵衣全集 四六卷・首一卷 光緒一九 唐・大 清・趙士麟撰	一二	イ九	三九七	
吞松閣集 四〇卷・目一卷 嘉慶二四 唐・中 清・鄒虎文撰	一二	イ九	三九八	
白華前稿 六〇卷・目一卷 唐・大（清版） 清・吳省欽撰	一〇	イ九	四〇〇	
白華後稿 四〇卷・目一卷・年譜一卷 唐・大（清版） 清・吳省欽撰	六	イ九	四〇一	
曝書亭集 八〇卷・附錄一卷・目一卷・附笛漁小藁一〇卷 光緒一五 唐・大 清・朱彝尊撰	一六	イ九	三九九	
板橋集 六編 唐・中（清版） 清・鄭燮撰	四	イ九	四〇二	
樊榭山房全集 一〇冊・附錄二冊 光緒一〇至一五 初・重刊 唐・大 清・厲鶚撰	一二	イ九	四〇四	
盤洲詩文集 文集六卷・詩集二卷 唐・大（清版） 清・周璠撰	四	イ九	四〇三	
晚聞居士遺集 九卷・首一卷 唐・大（清版） 清・王宗炎撰	六	イ九	四〇五	
頻羅庵遺集 一六卷 唐・大（清版） 清・梁同書撰	六	イ九	四〇六	
復堂類集 四集二六卷 唐・大（清版） 清・譚獻撰	八	イ九	四〇七	
變雅堂詩文集 一四卷・附錄一卷 同治九 唐・大 清・杜濬撰	八	イ九	四〇八	
變雅堂全集 六卷 唐・大（清版） 清・杜濬撰	五	イ九	四〇九	
寶綸堂集 一〇卷・拾遺一卷・首一卷 光緒一四 重刊 唐・大 清・陳洪綬撰	八	イ九	四一〇	
牧齋有學集 五一卷・目一卷 唐・大（清版） 清・錢謙益撰	一二	イ九	四一一	
穆堂初藁 五〇卷 唐・大（清版） 清・李紱撰	一六	イ九	四一三	
補瓢存稿 六卷 唐・大（清版） 清・韓騏撰	二	イ九	四一三	
鳴鶴堂集 文集一〇卷・詩集一一卷 光緒一五 重刊 唐・大 清・任源祥撰	六	イ九	四一四	
有懷堂文集 文藁二二卷・詩藁六卷 唐・大（清版） 清・韓菼撰	八	イ九	四一五	
有正味齋全集 詩集一六卷・續八卷・駢體文二四卷・續八卷・外集二卷・詞集八卷・續一卷・外集五卷 清・吳錫麒撰 唐・大（清版） 嘉慶二四 唐・大 清・任兆麟撰	二〇	イ九	四一六	
有竹居集 一六卷・首一卷 清・任兆麟撰	八	イ九	四一七	
養一齋集 文集二〇卷・詩集四卷 光緒四至八 初・重刊 唐・大 清・李兆洛撰	一〇	イ九	四一八	
畬經堂集 詩一五卷・文八卷 唐・大（清版） 清・朱景英撰	八	イ九	四一九	
賴古堂詩文全集 二四卷・目一卷 乾隆二二 重刊 唐・大 清・周亮工撰	八	イ九	四二〇	
樂志堂全集 詩一二卷・文一八卷・文續二卷 咸豐九・一〇 唐・大 清・譚瑩撰	一二	イ九	四二一	
樂善堂全集定本 三〇卷・目一卷・首末各一卷 唐・大（清版） 清・高宗御撰	四	イ九	四三三	
蘭韻堂集 詩一三卷・文六卷 乾隆五九至嘉慶二五 唐・大 清・沈初撰	八	イ九	四三五	
李義山詩文集詳註 一一卷・首二卷 唐・大（清版） 清・馮浩編	八	イ九	四三三	
李義山詩文全集箋註 一一卷・首一卷 唐・大（清版） 清・馮浩編	八	イ九	四二四	
立誠堂詩文存 二卷 明治一八 和・中 相馬肇撰	一	イ九	四三一	
臨野堂集 文集一〇卷・詩集三卷・詩餘三卷・尺牘三卷 唐・大（清版） 清・鈕琇撰	五	イ九	四二六	
嶺上白雲集 一二卷・附嵐翁文鈔四卷 光緒二三 唐・大 清・陸懋修撰	四	イ九	四二七	
棟亭集 詩集八卷・同別集四卷・詞鈔一卷・同別集一卷・文鈔一卷 清・曹寅撰 唐・大（清版）	八	イ九	四二八	

○

學海堂集 四集九〇卷 清・吳蘭修等編 道光五至光緒二二 唐・大 四八冊 イ九類 四三號

蜀秀集 九卷 光緒五 清・譚宗浚編 唐・大 八 イ 九 四三三

續古文苑 二〇卷 光緒九 清・孫星衍編 唐・大 六 イ 九 四三四

同人集 一二卷・首一卷 道光五 明・冒襄編 重刊 唐・中 一二 イ 九 四三五

寧都三魏全集 五九卷・首一卷・附刻二四卷 清・謝庭綬刊 道光二五 重刊 唐・大 五〇 イ 九 四三六

魏伯子文集（清・魏際瑞） 一—六 附・魏興士文集（清・魏世傑） 七

魏叔子文集（清・魏禧） 八—一七 魏叔子詩集（同上） 二八—二九

魏叔子日錄（同上） 三〇—三一 魏季子文集（清・魏禮） 三二—三三

附・魏昭士文集（清・魏世傚） 四四—四七 附・魏敬士文集（清・魏世儼） 四八—五〇

慕萊堂詩文徵存 九卷 唐・大 （清版） 四 イ 九 四三七

梁昭明文選六臣全註 六〇卷 汲古閣校 唐・大 （清版） 一六 イ 九 四三八

○

鍾情集 邯岡良卿編 明治三七 和・中 二 イ 九 四四〇

培風堂彙鑑集 一二卷 明・孫懋昭編 唐・大 四 イ 九 四三九

◎

近科分韻館詩二集 九卷 唐・小 清・王先謙原編 （清版） 四 イ 九 四四一

薰風協奏集 三卷・首一卷 唐・大 （清版） 清・王又曾編・莊鳳纂註 四 イ 九 四四二

庚辰集 五卷・附唐人試律說一卷 唐・中 （清版） 清・紀昀編 六 イ 九 四四三

國朝元魁墨萃 順治乙酉至光緒丙戌 光緒一三 唐・小 一二 イ 九 四四四

水滸後傳 四〇回 雁宕山樵原撰・森泰二郎編譯 明治二六至二八 和・小 一二 イ 九 四五〇

增補齊省堂儒林外史 六〇回 光緒一九 唐・小 三—四 增

陶齋誌果 八卷 清・鄒官應編 光緒二六 重刊 唐・大 七 陶

品花寶鑑 六〇回 清・陳森書撰 唐・小 九—一〇 品

埋憂集 一〇卷・續集二卷 清・朱翊清撰 唐・小 （清版） 一三 埋

妄妄錄 一二卷 清・朱海撰 道光二〇 唐・小 五 イ 九 四五一 妄

夜雨秋燈錄 三集一二卷 繪入 光緒二二 唐・小 清・宣鼎撰 六 イ 九 四五二 夜

夜譚隨錄 一二卷 清・闕齋撰 光緒一三 唐・小 二 イ 九 四五三 夜

聊齋志異詳註 清・蒲松齡撰・王士禛評・呂湛恩註 同治五 唐・小 一六 イ 九 四五四 聊

書畫金石

楹聯彙編 清・玉棠商編 光緒二四 唐・小 八 イ 九類 四五三號 楹

尾形流百圖 中野其明編 明治二五 再版 和・大 二 イ 九 四五四 尾

館本十七帖 巖谷修摹 明治一五 唐・大 一 イ 九 四五四 館

江邨銷夏錄 三卷 清・高士奇編 唐・大 （清版） 六 イ 九 四五五 江

國朝畫識 一七卷・附墨香居畫識一〇卷 清・馮金伯編 道光二一 增補 唐・小 一二 イ 九 四五六 國

金剛般若波羅蜜經 宋・張即之書 摹刻 康熙四 唐・大 一 イ 九 四五七 金

草書淵海 井田臥溪編 （延寶三） 和・大 二 イ 九 四五八 草

孫虔禮書譜 唐・孫過庭撰並書 唐・大 （清摹刻） 一〇 イ 九 四五九 孫

紅雪樓九種曲 一名藏園九種曲 唐・中 （清版） 清・蔣士銓撰

香祖樓 一—二 空谷香

桂林霜 五—六 一片石

第二碑 八 臨川夢

冬青樹 一一 雪中人

四絃秋 一三

紅樓夢傳奇 五六齣 清・紅豆邨樵撰 光緒三 唐・小

誦荻齋曲 二種 繪入 光緒二一 唐・小 清・徐鄂撰

梨花雪 一—一四 白頭新

長生殿傳奇 四卷 繪入 光緒一六 唐・小 清・洪昇撰

同 桃花扇傳奇 四〇齣 繪入 光緒二〇 唐・小 清・孔尙任撰

湯義仍先生邯鄲夢記 三〇齣 唐・中 （明版） 明・湯顯祖撰

湯義仍先生南柯夢記 四四齣 唐・中 （明版） 明・湯顯祖撰

◎

閱微草堂筆記 五種二四卷 唐・中 （清版） 清・紀昀撰・盛時彥刊

客窗閒話 八卷・續八卷 光緒元 唐・小 清・吳熾昌撰

今古奇聞 繪入 光緒二五 唐・小 清・酘園居士編

紅樓夢 一二〇回 繪入 光緒三 唐・小 清・王希廉評

綠牡丹全傳 繪像 光緒一八 六四回 唐・小 清・樂鈞撰

耳食錄 二編二〇卷 同治一〇 重刊 唐・小

段氏逑筆法 清・段玉裁撰・松田元修書（明治一一）唐・大 一冊 イ九類 四八九號

桐陰論畫 三卷・續一卷・畫訣一卷・二編・三編各二卷 清・秦祖永撰 同治三至光緒八 唐・小 八 イ九 四九〇

梅村壽筵圖錄 二卷・附壽筵生彩等 瓜生寅編 明治三六 唐・中 四 イ九 四九一

墨林今話 一八卷・續編一卷 清・蔣寶齡撰 同治一一 唐・小 六 イ九 四九二

蘭亭序 二種・附唐太宗皆少林寺・大唐王居士甄塔銘 晉・王羲之書 唐・大（清摹刻） 一 イ九 四九八

○

秦漢瓦當文字 一卷・續一卷 清・程敦撰 石印—光緒二〇 唐・大 三 イ九 四九六

篆學瑣著 三〇種 清・顧湘校刊 道光二〇 唐・中 八 イ九 四九七

論篆（唐・李陽氷） 一 五十六種書法（唐・韋續） 一

學古編（元・吾邱衍） 一 古今印史（明・徐官） 一

篆學指南（明・趙宧光） 二 印章集說（明・甘暘） 二

續學古編（明・何震） 二 印旨（明・程遠） 二

印經（明・朱簡） 二 印章要論（同上） 三

篆刻十三略（清・表三俊） 三 印章考（清・方以智編） 三

敦好堂論印（清・吳先聲） 三 說篆（清・許容） 三

印辨（清・高積厚） 三 印逃（同上） 三

印斐說（晴・徐堅） 三 六書緣起（清・孫光祖編） 三

古今印制（同上） 三 篆印發微（同上） 四

古印考略（清・夏一駒） 四 續三十五擧（清・桂馥） 四

再續三十五擧（同上） 四 重定續三十五擧（同上） 四

印說（清・陳鍊） 五 印言（同上） 五

論印絕句（清・吳騫編） 五 印學管見（清・馮承輝） 五

印人傳（清・周亮工） 六 續印人傳（清・汪啓淑） 七—八

兩漢金石記 二二卷 清・翁方綱撰 乾隆五四 唐・大 八 イ九 四九九

史傳地理

王先生十七史蒙求 一六卷 宋・王令撰・岡崎元軌句讀 文政八 和・大 四 イ九 五〇一

鷗堂日記 三卷 清・周星譽撰 光緒一二 唐・小 一 イ九 五〇二

鶴徵錄 八卷・後錄一二卷 清・李集輯・李富孫・李遇孫續輯 唐・大（清版） 六 イ九 五〇三

千八百六十年北支那戰爭記 三卷 英・スウィンホー記・箕作麟祥等譯（明治七） 和・小 一 イ九 五〇四

熙朝新語 一六卷 清・余金編 道光四 唐・中 六 イ九 五〇五

宜堂類編 二五卷 清・丁立中編 唐・中（清版） 八 イ九 五〇六

逆臣傳 四卷 唐・中（清版） 二 イ九 五〇七

金陵癸甲摭談 明治二 和・小 二 イ九 五〇八

國朝先正事略 六〇卷・目一卷 清・李元度編 同治五 唐・大 二四 イ九 五〇九

國朝先正事略續編 四卷 光緒二六 清・朱孔彰編 唐・小 四 イ九 五一〇

國朝兩浙科名錄 清・黃安綬編 咸豐七 唐・大 二 イ九 五一一

姑蘇名賢小記 二卷 明・文震孟撰 光緒九 唐・大 一 イ九 五一二

貳臣傳 一二卷 唐・中（清版） 六 イ九 五一四

貳臣傳 八卷 和・小 廣瀨謙校 八 イ九 五一五

支那教學史略 三卷 狩野良知撰 光緒二八 唐・小 一 イ九 五一六

十三日備嘗記 一卷・附事略附記一卷 清・曹晟撰 唐・小（清版） 一 イ九 五一三

昭代名人尺牘小傳 清・吳修編 唐・大（清版） 二 イ九 五一七

嘯亭雜錄 八卷・續錄二卷 清・愛新覺羅・昭槤撰 唐・小（清版） 一〇 イ九 五一八

小腆紀年附攷 二〇卷 清・徐鼒撰 光緒一二 唐・大 一二 イ九 五一九

進士題名碑錄 洪武至道光 唐・大（清版） 一二 イ九 五二〇

綏寇紀略 一二卷 清・吳偉業編 唐・大（清版） 八 イ九 五二一

聖武記 一四卷 清・魏源撰 光緒二四 唐・小 四 イ九 五二三

增訂史記評林 一三〇卷（有缺）・首二卷 大鄉穆・伊地知貞馨點 明治一四 和・大 二六 イ九 五二三

中東戰紀本末 米・林樂知撰・廣學會譯 光緒二二 唐・小 八 イ九 五二四

中日戰輯 六卷 外題中東戰紀本末 清・王炳耀編 光緒二二 和・小 四 イ九 五二五

東華錄 三二卷 清・蔣良騏撰（清版） 一六 イ九 五二六

讀史贅議 二卷（嘉永六） 齋藤馨撰 和・大 一 イ九 五二七

廿二史箚記 三六卷・補遺一卷 清・趙翼撰 文久元・二 和・中 一八 イ九 五二八

日本國志 四〇卷・首一卷 清・黃遵憲編 光緒二四 唐・小 一〇 イ九 五二九

瀋翰譜 一二卷・首二卷 新井君美撰 寫本 和・大 一三 イ九 五三〇

蓉山先生年譜 片山重範編 明治二三 和・中 一 イ九 五三一

標題徐狀元補注蒙求校本 岡白駒箋註・佐々木珏標疏 和・大 三 イ九 五三二

文獻徵存錄 清・錢林編 咸豐八 唐・大 一〇 イ九 五三三

滿漢名臣傳 滿四八卷・漢三二卷 唐・小（清版） 八〇 イ九 五三四

明季南略 一八卷 清・計六奇編 唐・大（清版） 一〇 イ九 五三五

明季稗史彙編 烈皇小識等一六種 掃葉山房刊 唐・中（清版） 一六 イ九 五三六

明季北略 二四卷 清・計六奇編 唐・大（清版） 一〇 イ九 五三七

歷史綱鑑補 三九卷・首一卷 明・袁黃編・鵜飼信之點 寬文三 和・大 二〇 イ九 五二八

郎潛紀聞 一四卷 清・陳康祺撰 光緒六 唐・大（舊雨草堂叢書本） 二 イ九 五三九

燕下鄉脞錄 一六卷 一名郎潛二筆 清・陳康祺撰 光緒一一（舊雨草堂叢書本） 五 イ九 五〇〇

○

瀛壖雜志 六卷 清・王韜撰（清版） 二 イ九 五〇〇

海島逸誌 六卷 清・王大海撰 嘉慶一一 唐・小 八 イ九 五〇四

各國時事類編 一八卷 清・沈純編 光緒二一 唐・小 四 イ九 五〇二

俄游彙編 八卷 清・繆祐孫編 光緒二四 唐・小 六 イ九 五〇三

凝香室鴻雪因緣圖記 三集 光緒一二 清・麟慶撰 唐・小 六 イ九 五〇五

航海述奇 四卷 清・張德明撰 唐・小（清版） 二 イ九 五〇四

湖山便覽 一二卷 清・翟灝・翟瀛編 光緒元 重刊 唐・小 六 イ九 五〇六

吳門畫舫錄 一二卷・續錄六卷 清・西溪山人編 嘉慶一九 唐・中 四 イ九 五〇七

棧雲峽雨日記并詩草 三卷・附錄一卷 竹添進一郎撰 明治一二 和・中 三 イ九 五〇八

使俄草 八卷 清・王之春撰 光緒二一 唐・小 六 イ九 五〇九

出使英法義比四國日記 六卷 清・薛福成編 光緒一八 唐・小 三 イ九 五一〇

出使美日祕崔日記 一六卷 光緒二〇 唐・大 一二 イ九 五一一

盛京通志 四八卷（有缺）・首一卷 清・王河等編 唐・大（乾隆版） 一〇 イ九 五一二

赤溪雜志 二卷・附覆城唱和集一卷 清・金武祥撰 光緒一七 唐・小（粟香室叢書本） 一 イ九 五一三

臺灣府噶瑪蘭廳志 八卷 清・陳友松編・姚瑩等訂 咸豐二 唐・大 八 イ九 五一四

談瀛錄 六卷 清・袁祖志撰 光緒一七 唐・小 二冊 イ九類 五五號
淡水廳志 一六卷 同治一〇 唐・大 八 イ九 五五六
帝京歲時紀勝 末尾缺 唐・中 清・潘榮陛撰 四 イ九 五七
肥前風土記 荒木田久老校點 (寬政一二)和・大 一 イ九 五八一
揚州畫舫錄 一八卷 唐・中 繪入 清・李斗撰 (清版) 六 イ九 五八八
灘江雜記 一卷・附灘江游草一卷 光緒二三 唐・小 清・金武祥撰 一 イ九 五九九

叢書雜纂

甌北雜著 清・趙翼撰 唐・中 四 イ九 五三
蒼曝雜記 甌北詩話 一 二 皇朝武功紀盛 三—四
甌北全集 七種・附傳等 唐・中 (清版) 清・趙翼撰 六六 イ九 五六四
求是齋雜著 五種 唐・大 (清版) 清・彭崧毓撰 六 イ九 五六六
山中懷往詩 緬逃(附・緬甸風土詩) 一 三 雲南風土紀事詩 二
漁舟續談 六 漁舟記談 四—五
杭氏七種 清・杭世駿撰 咸豐元 重刊 唐・小 一 諸史然疑 一
石經考異 二—三 晉書補傳贊 三
兩漢蒙拾 四—五 續方言 五
交遊誤處 六
榕城詩話 六
香蘇山館全集 清・吳嵩梁撰 唐・大 (清版) 一—三 香蘇山館古體詩集 一—三 香蘇山館今體詩集 一二 イ九 五五九 四—六
春草堂二種 九卷 清・謝遂撰 光緒六 唐・小 六 イ九 五七三

香蘇山館文集 七
增修鷺湖書田志 八 聽香館叢錄 九
表忠錄 一〇 東鄉風土記 一〇
粵遊日記 一〇 香蘇草堂圖詠 一一
秦淮春泛圖詠 一一 拜梅圖詠 一一
廬山紀遊圖詠 一一 武夷紀遊圖詠 一一
蓮花博士圖詠 一一 鶴聽詩圖詠 一一
新田十憶圖詠 一三

洪北江先生遺集 卷一至八七・二一九至二二一・年譜一卷 清・洪亮吉撰・洪用懃校刊 唐・大 (清版) 三三冊 イ九類 五七〇號
卷施閣集 二—一五 更生齋集 一六—二七
附鮚軒詩 二六—二九 更生齋詩餘 三〇
擬兩晉南北史樂府 三一 唐宋小樂府 三一
北江詩話 三二 遺戍伊犁日記 三三
天山客話 三三 外家紀聞 三三

左海全集 一〇種 唐・大 (清版) 清・陳壽祺撰 二四 イ九 五七一
左海文集 一—八 絳跗草堂詩集 九—一〇
左海文集乙編 一一—一三 五經異義疏證 一三—一五
左海經辨 一六—一八 尚書大傳定本 一九—二〇
洪範五行傳 二一—二三 東越儒林後傳 二三
東越文苑傳 二三 東觀存稾 二四

趣園八種 清・蔡丕撰 光緒一八 唐・小 六 イ九 五七二
趣園紀事 一 趣園稽古 一
趣園詩話 二—三 趣園志異 二—三
趣園問答篇 四 趣園見聞錄 四
趣園蓬蕨吟 五 趣園益智集 五

書畫所見錄 一—二 金玉瑣碎 二
雨牕寄所記 四—六

惜抱軒全集 一四種 同治五 重刊 唐・大 一六 イ九 五七六
惜抱軒文集 一—三 惜抱軒文後集 四—五
惜抱軒詩集 六—七 惜抱軒詩後集 八
惜抱軒外集 八 惜抱軒法帖題跋 八
左傳補注 八 公羊傳補注 八
國語補註 八 穀梁傳補注 八
惜抱軒筆記 九—一〇 惜抱軒九經說 一二—一三
五言今體詩鈔 一四—一五 七言今體詩鈔 一六

曾文正公全集 一八〇卷・附錄二種・首一冊 清・曾國藩撰 光緒一四 唐・小 五四 イ九 五七九
曾文正公奏稿 一—一〇 十八家詩鈔 二一—二三
經史百家雜鈔 二一—二六 經史百家簡編 元
鳴原堂論文 三〇 曾文正公詩集 三〇
曾文正公文集 三一—三三 曾文正公書札 三三—三四
曾文正公批牘 四一—四三 曾文正公雜著 四四
求闕齋讀書錄 四四—四五 求闕齋日記類鈔 四六
曾文正公年譜(清・黎庶昌編) 四七—四八 孟子要略 四八
曾文正公家書 四九—五二 曾文正公家訓 五三
曾文正公榮哀錄 五三 曾文正公大事記(清・王定安) 五四

亭林遺書 二三種・附錄三種 清・顧炎武撰・席威・朱記榮編 光緒一四 唐・大 二〇 イ九 五八〇
陸雲士雜著 四種 唐・大 (清版) 清・陸次雲撰 八 イ九 五八一
八紘譯史 一—三 澄江集 四
北墅緒言 五—七 玉山詞 八
附・湖嬌雜紀 八

鹿洲全集 七種四二卷 同治四 重刊 唐・小 清・藍鼎元撰 二〇 イ九 五八四
鹿洲初集 一—一〇 鹿洲公案 一
東征集 二—三 平臺紀略 一四
脩史試筆 一五—一六 棉陽學準 一七—一八
女學 一九—二〇

鹿洲全集 七種四一卷 唐・大 (清版) 清・藍鼎元撰 一八 イ九 五八五

〇

王香園叢書 第一集三種 (文政一一) 加藤淵編校 唐・中 二 イ九 五八二
二十四詩品(唐・司空圖) 一 雲溪友議(唐・范攄) 一
蓮坡詩話(清・查爲仁) 二
曾文正公家書 唐・大 (清版) 清・徐士愷輯訂

觀自得齋叢書 二三種・別集六種 清・袁枚編 唐・小 二四 イ九 五八五
巾箱小品 一三種 唐・小
隨園三十種 清・袁枚編 (清版) 八〇 イ九 五八四
西泠五布衣遺著 一四種 清・丁丙編刊 唐・大 (清版) 九 イ九 五八五
臨江鄉人詩(吳穎芳) 一 臨江鄉人集拾遺(同上) 二
硯林詩集(丁敬) 三 硯林集拾遺(附・三丁詩文拾遺)(同) 四
硯林印款(同上) 五 冬心先生集(金農) 五
冬心先生續集(同上) 六 冬心集拾遺(同上) 六
冬心先生三體詩(同上) 七 冬心先生自度曲(同上) 七
冬心先生雜著(同上) 七 冬心先生隨筆(同上) 八
柳洲遺稾(魏之琇) 八 冬花庵燼餘稾(奚岡) 九

說鈴 三七種・後集一六種 清・吳震方編 道光五 重刊 唐・小 三一 イ九 五七七
同 三二 イ九 五七八
藏說小萃 七種 明・李賈之編 光緒一四 唐・小 (粟香室叢書本) 一 イ九 五九六

公餘目錄（明・湯沐）　官遊紀聞（明・張誼）
水南翰記（明・張寀）　存餘堂詩話（明・朱承爵）
曖姝由筆（明・徐充）　延州筆記（明・唐覲）
戒庵漫筆（明・李詡）

冊 三 類 イ 九 號 二七一

稗話 抄錄一九種 朝鮮寫本 和・大

補閑集（高麗・崔滋）　一　鶴林玉露（宋・羅大經）　一
慵齋叢話（朝鮮・成俔）　一　青坡劇談（朝鮮・李陸）　一
破閑集（朝鮮・李仁老）　一　謏聞瑣錄（朝鮮・曹伸）　一
龍泉談寂記（朝鮮・金安老）　一　五山說林（朝鮮・車天輅）　二
霽湖詩話（朝鮮・梁慶遇）　二　詩人玉屑（朝鮮・黃玉林）　二
山中獨語（朝鮮・申欽）　二　秇苑詩話（朝鮮・李再榮）　二
海東野言　二　天中記　二
晴窗軟談（朝鮮・申欽）　三　思齋摭言（朝鮮・金正國）　三
松溪漫錄（朝鮮・權應仁）　三　稗官雜記（朝鮮・魚叔權）　三
芝峰類說（朝鮮・李睟光）　三

靈鵲閣叢書 六集（有缺） 清・江標編　三九　イ 九　五八一
唐・中（清版）

黎氏一家稿 一四種 唐・大　一〇　イ 九　五八三

夢餘筆談（清・黎安理）　一　長山公自書年譜（同上）　一
石頭山人遺稿（清・黎愷）　一　慕耕草堂詩鈔（清・黎庶蕃）　二
琴洲詞（同上）　二　椒園詩鈔（清・黎庶蕃）　三—四
雪鴻詞（同上）　四　蛉石齋詩鈔（清・黎恂）　五
千家詩注（清・黎恂編）　六　侍雪堂詩鈔（清・黎兆勳）　七—八
蓉煙亭詞（同上）　八　青田山廬詩鈔（清・莫庭芝）　九
青田山廬詞鈔（同上）　九　丁亥入都紀程（清・黎庶昌）　一〇

◎

因樹屋書影 一〇卷 清・周亮工撰　六　イ 九　五八六
雍正三 重刻 唐・大

萬國公法 四卷 米・惠頓撰・丁韙良漢譯　四　イ 九　六〇七
慶應元 和・大

百二漢鏡齋祕書四種 清・程芝雲校　六　イ 九　六〇八
唐・中（清版）

火珠林　一　靈棋經　二
祕授命理須知滴天髓　三　測字祕牒　四

○

韻府一隅 一六卷 清・顏懋功編・渡邊祖・中井豐民校　二　イ 九　六一七
（文化一〇至文政一二） 和・大

淵鑑類函 四五〇卷・目四卷 清・張英等編　一〇〇　イ 九　六一八
唐・中（清版）

天部　二十五　歲時部　六—一〇
地部　一一—一八　帝王部　一九—二七
后妃部　二八—二九　儲宮部　二九
帝戚部　三〇　設官部　三一—三六
封爵部　五七—五八　政術部　五九—七三
禮儀部　七三—八五　樂部　八五—八八
文學部　八九—九六　武功部　九六—一〇六
邊塞部　一〇六—一一一　人部　一一二—一二三
釋教部　一二三—一二四　道部　一二四—一二六
靈異部　一二六—一四七　方術部　一四七—一五一
巧藝部　一四八—一五一　京邑部　一五一—一五三
洲郡部　一五二—一五五　居處部　一五五—一六一
產業部　一六一—一六三　火部　一六三
珍寶部　一六四—一六五　布帛部　一六五—一六六
儀飾部　一六六—一六七　服飾部　一六八—一七四
器物部　一七四—一七五　舟部　一七六
車部　一七六　食物部　一七七—一七九
五穀部　一七九—一八〇　藥部　一八〇
菜蔬部　一八〇　果部　一八一—一八三

兩般秋雨盦隨筆 八卷 清・梁紹壬編　四　イ 九　六〇七
唐・小（清版）

雜

首書 易經集註 宋・朱熹撰・松永昌易標註　一二　イ 九　六〇八
享保九 和・大

科名故實二書 逃閑一六卷・載筆二〇卷 清・法式善編　一二　イ 九　六一九
唐・大（清版）

諫止中東和議奏疏 香港書局刊 光緒二一 唐・小　四　イ 九　六一〇

魏武帝註孫子 三卷 岡白駒校 寶曆一四 和・大　一　イ 九　六一三

貢舉考略 明二卷・國朝四卷 清・黃崇蘭編　六　イ 九　六一二
光緒五 重刊 唐・中

國朝學案小識 一四卷・首末各一卷 清・唐鑑撰　一二　イ 九　六一四
光緒一〇 重刊 唐・中

國朝漢學師承記 八卷・附國朝宋學淵源記・附錄各一卷 清・江藩編　三　イ 九　六一五
光緒二一 唐・小

胡文忠公遺集 八六卷・首二卷 清・胡林翼撰・鄭敦謹・會國荃編　二四　イ 九　六一三
同治六 唐・中

詩經集註 宋・朱熹撰・松永昌易標註　八　イ 九　六〇九
寬政三 再刻 和・大

述學 六卷 清・汪中撰　二　イ 九　六一〇
同治八 重刊 唐・大

春秋左氏傳校本 三〇卷 秦鼎撰　一五　イ 九　六一一
明治四 三刻 和・大

測字祕訣 一名測字祕牒 唐・小（清版）　一　イ 九　六一六

中倭戰守始末記 四卷・附中俄交涉・中法交涉　四　イ 九　六一三
唐・小（清版）

天文本單經論語校勘記 清・葉德輝撰　一　イ 九　六一三
光緒二八 唐・大

東宮勸讀錄 一卷・附錄一卷 宋・楊萬里撰・天章校　二　イ 九　六一四
慶應四 和・大

東槎紀略 清・姚瑩撰　二　イ 九　六一五
唐・小（清版）

童蒙先習 朝鮮・朴世茂撰　一　イ 九　六一七
和・入（朝鮮本）

花部 一八三 草部 一八四—一八五
木部 一八五—一八七 鳥部 一八七—一九一
獸部 一九二—一九五 鱗介部 一九六—一九八
蟲豸部 一九八—二〇〇 目錄

欽定四庫全書簡明目錄 二〇卷 清・于敏中等撰 光緒二〇 唐・小 四冊 イ 九類 六三九號

欽定四庫全書總目提要 二〇〇卷・首目各一卷・附四庫未收書目提要五卷 清・紀昀等撰 光緒二〇 唐・小 二〇 イ 九 六三〇

康熙字典 四二卷 清・張玉書等撰 道光七 重刊 唐・小 三二 イ 九 六三一

攷正字彙 二卷 唐・小 (清版) 一 イ 九 六三二

書目答問 清・張之洞撰 唐・小 (清版) 二 イ 九 六三三

讀書敏求記 清・錢曾撰 唐・中 (清版) 四 イ 九 六三四

佩文韻府 一〇六卷 清・張玉書等編 明治一七 和・中 九四 イ 九 六三五

一二 下村文庫

哲學

五經 明・莊澤刊 弘治九 唐・大 八冊 イ 一類 一五號

五經大全 一〇九卷・首六卷 明・胡廣等撰 和・大 (明版) 五〇 イ 一三 一六

四書講義困勉錄 三七卷附錄一卷・續六卷 清・陸隴其撰 唐・大 (清版) 一二 イ 一三 一七

四書大全 三八卷 明・胡廣等撰 和・大 (官板) 二二 イ 一三 一八

四書大全 一八卷 明・胡廣等撰・周士顯校 唐・大 (明版) 一八 イ 一三 一九

四書徵 增訂 一二卷 明・王夢簡編 唐・大 (明版) 一〇 イ 一三 二〇

全唐詩話 六卷(內二卷缺) 明・胡震亨撰 唐・大 (明版) 一九卷・目一卷 明・張士俊編 一〇 イ 一三 二一

大備對宗 唐・中 (清版) 一〇 イ 一三 二二

太平廣記 五〇卷・內卷二二以前缺 宋・李昉等撰・明・許自昌校 唐・大 (明版) 三八 イ 一三 二三

唐詩解 五〇卷(內七卷補寫)・附里一卷・目一卷 明・唐汝詢選釋 唐・中 (明版) 二〇 イ 一三 二四

唐詩十集 彙編 釋 四卷・目七卷 明・唐汝詢原編・清・蔣漢紀增 康熙二九 唐・大 一七 イ 一三 二四

白沙子全集 九卷・首冊附錄各一卷 明・陳獻章撰 萬曆四〇 重刻 唐・大 一〇 イ 一三 二七

文苑彙雋 二四卷・目一卷 明・孫丕顯編 唐・大 (明版) 一八 イ 一三 二八

十三經註疏 三三四卷・附周易音義一卷 唐・大 (明版) 一三〇冊 イ 一類 二號

十三經注疏 新刻 三三卷・附孟子題辭解一卷 唐・孔穎達等撰・汲古閣刊 崇禎元至一二 唐・大 八七 イ 一三 三

春秋繁露註釋大全 諸大名家合訂 一七卷・首卷附錄各一卷 明・孫鑛評釋 唐・大 (明版) 一 イ 一三 三

性理大全 新刊 七〇卷・首一卷 明・胡廣等撰 嘉靖三二 唐・大 二〇 イ 一三 二五

錢子測語 明・錢琦撰 唐・大 (明版) 二 イ 一三 二六

善誘文 宋・陳錄編 和・大 (古活字版) 一 イ 一三 * 一四

六經圖 宋・楊甲撰 明代宋板摹刻 唐・大 六 イ 一三 二四

文學

夷堅志 新訂增補 五〇卷(有補寫)・目一卷 宋・洪邁撰・明・鍾惺增評 唐・大 (明版) 一三 イ 一三 四六

山中一夕話 七卷・新集七卷 一名閒卷一笑 明・李贄編・笑笑先生增訂 唐・大 (明版) 六 イ 一三 四七

紫薇詩話 宋・呂本中撰 唐・大 (全唐詩話ノ附錄) 一 イ 一三 四二

石倉十二代詩選 宋詩卷三二至六九 唐・大 (明版) 一〇 イ 一三 四一

全唐詩話 六卷(內二卷缺) 明・胡震亨撰 唐・大 (明版) 二 イ 一三 四三

大備對宗 唐・中 (清版) 一〇 イ 一三 四六

太平廣記 五〇卷・內卷二二以前缺 宋・李昉等撰・明・許自昌校 唐・大 (明版) 三八 イ 一三 四八

唐詩解 五〇卷(內七卷補寫)・僻里一卷・目一卷 明・唐汝詢選釋 唐・中 (明版) 二〇 イ 一三 四三

唐詩十集 彙編 釋 四卷・目七卷 明・唐汝詢原編・清・蔣漢紀增 康熙二九 唐・大 一七 イ 一三 四四

白沙子全集 九卷・首冊附錄各一卷 明・陳獻章撰 萬曆四〇 重刻 唐・大 一〇 イ 一三 四七

文苑彙雋 二四卷・目一卷 明・孫丕顯編 唐・大 (明版) 一八 イ 一三 四八

文稿 明・曹學佺撰 和・大 (朝鮮本) 一 イ 一三 一〇一

萬葉集代匠記 初稿本 契沖撰 寫本 和・大 三〇 イ 一三 三五

李氏續焚書 卷二至五 明・李贄撰 唐・大 (明版) 一 イ 一三 三九

李杜全集 四七卷 明・許自昌校 唐・大 (明版) 一六 イ 一三 四〇

列朝詩集 閏集六卷・乾集二卷・中集前編一卷・中集二卷・乙集八卷・丙集一六卷(有缺)・丁集一六卷(有補寫) 清・錢謙益編 唐・大 (清版) 四四 イ 一三 四五

歷史

魏書 二四卷(有補寫) 北齊・魏收撰・明・馮夢禎・黃汝良校 萬曆二四 唐・大 二四 イ 一三 五一

金史 一三五卷・目二卷 元・托克托等撰・明・張邦奇・江汝璧校 嘉靖八 唐・大 二〇 イ 一三 五三

元史 二一〇卷(有補寫)・目二卷 明・宋濂等撰 嘉靖一〇 唐・大 五〇 イ 一三 五三

後漢書 三〇卷・目一卷 宋・范曄・晉・司馬彪撰・明・吳勉學校 唐・大 (明版) 一二 イ 一三 五四

五代史記 七四卷(未尾闕) 一名五代史 宋・歐陽修撰・明・余有丁・周子義校 萬曆五 唐・大 六 イ 一三 五五

三國志 六五卷・目三卷 晉・陳壽撰・明・馮夢禎等校 萬曆二四 和・大 一三 イ 一三 五六

史記評林 一三〇卷・首目各一卷 明・凌稚隆編・李光縉補 唐・大 (明版重刊) 二四 イ 一三 五七

同 新註 資治通鑑 二九四卷・像附魏文歸誤二二卷 宋・司馬光編・元・胡三省音註・明・吳勉學校 唐・大 (頒賜) 一〇〇 イ 一三 五九

周書 五〇卷・目一卷 唐・令狐德棻等撰・明・趙用賢・余孟麟校 萬曆一六 唐・大 一〇 イ 一三 六一

晉書 一三〇卷・載記三〇卷缺・目一卷 唐・房玄齡等撰 唐・大 (明版) 三〇 イ 一三 六二

晉書 一三〇卷・目一卷・音義三卷 唐・房玄齡等撰・志村楨幹・荻生雙松校點 元祿一四—一五 和・大 五三 イ 一三 六三

隋書 八五卷・目一卷 唐・魏徵等撰・明・季道統校 萬曆二三 唐・大 二〇 イ 一三 六四

南史 八〇卷・目一卷 唐・李延壽撰・明・趙用賢・張一桂校 萬曆一七至一九 唐・大 二〇冊 イ一二 類七三
南齊書 五九卷・目一卷 梁・蕭子顯撰・明・趙用賢・張一桂校 萬曆一七 唐・大 一二 イ一二 七四
廿二史纂略 六卷 清・郭爽恒編 乾隆一四 唐・大 二 イ一二 七五
北史 一〇〇卷・目一卷 唐・李延壽撰・明・鄧以讚・劉應秋校 萬曆一九至二一 唐・大 四〇 イ一二 七六
北齊書 五〇卷・目一卷 唐・李百藥撰・明・趙用賢・張一桂校 萬曆一六 唐・大 一〇 イ一二 七七
明朝紀事本末 八〇卷・目一卷 清・谷應泰編 唐・大（清版） 四〇 イ一二 七八
遼史 一一六卷・目一卷 元・托克托等撰・明・張邦奇・江汝璧校 嘉靖八 唐・大 八 イ一二 七九
梁書 五六卷・有補寫・目一卷 唐・姚思廉撰・明・余有丁・周子義校 萬曆三 唐・大 九 イ一二 八〇

地理

雲南通志 一七卷 明・李元陽編（明版） 二四 イ一二 八五
河南通志 五〇卷 清・賈漢復等編（清順治版） 二四 イ一二 八六
廣西通志 四〇卷 清・吳興祚等編（清康熙版） 四〇 イ一二 八七
廣東通志 三〇卷・圖一卷 清・金光祖等編（清康熙版） 三二 イ一二 八八
貴州通志 三七卷 清・衛既齊等編（清康熙版） 二〇 イ一二 八九
畿輔通志 四六卷・首一卷 清・于成龍等編（清康熙版） 三二 イ一二 九〇
江西通志 一六二卷・首三卷 清・謝旻等編（清雍正版） 八〇 イ一二 九一
江南通志 七六卷 清・王新命等編（清康熙版） 四〇 イ一二 九二
湖廣通志 八〇卷・圖考一卷 清・徐國相等編（清康熙版） 四〇 イ一二 九三
山西通志 三二卷 清・穆爾賽等編（清康熙版） 三六 イ一二 九四
山東通志 六四卷 清・趙祥星等編（清康熙版） 二〇 イ一二 類七三
四川總志 三六卷・圖一卷 清・羅森等編（清康熙版） 四〇 イ一二 九六
十五通志全圖 寫本 和・大 一折 イ一二 八三
浙江通志 五〇卷・首一卷 清・施維翰等編（清康熙版） 四〇 イ一二 九七
陝西通志 三二卷・圖一卷 清・賈漢復等編（清康熙版） 五六 イ一二 九八
大明一統志 九〇卷・目一卷 明・李賢等撰（重刻明版） 二四 イ一二 八四
福建通志 六四卷 清・郭柏蔭等編（清康熙版） 四〇 イ一二 九九

雜

諧聲品字箋 缺本 清・虞德升撰 一三 イ一二 三三
勸戒全書 一二卷・（內卷五至七缺） 明・陳智錫編（明版） 八 イ一二 二九
康熙字典 一二集・附總目外五種 清・張玉書等撰 唐・中（清版） 四〇 イ一二 三三
古今源流至論 新刊鑒註決科 前後續集三〇卷・別集一〇卷（宋・黃履翁） 宋林師撰 萬曆一八 唐・中 四 イ一二 九
古今萬姓統譜 一四〇卷・目一卷・附帝王姓系六卷・氏族博攷一四卷 明・凌迪知編・龍御歌順點 延寶九・和・大 八一 イ一二 八一
古今祕苑 一五卷・續錄一三卷 墨磨主人編 唐・小（清版） 四 イ一二 一〇
古今法書苑 七六卷・目一卷 明・王世貞編・王乾昌校 寫本 和・大 四〇 イ一二＊ 四九
三才圖會 一〇六卷 明・王圻・王思義編 唐・大（明版） 八〇 イ一二 一
山堂肆考 五集二二八卷・補遺一二卷 明・彭大翼編・張幼學增 唐・大（明版） 六〇 イ一二 二
字彙 四集 清・性懷重訂 唐・小（清版） 四 イ一二 三四
事物紀原 一〇卷・目一卷（有補寫） 宋・高承撰・明・閻敬校 正統一二 唐・大 六 イ一二 三

徐氏筆精 八卷・目一卷 明・徐燉撰 唐・中（明版） 四 イ一三 一二
西河合集 一一七種 清・毛奇齡撰 唐・大（清版） 一三〇 イ一三 五
說郛 一二〇卷・續四卷・目各一卷 元・陶宗儀編・（續）清・陶珽編 唐・大（明版） 一六〇 イ一三＊ 六
太上感應篇經傳 唐・大（明版） 一 イ一三 三〇
檀几叢書 三集一〇二卷 清・王晫・張潮編（清版） 一六 イ一三 七
唐類函 二〇〇卷・目二卷 明・俞安期編・徐顯卿校 唐・大（明版） 八〇 イ一三 四
萬寶全書 採精便覽 三五卷 明・艾南英編（明版） 八 イ一三 一三
文獻通考 三四八卷（有補寫）・首目各一卷 宋・馬端臨撰 唐・大（明版） 五六 イ一三 一〇〇
文昌帝君陰騭文註 寧遠堂刊 唐・大 一 イ一三 三一
法苑珠林 一二〇卷 唐・道世撰 寬文九 和・大 六〇 イ一三 二七
寶顏堂祕笈 缺本 明・陳繼儒編 唐・大（明版） 一〇 イ一三 八

書說（明・莫是龍） 六 貴泉小品（明・田藝蘅） 六
觴政（明・袁宏道） 六 虎荅（明・陳繼儒） 七
吳社編（明・王穉登） 八 顧豐堂漫書（明・陸深） 八
金臺紀聞（同上） 八 長水日抄（明・陸樹聲） 八
寤言（明・同上） 八 陳眉公太平清話（明・陳繼儒） 九
宋局公謹雲煙過眼錄（宋・周密） 九 狂夫之言（續共）（明・陳繼儒） 一〇

法華經觀世音菩薩普門品疏鈔 八卷 清・續法編 唐・大（清版） 四 イ一三 二八
歷代編年考 一〇卷・首一卷 清・沈球編 人物 唐・中（清版） 八 イ一三 八二
琅邪代醉編 四〇卷・目一卷 明・張鼎思編・陳性學校 唐・中（明版） 二〇 イ一三 一三

一三 花房文庫

統計學

一般統計論 森數樹撰 大正九 洋・中 一冊 イ一三 類一
歐洲に於ける近世統計技術の二大進步 花房直三郎述 明治三 洋・小 一 イ一三 二
歐米各國ニ於ケル統計協會及エンゲル氏ノ統計 花房直三郎述 明治三一 洋・大 一 イ一三 三
協會網罟案ヲ記述シ併セテ我ガ東京統計協會 花房直三郎述 明治三一 洋・大 一 イ一三 三
統計學社ノ兩協會ニ望ム 花房直三郎述 明治三一 洋・大 一 イ一三 三
同 第一回岡山縣統計事務效績者選奬 同縣刊（大正二） 洋・中 一 イ一三 五
岡山縣統計事務ノ概要 同縣知事官房編（謄寫版） 明治四三 和・中 一 イ一三 六
各國統計機關の概要 國勢院第一部譯 大正九 洋・中 一 イ一三 七

各稅務監督局統計主任會議筆記	同決議錄附・明治三六年五月	洋・中	二冊	イ一三	八
各稅務管理局統計委員長會議筆記	神戸稅務管理局編 (明治三五)	洋・中	一	イ一三	九
記述提要	臺灣總督府編寫本	和・大	一	イ一三	一〇
教育家と統計の關係	花房直三郎撰 明治三四	洋・中	一	イ一三	一一
同			一	イ一三	一二
教育統計學	寺田勇吉撰 明治三三	洋・小	一	イ一三	一三
行政統計	花房直三郎撰 明治三四	洋・大	一	イ一三	一四
同			一	イ一三	一五
京都府勸業統計樣式說明	川崎鎗秀撰 大正四	洋・中	一	イ一三	一六
京都府郡市町村現勢調査簿調製規程	樣式添 同府知事官房刊 明治四二 (京都府公報號外本)	洋・大	一	イ一三	一七
京都府人口統計報告例規	大正二	洋・中	一	イ一三	一八
京都府統計ノ機關及其ノ事業	明治四二年四月一日調 明治四二	洋・中	一	イ一三	一九
漁業生產調查規程	千葉縣刊 (大正二)	洋・中	一	イ一三	二〇
經濟統計學	米・スミス撰・吳文聰譯 明治三五	洋・中 (經濟學叢書本)	二	イ一三	二一
工場事業場調查制度參考	第一編 大正九 國勢院第二部編	洋・中	一	イ一三	二二
國勢院統計講習會講演錄	國勢院編 大正一〇	洋・中	一	イ一三	二三
統計一般 (高野岩三郎)			經濟學 (河津暹)		
財政學 (馬場鍈一)			家族制度 (穗積重遠)		
數理統計 (鹽田豐次朗)			農業統計 (橫井時敬)		
行政法 (島村他三郎)			經濟政策 (矢作榮藏)		

人口統計及社會問題 (財部靜治)		經濟統計 (藤本幸太郎)			
國勢調查 (松田泰二郎)					
國勢調查	臨時國勢調查局編 (大正八)	洋・中	一冊	イ一三類	二四號
國勢調查	臨時國勢調查局刊 大正九	洋・中	一	イ一三	二五
國勢調查建議に關する會議の速記	東京統計協會刊 (明治四三)	洋・大	一	イ一三	二六
國勢調查國費豫算		洋・大	一	イ一三	二七
國勢調查參考書	千八百九十五年十二月二日學蘭斯國人口調查執行に關する報告 (和譯) 外三篇 (明治四四)	洋・大	一	イ一三	二八
國勢調查參考書	明治三十五年法律第四十九號國勢調查に關する件外七項 臨時國勢調查局刊	洋・大	一	イ一三	二九
國勢調查參考書	其の三 ダヤック、ベルシィヨン博士職業分類 (千九百三年) 外二篇 臨時國勢調查局刊	洋・大	一	イ一三	三〇
同			一	イ一三	三一
國勢調查事務經過概要	一・二 臨時國勢調查局刊 (大正九・一〇)	洋・大	一	イ一三	三二
國勢調查申告書記入の栞	臨時國勢調查局編 大正九	洋・小	一	イ一三	三三
國勢調查ニ關スル法規類	臨時國勢調查局編 (大正八)	洋・中	一	イ一三	三四
國勢調查の實行を望む	橫山雅男撰 (明治三四)	洋・中	一	イ一三	三五
國勢調查評議會	同會刊 (大正九)	洋・中	一	イ一三	三六
國勢調查評議會經過概要	同會刊 (大正九)	洋・大	一	イ一三	三七
各國國勢調查法	高橋二郎撰 明治三六	洋・小	一	イ一三	三八
參照 國勢調查法	水科七三郎撰 明治三七	洋・中	一	イ一三	三九

國勢調查法	水科七三郎撰 明治三七	洋・中	一冊	イ一三類	四一號
國勢調查と其の他の統計調查	花房直三郎述	洋・大 (統計集誌抜刷本)	一	イ一三	四二
同			一	イ一三	四三
國勢調查と帝國議會	柳澤保惠撰 明治三八	洋・中	一	イ一三	四四
國勢調查ニ關スル官制竝職員錄	大正七年七月一日現在	和・中	一	イ一三	四五
國勢調查問題講話	財部靜治撰 大正九 再版	洋・小	一	イ一三	四六
國勢調查問題ニ關スル沿革摘要	(印字機印)	和・大	一	イ一三	四七
國勢調查要談	宮本基講述 明治四〇	洋・中	一	イ一三	四八
戶口調查用語	臨時臺灣戶口調查部編 明治三八	洋・小	一	イ一三	四九
小票式統計製表法	附錄改訂職業類別等 大正六	阪本敦撰 洋・中	一	イ一三	五〇
同			一	イ一三	五一
札幌區勢調查	高岡熊雄撰	洋・小	一	イ一三	五二
札幌區勢調查例規	(明治四一)	洋・小	一	イ一三	五三
死因統計ニ用ヰタル職業分類	吳文聰撰 大正三	洋・中	一	イ一三	五四
市勢調查談	柳澤保惠編 明治四一	洋・中	一	イ一三	五五
社會統計學	米・スミス撰 吳文聰譯 明治三三	洋・中 (早稻田叢書本)	一	イ一三	五六
社會統計學	米・スミス撰 吳文聰譯 明治三五	洋・中 (早稻田叢書本)	一	イ一三	五七
職業調查の必要	吳文聰撰	洋・中	一	イ一三	五八
職業調查類別法	農商務大臣官房摘譯 明治二八	洋・小	一	イ一三	五九
諸國統計官廳一瞥	國勢院編 (印字機印)	和・大	一	イ一三	六〇
所帶票記入心得		洋・小	一	イ一三	六一
人員運動調心得書及雛形草案	統計院第一課刊	洋・大	一	イ一三	六二
人口統計材料統計小票取扱手續竝同記入心得	內閣統計局刊 明治三一	洋・中	一	イ一三	六三
人口統計材料統計小票取扱手續竝同記入心得	明治三三年一一月改正	洋・中	一	イ一三	六四
同			一	イ一三	六五
人口統計材料統計小票取扱手續竝同記入心得	大正三年一一月改正 內閣統計局刊	洋・中	一	イ一三	六六
同			一	イ一三	六七
人口統計小票取扱手續竝同記入心得			一	イ一三	六八
同			一	イ一三	六九
人口統計大意	花房直三郎撰	洋・大 (統計集誌抜刷本)	一	イ一三	七〇
同			一	イ一三	七一
人口統計ノ方法及技術	花房直三郎講・岩間鐵也筆記 明治三三	洋・中	一	イ一三	七二
人口統計ノ方法及技術	花房直三郎講・岩間鐵也筆記	洋・大	一	イ一三	七三
人口動態統計調查手續	關三吉郎述 (明治三八)	洋・大	一	イ一三	七四
政治統計學講義	岡松參太講義 (明治三三)	洋・中	一	イ一三	七五
精神病者調查票記入參考	內閣統計局刊	洋・大	一	イ一三	七六
稅務統計臺帳樣式		洋・大	一	イ一三	七七
製表心得	明治三七	洋・小	一	イ一三	七八

續市統計所小觀	財部靜治撰 洋・中（經濟論叢抜刷本）	一	イ一三	類	七九	號
第一回國勢調査關係書類	（大正七至九） 和・大	三	イ一三		八〇	
第一回國勢調査宣傳官報廣告集	印刷局編 （大正九） 洋・大	一	イ一三		八一	
第二回東京市統計年報校閲ニ就テノ意見外一篇・附錄二編	柳澤保惠撰 洋・中	一	イ一三		八二	
臺灣戸口調査に就て	花房直三郎講 （明治三八） 洋・大	一	イ一三		八三	
同		一	イ一三		八四	
臺灣總督府報告例	明治三八年一月二〇日現行 洋・大	一	イ一三		八五	
高橋勝弘吳文聰兩氏功勞表彰に關する報告	（大正五） 洋・中	一	イ一三		八六	
地方機關の統計事務に對する一般の心得	花房直三郎講 （明治三九） 洋・大	一	イ一三		八七	
地方財政及其統計概說	花房直三郎述 洋・大（統計集誌抜刷本）	一	イ一三		八八	
同		一	イ一三		八九	
町村是調査綱要	横山雅男講述・巖手縣刊 明治四二 洋・中	一	イ一三		九〇	
日臺兩文通俗統計學大意	水科七三郎撰・林呈祿譯 明治四五 洋・小	一	イ一三		九一	
デモグラフイー	高橋二郎講述 岩間鐵也筆記 （明治三三） 洋・中	一	イ一三		九二	
千八百九十五年獨逸帝國職業調査	花房直三郎講 明治三七 洋・大	一	イ一三		九三	
同		一	イ一三		九四	
千八百九十五年獨逸帝國職業調査	花房直三郎講 明治三九 洋・大	一	イ一三		九五	
同		一	イ一三		九六	
東京市勢調査詳解	關三吉郎・村重俊槌撰 明治四一 洋・小	一	イ一三		九七	
東京市勢調査の沿革	柳澤保惠撰 明治四一 洋・中	一	イ一三	類	九八	號
東京市統計講習會講演集	第一・二回 統計の理論及方法（後藤市廳）外一七篇 同市役所編 大正六・七 洋・中	二	イ一三		九九	
東京統計協會定款並同施行細則	洋・中	二	イ一三		一〇〇	
統計學研究	高野岩三郎撰 大正四 洋・中	一	イ一三		一〇一	
統計學講義	（四卷二冊 內卷四缺）（明治三三） 統計學大意（杉亨二講）外八種 岩間鐵也筆記	三	イ一三		一〇二	
增補 統計學講義	橫山雅男講・河野四方作筆記 明治三三 洋・中	一	イ一三		一〇三	
統計學講義	宮本基講 洋・中	一	イ一三		一〇四	
統計學講義錄第一至三號	統計學會刊 明治三二・三三 洋・中	三	イ一三		一〇五	
統計協議會議事要領	農商務省總務局刊 明治三五 洋・中	一	イ一三		一〇六	
統計原論	佛・るづはすーる撰・高橋二郎譯 （明治三七） 洋・中	一	イ一三		一〇七	
統計講義	花房直三郎・高橋二郎講述・藤井藤藏筆記 明治四〇 再版 洋・中	一	イ一三		一〇八	
統計講習會報告第一至五回	（明治三二至三六） 同會刊	四	イ一三		一〇九	
統計講話	花房直三郎講 （明治三六） 洋・大	一	イ一三		一一〇	
同		一	イ一三		一一一	
統計講話	吳文聰・田中太郎述 明治三九 洋・中	一	イ一三		一一二	
統計講話摘要第一・二	吳氏 吳文聰撰 洋・中	二	イ一三		一一三	
同		二	イ一三		一一四	
統計講話筆記	花房直三郎講 洋・中	二	イ一三		一一五	
同		一	イ一三		一一六	
統計材料蒐集ノ難易	吳文聰撰・農商務省總務局刊 明治三七 洋・中	一	イ一三		一一八	
統計思想ニ就テ	橫山雅男講 （明治四五） 洋・中	一	イ一三		一一九	
統計集誌總目錄第一至一三六號	明治二六 洋・小 村山通定・青柢亮編（統計集誌附錄本）	一	イ一三		一二〇	
統計大意	高橋二郎述・山梨縣刊 明治三八 洋・中	一	イ一三		一二一	
統計大意講義錄	二階堂保則講・納谷直次郎速記 大正九 洋・中	一	イ一三		一二二	
增補 統計通論	橫山雅男撰 明治四四 二〇版 洋・中	一	イ一三		一二三	
統計之神髓	一名社會狀態學 獨・エンゲル撰・吳文聰譯 明治二七 洋・中	一	イ一三		一二四	
統計の大意及人口動態統計の効用	附・各國人口動態統計調査手續概要 相原重政述 （明治三八） 洋・大	一	イ一三		一二五	
統計の方法及技術	花房直三郎撰 洋・中	一	イ一三		一二六	
同		一	イ一三		一二七	
統計ノ理論及方法	附・統計ノ行政及組織 花房直三郎講義・清水仁吉筆記 明治三二 洋・中	一	イ一三		一二八	
同		一	イ一三		一二九	
統計の理論に就て	花房直三郎述 （明治三二） 和・大	一	イ一三		一三〇	
統計方法原論	描畫圖添 米・キング撰・水科七三郎譯 大正二 洋・中	一	イ一三		一三一	
統計理論	製表實務心得附 高橋二郎講・埼玉縣刊 明治四三 洋・中	一	イ一三		一三二	
內閣統計局臨時刊行書	明治三六至大正三 初・再版 和・大	三	イ一三		一三三	
統計講演筆記（三種）（花房直三郎講）	明治三十二年 日本帝國人口動態統計概說（吳文聰） 印刷局疾患調査ノ梗概（二階堂菊太郎）	一				
同		一				
農商務統計様式說明	吳文聰撰 （明治三六） 洋・中	一	イ一三		一三四	
農商務統計様式	農商務省訓令第一三號 農商務大臣官房刊 洋・中	一	イ一三		一三五	
同		一	イ一三		一三六	
農業生產調査規程	千葉縣刊 （大正二） 洋・中	一	イ一三		一三七	
農業生產調査手續	千葉縣刊 明治四三 洋・中	一	イ一三		一三八	
北米合衆國農作物收穫豫想報告手續	農商務大臣官房譯 明治四五 洋・中	一	イ一三		一三九	
農事及職業統計調査法講話筆記	高橋二郎講・千葉縣刊 明治四一 洋・中	一	イ一三		一四〇	
獨逸帝國農事統計ニ關スル重要調査概說	花房直三郎講 明治三七 洋・大	一	イ一三		一四一	
同		一	イ一三		一四二	
農商務統計様式說明	吳文聰撰 （明治三六） 洋・中	一	イ一三		一四三	
第三回統計家花房直三郎君演說筆記	東京統計協會刊 明治三〇 洋・小	一	イ一三		一四四	
同		一	イ一三		一四五	
統計材料蒐集ノ難易	吳文聰撰・農商務省總務局刊 明治三七 洋・中	一	イ一三		一二八	
統計思想ニ就テ	橫山雅男講 （明治四五） 洋・中	一	イ一三		一二九	
統計集誌總目錄第一至一三六號	明治二六 洋・小 村山通定・青柢亮編（統計集誌附錄本）	一	イ一三		一三〇	
統計大意	高橋二郎述・山梨縣刊 明治三八 洋・中	一	イ一三		一三一	
統計大意講義錄	二階堂保則講・納谷直次郎速記 大正九 洋・中	一	イ一三		一三二	
增補 統計通論	橫山雅男撰 明治四四 二〇版 洋・中	一	イ一三		一三三	
統計之神髓	一名社會狀態學 獨・エンゲル撰・吳文聰譯 明治二七 洋・中	一	イ一三		一三四	
統計の大意及人口動態統計の効用	附・各國人口動態統計調査手續概要 相原重政述 （明治三八） 洋・大	一	イ一三		一三五	
統計の方法及技術	花房直三郎撰 洋・中	一	イ一三		一三六	
同		一	イ一三		一三七	
統計ノ理論及方法	附・統計ノ行政及組織 花房直三郎講義・清水仁吉筆記 明治三二 洋・中	一	イ一三		一三八	
同		一	イ一三		一三九	
統計の理論に就て	花房直三郎述 （明治三二） 和・大	一	イ一三		一四〇	
統計方法原論	描畫圖添 米・キング撰・水科七三郎譯 大正二 洋・中	一	イ一三		一四一	
統計理論	製表實務心得附 高橋二郎講・埼玉縣刊 明治四三 洋・中	一	イ一三		一四二	
內閣統計局臨時刊行書	明治三六至大正三 初・再版 和・大	三	イ一三		一四三	
統計講演筆記（三種）（花房直三郎講）	明治三十二年 日本帝國人口動態統計概說（吳文聰） 印刷局疾患調査ノ梗概（二階堂菊太郎）	一				
同		一				

表紀提綱一名政表學論 明治七・小	南・ヒッセリング撰・津田眞道譯	一冊	イ一三	一四五	
府縣統計主任の職務に就て	花房直三郎述 明治三四・洋・大	一	イ一三	一四六	
同		一	イ一三	一四七	
北海道廳統計事務例規	其一至三 洋・中	三	イ一三	一五一	
三重縣統計講習會講義筆記	第二・三回 明治四一・四二 高橋二郎講 洋・中・小	二	イ一三	一五二	
宮本基氏ノ統計講話筆記	阿部丈治郎筆記 (明治四四) 洋・中	一	イ一三	一五三	
增訂 民數統計論	高橋二郎講 (明治三九) 洋・大	一	イ一三	一五四	
柳澤統計研究所報告	第一至三回 (大正四至七) 同所刊 洋・中	三	イ一三	一五五	
癩患者入院票及退院票竝其記入心得	洋・中	一	イ一三	一五六	
訂正 理論統計學	吳文聰撰 明治二八 洋・中	一	イ一三	一五七	
臨時戶口調查集計原表樣式	第三回臺灣總督府統計講習會刊 洋・大	一	イ一三	一五八	
第二臨時戶口調查諸法規 同	下 大正四 臺灣總督府官房刊 洋・小	一	イ一三	一五九	
第二臨時戶口調查ニ關スル注意事項追加 同	大正四 臺灣總督官房刊 洋・小	一	イ一三	一六一	
臨時臺灣戶口調查諸法規問答錄	臨時臺灣戶口調查部編 (明治三八) 洋・中	一	イ一三	一六〇	

一般統計

維新以後帝國統計材料彙纂	第一至四輯 大正二 內閣統計局編 洋・大	四	イ一三	一七三	
民有地ニ關スル統計材料	一 現住人口靜態ニ關スル統計材料 二				
刑事被告人ニ關スル統計材料	三 人口動態ニ關スル統計材料 四				
同		四	イ一三	一七四	
秋					

海外各國國勢要覽	內閣統計局編 明治二三 洋・中	一冊	イ一三	一九四	
袖珍世界年鑑	大正元年・第八至一〇回 大正元至六 伊東祐穀編 洋・小	四	イ一三	二〇〇	
政家年鑑	一八九〇至一八九二年 明治二三至二五 內閣統計局譯 洋・中	三	イ一三	二〇一	
世界年鑑	明治三八・三九・四一・四二年・第六回 伊東祐穀撰 明治三八至四四 洋・大	五	イ一三	二〇二	
統計年鑑	第一至四 統計院編 明治一五至一八 洋・大	四	イ一三	二〇三	
日本帝國統計年鑑	第五至三九 內閣統計局編 明治一九至大正一〇 洋・大 (統計年鑑第四二接ス)	三五	イ一三	二一〇 五一二九	
第三十三統計年鑑各科略解	其一至八 內閣統計局刊 和・大 (統計集誌拔刷本)	一	イ一三	二〇五	
日本帝國國勢一斑	第一七至二六回 (內第八・二三回缺) 內務大臣官房編 明治三一至大正八 洋・小	二〇	イ一三	一九三	
日本帝國統計全書	吳文聰等編 東京統計協會刊 明治三五 洋・大	一	イ一三	二三八	
同		一	イ一三	二三九	
日本帝國統計摘要	第二至三三回 內閣統計局編 明治二一至大正八 洋・大	三二	イ一三	二三〇	
萬國對照年鑑	英・マルホール原撰・統計院刊 明治一八 洋・小	一	イ一三	二三一	
同		一	イ一三	二三三	
列國國勢要覽	國勢院第一部編 大正一〇 洋・小	一	イ一三	一九五	

○

愛知縣勢要覽	同縣知事官房刊 大正六 洋・小	一折	イ一三	一六二	
青森縣統計書	大正四年 同縣知事官房編 大正五・六 洋・大	四	イ一三	一六三	
秋田縣々勢一斑	秋田縣廳刊 明治四一 洋・大	一	イ一三	一六四	
秋田縣統計要覽	(明治四一) 和・大	一帖	イ一三	一六六	
石川縣勢要覽	大正五年 同縣刊 大正七 洋・小	一	イ一三	一七〇	
石川縣統計書	明治三四至四四年 (內三・四至大正三年缺) 同縣編 明治三四至大正六 洋・大	二三	イ一三	一七一	
石川縣統計要覽	明治四三・四四年 同縣內務部編 大正元 洋・小	二	イ一三	一七二	
岩手縣勢要覽	明治三四年	一折	イ一三	一七五	
大分縣々治一斑	明治四〇年 同縣知事官房編 明治四二 洋・小	一	イ一三	一七六	
大分縣統計書	明治三六・三七・四〇年 同縣知事官房編 明治三九至四二 洋・大	三	イ一三	一七七	
岡山縣治一覽	明治三六・四二年 同縣知事官房編 明治三七・四三	二折	イ一三	一七八	
岡山縣治一覽表	同縣第一課編 明治一〇	一帖	イ一三	一七九	
岡山縣統計書	明治三五・三六・四二年 同縣知事官房編 明治三七至四四 洋・大	三	イ一三	一八〇	
鹿兒島縣勢要覽	大正五年 洋・小	一折	イ一三	一八一	
神奈川縣統計要覽	大正五年 同縣知事官房編 大正八 洋・小	一	イ一三	一八二	
關東都督府統計摘要	明治四三年 同都督官房編 (明治四五) 洋・大	一	イ一三	一八三	
京都市統計書	第四・五・九回 (明治四四・大正元・五) 大正元至七 洋・大 京都市役所編	三	イ一三	一八四	
京都府現勢一斑	明治四四・大正二年 同府內務部刊 明治四四・大正元・四 大正五	二折	イ一三	一八五	
京都府現勢一斑	同府編 大正四 洋・小	一	イ一三	一八六	
京都府治概覽	第一・二回 (明治三九・四〇) 明治四一・四二 洋・小 同府內務部編	二	イ一三	一八七	
京都府治要覽	大正二・三年 同府內務部編 大正三・五 洋・小	二	イ一三	一八八	
京都府統計書	明治三六至大正三年、(有缺) (同府內務部編) 明治三八至大正四 洋・大	三七	イ一三	一八九	
慶尙南道道勢要覽	慶尙南道廳編 明治四四 洋・大	一	イ一三	一九〇	
高知縣勢要覽	明治四〇年 同縣內務部刊 明治四一	一折	イ一三	一九一	
高知縣統計書	明治三四至四四年 同縣知事官房編 明治三七至大正元 洋・大	一二	イ一三	一九二	
滋賀縣治一斑	明治二三年 同縣內務部編 明治二四 洋・小	一	イ一三	一九六	
滋賀縣統計書	明治三〇年 同縣知事官房編 明治三二 洋・大	一	イ一三	一九七	
靜岡縣々治一斑	明治三六年 同縣知事官房編 明治三七 洋・小	一	イ一三	一九八	
靜岡縣統計書	明治三七年 同縣知事官房編 明治三九 洋・大	一	イ一三	一九九	
仙臺市統計一斑	同市役所編 明治三四 洋・小	一	イ一三	二〇三	
仙北郡町村豫算展覽會出陳參考圖表	秋田縣仙北郡役所刊 大正三 洋・大	一	イ一三	二〇四	
臺南廳統計書	第一・二(明治三五・三六) 明治三七・三八 洋・大 同廳編	二	イ一三	二〇六	
臺灣十年間之進步	臺灣總督官房編 明治三九 洋・大	一	イ一三	二〇七	
臺灣總督府統計書	第一至二二(明治三〇至大正七)(內第二・一〇缺) 同府民政部編 明治三二至大正九 洋・大	二〇	イ一三	二〇八	
臺灣統計摘要	第一至五・九・二至五(明治三六至大正八) 明治三九至大正一〇 洋・小 臺灣總督官房編	一〇	イ一三	二〇九	
臺灣統計摘要	第二至五(明治三九至四二) 洋・小 (臺灣總督官房編 臺灣統計協會雜誌臨時增刊本)	四	イ一三	二一〇	
臺灣統計要覽	大正三年 臺灣總督府編 大正五 洋・中	一	イ一三	二一一	
千葉縣統計書	明治三〇・三五年 同縣知事官房編 明治三二・三七 洋・大	三	イ一三	二一三	

朝鮮總督府統計要覽 第一次至大正二年 同府編 洋・小 冊 イ一三 類 二三 號
朝鮮總督府統計年報 第一至三次(明治三九至四一) 統監官房編 明治四〇至四三 洋・大 三 イ一三 二三 一三
朝鮮總督府統計年報 第四次至大正二年度(同府編 明治四四至大正四 洋・中 統監府統計年報第三次ニ接ス) 五 イ一三 二三 四—九
東京市勢提要 第八回 大正八 同市役所編 洋・小 一 イ一三 二四 一
東京市統計圖表 同市役所編 大正三 洋・大 一 イ一三 二四 一
東京市統計年報 第一至一六回(有缺) 同市役所編 明治三六至大正九 洋・中 一二 イ一三 二四 一二
東京府統計年報 明治三一・三三至三七・四一至四三 大正二・三年 同府内務部編 明治三三至大正五 洋・大 一七 イ一三 二四 一七
東京府府勢要覽 同府内務部編 明治三七 洋・小 一 イ一三 二四 一
德島縣治一斑 大正元年 同縣内務部編 大正三 洋・小 一 イ一三 二四 一
德島縣統計書 明治四二至大正二年 同縣内務部編 明治四四至大正四 洋・大 一一 イ一三 二四 一一
長野縣統計書 第二〇・二一(明治三五・三六) 同縣内務部編 明治三八・三九 洋・大 二 イ一三 二四 二
奈良縣統計書 明治三〇年 同縣知事官房編 明治三二 洋・大 一 イ一三 二四 一
新潟縣刈羽郡郡勢一斑 第一回 大正六 同郡役所編 洋・小 一 イ一三 二四 一
新潟縣佐渡郡郡勢一斑 第一至三回 同郡役所編 明治四四至大正三 洋・小 三 イ一三 二四 三
新潟縣佐渡郡勢一覽 同郡役所編 大正六 洋・小 折一 イ一三 二四 一折
兵庫縣縣治一斑 第一七回(大正二) 同縣知事官房編 大正四 洋・小 一 イ一三 二四 一
兵庫縣統計書 大正二年 同縣知事官房編 大正四 洋・大 二 イ一三 二四 二
福島縣統計書 第一七至二四(明治三二至三九)(有缺) 同縣内務部編 明治三三至四〇 洋・大 五 イ一三 二四 五
北海道勢一斑 明治三六年 北海道廳長官官房編 明治三八 洋・小 一 イ一三 二四 一

北海道廳統計書 第一四回(明治三五) 同廳内務部編 明治三七 洋・大 冊 イ一三 類 二三八 號
〔滿鐵〕附屬地ニ關スル諸表 滿鐵會社地方課刊 明治四四 洋・大 一 イ一三 二三六
三重縣治要覽 明治二七・三五至三七年 同縣内務部編 明治二九至三九 洋・小 四 イ一三 二三九
宮城縣縣治一斑 第一四回(明治三一) 同縣内務部編 明治三三 洋・小 一 イ一三 二四〇
宮城縣縣治要覽 宮城縣廳刊 明治四一 洋・中 一 イ一三 二四一
宮城縣統計書 明治三三至三六年 同縣内務部編 明治三四至三八 洋・大 四 イ一三 二四二
宮城縣統計要覽 (明治三四) 洋・大 一 イ一三 二四三
山梨縣統計書 明治三七年 同縣知事官房編 明治三九 洋・大 一 イ一三 二四四
橫濱市統計書 第一至一三回 同市役所編 明治三六至大正四 洋・大 一三 イ一三 二四五

各種統計

秋田縣學事統計書 明治三七年度 同縣第一部刊 明治三九 洋・大 一 イ一三 二四六
秋田縣米麥統計 明治三九年 同縣第一部編 明治四〇 洋・中 一 イ一三 二四七
巖手縣警察要覽 明治四四年 同警察部編 明治四五 洋・小 一折 イ一三 二五〇
衞生局年報 明治二九至三三年 同局刊 明治三三至三七 洋・大 五 イ一三 二五一
衞生統計ニ關スル繪畫圖竝統計表 說明附 內閣統計局刊 明治四四 洋・大 一 イ一三 二五二
同 一 イ一三 二五三
大藏省年報 第三八回(明治四四) 大藏大臣官房編 大正二 洋・大 一 イ一三 二五四
大阪府農工商統計年報 第三回(明治三) 同府内務部編 明治三四 洋・大 一 イ一三 二五五
歐米各國國庫歲出入金額陸海軍費出入貿易品元價概覽表 町田實一編 〔明治三二〕 洋・大 一 イ一三 二五六

岡山縣重要農產物一覽 明治四二年 同縣知事官房編 折 イ一三 二五七
岡山縣壯丁學力及體量檢查成績 明治四三年度 同縣知事官房編 洋・中 一 イ一三 二五八
外國產業統計 明治三三至三八年 農商務大臣官房抄譯 一 イ一三 二五九
家禽統計 大正元年 千葉縣知事官房編 大正元 洋・大 一 イ一三 二六〇
各種銀行行數竝資本金調查表 有樂會刊 (明治三六) 洋・大 一 イ一三 二六一
株式會社統計 第二次 農商務省商工局編 明治二八 洋・大 一 イ一三 二六二
爲替貯金局統計年報 第二三至二七回(大正三至六)大正七年度 同局編 大正三至九 洋・中・大 一〇 イ一三 二六三
韓國衞生一斑 內部衞生局刊 (隆熙三) 洋・中 一 イ一三 二六四
韓國財務統計要覽 隆熙二・三年度 度支部大臣官房編 洋・小 二 イ一三 二六五
官私設鐵道調查表 有樂會刊 (明治三六) 洋・大 一 イ一三 二六六
議員選擧有權者に關する統計上の觀察 相原重政譯 洋・大(統計集誌抜刷本) 一 イ一三 二六七
牛馬統計表 明治二八至三二年 農商務省總務局編 明治三四 洋・大 一 イ一三 二六八
敎育統計摘要 明治三六至三九・四四年度 文部大臣官房編 明治三八至大正二 洋・小 五 イ一三 二六九
第五回內國勸業博覽會出陳敎育統計表圖 文部省總務局編 明治三六 和・大 一 イ一三 二七〇
京都府財政一覽 附・各府縣稅徵收狀況 同府第一部編 (明治三九) 洋・大 一 イ一三 二七一
明治三十八年度以降京都府財政統計 前編 同府内務部編 大正六 洋・大 一 イ一三 二七二
漁業生產調查統計 大正二年 千葉縣知事官房編 大正三 洋・大 一 イ一三 二七三
年金恩給金融業者擔保貸付ニ關スル調查 爲替貯金局刊 大正四 洋・中 一 イ一三 二七四
金融事項參考書 明治四四・四五年各四月調 大藏省理財局編 明治四四・四五 洋・大 二 イ一三 二七五
國民所得の推定 フェルネル撰・相原重政譯 洋・大 一 イ一三 二七六
在監人の疾患に就て 二階堂保則述 洋・大(統計集誌抜刷本) 一 イ一三 二七九
區勢調查ニ現ハレシ札幌區民ノ讀書力 高岡熊雄 洋・中(經濟論叢抜刷本) 一 イ一三 四三二
明治四十年四月廿五日現在熊本市商工營業統計原表 同市役所編 明治四二 洋・大 一 イ一三 二八一
明治四十年四月二五日現在熊本市職業調查の結果 相原重政撰 明治四三再版 洋・中 一 イ一三 二八二
明治四十年四月二十五日現在熊本市職業統計 同市役所編 明治四一 洋・大 二 イ一三 二八三
桑畑段別及繭表 明治三一年 農商務大臣官房編 洋・大 一 イ一三 二八四
桑畑段別表 外二表 明治三三年 農商務大臣官房編 洋・大 一 イ一三 二八五
桑畑段別表 外一表 明治三三年 農商務省總務局編 明治三四 洋・大 一 イ一三 二八六
軍需工業動員ニ關スル工場事業場臨時調查諸表 內閣軍需局刊 大正九 洋・大 四 イ一三 二八七
警視廳一覽表 明治三二至大正四年(有缺) 同廳編 明治三三至大正五 枚一三 イ一三 二八八
警視廳統計書 明治三三至大正五年(有缺) 同廳編 明治三五至大正六 洋・中 一五 イ一三 二八九
鑛山統計便覽 第三至五 農商務省鑛山局編 明治二九至三一 洋・中・大 三 イ一三 二九一
鑛產表 明治四一年 農商務大臣官房編 明治四二 洋・大 一 イ一三 二九二
工場原動力竝職工人員調查表 有樂會刊 (明治三六) 洋・大 一 イ一三 二九三
工人ノ生計及榮養ニ關スル研究 稻葉良太郎・小泉親彥譯 洋・大(東京醫事會雜誌抜刷本) 明治四五 一 イ一三 二九四
高知大林區署統計書 明治四三・大正元年度第一編 同署編 (明治四三・大正二) 洋・大 二 イ一三 二九五
神戶港外國貿易概況 神戶稅關刊 明治四二 洋・大 一 イ一三 二九六
國民所得の推定 フェルネル撰・相原重政譯 洋・大 一 イ一三 四九
在監人の疾患に就て 二階堂保則述 洋・大(統計集誌抜刷本) 一 イ一三 二九九

全國土地人口及生産比較統計 附·地方別富力 明治四三 洋·大	千葉縣知事官房編	一	冊	イ一三	類	二〇〇	號
最近本邦生産統計 大正三 洋·大	相原重政撰	一		イ一三		二〇一	
細民調査統計表 明治四五 洋·大	內務省地方局刊	一		イ一三		二〇二	
産業消長概覽 明治二〇至四三年 明治四五 洋·中	農商務大臣官房編	一		イ一三		二〇三	
關東實業區一府七縣産業比較統計 明治三八 洋·中	千葉縣第三部編	一		イ一三		二〇四	
市町村及水利組合大勢比較圖 洋·大	內務省地方局編	一		イ一三		二〇五	
靜岡縣經濟統計 明治三六 洋·中	同縣知事官房編	二		イ一三		二〇六	
司法省監獄局統計年報 明治三四至三九 洋·大	同局編	六		イ一三		二〇七	
日本帝國司法省刑事統計年報 同省民刑局編	第二〇至二三回(明治三七至三二)(有缺) 明治三七至三四 洋·大	五		イ一三		二〇八	
日本帝國司法省登記統計年報 同省民刑局編	第八至一〇·三回 明治三七至三九·三二 明治三八至三四 洋·大	四		イ一三		二〇九	
日本帝國司法省民事統計年報 同省民刑局編	第二一至二四(明治三八至三二) 明治三八至四三 洋·大	四		イ一三		二一〇	
主稅局統計年報書 明治三八 洋·大	第三回(明治三七年度) 大藏省主稅局編	一		イ一三		二一一	
食料米及一人平均分配量 洋·大	明治一一至四二年	二		イ一三		二一二	
壬申政表 上(明治六)	政表課編 和·小	一		イ一三	*	二一三	
住友別子鑛業所一覽 明治三九	明治三八年度 同所編	一	帖	イ一三		二一五	
稅務統計 第一回	度支部司稅局編	一		イ一三		二一六	
世界經濟發展の現況 洋·中	澳·ステル子ッゲ撰·高橋二郎譯	一		イ一三		二一七	
全國工場統計表 明治三二年 明治三五 洋·大	農商務省商工局編	一		イ一三		二一八	
全國社債券明細表 大正元·四各年末現在 洋·大	日本興業銀行調查部編	二		イ一三		二一九	
全國鐵道營業統計表 明治三六年度 洋·小	(帝國鐵道協會會報附錄本)	一	折	イ一三		二二〇	
千葉縣産業要覽	同縣內務部編 明治四一 洋·小	一		イ一三		二二八	

全國土地人口及生産比較統計 附·地方別富力 明治四三 洋·大	千葉縣知事官房編	一		イ一三		二二一
專賣局年報 第二至七回(明治三三至大正三年度)(有缺) 明治三四至大正五 洋·大	同局編	一五		イ一三		二三三
造幣局長年報書 第六至四〇回 明治三三至大正三 洋·小	(明治三二至大正二年度) 同局編	一五		イ一三		二三三
大日本外國貿易 自明治元年至同廿五年	二十五年對照表 大藏省主稅局編 明治二六 洋·中	一		イ一三		二三四
大日本外國貿易年表 大正元·二年 洋·大	大藏省編	二		イ一三		二三五
大日本帝國文部省年報 第二三至四一 支部大臣官房編	(明治二八至大正二年度)(有缺) 明治三〇至大正四 洋·大	一三		イ一三		二三六
臺灣外國貿易概覽 明治三五年 洋·大	臺灣總督府民政部編	一		イ一三		二三七
臺灣外國貿易十五年對照表 明治二九至四三年 明治四四 洋·大	臺灣總督府編	一		イ一三		二三八
臺灣外國貿易年表 明治四二·大正元·五年 明治四三至大正六 洋·大	臺灣總督府編	三		イ一三		二三九
臺灣各種學校生徒及兒童發育統計 明治四三年四月調 官房編 大正二 洋·大	臺灣總督	一		イ一三		二四〇
臺灣金融事項參考書 第一至九次 明治三五至大正三 洋·大	臺灣銀行編	一		イ一三		二四一
臺灣諸開港外國貿易概覽 明治三二年·附臺灣內地間貿易景況 明治三二 洋·中	淡水殼關編	一		イ一三		二四二
臺灣之米作統計 明治四三 洋·大	臺灣總督府官房統計課編	一		イ一三		二四三
臺灣犯罪統計 明治四三至大正七年 明治四五至大正九 洋·大	臺灣總督府刊	二		イ一三		二四四
度支部統計年報 第一·二回(明治元·二年度)	度支部大臣官房編	二		イ一三		二四五
千葉縣學事年報 明治四三年度 洋·大	同縣編	一		イ一三		二四六
千葉縣勸業年報 第九至一二回(內第一〇回缺) 明治四三至大正三 洋·中	同縣內務部編	三		イ一三		二四七
[千葉縣]君津郡家畜調查ノ概要 明治四三年末 洋·大	千葉縣君津郡役所編	一		イ一三		二四八
千葉縣産業要覽	同縣內務部編 明治四一 洋·小	一		イ一三		二四九
統計年報 大正六年	木浦商業會議所編	一		イ一三		二五〇
大日本帝國內務省統計報告 第一〇至三回(有缺) 明治二八至大正七	內務大臣官房編 洋·大	一七		イ一三		二五一
長野縣警察統計表 明治四〇至四四年(有缺) 明治四一至大正元	同縣警察部編 洋·大	三		イ一三		二五二
自明治廿六年度 至明治廿五年度 長野縣市町村財政一覽	長野縣內務部刊 明治三七 洋·大	二		イ一三		二五三
日本財政總覽 第二版(國庫財政編裏之部) 明治四一	細川雄二郎編 洋·大	三		イ一三		二五四
日本財政年鑑 第二版(國庫一般會計之部) 明治四一	細川雄二郎編 洋·大	一		イ一三		二五五
日本政表 刑事裁判·陸海軍裁判·警察ノ部(第二號)(明治七) 調查局編 明治一〇		九		イ一三		二五六
日本政表 刑事裁判之部(第三號)(明治八) 明治一二		一八		イ一三		二五七
日本政表 陸軍海軍裁判之部(第三號)(明治八) 明治一二		一二		イ一三		二五八
日本政表 警察ノ部(第三·五號)(明治八·一〇) 明治一二·一三	調查局編 洋·大	一二		イ一三		二五九
日本政表 府縣稅及ヒ賦金ノ部(第三號)(明治八) 明治一二	調查局編 洋·大	一		イ一三		二六〇
日本帝國港灣統計 明治三九年·大正二年(有缺) 明治四二至大正二	內務省土木局編 洋·大	七		イ一三		二六一
日本統計通信 大正二年一二月號 大正三	苓北文庫刊 和·大	一		イ一三		二六二
日本府縣民費表 明治六至一〇年	政表課編 洋·大	五		イ一三		二六三
農業戶別調查結果表 明治四四年 大正二	千葉縣知事官房編 洋·大	一		イ一三		二六四
農業生產調查結果表 明治四四年米麥·食用及特用農產物竝果實統計	千葉縣知事官房編 明治四五·大正元 洋·大	二		イ一三		二六五
東京府學事統計書 明治四三年度 大正元	同府內務部編 洋·大	一		イ一三		二六六
東京府下懲役場盜賊調 明治九·一〇年 (明治一一)	調查局編 洋·中	一		イ一三		二六七
東京府工場統計書 大正三年 大正五	同府內務部編 洋·大	一		イ一三		二六八
東京市內通信業務概況 明治三六至四二年度	東京逓信管理局編 洋·小	一		イ一三		二六九
東京ニ於ケル二十職工家計調查	高野岩三郎撰 洋·中 (最近社會政策拔刷本)	一		イ一三		二七〇
東京市學事年報 第一六·一七回(大正四·五年度) 大正六·八	同市役所編 洋·大	二		イ一三		二七一
地方財政 明治三七	細川雄二郎編 洋·大	一		イ一三		二七二
地方稅勸業費豫算決定額表 明治三四·三五年度 明治三四·三五	農商務省總務局編 洋·大	二		イ一三		二七四
郵便爲替貯金郵便振替貯金地方別金融統計 明治四四年八月調 明治四五 和·大	郵便貯金局刊	二		イ一三		二七五
朝鮮總督府鐵道局年報 明治四三·四四年度 洋·大	同局編	二		イ一三		二七六
帝國鐵道廳統計圖表 明治四〇年度 明治四二	鐵道院刊 洋·大	二		イ一三		二七七
帝國鐵道廳年報 明治四〇年度 明治四二	鐵道院刊 洋·大	一		イ一三		二七八
遞信省年報 第九至三(明治七至元年度)(有缺) 明治二九至四一	同省總務局編 洋·大	九		イ一三		二七九
鐵道院統計圖表 明治四一至大正三年度 明治四三至大正五	同院刊 洋·大	一八		イ一三		二八〇
鐵道院年報 明治四一至大正三年度 明治四三至大正五	同院編 洋·大	一二		イ一三		二八一
鐵道局年報 明治四〇年度 明治四二	鐵道院刊 洋·大	一		イ一三		二八二
鐵道作業局年報 明治三〇·三一年度 明治三一·三二	同局編 洋·大	二		イ一三		二八三
鐵道統計圖表 明治三五·三九年度	洋·大	二		イ一三		二八四
東京市學事年報 第一六·一七回(大正四·五年度) 大正六·八	同市役所編 洋·大	二		イ一三		二八五
東京市內通信業務概況 明治三六至四二年度	東京逓信管理局編 洋·小	一		イ一三		二八六
東京ニ於ケル二十職工家計調查	高野岩三郎撰 洋·中 (最近社會政策拔刷本)	一		イ一三		二八七
東京府學事統計書 明治四三年度 大正元	同府內務部編 洋·大	一		イ一三		二八八
東京府下懲役場盜賊調 明治九·一〇年 (明治一一)	調查局編 洋·中	一		イ一三		二八九
東京府工場統計書 大正三年 大正五	同府內務部編 洋·大	一		イ一三		二九〇
統計上より觀たる我邦婦人の暗黑面	布川静湖撰 大正三 洋·中 (寸馬倫理講演集拔刷本)	一		イ一三		二九二
農會農事統計 明治三六至四四年 大正二	農商務省農務局編 洋·大 (農務彙纂本)	一		イ一三		二九六
農商務統計表 第三至三次(明治二六至大正三)(有缺)	農商務大臣官房編 明治三〇至大正五 洋·大	一四		イ一三		二九七
肺結核及胸膜炎ノ統計的調查	矢田部達編·陸軍省刊 明治四四 洋·中	一		イ一三		二九八

		冊	類	號
麥作表	明治三一至三六年 明治三一至三七 洋・大 農商務大臣官房編	六	イ一三	二七九
麥表	明治三七至四一年（內三九年缺） 明治三八至四二 洋・大 農商務大臣官房編	四	イ一三	二八〇
博覽會ニ關スル統計事項	警視總監官房編（明治四〇） 洋・大	一	イ一三	二八一
犯罪統計	明治三八・三九年臺灣總督府刊 明治四一（謄寫版） 洋・大	二	イ一三	二八二
自明治卅一年至明治四十年犯罪統計表	三重縣警察部編 明治四二 洋・大	一	イ一三	二八三
肥料ニ關スル調査書	農商務省農務局編 明治四三 洋・大（農務彙纂本）	一	イ一三	二八四
福島監獄統計通覽第一回	同監獄第一課編 明治四一 洋・小	一	イ一三	二八五
府縣稅勸業費豫算決定額表	農商務大臣官房編 明治三六至四一年度（有缺）（明治三六至四一年（洋大））	五	イ一三	二八六
府縣稅勸業費豫算表	農商務大臣官房編 明治四三至大正二年度（有缺）明治四二至大正二年 洋・大	四	イ一三	二八七
米作表	農商務大臣官房編 明治三一至三六年（有缺） 明治三二至三七年 洋・大	五	イ一三	二八八
米表	農商務大臣官房編 明治三七・三八年 明治三八・三九年 洋・大	二	イ一三	二八九
北海道利源調査書	橫山隆起撰 明治三九 洋・大	一	イ一三	二九〇
本邦生產統計の研究	相原重政撰 本邦森林の統計外七篇（統計集誌拔刷本） 和・大	一	イ一三	二九一
繭及蠶絲類統計表	農商務省總務局編 明治三四至三八年 明治三五至三九 洋・大	五	イ一三	二九二
繭蠶絲及桑畑統計表	農商務大臣官房編 明治四〇・四一年 明治四〇・四一 洋・大	二	イ一三	二九三
繭蠶絲及桑畑表	農商務大臣官房編 明治四一年 明治四二 洋・大	一	イ一三	二九四
繭蠶絲及桑畑表	洋・大（農商務統計表拔刷本） 明治四一年	一	イ一三	二九五
宮城縣勸業統計	同縣內務部編 明治三三年 明治三五 洋・大	一	イ一三	二九八
宮城縣產業統計一覽	同縣知事官房編 明治四一年	一折	イ一三	二九九

		冊	類	號
宮城縣第二回民有地統計調查報告	同縣知事官房編 明治四一 洋・大（宮城縣報號外本）	三	イ一三	四〇〇
宮城縣民有地統計調查報告	第一至四回 同縣內務部編 明治三四 洋・大（宮城縣報附錄本）	四	イ一三	四〇一
麥ニ關スル調查	附錄麥食ニ關スル參考資料 農商務省農務局編 明治四三 洋・大（農務彙纂本）	一	イ一三	四〇二
明治三十七年ノ賃金ニ及ホセシ戰爭ノ影響	農商務大臣官房編 明治三八 洋・大	一	イ一三	四〇四
明治三十七年ノ物價ニ及ホセシ戰爭ノ影響	農商務大臣官房編 明治三八 洋・大	一	イ一三	四〇三
明治三十八年ノ賃金ニ及ホセシ戰爭ノ影響	農商務大臣官房編 明治三九 洋・大	一	イ一三	四〇五
明治三十六年職工表	警視總監官房編 明治三七—謄寫版 洋・大	一	イ一三	四〇七
明治六年海外貿易表	政表課編（明治七） 和・小	一	イ一三	＊四〇八
日本政表	海外貿易之部（第四至六號）（明治九至一二） 明治一〇至一二年 洋・大 調查局編	三	イ一三	四〇九
山形縣勸業年報	第一一回（明治三二） 明治三四 洋・中 同縣內務部編	一	イ一三	四一〇
山梨縣勸業統計書	明治三七年 明治三九 洋・大 同縣知事官房編	一	イ一三	四一一
郵便爲替貯金事業概要	第六至一一・（五・一八・一九回 明治三〇至四三 洋・中 郵便爲替貯金管理所編）	九	イ一三	四一三
郵便貯金局統計年報	第二〇回（同局編 明治四四 洋・中 郵便爲替貯金事業概要第二・九回ニ接ス）	一	イ一三	四一二
郵便爲替貯金事業統計圖表	郵便貯金局編 明治四五至大正三 和・中	三	イ一三	四一三
陸軍醫事統計	明治三〇 洋・大 陸軍省醫務局編	一	イ一三	四一四
陸軍省統計年報	第八至一六回 明治二九至三七 洋・大 同省大臣官房編	一六	イ一三	四一五
臨時臺灣糖務局年報	第二（明治三六年度） 明治三七 洋・中 同局編	一	イ一三	四一六
歷史的賃銀の異動及其原因	奧・シュモルラー撰・相原重政譯 洋・大（統計集誌拔刷本） 自千三百年至千九百年	一	イ一三	四一七

		冊	類	號
千九百年匈牙利國人口調查職業別人口に就て	相原重政編 洋・大	一	イ一三	四四七
大正二年末人口靜態調查結果速報	第一至一〇號（大正三・四） 內閣統計局刊 和・大	一	イ一三	四四九
中壽ノ說	財部靜治撰 大正六 洋・中	一	イ一三	四五〇
稠密ナル本邦人口	財部靜治撰 洋・中	一	イ一三	四五八
急性傳染病ニ因ル死亡統計	明治三三至四年 內閣統計局編 大正二 洋・大	一	イ一三	四五一
同		一	イ一三	四五三
結核死亡統計表	明治三二至大正二年 保健衞生調查會編 大正六 洋・大	三	イ一三	四五〇
呼吸器疾患ニ因ル死亡統計	明治三三至四一年 內閣統計局編 大正三 洋・大	一	イ一三	四五七
同		一	イ一三	四五四
國勢調查速報	世帶及人口・在外本邦人 大正九・一〇 洋・大 臨時國勢調查局編	二	イ一三	四五五
國勢調查速報	國勢院刊（大正九） 謄寫版 和・大	一	イ一三	四五六
自殺論	吳文聰撰 洋・大（統計集誌拔刷本）	一	イ一三	四五一
出生當時の死力に就て	松崎故一郎撰 洋・中（日本保險醫學協會拔刷本）	一	イ一三	四五三
情死の統計的研究	下 布川靜淵撰 洋・中（丁酉倫理講演集拔刷本）	一	イ一三	四四四
小兒死亡統計表	明治三二至大正二年 保健衞生調查會編 大正六 洋・大	一	イ一三	四四五
死力・死亡係數及び中央死亡率に就て	松崎故一郎撰 洋・大	一	イ一三	四四六
大正人口動態統計略說並死因統計略說	附錄改正死亡原因類別解說 內閣統計局編 大正六 洋・大	二	イ一三	四五〇
二年人口動態統計略說並死因統計略說	內閣統計局編 大正六 洋・大	一	イ一三	三一三
腎臟炎ニ因ル死亡統計	明治三至四一年 內閣統計局編 大正三 洋・大	一	イ一三	四七〇
同		一	イ一三	三一四
胃腸病ニ因ル死亡統計	明治三至四年 內閣統計局編 大正三 洋・大	一	イ一三	四七六
同		一	イ一三	四七七
日本帝國人口靜態統計	明治三六・四一・大正二各年末 內閣統計局編 明治三九至大正五 洋・大	一	イ一三	四七八
日本帝國人口靜態統計圖	大正二年末 內閣統計局編 大正五 洋・大	三	イ一三	四七九
日本帝國人口靜態統計圖	大正二年末 內閣統計局編 大正五 洋・大	一	イ一三	四七九
同		一	イ一三	四八〇
日本帝國人口動態統計	明治三二至大正六年 明治三五至大正九 洋・大 內閣統計局編	一九	イ一三	四八一

日本帝國人口動態統計 明治三三至四一年 明治四五・洋・大 比例 内閣統計局編 一冊 イ一三 四八二
同 一 イ一三 四八三
姙娠及産ニ因ル死亡統計 明治三三至四一年 大正三・洋・大 内閣統計局編 一 イ一三 三七二
同 一 イ一三 三七三
本邦人口動態の概況 二階堂保則撰 洋・中 一 イ一三 四八五
本邦人口の現在及將來 高野岩三郎撰 洋・小（通俗大學文庫本） 大正五 一 イ一三 四八六
本邦人口ノ平均婚姻年齡 高野岩三郎撰 洋・中（經濟叢攷別本） 一 イ一三 四八七
本邦人の月別死亡の研究 一・二 二階堂保則撰 洋・大 一 イ一三 四八八
本邦人の生死に關する統計的批判の概要 二階堂保則撰 洋・大（統計集誌抜刷本） 一 イ一三 四八九
同 一 イ一三 四九〇
慢性傳染病ニ因ル死亡統計 其一・二 明治三一至四一 大正三・洋・大 内閣統計局編 二 イ一三 三九六
同 二 イ一三 三九七
明治三十一年日本帝國人口統計 内閣統計局編 明治三四・洋・大 一 イ一三 四九一
同 一 イ一三 四九二
明治七年政表 日本全國人員（第一號）（明治九） 洋・大 明治三年十月ヨリ同七年十月ニ至ル 統計表 實數 大正七 正院第五科編 一 イ一三 四九三
日本政表 全國人員之部（第二號）（明治八・九） 會計部編 一 イ一三 四九四
臨時臺灣戶口調査部編 一 イ一三 四九五
臺灣職業名豫察報文 臨時臺灣戶口調査部編（明治三八） 洋・中 一 イ一三 四九六
臺灣人口動態統計 明治三八至大正七年 原表之部 臨時臺灣戶口調査部編 一 イ一三 四九七
臺灣人口動態統計記述報文 明治三九至大正七年（内明治四一年缺） 臨時臺灣戶口調査部編 一 イ一三 四九八
臺灣人口動態統計五年報 臺灣總督官房統計課編 大正二・洋・大 一 イ一三 四九九
臺灣人口動態統計十年報 臺灣總督官房統計課編 大正六・洋・大 一 イ一三 五〇〇
京都府人口統計 大正二年 同府刊 大正四 洋・大 一 イ一三 五〇一
京都市臨時人口調査要計表 第二編 明治四年 大正二・洋・大 同調査部編 一 イ一三 五〇二
神戸臨時市勢調査人口及職業統計表 明治四一年 明治四三 神戸市役所編 洋・大 一 イ一三 五〇三
神戸臨時市勢調査要計表 明治四一年 同調査順末附 神戸臨時市勢調査局編 洋・大 一 イ一三 五〇四
札幌區區勢調査研究 高岡熊雄撰 大正九・洋・中 一 イ一三 五〇五
札幌區區勢調査原表 明治四二年三月一日 中・後編 同區役所編 明治四三・四四・洋・大 二 イ一三 五〇六
試驗國勢調査の結果 一名明治十二年末の甲斐國 花房直三郎撰 一 イ一三 五〇七
同 一 イ一三 五〇八
茨城縣人口靜態統計 明治四三・大正二各年末 同縣知事官房編 洋・大 二 イ一三 四一九
大阪市人口統計摘要 明治三二年 和・大 同市役所刊 一 イ一三 四二〇
岡山縣戶口統計 明治四二年末 同縣知事官房編 洋・小（臨時刊行其一） 一 イ一三 四二一
甲斐國現在人別調 明治一二年末 統計院編 洋・大 一 イ一三 四二二
同 一 イ一三 四二三
同 一 イ一三 四二四
甲斐國現在人別調 明治三年末 甲斐全國ノ部 統計院編 山梨縣刊 明治三九 洋・中 一 イ一三 四二五
大正四年十二月卅一日華族靜態調査統計表 實數 柳澤統計研究所編 大正八・洋・大 一 イ一三 四二六
大正四年十二月卅一日華族靜態統計描畫圖 柳澤統計研究所編 大正八・洋・大 一 イ一三 四二七
關東洲現住戶口 明治三六年九月・三六年三月 關東洲民政署官房編 （明治三九） 洋・大 一 イ一三 四二八
岐阜縣戶口統計 大正三年 同縣知事官房編 大正四 洋・小 一 イ一三 四二九
京都市臨時人口調査要計表 第二編 明治四四年 大正二・洋・大 同調査部編 一 イ一三 四三〇
神戸臨時市勢調査人口及職業統計表 明治四一年 明治四三 神戸市役所編 洋・大 一 イ一三 四三三
神戸臨時市勢調査要計表 明治四一年 明治四二 同調査順末附 神戸臨時市勢調査局編 洋・大 一 イ一三 四三四
札幌區區勢調査研究 高岡熊雄撰 大正九・洋・中 一 イ一三 四三七
札幌區區勢調査原表 明治四二年三月一日 中・後編 同區役所編 明治四三・四四・洋・大 二 イ一三 四三八
試驗國勢調査の結果 一名明治十二年末の甲斐國 花房直三郎撰 一 イ一三 四三九
同 一 イ一三 四四〇

静岡縣人口統計 第一回 明治三五・洋・大 同縣知事官房編 一 イ一三 四四二
臺灣現住人口統計 明治三八至大正八年（内大正二年缺） 臨時臺灣戶口調査部編 明治四〇至大正一〇・洋・大 一四 イ一三 四四三
臺灣職業名豫察報文 臨時臺灣戶口調査部編（明治三八） 洋・中 一 イ一三 四四四
臺灣人口動態統計 明治三八至大正七年 原表之部 臨時臺灣戶口調査部編 明治四〇至大正九・洋・大 一四 イ一三 四四五
臺灣人口動態統計記述報文 明治三九至大正七年（内明治四一年缺） 臨時臺灣戶口調査部編 明治四一至大正九・洋・大 一二 イ一三 四四六
臺灣人口動態統計五年報 臺灣總督官房統計課編 大正二・洋・大 一 イ一三 四四七
臺灣人口動態統計十年報 臺灣總督官房統計課編 大正六・洋・大 一 イ一三 四四八
千葉縣戶口統計 大正元年 同縣知事官房編 大正二 洋・小 一 イ一三 四四九
東京市現住戶數及現住人口 大正七八各年末現在 同市役所編 大正八九・洋・中 二 イ一三 四五〇
東京市市勢調査比例篇 明治四一年施行 同市役所編 明治四五 洋・大 一 イ一三 四五一
東京市町別現住戶數及現住人口 大正五六各年末現在 同市役所編 大正六・七・洋・中 二 イ一三 四五二
東京市町名別戶數及人口 大正三年末現在 同市役所編 大正四 洋・中 一 イ一三 四五三
臨時臺灣戶口調査要計表 明治三八年 明治四〇 同調査部編 洋・大 一 イ一三 四五四
德島縣名東郡臨時郡勢調査書 概編 大正六・洋・中 同郡役所刊 大正六 洋・中 一 イ一三 四五五
富山縣高齡者統計 大正四年一月一〇日現在 同縣知事官房編 大正五 洋・中 一 イ一三 四五六
富山縣戶口統計 大正四年末 同縣知事官房刊 大正五 洋・中 一 イ一三 四五七
新潟縣郡勢調査 順末及原表 明治四五 洋・大 同郡役所編 一 イ一三 四五八
佐渡郡郡勢調査 明治四四年 洋・大 一 イ一三 四五九
福島縣戶口統計 第八回（明治四一） 明治四二 洋・大 同縣編 一 イ一三 四六〇
宮城縣戶口統計 明治三三至三七年（内三六年缺） 明治三四至三八 洋・中 同縣編 四 イ一三 四六一
臨時郡勢調査 順末及原表 大正八 洋・大 同郡役所編 一 イ一三 四六二
德島縣臨時郡勢調査 順末及原表 大正三年三月末 同郡役所編 一 イ一三 四六三
名東郡 大正八 洋・大 一 イ一三 四六四
静岡縣臨時郡勢調査 明治四三・大正二各年末 同縣知事官房編 洋・大 三 イ一三 四四一

史傳地理

赤穗四十七士傳 三卷 青山延光撰 明治三 和・小（弘道館叢書本） 一 イ一三 五〇八
井伊大老と開港 中村勝麻呂撰 明治四二 洋・中 一 イ一三 五一〇
逸史 一二卷・首一卷 中井積善撰 天保一三至嘉永元 和・大 一三 イ一三 五一一
岩倉公實記 多田好問編 明治三九 洋・大 二 イ一三 五一二
院莊作樂香 矢吹正則撰 明治三八 和・中 一 イ一三 五一三
上記鈔譯 歷史部三卷 大友能直原輯・吉良義風鈔譯 明治一一 追刻 和・大 三 イ一三 五一四

右大臣吉備公傳纂釋 二卷・附錄一卷・首一卷 重野安繹撰 明治三五 和・中 | 冊 三 | 類 イ一三 | 號 五一五
英烈遺事 馬杉繫撰 明治八 和・中 | 二 | イ一三 | 五一六
遠城謙道傳 佐成源五郎編 明治三五 和・中 | 一 | イ一三 | 五一八
恩師カール・テオドア・フオン・イナマ・ステルネツグ先生 柳澤保惠撰 洋・小 | 一 | イ一三 | 五一九
開國起原 附錄職名錄 勝安芳撰 明治二六 洋・中 | 三 | イ一三 | 五二三
開國始末 井伊直弼の傳 附錄三種 嶋田三郎撰 明治二一 洋・中 | 一 | イ一三 | 五二四
海國圖志 卷一(譯海篇) 清・魏源撰・鹽谷世弘・箕作虔獵校 嘉永七 和・大 | 二 | イ一三 | 五二五
合衆國小史 米・グードリッチ撰・桑田親五譯 明治七 和・中 | 四 | イ一三 | 五二七
山陽外傳 一卷・附錄一卷 明治一〇 唐・小 | 一 | イ一三 | 五三〇
近世紀聞 四編 篠野傳平・染崎延房編・永濯畫 (明治六・七) 和・中 | 一二 | イ一三 | 五三〇
史記十傳 森田益評 寫一花房直三郎 和・中 | 二 | イ一三 | 五三一
近世諸家史論抄 卷三迄 飯田直編 明治六 和・中 | 三 | イ一三 | 五三二
史記抄 寫本 和・中 | 二 | イ一三 | 五三三
補校 近世史略 三卷・二編三卷 山口謙撰 明治八 初・再版 和・中 | 六 | イ一三 | 五三三
近世西史綱紀 卷四迄 米・ウェルソン撰・堀越愛國譯 明治四 和・中 | 四 | イ一三 | 五三三
吳文聰 吳建編 大正九 洋・中 | 一 | イ一三 | 五三四
明治十七年十二月 京城事變始末書 其他八種 和・小 | 一 | イ一三 | 五三五
謙信軍記 寫本 和・小 | 一 | イ一三 | 五三五
尺本綱鑑易知錄 三卷・首一卷・明鑑易知錄一卷 清・吳乘權等編・筱崎築校 和・中 | 五五 | イ一三 | 五三七
公爵桂太郎傳 德富猪一郎編 大正六 洋・中 | 二 | イ一三 | 五三八
皇太后宮陛下ノ御高德ニ就テ 筧克彥撰 大正三 洋・中 (永交社記事附錄本) | 一 | イ一三 | 五三九
皇朝假名史略 卷一・二 鄧松良肅編 明治六 和・中 | 一 | イ一三 | 五三九
皇朝金鑑 五五卷 青山延壽編 明治二八 和・小 | 二五 | イ一三 | 五四一
皇朝史略 一二卷・續五卷 青山延于撰 明治一四 四刻 和・小 | 一〇 | イ一三 | 五四二
國語定本 二一卷 秦鼎撰 嘉永七 再刻 和・大 | 六 | イ一三 | 五四四
校訂 國史略 五卷・岩垣松苗編・同菊苗・杉苗改訂 慶應元 三刻 和・小 | 二 | イ一三 | 五四五
同 | 三 | イ一三 | 五四七
校訂 國史略 八卷 岩垣松苗編 明治元 四刻 和・小 | 五 | イ一三 | 五四八
左氏兵戰抄 吉田矩方編 明治二 和・小 | 一 | イ一三 | 五四九
山陽外傳 一卷・附錄一卷 明治一〇 唐・小 | 一 | イ一三 | 五五〇
史記十傳 森田益評 寫一花房直三郎 和・中 | 二 | イ一三 | 五五一
史記抄 寫本 和・中 | 二 | イ一三 | 五五二
增訂 史記評林 一三〇卷・首卷・卷首各一卷 明・凌稚隆編・李光縉補・田中篤實等校 明治二 和・大 | 五〇 | イ一三 | 五五三
自恃言行錄 附錄石齋先生年譜等 川那邊貞太郎編 明治三二 和・中 | 一 | イ一三 | 五五四
支那史略 味岡正義等編 明治一一 和・中 | 二 | イ一三 | 五五五
立齋先生標題解註音釋 十八史略 七卷 明・陳殷音釋・岩垣彥明標記・同松苗補 元治元・四刻 和・大 | 三 | イ一三 | 五五七
立齋先生標題解註音釋 十八史略 七卷 明・陳殷音釋・岩垣彥明標記・同松苗補 明治三 五刻 和・小 | 三 | イ一三 | 五五八
同 | 七 | イ一三 | 五五九
常山紀談 二〇卷 湯淺元禎編 (元文四) 和・大 | 一〇 | イ一三 | 五六一
上代衣服考 一名神服考 豐田長敦撰 明治五 和・大 | 一 | イ一三 | 五六二

史料 卷一・二 塙保己一編 大正八 和・小 | 一 | イ一三 | 五六四
增補 新撰年表 清宮秀堅撰 和・大 | 一 | イ一三 | 五六六
杉亭二自敍傳 附・杉先生略傳 河合利安編 (大正六) 洋・中 | 一 | イ一三 | 五六八
斯丁傳 英・シーレー原撰・內務省刊 明治二〇 洋・小 | 三 | イ一三 | 五六九
正源大夫人御墓誌 伊藤鍾撰 寫本 和・大 | 一 | イ一三 | 五七〇
靖康傳信錄 宋・李綱撰・中村彝・巖谷修校 慶應元 和・大 | 三 | イ一三 | 五七一
西山遺事 一〇卷 三木之幹等編 寫本 和・中 | 五 | イ一三 | 五七二
岡山縣出身從軍死歿者 誠忠錄 岡山縣青年會刊 明治四二 洋・中 | 一 | イ一三 | 五七三
節齋先生行狀年譜附 (明治一八) 片山重範撰 和・中 | 一 | イ一三 | 五七七
鮮血の白耳義 白・ノトン撰・町田梓樓譯 大正四 洋・中 | 一 | イ一三 | 五七九
宋名臣言行錄 二集二四卷 宋・朱熹編 寬文七 和・大 | 六 | イ一三 | 五八二
同 | 六 | イ一三 | 五八三
遵厄日本紀事 卷三之下迄 露・尤老尹撰・馬場貞由等重譯・高橋景保校 寫本 和・大 | 五 | イ一三 | 五八四
訂正 續續皇朝史略 石村貞一編 明治一四 二刻 和・小 | 七 | イ一三 | 五八四
續日本外史 馬杉繫撰・賴復校 明治一三 和・小 | 一〇 | イ一三 | 六〇二
漢和兩文 大日本史論贊集 附錄澁泊史論 井川作之助和譯 大正五 洋・中 | 一 | イ一三 | 五八五
泰平年表 大野廣城編 寫本 和・大 | 一 | イ一三 | 五八六
臺灣蕃政志 三卷・附臺灣蕃地交涉年表 伊能嘉矩編・臺灣總督府刊 明治三七 洋・中 | 一 | イ一三 | 五八九
日本書紀摘抄 附・古言記 寫本 和・大 | 一 | イ一三 | 五八六
日本政記 賴襄撰・同復等校 文久元 和・大 | 一六 | イ一三 | 六一七
中興鑑言 三宅緝明撰 和・大 | 一 | イ一三 | 五九二
日本戰史 關原役・大阪役 同史編纂委員撰 明治二七・三〇 初・再版 洋・中 | 七 | イ一三 | 六一八
朝鮮人來歸錄 正德度 寫本 和・中 | 一 | イ一三 | 五九三
鎌倉時代 通俗史談 大森金五郎撰 明治四五 洋・中 | 一 | イ一三 | 五九四
津田永忠君年譜 木畑道夫編 大正六 再版 和・中 | 一 | イ一三 | 五九五
貞烈龜鑑 上卷 豐島順作編 明治四一 和・大 | 一 | イ一三 | 五九六
東萊先生音註 唐鑑 二四卷 宋・范祖禹撰・呂祖謙註 寬文九 和・大 | 六 | イ一三 | 五九八
統計家那破烈翁大帝逸話 佛・フォーヴォール述・高橋勝弘(二郎)譯 洋・中 | 一 | イ一三 | 一〇六
唐宋名家歷代史論奇鈔 七卷 正德四 和・大 | 四 | イ一三 | 六〇〇
常磐會會員名簿 大正一〇年 同會刊 洋・小 | 一 | イ一三 | 六〇三
讀外史餘論 長川熙撰 (明治六) 和・中 | 二 | イ一三 | 六〇三
內國史略 藤田久道編・增田貢校 明治一二 和・小 | 五 | イ一三 | 六〇六
長崎縣史料 同縣刊 明治四五 和・大 | 一 | イ一三 | 六〇七
廿一史約編 清・鄒元慶撰 光緒六 唐・小 | 八 | イ一三 | 六〇九
日本開化小史 田口卯吉撰 明治一〇至一六 初・再版 和・中 | 六 | イ一三 | 六一〇
日本外史 二二卷 賴襄撰・同元協等校 明治四 再刻 和・小 | 六 | イ一三 | 六一一
重訂 日本外史 二二卷 賴襄撰・久保得二重訂 明治四三 八版 洋・小 | 一 | イ一三 | 六一三
日本外史補 一四卷 岡田僑撰 (嘉永三) 和・大 | 九 | イ一三 | 六一四
日本書紀摘抄 附・古言記 寫本 和・大 | 一 | イ一三 | 六一六
日本政記 賴襄撰・同復等校 文久元 和・大 | 一六 | イ一三 | 六一七
日本戰史 關原役・大阪役 同史編纂委員撰 明治二七・三〇 初・再版 洋・中 | 七 | イ一三 | 六一八

乃木院長記念錄	學習院輔仁會編 大正三 再版 洋・中	一冊	イ一三	類	六一九
備前略史	成田元美編 明治一〇 和・中	二	イ一三		六二一
同		二	イ一三		六二二
常陸帶	藤田彪撰・綿引泰校 慶應二 和・小	四	イ一三		六二三
肥長電信錄	初・二編 繪入 青山薫編 明治九・一〇 和・中	四	イ一三		六二四
伏見殉難士傳	附錄添 寺師宗德編 明治二七 和・大	一	イ一三		六二五
扶桑畫人傳	古筆了伸編 明治二一 增補再版 和・大	五	イ一三		六二六
文明論之概略	福澤諭吉撰 明治八 和・中	六	イ一三		六二七
法學博士杉先生八旬壽筵紀事	洋・中	一	イ一三		一四八
法學博士花房直三郎君還曆祝賀事務及會計報告	（大正七） 洋・中				一四九
同		一	イ一三		一四一
國事執掌	報効志士人名錄 第一輯 史談會編 明治四二 洋・中	一	イ一三		一五〇
寶曆武鑑	卷四 和・小	一	イ一三		六二九
名山史料	咄咄外史編 明治三 和・小	一	イ一三		六三〇
名將言行錄	四〇卷 岡谷繁實編 明治二八 和・中	四	イ一三		六三一
名節錄	岡田儀編 慶應二 和・大	三	イ一三		六三六
明治孝節錄	近藤芳樹編 明治一〇 和・中	四	イ一三		六三七
明治忠孝節義傳	五輯 一名東洋立志編 杉本勝二郎編 明治三一至三六 初・再版 洋・中	一折	イ一三		六三八

歐羅巴文明史	卷一至四・七・八 佛・ギゾー撰・永峰秀樹重譯 明治七至九 和・中	六冊	イ一三	類	六二九
歐亞列强大戰史	上卷 御即位記念協會編 大正四 三版 洋・中	一	イ一三		六四二
和漢年契	高昶撰・荒井公廉補 安政二 增補三刻 和・大	一	イ一三		六四三
○					
有馬山溫泉記追加	河合章堯撰 正德六 和・小	一	イ一三		五〇九
江戸圖正大全	溫清軒圖 元祿年間	一折	イ一三		五一七
大阪繁昌雜記	卷二 奥澤信行編 明治一〇 和・中	一	イ一三		五一九
大阪府誌	地圖添 同府編 明治三六 洋・大	五	イ一三		五二〇
大阪府治要覽	同府編 大正三 洋・中	一	イ一三		五二一
岡山道中案內	伏見 寫本 和・小	一	イ一三		六〇一
鹿兒島案內	鮮明堂刊 （明治四〇）	一折	イ一三		五二六
樺太要覽	樺太廳刊 明治四一 再版 洋・中	一	イ一三		五二九
後樂園誌	木畑道夫編・金陵畫 明治二八 唐・小	二	イ一三		九八六
同		二	イ一三		九八七
最近朝鮮事情要覽	第二・六版 朝鮮總督府編 明治四五・大正三 洋・小	二	イ一三		五四八
支那總說	卷三迄 金子彌兵衛編 明治一四 和・中	三	イ一三		五五六
常薩見聞談	高橋二郎述 （明治四一） 洋・中	一	イ一三		五五〇
諸國旅雀	卷一 和・小	一	イ一三		五六三
宸垣識略	一六卷 清・吳長元編 光緒二 唐・小	八	イ一三		五六五

津門雜記	清・張燾編 光緒一〇 唐・大	三	イ一三		六三一
西洋新書	三編 瓜生政和編・玉翁畫 明治五 和・中	六	イ一三		五七四
世界國盡	五卷・附錄一卷 福澤諭吉譯述 明治四 再刻 和・中	六	イ一三		五七五
首書繪入世界都路	假名垣魯文撰・澤菱潭書・曉齋畫 明治五 和・中	三	イ一三		五七六
攝陽落穗集大成	卷一至六 濱松歌國撰 寫本 和・中	二	イ一三	枚	五七八
相武名勝獨案內	片山平三郎刊 和・大	一	イ一三		五八〇
增補華夷通商考	繪入 西川忠英編 寶永五 和・中	五	イ一三		五八一
大明京省九邊外國府州縣路程圖	原名大明九邊萬國人跡路程全圖 梅村彌白重刊	一	イ一三	折	五八七
臺灣事情	大正五至九年版 臺灣總督府編 大正五至九 洋・小	五	イ一三		五八八
地學往來	亞細亞洲之部 伊藤桂洲撰並書・玉蘭齋畫 明治五 和・中	三	イ一三		五九〇
地球略解	卷一 英・魏紱撰・何幸五郎譯 明治二 和・中	一	イ一三		五九一
天平勝寶始築筑前怡土城舊跡記	小田部隆敍編 明治三三 和・中	一	イ一三		五九七
東京新繁昌記	六編 服部誠一撰 明治七至九 和・中	六	イ一三		五九九
德島見聞談	橫山雅男撰 洋・中	一	イ一三		六〇四
十符の菅薦	近藤芳樹編 明治九 和・中	四	イ一三		六〇五
長野縣案內	聯合共進會長野縣協贊會編 明治四一 洋・中	一	イ一三		六〇八
日本周遊記	河田鏘也撰 明治二五 和・中	一	イ一三		六一五
東蝦夷日誌	第三編 松浦弘撰 （文久三） 和・大	一	イ一三		六二〇
兵要日本地理小誌	陸軍兵學寮刊 明治六 和・小	三	イ一三		六二八
漫遊記程	附錄共 中井弘撰 （明治一一） 和・中	三	イ一三		六三一
御嶽探勝案內	山村山陽畫 明治三五	一	イ一三		六三三
都繁昌記	因果道士撰 （天保八） 和・中	八	イ一三		五二八
花洛名勝圖會	再撰 東山之部 木村明啓・川喜多眞彥編・中山等畫 元治元 和・大	一〇	イ一三		六四〇
輿地誌略	第四編上迄 內田正雄編 明治六至一〇 和・大	二	イ一三		六四一
琉球新誌	大槻文彥撰 明治六 和・中				

法律政治

伊國代議院條例	洋・中	一冊	イ一三	類	六四五
英國海軍律令全書	前編卷一・二 子安宗峻・柴田昌吉譯 明治三 和・中	二	イ一三		六五一
英國皇室制度雜纂	明治二二 洋・中	一	イ一三		六五二
歐洲各國王室家憲	明治二一 洋・中	一	イ一三		六五三
海軍沿革論	卷一・二 內田正雄譯述 （明治二） 和・中	二	イ一三		六五四
海軍趨勢	增補共 小栗孝三郎撰 明治四四 三版 洋・中	一	イ一三		六五五
外國法翻譯其他	寫本 和・大	一	イ一三		六五七
冠位通考	石原正明撰 （文化二） 和・大	一	イ一三		六五九
英艦砲全書	卷一・二 小幡篤次郎譯述 式 明治三 和・中	二	イ一三		六六一
軍艦法則	細川習譯 明治二 和・中	二	イ一三		六六五
憲法並附屬法	附・皇室典範 內閣官報局刊 明治二二 和・大（官報號外本）	一	イ一三		六六九
工業所有權法及發明一斑	特許局刊 明治三七 和・大	一	イ一三		六七〇

五國條約 安政六 和・大	一	イ一三	六七六	獨
戶籍法案 洋・大	一	イ一三	六七七	德川禁令考 一九卷・附錄一卷・首一卷 明治二一 和・中
改正 衆議院議員選擧法釋義 附錄內務省選擧法調查報告書外二篇 磯岡伯・横田左仲編 明治三四 洋・中	一	イ一三	六七四	蒙
衆議院先例彙纂 同院事務局編 (明治二四) 洋・中	一	イ一三	六八五	萬國公法 四卷 慶應元 米・惠頓撰・丁韙良・清・何師孟等譯 和・大
商法修正案 洋・大	一	イ一三	六八七	非訟事件手續法案 洋・大
職員令 和・中	一	イ一三	六八八	府縣制郡制 附・市制町村制解理由 明治二三 和・小 博聞本社刊 (法律叢書本)
改正 新刑法草案 有斐閣刊 明治四〇 再版 洋・中	一	イ一三	六八九	普
人事訴訟手續法案 洋・大	一	イ一三	六九一	法學指針 第一帙 米・ヴェルベッキ口授・忘筌社員譯記 明治一〇 和・中
新律綱領 改定律例 合卷 司法省刊 明治六 和・小	三	イ一三	六九三	法
制度通 一三卷 寫本 伊藤長胤編 和・中	一一	イ一三	六九七	法規提要追加 明治三三年八月至三四年一〇月 法制局編 明治三四 洋・中
全國民事慣例類集 生田精編・司法省刊 明治一三 洋・中	一	イ一三	六九九	庶務提要 法規類集 渡邊安之助編 明治三三 洋・中
泰西國法論 蘭・ヒッセリング撰・津田眞道譯 慶應四 和・中	四	イ一三	七〇二	法
大日本憲法講義 獨・モッセ講述・花房直三郎通譯 (明治二三) 洋・小	一	イ一三	七〇三	法令全書 明治一八至三四年 內閣官報局・印刷局刊 明治一八至三五 洋・中
大日本帝國憲法義解 附・皇室典範 伊藤博文撰 明治二二 洋・大	一	イ一三	七〇四	民
大禮の要旨 文部省編 (大正四) 洋・中	一	イ一三	七〇五	民法中修正案 第七二五至一一四二條 洋・大
大禮要義 牛塚虎太郎撰 (大正二) 洋・中	一	イ一三	七〇六	明
臺灣總督府法規提要 明治三七年二月現行 同總督官房編 明治三七 洋・中	一	イ一三	七〇七	令
臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律其ノ沿革竝現行律令 內閣記錄課編 (大正四) 洋・中	一	イ一三	七〇九	ロエスレル氏王室家憲答議 洋・中

獨逸法律書 第二冊 洋・中	一	イ一三	七一四	獨
德川禁令考 一九卷・附錄一卷・首一卷 菊池駿助編 明治二一 和・中	二一	イ一三	七一五	德
蒙章讀律必携 川澄下枝編 (明治六) 和・小	二	イ一三	七一六	蒙
萬國公法 四卷 慶應元 米・惠頓撰・丁韙良・清・何師孟等譯 和・大	六	イ一三	七一二	萬
非訟事件手續法案 洋・大	一	イ一三	七一三	非
府縣制郡制 附・市制町村制解理由 明治二三 和・小 博聞本社刊 (法律叢書本)	一	イ一三	七一七	府
普國王室制度雜纂 洋・中	一	イ一三	七一八	普
法學指針 第一帙 米・ヴェルベッキ口授・忘筌社員譯記 明治一〇 和・中	二	イ一三	七一九	法
法規提要追加 明治三三年八月至三四年一〇月 法制局編 明治三四 洋・中	一	イ一三	七二〇	法
庶務提要 法規類集 渡邊安之助編 明治三三 洋・中	一	イ一三	七二一	法
法	一九	イ一三	七二二	法
法令全書 明治一八至三四年 內閣官報局・印刷局刊 明治一八至三五 洋・中	七五	イ一三	七二三	法
法令全書 明治三五至大正五年第一號 (內三五年第一號ニ同年索引・三六年索引・大正四年索引ヲ追加) 印刷局刊 明治三五至大正五 洋・中	一七八	イ一三	七二四	民
民法中修正案 第七二五至一一四六條 洋・大	一	イ一三	七二六	民
民法中修正案 第七二五至一一四二條 洋・大	一	イ一三	七二七	民
明治三十七八年戰役捕獲審檢誌 高等捕獲審檢所處務調理員編 明治三九 洋・中	一	イ一三	七二八	明
令義解 清原夏野等撰・塙保己一校 寬政一一 和・大	一〇	イ一三	七四四	令
臨時臺灣舊慣調查會第一部調查第一回報告書 同部編 明治三六 洋・大	二	イ一三	七四五	臨
ロエスレル氏王室家憲答議 洋・中	一	イ一三	七四六	ロ

○

京都府下維新前民政資料蒐集目錄 京都府內務部編 明治四五 洋・中	一	イ一三	六四六	京
京都府下維新前民政資料選拔目錄幷解題 京都府內務部編 明治四五 洋・中	一	イ一三	六四七	京
京都府下維新前民政資料碑文集 京都府內務部編 明治四五 洋・中	一	イ一三	六四八	京
伊藤侯演說集 三篇 日報社編 明治三二 洋・小 (東京日日新聞附錄本)	三	イ一三	六四九	伊
伊藤首相演說集 切拔貼附 和・大	一	イ一三	六五〇	伊
外國事務 福地源一郎譯 明治元 和・中	一	イ一三	六五五	外
隔華論 巖谷世弘撰 安政六 和・大	一	イ一三	六五八	隔
韓國施政年報 第二・三次 (明治四一・四二) 統監府編 明治四三・四四 洋・大	二	イ一三	六六〇	韓
朝鮮總督府施政年報 明治四三至大正元年 同府編 (臨國施政年報第三次ニ據ス) 洋・大	三	イ一三	六六〇	朝
魏鄭公諫續錄 元・程思忠撰 天保四 和・小	二	イ一三	六六二	魏
行政整理ト鑛山監督署 松本郁朗撰 明治三五 洋・中	一	イ一三	六六三	行
京都府地方改良講演集 國家の進運を論して法政教育の必要に及ぶ (仁保鑑松ノ外七篇 同府內務部編) 大正元 洋・中	一	イ一三	六六四	京
郡市町村廢置分合表 明治三一年末至大正二年末 明治三九至大正四 洋・大 內閣統計局編	三	イ一三	六六六	郡
警視廳事務要錄 明治三九年四月至四〇年末 同廳編 明治四一 洋・大	一	イ一三	六六七	警
京兆府尹記事 二〇卷 寫本 岡藤利忠撰 和・大	八	イ一三	六六八	京
皇國經典 佐藤範雄編 (大正五) 和・大	一	イ一三	六七一	皇
廣治平略 三六卷・補編八卷 清・蔡方炳編 唐・小 (活版)	八	イ一三	六七三	廣

英國國會沿革誌 三卷・附錄一卷 高橋基一譯 明治二二 和・中	一	イ一三	六七四	國
國體新論 加藤弘之撰 明治八 和・中	一	イ一三	六七五	今上陛下御卽位式寫眞帖 準備之卷 御寢筆一葉附 帝國軍人教育會編 大正三 和・大
新論 會澤安撰 安政四 和・大	一	イ一三	六七八	今
政學提綱 林正明譯 明治六 和・中	二	イ一三	六七九	今上陛下御卽位式寫眞帖 御眞影一葉附 帝國軍人教育會編 大正四 五版 和・大
米國政治略論 米・ヲルデン撰・錦織精之進譯 明治六 和・中	一	イ一三	六八〇	御
政論 土田政次郎撰 明治四一 洋・大	三	イ一三	六八六	皇典講究所撰 大正四 洋・小
宋李忠定公奏議選 賴襄編 安政四 和・大	一	イ一三	六八六	自
大使館建設ノ議 外一篇 寫本 木村元雄撰 和・大	六	イ一三	六八六	彌爾撰・中村正直譯 明治五 和・中
臺灣總督府民政事務成績提要 第八編 (明治三五) 同府編 (明治三七) 洋・中	五	イ一三	六九〇	新
地方自治ト社會的制度 窪田靜太郎撰 (謄寫版) 和・大	二	イ一三	六九二	賴襄撰・加藤弘之撰 明治三 和・中
朝鮮統治三年間成績 朝鮮總督府編 (大正三) 洋・大	一	イ一三	六九五	眞
通議 賴襄撰・同元愉等校 弘化四 和・大	二	イ一三	六九四	賴襄編 安政四 和・大
通語 中井積德撰 天保一四 和・大	一	イ一三	六九六	宋
	一	イ一三	七〇〇	政
	一	イ一三	七〇一	大
	一	イ一三	七〇八	臺
	一	イ一三	七一〇	地
	一	イ一三	七一一	朝
	三	イ一三	七一二	通
	三	イ一三	七一三	通

唐陸宣公奏議 一二卷 和・中　唐・陸贄撰
都市改良參考資料 内務省地方局編 大正四 洋・中
日米問題實力解決策 大石捨一撰 大正六 再版 洋・大
日本開進論 米・李全得撰・小松原英太郎譯 明治一二 和・中
府縣及北海道境域沿革一覽 内閣統計局編 明治四三 洋・大
同
民撰議院集說 櫻井忠德編 明治七 和・中
明治四十五年行政整理顚末 朝鮮總督府刊 洋・大
陸宣公奏議 一二卷 和・中　唐・陸贄撰
立憲政體起立史 六卷 獨・ビーデルマン撰・加藤弘之譯 明治八 和・中
各國立憲政體略 加藤弘之撰 (慶應四) 和・中

經濟財政

英氏經濟論 九卷(内卷四・五缺) 米・英爾土撰・小幡篤次郎譯 明治四至一〇 和・中
大阪築港設計ノ梗概 和・中
鴨綠江橋梁工事概況 (明治四四) 洋・中
經濟貨幣說 箕作麟祥譯・小島忠廉校 (明治三) 和・中
舊幕府理財會要引用書目並參考書目 大藏省編 和・中
京義線工事概況 朝鮮總督府鐵道局 (明治四五) 洋・中
經濟原論 卷三至六 米・ペーリー撰・緒方正譯 (明治二) 和・中

冊	類	號
一	イ一三	七四一
一	イ一三	七一七
一	イ一三	七一九
五	イ一三	七二〇
二	イ一三	七二五
二	イ一三	七二六
二	イ一三	七二五
一	イ一三	七二七
三	イ一三	七四〇
六	イ一三	七四二
一	イ一三	七四三
七	イ一三	七五〇
一	イ一三	七五二
一	イ一三	七五四
三〇	イ一三	七五七
一	イ一三	七六四
一	イ一三	七六五
四	イ一三	七六六

國有鐵道貨物運賃及料金規則 大正一〇年一月一一日改正 鐵道省刊 洋・中
朱氏經濟學 理論經濟學・獨逸經濟沿革史 澳・シモルレル述 寫本 和・大
戰時及戰後に於列國の人口問題 内務省地方局編 洋・中 (戰時列國地方資料本)
草稿 ロッセル經濟學等 寫本 和・中
臺灣鐵道史 未定稿 臺灣總督府鐵道部編 明治四三・四四 洋・中
地方經濟參考表 附・外國貿易概表 明治二六至三五年度 洋・大
遞信史要 遞信大臣官房刊 明治三一 洋・中
獨逸殖民新論 廣中佐兵衛撰 明治四三 洋・中
東亞經濟調查局記錄分類 滿鐵東亞經濟調查局編 明治四一 洋・小
〔東亞經濟調查局〕記錄分類一覽 滿鐵東亞經濟調查局編 (明治四三—謄寫版) 和・大
日本經濟叢書 瀧本誠一編 大正三至六 洋・中
日本農民ノ疲弊及其救治策 李・マイエット撰 齋藤鐵太郎等譯 明治二六 洋・大
北海道利源調查書摘要 洋・大
まるさす人口論ノ研究法ニ就イテ 財部靜治撰 (大正五) 洋・中 (經濟論叢拔刷本)
民間經濟錄 初・二編 福澤諭吉撰 明治一〇・一三 和・中
臨時臺灣舊慣調查會第二部調查經濟資料報告 同部編 明治三八 洋中
臨時臺灣土地調查局事業報告 第一至四回 同局編 明治三五至三七 洋・中
勞働者强制保險 窪田靜太郎撰 明治三二 洋・中

歐米大戰爭ニ於ケル財政ニ關スル調查 大藏省刊 明治三七 洋・中
會計原法參考書 第一至七集 (明治二〇) 大藏省參事官室譯 洋・小
合衆國收稅法 米・ブーツウェル撰・立嘉度譯 明治五 和・中
韓國財政施設綱要 荒井賢太郎撰 (明治四三) 洋・大
韓國財政整理報告 第一回 韓國政府財政顧問部刊 明治三八 洋・大
韓國財務經過報告 第三至五回 (隆熙三至明治四三年上半度支部編 (明治四三) 洋・中
歲計豫算論 獨・グナイスト撰・中根重一譯 洋・中
歲入歲出豫算 明治二五・三八・四三年度 洋・大
稅法整理論 瀧本美夫撰 洋・中
大租取調書 附屬參考書三卷添 臨時臺灣土地調查局刊 明治三七 洋・中
大日本租稅志 前篇二〇卷 野中準等編 明治一五 和・大
帝國歲計豫算史 第二卷 大藏省刊 明治二八 洋・中
明治財政要鑑 細川雄二郎撰 明治二五 洋・中

産業社會

印刷局沿革錄 同局編刊 明治三六 洋・大
澳國博覽會參同記要 田中芳男・平山成信編 明治三〇 洋・中
勸業諸報標目 第一輯 石川縣勸業博物館編 明治二四 洋・中
勸業模範場報告 第四至七號 朝鮮總督府勸業模範場編 隆熙四・明治四四至大正二 洋・大
間島産業調查書 統監府臨時間島派出所殘務整理所編 明治四三 洋・大

冊	類	號
一	イ一三	七五三
七	イ一三	七五五
四	イ一三	七五六
一	イ一三	七五〇
一	イ一三	七六〇
一	イ一三	七六一
三	イ一三	七六二
一	イ一三	七七〇
三	イ一三	七七一
一	イ一三	七七七
四	イ一三	七八一
一〇	イ一三	七八三
一	イ一三	七九三
一	イ一三	八一三
一	イ一三	七四九
一	イ一三	七五一
一	イ一三	七五八
四	イ一三	七五九
一	イ一三	七六三

廣益農工全書 宮崎柳條編並畫 明治一四 和・中
古今銘盡大全 七卷・附錄一卷 元祿一五 和・中
種樹園法 佐藤信淵口授・同昭筆記 明治九 和・中
蒸氣器械書 海軍學校刊 明治二 和・大
商品改良會報告 第六回 農商務省商務局刊 大正二 洋・大
精工舍創業貳拾週年紀念 大正三 和・中
大英商業史 英・レプィー撰・田口卯吉譯 明治一二 和・中
對支投資の根本精神 青峰外史撰 大正七 洋・中
大日本山林會創立二十五年紀念號 同會編 明治三九 洋・中 (大日本山林會報)
臺灣銀行十年志 同行編 明治四三 洋・大
臺灣產業調查錄 臺灣總督府民政局刊 明治二九 洋・小
拓殖博覽會事務報告 同會殘務取扱所刊 大正二 洋・小
田收穫及小租調查書 臺灣 洋・大
田賣買價格及金利調查書 臺灣 洋・大
畜產計畫書 寫本 和・中
致富小記 佐藤信淵撰・織田完之校 明治一四 和・中
帝國ニ於ケル特許發明ノ發達一斑 農商務省刊 明治三六 洋・大
隄防溝洫志 佐藤信有撰・同信淵校 明治九 和・中
獨逸國土地抵當銀行視察報告書 星野米撰 大正四 洋・中

冊	類	號
五	イ一三	七六七
八	イ一三	七六九
三	イ一三	七七三
四	イ一三	七七四
一	イ一三	七七五
一	イ一三	七七六
四	イ一三	七七九
一	イ一三	七八〇
一	イ一三	七八二
一	イ一三	七八五
一	イ一三	七八七
一	イ一三	七八八
一	イ一三	七九〇
一	イ一三	七九一
四	イ一三	七九六
一	イ一三	七九七

糖業記事 第三次 臨時臺灣糖務局編 明治三七 洋・大 | 一 | イ一三 | 八〇一
日英博覽會事務局事務報告 農商務省刊 明治四五 洋・大 | 二 | イ一三 | 八〇二
日本歲時記 七卷 繪入 貝原好古編・同篤信補 貞享五 和・中 | 四 | イ一三 | 七二
日本產物志 前編山城・武藏部 伊藤圭介撰・雪齋畫 明治六 和・大 | 四 | イ一三 | 八〇四
日本大博覽會規則外三項 同會事務局刊 明治四一 洋・中 | 一 | イ一三 | 八〇五
日本電業者一覽 明治三九・四〇年用 日本電氣協會編 明治三八・四〇 洋・小 | 二 | イ一三 | 八〇六
日本物產年表 附・我邦物產ノ起源 田中芳男編 明治三四 洋・中 | 一 | イ一三 | 八〇八
農家備要 前編 河野剛撰 明治三 和・中 | 五 | イ一三 | 八〇九
農業三事 津田仙撰 明治七 和・中 | 二 | イ一三 | 八一〇
農業花曆 初編 河野剛撰 明治三 | 一帖 | イ一三 | 八一一
農商務省商工局臨時報告 明治三八年第二册 同局刊 明治三八 洋・大 | 一 | イ一三 | 八一三
畑收獲及小租調查書 臺灣 洋・大 | 一 | イ一三 | 八一三
畑賣買價格及金利調查書 臺灣 洋・大 | 一 | イ一三 | 八一四
百工新書 一卷・後篇一卷 西宮柳條編 明治五 和・中 | 二 | イ一三 | 八一五
富國捷徑 初節 明治一二 再刻 和・中 訂正 福住正兄撰 增補 | 一 | イ一三 | 八一六
富國捷徑首卷 福住正兄撰 明治一八 和・中 | 一 | イ一三 | 八一七
日本信用組合報德結社問答 附・積米法 福住正兄撰 明治二五 和・中 | 一 | イ一三 | 八一八
南阿弗利加貿易事情 農商務省商工局刊 大正六 洋・大（商工彙纂本） | 一 | イ一三 | 八二一
綿花培養新論 東方覺之抄譯（明治一五） 和・中 | 一 | イ一三 | 八二四

養菊手ひき草 秋香會撰 明治三八 洋・中 | 一 | イ一三 | 八二五
養魚池收穫及小租調查書 臺灣 洋・大 | 一 | イ一三 | 八二六
養魚池賣買價格及金利調查書 臺灣 洋・大 | 一 | イ一三 | 八二七
養蠶一代之事 寫本 和・大 | 一 | イ一三 | 八二八
養蠶全書 二卷 石幡吉三郎撰 明治八 和・中 | 一 | イ一三 | 八二九
○
秋田縣震災ノ狀況 大正三年三月二一日調 洋・中 | 一 | イ一三 | 六四四
皇室社會新政 附錄大阪名護町貧民窟視察記 鈴木梅四郎撰 大正七 洋・中 | 一 | イ一三 | 六七二
失業者と其授業制度 內務省地方局刊 明治三七 洋・中 | 一 | イ一三 | 六八一
社會政策學會論叢 一册至一二（內册五缺） 同會編 明治四一至大正八 初・再版 洋・中 | 一一 | イ一三 | 六八二
工場法と勞働問題 一 關稅問題と社會政策 二
移民問題 三 市營事業 四
生計費問題 五 勞働爭議 六
小農保護問題 七 社會政策より觀たる稅制問題 八
小工業問題 九 官業及保護會社問題 一〇
婦人勞働問題 一二

社會的制度一斑 窪田靜太郎撰 明治三二 洋・中 | 一 | イ一三 | 六八三
都市ノ社會政策 財部靜治撰 洋・中（大阪高等商業學校商業及經濟研究抜刷本） | 一 | イ一三 | 七一八
貧民救濟制度意見 窪田靜太郎撰 明治三二 洋・中 | 一 | イ一三 | 七二四
勞働紹介雜觀 後編缺 財部靜治撰（法學新報抜刷本） | 二 | イ一三 | 八二三
我邦現代の社會趨勢と其の救濟事業 布川靜淵撰 洋・中 | 一 | イ一三 | 七四八

歐米立志金言 脇山義保譯述 明治一九 和・中 | 一 | イ一三 | 八二四
思ひ出くさ 下 守田五左衛門撰 寫本 和・中 | 一 | イ一三 | 八二五
音訓五經 佐藤坦校點 文化一〇 和・大 | 二 | イ一三 | 八二六
韓子解詁 二一卷・首一卷 津田鳳卿撰 嘉永二 求版 和・大 | 一〇 | イ一三 | 八四一
韓子解詁 二一卷・首一卷 津田鳳卿撰 元治元 和・大 | 一〇 | イ一三 | 八四二
君則 五卷 近藤篤編 寫本 和・中 | 一 | イ一三 | 八四五
言志錄 佐藤坦撰（文政七） 和・大 | 一 | イ一三 | 八四七
孝經 中井原國譯・曾田文甫校釋 明治四三 和・中 | 一 | イ一三 | 八四八
弘道館記述義 藤田彪撰 慶應二 和・大 | 二 | イ一三 | 八四九
高等小學修身訓 生徒用卷二至四・教師用四卷 末松謙澄編 明治三五 和・中 | 七 | イ一三 | 八五〇
校訂新錦五經 片假名付 渡井量藏訓點 明治二七 再版 和・小 | 一一 | イ一三 | 八五一
五經白文 六書堂刊 寶曆九 和・小 | 三 | イ一三 | 八五三
士氣と修養とに關する哲學的觀察 姉崎正治述 大正二 洋・中 | 一 | イ一三 | 八五四
詩經 山崎嘉點・雲川弘毅改定 和・大 | 二 | イ一三 | 八五七
書詩經集註 松永昌易標註 明治九 和・大 | 八 | イ一三 | 八五八
視志緒言 鹽谷世弘撰 慶應二 和・大 | 二 | イ一三 | 八五九
四書 宋・朱熹集註 元祿五 和・小 | 四 | イ一三 | 八六〇
四書假名附 後藤嘉幸訓點 明治一七 和・小 | 四 | イ一三 | 八六一

四書集註 宋・朱熹撰 文久三 和・小 | 六 | イ一三 | 八六二
四書大全說約合參正解 三〇卷・首一卷 清・吳荃編・三譽養正甄 元祿一〇 和・大 | 三〇 | イ一三 | 八六三
修身女訓 岡本賢藏編 明治一五 和・中 | 六 | イ一三 | 八六四
修身女訓 生徒用 末松謙澄編 明治二六 和・中 | 四 | イ一三 | 八六五
修身入門 教師用 末松謙澄撰 明治二五 和・中 | 一 | イ一三 | 八六六
朱子靜坐說 聖華房編刊 大正四 和・大 | 一 | イ一三 | 八六七
春秋左氏傳校本 三〇卷 秦鼎撰 嘉永三 再刻 和・大 | 一五 | イ一三 | 八六八
小學 外篇 山崎嘉點 天明三 和・大 | 一 | イ一三 | 八六九
小學修身訓 生徒用卷中・下・教師用三卷 末松謙澄編 明治二五 和・中 | 五 | イ一三 | 八七〇
女德寶鑑 生徒用 安積五郎・田中登作撰 明治二七 訂正再版 和・中 | 四 | イ一三 | 八七二
斯邁爾斯自助論 第一〇編迄 一名西國立志編 中村正直譯 明治三 和・中 | 八 | イ一三 | 八七四
靖獻遺言 八卷 淺見安正編・波多野春房訓解 明治四四 四版 洋・小 | 一 | イ一三 | 八七五
西洋品行論 一二編 英・斯邁爾斯撰・中村正直譯 明治二一 和・中 | 一二 | イ一三 | 八七六
莊子因 六卷・附錄一卷 清・林雲銘撰・松井暉辰校點 寬政八 和・大 | 六 | イ一三 | 八七七
莊子盧齋口義 一〇卷（內卷三・四缺）・附新鐫莊子十論 宋・林希逸撰 萬治二 和・大 | 四 | イ一三 | 八七八
增補蘇批孟子 清・趙大浣撰・井上揆纂評 明治一三 和・中 | 三 | イ一三 | 八七九
傳習錄 三卷・附錄一卷 明・徐愛等編・三輪希賢標註（正德二） 和・大 | 四 | イ一三 | 八八一
日本品行論 荒野文雄撰 明治一二 和・中 | 二 | イ一三 | 八八五
筆記詩集傳 卷一至三・六至一六 寫本 和・大 | 一三 | イ一三 | 八八七

筆記周易本義 卷一至一〇・一二至一五 寫本 和・大 — 冊 イ一三 類 八八八 號
纂訂評註老子道德經 宋・蘇轍解・木山瑞吉編 明治二三 和・中 — 二 イ一三 八八九
婦女鑑 西村茂樹等編・楓湖畫 明治二〇 和・中 — 六 イ一三 八九〇
婦人の修養 附錄修身外四項 明治四〇 洋・中 — 一 イ一三 八九一
ポケット論語 宋・朱熹集註・矢野恒太讀方略解 明治四〇 洋・小 — 一 イ一三 八九二
松崎博士の著作的不道德 布川靜淵撰 洋・中（丁酉倫理講演集拔刷本） — 一 イ一三 八九四
勅語風解道の光 甲斐順宜撰 明治二四 和・小 — 一 イ一三 八九六
孟子 嵩山堂刊 明治四二 再版 洋・小（ポケット四書本） — 一 イ一三 八九七
毛詩正義七〇卷（有補寫） 漢・毛亨傳・鄭玄箋・唐・孔穎達疏 唐・大 — 三三 イ一三 八九八
幼學綱要 元田永孚編・楓湖畫 明治一六 再版 和・中 — 七 イ一三 九〇〇

〇

改算記大成 三卷 元祿一三 和・中 — 一 イ一三 八三七
化學入門 外編 桂川甫策・石橋八郎譯註 明治二 和・中 — 一 イ一三 八三八
化學要論 卷一 米・ホストル撰・杉田擴譯 明治六 和・小 — 一 イ一三 八三九
喝氏初學人身究理 米・カットル撰・伊藤正信譯 明治一三 和・中 — 二 イ一三 八四〇
訓蒙窮理圖解 卷一 福澤諭吉編 明治元 和・小 — 一 イ一三 八四三
訓蒙窮理問答 後藤達三編（明治五） 和・中 — 四 イ一三 八四四
計算尺原理及使用法 野津正之助撰 明治三七 洋・小（工業叢書本） — 一 イ一三 八四六
さかなつくし 一立齋廣重畫（明治四四） — 帖 イ一三 八五三

さかなつくし 一立齋廣重畫（明治四四） — 帖 イ一三 八五四
三角測量點水準測量點 明細表 臨時臺灣土地調查局刊 明治三七 洋・大 — 一 イ一三 八五五
植物學 八卷 英・草廉臣輯釋・清・李善蘭筆述 和・大 — 三 イ一三 八七一
數學啓蒙 二卷 英・偉烈撰 文久二 和・中 — 一 イ一三 八七三
地質學 卷一・二 瓜生寅・南鐐譯述 明治五 和・中 — 二 イ一三 八八〇
點竄問題集 初篇 關口開編 明治五 和・小 — 二 イ一三 八八一
登高自卑 卷上・中 村松良肅編 明治五 和・中 — 二 イ一三 八八三
桃洞遺筆 卷三・附錄一卷 小原良直撰 天保四 和・大 — 一 イ一三 八八四
博物新編補遺 英・チャンブル撰・小幡篤次郎譯 明治二 和・中 — 三 イ一三 八八六
物類品隲 卷四・六 平賀國倫編 寶曆一三 和・大 — 二 イ一三 八九二
萬德塵劫記商賣鑑 天文二 和・中 — 一 イ一三 八九五
有用植物圖說 卷一 博物館刊 和・大 — 一 イ一三 八九九
六分圓器量地手引草 村田恒光編（嘉永六） 和・中 — 一 イ一三 九〇二

語學文學

畫引增字分韻便覽 和・小 — 一 イ一三 九五六
疑字箋要 寫本 和・大 — 一 イ一三 九六五
康熙字典 一二集・補遺・備考等共 清・張玉書等編 文久三 和・小 — 四〇 イ一三 九七七
語學教授本 附錄共 加部巖夫編 明治二六 和・中 — 二 イ一三 九八八
詩韻含英 一八卷・附詩韻異同辨 清・劉文蔚編 天保一二 再刻 和・小 — 二 イ一三 一〇〇四

詩韻含英 卷一至八 清・劉文蔚編・秦鼎校 和・小 — 一 イ一三 一〇〇五
掌中增補詩礎階梯 三國鷹集編・山田梨雨補 明治五 — 帖 イ一三 一〇二六
助辭譯通 岡白駒撰（寶曆一二） 和・中 — 三 イ一三 一〇三二
草字彙 一二集 清・石梁編 明治一三 和・小 — 六 イ一三 一〇五〇
草書淵海 四卷 井田臥溪編 （延寶三） 和・大 — 二 イ一三 一〇五一
增續大廣益會玉篇大全 一〇卷・首一卷 毛利瑚珀編 明治五 六刻 和・中 — 一二 イ一三 一〇五三
增續大廣益會玉篇大全 一〇卷・首一卷 毛利瑚珀編 明治一六 九刻 唐・小 — 三 イ一三 一〇五四
鼇頭熟字增補伊呂波韻集成 星野隆吉編 明治一一 — 帖 イ一三 一〇五七
頭書字彙 一二集・首・附・末各一卷 明・梅膺祚撰・愉室增註 天明七 和・大 — 一五 イ一三 一〇七七
佩文韻府 一〇六卷・拾遺一〇六卷 明治二九 再版 唐・中 清・張玉書等奉勅編・嚴谷修等校 — 六三 イ一三 一〇九四
譯筌 初編六卷・首一卷 外題譯文筌蹄 荻生雙松口授・聖默・吉有鄰筆受 正德五 和・中 — 六 イ一三 一一一〇

〇

朝夷巡嶋記全傳 第八編迄 曲亭馬琴・松亭金水編・豐廣・爲齋畫 文化一二至安政五 和・中 — 四〇 イ一三 九二九
熱海調音詩詞集 小島泰堂編 明治一九 和・中 — 二 イ一三 九四〇
葦杭游記 一卷・附錄一卷 胶野琢撰（明治四二） 唐・大 — 一 イ一三 九四一
伊藤公國葬餘韻 二卷 末松謙澄編 明治二五 再版 和・小 — 一 イ一三 九四二
韓詩講義 森泰二郎述・森川鍵校 明治四三 洋・小 — 四 イ一三 九四三
咏物詩選註釋 八卷 清・易開綺・孫洧鳴撰 光緒元 唐・小 — 二 イ一三 九四四
江戶夢華詩 沖冠嶺編 明治一一 唐・小 — 二 イ一三 * 九四四
通俗繪本三國志 三〇卷 鶴廬社刊 明治一八 洋・小 — 二 イ一三 九四五
詩韻含英 卷一至八 清・劉文蔚編・秦鼎校 和・小 — 一 イ一三 九四六
掌中增補詩礎階梯 三國鷹集編・山田梨雨補 明治五 — 帖 イ一三 一〇二六
助辭譯通 岡白駒撰（寶曆一二） 和・中 — 三 イ一三 一〇三二
草字彙 一二集 清・石梁編 明治一三 和・小 — 六 イ一三 一〇五〇
草書淵海 四卷 井田臥溪編 （延寶三） 和・大 — 二 イ一三 一〇五一
增續大廣益會玉篇大全 一〇卷・首一卷 毛利瑚珀編 明治五 六刻 和・中 — 一二 イ一三 一〇五三
增續大廣益會玉篇大全 一〇卷・首一卷 毛利瑚珀編 明治一六 九刻 唐・小 — 三 イ一三 一〇五四
鼇頭熟字增補伊呂波韻集成 星野隆吉編 明治一一 — 帖 イ一三 一〇五七
頭書字彙 一二集・首・附・末各一卷 明・梅膺祚撰・愉室增註 天明七 和・大 — 一五 イ一三 一〇七七
佩文韻府 一〇六卷・拾遺一〇六卷 明治二九 再版 唐・中 清・張玉書等奉勅編・嚴谷修等校 — 六三 イ一三 一〇九四
譯筌 初編六卷・首一卷 外題譯文筌蹄 荻生雙松口授・聖默・吉有鄰筆受 正德五 和・中 — 六 イ一三 一一一〇

〇

朝夷巡嶋記全傳 第八編迄 曲亭馬琴・松亭金水編・豐廣・爲齋畫 文化一二至安政五 和・中 — 四〇 イ一三 九二九
熱海調音詩詞集 小島泰堂編 明治一九 和・中 — 二 イ一三 九四〇
葦杭游記 一卷・附錄一卷 胶野琢撰（明治四二） 唐・大 — 一 イ一三 九四一
伊藤公國葬餘韻 二卷 末松謙澄編 明治二五 再版 和・小 — 一 イ一三 九四二
韓詩講義 森泰二郎述・森川鍵校 明治四三 洋・小 — 四 イ一三 九四三
咏物詩選註釋 八卷 清・易開綺・孫洧鳴撰 光緒元 唐・小 — 二 イ一三 九四四
江戶夢華詩 沖冠嶺編 明治一一 唐・小 — 二 イ一三 * 九四四
通俗繪本三國志 三〇卷 鶴廬社刊 明治一八 洋・小 — 二 イ一三 九四五
鼇頭圓機活法 八卷・山崎昇編 韻學 明治一五 唐・小 — 二 イ一三 九四六
延年集 木畑竹三郎編 明治三六 和・中 — 一 イ一三 九四七
大磯紀勝 長谷川一彥撰 明治三一 唐・中 — 一 イ一三 九四八
大磯竹枝 附・淘綾漁唱 長谷川正直撰 明治三三 唐・小 — 一 イ一三 九四九
櫻陰遺稿 五卷 芳野世行撰 明治一一 和・中 — 三 イ一三 九五〇
甌北詩鈔 清・趙翼撰（乾隆五五） 唐・中 — 八 イ一三 九五一
甌北詩話 一二卷 清・趙翼撰（文政一一） 和・中 — 四 イ一三 九五二
岡山紀勝 木畑道夫編 明治一七 和・小 — 一 イ一三 九五三
幼稚百人一首寶箱 繪入 和・大 — 一 イ一三 九五六
繪原有聲畫集 附錄消閒文 三島毅撰・同桂編 大正八 和・大 — 一 イ一三 九五四
果園雜咏百首 果園撰 寫本 和・中 — 一 イ一三 九五五
桂の落葉 二卷 香川景樹撰 天保一四 和・小 — 一 イ一三 九五七
金澤名勝題詠集 附・金澤文庫略考 佐藤忠藏編 明治二〇 和・小 — 一 イ一三 九五八
歌林良材摘抄 寫本 和・小 — 一 イ一三 九五九
敢爲篇 馬場毅撰 明治二七 和・中 — 一 イ一三 九六〇
觀光紀游 一〇卷 岡千仞撰 明治二五 再版 和・小 — 三 イ一三 九六一
觀世流謠本 零本 明治一二至一六 和・中 — 六 イ一三 九六三
朝鮮歸好餘錄 五卷 石幡貞撰 明治一一 和・中 — 三 イ一三 九六四

御選唐宋詩醇 四七卷・目二卷 清・高宗編・浙江書局刊 明治一三 和・小 二〇冊 イ一三 類 九六六 號

金聲玉音下 渡邊元成編 明治一〇 唐・小

今世名家文鈔 八卷 安政二 月性編 和・小

空洞遺稿 石坂堅壯撰 明治三二 和・中

熊橿集 第二編 甲斐一彥編 明治二四 和・中

荊石遺稿 二編 窪田之貞撰 和・中

同

螢雪軒叢書 二十四詩品外五五種 明治二六至三〇 初・再版 近藤元粹評訂 唐・小

源語奧旨 近藤芳樹撰 明治九 和・小

源語忍草 北村季吟撰 和・大

晁山紀勝並 松島紀行 大村斐夫撰 明治一六 和・小

廣三大家絕句 大窪行・菊池桐孫編 文化九 和・中

浩蕩詩程 諸家投贈附 明治三二 森泰二郎撰 唐・小

輯註增補 高靑邱全集 詩集一八卷・遺詩拍較集・附錄二冊・首卷一冊 清・金禮鞮注・近藤元粹評訂 明治二八至三〇 唐・小

興風集 松下邨塾刊 明治元 和・小

詩稿 寫本 和・中

詩語玉林 一〇卷 明治四 群玉堂刊 和・小

詩語碎錦 永田忠原編 天保一二 三刻 和・小

自讚哥注 二卷 飯尾宗祇撰 寫本 和・中

詩鈔 寫本 和・中

標註 支那時文讀本 大野德孝編譯 明治三七 唐・大

支那文學全書 二四編（內編一二缺） 博文館編 明治二五至二七 初至三版 洋・小

黃葉夕陽村舍詩 八卷・附錄二卷・後編八卷 菅晉師撰 文化九・文政六 和・大

黃葉夕陽村舍詩 八卷・附錄一卷・後編八卷・遺稿七卷・附錄一卷・文四卷・附錄一卷 菅晉師撰 明治二九 和・小

魁本大字諸儒箋解古文眞寶 前集	明治一三	和・小	二	イ一三	九六六
魁本大字諸儒箋解古文眞寶 後集	元文五	和・大	一	イ一三	九六八
骨筆題詠並 江南游草	吉嗣拜山編撰（光緒四）	唐・小	二	イ一三	九六九
作詩法講話	森泰二郎講・大澤眞吉・土屋政朝校	明治四五 三版 洋・小	一	イ一三	九七〇
作文眞訣	伊藤長胤撰	寫本 和・中	一	イ一三	九七一
棧雲峽雨日記 并 詩草	竹添進一郎撰	明治一二 唐・中	一	イ一三	九七二
三體詩評釋	卷下坤缺	明治二六・二七 和・小	三	イ一三	九七三
山陽遺稿	文一〇卷・詩七卷・拾遺・附錄各一卷	賴襄撰・後藤機校 天保一二 和・大	八	イ一三	九九九
山陽詩鈔 八卷	安政三 賴襄撰・後藤機校	改正 和・大	四	イ一三	一〇〇〇
山陽詩鈔	賴襄撰	寫本 和・小	一	イ一三	一〇〇一
山陽詩註 初輯四卷	燕石陳人註・錶齋漫士校補	明治二 和・小	一	イ一三	一〇〇二
山陽先生書後 三卷・附同題跋二卷	賴襄撰・兒玉愼編	和・大	四	イ一三	一〇〇三
詩稿	寫本	和・中	一	イ一三	一〇〇六
詩語玉林 一〇卷	明治四 群玉堂刊	和・小	一	イ一三	一〇〇七
詩語碎錦	永田忠原編	天保一二 三刻 和・小	二	イ一三	一〇〇八
自讚哥注 二卷	飯尾宗祇撰	寫本 和・中	一	イ一三	一〇〇九
詩鈔	寫本	和・中	一	イ一三	一〇一〇
標註 支那時文讀本	大野德孝編譯	明治三七 唐・大	二	イ一三	一〇一一
支那文學全書 二四編（內編一二缺）	博文館編	明治二五至二七 初至三版 洋・小	二三	イ一三	一〇一三

詩法纂論 一〇卷 明治一四 和・小 一名千金譜錄要 清・余丙照編・岸田吟香點 二 イ一三 一〇一四

詩法纂論續編 五卷 明治一七 和・小 清・游藝編・小野長愿抄・岸田吟香點 二 イ一三 一〇一五

詩法掌韻大成 卷四至六 享保五 和・小 安藤由越編 一 イ一三 一〇一六

謝選拾遺 七卷 （嘉永二） 賴襄編・同綱校 和・大 五 イ一三 一〇一七

首書三體詩 松永昌易標註 明曆三 和・大 三 イ一三 一〇一八

壽帖 木山巖太郎編 （明治四五） 和・小 一 イ一三 一〇一九

殉難拾遺 二卷 明治二 馬場文英編 和・小 一 イ一三 一〇二〇

春颿遺稿 河野通胤撰・石橋敎編 （明治二二） 唐・大 一 イ一三 一〇二一

硝煙墨雨記 西毅一撰 （明治一四） 和・小 一 イ一三 一〇二二

小學中等讀本 木澤成鼎編 明治一五至一七 再・三版 和・中 三 イ一三 一〇二三

常山先生詩集 湯淺元禎撰 寫本 和・大 一 イ一三 一〇二四

掌中桂園一枝 香川景樹撰 天保一一 和・小 一 イ一三 一〇二五

小文規則 賴襄編 嘉永六 和・中 一 イ一三 一〇二七

諸家文集 寫本 和・大 一 イ一三 一〇二八

諸君詩集 湯淺元禎編 寫本 和・大 一 イ一三 一〇二九

諸子紀事鈔 寫本 和・大 一 イ一三 一〇三〇

書法正傳 一〇卷 清・馮武編 和・中 六 イ一三 一〇三一

詞林舊稿 和田正尹編 寫本 和・中 三 イ一三 一〇三三

新安手簡 校正四卷・附錄一卷（天明七） 立原萬編 和・大 一 イ一三 一〇三四

廿四家選 清廿四家詩 中島一男編 明治一一 唐・中 二 イ一三 一〇三五

新評戲曲十種 甲・乙 依田百川・小永井八郎評 明治一三・一四 唐・中 二 イ一三 一〇三六

新評繡像紅樓夢全傳 一二〇回 清・王希廉評 光緒三 唐・小 二四 イ一三 一〇三七

新文詩 正集初至三編六冊・別集初編二冊 森魯直編 唐・小 八 イ一三 一〇三八

水滸後傳 四〇回 雁宕山樵原撰・森泰二郎編譯 明治二六至二八 初至四版 和・小 七 イ一三 一〇三九

醉古堂劍掃 一二卷 嘉永六 明・陸紹珩編 和・小 五 イ一三 一〇四〇

星巖詩集 附・紅蘭小集 梁川孟緯撰 明治二七 和・小 二 イ一三 一〇四一

西湖四十字詩集 （飯塚納撰） （明治三六） 和・小 一 イ一三 一〇四二

西廂記 卷一・二 岡島獻太郎譯述 明治二七 再版 唐・中 二 イ一三 一〇四三

西遊詩稿 橋本半助撰 明治九 和・中 一 イ一三 一〇四四

尺牘彙材 卷四・五 中敬之編 文化五 求版 和・小 一 イ一三 一〇四五

節齋遺稿 森田益撰 明治一五 和・大 二 イ一三 一〇四六

雪青洞詩鈔 稻垣茂松撰 明治二七 和・中 二 イ一三 一〇四七

同 二 イ一三 一〇四八

蒼海遺稿 副島種臣撰・同道正編 明治三八 和・中 一 イ一三 一〇四九

澡泉日記 大村斐夫撰 明治二五 和・中 一 イ一三 一〇五三

增評唐宋八家文讀本 三〇卷・目一卷 清・沈德潛評點・賴襄增評 安政二 和・中 一六 イ一三 一〇五五

同 一六 イ一三 一〇五六

藏名山房文 初集六卷 岡千仞撰 大正九 唐・中 三 イ一三 一〇五八

	冊	類	號
續文章軌範百家批評註釋 七卷 明・焦竑評校・李廷機註閱 正德五 和・大	二	イ一三	一〇五九
曾我物語 繪入 寛文三 和・大	一二	イ一三	一〇六〇
繪入 太平記 四〇卷 明治一九 洋・小	二	イ一三	一〇六一
檀欒集 第一至三四集 岩溪管編 明治三六至三九 唐・小	四	イ一三	一〇六二
忠義水滸傳 百回本 岡島璞譯編・共同出版株式會社校刊 明治四〇 洋・中	二	イ一三	一〇六三
蟲聲鳥語集 西毅一撰 明治二〇 唐・大	一	イ一三	一〇六四
陳龍川文鈔 宋・陳亮撰・藤森大雅校 文久三 和・大	三	イ一三	一〇六五
追遠集 雀部高信編 明治二五 和・中	一	イ一三	一〇六六
月瀨記勝 一卷・附錄一卷 明治二四 和・小	二	イ一三	*一〇六七
天保三十六家絕句 三上恒編 天保九 和・中	三	イ一三	一〇六八
陶淵明集 八卷・首尾各一卷 曾・陶潛撰・近藤元粹評訂 明治二九 三版 唐・小	二	イ一三	一〇六九
東嶽文抄 石幡貞撰 明治四三 和・大	四	イ一三	一〇七〇
鏡歌餘響 一卷・後編一卷（明治三八・三九） 骏野琢撰 和・中	二	イ一三	一〇七一
藤公詩存 伊藤博文撰・末松謙澄編 明治四三 和・中	一	イ一三	一〇七二
東湖先生遺文 藤田彪撰 慶應四 和・小	一	イ一三	一〇七三
諸家集註 唐詩三體家法 既康堂刊 元祿一六 和・大	三	イ一三	一〇七四
唐詩選評釋 八卷 森泰二郎撰 明治二五至三〇 洋・小	六	イ一三	一〇七五
唐詩選評釋 八卷（內卷五缺） 森泰二郎撰 明治二五至三〇 洋・小	五	イ一三	一〇七六
脚本は佛國世界は日本 當世二人女婿 長田忠一原譯・依田百川編 明治二〇 和・中	二	イ一三	一〇七八

	冊	類	號
精刊 唐宋千家聯珠詩格 二〇卷 宋・于濟・蔡正孫編・大窪行校 文化元 和・大	五	イ一三	一〇七九
東萊博議 宋・呂祖謙撰・明・黃之寀校 寛政一一 和・小	四	イ一三	一〇八〇
杜詩講義 森泰二郎述・三谷仲校 明治四五 洋・小	三	イ一三	一〇八一
訥軒遺稿 近藤眞鋤撰・高橋剛吉編 明治二六 和・大	一	イ一三	一〇八二
杜律集解 五言四卷・七言二卷 貞享二 和・大	三	イ一三	一〇八三
南郭先生文集 第三編卷三・四・第四編卷二・三 服部元喬撰 寫本 和・大	二	イ一三	一〇八四
南總里見八犬傳 九輯 瀧澤馬琴撰 明治三六・三七 一〇至一六版 洋・小（帝國文庫本）	三	イ一三	一〇八五
日光山八景詩集 矢田陪好古編 正德二 和・大	一	イ一三	一〇八六
日本八大家文讀本 八卷 石川英批撰 明治一六 和・中	四	イ一三	一〇八七
日本文學全書 第四至七・九至一四編 博文館編 明治二三至二五 初・再版 洋・小	二〇	イ一三	一〇八八
日本名家詩選 七卷 藤元湧編 安永四 和・小	一	イ一三	一〇八九
寧靜閣一集 四卷 大槻清崇撰 弘化五 和・中	三	イ一三	一〇九〇
後佐夜佐夜草 岡大人古稀祝賀會編 （大正五） 和・小	一	イ一三	一〇九一
梅花唱和集 福原公亮刊 明治二六 唐・小	一	イ一三	一〇九二
梅邨詩藁 寫本 和・大	一	イ一三	一〇九三
麥浪園遺珠 廉齋遺稿一卷・確堂遺稿二卷 山本憲編 明治三〇 唐・大	三	イ一三	一〇九五
花のはやし 托心會刊 和・小	一	イ一三	一〇九六
磐溪詩鈔 二編中・下（安政五） 大槻清崇撰 和・中	二	イ一三	一〇九七
樊南文集詳註 卷五至八（同治七） 清・馮浩撰 唐・大	二	イ一三	一〇九八

徹山遺稿	西毅一撰 大正三 和・中	一	イ一三 一〇九九
彼此一時遊	西毅一撰 明治一九 和・中	二	イ一三 一一〇〇
標註訓譯水滸傳 七〇回	平岡龍城撰 大正四・五 和・中	一五	イ一三 一一〇二
馥玉集 卷下	加納諸平編 文政一一 和・小	一	イ一三 一一〇三
福堂遺稿	陸奥宗光撰 明治四〇 唐・大	一	イ一三 一一〇四
文章軌範纂評 七卷	安藤秉撰（安政四） 和・大	三	イ一三 一一〇六
校刻文章軌範評林 卷一至四 補訂	伊藤龜年補訂 和・大	二	イ一三 一一〇七
文林良材 六卷	林九兵衛刊 元祿一四 和・中	四	イ一三 一一〇八
都土産 二卷	繪入 宗久撰 元祿八 和・中	一	イ一三 一一〇九
明詩歸 卷六	寫本 明・鐘惺・譚元春編	一	イ一三 一一一〇
明詩材 二卷	龍秀松編・屈三秀補 （寶曆八） 和・小	一	イ一三 一一一四
明詩節義集	土井忠純編・宮島純熙補 明治三 和・小	二	イ一三 一一一一
明詩礎 二卷	田重卿・原良延編 元文四 和・小	二	イ一三 一一一五
明詩別裁集 一二卷	清・沈德潛・周準編 和・小	六	イ一三 一一一三
名家詩抄	寫本 和・大	一	イ一三 一一一三
もくす集	花房端連撰 和・大	一	イ一三 一一一六
もくす集	花房端連撰 明治三三 和・大	一	イ一三 一一一七
同		一	イ一三 一一一八
盛長私記 五一卷（內卷一至三・二四至二七・三八・三九缺・卷五原缺）	寫本 和・大	一六	イ一三 一一一九

幽室文稿	吉田矩方撰 明治三 和・中	一	イ一三 一一二一
幽囚錄	吉田矩方撰 慶應四 和・小	二	イ一三 一一二三
餘香詩存	三谷伸之助編 大正五 唐・中	一	イ一三 一一二三
吉野拾遺名歌譽	依田百川編 明治二〇 和・中	二	イ一三 一一二四
蘭亭先生詩集 卷九・一〇	高野惟馨撰 寫本 和・大	一	イ一三 一一二五
李義山詩講義 附・李義山	森泰二郎述・森川鍵校 大正三至六 洋・小	三	イ一三 一一二六
李詩講義	森泰二郎述・森川鍵校 大正二 洋・小	二	イ一三 一一二七
陸象山先生文抄	桑原忱編（文久三） 和・中	四	イ一三 一一二八
朗廬全集	阪谷素撰・阪田丈平編 明治二六 洋・中	一	イ一三 一一二九
和歌題林抄	寫本 和・小	一	イ一三 一一三〇
ワガハイハネコデアル	夏目金之助撰 大正七 四二版 洋・小	一	イ一三 一一三一
和歌ふるの山ふみ	城戶千楯編（文政七） 和・小	四	イ一三 一一三三
和哥八重垣 三・七	元祿一三 和・小	二	イ一三 一一三三
わすれかたみ	渡邊圭子撰・同修二郎編（明治三二—謄寫版） 和・大	一	イ一三 一一三四

雜

甌香雅集錄	（明治一二） 唐・小	一	イ一三 *九〇二
オキシヘラー哲學	矢野恒太撰 大正七 洋・小	一	イ一三 九〇三
學問ノスヽメ 一七編（內第一二編以下缺）	福澤諭吉・小幡篤次郎撰 明治六・七 初・再版 和・小	一	イ一三 九〇四
脚氣病原因ノ研究 第三・四	遠山椿吉撰 洋・中（雜誌顯微鏡本）	二	イ一三 九〇五

書名索引

拾珍御伽璣訓蒙鑑草	環中仙撰	和・中	一冊	イ一三類	九〇六號
甘雨亭叢書 五集三二種・別集第一集一七種	板倉勝明編	弘化二至安政三	四八枚	イ一三	九〇七
訓閲集 流矢卷大事外四種		寫本 和・小	五	イ一三	九〇八
山陽象山東湖 金玉眞蹟	鹿野至良編	明治一三 唐・小	一	イ一三	九〇七
明治二年八月 慶應義塾新議 附・藏版目錄・慶應義塾同社撰		明治二 和・中	一	イ一三	九〇九
藝者論 追加之部添	矢野恒太撰	明治四五 四版 洋・中	二	イ一三	九一〇
結核病院及結核療養所ノ建築法竝ニ結核豫防法	內務省衞生局刊	大正二 洋・中	一	イ一三	九一一
民家日用 廣益祕事大全 三卷	綉入三松館主人撰	嘉永六 和・大	五	イ一三	九一三
皇典古籍に志しある少年教育の學科書に用ふへきもの	小中村清矩草	寫本 和・大			
甲陽軍鑑結要本 九卷		寫本 和・大			
甲陽軍鑑末書下卷九品	尾畑勘兵衞編	寫本 和・大	結 八	イ一三	九一四
國華索引 第一至一四四號	國華社刊	明治三五 洋・中	結 九	イ一三	九一五
國朝畫徵續錄 二卷	清・張庚撰	和・中	一	イ一三	九八九
國定敎科書編纂趣意書 追加・續篇共	文部省編	明治三七・三八 洋・中	一	イ一三	九九〇
閑谷黌基金募疏	閑谷保黌會刊	(大正六) 和・大	三	イ一三	九一六
墨妙眞蹟 詩文瀧帖	頼襄書・永尾銀次郎編	明治一二 唐・小	一	イ一三	九一七
昌平遺響	高橋勝弘編	(明治四五) 洋・中	一	イ一三	一〇一三
孫吳副詮	佐藤坦撰	(天保一三) 和・大	一	イ一三	九一八
孫子合契	佐々木世元撰	安政二 和・大	二冊	イ一三類	九一二號
地方衞生技術官協議會講演集 傳染病豫防に就て(北里柴三郎)外九編	內務省衞生局刊	明治四三 洋・中	一	イ一三	九一三
茶味論	池田茂政撰	寫本 和・大	一	イ一三	九一三
東京高等師範學校沿革略志	同校刊	明治四四 洋・中	一	イ一三	九一四
統率に關する原理の研究 第一卷	筧克彥述	大正二 洋・中	一	イ一三	九一五
內閣文庫圖書第二部漢書目錄	內閣書記官室編	大正三 洋・中	一	イ一三	九一六
中臣祓淵源 七ケ條・附神道之歌	藤野雅俊撰	寫本 和・大	一	イ一三	九一七
隆熙三年日用便覽	農商工部觀測所編	隆熙二 洋・小	一	イ一三	九一八
日蓮聖人御遺文	加藤文雅編	明治三 訂正再版 洋・小(本化聖敎天)	一	イ一三	九二九
閣龍世界博覽會美術品畫譜 第一至四集	久保田米僊畫	明治二六・二七 帖	四	イ一三	一一〇一
備忘 薄蒼ノ事等		寫本 和・中	一	イ一三	九三〇
標題武經七書全文 七卷・鼇頭直解開宗		清・汪桓校 弘化三 和・大	五	イ一三	九三一
武經七書摘抄		寫本 和・大	一	イ一三	九三二
芬雲芳雨	木村剛編	明治一三 唐・小	三	イ一三	※一一〇五
慕氏兵論 第一至四編	蘭・ミルケン撰・曾田勇次郎譯	文久三 和・大	八	イ一三	九三三
本邦人間ニ屢〻見ル所ノ輕症糖尿病ニ就テ	岩井禎三撰	洋・大	一	イ一三	九三四
無病長生養生之法 并天壽補元丹來田功能書		延壽堂刊 和・中	一	イ一三	九三五
校訂 藥名備考和訓鈔	丹波顧理編・山邊延年校	天保二 再刻 和・大	七	イ一三	九三六
和漢武家名數 卷四	神田白龍子編	和・中	一	イ一三	九三八

本館使用假名遣表

イ	ヰ	
エ	エ	
オ	ヲ	
オウ	アウ・アフ・オフ・オホ・ワウ	
カ	クワ	
カイ	クワイ	
カク	クワク	
カツ	クワツ	
カン	クワン	
キュウ	キウ・キフ	
キョウ	キャウ・ケワ・ケフ	
コウ	カウ・カフ・クワウ・コフ	
ジ	ヂ	
シュウ	シウ・シフ	
ジュウ	ジウ・ジフ・ヂュウ	
ショウ	シャウ・セウ・セフ	
ジョウ	ジャウ・ゼウ・ヂョウ・デウ・デフ	
ズ	ヅ	
ソウ	サウ・サフ	
チュウ	チウ・チフ	
チョウ	チャウ・テウ・テフ・	
トウ	タウ・タフ	
ニュウ	ニウ・ニフ	
ニョウ	ネウ・ネフ	
ノウ	ナウ・ナフ	
バ	ヴァ・ヴ	
ビ	ヴィ・ヰ	
ビュウ	ビウ	
ヒョウ	ヒャウ・ヘウ	
ブ	ヴ	
ベ	ヱ	
ホウ	ハウ・ハフ	
ミョウ	ミャウ・メウ	
モウ	マウ	
ユウ	イウ・イフ	
ヨウ	エウ・エフ・ヤウ	
リュウ	リウ・リフ	
リョウ	リャウ・レウ・レフ	
ロウ	ラウ・ラフ	

書名索引

ア

愛護初冠女筆始（アイフヲイコウブリ） 頁 一〇三
愛校心の養成 一九〇
愛吾鼎齋藏器目 一六九
愛日齋叢抄 一四三
愛日堂詩集 二四四
愛兒の教育と其學校の選擇 一九〇
愛書五十年 一 二五三
會津神社之訓詞 二五三
會津高倉社勸進帳 七六
會津塔寺村八幡宮長帳 一八四
會津風土記 九一
愛染明王影向松 九五
愛知縣勢要覽 七三
愛と死 一二四
アイヌ研究の現狀 二一三
アイヌ語の本質 二一三
アイヌの生活の變遷 二一三
アイヌの生活と博物館のア
イヌ品陳列棚 二一三
壒嚢鈔 一七
哀蘭絕句 一六三
愛倫地誌 一一三
饗庭篁村 一九七
あふひつくり 二三〇
奏文庫 三三
青本年表 七三
青森縣統計書 二七二
青柳館文庫藏書目錄 四
赤井系圖 六
亞槐集 一〇三
赤城大明神緣起 一九〇
赤染衞門集 一三二・一三七
朝顏日記 八三
淺草志 二三〇
淺草地名考 四三
朝熊山緣起 五一・六三
朝倉宗滴話記 二二五
朝倉亭御成記 七六
朝倉敏景十七箇條 一八四
朝倉敏景條々 一四〇・一五一・一五九
朝清水記 一九五
朝思卿集 一九五
朝寐 一九五
阿娑縛三國明匠略記 一九五
朝日講演集 二一〇
朝日年鑑 七六
朝日物語 一〇六
麻布聞人に答ふる文 八五
朝光卿集 七四
亞細亞 二三一
亞細亞時論 二三五・二八
亞細亞地誌 六六
亞細亞に於ける歐洲の勢力 六六
足利學校遺蹟圖書館貴重書 三五七
目錄 四
足利學校遺蹟圖書館現藏貴 二六一
重書を一瞥して 七三

秋田縣立秋田圖書館和漢圖 二七三
書分類目錄 四
秋田縣立圖書館鄉土文獻綜 四
合目錄 五〇六二
顯綱家集 五一六二
阿寄傳 三一〇
顯時卿改元定記 二一四
秋の寐覺 八二
秋野之諸虫軍談 二〇一
秋の夜の長物語 八七
秋はきの譜 五一六二
秋山系圖 五三六五
惡因緣 五三六五
握奇經 五六
惡德矯正法幷びに圖表 五〇六二
惡德の解剖 五三六五
惡德の種類及び原因の圖表 五六
安愚樂鍋 一七七・二五六
明智系圖 四九六二
明智日向守光秀百韻 五九
明智光秀張行百韻 五〇六二
朱樂館家集 二一四
赤穗義士隨筆 二三五
赤穗義人纂書 二三二
赤穗義人纂書補遺 二六〇
赤穗義人錄 二七〇
赤穗義人錄後語 二三五
赤穗四十七士傳 二三五
あこぎの平次 二三五
淺井系圖 二三五

朝夷巡嶋記全傳 二九三
あさいなしまわたり 七四
淺井備前守宿所饗應記 八六
朝顏・海鼠・河豚・走百疾・番
椒・白魚 四三
朝顏日記 三三
淺草志 二二九
淺草地名考 二二九
朝熊山緣起 八二
朝倉宗滴話記 二〇一
朝倉亭御成記 八七
朝倉敏景十七箇條 五三六五
朝倉敏景條々 五三六五
朝清水記 一〇六
朝思卿集 五〇六二
朝寐 一八二
阿娑縛三國明匠略記 八〇
朝日講演集 二一一
朝日年鑑 三三
朝日物語 八七
麻布聞人に答ふる文 一八〇
朝光卿集 五〇六二
亞細亞 二三六
亞細亞時論 二三六
亞細亞地誌 二一三
亞細亞に於ける歐洲の勢力 二〇九
足利學校遺蹟圖書館貴重書 四
目錄 一二一〇
足利學校遺蹟圖書館現藏貴
重書を一瞥して
足利學校遺蹟圖書館藏書假
名別目錄 四
足利學校遺蹟圖書館藏書目錄 四
足利學校藏書幷附考 四四一
足利學校藏書目錄 四
足利系圖 七七
足利家官位記 四六・五六
足利將軍傳 三五
蘆田記 八七
あしたの雲 五六・六八
蘆名家記 五三六五
葦の若葉 一七三
阿州將裔記 五三六五
阿修羅愚考 四〇
阿修羅帖序 一九七
あしわけをぶね 一八六
蘆分船 九五・九九
明日香井和歌集 五〇六二
飛鳥川（續共） 七二・二一七
飛鳥山碑始末 一〇五
アヌキス夫人自敍傳 一一六
足助八幡宮緣起 七六
梓神子 一九五
東遊歌圖 五二・六四
吾妻鏡 七〇
東鑑異本考 一〇五
吾妻鏡抄 一〇四
東系圖 七八
吾妻路之記 一七一
東路の津登 五二・六四

東路の津登抄　一〇四
東の花勝見　二一四
あづまの道の記　五二六四
吾妻むかし物語　一〇〇
吾妻めぐり　三三九三
吾妻問答　五一六三
東野州聞書　四八五九
東野州消息　七九
阿蘇三社大宮司系圖　五三六五
阿蘇大宮司惟澄申狀　九九
阿曾沼興廢記　一八三
あそび　一九三
熱海調音詩歌集　一九七
熱海に關する追憶　一九六
熱海町の爲のペーヂェント　三三八
熱海漫談　一九九
熱海游記　一九六
新しい劇と新しい觀客　七六
熱田講式　一八
熱田神宮寶物陳列目錄　一〇六
熱田神宮略記　四五七七
熱田太神宮緣記　一〇六
熱田太神宮御鎭座由來記　五〇六三
敦忠卿集　七六
熱田宮祕釋見聞　四三
熱田宮雀　四四
熱田彌勒院由緒書　七三
敦盛　三三
後見草　二一〇
兄か伯父か　一九七
アメリカ新聞論　一八六
亞米利加魂　二一三
アメリカニズム　四六・五六・七九
綾氏系圖　一八四
綾小路俊量卿記　一七三
新井家系　八五
新井白石全集　一八九
新井白石全集原稿　四七五九
新井白石先生著書目錄　五三六五
洗張浮世模樣　八三
荒井流鷹書　八九
荒木系圖　二一六
荒木田守武句集　七九
荒木略記　五〇六三
暴夜物語　二一八
安良滿保志　五六六七
荒山大捷之碑記事　一七七二七八
荒山合戰記　五六六七
有賀博士の教育勅語に關する意見に就て　一五〇
有賀博士の神道國教論を讀む　八五
在原氏系圖　八六
在原業平朝臣辨　一〇五
ありべかゝり　一〇五
有馬系圖　九四
有馬日記　五五六六
有馬晴信記　一七三
有馬山温泉記　一五
有馬山温泉記追加　一九三
ある富豪の夢　一九六
あるまじ　二一七
安齋隨筆　三四
安齋筆記　九三
晏子春秋　一三三
安城記　一〇四
安祥寺資財帳　一四八
安心決着論　九〇
安政尾鑑　一八九
安撰和歌集　四七五
安鎭清姬略物語　四一
安鎭法日記　八九
安東郡專當沙汰文　五六六七
安藤系圖　七九
安得長者言　一六六
安德天皇御五十日記　五六六八
安德天皇御即位記　八三
アントニーとクレオパトラ　一九四
アンドルウ・マアヹル　二一〇
アンドレアス・タアマイエルが遺書　一八五
按納言集　五〇六三
安南紀遊　一五八・一六八
安南紀略藁　一六三
安南雜記　一三九・一五七
安般窣集　一六九
安法法師集　五二・六三
安養開山勅諡正眼智鑑禪師年譜　八一
安樂寺菅丞相祠堂記　七六
安樂寺略緣起　八八
安齋雜考　三一〇
伊香氏系圖　二三〇
醫家千字文註　一四四・一六七
いかつち論　七四
如何なる人が最もよく笑ふか？　一九五
如何にせば大優人たるを得べきか　一九八
生きた新聞廣告論　二四一
醫業禁停の處分を論ず　一六六・二三三
隼居聽輿　一三一・二四四
英吉利研究　一一三
イギリス新聞論　二四一
郁子譜并圖　一〇四
生田川　一〇四
郁芳門院根合　一八三
郁離子微　五〇六一
諱訓抄　一五二
池田叢書　九二
池坊專應口傳　八六
意見　八六
夷堅志　一六三・一六四
意見十二箇條　一六三
醫原樞要內編　一七三
醫學の說より出でたる小說論　一五六
猗覺寮雜記　一六六
惟賢比丘筆記　一七
鷄林子　一七九
醫家千字文註　一四四・一六七
石黑軍醫監に上る書の一節　一八五
石島系圖　七九
異疾志　一六一
怡志堂詩初編　二四四
怡志堂文初編　二五一
石野系圖　七八
醫武の前後期を合并せんとする議を駁す　一四六
以尺報尺　一八六
石山千句　一九四
石山月見記　八五
石山寺緣起　八六
石山百韻　五五六七
倚松閣詩鈔　八六
井尻又九郎若道之勸進帳　二四四
維新以後帝國統計材料彙纂　一〇六
異人恐怖傳　二七三
惟新公自記　六九
詒晉齋集（後集・隨筆共）　九五
惟清齋全集　一三八・一三九
維新前民政資料蒐集目錄　二三五
維新前民政資料選拔目錄幷解題　一七五
維新前民政資料碑文集　一七五
維新當初の御用金穀の調達と會計基金　八六
維新の出典と其の新解釋　二七
維新史の見方一二　二七三
何處に神を禮拜すべき　二七三
伊豆志の八前の大神考　一〇六
伊豆國神階帳　四五・五七
和泉式部集　五二・六三
和泉式部續集　六九・八五・九七
和泉式部日記　五二・六三
和泉國神名帳　七六
出雲大社記　九三
出雲國造神壽後釋　一七七
出雲國風土記　九三
頤生輯要　一七二
異制庭訓往來　四八・五九
伊勢加賀守貞滿筆記　八八
伊勢紀行　五二・六三
伊勢公卿勅使雜例　八五
伊勢系圖　七六
伊勢源氏十二番女合　五二・六三
伊勢皇大神宮高欄擬寶珠考　一九一
伊勢貞興返答書　八八
伊勢貞助雜記　八八
伊勢貞親以來傳書　八八
伊勢貞親教訓　九三
伊勢三郎義盛忍百首　四三
伊勢集　五一・六三
伊勢信仰記　四三
伊勢大神宮參詣精進條々　七六
伊勢大輔集　五二・六三
異說まち〳〵　二二六
伊勢二宮さき竹の辨　一七七・一七八
伊勢二所皇太神宮御鎭座次第記　七五

韋菴經說　一三八
長庵隨筆　二一六
飯尾宅御成記　五四六五
井伊系圖　七九
井伊大老と開港　二六一
井伊直弼の傳　二六二
家つと　四四七四四
家經朝臣集　六九九七
家の昔物語　一七七・一七八
家光公御疱瘡御祈念之連歌百韵　四四二九・二五三
維園鉛槧　一五四
いわうがしま　七三
いほぬし　四一五・六三
猪飼敬所先生書柬集　一〇〇
違碍書目　四
醫學　二一三
醫學啓蒙　一七六
醫學續記　一三三
醫學大辭書　三一
醫學統計論の題言　一六六
醫學讀書記　一三三
醫學と現代生活　一〇六
醫學の說より出でたる小說論　一八〇
猗覺寮雜記　一四四・一六二・一六四・三四〇
遺史記聞　一四四・一六七
石黑軍醫監に上る書の一節　一八五
石島系圖　七九
異疾志　一六一
怡志堂詩初編　二四四
怡志堂文初編　二五一
石野系圖　七八
醫武の前後期を合并せんとする議を駁す　一四六
以尺報尺　一八六
石山千句　一九四
石山月見記　八五
石山寺緣起　八六
石山百韻　五五六七
倚松閣詩鈔　八六
井尻又九郎若道之勸進帳　二四四
維新以後帝國統計材料彙纂　一〇六
異人恐怖傳　二七三
惟新公自記　六九
詒晉齋集（後集・隨筆共）　九五
惟清齋全集　一三八・一三九
維新前民政資料蒐集目錄　二三五
維新前民政資料選拔目錄幷解題　一七五
維新前民政資料碑文集　一七五
維新當初の御用金穀の調達と會計基金　八六
維新の出典と其の新解釋　二七三
維新史の見方一二　二七三
何處に神を禮拜すべき　二七三

伊勢二所皇太神宮御鎭座傳記　一七五
伊勢二所皇太神宮神名祕書　一七五
伊勢の家つと　一〇〇
伊勢守貞忠亭御成記　五四・五五
伊勢守貞親以來傳書　八八
伊勢守護御系圖　一〇六
伊勢國多度神宮寺伽藍緣起　九〇
　幷資財帳
伊勢國風土記　五六・六七
伊勢兵庫守貞宗記　八八
伊勢備後守貞明覺悟記　八八
伊勢平藏家訓　一〇一
伊勢町元享間記　九六
伊勢筆軍記　八七
伊勢物語　五二・六三・八六
伊勢物語惟清抄　八六
伊勢物語愚見抄　八六
伊勢物語詞百韵　八五
伊勢物語肖聞抄　八六
伊勢物語箋　一七四
伊勢六郎左衞門尉貞順記　八八
醫先　一五六
伊川擊壤集（集外詩共）　一三五
夷俗記　一二六・一五四・二六七
夷俗考　一四七・一五八・二六六
韋蘇州集　七三
磯足ものがたり　三一〇
以會都堂比　三四
伊蘇普物語　一一九
頤素堂叢書　三一三

石上私淑言　一七二・一七八
石上神宮御事抄　九三
磯部氏に答ふる書　一七八
伊曾保物語　六九・二一七
磯山千鳥　一〇三・二一六
異素六帖　三七
伊太祁曾三神考　一七二・一七八
伊太利亞美術史　一八二
伊太利及伊太利人　一〇八
伊太利政海の狀態　一三七
イタリヤ研究　二一三
異端邪說を筆誅す　一九九
壹圓紙幣の履歷ばなし　一九五
一革命家の思出　一八六
市川團十郎序　一八六
市川團十郎の代々序　一八一
一言芳談　一九六
一時隨筆　九二
一字たいじぐち　二一七
一條大納言家歌合　三六
一粟園叢書　四八・四九・六〇・八一
一人三臣和歌　二四四
一谷坂落　四一
一之宮當眼　七三
市兵衞記　七五
市邊忍齒別命山陵考　一〇四
一枚起請文　一〇六
異朝書籍考　七〇
胃腸病ニ因ル死亡統計　五
逸史　三七
逸史問答　二四四
一州和尙行實記　四一
一種の批評家　七三
逸書　三六
一宵話　一〇四
一枝餘芳　一〇六
佚籍叢殘　七〇
佚存書目　五
佚存叢書　三七

乙丑御城書　一六九
乙丑御留守御城書　四二
一蝶流謫考　七五
逸亭易論　一〇〇
逸傳六種　九六
一統肇基錄　二一七・一三五
一得庵の佛事　一八九
一德物語　二一九
稜威雄誥　一七四
稜威言別　一七四
いつの日か君歸ります　一八四
稜威道別　一七四
一般統計論　三七
一匹の犬が二匹になる話　一八四
一瓢道士傳　一三四
一遍上人行狀　一三四
一遍上人年譜略　一六〇
一片石　八〇
一遍聖繪　二七一
一市漫集　八〇
以酊菴事議草　七七
遺傳と境遇　三〇
遺傳の話　一〇四
遺傳論　八一
伊東系圖　九八
伊藤侯演說集　四
伊藤公國葬餘韻　二七・二三六
伊藤公正傳・直話・逸文　一〇一
伊藤公全集　一二九
伊藤首相演說集　四

頤堂先生糖霜譜　四二
伊藤特派全權大使復命書　一一七
伊藤野枝消息　七五
伊藤野枝全集　一六六
伊藤野枝年表　一〇
伊藤野枝年譜　一六七
稻妻　一八四
稻葉集　一七七・一七八
稻荷社家物忌令之事　三七
稻荷鎭座由來　一八四
渭南文集　一七五
委任貸付圖書目錄　一二四
犬夷評判記第二編稿料　八〇
犬追物葛袋　四〇
犬追物檢見記　八八
犬追物御覽記　三一〇
犬追物草根集　四二
犬追物付紙日記　一四〇
犬追物手組日記　一三一
犬追物日記　八八
犬追物益鏡　一一〇
犬追物明鏡之記　七九
犬追物目安　二七・三
犬及狩獵　五四・五五
犬百人一首　一一二
狗日記　一七九

醫の意匠にて建てし新療院　一八六
井上蔵相に注意を請ふ件々　一九九
井上特派全權大使復命書　一一七
井上特派全權大使復命書附
　屬書類　一一七
井上友一君斷片傳　一七九
井上博士講論集　三一
井上明府遺稿　一七九
井上明府著書目錄　一七九
井中蛙物語　四四
夷白齋詩話　一五六
茨城縣人口靜態統計　二六〇
茨城縣立圖書館和漢圖書著
　者名目錄　四
茨城縣立圖書館和漢圖書分
　類目錄　四
異病集　四三
いぶき　七三
いぶきのまうた　三一〇
衣服及服式　一一三
イプセンの社會劇　一九八
異聞記　三二・四五
異聞雜稿　四〇・七五
異聞實錄　一五二
異本紅河原勸進申樂記　五三・六四
異本洞房語園　三四・三八
異本伯者卷　八七
異本名家略傳　一〇〇
今川大双紙　五四・六五
今川假名手本　七三

今川家譜　八七
今川記　八七
今川系圖　七七
今川了俊書札禮　八八
今川了俊和歌所え不審條々　五二・六三
いましめ艸　四三
今の英吉利文學　一八一
今の小說を讀む若き人々の
　爲に　一九五
今の諸家の小說論を讀みて　一八〇
今のなかたな　四四
今の批評家の詩眼　一八一
今の文學界　一八一
今物語　五六・六七
今樣歌起原浩革　一九三
今樣職人盡百人一首　三八
諱に關する疑　三一〇
異名分類鈔　一九五
移民問題　二六〇
『妹背山婦女庭訓』評　一九六
妹と脊かゞみ　一七七
妹山脊山辨　一七七・一九八
醫藥兩業の關係を論ず　一八六
伊豫三島緣起　一九六
伊洛淵源錄　七一
イリアッド梗概　一〇三
緯略　一四四
醫略抄　九一
依綠軒漫錄　一〇三
醫閭漫記　二三一・二五四

異林　一三
意林　一五
意林注　一
いるか　一五八
色里新かれうびん　四三
伊呂波韻集成　一五一
色葉歌作者考　七七
いろは節用集大成　九五
いろはたんか　一八〇
伊呂波探玄抄　四四
以呂波之傳　一二七
以呂波百韻　一八一
岩井半四郎さいど物語　五六・六七
齋瓮考證　一九三
磐城系圖　一五八
磐城風土記　三八
岩倉公實記　三一〇
石清水宮御願書　一五八
石清水御幸記　一五八
石清水祠官系圖　一五八
石清水八幡宮護國寺略記　一七七
石清水八幡宮末社記　一八三
石清水八幡遷宮日時定　一五八
石清水不斷念佛緣起　一六一・一六四
石清水放生會記　一五八
岩清水物語　一〇三
石清水若宮歌合　一四四
石清水臨幸記　一四四
石清水臨時祭之記　九一
石清水八幡宮末社記　一〇三
石清水臨幸記　一〇三
石清水臨時祭之記　一〇三
‘勿謂’藻はな　二七

銘讀　一六三
院莊樂香　一六一
飲中八仙令　一六〇
インティエリゲンツィヤ　一一六
引痘夜話　四三
印度學　一一三
印度教　一〇八
印度國民性と藝術思想　一〇八
印度思想概説　一〇八
印度審美説　一七九
印度哲學　一〇八
印度佛教思想史　一〇八
印度佛蹟興復會に贊成を請ふ書　一八九
印度文明史　一一一
韻府一隅　二六三
陰符經　一二四・一四三・二〇七
陰符經解　一五六
陰符經考異　七一
殷富門院大輔集　六九・八五・九七
尹文子　一三三
尹文端公詩集　二四四
韻文と句讀と印辨　一八〇
引弁首　二五八
殷卜辭中所見先公先王考　二四四
殷卜辭中所見先公先王續考　二七
韻補正　二〇六
院本釋文　四一
韻問　一三九

隱綠軒題識　一三九
殷禮徵文　二〇三
因論　一四四・一六二・一六四
因話錄　一四四・一六二・一六四

ウ

烏衣鬼軍記　一三九
うひ山ふみ　一七九・一七八
ウイルソン　一〇七
于役志　一三一・一四八
上杉系圖　七九
上杉輝虎注進狀　五三・六五
上杉憲實記　八七
上杉問答　九二
上田秋成全集　七〇
右衛門督家歌合　四九・六〇
ウォーレン夫人の職業　一九五
うをのうた合　三七
宇槐雜抄　五五・六六
羽賀臺御狩の記　九七
うき草のあと　三一四・三七・三二
宇喜多和泉守三宅朝臣能家像贊　八九
浮田家分限帳　三九
宇喜多戰記　一九四
浮世繪と我が舞踊劇　三四・三七
浮世繪類考　九六
浮世花鳥風月　九六
浮世草　三四・三三
有喜世新聞　一九〇
浮世草子目錄　二〇三
浮世繪　一四四・一六二・一六四
うきよの波　三二
鶯育草　一三
うぐひす笛　一〇八
有卦入萬倍曾我　三八
雨言雜祕記　一五四
雨航雜錄　一七二・一七八
禹貢指南　一〇七
于湖居士文集　七九
于湖小集　五三・六五
于湖題襟集　八七
迂齋詩鈔（外集共）　九二
迂齋詩話　七〇
宇佐八幡宮緣起　三二〇
卯花園漫錄　七二・二一八
烏羽玉靈抄　九二
烏鬟瀧夜談記　一五五
產須那社古傳抄廣義　一〇六
馬　二一
馬そろゑ　七三
馬盜坊　一八四
馬名合解　一七二・一七八
馬內侍集　五二・六二・八五
海の夫人　二〇一
梅の塵　二一七
うめのはつ花　九二・二一四
梅宮大明神並壽命神石產砂略記　一四一
埋木　一八四

烏頭屬植物中のアルカロイドに就て　二〇九
うす花さくら　八五
太秦海生寺開山深山和尙行狀　八一
雨窓閑話　一〇二・二一六
雨聰寄所記　一五八・六二一
雨窗消意錄　一六二・二三〇
羽族棋譜　二二
羽族通譜　一五九
雨村詩話　二五〇
歌合　六六
烏臺詩案　四九・六一・八四
右大臣吉備公傳　一四九
右大臣吉備公傳纂釋　三九
右大臣家歌合　二六二
右大臣家歌合　四九・六〇・六一
謠名寄　一〇五
謠ひものに引直したる『竹取』について　九四
謠ひものゝ文章　一九四
謠合　八四
うたかたの記　八二
空像記に就きて　八二
羽澤隨筆　一〇一
歌系圖　七三・九九
轉寢草紙　八六
うたゝねの記　五二・六三
うた日記　一八二
歌枕備中民談　三八
歌磨と北齋　一九四
歌ものがたり　一九〇

内田銀藏講論集　二二一
宇知郡志麻　一七六
內山寺記　九〇
宇宙觀　二二一
宇宙の話　一三
宇宙論　一〇八
圍屛繪づくし　三八
鬱岡齋筆塵　一五四
鬱單越頌　一五九
蔚堂譚叢　二三八
宇都宮系圖　二五〇
宇都宮大明神代々奇瑞之事　四九・六一・八四
宇津山記　四五・五七
空穗之次第　五三・六五
迂鈍　八七
雨念齋劄記　三九
卯花園漫錄　三二〇
烏羽玉靈抄　七二・二一八
烏鬟瀧夜談記　九二
產須那社古傳抄廣義　一五五
馬　一〇六
馬そろゑ　一一
馬盜坊　七三
馬名合解　一八四
馬內侍集　一七二・一七八
海の夫人　五二・六二・八五
梅の塵　二〇一
うめのはつ花　二一七
梅宮大明神並壽命神石產砂略記　九二・二一四

埋木につきて　一八四
埋れみづ　三九
有也無也之圖　四三
烏有先生に答ふ　一九八
烏有先生に謝す　一九八
羽陽叢書　三三
浦上系圖　七九
浦鹽オデッサ間定期航路の復活　一九・二五
『浦島』を作せし顚末　一九四
浦島子傳　四八・四九・丸
浦島塚緣起　四一
『浦島』の寓意　一九四
浦島』の寓意　七九
裏見寒話　三九
烏龍疳中丸　四一
羽林要祕抄　四七・五九
上刺袋考　一九三
雲煙過眼錄　一六五・六七
雲煙過眼錄續錄　一三五
岡極旋行の事　一七九
雲間據目抄　一六三
雲間雜誌　一三五・三〇
雲間志　一三四
雲氣占候　一九九
雲笈七籤　一三五
雲錦隨筆　三五・三六・三〇
雲溪友議　一六四・一六七・一六八・一六七・一六五
雲谷雜記　一三一・一四四・一六五

雲居寺結緣經後宴歌合　四九・六一
雲齋廣錄　一四四
雲室隨筆　一〇一
雲州消息　四八・五九
雲州樋河上天淵記　四五・七六
雲章和尙行狀　八一
雲焦館紀談　一三五
運掌經　一七六
雲上示正鑑　一二六
雲上新聞　一二六
雲圖抄　四七・五八
雲仙雜記　四七・五八
運泉約　一二六
芸窗雅事　一二〇
芸窗裸載　一二〇
芸窗私志　一二〇
運斧法　一二〇
運藏錄　一二〇
雲中語　一二〇
雲中事記　一二〇
雲中獨語　一二〇
雲濤談叢　一二〇
雲堂墨品　一二〇
雲南山川志　一二〇
雲南志略　一二〇
雲南通志　一二〇
雲南風土紀事詩　一二〇
雲華雜志　一二〇
雲峰評　一二〇
雲夢藥溪談　一二〇

運命の丘　一四四
雲葉和歌集　一〇一
雲林遺事　四八・五九
雲林石譜　四五・七六
雲麓漫抄　八一

エ

影印永樂大典殘本　一二六
景印四庫全書罕傳本擬目　一二六
永緣奈良房歌合　四七・五八
瀛涯勝覽　一五三・六七
榮海僧正拜堂幷御影供記　一五六
詠歌一躰　一六〇
瘞鶴銘圖攷　三八
瘞鶴銘辯　一四五
叡岳要記　一一〇
永嘉郡記　三五
映畫藝術　一六〇
詠歌奬勵說　一六〇
泳化餘編　一五四
永觀堂海內外雜文　一六六
永元年記　一六六
永五年新雨日記　一六六
永五年請雨經御修法支度記　一四八
永五年請雨經法記　一六六
永五年請雨經法支度注進狀　一六〇
永久五年遷幸記　一六〇
永久三年曆　一七三
永久磁石の特性に就て　一七五

永久二年白川御堂供養記　九〇
永久四年百首　四八・六〇
永享以來御番帳　五六・六七
永享元年己酉十一月廿日山口祭記　一四三
永享記　八七
永享九年十月二十一日行幸記　四六・五七・七七
永享九年住吉社奉納百首　八四
永享後記　八七
永享十一年石清水社奉納百首　八四
永享十一年曇華供記　八九
永享十三年革命勘文　八三
永享十三年松尾社法樂百首　一三三
永享十二年曇華供雜記　八九
永享十年石清水社奉納百首　八四
永享十年大嘗會記　四七・五九
永享四年大饗定　一〇八
郢曲抄　一〇二
郢曲相承次第　一〇二
影供歌合　三九
瀛奎律髓刊誤　一七七
衙公故物記　一二〇・一五二・一六一
瞥口で獲た二書の解題　八九
衙公兵法輯本　八九
衙公兵法略　八九
英國衛生制度略　一九九
英國海軍律令全書　一三五
英國議院政治論　一七七
英國議事院談　九三
英國軍醫制度　二〇七

英國皇室制度雜纂　二八五
英國功利說の研究　一一〇
英國國會沿革誌　二八七
英國產業革新論　一一三
英國史　一一三
英國實業團の訪露　一三五
英國實業の衰頹　二〇九
英國殖民史　一一三
英國新聞紙開明鑑記　二〇〇
英國新聞論　二〇一
英國制度國賓　一一三
英國と其領土　一一五
英國文學史　一一一
詠五十首和歌　八四
叡山衆徒披陳狀　八九
叡山大師傳　九〇
詠史　一七三
英氏經濟論　一七八
英字新聞の研究　二〇〇
永治二年眞言院御修法記　八九
英詩の推移　二一三
英詩文の訓釋法に就いて　一九六
永正以來宮司引付　一七五
永正記　五六・六八
永正九年若宮御元服記　八三
永照皇太后御大葬誄辭　一九〇
永照皇太后崩御悼辭　一九〇
永正五年請雨經法記　一六八
永正十五年一社奉幣使參向記　七五
永正十五年中堂供養記　五五・六六

永正十七年記　九一
英人フヲンデス大佐の演說筆記を讀む　一九〇
英政如何　一一七
衛生化學　一一〇
衛生局年報　一七四
衛生談　八五
衛生統計ニ關スル描畫圖竝統計表　一七四
衛生都城の記　一八八
瀛壖雜志　一六三・三五九
詠千首和歌　四八・六〇・八三
榮尋大和尚年譜　八〇
詠大神宮二所神祇百首和歌　四三五・五七
永代節用集　三一
影談　一六三
譽中刃傷記　七三
景唐刊卷子本陶文　一三三
景唐卷子本新修本艸十卷補輯一卷　一三三
景唐卷子本論語十卷　一三三
影燈記　一四八
永德元年室町亭行幸和歌集　八四
英獨教育の比較　一一五
永德御讓位記　四七・五九
永德二年春日燒失記　七六
景日本延喜榮本文選第五殘卷　一三三
永仁御即位用途記　四七・五八
永仁五年朝旦冬至記　八三
詠百首狂歌　九三
詠百首和歌　八四
永和二年結緣灌頂記　四六・五八
永和大嘗會記　一五六
穎譜　一五六
エールマン　四一
崔柄天神緣記　四九・六一
永福門院歌合　五〇・六一
慧鑑明照禪師道行記　二九三
永福門院百番御自歌合　四
易緯　八七
易韻　一四二・一四八
益戒堂自訂詩集　一五六
易經集註　二四八
永平寺三祖行業記　八〇
易經象類　一〇八
永平詩存　一六八
易筋經　一三三・一三六
永平社會學　一三三・二〇六
閱微草堂筆記　一六三・二五七
永平二州地名記　一〇八
越風　二四八
永來の現代哲學　一一二
悅目抄　一九八
永來法　一一一
越問　三七
詠法華經和歌　八四
粵遊日記　一五〇
英雄記鈔　九五
江戶往古圖說　三三
英雄傳　一三三・一六二・一七七
江戶狂歌書目　七三
永樂大典殘本　三三
江戶愚俗徒然囈　二一九
榮力丸漂流記談　五五
江戶采圖　七八・七九
永厥實錄　三四
江戶作者部類　二〇三・二〇五
英烈遺事　二八二
益州名畫錄　二五七
盆聯彙編　二五七
易象意言　一〇六
盆聯集錄　二五八
易小帖　一五八
盆聯錄存　二〇三
易水漢詩文存　九一
永祿以來大事記　二一〇
易水想波　九一
永祿以來年代記　九一
易圖明辨　九九
永祿元年曼荼羅供雜記　一六三
易說　八九
永祿記　五三・六四
易占辨　九一
永祿九年記　九一
易川靈圖　三七
永祿五年一乘谷曲水宴詩歌　八四
益壯圖記　二一九
永祿六年諸役人附　五六・六七
奕旦評　二一七
易通卦驗　一四二
驛遞明鑒　一三一
越語肯綮錄　二〇四
閱古隨筆　一三三
越佐新聞長岡日進社紀要　一三〇
越佐名家著述目錄　二四一
慧鑑明照禪師道行記　四
易緯　四九・六一
易韻　五〇・六一
益戒堂自訂詩集　二九三
易經集註　八〇
易經象類　二〇八
易筋經　一〇八
閱微草堂筆記　一三三・二〇六
越風　一六三・二五七
悅目抄　二四八
越問　一九八
粵遊日記　三七
越佐名家著述目錄　一五九
越州軍記　四
粵西偶記　八七
粵西偶記　一五七・一六八
悅生隨抄　一四二・一四四
越絕書　一三三・一三六
閱微草堂筆記　一六三・二五七
越風　二四八
悅目抄　一九八
越問　一五九
粵遊日記　二六〇
越佐新聞長岡日進社紀要　一三〇
越佐名家著述目錄　一四一
越州軍記　四
粵西偶記　八七
粵西詩存　一六八・一七一
粵西詩載　一六八・一七一
粵西叢載　一六八・一七一
粵西文載　一六八・一七一
粵西文載　一六八・一七一
粵西叢載　一六八・一七一
粵西詩載　一六八・一七一
粵西詩存　一六八・一七一
越絕書　一三三・一三六
越語肯綮錄　二〇四
閱古隨筆　一三三
越佐新聞長岡日進社紀要　一三〇
越佐名家著述目錄　一四一
越州軍記　四
粵西偶記　八七
粵西詩存　一六八・一七一
粵西詩載　一六八・一七一
粵西叢載　一六八・一七一
粵西文載　一六八・一七一
粵西文載　一六八・一七一
粵西叢載　一六八・一七一
粵西詩載　一六八・一七一
粵西詩存　一六八・一七一

江戶圖正大全　二八四
江戶砂子補正　三
江戶大節用海內藏　三三
江戶塵拾　三三
江戶の面影　三三
江戶花海老　一七三
江戶繁昌記　一〇三
江都百物語　四二・二一九
江戶節根元集　三三
江戶節根元由來記　一〇一
江戶文學志略　一五一
江戶眞砂六十帖　一三三
江戶眞砂六十帖廣本　一四一
江戶見草　一七三
江戶夢華詩　一五三
江戶名園記　三四
江戶名所記　九五
江戶名所圖會畫稿　三七
江戶名所花曆　四五
江戶名所百人一首　三六
江戶物語　一
エドモン・ロスタンが事從江戶日光足利之記　一八一
淮南鴻烈解　四四
淮南子　一三三
淮南萬畢術　一三四・一四三
江の霞　二一四
江島三社辨財天來歷　四一
海老名荻野系圖　六
衛府官裝束抄　七三
衛府具抄　三
衛府裝束抄　三三
衛府長裝束抄　三七・三八
繪文匣　三三
繪本江戶土產　一七三
繪本をどりつくし　一〇三
繪本西遊記　七五
繪本三國志　三三
繪本續江戶土產　三三
繪本玉かづら　一〇一
エミル・ゾラが沒理想エルテルの譯者　三三
宛委餘編　九六
淵穎吳先生集　二九三
宛琰錄　三四
圓應禪師行狀　三七
鴛鴦牒　九五
遠音集　三七
袁海臭詩集　三六
燕下鄉脞錄　一八一
燕樂考原　四四
袁家三妹合稿　一三三
煙霞洞集　一三三
淵雅堂全集　二一四・二四三
煙霞萬古樓集　二二四
煙華漫筆　四一
燕巖外集　七
園藝各論　四一
演藝協會の事につきて忍月居士に告ぐ　三三
遠溪祖雄禪師之行實　四〇
園藝通論　一五五・一六六
演藝と演劇の別　二九三
劉溪野語　九四
演劇界の未來　九四
演劇改良論竪議　九四
演劇改良論私考　一〇四
演劇改良論者の偏見に驚く　四五・五七
演劇改良論竪議　一五一
演劇刷新の依然として困難なる所以　四一
演劇場裏の詩人　一七三
演劇史料としての我が國の芝居繪幷びに其圖表　一四一
演劇中の實物　一五四
演劇と青年教育　九三
演劇論　一九二
劉源藏先生文集　一八八
演劇論　一三六
劉川姚氏本戰國策　一三五
簣谷詩文集　一三六
冤債記　一三三
絛山砂子　七七
艷詞　二一九
袁氏裱文金石錄　一五〇・一五九・一六六
袁氏世範　八四・一六九
燕市雜詩　一六九
袁氏傳　八六
燕射記　八四
園頤寺略緣起並古跡由來　一〇三・二三・二七・二三〇
淵鑑類函　一五五・二六二
淵鑑類函纂要　八三
淵鑑類函馬部抄錄　三七
圓機活法　七三
延喜式工事解　三六
延喜式工事解圖錄　三六
延喜式工事通解　三三
延喜式抄　三六
延喜式神名帳頭註　三六
燕几圖　三六
緣起部類　一七九
宛丘子傳　一八〇
宛丘題跋　四二・一五五
延休堂漫錄　三七
延久四年五年日次記　一三五
燕京學報　八一
延慶三年かのえいぬのとしのこよみ　一四四
延慶大嘗會記　一三五
延慶二年大嘗會御禊記　三一六
延慶二年八幡御幸記　一六四・一六五
延慶兩卿訴陳狀　一三三
衍極　一四一
宴曲集　一〇三
宴曲十七帖　二五三
宴曲抄　二五三
燕居雜話　一〇〇
猿吟集　九八
圓珠庵雜記　一〇三・二三・二七・二三〇
延州筆記　一五五・二六二
遠州見附本陣上村清兵衛方古書　四三
延壽撮要　九一
延壽類要　九一
援鶉堂筆記　二六三
燕書　一五三
遠城讓道傳　八六三
圓照上人行狀　九四
遠乘漫筆　二一四
艷色萬歲頼政　七三
烟嶼樓詩集　二四四
烟嶼樓文集　三五一
園庫　八五
苑西集　二五四
遠西水質論　一七三
燕石雜志　三一・三二・三三・三四
燕石十種原稿　三四
燕石十種　三四
圓潛邱先生年譜　一三三
剡川姚氏本戰國策　一三七
焉度篇　一〇一
掾曹名臣錄　一三三
煙草錄　一三一
袁太史時文　一四一
艷體聯珠　一六〇
延陀丸おとし文　九三
圓通大應國師塔銘　八一
鹽鐵論　一三三
易通卦驗　一四二
驛遞明鑒　一三一
越語肯綮錄　二〇四
閱古隨筆　一三三
越佐新聞長岡日進社紀要　一三〇
越佐名家著述目錄　一四一
越州軍記　四
粵西偶記　八七

遠島御歌合　四九・五一
遠藤系圖　七九
燕都妓品　一五七
延德記　七五
延德御八講記　五四・五六
延年集　二九三
役の行者　一九四
簷曝偶談　一三二・一五四
簷曝雜記　二〇三・二三〇・二六〇
偃曝談餘　一六六
衍波詞　一六六・一六八
塩波釣叟奇門定局　一六六
演繁露　一四三
鉛筆紀聞　二〇一・二一四
延福宮曲宴記　一五三
延文改元定記　八三
延文元年賀茂臨時祭記　七五
袁文箋正　一五六・二五二・二五三
延文四年記　九一
延文四年結緣灌頂記　九一
遠碧軒記　三二六・三三〇
遠碧軒隨筆　二二六
燕北雜記　一四六
燕北錄　一四七
圓滿院門跡相承次第　七七
圓明國師行實年譜　八〇
圓明園恭紀　一四〇
圓明園詞　一四〇
沿面コロナのダイナミツク的研究　二〇八
園冶欄干抄圖　四一
園磯院扇合　五〇・六一
應安改元定記　一四六
應安三年禁中御八講記　一六〇
應安七年曼荼羅供見聞略記　九〇
應安二年春日卅八所造替記　八〇
溫籌擬墨　九六
大井系圖　九六
大石記　三六
大石良雄自畫像記　三五
大磯紀勝　一三五
大磯竹枝　一五六
大磯虎御前の靈を弔ふ記　一五一
大分縣々治一斑　一四五
大分縣統計書　一七五
大分高等商業學校圖書分類目錄　四
大いに笑ふ淀君　二一三
櫻陰遺稿　一七
櫻陰麈談　一〇三
奥羽海運記　七三
奥羽軍志　五〇・六三
奥羽御巡幸明細日誌　七九
大內系圖　二七四
大內家壁書　一〇五
大內問答　五一・六三
大內義隆記　三四
大內義弘退治記　三三
大海原　一七
奥羽北部の石器時代文化に於ける古代支那文化の影響に就いて　二〇七
奥羽北海道御巡幸鄙の都路　一一七
おほうみのはし　一〇三・二一八
櫻雲記　四〇・一〇三
大神系圖　七五
王翰林集註黃帝八十一難經　七九
扇之記　一三六
正親町院御百首　三二五
正親町院御即位略次第　八四
邑久郡豐原庄上寺佐々木三郎盛綱鎧兜　四七・五八
大草家料理書　三九
大草殿より相傳之聞書　五三・六四
大久保家中敵討記　四四
大隈君財政要覽　二一八
大隈侯爵講演集　二一三
大隈參議國會開設奏議　二一七
大隈伯の『宮公談』跋　一九七
大隈老侯　一九七
大藏卿行宗卿集　五〇・六三
大藏氏系圖　七九
大藏省年報　二七四
王荊公唐百家詩選　七三
甌江逸志　一五八・一六八
王香園叢書　二六二
甌香雅集錄　二九七
歐公試筆　一三〇・一四四
澳國博覽會參同記要　二六九
澳國博覽會筆記并見聞錄　二一八
大阪朝日新聞　二四二
應諧錄　一五七
大鏡裏書　五五・六六
大型巡洋艦の運命　二一〇
大歌舞妓外題年鑑　九九
大神系圖　七九
王翰林集註黃帝八十一難經　一三六
扇之記　二一五
正親町院御即位略次第　四七・五八
邑久郡豐原庄上寺佐々木三郎盛綱鎧兜　三九
大草家料理書　五三・六四
大草殿より相傳之聞書　五三・六四
大久保家中敵討記　四四
大隈君財政要覽　二一八
大隈侯爵講演集　二一三
大隈參議國會開設奏議　二一七
大隈伯の『宮公談』跋　一九七
大隈老侯　一九七
大藏卿行宗卿集　五〇・六三
大藏氏系圖　七九
大藏省年報　二七四
王荊公唐百家詩選　七三
甌江逸志　一五八・一六八
王香園叢書　二六二
甌香雅集錄　二九七
歐公試筆　一三〇・一四四
澳國博覽會參同記要　二六九
澳國博覽會筆記并見聞錄　二一八
大阪朝日新聞　二四二

大坂安部之合戰之圖　二四三
大阪印刷文化展覽會歷史參考品陳列目錄　一五
大阪市人口統計摘要　二八〇
大阪商業習慣錄　六九
大阪商業史資料　九九
大阪新繁昌詩　一三〇
大阪新聞　二四三
大阪陣山口休庵咄　九四
大阪船漂着記　一〇〇
大阪築港設計ノ梗概　二六八
大阪と新しい藝術　一九六
大阪圖書館第二回圖書展覽會列品目錄　一六
大阪圖書館和漢圖書分類目錄　四
大阪府立圖書館和漢圖書目錄　九九
大阪府立圖書館圖書陳列目錄　一五
大阪每日新聞　二四三
大阪每日新聞事業史　二四〇
大阪每日新聞社史　二四〇
大阪每日新聞社大觀　二四〇
大阪每日新聞戰時事業誌　二四〇
大阪名家著述目錄　四
大鹽一揆　四四
大鹽騷動記　一八三
大鹽平八郎　一四四・一六六
王氏談錄　一七七
王室篇　三五
大島筆記　一三六
王氏脈經　一三六
奥州石河系圖　七八
歐洲演劇史　一三三
歐洲外交史　一〇七
歐洲各國王室家憲　二八五
歐洲各國民の心性　一三三
奥州紀行　九九
奥州謄澤高山實傳　一〇〇
歐洲現代政治史　一二三
奥州後三年記　四〇五・六四
奥州五十四郡考　三五
歐洲古代哲學史概論　八八
歐洲最近外交史　三六
奥州斯波系圖　九三
歐洲志略　八六
歐洲新聞に現はれた最初の日本記事　二五八
歐洲政治思想史　一九〇
奥州相馬系圖　一七七・一七八
歐洲大戰と發明　五三・六五
歐洲大戰の經驗　一七八
歐洲大戰の心理的教訓　二〇八
歐洲道德史　七九
奥州南部鹿角郡錦木の由來記　九九
歐洲に於ける近世統計技術の二大進步　一九七
歐洲に於ける勞働問題の趨勢　五三・六四
歐洲の改造　一八一
歐洲の劇場　一二
歐洲波奈志　一八二・二三〇
歐洲文藝思潮史講話　九四
歐洲文化史論　一七九
奥州松島拜見記　一七七
奥州御館系圖　七〇
歐洲倫理思想史　七三
歐洲勞働運動の趨勢と失業問題　三五
王充成公全書　一三七
王文成傳本　二〇四
王文正筆錄　一四三
王氏蘭譜　一五二
應氏六帖　三三
大濵賀系圖　九三
大杉榮自敍傳　八六
大杉榮隨筆　八六
大杉榮全集　八六
大杉榮年表　八六
大須眞福寺所藏國寶典籍展覽會目錄　一六
大須眞福寺寶生院經藏抄目　五
澳大利亞洲新志　一九九
塙地利何牙利　一六四
應齋考　一六五
王節愍公遺集　一〇〇
王船山遺書　四四
王船山經史論十二種　八三
王船山叢書校勘記　二〇五
王先生十七史蒙求　一七七
押對　一九八
王臺書史　一三六
大高忠雄寄母書　一三六
大舘常興書札抄　一三三
太田道灌隨筆　一〇七
大谷大學和漢圖書分類目錄　四
太田水責記　八八
大多和系圖　九七
王忠愍公遺書　二〇三
應長元年竪義記　九九
王朝時代の陰陽道　一三三
奥州五十四郡考　一〇七
大坪道禪鞍鑑事記　八八
大津みやげ　三六
大津籠城合戰記　九三
横笛譜裏書　八六
鴎堂日記　二五八
王道覇道獸道魔道　一九〇
大地主神の一則　一七七・一七八
大友記　五三・六五
大友系圖　一七
大伴系圖　一七
大鳥池の成因に就て　二〇八
大中臣氏系圖　一七九
奥南舊指錄　九九
大西祝　一九七
應仁記　五三・六四
應仁亂消息　八七
應仁別記　五三・六四
應仁略記　五三・六四
王の子供達　一八一
大野屋惣兵衞藏書目錄　一二
鴎陂漁話　一八二・二三〇
黃檗開山普照國師年譜　九四
大橋圖書館和漢圖書分類目錄　四
大祓詞後釋　一七七
大祓祝詞　七〇
王半山詩箋註　七三
櫻品　三五
王文成公全書　一三七
王文成傳本　二〇四
王文正筆錄　一四三

歐米各國國庫歲出入金額陸海軍費出入貿易品元價概覽表　二七四
歐米各國ニ於ケル統計協會及エンゲル氏ノ統計協會網羅案ヲ記述シ併セテ我ガ東京統計協會統計學社ノ兩協會ニ望ム　二六七
歐米小感　二六八
歐米諸國補習教育の近況と我國教育制度の改善　二一三
歐米人の極東研究　一一三
歐米人の日本觀　一一三
歐米新聞事業　二四〇
歐米大戰爭ニ於ケル財政ニ關スル調査　二六九
歐米百家隨筆　二三八
歐米漫遊記　一八七
歐米立志金言　二九一
王法政論經講義　一八九
應保二年叡山衆徒披陣狀　九〇
王法論　一三一
甌北雜著　二六〇
甌北詩鈔　二〇三・二九三
甌北集　二〇三
甌北詩話　二〇一・二六〇・二九三
甌北全集　二〇一・二〇六
王勃集　三九
汪本隸釋刊誤　二七
「近江源氏先陣館」事件　一九七
大御堂寺大坊緣起　四三
近江國栗本郡金勝寺官符　五五・六六
近江國別浦八幡緣起　一六
近江國番場宿蓮華寺過去帳　五六・六七
近江御息所歌合　四九・六一
大宮院御得度記　八九
大三輪神三社鎭座次第　四五・五七
鸚鵡石　一〇五
鸚鵡言　一〇五
鸚鵡舍利塔記　一六三
鸚鵡囀語例　一六七
鸚鵡館百疊集　二四四
嘔鳴雜誌　三六
大物主神疫疾を起し給へる事の考　一〇六
大森介墟古物編　一三
大森葛山系圖　一六
大森系圖　一六
應問錄　三一〇・三二八
大宅系圖　一六
大山寺緣起　九〇
大山寺略緣起　四一
大倭神社註進狀　四五・五七
窺豹間評　一六五
窺豹餘談　一六六・二三〇
應用化學　二一〇
應用機械學　二一〇
應用結晶光學に關する事項を綜合する三つの方法　一九一
歐陽行周文集　一三五
應用社會學　四三
應用生理學　五五・六六
應用定量分析　一六
歐陽文忠公集　五六・六七
歐陽文忠公文抄　四九・六一
汪容甫遺詩　八九
應用優生學　四五・五七
溫羅盦詩藁　一〇五
往來物に就きて　一六三
鴨綠江橋梁工事概況　一六
應和四年革令勘文　二一七
鍋屑譚　二四四
岡倉先生記念論文集　三六
岡家案文　一六
御影まいり伊勢信仰記　一〇六
おかげまうでの日記　一三
小笠原家譜　一六
小笠原系圖　一六
小笠原三家系圖　一六
小笠原諸流系圖　一六
小笠原入道宗賢記　九〇
小笠原流手綱之祕書をかし　四一
御方違行幸御供奉雜事　一六五
岡田信利氏藏書目錄　一六
尾形流百圖　一一〇
岡場遊廓考　一一〇
岡本記　一六
岡本系圖　一六
岡山紀勝　一六
岡山縣戶口統計　二八〇
岡山縣重要農產物一覽　二七五
岡山縣出身從軍死歿者誠忠錄　二八三
岡山縣青年會創立五十周年記念　二三五
岡山縣壯丁學力及體量檢查成績　二三五
岡山縣治一覽　二三五
岡山縣治一覽表　二三五
岡山縣統計事務效績者　二六七
岡山縣統計事務ノ概要　二六七
岡山縣統計書　二三五
岡山藩士日置帶刀從者於神戶外國人に對發砲の始末　三九
岡山伏見道中案內　二九四
オキシヘラー哲學　二九七
興津彌五右衞門の遺書　一八三
翁草　九七・二六二・二八〇・三一〇
翁物語　四三
翁問答　九七・七四
荻野系圖　九七
憶雲詞甲乙丙丁稾　八六
憶雲詞刪存　一六六
屋式略說　一九五
屋制新議　一八六
屋底　一八六
憶得　一八六
御國通辭　一〇〇
奧の紀行　九九
奧の細道　一〇一・二一四
小倉百人一首畫稿　三七
小倉文紀と五山の名匠　二〇九
小倉問答　八六
小栗系圖　七八
をぐりの判官　七三
桶狹間合戰略記　四一
嗚呼矣草　二一四・二七
乎古止點譜　九五
阿姑麻傳　一七三
尾崎雅嘉隨筆　二七
尾崎行雄演說集　一八七
尾崎行雄自敍傳　一八七
尾崎行雄全集　一八七
嬬殿遷宮用途記　七六
小澤太平記　四四
敎を授くるに衞生の道を履む事　一八五
男鹿半島の地體構造　二〇八
忍城戰記　九四
お七吉三　九四
オヂツセウスの弓　一八四
おしてるの記　一七三
小島のくちすさみ　五二・六三
小島のすさみ　一〇三
おしゆん傳兵衞十七年忌　三七
オシラ神に關する二三の臆說　二〇九
御城書　四三
御穿鑿遊女諸事出入書留　二一九

於潛令樣公進耕織二圖詩　二六
小田系圖　七七
織田系圖　七八
御質抄　八九
織田豐臣德川三公の性格概論　二〇九
織田信雄分限帳　八九
織田信長の復古政治　二〇九
小田原記　八七
小田原衆所領役帳　八九
落合直文大人の車中感懷を讀む　八九
落窪物語梗概　八九
落葉物語　一〇三
越智系圖　二一八
遠近新聞　七九
遠近橋　七九
落葉籠　二四二
小槻系圖　六九
小槻氏系圖　四六・五六
乙寶寺緣起　九〇
男重寶記　二三四
御供古實　五四・六五
をどり　一九四
踊之著暮駒連　二一九
お夏狂亂　一九四
小野崎系圖　七九
小野氏系圖　四六・五六・七九
小野小町の考　一七七・一八
小野僧正請雨行法賀雨詩　八三
小野道風像冠服考　一〇五
小野宮年中行事　四七・五八
己の葬　一八四
乎波那賀毛登　一〇二・一七七・一八
女郎花五色石臺　四〇
御室撰歌合　四九・六〇
おもひくさ　一七七・一八・二六
おもひ艸序　一六〇
思ひ出くさ　二九一
於茂祕傳草　一〇六
思ひの儘の記　一六
おもひのまゝの日記　五六・六七
於母影　一八三
御役名附　四四
親子草　七三
親子訓　七一
親ごころ　六九
御雇外國人姓名・給料・期限・職務一覽　一一九
親船太平記　三六
小山田與清雜稿　三三〇
女形の前途と歌舞伎の前途　一九六
女形優待論　一九六
御ゆとのゝうへの日記　五五・六六
小弓御所樣御討死軍物語　九四
小弓御所樣御討死物語　一〇四
おらく物語　四一
和蘭醫事問答　六九
和蘭演戲記　三五
和蘭學制　一一八
和蘭通船　二一四
倭蘭年表　一八四
和蘭美政錄　一一
和蘭風說書　四〇
和蘭文字略考　四九・六〇
和蘭問答　一六・一七・二六・二六
折々草　一六〇
織工　二九一
折たく柴の記　一〇六
織物の歌　二六
オルフェウス　五六・六七
於路加於比　一八三
尾張德川黎明會陳列目錄　四四
尾張國熱田太神宮緣記　七三
尾張國內神名牒　七三
尾張國大須眞福寺寶生院經藏抄目　七
尾張國濱主考　三六
尾張國笠寺緣起　一一九
尾張濱主考　三六
尾張連濱主和風長壽樂考證　四三
をはり道の記　三三〇
御諱名沿革考　一九六
音樂と繪畫　一九六
音樂と其背景　五五・六六
音樂と文學　九四
御飾記　一〇四
音響變成器及喇叭の双曲線　四一
變數・集音器の實用理論及音響傳達系の一般考察　六九
音曲鼻毛ぬき　三五
音訓五經　二九一
溫公瑣語　一四五
溫國文正司馬公文集　三五
溫古堯集　二一四
恩師カール・テオドア・フォン・イナマ・ステルネツグ先生　二八三
恩賜御書記　三九
溫室通風點光　一一
園城寺長吏次第　七
御曹司初寅詣　七三・二一八
溫知政要　四二
溫知叢書　三四
溫庭筠詩集（別集共）　一三四
女・家・國　一九三
女がた　一八二
女方と「捨身」の藝風　一九八
女歌舞伎操一舞　八一
女歌舞伎に關する古畫八種　一九五
女孝經　一四〇・一四八・一五九
女殺油地獄評　一九五
女實語敎　七一
女大學　一七〇
女太平記評判　四四
女重寶記　二三〇
女の決闘　一八四
女論語　一四九
溫飛卿詩集箋注　二四四
御幕之記　四三
御的日記　八八
陰陽外傳磐戶開　二三〇

カ

晦庵稿　九一
晦庵先生校正周易繫辭精義　一二六
晦菴先生朱文公文集（續集・別集共）　一三五
晦菴題跋　一四一
戒庵漫筆　一五五・二三〇・六三
芥隱筆記　一四一・一四三・六四
海雲禪藻集　二四八
海溫小譜　一四〇
回憶漫談　一九七
海外怪洋記　一三三
海外各國勢要覽　二七三
海外各國翻譯新聞紙　二四二
海外新聞　二一九・二四三
海外新聞別集　二四二・二四三
海外に於ける寫眞報道に關する調査　三六・二四〇
海外畫緣　二五二
開河記　一三〇・一五三・一六一
外家紀聞　二〇三・二三〇・二六〇
繪畫偶評　一七九
海嶽志林　一八四
海岳題跋　一四一
海岳名言　一三〇・一六四
開化自慢　二一〇
開花新聞　二四二

開化世相の裏　一三〇
開化の入口　一三〇
開化のはなし　一三〇
開化繁昌誌　一三〇
改過筆記　一三〇
怪化百物語　一三〇
開化評林　一三〇
開化本論　一三〇
開化問答　一三〇
開巻一笑　二六四
開演集　一四五
海涵萬象錄　一三三
懷橘談　九五
會議辨　二〇〇
諧噱錄　一三〇・一四五・二六一
階級制と君子の道　一八八
回教　一〇八
回教及印度教佛教　一二三
海鹿畫苑略　一三八
海愚詩鈔　二四四
街衢の敢陣　一八六
街衢の瀧捲　一八六
海軍治革論　二六五
海軍趨勢　一八七
海軍歷史　一八七
會稽記　一四八
會計原法參考書　二八九
會稽先賢傳　一四七
會稽典錄　一四七
會計法論　一二
艾言　一三〇
改元烏兎記　一三〇
改元紀行　一三〇
改元考同　一三〇
改元震記　一三〇
快元僧都記　一三〇
開元天寶遺事　一三〇・一四七・一五八・二六一
改元部類　一三〇
改元物語　一三〇
開元文字音義　二六四
繪原有聲畫集　一四五
外交關係文獻年表　一七三
開城錄　一六〇
階行社にて衛生部將校に告ぐるの一節　一三〇・一四五・二六一
海行摠載　一八八
回光錄　一〇八
外國爲替　一三八
開國起原　一三八
外國語學と外國文學　二四四
廻國雜記　一八六
回國雜記抄　一八六
外國產業統計　二六五
嶰谷詞　一八七
開國始末　一四八
外國事務　二八九
外國新聞　二八九
海國圖志　一四七
外國竹枝詞　一四七
外國地理參考書　一二
外國通信事略　一六〇
外國の操り芝居　八三
「外國の新聞と雜誌」解說　一七三
書目　一三九
外國の舞踊劇と將來の振事　八三
外國美文學の輸入　一九八
外國文化關係文獻年表　五五・六六
外國貿易原論　九四
外國法翻譯其他　二三
骸骨　一三七
回顧錄　二九三
蕾蘗編　一七
戒殺文　一〇三
海樓餘錄　一三
海山記　一三
改箂記大成　九八
海山詩屋詩話　二〇三
海珊詩鈔　一一〇
厓山集　一一〇
開山無人和尙行業記　一八八
嘗瓚錄　五二・六四
諧史　一〇四
艾子後語　二七五
艾子雜說　一三三
繪事發微　二六二
會社辨　二六七
海舟印譜　二五九
海舟詩稿　二六二
海舟書簡　九七・九八
海鰌圖說　五二・六三
海藏和尙紀年錄　一〇一
改造敎育　八一
梅存詞鈔　一一六
海損法　二四八
海內十洲記　一一
解體新書　一二四・一二九・一四八・一六六
解題叢書　六九
諧鐸　五七〇
怪談老の杖　一六三
下帷短牒　七三
街談文々集要　一四五
懷竹抄　九八・二一五
岸茶彙抄　五二・六四
賒茶賤　一三九
解嘲　一二八・一三六
解鳥語經　一九八
海潮說　一五一
華夷通商考　一六三
解醒語　一七四・二六五
改訂水洙集序　一八〇
改定律例　二八六
會典簡明錄　二六九
回天詩史　一七四
開天傳信記　一七四
回天必力　一六一
海島逸誌　一七四
海東繹史　二五九
海道記　九七・九八
海道くだり　五二・六三
海島算經　一〇一
海東續小學　九八
海棠譜　一五二・一六五
海東名將傳　九八
海東名臣錄　九八
海東野言　二六三
海東律詩　二四八
懷德堂遺書　三五
懷德堂五種　三五
懷德堂展覽會目錄　一三五
戒賭文　一三九
解雜錄　一八七
懷妃着帶之事　八八
海甫王忠愍公遺書　二〇三
甲斐國現在人別調　二八〇
亥白詩草　二四九
亥白船山詩草合集　一〇一
貝原篤信家訓　一七三
外蕃通書　三五
海表叢書　三五
海濱外史　二〇一
海濱の一幕　二五二・六五
蟹譜　四七・六九
懷風藻　一〇五
廻文俳諧百韻　三一・二四六
該聞錄　一六八
懷米山房藏器目　一三九
開方之分還原術　一三九
外邦織工渡來辨々　一九二
海北獨語　三一〇
魁本對相四言雜字　三六
蟹滿寺釋迦像考證　一九一
海味索隱　一三二・一六五
繪妙　一九六
華夷譯語　一三五
海遊錄　三一〇
膾餘雜錄　三一〇・三一〇
隊餘叢考　四八・五九
傀儡子記　二〇三
快樂派倫理　二〇三
海陸軍制　二一三
海陸新聞　二一三
海陸の神祕　二一五
改曆辨　二四三
海錄　七〇・三一〇・三三〇
槐廬叢書　二三三
嘉蔭簃藏器目　一六九
過雲精舍詞　一四三
嘉永以前日歐交通年表略　二〇三
花菅三代記　三四
花影詞　二〇〇
華英通語　三四
嘉永明治年間錄　江蘇書　四四
嘉永六年九鬼式部小輔組中　八七
賀越登記　一八〇
加越能書籍集覽　三五
果園雜咏百首　二九三
果園篇　一一
歌苑連署事書　九六
顏　一八四
嘉應元年宇治別業和歌　八四
家王故事　一三二・一六五
家屋建築說　一三五
家屋雜考　一三五
覆外雜俎　九八
花街漫錄　三一〇
花街漫錄正誤　三一〇・三三〇
花街漫錄附考　四八・五九
化學　二〇三
河岳英靈集　一一三
科學及び工業博物館に就いて　二三三
畫學及彫像　一一五
化學啓蒙　二〇〇
家學致知格物詳說　七〇・三一〇・三三〇
科學的管理法　一三三
科學とダヤーナリズム　一六九
化學入門　一四三
歌學入門　二〇三
科學の精神と其效用　五五・六六
化學の話　一六六
科學の話　二〇〇
科學の不思議　三四
畫學秘訣　一四四
歌學諸　五四・六五
化學篇　八七
化學要論　五
加々爪系圖　二九三
嘉禾百詠　一四三
學齋咕嗶　一四三
客坐掌記　一一
鏡作大明神緣起　一七一
客座新聞　一三二・一五四
隔蓽論　二八七
角干先生實記　九八
學規　二〇六
學藝雜誌　二三六
學藝志林　一四三
樂檜耀嘉　一五九
樂縣考　一三三
覺源禪師年譜　八一
樂考　一七〇・一七三
樂郊私語　一四三・一五八・一六五・一六七
學校圖書館用圖書目錄　五
客抗日記　一六〇
學校問　二〇四
各國參照國勢調査法　二六八
各國時事類編　二五九
各國人口動態統計調査手續概要　二七一
各國新聞紙　二四三
各國選擧の現狀　一一六
各國統計機關の概要　二六七
各國無產政黨發達史　一〇九
各國立憲政體起立史　二八八
角虎道人文集　八三
學古篇　一二八・一三四・一六五・二〇八
客齋使令反　一六〇
窓齋藏器目　一六六
學齋餘談　一四三
學界餘談　一七一
客坐掌記　一三二・一五四
客座新聞　一三三

海東續小學　九八
海棠譜　一五二・一六五
海東名將傳　九八
海東名臣錄　九八
海東野言　二六三
海東律詩　二四八
懷德堂遺書　三五
懷德堂五種　三五
懷德堂展覽會目錄　一三五
戒賭文　一三九
解雜錄　一八七
懷妃着帶之事　八八
海甫王忠愍公遺書　二〇三
甲斐國現在人別調　二八〇
亥白詩草　二四九
亥白船山詩草合集　一〇一
貝原篤信家訓　一七三
外蕃通書　三五
海表叢書　三五
海濱外史　二〇一
海濱の一幕　二五二・六五
蟹譜　四七・六九
懷風藻　一〇五
廻文俳諧百韻　三一・二四六
該聞錄　一六八
懷米山房藏器目　一三九
開方之分還原術　一三九
外邦織工渡來辨々　一九二
海北獨語　三一〇
魁本對相四言雜字　三六
蟹滿寺釋迦像考證　一九一
海味索隱　一三二・一六五
繪妙　一九六
華夷譯語　一三五
海遊錄　三一〇
膾餘雜錄　三一〇・三三〇
隊餘叢考　四八・五九
傀儡子記　二〇三
快樂派倫理　二〇三
海陸軍制　二一三
海陸新聞　二一三
海陸の神祕　二一五
改曆辨　二四三
海錄　七〇・三一〇・三三〇
槐廬叢書　二三三
嘉蔭簃藏器目　一六九
過雲精舍詞　一四三
嘉永以前日歐交通年表略　二〇三
花菅三代記　三四
花影詞　二〇〇
華英通語　三四
嘉永明治年間錄　江蘇書　四四
嘉永六年九鬼式部小輔組中　八七
賀越登記　一八〇
加越能書籍集覽　三五
果園雜咏百首　二九三
果園篇　一一
歌苑連署事書　九六
顏　一八四
嘉應元年宇治別業和歌　八四
家王故事　一三二・一六五
家屋建築說　一三五
家屋雜考　一三五
覆外雜俎　九八
花街漫錄　三一〇
花街漫錄正誤　三一〇・三三〇
花街漫錄附考　四八・五九
化學　二〇三
河岳英靈集　一一三
科學及び工業博物館に就いて　二三三
畫學及彫像　一一五
化學啓蒙　二〇〇
家學致知格物詳說　七〇・三一〇・三三〇
科學的管理法　一三三
科學とダヤーナリズム　一六九
化學入門　一四三
歌學入門　二〇三
科學の精神と其效用　五五・六六
化學の話　一六六
科學の話　二〇〇
科學の不思議　三四
畫學秘訣　一四四
歌學諸　五四・六五
化學篇　八七
化學要論　五
加々爪系圖　二九三
嘉禾百詠　一四三
學齋咕嗶　一四三
客坐掌記　一一
鏡作大明神緣起　一七一
客座新聞　一三二・一五四
隔蓽論　二八七
角干先生實記　九八
學規　二〇六
學藝雜誌　二三六
學藝志林　一四三
樂檜耀嘉　一五九
樂縣考　一三三
覺源禪師年譜　八一
樂考　一七〇・一七三
樂郊私語　一四三・一五八・一六五・一六七
學校圖書館用圖書目錄　五
客抗日記　一六〇
學校問　二〇四
各國參照國勢調査法　二六八
各國時事類編　二五九
各國人口動態統計調査手續概要　二七一
各國新聞紙　二四三
各國選擧の現狀　一一六
各國統計機關の概要　二六七
各國無產政黨發達史　一〇九
各國立憲政體起立史　二八八
角虎道人文集　八三
學古篇　一二八・一三四・一六五・二〇八
客齋使令反　一六〇
窓齋藏器目　一六六
學齋餘談　一四三
學界餘談　一七一
客坐掌記　一三二・一五四
客座新聞　一三三

客座錄　一七一
鶴山巢陽經外雜鈔　一六五
鶴山巢陽讀書雜鈔　一三〇
鶴山先生大全文集　一三五
鶴山題跋　一四一
鶴山筆錄　一三五・一三〇
學山錄　一三〇
學旨　二〇六
岳氏銀瓶徵　一五九
郭氏玄中記　一四・一四七
樂詩考略　一三七
郭氏傳家易說　一六五
學者頭と詩人頭　一九五
學者安心論　二〇〇
學者の覺悟　一八九
學者の臟腑　一八八
學習院圖書館和漢圖書目錄　五
各種銀行行數並資本金調査表　二七五
學術講演錄　二一一
各種の評論　一九四
革除遺事　一三三
霍小玉傳　一二六・一三〇・一六二・一六七
各省進呈書目　五二・二五
樂所補任　四六・五八
樂書要錄　三三・四三
岳西院授與記　八九
擴摩器に用ふる内地製增幅器及び增幅用變壓器の特性　二〇七
覺生詩鈔　二四四
學生時代の追憶　一九七
鶴半集詩續鈔　一四八
畫引增字分韻便覽　一七五
各病論附治法　二六八
學風論　二六八
學福齋集　一九九
各府縣秘徵收狀況　二一一
學佛南針　二五七
格物餘話　四四
學弊論　九七
學蔀通辯　四三
學圃雜疏　一七〇
學則樂戒　一四五
樂對　一七〇
客退紀談　一四五
格致質學啓蒙　一四二
格致總學啓蒙　一四二
客中案證　一七三
鶴聽詩圖詠　二六〇
鶴徵錄　二五八
學燈　二五六
確堂遺稿　八九
覺洞院僧正入境資記　一四七
學堂歌集　一四七
學堂居士の文話　一四七
學堂詩存　一四七
學堂先生の印象　一四七
學堂漫筆　一四七
學堂漫錄　一四七
學道論　一四七
學堂論叢　一四七
學範　一四七
學範初編　一四七
何源志　一四八
嘉元年中賀茂祭記　七五
嘉元四年結緣灌頂記　八八
花甲閒談　二五三
夏侯鬼語記　一四五
下黃私記　一四五
河工書　二〇七
柯公全集　八七
柯公追悼文集　八七
夏侯陽算經　一六五
歌語解說　九二
嘉穀堂集　一三
何御史孝子祠主復位錄　二〇四
鹿兒島案內　一三
鹿兒島縣勢要覽　二七三
鹿兒島縣立圖書館鄉土志料目錄　六
鹿兒島縣立圖書館巡回文庫用圖書目錄　五
鹿兒島縣立圖書館所藏鄉土志料分類目錄　六
鹿兒島縣立圖書館和漢圖書目錄　五
鷺湖書田志　二六〇
過去帳　四四
笠井系圖　七八
笠岡漫遊雜誌　二〇三
笠懸射手躰配記　八八
笠掛記　五四・六〇
笠懸聞書　八八
神樂歌考　一六六・一七七・一九七
神樂歌新釋　八八
神樂血脈　八八
神樂注祕抄　一四四・二五〇・二六二
革令紀行　一五九
學歷說　一五九
かくれ里の記　一八三
家訓　一三五・一五九・一七〇
影　一四一
畫繼　一三一・一三一
花經　一三三
敷經筆記　八五
飄落　一〇六
景勝家法　一〇六
歌劇のことども　一八〇
歌劇の輸入　一九四
過激派　一〇七
過激派物語　一〇七
景清　一三九
畫訣　一〇三・二五・二一八
花月草紙　八四
花月百首　八五
價原　一七五
我言　一八一
可言　一六二・三三〇
雅言覺非　九八
華原磬考證　二〇五
雅言考　一四八
神樂歌　一四八
神樂歌新釋　七五
神樂血脈　八八
神樂注祕抄　八八
鶴林玉露　二五三
革令紀行　三一九
學歷說　一四五
鶴齡錄　二〇七
學歷說　一五九
かくれ里の記　一八三
家訓　一三五・一五九・一七〇
影　一四一
畫繼　一三一・一三一
花經　一三三
敷經筆記　八五
飄落　一〇六
景勝家法　一〇六
歌劇のことども　一八〇
歌劇の輸入　一九四
過激派　一〇七
過激派物語　一〇七
景清　一三九
畫訣　一〇三・二五・二一八
花月草紙　八四
花月百首　八五
價原　一七五
我言　一八一
可言　一六二・三三〇
雅言覺非　九八
華原磬考證　二〇五
雅言考　一四八

笠寺緣起　九〇
笠の露　四〇
笠雲雀　一八一
傘松道詠　七〇
鍼抄　四七・五九
花山院長親抄　五三・六三
栽山和尙行狀　八一
華山經　一六〇
華山全集　一七一
嶂山先生略傳　一七一
雅三俗四　三一八
家產俗談　一〇五
華山俳畫譜　三七
畫史　一四二・一五〇・一六四
香椎宮緣起　一七一
梶井門跡略系譜　七七
我自刊我書　三四
家事儉約訓　一一二
歌詞考　二一五
何子雜言　一三三
何氏集　二三三
買子新書　七一
假字新說　九二
何氏心傳　一三三
買氏說林　一四五
樞園隨筆　二一六
買氏談錄　一四五
暇日記　一三二・一四四
夏日陪多田院廟前詠五十首和歌　五〇・六三
かしのしつ枝　二一六
梶の葉　七九
鹿島大禰宜系圖　七九
鹿島宮社例傳記　七九
鹿島宮年中行事　七九
鹿島實系圖　七九
鹿島大宮司系圖　七九
鹿島治亂記　五三・六五
鹿島當禰宜系圖　六八
鹿嶋問答　六八
火車考　六二
歌者葉記　五五
畫塵　一三八・一五六
加州石川郡白山緣起　六七
加州藩中知行錄　六七
加州分限帳　六七
家塾座右銘　六七
嘉樹山房詩集　六七
火珠林　七九
何首烏錄　七九
化書　七九
家常茶飯　七九
花上集　七九
霞城唱和集　七九
夏小正　七九
夏小正校注　七九
夏小正私箋　七九
夏小正戴氏傳　七九
夏小正分箋　七九
科場窓稿　七九
花小名　二一八
畫證錄　二三〇
華胥國ものがたり　二〇〇
稼書先生年譜　一四五・一六四
柏原家舊記　一〇二・二一六
家人子語　一五〇・一五九
カズイスチカ　一一四
春日御詫宣記　五四・六五
春日御動座記　五
春日權現驗記　一〇七
春日卅八所造替記　一〇七
春日社記　一六一
春日社參記　一七〇
春日社三十講最初願文　七二
春日社司祐重記　一七〇
春日燒失記　一七〇
春日正預祐範記　一七〇
春日神木御入洛見聞略記　一七〇
春日大明神垂跡小社記　一七〇
春日入洛記　一七〇
春日拜殿方諸日記　一七〇
春日祭舊例　一八五
春日祭次第　三三
春日諧部類記　三九二
春日臨時祭記　三九三
春日若宮神殿守記　一八五
上總國誌稿　六八・二三一
上總國埴生郡鹿南城主武田氏系圖　二八九
荷田大人創學校啓　二八三
傍廂糾繆　二八
傍廂板下　二三〇
かたわ娘　二〇〇
可談　一四五・一六四
畫譚雜肋　一〇二・二一六
畫竹譜　一五〇・一五九
價値の哲學　一一四
家中竹馬記　五四・六五
華頂山古經目錄　五
可聽周波數增幅器の一段增幅比　二〇七
花鳥春秋　一六〇
花鳥日記　七二
勝安芳建言書類　一七七
括異志　一二八・三〇・一五二
勝海舟隨筆　一七七
活火山と地震　二〇九
鶏冠子　一三三
腳氣減少は果して麥を以て米に代へたるに因する乎　一八六
腳氣病原因ノ研究　二九七
腳氣病原の檢索　一八五
葛原詩話糾繆　一〇〇
葛飾記　一三〇・一五一・一五九・一六一
喝氏初學人身究理　三三
甲子夜話　二九三
甲子夜話續篇　六八・二八・三一
合衆國收稅法　二八九
合衆國小史　二八三
槽谷系圖　一五七
家世舊事　一五九
家世舊聞　一三〇・一四六・一六四
華砌風日記　四二
畫石軒詩集　二四四
畫說　一三九
風につれなき物語　一八二
風のしがらみ　九六
畫禪　一三九
牙籤考　四二
華川巵辭　四五・五七
畫筌析覽　四五・五七
歌仙落書　四五・五七
河美錄　四五・五七
家族　五四・六六
雅俗故事讀本　五七
雅俗新聞　五七
雅俗隨筆　五七
華族靜態調查統計表　五七
華族靜態統計描畫圖　四五・五七
家族制度　五七
家族制度と婦人問題　五七
家族論　五七
何大復詩集　五七
歌體約言　五七
敵討鼓瀑布　五七
敵討鼓瀑布原稿　一〇四
敵討のいこん　一〇四
荷田大人創學校啓　一〇四
傍廂　一七九

盍簪錄　二三一
碣石調幽蘭　二三七
勝扇子　二二九
括蒼金石志補遺　二三八
括地志　二三二・二四二
活動寫眞とわが劇の過去　一九五
羯南文錄　一八七
水虎追考　四三
活版經籍考　一五二・二三八
活版攷　一
かつみ考　一〇五
葛川緣起　一〇〇
桂川地藏記　九二
葛城實山記　七六
桂内閣と濱口内閣　二一〇
桂の落葉　二九三
葛山系圖　七八
葛嘉集　七九
課程　二〇六
過庭紀談　二三六・二三一
家庭指南　一七五
花底拾遺　一三九
霞亭生涯の末一年　一八三
家庭小訓　一九三
家庭叢談　二一九・二三九
家庭に於ける女子の教育　一九〇
家庭の新風味　一九三
家庭用兒童劇及びペーヂェント上演顚末　一九六
家庭用兒童劇の地方巡回公演に際して　一九六
香取諸名帳　一九六
香取大宮司系圖　一九六
香取大神宮造營目錄　一三三
香取の日記　四六・五八
家兎涙腺組織ノ寒冷ニ對スル抵抗力ニ就テ　二四四
神奈川縣統計要覽　九二
神奈川府日誌　一四七
假名叡訓　八一
假名考　四三
假名曆解　八九
金澤文庫略考　七一・七〇
金澤本群書治要首尾　八八
金澤名勝題詠集　四五
假名遣に關する意見　二三三
金杉日記　九四
假名世說　一〇三・七三・二三五・二七三・二三一
かなそき　一四三
金曆木　一四三
假名手本忠臣藏の劇として　一四三
　の價値　一三
假名の會の問答　一七一
假名の研究　二〇三
假名の本末　七九
河南邵氏聞見錄　一〇六
河南邵氏聞見後錄　七六
河南先生文集　九三
河南通志　一〇四
河南穆公集　七六
金ケさく紀行　七六
兼邦百首哥抄　七六
兼輔卿集　五〇・六三
金田八幡宮略緣起　四一
鐘迺比備起　一七四
兼文宿禰勘文　七五
兼光卿改元定記　八三
兼盛集　五〇・六三
狩野芳崖　九一
狩野五家譜　一七四
畫梅譜　一〇五
牙牌參禪圖譜　一三五
峨眉山記　一
課婢約　二一〇
家廟遺壘　二九三
畫品　八〇
嘉賓心令　七五
花譜　二一六
樂府解題　一五一
樂府雅詞　一三五・三六
歌舞伎脚本傑作集第三卷緒言　一九六
歌舞伎劇に對する希望　一九六
歌舞伎劇の徹底的研究　一九六
歌舞伎小唄番附盡　一七六
歌舞伎座合評　三六
歌舞伎十八番の圖　一四一
歌舞伎第六十一號を讀みて　三六
樂府古題要解　一三六
樂府雜錄　一四一
株式會社統計　三〇・一五一・一五九・二六一
樂府詩集　二三五・二四九
樂府指迷　一二八・一五六
瓦釜集　一四三
樂府傳聲　一四三
甲明神奉加帳　七六
河汾諸老詩集　一二・一三六
貨幣說　二八八
貨幣ノ制ハ硬貨ノ主義ヲ持ス　一〇〇
貨幣の制は複本位に如かず　一九九
貨幣祕錄　三四
瑾草　八五
家寶往來　一三五
嘉保二年大江仲子解文　一一〇
果報開見錄　九三
畫勘約　一五六
鎌倉大草紙　四〇
鎌倉大草紙考　五三・六五
鎌倉大草紙抄　一九三
鎌倉大草紙脫漏　一〇四
鎌倉閑居記　三四
鎌倉五山記　一三
鎌倉佐介淨刹光明寺開山御傳　九〇
鎌倉時代通俗史談　八〇
鎌倉順禮記　二八三
鎌倉松岡過去帳　九三
鎌倉松岡過去帳　五六・六七
かまた　七三
我慢抄　九一
畫墁錄　一四三・一六四
上賀茂松下氏文書　九六
上賀茂三手文庫目錄　九六

紙屑籠　七五
可見圖益志　四三
上寺古鐘之記　三九
神谷宗湛筆記　八七
神谷永手雜抄　一七
神代餘波　三三
神日本磐余彦天皇諱辨　三三
神倭伊波禮毘古命御經歷補　一〇六
冠（カムリヤマ）松眞土夜暴動（ノトヨロアラシ）　一〇六
科名故實二書　二九
龜戸東宰府天滿宮御神寶目錄　二三
龜屋喜兵衛難船記　四四
龜山院御灌頂記　八九
龜山院御葬禮記　四六
龜山殿御幸記　五六・六八
龜山殿五首御歌合　四六・五七
龜山殿七百首　四九・六一
假面　一八二
假面譜　九六
蒲生氏鄕記　五三・六五
蒲生氏鄕紀行　五三・六四
蒲生君平遺稿　一七二
蒲生君平全集　一七二
蒲生系圖　七九
賀茂皇太神宮記　四五・五七
賀茂御幸記　四六・五七
賀茂齋院記　四六・五八
賀茂氏系圖　四六・五八・七九
賀茂神宮鴨氏系圖　七九
賀茂注進雜記　九三
賀茂傳說考　七五
『鴨』の梗概　四三
鴨長明集　三九
賀茂祭繪詞　八七
賀茂祭ざうようの引付色目　一七二
賀茂御祖皇大神宮御幸記　三三
鴨御祖社歌合　一〇六
賀茂社御願書　一〇六
賀茂社櫻會緣起　二一九
賀茂社法樂宗牧獨吟名所百韻　二三
加茂保憲女集　八五
賀茂臨時祭記　五二・六三
賀茂別雷社歌合　五五・六六
高陽院行幸和歌　四六・五七
高陽院七番歌合　四九・六一
賀陽院水閣歌合　四八・六〇
萱野三平傳　一八二
俄游彙編　九六
畫友詩　五三・六五
嘉祐集　五三・六四
臥遊隨錄　一七二
雅遊漫錄　一七二
臥游錄　七九
華陽國志　四五・五七
華陽陶隱居集　四六・五八
華陽陶隱居內傳　四六・五八
嘉良喜隨筆　四六・五八・七九
唐艸表紙序　七九
我樂多籠　九三
瓊訓蒙鑑草　一九七
唐崎松記　一〇四
唐澤軍談　一九六
唐澤城老談記　四一
鴉　四四
烏鐵炮　四六・五七
唐太話　四九・六〇
樺太評論　四五・五七
樺太要覽　五四・六六
唐物語　八五
伽藍記　二三四・二九・一四二・一四八
禍亂の防止策としての公共藝術の奬勵　一〇三・二五・二七・三二
かりがね文七一周忌　四九・六〇
雁衣鈔　八四
狩詞記　四八・六〇
就狩詞少々覺悟之事　三五
かりねのすさみ　三七
狩谷棭齋全集　二五九
家隆卿百番自歌合　五〇・六二
花柳古鑑　一四七
花柳春話　二四四
歌林四季物語　三五・二九八
瓦林正賴記　一四九・一五九
歌林良材集　二三四・三五
歌林良材摘抄　二三四
かるかや　二三七
輕口大矢數　一八〇
カルヅツチイ　二三八
花曆　二三八
瓦礫雜考　五五・六七
嘉曆三戊辰年九月十日公卿勅使御參宮日記　七五
枯木に花咲せ親仁　三八
枯木の後に書く　八七
嘉蓮燕語　一八四
書簾緒論　四四
嘉祿元年宗清法印勸進文　九七
畫論　一三〇
川合清丸全集　二六四
川合社歌合　八六
川合永郎葬送誄辭　四四
河合神職鴨縣主系圖　八九
加波伊文庫著者名目錄　三六
河及湖澤　四七・五九
川角太閤記　五四・六五
川口式電氣集計機　五四・六五
川口善光寺緣起　八五
川くるみ澤狀　一七二
河越記　五〇・六一
河越千句　二二九
川越松山之記　二一九
革財布出典　九三
革島家傳覺書　八七
革島系圖　八七
蛙　八五
河津系圖　二九三
蛙のはしがき　三八
蛙のはらわた　三八
爲替貯金局統計年報　一八〇
河竹默阿彌　二三七
河竹默阿彌傳　一九八
河竹默阿彌傳序　一九八
河内國叡福寺略緣起　五〇・六二
河内國小松寺緣起　四一
河中島五箇度合戰記　九〇
川那部系圖　八七
河廼邊翁物語　三一〇
河村誓眞聞書　八八
河村誓眞雜々記　八八
河村幹雄博士遺稿　一九〇
河村幹雄博士略年譜　一九一
河社　一〇三・二五・三七・三二
河原院歌合　五
河原院歌合　八四
かはらよもぎ　一七二・一七八
かはりとよかつしまばらみ　三七
ゑくのもん日　八一
雁　二八五
冠位通考　二九三
敢爲篇　五〇・六二
閑院左大將朝光卿集　一四七
寰宇記　一四七
甘雨亭叢書　三五・二九八
寬永江戸圖　三八
翰苑　二三・三九
還冤記　二三九・一四九・一五九
寬延奇談　三三一
寬延雜祕錄　二二九
翰苑集　一三五
淮園十二師　一六〇

開燕常譚　一三二・一四五
感應經　一三二・一五三
觀應二年日次記　九一
感應類從志　一五三
巖屋完節志　一七六
官海慈航　一六〇
勸戒全書　二六六
鑑戒錄　一三二・一四四
館課擬文　二〇四
くわんがくゐん物語　三八
顧學記　二〇六
漢學紀源　九五
漢學商兌　一三三
漢學不可廢論　一二一
勸學篇　一六九
看花雜詠　一三九
感化事業　二一〇
巖下放言　二四・一三二・一四四・二三〇
漢官儀　一四七
漢官舊儀　七二・二六五
涴花集　一三五
漢甘泉宮瓦記　一三九
寒岩禪師略傳　八〇
閑閑老人滏水文集　一三五
漢魏音　二〇三
漢魏叢書　一三三
漢魏博士考　一二七
漢魏博士題名考　二〇三
感舊集　二四九
官業及保護會社問題　二九〇
關稅問題と社會政策　二九〇
岩棲幽事　一二八・一五五・二六六
觀世音寺資財帳　五五・六六
漢籍解題　五
岩石學研究に於ける光學的　一九一
　鑛物學の意義
漢籍研究次第　五一・一七
漢石例　一二三
觀石錄　一六〇
觀世流謠本　二九三
勸善訓蒙　一二九
韓仙傳　一五二・一六六
淵泉日記　一四四・一六五
寒川入道筆記　九二
眼前の異人種問題　一九三
漢泉漫藁　一二五
閑窓一得　一〇五
閑窓瑣談　二・一五・二六
閑窓自語　一〇三・二一七
閑窓撰歌合　四九・六一
閑窓筆記　二一七
涴俗約　一五六
元祖蓮公薩埵略傳　八〇
漢代古文考　一二七
觀宅四十吉祥相　一三九
甘澤謠　一四一・一五二・一六一
邯鄲市上昨非談　二三八
桓譚新論　一四七
簡單ナル尿中沃度微量比色　二九〇
　定量法
邯鄲夢記　二〇七
關東洲現住戶口　八二
　較統計
關中記　一四八
關中今古錄　一三二・一五五
關中士女志　三二・一四七
關忠書　一九〇
酬中清話　一三二・一六七
官廳刊行圖書目錄　五
觀潮樓一夕話　一八一
觀潮樓閒話　一八三
觀潮樓隨記　一八一
官地論　八七
鑑定人　一四五
成定錄　一八〇
鑒徹錄　三三・三四
寬天見聞記　三三・三四
關田耕筆　一〇三・二一・五二・六二・三二
關田永筆　一〇三・二一・五二・六二・三二
漢唐遺事　九八
觀堂外集　二〇三
漢銚歌十八曲集解　一六八
關東合戰記　一四五
函潼關要志　一四五
關東血氣物語　二七七
關東瀟鏡傳　一四八
觀堂古金文考釋五種　一四二
間島國境問題　一四二
間島產業調查書　一四七
礪東詩鈔　二四四
關東實業區一府七縣產業比　九二・九三
　較統計
關東洲現住戶口　八二
觀堂集林　一四八
關東探勝記　一五四・一五二・一六三
關東都督府統計摘要　一七三
關東評定傳　一三九
關東兵亂記　一七一
觀堂別集（後編共）　九五
甘棠篇　一三三
觀堂譯稿　一四七
簡牘檢署考　三九
翰林學士集　一四六・一六四
翰林志　八三
旱霖集　一四六
翰林壁記　一四〇
翰林楊仲弘詩集　三四
翰林雜問記　二七
禮禮推　一四〇
關隴輿中偶憶編　一五〇
干祿字書　一三五
勸農備荒二物考　一
觀音院恒例結緣灌頂記　一〇三
關白內大臣家歌合　三八
官板價附目錄　一〇三
漢氾勝之遺書　二三八
官版書籍解題目錄　一四八
官版書籍解題略　一四八
漢蕃對音千字文殘卷　一四八
韓非子　二一九
觀微子　八〇
刊謬正俗　二四四
看聞日記　九二・九三
　一四四
雁門野說　一八七
漢譯鷄肋　一四八
宦遊紀聞　一五四・一六二・一六三
漢洋內景說　九八
看羊錄　三九
開餘筆話　一七一
觀瀾三種　九五
觀瀾集　一三五
甘棠篇　一三三
觀堂譯稿　一四七
簡牘檢署考　三九
翰林學士集　一四六・一六四
翰林志　八三
旱霖集　一四六
翰林壁記　一四〇
翰林楊仲弘詩集　三四
翰林雜問記　二七
禮禮推　一四〇
關隴輿中偶憶編　一五〇
干祿字書　一三五
勸農備荒二物考　一
觀音院恒例結緣灌頂記　一〇三
關白內大臣家歌合　三八
官板價附目錄　一〇三
漢氾勝之遺書　二三八
官版書籍解題目錄　一四八
官版書籍解題略　一四八
漢蕃對音千字文殘卷　一四八
韓非子　二一九
觀微子　八〇
刊謬正俗　二四四
勸業諸報標目　二八九
韓國衙生一斑　四七・五九
　一七七
韓國慶州に於ける新羅時代　一二一
　の遺蹟
寬正五年仙洞三席御會詩歌　八四
寬正三年內宮神寶奏管符　七五
關城書　五三・六五
關城書裏書　五五・六六
漢書解題集成　五
韓國財務統計要覽　一四三
韓國施政年報　一〇三
閑谷集　九二
韓國併合を祝し奉る　一二七
　觀古堂刻書
觀古堂所著書　一三一
諫鼓鳥　一五六
簡齋詩集　一九六
簡齋詩外集　一七九
簡齋文集　八〇
簡齋漫錄　一〇〇
漢雜事祕辛　一五一
看山閣集　九一
雁山雜記　四五・五六
寒山子詩集　七六
寒山拾得　一七九
寒山拾得緣起　一二九
寒山堂金石林時地攷　一一
閑散餘錄　一〇・三一
管子　一四九
韓詞遺說　三
貫首秘抄　一三
咸淳遺事　一三
　の遺蹟
閑谷營基金募疏　八四
韓國財政施設綱要　九二
韓國財政整理報告　一三三
韓國財務經過報告　八六
韓國財務統計要覽　一四三
韓國施政年報　一〇三
閑谷集　九二
韓國併合を祝し奉る　一二七
　觀古堂刻書
觀古堂所著書　一三一
諫鼓鳥　一五六
簡齋詩集　一九六
簡齋詩外集　一七九
簡齋文集　八〇
簡齋漫錄　一〇〇
漢雜事祕辛　一五一
看山閣集　九一
雁山雜記　四五・五六
寒山子詩集　七六
寒山拾得　一七九
寒山拾得緣起　一二九
寒山堂金石林時地攷　一一
閑散餘錄　一〇・三一
管子　一四九
韓詞遺說　三
貫首秘抄　四七・五九
咸淳遺事　一三
寬正五年仙洞三席御會詩歌　八四
寬正三年內宮神寶奏管符　七五
關城書　五三・六五
關城書裏書　五五・六六
漢書解題集成　五
管色攷　一四三
韓國財務統計要覽　一〇三
官職制度考　四六・五八
官職雜儀　四六・五八
官職秘抄　四六・五八
官制通考　一三七
漢書食貨志　一三三
漢書地理志稽疑　二〇六
漢書地理志水道圖說　一五六
閒書杜律　一七九
漢書論說　一四八・一六四
官箴　八〇
鑒眞和上三異事　一〇〇
閒人雜記　五五・六六
觀心寺緣起實錄帳　九一
肝心集　四五・五六
官神初瀨山影向記　七六
官神入朱授衣記　九一
卷數集　二一九
寬政紀聞　一四〇
寬政御用留　一七三
寬政三年町法被仰渡書　四一
寬政時代の藏書家市橋下總守　二一一
寬政祕策　二一九

關隴通志　二六六
關氏易傳　一四〇・一四二
　一四三・一五三
官制通考　二九一
漢事會最人物志　一六八
韓詩外傳　一三三
顏氏家訓　二六九
韓詩講義　二三・二九・一三三・一四九
漢字三音考　二九三
韓氏三禮圖說　一七七・一七八
鴈字詩　二〇五
寒支集　八五
鑑止水齋集　二三五
官私設鐵道調查表　八九
諫止中東和議奏疏　二三四
元日宴會次第　一七九
元日節會次第　八二
閑室漫錄　二三七
韓詞訂譌　二一五
寬至天見聞隨筆　一四七
觀自得齋叢書（別集共）　二三四
寬治二年記　二三・二五
漢詩の名　五五・六六
開者軒帖考　一八〇
勸修寺緣起　一六六
勸修寺舊記　三四
勸修寺長吏次第　五四・六六
官儒侍讀年譜　八九
還壽信女往生略傳　七七
漢儒通義　四四
觀樹堂詩集合刻　二〇六
廣西通志　二四四
關氏易傳　一四〇・一四二
韓子解詁　二九一
漢事會最人物志　一六八
韓詩外傳　一三三
顏氏家訓　二三・二九・一三三・一四九
韓詩講義　二九三
漢字三音考　一七七・一七八
韓氏三禮圖說　一二七
鴈字詩　二〇五
寒支集　二三五
官私設鐵道調查表　二三四
諫止中東和議奏疏　二三五
元日宴會次第　八二
元日節會次第　二八
閑室漫錄　一六八
韓詞訂譌　二一五
寬至天見聞隨筆　二三四
觀自得齋叢書（別集共）　二三四・二五一
寬治二年記　五五・六六
漢詩の名　一八〇
開者軒帖考　一六六
勸修寺緣起　五四・六六
勸修寺舊記　九〇
勸修寺長吏次第　七七
官儒侍讀年譜　四四
還壽信女往生略傳　二〇六
漢儒通義　二四四
觀樹堂詩集合刻　二〇六
觀楓記　一九〇
看楓約　一三二
漢武帝內傳　一三三・一三九・一五二・一六七
官武通紀　一六九
韓文　六九
寬文印知集　九五
寬文記　九四
寬文十三年丹後國中覺書帳　五五
寬文書籍目錄　九
漢文評釋　一三三
涌芬樓祕笈　一三五
寬平御時后宮歌合　四八・八〇
寬平菊合　五〇・八一
寬平御遺誡　五五・六七
痛癖談　三一八
寬保延享江府風俗志　六九
冠帽革制考　一六七・一九八
韓奉議鵾歌傳　一三三
閑放集　八五
艦砲全書　二六五
願豐堂漫書　四九・六〇
翰墨志　一
翰墨叢記　一五〇・一六四
館本十七帖　二三七
官民必携　五
桓武平氏系圖　一七七
眼目窮理編　一四三
看聞御記　一四三
願文集　一七七
關秘錄　二三六・二三八
觀楓記　一九〇
看楓約　一三二
漢武帝內傳　一三三・一三九・一五二・一六七
官武通紀　一六九
韓文　六九
寬文印知集　九五
寬文記　九四
寬文十三年丹後國中覺書帳　五五
寬文書籍目錄　九
漢文評釋　一三三
涌芬樓祕笈　一三五
寬平御時后宮歌合　四八・八〇
寬平菊合　五〇・八一
寬平御遺誡　五五・六七
痛癖談　三一八
寬保延享江府風俗志　六九
冠帽革制考　一六七・一九八
韓奉議鵾歌傳　一三三
閑放集　八五
艦砲全書　二六五
願豐堂漫書　四九・六〇
翰墨志　一
翰墨叢記　一五〇・一六四
館本十七帖　二三七
官民必携　五
桓武平氏系圖　一七七
眼目窮理編　一四三
看聞御記　一四三
願文集　一七七
看聞日記　九二・九三
　一四四
雁門野說　一八七
漢譯鷄肋　一四八
宦遊紀聞　一五四・一六二・一六三
漢洋內景說　九八
看羊錄　三九
開餘筆話　一七一
觀瀾三種　九五
觀瀾集　一三五
甘棠篇　一三三
觀堂譯稿　一四七
簡牘檢署考　三九
翰林學士集　一四六・一六四
翰林志　八三
旱霖集　一四六
翰林壁記　一四〇
翰林楊仲弘詩集　三四
翰林雜問記　二七
禮禮推　一四〇
關隴輿中偶憶編　一五〇
干祿字書　一三五
勸農備荒二物考　一
觀音院恒例結緣灌頂記　一〇三
關白內大臣家歌合　三八
官板價附目錄　一〇三
漢氾勝之遺書　二三八
官版書籍解題目錄　一四八
官版書籍解題略　一四八
漢蕃對音千字文殘卷　一四八
韓非子　二一九
觀微子　八〇
刊謬正俗　二四四
僞惡醜日本人　二一九
規庵和尙行狀　八〇

議案錄　四四・一一七
希夷先生傳　一三二
奇異珍事錄　九六
歸一協會叢書　一〇六
紀伊國神名帳　七六
紀伊國造系圖　七九
紀伊國造職補任考　一七七・一八八
紀伊國造後長集　八五
議院憲法並規則　一一七
議員選舉有權者に關する統計上の觀察　一七五
議院法提要　一一〇
祈雨日記　八九
祈雨法記　一五四
龔越通　二六三
寄園寄所寄　一八〇
義捐小說　一三五
磯園稗史　一三一
魏王花木志　五四・六五
祇園會御見物御成記　七六
祇園牛頭天王緣起　七六
祇園三鳥居建立記　五五・六六
祇園執行日記　七六
祇園社記錄　七六
祇園社古文書寫　七六
祇園別當並同執行補任次第　七六・七七
戲取　一三二・一五五
癸亥御城書　四三
議會及政黨論　一一〇
氣海觀瀾　六九
己亥叢說　三六
幾何學　一一三
姬岳句集　一〇〇
歸雁　九九
饑寒窟　一〇三
奇鬼傳　一五三
きゝのまにまに　二一七
歸鄉日記　四一
戲曲梗槩七十三種　八一
戲曲考源　一〇三
寄曲亭書簡　一〇一
戲曲の分類　八一
戲曲の翻譯法を說いて或る批評家に示す　八四
箕龜論　一五三
記錦裙　一〇五
起原と珍聞　一〇五
紀元通略　一五一
紀元編　二五四
氣候及土壤論　三六
紀侯言行錄　一六〇
魏興士文集　二五四
魏公題跋　六九
歸好餘錄　五三・六五
鬼國記　一八九
鬼國續記　一〇三
鬼谷子　一〇三
鬼哭子　八六
藕堂野史　六九
菊坡叢語　三六
菊譜　一一三
歸愚文鈔　一〇〇
歸愚文鈔餘集　九九
麴本草　一〇三
きくまゝの記　一五三
菊葉和歌集　一八六
旗軍志　二一九
棋經　四一
機警　八一
紀藝　一〇三
龜經　一〇一
魏敬士文集　八一
技藝百科全書　七八
紀家集斷簡　八四
棊訣　一五三
紀元通略　一三〇
起原と珍聞　一〇五
紀元編　二五四
戲言養氣集　二五四
氣候及土壤論　三六
紀侯言行錄　一六〇
魏興士文集　二五四
魏公題跋　六九
歸好餘錄　五三・六五
鬼國記　一八九
鬼國續記　一〇三
鬼谷子　一〇三
鬼哭子　八六
鬼哭年表　四四・一一七
鬼哭論集　一三六
綺語抄　八五
義虎傳　九九
綺語文章　一〇四
鬼才　一八四
毅齋遺稿　四五
毅齋先生詩稿　七九
后宮御産當日次第　九三
后宮御着帶部類　五六・六八
皇后宮春秋歌合　四八・五〇
宜齋野乘　一一九
きさきあらそひ　七四
擬策一道　二一〇
義山樓記　一四四
義山雜纂　一三〇・一四九・一六一
機山十七首　九五
歸山錄　七五
紀氏系圖　四六・五六・七九
奇子雜言　五三
癸巳三月議　一三
疑字甄要　一四一
記事殊　一五三
貴耳集　一五三
議事章程　一四一・一六六
器之禪師塔銘　一四八・五〇
奇事談　一四四
擬悉諸　一四三
氣質錬磨法　一八九
擬似電話ケーブルによる電話中繼器の實驗　二〇七
規子內親王家歌合　八五
癸巳日記　四〇
汽車火事　一八五
紀事約言　一四二
汽車中衛生補遺　一八六
騎射祕抄　五四・六五
紀州御役名大概　四三
紀州御發向之事　八七
擬集古錄　一〇五
儀舟齋書目　五
鬼啾啾　二九
紀州武田系圖　七八
貴州通志　二六六
魏叔子詩集　二五六
魏叔子日錄　二五六
魏叔子文集　二五六
棋手勢　一五一
記述提要　二六八
蛾術編　二三一
揮麈餘話　一四六
揮麈錄　一四七・一四六・六四
魏春秋　一四六
宜春傳言錄　一四六
魏書　二六五
僞書一覽　一
杵城遺事　一七五
鬼哭子　二〇〇
魏昭士文集　二五六

稀書解題　五
僞書說　一
僞書叢　一
稀書複製會刊行稀書解說　五・六・一六
稀書複製會刊行書　三五・三六
貴耳錄　三一・四五
喜神勸請の事　八九
奇晉齋叢書　二二五
癸辛雜識　一四一・四四・三一
魏晉世語　二九・四七
義人全集　九一
鬼神論　一七〇
起世經　一五二
寄生山館詩賸　一三五
奇蹟　一三五
魏石經考　一八四
魏石經殘石考　一二七
奇石殘書　二〇三
犧鑒徵筆　四三
貴賤上下考　一五五
季滄葦藏書目　二二九・三二一
義莊規矩　五一・一二七
義倉條約　一四九
紀草堂十六宮　三五
龜桑夜談　一六〇
議奏歷　三八
木曾願書　九四
貴族院圖書館和漢圖書假目錄（洋書目錄附）　七三
木曾系圖　六
氣中現象學　七七
木曾路之記　七
木曾宣公（義仲）舊里碑　一四一
北亞米利加地誌　一二三
龜臺瑣瑣　一二五
魏臺訪議　一四七
北蝦夷古諺遺篇　一〇七
北樺太東海岸の森林　二三五
北支那戰爭記　二三五
北院御室御集　九二
北院御室拾要集　四五・五七
北野緣起　四五・六三
北野宮緣起　五・六三
北野神君畫幀記　七六
北野大茶湯之記　五三・六四
北野茶會記　七六
北野天神御緣起　四九・六〇
北野宮歌合　七六
北野本地　七六
北野宮寺緣起　七六
北畠系圖　七六
北山院御入內記　五六・六八
北山行幸倭歌　八四
北山准后九十賀記　九三
北山殿行幸記　四六・五七
義太夫は改良すべからず　一九七
奇男子傳　一三〇・六三
紀談錄　一四三
愧郷錄　六
宜竹殘藁　三九
氣中現象學　二二
喜連川判鑑　二八・一五五
橘錄　一六三
魏鄭公諫續錄　二五八
窺天外乘　三三
歸田瑣記　一四三・一五八
歸田詩話　七九
歸田錄　九七
鬼董　一三七
毅堂丙集　一五二・一六七
宜堂類編　八三
宜都記　二六〇
畿內治河記　二〇三
畿內兵亂記　一三五
簠簋約　二〇三
鬼怒子　五三・六四・一〇六
木下川藥師佛像緣起　五三・六四
新年祭祝詞　五六・六八
紀年兒覽　九三
疑年錄　八一
甲子夜話（カツシヤワ參照）　一八九
きのふはけふの物語　五六・六八
木下勝俊朝臣集　四一
紀貫之集　一六〇
乙寺緣起　二三八
紀友則集　九四
魏伯子文集　九九
紀藩士著述目錄　一二一
吉備溫故祕錄　一四三
吉備溫故祕錄附錄　一六九
吉備溫故祕錄附錄　二六九
喜連川古河宮原之系圖　七七
己未紀行　一七七・一九
吉備群書集成　三八
吉備前祕錄　三九
吉備津神社記　三九
吉備津宮參詣之記　三九
吉備刀劍考　三九
吉備之國地理之開書　三九
吉備の志多道　三八
寸簸之塵　三八
吉備烈公遺事　九四
祺品　一五一
岐阜縣戶口統計　二八〇
魏夫人傳　一五三
魏武帝註孫子　七・一六三
紀文達公遺集　二四四
癸卯子役日錄　九五
熙豐日曆　一三〇・一四六
畿輔通志　二六六
木枕　四四
君島系圖　一七
紀見のめぐみ　一七七・一九
疑孟　一四三
義門題跋　一九
疑問錄　二八
格逸　七五・二八
格逸々　九四
腳氣集　九四
客衆肝照子　三七
腳色餘錄　七三
逆臣傳　二五八

却掃編　一四一
逆の味ひ　二一〇
脚本に關する訴訟事件の鑑定　一九七
脚本の朗讀法　一九六
脚本プルムウラの由來　一八三
諫名錄　一四五
キャシャオトコ　能男なさけの遊女　三七
笈埃隨筆　二一七
久安六年御百首　四八・八〇
九域志　一四七
九院佛閣抄　五五・六六
九雲夢　九八
九淵詩稿　八三
歸有園麈談　一三八・一五六・二五五・二六七
牛應貞傳　二六六・二三〇・二五二・二六七
九懷詞　二〇四
窮怪錄　一五二・二六七
九華山錄　四八・五九
及瓜漫筆　二一九
舊刊景譜　一
舊刊叢書類書名　六
救饑提要　九七
九喜榻記　一六〇
救急或問　一〇一
舊狂言作者及び舊脚本　一九六
九經古義　一一三
九經誤字　二〇六
丘瓊山故事雕龍　二九
九經三傳沿革例　一三三
九桂草堂隨筆　二一八・二二一
九桂草堂隨筆を讀む　三二
九州掾題　三九
九州治亂記　一三七
九經補讀　一三二・一四二・一四四
舊劇を奈何すべきか　一八二
舊劇の未來　一八三
九州帝國大學圖書目錄　二〇五・二六一
九州のみちの記　二〇六・二六一
急就篇　二三八
九州道の記　一五〇・一六四
久壽改元定記　七一
幾邑舜若問答　一四八
危書　九四
九章算術（并音義共）　一〇八・一一〇・一二・一八
宮城堂舍諸門炎上誌　一九五
舊鈔本說文　六・三九
嬉遊笑覽　六・三七
舊勝錄　六・三七
給水浴澡堀渠　一三三・一四七
九數外錄　二五三
九數乘除圖　一五三・一六六
急性傳染病ニ因ル死亡統計　一九六
舊蹟遺聞　一三三・二〇六
舊蹟紀聞　四二
求是齋雜著　一三七
虬髯客傳　一三五
鳩巢與白石諫書　一三五
休息句合　一三〇
奇遊談　九四
九秩壽詩　一五〇・一六四
仇池筆記　一四四
汲冢周書　一四七
九朝野記　一六
舊津山藩の學制　三九
宮庭儀禮の民俗學的考察　二三七
舊邸礎跡略　四二
宮殿建築大意　二〇〇・二九二
牛痘接法　一九一
癸酉讀書　一七二
牛鍋　一七一
九梅村詩集　八二
舊幕府御定書　四三
舊幕府御定書例書　一四三
舊幕府公事方御定書　一〇三
舊幕府理財會要引用書目竝參考書目　一〇五
牛馬統計表　三九
就弓馬儀大概聞書　二七・三四・九七・一〇〇
舊派の俳優は新劇の俳優として尙ほ大いに用ふるに足るか？　四三
九國志　一一一
九谷集　一一三
汲古叢語　一五二・一六六
汲古留眞　三九
求古錄　二一三・二〇六
舊今記　四二
宮室攷　一三七
求志編　一三三
九射格　一三一
舊習一新　一二〇
九州下向記　九四
欽州硯譜　一五〇・一六四
窮愁志　一四四
九州春秋　一四七
急就章　一六
欽定　三一
欽定四庫全書　一三九
欽定四庫全書考證　一三七
欽定四庫全書總目　一四二・一四四
欽定四庫全書總目提要　一四五
欽定四庫全書總目提要引用書目　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編　一四六
欽定四庫全書總目提要引用書目補遺續編

郷土文獻綜合目錄（秋田縣）　六
沂陽日記　一五三
京ひながた　七三
凶服部類　八三
狂夫之言（續共）　一六六・二六七
教坊記　一三〇・一四九・一五九・一六一
享保十七年葛町生國竝抱女名寄帳　四三
享保書籍目錄　九
享保世話　六九
享保通鑑　二九
享保廢法律類寄　一〇三
享保年間集　四三
享保年間分限帳　四四
堯峯文鈔　一三六
享保よみ賣はやり唄　三八
業要集　二九
峽陽來書　二九
杏柳傳語　一〇〇
饗禮補亡　一三
匡廬紀游　一六八・二六八
技攘錄　九七
享祿以來年代記　九一
杏廬文鈔　一三一
享和雜記　二九
享和のはやり神　四一
京童　一九七
居易堂集　一三五
居易錄　二六二
ギョオテ詩を論ず　一八〇
ギョオテ傳　一八三
ギョオテ年譜　一八三
駈戎概言　一七七・一八八
居家宜忌　八三
居家制用　一五五
居家備用　一七三
御冠沿革考　一九二
去僞齋文集　二〇六
祛疑說　九
漁業生產調査規程　一四九・一六四
漁業生產調査統計　二六五
曲洧舊聞　二五五
漁具詠　一三一・一四五
曲園襍纂　一四〇
曲園自述詩　二〇三
曲豔品　二四四
玉海　一二八・一五七
玉海　三三
玉川子詩集（外集共）　一三一・一四四
玉泉子眞錄　九一
曲藻　一三三
玉窗遺稿　一四三・一六七
玉臺書史　一六〇
玉臺新詠集　一四五・一四六
玉臺新詠箋註　一三七
玉池談屑　一三七
玉仲遺文　一五四
曲中志　一六四
玉晁思田隨筆　八七
玉晁初歌集　一五五
玉晁叢書　一〇三
玉山詩集　一〇三
玉山樵人集　八六
玉山草堂續集　八三
玉山堂詞　一四七
玉筒集　一七七・一八八
玉芝堂文集　一五五
玉照新志　一七三
玉照堂遺愛字紙　一九二
玉章祕傳抄　二〇六
玉笑零音　一四九・一六四
玉食批　二六五
玉燭寶典　一三一・一四五
瑤坤誌略　一三一
玉藻辨證　一五五
玉石雜誌　二〇三
玉石志林　二四四
玉泉子　一二八・一五七
玉川子詩集（外集共）　三三
玉窗遺稿　一三一・一四四
玉臺書史　九九
玉臺新詠集　一四五・一四六
玉臺新詠箋註　一六〇
玉池談屑　一六七
玉仲遺文　一五五
曲中志　一四三
玉晁思田隨筆　一五五
玉晁初歌集　一六四
玉晁叢書　一〇三
玉山詞　一六二

極超短波に依る無線電話　二九
玉晁日記　四三
玉晁日記　八六
玉林苑　八六
玉曆通政經　六八
玉山堂詞　一四七
玉山堂詞　一五六
玉筒集　一五五
玉芝堂文集　一七三
玉照新志　一七三
玉照堂遺愛字紙　二〇六
玉章祕傳抄　一四九・一六四
玉笑零音　二六五
玉食批　二六五
玉燭寶典　一三一・一四五
瑤坤誌略　一三一
玉藻辨證　二〇三
玉石雜誌　二四四
玉石志林　一二八・一五七
玉泉子　三三
玉川子詩集（外集共）　一三一・一四四
玉泉子眞錄　九一
曲藻　一三三
玉窗遺稿　一四三・一六七
玉臺書史　一六〇
玉臺新詠集　一四五・一四六
玉臺新詠箋註　一三七
玉池談屑　一六七
玉仲遺文　一五五
曲中志　一六四
玉晁思田隨筆　一五五
玉晁初歌集　一六四
玉晁叢書　一〇三

御製詩（初・二・三・餘集）　二四四
御製文（初・二集）　二四九・二九四
御選唐宋詩醇　一〇一
漁村文話（續共）　七六
清瀧宮勸請神名帳　五六・六七
魚鳥平家　一八四
ギョッツ　一八四
ギョッツ考　一八四
御定全唐詩錄　二四九
清原右大將　七四
清原氏系圖　四六・五六
清原系圖　五七
魚品　一五七
清正記　八八・一〇三
清正行狀奇　八八
清正公行狀　八八
清正高麗陣覺書　九四
清正朝鮮記　三四
清水觀音利生物語　七三
清水寺緣起　五四・六六・九〇
清水の御本地　三六
虛無黨實傳記鬼啾啾　二九
清盛と佛御前　二〇一
御遊抄　八六
御遊部類記　八六
漁洋感舊集小傳　三五〇
漁洋山人詩問　三三五
漁洋山人集外詩　三三五
漁洋山人精華錄　一三六・二四五
漁洋詩話　一六〇
御覽閥史　二三五
御覽集　三五一
御覽書苑青華　二四九・二九四
漁陽石譜　一〇一
居留地制度ト内地雜居　七六
漁獵　一八四
魚類ノ膵構造ニ就テ　一八四
儀禮　二四九
儀禮議誤　七四
儀禮釋宮　七九
儀禮釋宮增註　四六・五六
儀禮石經校勘記　一五七
儀禮鄭氏注　八八・一〇三
吉良系譜　八六
きりかね曾我　八六
切支丹宗門來朝實記　九四
吉利支丹退治物語　三四
鬼利至端破却論傳　七三
吉利支丹物語　五四・六六・九〇
霧島山逆矛考　三六
希臘學　二一九
希臘劇に關するもの　四八・五九
希臘古代の演劇に就いて　八六
希臘史　八六
希臘事情　三五〇
希臘志略　三三五
希臘の民謠　三三五
ギリシア美術概觀　一三六・二四五
希臘文藝思潮　一六〇
希臘羅馬人の法醫學　二四四
金匱集　二三五
金貨　一八三
銀街小誌　一三〇
金槐和歌集　五〇・六三
銀閣寺略緣起　四一
琴學八則　一六〇
金華黃先生文集　三七
金華子雜編　一三〇・一四六・一六一
銀貨の過去現在未來　二一六
近科分韻館詩二集　二九五
金華游錄　一六〇
金鑑　二〇六
近刊雜評　一八一
近畿善本圖錄　一四九
錦奏文庫　一三九
金賈要略方論　二〇三・二六〇
金玉歌合　二一六
金玉瑣碎　九二
金玉集　九二
金玉掌中抄　一六九
金玉詩話　一六九
金玉眞蹟　一五七
金玉積傳集　二九
琴曲譜錄　四八・五九
金魚養玩草　一三一・一五一
金々先生榮花夢　二一四
金金先生榮華夢及び大悲千　三七
錄本合評　一八〇
金銀島探檢報告　一〇六
金銀島探檢報告　二九八
欣遇齋詩集　二四五
錦裙記　一三五
禽經　一八三
今言　一三〇
金言類聚抄　五〇・六三
金言和歌集　一四一
銀行者は改良事業に貨幣を貸付くべからず　一六〇
銀行小言　一三七
銀行新論　一九九
金鰲退食筆記　二六六
今古奇聞　二五四
錦谷陡禪師行狀　二〇六
金壺字考　一三三
金壺七墨全集　三七
近古錄　一三七
瑾戶錄　一三六
金山雜志　八四
銀山鐵壁漫談　一三五
金史　二六五
金志　一六五
琴史　一六九
近事奇談內幕話　一六九
近時憲法考　一六九
今詩所見集選　一六九
近事政論考　一三一・一五一
禁室女守志殉死文　一五四
金々先生榮花夢　一五四
近時の經濟變動　一三五
近視の由りて來る所　一六〇
近事評論　一六〇
欽定四庫全書　二四五
契利斯督記　一五三・一六一
基督教々育振興策質問に對する返書公開　一五一・一六五
基督教劇　一三一・一五四
基督教思潮　一三五
基督教社會主義　一九九
基督教と祖國愛　二一一
基督と親鸞　二〇七
基督の信について祖國愛の　三三
うかがはゝ節々　一六五
桐竹紋十郎手記　一六五
桐原系圖　二三三
桐火桶　一三七
桐一葉　一三七
紀琉球入太學始末　七四
擬兩晉南北史樂府　九五
羈旅漫錄　一三五
麒麟抄　一三五
麒麟抄增補　一三五
ギルド社會主義　一三五
ギルドの研究　一三五
記荔枝　一三五
貴嶺問答　一六九
妓樓の制改良せざるべからず　一六九
岐路に立てるデモクラシー　二二五
錦衣志　一五四
近異錄　一三三
禁脈祕抄　一三五
訓閱集　一八五
金淵集　一八六

琴洲詞　二六三
今書　一七一
金勝寺官符　五五・六六
金城祕纂　一七五
今上陛下御卽位式寫眞帖　二八七
禁書總目　六
錦所談　一〇三・三四・三三一
近思錄備考　一七〇
近人詩錄　二四九
近世吾妻人物記　四四
近世逸人畫史　一〇三
近世淫亂集　四三
近世江都著聞集　三三・三四
今世歐洲外交史　一〇七
近世應用電氣學　一一四
近世女風俗考　三一六
近世幾何學　一一一
近世氣象學　一一〇
近世畸人傳序目　三三五
近世奇跡考　三四・三五・三七・三三一
近世紀聞　二八三
金聲玉音　二九四
琴聲經緯　一五一
近世公實嚴祕錄　一〇四
近世國文學思潮　一〇八
近世三十六人撰　一七七・一九
近世社會思想上に於ける改良主義と革命主義　二一三
琴聲十六法　一五九
近世儒學史　一一二
金陵紀事雜詠　一四〇
金陵妓品　一五七
金陵樓事詩　一六九
金陵冬遊記略　一五五
金陵百詠　一一一
金類及鍊金術　四〇〇
琴嶺雜記　一五七
筠廊偶筆　一二九・一四四・二三一
金樓子　一二九

ク

駒陰冗記　一三二・一五四
寓意　一七五
寓意草　一〇五・三一
寓意編　一二五
禺于日錄　一九八
遇恩錄　一三一・一五四
空海和上傳記　八〇
空海僧都傳　八〇
空華談叢　三一一
寓簡　九六・一四三・二〇
空谷香　二五七
宮司引付　七五
偶書　一三九
偶思錄　二〇三
偶像非神論　二一八
偶譚　二六・一五六・二六七
空中線の組合せと其方向性　二〇七
空中の超音波による通信　二〇六
空洞遺稿　二九四
空同子　一八・一五三
寓圃雜記　一九九
空也誄　一五五
寓林清言　一三四
虞喜志林　四〇
公卿宣下抄　一五七
公卿勅使記　四五・五七・七五
公卿勅使御參宮次第　四五・五七
公卿勅使御參宮日記　七五
公卿勅使雜例　七五
愚見抄　八五
駒谷芻言　八六
愚谷文存　一六三
愚鼓辭　二〇五
日下一木集　八三
日下部系圖　七九
草雙紙書目　七三
愚雜俎　二五・二八
草枕　四二
草まくらの日記　一七七・一七八
草物語　四三
クサンチス　一八四
舊事紀直日　一七四
久慈郡薩都宮奉加帳　一六五
舊事本紀玄義　一七四
孔雀經御修法記　八九
孔雀樓筆記　三三
虞部庵批點文選心訣　七二
九條右大臣集　六六・九七
九條家車圖　七六
霍小玉傳　一八・一五三
九條殿遺誡　一三二・一五五
九條年中行事　八〇
虞初新志　一五六
虞初續志　一四七
虞書曆象俗解　八三
愚人の力　四五・五七・七五
騶唫錄　四五・五七・七五
藥玉之考　七五
楠木合戰注文　七五
楠氏系圖　八五
楠天童著逸書目　二一六
楠判官兵庫之記　一六三
くずばな　二〇五
區勢調査ニ現ハレシ札幌區民ノ讀書力　八三
九世圍十郎　七三
九世圍十郎・五世菊五郎　九三
九世圍十郎・五世菊五郎　二三五・二八
くせ物語　四二
句題百首　四二
句題和歌　四三
くだものゝうた　一八四
久多綿之蚊屋野考　一七四
口遊　七六
愚痴拾遺物語　九三
瞿忠宣公集　八九
屈翁山詩集　三三
靴か展か　一七五
クラム教授の「英國と獨逸」　一九〇
栗山大膳　一八三
屈賦徵　六八
舊唐書疑義　一四二
舊唐書經籍志　一三
五五・六七
四七五・八
虞東先生文錄　一三九
工藤二階堂系圖　一六三
宮内省圖書寮陳列圖書目錄　一六三
邦高親王御百首　一七四
國のけもの　三八
國之大經　一〇〇
國造本紀考　二四
久能寺緣起　九四
九戶記　九五
九戶軍談記　六
愚祕抄　一〇六
公方様正月御事始之記　一〇七・一七
公方兩將記　六
久保之取蛇尾（スヂビ）　六
九品和歌　一九七
熊谷系圖　三四
熊谷直好と八田知紀と　八〇
熊櫃集　八〇
熊澤先生覺書　四八・六〇
熊澤了介先生事蹟考　一九六
熊野權現金剛藏王寶殿造功　一〇六
　日記　三九・一〇一
熊野山開帳　一八・九三
熊野神社神號神位　二一九
熊野別當系圖　三五三
熊野別當代々記　二四五
熊野別當代々記　一八五
熊野法樂千句　一八五
熊野本宮古記　二九四
熊本高等工業學校和漢圖書分類目錄　六
熊本市商工營業統計　二七五
熊本市職業調査の結果　二七五
熊本市職業統計　二七五
熊本圖書館和漢圖書分類目錄　六
熊本暴動記　四二
茱萸嚢之考　二一四
愚迷發心集　七〇・九一
久米邦武氏の神道説の妄を辯ず　一八八
久米寺流記　九〇
久米舞考　一九三
雲井の御法　五四・九六
雲がくれの巻　四四
蜘蛛の糸巻　三三・一〇三・二五・二一七・三三
愚問賢注　八五
愚聞集　四二
公羊逸禮攷徵　一三五
公羊傳補注　二〇五・六一
公羊問答　一三三
鞍鐙寸法記　八八
鞍鐙目利書　二一四
暗い芝居對明るい芝居　一九六
鞍物名彙　一七六
鞍馬出　七三
鞍馬蓋寺緣起　九〇
クラム教授の「英國と獨逸」　一九〇
栗山大膳　一八三
金石錄補續跋　二八二
今世說　二八二
琴箋圖式　二八二
今撰和歌集　二一一
琴操　二一一
巾箱小品　二八二
金瘡祕傳集　二九二
金瘡箋說　一〇八
金屬電着に用ふる添加劑の　共通性　二一三
銀臺遺事　一〇八・二一一
近代英國社會主義史　六九
近代化學の勝利　七〇
近代科學の諸問題　一九五
金臺紀聞　六八
近代劇研究　三
近代公實嚴祕錄　二四九
近代個人主義の諸相　二一三
金臺殘涙記　三四
近代思想界の變遷　二一三
近代思想とヂャーナリズム　二八・二五五
襟帶集　二三三・二〇六
銀臺拾遺　三七
近代秀歌　三三
錦帶書　二〇六
近代著逸目錄　三七
近代著逸目錄續編　二三
近代犯罪學說　二三
近代婦人運動　二三
近代佛蘭西文學　一二三
銀臺附錄　四八・六〇
近代立法の精神　七二
錦帶連珠　一三六・二六一
公忠朝臣集　九二
金丹四百字解　一六六
欽定國朝詩別裁集　一六六
欽定古今圖書集成　四四
欽定古今圖書集成總目　一〇三
欽定美學上の問題　四三
欽定美術史　三三・三四
欽定風俗見聞集　一〇七
欽定佛教集說　一一四
欽定文學思想の源流　一一六
欽定文藝叢書　三一六
欽定名著標本集　一一一
欽定武英殿聚珍版程式　一一〇
欽定滿洲源流考　一八六
金鐵集　一四〇
公任卿集　一三
勤王烈士詩　二四〇
金之星諸藝鑑　二四四
公宣卿白馬節會次第　一〇三
公宣卿踏歌節會次第　五一・六三
禁祕鈔　一四・一四九
公平花だんやぶり　六
公平化生論　六
公平末春いくさろん　一二四
公平誕生記　一九四
公平つるぎのりつくわ　一一三
公平天句問答　一〇三
公平入道山めぐり　七四
公平武者執行　一一二
禁祕錄　一五九
菌譜　七四
吟風閣詞曲譜　一五一・一六四
禁扁　一〇三
近峰記略　一六九
近峰閒略　一三一・一五五
金本位の作用・殊に金融との關係　二一二
今本竹書紀年疏證　二七・一〇三
金毛狐　一九四
訓蒙圖彙　一七・一八
訓蒙淺語　一〇一・一一八
金融閒談　一九九
金融事項參考書　二七五
金融問題　一〇九
金融論　一一〇
金曜會報告　三三五
金葉和謌集　八三
今來風體抄　八五
金鑾密記　一三〇・一四六・一六一
禁裡哥合　四九・六〇
禁裏御普請帳　八九
錦里新聞　一四五
金龍淺草千本櫻　三八
金陵癸甲摭談　二六八

金陵紀事雜詠　一四〇
金陵妓品　一五七
金陵樓事詩　一六九
金陵冬遊記略　一五五
金陵百詠　一一一
金類及鍊金術　四〇〇
琴嶺雜記　一五七
筠廊偶筆　一二九・一四四・二三一
金樓子　一二九

ク

駒陰冗記　一三二・一五四
寓意　一七五
寓意草　一〇五・三一
寓意編　一二五
禺于日錄　一九八
遇恩錄　一三一・一五四
空海和上傳記　八〇
空海僧都傳　八〇
空華談叢　三一一
寓簡　九六・一四三・二〇
空谷香　二五七
宮司引付　七五
偶書　一三九
偶思錄　二〇三
偶像非神論　二一八
偶譚　二六・一五六・二六七
空中線の組合せと其方向性　二〇七
空中の超音波による通信　二〇六
空洞遺稿　二九四
空同子　一八・一五三
寓圃雜記　一九九
空也誄　一五五
寓林清言　一三四
虞喜志林　四〇
公卿宣下抄　一五七
公卿勅使記　四五・五七・七五
公卿勅使御參宮次第　四五・五七
公卿勅使御參宮日記　七五
公卿勅使雜例　七五
愚見抄　八五
駒谷芻言　八六
愚谷文存　一六三
愚鼓辭　二〇五
日下一木集　八三
日下部系圖　七九
草雙紙書目　七三
愚雜俎　二五・二八
草枕　四二
草まくらの日記　一七七・一七八
草物語　四三
クサンチス　一八四
舊事紀直日　一七四
久慈郡薩都宮奉加帳　一六五
舊事本紀玄義　一七四
孔雀經御修法記　八九
孔雀樓筆記　三三
虞部庵批點文選心訣　七二
九條右大臣集　六六・九七
九條家車圖　七六
霍小玉傳　一八・一五三
九條殿遺誡　一三二・一五五
九條年中行事　八〇
虞初新志　一五六
虞初續志　一四七
虞書曆象俗解　八三
愚人の力　四五・五七・七五
騶唫錄　四五・五七・七五
藥玉之考　七五
楠木合戰注文　七五
楠氏系圖　八五
楠天童著逸書目　二一六
楠判官兵庫之記　一六三
くずばな　二〇五
區勢調査ニ現ハレシ札幌區民ノ讀書力　八三
九世圍十郎　七三
九世圍十郎・五世菊五郎　九三
九世圍十郎・五世菊五郎　二三五・二八
くせ物語　四二
句題百首　四二
句題和歌　四三
くだものゝうた　一八四
久多綿之蚊屋野考　一七四
口遊　七六
愚痴拾遺物語　九三
瞿忠宣公集　八九
屈翁山詩集　三三
靴か展か　一七五
クラム教授の「英國と獨逸」　一九〇
栗山大膳　一八三
屈賦徵　六八
舊唐書疑義　一四二
舊唐書經籍志　一三
五五・六七
四七五・八
虞東先生文錄　一三九
工藤二階堂系圖　一六三
宮内省圖書寮陳列圖書目錄　一六三
邦高親王御百首　一七四
國のけもの　三八
國之大經　一〇〇
國造本紀考　二四
久能寺緣起　九四
九戶記　九五
九戶軍談記　六
愚祕抄　一〇六
公方様正月御事始之記　一〇七・一七
公方兩將記　六
久保之取蛇尾（スヂビ）　六
九品和歌　一九七
熊谷系圖　三四
熊谷直好と八田知紀と　八〇
熊櫃集　八〇
熊澤先生覺書　四八・六〇
熊澤了介先生事蹟考　一九六
熊野權現金剛藏王寶殿造功　一〇六
　日記　三九・一〇一
熊野山開帳　一八・九三
熊野神社神號神位　二一九
熊野別當系圖　三五三
熊野別當代々記　二四五
熊野別當代々記　一八五
熊野法樂千句　一八五

クルウゼンシュテルン日本紀行 一〇六
久留米彫畫家傳 一八一
吳文聰 二九二
クレオパトラ 二〇一
吳市立圖書館圖書展覽會出品目錄 一五
吳服綱 三三
藏人補任 四六・五八・七七
黑川眞頼全集 六八・一九一
黑田家臣傳 一七〇
黑田家譜 一七〇
黑田記略 一七〇
黑田家老士物語 九五
黑田先公忠義傳 一七〇
黑田長政記 八八
黑谷源空上人傳 八〇
黑鳥の考 一七七・一九七
クロポトキン研究 一八八
畔柳助九郎武重覺書 一〇五
桑名前修遺書 四五
桑畑段別及竈表 二七五
桑畑段別表 二七五
桑實寺緣起 九〇
軍醫學舍右翼の結構に關する意見 一八五
勳位考 一九三
訓閱集 二九八
郡閣雅言 一四三
訓學齋規 一四九
群書類從假字目錄 二八五
群書類從正續分類・書名總目錄 一四四
群書類從惣目 一三三
群書類從總目錄・書名索引・略解題 二〇三
群碎錄 一〇七
君子訓 六・八
君臣歌 二三・一五五・二六六
君臣訓誡 一七〇
君子集 一七〇
軍事世界地理 九三
郡市町村廢置分合表 二一四
軍事年表 二六七
軍陣之閑書 二三一
軍制綱領 二三
君則 一二四
訓俗書 五三・六四
君臺觀左右帳記 五〇・六一
群譚採餘 一八六
軍中故實 一五六
薰風協奏集 一五一
薰風雜話 一五一
群芳綺話 六
群輔錄 一七
訓蒙條例 二九
訓蒙圖彙 一三三・二六五
訓蒙淺語 二
訓蒙淺語 三三
君論 一・七〇

迎駕紀恩錄 三九
藝花譜 三八
輕鑿品 一四九
桂舘野乘 三三三
啓類錄 一四四・一五九
經義 二〇五
京畿金石攷 一三三
藝菊 一八
經義攷補正 一三三
京義線工事概況 二八八
景氣・不景氣論 一〇九
景仰撮書 一五五
敬業堂詩鈔 二四五
敬業堂集 一三五・二四五
敬業堂續集 一三五
敬業堂集補遺 一三五
瓊玉和歌集 五〇・六一
瘍狗毒種接院を開くの記 一八六
敬君詩話 一五六
藝經 一五一
莉溪疏 二八八・一五五
慶元イギリス書翰 一〇六
蠣蛤 四三
經考 一二六
經國集 四七・五九
稽古隨筆 三九
繼古叢編 一四四
稽古定制 四七・一五七
稽古錄 一三四
經濟學 二一二・二六八

ケ

蘐庵遺詩 一三九
桂隱詩存 六八
敬宇先生演說集 二一〇
敬宇先生上書是非 九三
慶運法印集 一〇四
慶運法師百首 一三一
倪雲林先生詩集（雜著共） 一八五
形影夜話 一三六
經延玉音問答 一〇一・二一四
藝苑捃華 一九〇
藝苑雜黃 八九
硯苑詩話 一三
桂苑叢談 二九一
硯苑日涉 一三〇・一四四・一六八・一六一
桂苑筆耕集 一四九
藝苑譜 二一五・二二三
慶應義塾学都宮講演 一三五
慶應義塾新議 八九
慶應義塾藏版目錄 二三七
慶應義塾圖書館和漢書目錄 二一九
慶應雜談 一三七
閨戒 一三〇
繼芥記 一七・一八
藝界きくまゝの記 一〇三・二一八
桂海虞衡志 二一七
藝海珠塵 一四八・一六二・一六五

經濟學概論 一〇九
經濟學史 二一一
經濟學者研究 一〇九
經濟學上に於ける獨逸の貢獻 二一三
經濟學上の主學說 一〇九
經濟學說史 一〇九
經濟原論 一〇七・二六八
經濟講話 一九四
敬齋古今黈 一六五
經濟史 一〇九
經濟辭典 一〇九
經濟小學 一一八
經濟上より見たる北樺太 二三五
經濟政策 一〇九・一一四・二六八
經濟政策概論 一一一
經濟大辭書 三一
經濟的經國論 一一五
經濟的道德主義 一一五
經濟哲學概說 一〇九
經濟統計 二六八
經濟統計學 二六八
經濟とヂヤーナリズム 二四〇
經濟と道德 一一六
經濟の話 二三一
經濟況論 二一〇
經濟文獻年表 二一八
圭齋文集 一三六
經濟方面より觀たる國際聯盟 二一一
經濟問題雜纂 二一八
經濟論 二一三
鯨山遺稿 一〇九
景山公御章之寫 二一一
鯨山詩稿 一〇九
計算尺原理及使用法 一〇九
溪山餘話 二六・一三二・一五五・二六七
揭子 一〇九
京氏易傳 一三二・二四〇
京氏易略 一四三
經史質疑錄 一六五
經子史要覽 一〇九
經史證類備用本草 一〇九
刑事訴訟法論 一一八
警視廳一覽表 三三五
警視廳事務要錄 一一一
警視廳統計書 三一
頃日全書 一四九
刑事被告人ニ關スル統計材料 八四
經史百家雜鈔 一一五
經史百家雜編 一〇九
經史問答 二六八
唳車志 二六八
藝者論 二四〇
藝州永福寺天關冲禪師行實 一二六
荊州記 二三一
瓊州雜事詩 二一〇
閨秀詩評 二一八
藝術上に所謂歷史的といふ語の眞義如何 三五
藝術と實行 二三四
藝術と社會 三七
契沖雜考 三七
偕中散集 一〇七
慶長以來諸家著述目錄 一九三
藝術論 一〇〇
藝術論講話 四三
鯨上遺聞集錄（別錄共） 一〇〇
卿相侍臣歌合 二九二
京城事變始末書 一〇四
京城勝覽 一〇四
京城勝覽拾遺 一〇四
京城帝國大學附屬圖書館和漢書書名目錄 一三七
京城帝國大學法文學部紀要 二三六
慶尙南道道勢要覽 一三六
京城萬壽禪寺記 一一〇
刑書釋名 二七七
經書選 二七五
經鉏堂棟誌 二一九
經旨和歌 一五七・六八・二〇六
京都雜志 九七・九八
經進東坡文集事略 一四五
經濟學問所記事一片 一九三
藝藩三十三年錄 二〇六
藝藩通志 一四八・一五九
系圖綜覽 一三〇・一四一・一五二・一六二
經世偉勳 一九三
經世遺表 九五
けいせい色三味線 二四〇
けいせい戀三味線 一〇二
傾城王昭君 一・二一九
傾城買息子傳授 一三六
傾城艸 三三六
藝文 一二四
揭文安公全集 一二四
揭文安公文粹 一二三
慶長三年御ゆどのゝうへの日記 五五・六六
慶長三年大名帳 八九
慶長十九年藥師院實祐記 九六
慶長十六年禁裏御普請帳 八九
慶長千首和歌 九五
慶長勅版考 一二
慶長年間江戶圖考 三四
慶長年中卜齋記 三四
京兆府尹記事 二六七
景定嚴州續志 一〇六
經典研究 一〇八
經典史 一一三
經典釋文 一三六・一四〇
經典題說 五・一三
京東考古錄 一五七・六八・二〇六
京都雜志 九七・九八
奚囊橘柚 一四五
藝藩學問所記事一片 一九三
藝藩三十三年錄 二〇六
閨範圖說 二〇六
溪蠻叢笑 一四八・一五九
經世遺表 一九三
藝備協會略志 九五
藝備國郡志 二四〇
亂筆 一〇二
桂楓集 一・二一九
藝風堂題跋 三三六

藝文卷第一・二評語集　一八一
景文公筆記　一六四
倪文正公年譜　一三三
藝文題辭　一八一
藝文類聚　三三
經邦典例卷之六　一七〇
瓊浦偶筆　三五
瓊浦偶筆物類和漢稱呼部　四一
藝圃擷餘　二六・一五六
瓊浦雜綴　一七三
藝圃折中　一四三
瓊浦又綴　一七二
桂末谷說文段注鈔（補鈔共）　二四
惠民藥局記　一三一
啓明會紀要　三〇七
啓明會講演集　二一一
啓明會事業報告書　二三五
鷄鳴偶記　一四三
桂明抄　八五
啓蒙手習之文　三〇〇
經問　三〇四
經問補　二〇四
京遊筆記　一七
經絡歌訣　三六
京洛寺塔記　四八
藝蘭四說　四〇
藝流供奉志　一四七
景龍文館記　一四六
桂林遺芳抄　五六・六七
鷄林志　一四七
桂林集　一八一
鷄林拾葉　一六四
桂林霜　二三三
溼林續記　二三五
桂林漫錄　三三
桂林類事　一七〇
雞肋　三五
鷄肋集　四一
雞肋編　二六・一五六
外科學辭書　一七三
外科藥劑祕錄　一四三
劇を見て俗に還る　一七二
劇界珍話　二四
劇場改良法　一三一
擊壤集　二〇七
劇場新話　二一一
劇場の大さ　三三五
劇場の變形　一四三
劇場振附及び舞踊師系譜　八五
劇場漫錄　三〇〇
缺舌小記　三〇四
缺舌或問　二〇四
郤掃編　一七
劇壇の現在及び未來　三六
劇談錄　四八
劇としての罪と罰と　四〇
劇と舞臺面との調和　一四七
劇に關する回想　一四六
劇評　五六・六七
劇品劇評　一四七
外記補任　五一・六三
擊蒙句法　三四
劇は敎化機關なりや？　二五七
外宮嘉祿三年山口祭記　二三五
外宮北御門歌合　一〇三・二六・三三
外宮御神寶記　一三一・一四七
外宮子良館舊記　一四四・一六四・一六八・八七
外宮神寶送官符　三三・九三
外宮神領目錄　一三一・一四四
外宮遷宮記　一七三
外宮遷御奉仕來歷　一四三
外宮注進狀　一八一
華嚴色相錄　九八
戲財錄　二六
袈裟と王妃が妻と　一三五
戲作外題鑑　三三・三四・二一四
戲作者考　一八〇
戲作者小傳　一九四
戲作者略傳　一八六
戲作六家撰　二一四
外題鑑　二〇一
氣多宮歌合　一〇二・七三・二一四
獸太平記　一四五
けだ物の哥合　一九六
月花和尙行實　二六・四一・六二
結一宮駢體文　八一
結一廬書目　一九六
血液及淋巴越幾斯ノ血糖ニ　一九七
對スル影響ニ就テ　一五七
血液ハ微量比色定量法　二〇七
血液無機硫酸・無機燐酸・竝ニ　二〇七
くろーる微量比色定量法　九
月會約　一九五
結核死亡統計表　四五・五七
結核素に就きての續報　四九・六一
結核病院及結核療養所ノ建　七五
　築法竝ニ結核豫防法　七五
結核問題の現況　七五
結核療法の急報　九三
月花餘情　七五
決疑要注　七五
穴居考　一四〇
月卿雲客妬歌合　七五
月江和尙錄　八〇
決獄考　三三
諷觚十事　四二・七五
結婚と兩性問題　三三
結婚の革命　二一七
結婚の心理　三三
月齋雜考　七
絜齋集　四八・六〇
絜齋毛詩經筵講義　三七・四五
闕史　三七
月日紀古　八一
月舟和尙語錄　二五三
結政初參記　七・二四
結石キーグド論　一七四
月泉吟社　一三・一五〇
月堂見聞集　六九
月波洞中記　一三八
月波勸遷稿　二四六
月蓬禪師塔銘　八一
閫餘散筆　二三三
月林禪師行狀　二七九
月令演　一八六
月令章句　一五九
月令問答　二四三
下馬のおとなひ　一四三・二一八
撿非違使補任　七七
ケルト語學　一三
ゲルハルト・ハウプトマン　八一・八四
玄晏春秋　一四七
甄異記　一五二・一六七
元遺山詩集箋注　二四五
元遺山先生年譜　一三三
幻異志　一六二・一六七
玄以法印下知狀　八八
幻雲稿　八三
幻雲詩藁　八三
幻雲文集　八三
幻影傳　一六二
護國遺編　二三一
護國隨筆　二三一
護國談餘　一〇一・二三三
護國二筆　二三三
元應元年大社小比叡社家　一九九
　注進狀　一九六
源翁禪師傳　七六
驗溫管略說　八〇
言外和尙行狀　一七二
現住人口靜態ニ關スル統計　八
　材料　二七三
嚴州圖經　一九九
乾淳起居注　一四六
乾淳敎坊樂部　一四七
乾淳御敎記　一四七
乾淳歲時記　一四八
憲淳僧正熊野入堂記　七六
建春門院北面歌合　四九・六〇
權書　一四三
黔書　二五三
顯昭古今集註　九六
顯昭陳狀　五〇・六一
沅湘通藝錄　一九九
獻上本作文集序　一八一
檢食紀事　一八五
玄女經　一四〇
嚴助大僧正記　九一
玄女房中經　一五三
言志錄　二九一
源氏六條通　七三
源氏和祕抄　八六
源宰相中將家歌合　八七
謙信家記　九六
謙信軍記　二四四
源氏物語　一五六
源氏外傳　二一・二三
玄眞子漁歌記　一五一
嚴神鈔　七六
元親征錄　一六九九・二〇三
元圖大衍　一五三
原政　一一七・一八七
玄怪記　一五二・一六七
元凱十著　一九三
顯戒論緣起　九五
原化記　一四四
元嘉起居注　一四七
乾嘉詩壇點將錄　一四〇
現果隨錄　一五八
蒹葭堂雜抄　一三三・一五五
蒹葭堂雜錄　三一五・二六三・三三
蒹葭堂の一遺著に就て　二一
元可法師集　五一・六三
建官考　九四
劍氣　一六〇
驗氣管略說　一七三
幻戲志　一七三
玄機通　一六二・一六七
建久改元定記　一五三
建久九年五節記　八三
建久九年內宮假殿遷宮記　四七・五八
建久三年皇太神宮年中行事　七五
元久詩歌合　五〇・六一
建久二年辛亥祈雨日記　八九
建久二年普賢延命法日記　八九
劍俠傳　一三六・一三〇・一五二・一六二・一六七
玄玉和歌集　四八・五九
軒渠錄　一三一・一四五
元熙論　一七五
獻芹微衷　一〇一
源空上人傳　八〇
源敬様御代之記　四三
源氏國名百韻　八五
懸筒瑣探　一三三・一四四
建治三年丁丑日記　五四・六六
元次山文集　一三七
元詩自擂　七三
原始社會の研究　一〇九
言志集　一七九
元氏長慶集　六九
顯志堂稿　一三四
劍閣渡御記　五五・六六
現時の工場　一九九
現時の社會主義　一二六
現時の社會問題及び社會主　二五三
　義者　八五
源氏人々の心くらべ　一二〇
玄旨法印をいためることは　五二・六六
源氏物語　四〇
源氏物語奧入　五二・六三
源氏物語顯文　一四四
源氏物語聞書　五二・六三
源氏物語竟宴記　八六
源氏物語玉の小櫛　五二・六三
源氏物語男女裝束抄　一七七・一七八
源氏物語千鳥抄　一四四
源氏物語年紀考　一七七・一七八
遺戒伊犁日記　二〇三・二六〇
幻住九世一華碩田大禪師行　七三
　實之狀　八三
建州女直考　一四四・一六六
彥周詩話　一四二
玄語贅語借覽公文書　一七五
「言語の起原」附記　一八〇
源語秘訣　五三・六三
現今に於ける航空機發達の　二二三
　趨勢　二二三
現今の哲學　二一四
現今の南阿　一四四
乾坤辨說　七六
建春雜談　二〇六
權載之文集　一八三
源濟堂集　二〇五
建載獨吟百韻　八三
乾鑿度　一四七
建山記　四三
元稹古今雜劇三十種　一四五
儼山纂錄　五二・六三
玄散詩話　三四
建三圖　七七
元史　八三
硯史　二七七
權子　一六六
玄耳庵支那叢書　一六六
元氏掖庭記　二四四
源氏外傳　二一・二三
卷施閣集　一六六
源氏花鳥大全　一八六
元詩紀事　一四三
賢識錄　二九四
元史藝文志　一四二

玄怪記　一五二・一六七
元凱十著　一九三
顯戒論緣起　九五
原化記　一四四
元嘉起居注　一四七
乾嘉詩壇點將錄　一四〇
現果隨錄　一五八
蒹葭堂雜抄　一三三・一五五
蒹葭堂雜錄　三一五・二六三・三三
蒹葭堂の一遺著に就て　二一
元可法師集　五一・六三
建官考　九四
劍氣　一六〇
驗氣管略說　一七三
幻戲志　一七三
玄機通　一六二・一六七
建久改元定記　一五三
建久九年五節記　八三
建久九年內宮假殿遷宮記　四七・五八
建久三年皇太神宮年中行事　七五
元久詩歌合　五〇・六一
建久二年辛亥祈雨日記　八九
建久二年普賢延命法日記　八九
劍俠傳　一三六・一三〇・一五二・一六二・一六七
玄玉和歌集　四八・五九
軒渠錄　一三一・一四五
元熙論　一七五
獻芹微衷　一〇一
源空上人傳　八〇
源敬様御代之記　四三
源氏國名百韻　八五
懸筒瑣探　一三三・一四四
建治三年丁丑日記　五四・六六
元次山文集　一三七
元詩自擂　七三
原始社會の研究　一〇九
言志集　一七九
元氏長慶集　六九
顯志堂稿　一三四
劍閣渡御記　五五・六六
現時の工場　一九九
現時の社會主義　一二六
現時の社會問題及び社會主　二五三
　義者　八五
源氏人々の心くらべ　一二〇
玄旨法印をいためることは　五二・六六
源氏物語　四〇
源氏物語奧入　五二・六三
源氏物語顯文　一四四
源氏物語聞書　五二・六三
源氏物語竟宴記　八六
源氏物語玉の小櫛　五二・六三
源氏物語男女裝束抄　一七七・一七八
源氏物語千鳥抄　一四四
源氏物語年紀考　一七七・一七八
遺戒伊犁日記　二〇三・二六〇
幻住九世一華碩田大禪師行　七三
　實之狀　八三
建州女直考　一四四・一六六
彥周詩話　一四二
玄語贅語借覽公文書　一七五
「言語の起原」附記　一八〇
源語秘訣　五三・六三
現今に於ける航空機發達の　二二三
　趨勢　二二三
現今の哲學　二一四
現今の南阿　一四四
乾坤辨說　七六
建春雜談　二〇六
權載之文集　一八三
源宰相中將家歌合　八七
謙信家記　九六
謙信軍記　二四四
源氏外傳　二一・二三
玄眞子漁歌記　一五一
嚴神鈔　七六
元親征錄　一六九九・二〇三
元圖大衍　一五三
原政　一一七・一八七
玄語贅語借覽公文書　一七五
「言語の起原」附記　一八〇
源語秘訣　五三・六三
現今に於ける航空機發達の　二二三
　趨勢　二二三
現今の哲學　二一四
現今の南阿　一四四
乾坤辨說　七六
建春雜談　二〇六
權載之文集　一八三
源宰相中將家歌合　八七
謙信家記　九六
謙信軍記　二四四
源氏外傳　二一・二三
玄眞子漁歌記　一五一
嚴神鈔　七六
元親征錄　一六九九・二〇三
元圖大衍　一五三
原政　一一七・一八七
源氏國名百韻　八五
懸筒瑣探　一三三・一四四
建治三年丁丑日記　五四・六六
元次山文集　一三七
元詩自擂　七三
原始社會の研究　一〇九
言志集　一七九
元氏長慶集　六九
顯志堂稿　一三四
劍閣渡御記　五五・六六
現時の工場　一九九
現時の社會主義　一二六
現時の社會問題及び社會主　二五三
　義者　八五
源氏人々の心くらべ　一二〇
玄旨法印をいためることは　五二・六六
源氏物語　四〇
源氏物語奧入　五二・六三
源氏物語顯文　一四四
源氏物語聞書　五二・六三
源氏物語竟宴記　八六
源氏物語玉の小櫛　五二・六三
源氏物語男女裝束抄　一七七・一七八
源氏物語千鳥抄　一四四
源氏物語年紀考　一七七・一七八
遺戒伊犁日記　二〇三・二六〇
幻住九世一華碩田大禪師行　七三
　實之狀　八三
建州女直考　一四四・一六六
彥周詩話　一四二
玄語贅語借覽公文書　一七五
「言語の起原」附記　一八〇
源語秘訣　五三・六三
現今に於ける航空機發達の　二二三
　趨勢　二二三
現今の哲學　二一四
現今の南阿　一四四
乾坤辨說　七六
建春雜談　二〇六
權載之文集　一八三
源宰相中將家歌合　八七
謙信家記　九六
謙信軍記　二四四
源氏外傳　二一・二三
玄眞子漁歌記　一五一
嚴神鈔　七六
元親征錄　一六九九・二〇三
元圖大衍　一五三
原政　一一七・一八七

贋西古跡考　一六〇
憲政の運用　一一四
元聖武親征錄　一六九・二〇三
憲政文獻年表　一一七
建正辯　一七四
硯箋　一九九
謙堂小言　二一七
現存卅六人詩歌　五〇・六一
乾隱子　一四四
現存和歌六帖　四八・六〇
現代英米文藝思潮　一〇八
現代男　一九四
現代科學の基礎　一二五
元代畫塑記　一二七
現代教育思潮概說　二一三
現代思想　一八四
現代思潮講演集　二一三
現代支那語學　二一一
現代ヂヤーナリズムの理論と動向　二四〇
現代社會觀　一八六
現代社會研究　一〇九
現代社會心理　一一四
現代新聞の論壇　二一〇
現代新聞論　二四一
現代生活と法律思想　一〇九
現代生活の新問題　一一三
現代青年の宗教心　一〇七
現代哲學の趨勢　二一三
現代哲學の批判　一一四
現代獨逸の發展　一一三
現代獨逸哲學　一〇八
現代獨墺文藝思潮　一〇八
現代都市計畫　一一五
現代日本を救濟するは私立學校の使命なり　一九〇
現代日本新聞界の趨勢　一一五
現代の社會的進歩　一〇九
現代の政治問題　一一四
現代の墮落　一〇八
現代美術思潮　一〇九
現代百科辭典　三一
現代婦人問題　一〇九
現代佛蘭西音樂と我音樂界　二一一
現代佛蘭西文藝思潮　一〇八
現代文明史　一一三
現代北歐文藝思潮　一〇八
現代理想の葛藤　一一五
現代ロシア文藝思潮　一〇八
建築師　二一三
建築の理想と實際　一四五
玄池說林　一四四・一四七
玄中記　五三・六三
原中最祕抄　九四
黔中雜記　一〇七
見聽雜記　元朝祕史　一六九
元朝祕史註　九八
原著譯書對照圖書目錄　二一三
獻帝春秋　一〇八
玄亭渉筆　一一五
建天全書　一九〇
乾道庚寅奏事錄　二四一
硯堂叢書　一〇・二五
玄洞放言　一一五
元德二年三月日吉社並叡山行幸記　四八・五七
元德二年東宮御元服記　一一四
玄蒐の樂浪は今の旅順　三一
けんどん爭　一〇九
けんどん問答　元和航海記　一〇九
元和七年東海紀行　二一一
建仁元年熊野山御幸記　一八七
建仁禪寺笠仙和尙行道記　八三
元祕抄　一〇八
元碑存目　一一五
拳匪聞見錄　一〇八
原病發微　一三八・一五二
硯譜　元服曾我　二一三
源府君所藏銅雀硯記　一四五
言文一致　一〇九
言文一致について　一〇〇
言文一致普通文　三七
見聞紀訓　元文世說雜錄　一六九
見聞錄　九八
言文論　一八〇
源平往來　九五
源平系圖　四〇
源平盛衰記人名　一〇六
源平武將論　七四
ケンプエル江戸參府紀行　一〇六
元包　四二
乾峰和尙行狀　八一
元包經傳　一四〇
元寶公案　八三
建保五年普賢延命法日記　八九
建保三年後七日御修法私記　八九
元包數義　一四三
元包數總義　一四〇
憲法制定之由來　一一七
元禮題跋　一四一
憲法竝附屬法　二八五
元禮類藁　一三四
研北雜志　一四四・一六四・二三一
原本玉篇零卷　一二六
撿見故實　八八
建武以來追加　五三・六五
建武式目條々　五三・六五
建武式目注　九四
建武二年綠簿灌頂記　九四
建武二年道我僧正加任拜堂　九〇
建武年間記　五五・六六
建武年中行事　四七・五八
幻夢物語　八六
建武四年十一月十五日尊氏文書　九五
兼明書　四〇
見聞偶筆　一〇六
見聞雜記　七四
見聞雜々集　四三
見聞雜誌　二一五
見聞私記　九一
見聞諸家紋　五四・六六
見聞談叢　一〇〇
元耶律文正公西游錄略注補　一三七
傀游雜錄　一三一・一四五
顯幽順考論　一〇六
峴傭說詩　二五一
玄與日記　五三・六三
權理提綱　一八七
原理日本　二三六
元曆改元定記　八三
建曆二年三月廿二日宣旨　五五・六七
建曆二年大嬰次第　九三
建曆四年具注曆日　九三
乾隆欽定四庫全書總目　七
乾隆浙江通志考異殘稿　二〇三
乾隆府廳州縣圖志　二〇三
嚴陵集　六九
驤驢嘶餘　五六・六七
硯林　一九九
硯林印款　二六一
硯林詩集　二六一
硯林集拾遺　二六一

建禮門院右京大夫集　五一・六三
元祿以來留帳拔書　四三
元祿歌舞伎小唄番附盡　三六
元祿時代の國文學　一〇三
元祿七年賀茂祭記　九三
元祿書籍目錄　九
元祿寶永珍話　六九

コ

小朝熊社神鏡沙汰文　四五・五七
小泉八雲（ラフカヂオ・ヘルン）　一九七
古逸書錄叢輯　七
古逸叢書　一三六
戀の手紙　一八六
戀八卦柱曆評　一九五
古伊部神傳錄　三九
古印考略　三六八
古韻總論　二七
古韻標準　三三
弘安改元定記　八三
蒿庵閒話　一三三
弘安源氏論議　五三・六三
香案牘　二六・一五五・一六六
弘安八年大講堂供養記　五五・六六
弘安本儛馬樂抄　九九
弘安四年異國御祈禱記　八九
弘安四年春日入洛記　九七
弘安四年鶴岡八幡遷宮記　七六
弘安禮節　五五・六七
廣異記　一五二・六七
廣益祕事大全　一三五
交易問答　一三五
甲乙集　高越寺私記　一二八・一三二・一五四・一六五・二六七
甲乙剩言　行醫八事圖　一六〇
行醫八事圖　一六〇
廣韻　一三六・一三四
庚寅譫集三編　二四九
皇胤系圖　七七
庚寅新誌　三七
甲寅叢書　一〇七
香飮樓賓談　一六四
香宇詩談　一五六
江芸閒及ヅーフの樂翁公五十の賀詞　二一〇
高雲鄉遺稿　一六二
耕雲口傳　八五五
紅雲社約　一五六
耕雲千首　八三
紅雲續約　一五六
畊雲老人壽像贊　八〇
行醫雜錄　一四六・一五九
康永三年十二月十五日高經文書　三九
康永三年十二月十五日直義文書　三九
航英日記　三〇〇
廣益字彙重實紀綱目　三三
廣益書籍目錄大全　七
甲驛新話　一七三
廣益俗說辨　一五九
廣益農工全書　一〇三
廣益祕事大全　一七一
交易問答　七〇
高越寺私記　二八五
講演　一七四
曠園雜志　二一一
公宴部類記　一〇三
講筵餘吟　三一
公會演說法　七一
江海風帆草　一四三
汎濫子　一四三
航海逸奇　一三三
航海新說　一三三
巷街贅說　二一〇
梗槩と贅憚と　一六二
郊外農談　八五五
航海夜話　一五六
鄉歌及び吏讀の研究　八三
光學及音學　一五六
好學雜誌　一九五
後巢年表　一九六
後巢漫記　一三三
後巢漫錄　一五三
廣菌譜　一五七
航空學　一一四
航空研究の最近の情況　二一三
后宮御產當日次第　九三
后宮御着帶部類　五六・六八
航空生理に就いて　二一三
鴿經　一六〇
工藝者稱師說　一九三
工藝志料　一九三

ビヤ

公鑑　一九八
綱鑑易知錄　二一九
合卷外題集　二八三
槁簡贅筆　九一
後觀石錄　七三
江漢叢談　一四四
廣寒殿記　九九
江關筆談　一三三・五七
後鑒錄　一七〇
江記　二〇四
放器之詩話　九四
康熙字典　九九七・二五九
攻媿集　一二九
公議所日誌　六九
公議所法則案　一八一
航記注　一五三
廣義に謂ふ演劇の定義幷びに芝居錦繪の分類　三三
後期文藝協會　一九五
後宮名目　一九七
後宮略傳　一九二
孝經　二六・一三二・一六〇・二九一
孝經援神契　一四三
孝經疑問　八八
孝經啓蒙　一六九
孝經鉤命決　二六九
孝經左契　一四三
孝經議　一四三
孝經賤が枝折　一〇三
考經釋義便蒙　一七一
孝經小解　七〇
工業所有權法及發明一斑　二八五
孝經心法　一七四
工業政策　一一一
孝經說　一〇三
工業大辭書　三一
孝經鄭注　七一
孝經內事　一四三
孝經問　二〇四
孝經右契　一四三
孝經樓手抄　一三三
孝經樓漫筆　二一五・二八三・三三
句曲外史貞居先生詩集　一三六
貢擧考略　二六三
拘虛晤言　一五三
後巢雜識　一五四
皇居年表　九六
後巢漫記　一三三
後巢漫錄　一五三
廣菌譜　一五七
航空學　一一四
航空研究の最近の情況　二一三
后宮御產當日次第　九三
后宮御着帶部類　五六・六八
航空生理に就いて　二一三
鴿經　一六〇
工藝者稱師說　一九三
工藝志料　一九三

工藝志料徵　一九三
庚淡詩話　一四九
公家新制　九四
綱繩萬綱夾綱考　一九二
光源院殿御元服記　五三・六五
扣舷集　一三四
香嚴侗書譯言　一六九
皇言定嚴錄　二〇四
皇元風雅　一三六
口言部類　二四〇
江湖　八二
毫光　一八五
公侯照績　二一九
江行雜錄　一四六・一五九
衍璜新論　一四五
皇后宮春秋歌合　四八・九〇
廣弘明集　一三四
考古畫譜　一九一
皇國經典　二八七
廣告とヂャーナリズム　二四〇
皇國の義　一八八
庚午雜誌　四二
攷古質疑　一六五・三一
好古集說　二一九
好古小錄　一〇〇・二一五・二一七・二三三
江湖新聞　二四二・二四三
江湖新報　三二七
好古叢誌　三一九・三二九
講後談　一九八
好古日錄　一〇〇・二一五・二一七・二三三
孔子家語　一八
皇宇沙汰文　八四
孔氏雜說　八三
公私雜報　九〇
好事雜報　八〇
杭志三詰三誤辨　一三七
杭氏七種　四五
洪氏集驗方　八〇
高氏塾鐸　一三
香字抄　一三
格子狀共振器　九八
攷事新書　二四
廣慈禪師行業　一五五
黃氏叢書　一四九
江次第鈔　九〇
皇室社會新政　三五・六五
皇室典範　一三九
皇室と國民　一四一
高士傳　八一
孝子傳　一六九
孔子とソクラテス　一四四
黃氏筆記　二七五
庚巳編　二七五
告志篇　二五四
麴街略誌稿　七一
孝子萬古傳　一四八
庚子道の記　二一七
後耳目志　一三五
公僻桂太郎傳　八三
郊社禘祫問　四七・五九
校松江本急就篇　一四七
侯城雜識　二〇三
工場事業場調査制度參考　一五三
高常侍集　二六八
甲狀腺發育不全型侏儒ノ尿　一三四
成分・血液かたらーぜ竝ニ次亞硫酸曹達排泄ニ對スル甲狀腺劑ノ影響　二〇七
江城日誌　四三
鑛床の研究と地質學的諸科學との交涉　一九一
公娼廢後策とフリイドリヒ・ザンデルと　一八五
公娼廢後の策奈何　一八五
工場法制　一〇九
工場法と勞働問題　二九〇
黃堯圃先生年譜　一六九
幸蜀記　一四七
光觸寺頗燒阿彌陀緣起　九〇
耕織圖詩　一四四
好色本目錄　七三
好書故事　一・九二
好書雜載　一
光緒帝大婚粧奩單　一四〇
後書品　一五〇
好書品題　一九八・二二九
好人歌　二〇七
庚申外史　一六六
甲申雜記　一四六・一六四・二三一
甲子夜話（カツシャワ參照）　一九三
弘洲雨屋蠢千集　七五
弘洲雨屋蠢千集外篇　一四三・一三一
江州永源寺開山圓應禪師行狀　一四三・一四四
公衆衛生略說　二三七
甲州鹽山向岳庵開山拔隊和尙行實　二四四
掾洲及其諸島　二六〇
交州記　一二七
廣州記　一五九
弘洲雜話　九一
廣州先賢傳　二〇八
校讐通義　一八
甲州天目山樓雲寺十境詩歌　一二七
江州中原氏系圖　九四
後集武林舊事　二九〇
亳州牡丹表　二八五・二八六
廣州遊覽小志　一九八
江州余吾庄合戰覺書　一二三・一四七・一六三
講習餘筆　一四七
甲州略記　一四五
黃熟香考　一四三
香樹齋詩集（續集共）　一三一・一五四
黃綬章　四一
交詢雜誌　九六
黃書　四四
鑛床學研究の發展の歷史的概觀　四二・一〇五
工場原動力竝職工人員調査表　一四四
高昌行記　二一三
校松江本急就篇　一四七
侯城雜識　二〇三
工場事業場調査制度參考　一五三
高常侍集　二六八
甲狀腺發育不全型侏儒ノ尿成分・血液かたらーぜ竝ニ次亞硫酸曹達排泄ニ對スル甲狀腺劑ノ影響　一三四
杭志三詰三誤辨　二〇七
杭氏七種　四五
洪氏集驗方　八〇
高氏塾鐸　一三
香字抄　一三
格子狀共振器　九八
攷事新書　二四
廣慈禪師行業　一五五
黃氏叢書　一四九
江次第鈔　九〇
皇室社會新政　三五・六五
皇室典範　一三九
皇室と國民　一四一
高士傳　八一
孝子傳　一六九
孔子とソクラテス　一四四
黃氏筆記　二七五
庚巳編　二七五
告志篇　二五四
麴街略誌稿　七一
孝子萬古傳　一四八
庚子道の記　二一七
後耳目志　一三五
公僻桂太郎傳　八三
郊社禘祫問　四七・五九
校松江本急就篇　一四七
侯城雜識　二〇三
工場事業場調査制度參考　一五三
高常侍集　二六八
甲狀腺發育不全型侏儒ノ尿成分・血液かたらーぜ竝ニ次亞硫酸曹達排泄ニ對スル甲狀腺劑ノ影響　一三四
杭志三詰三誤辨　二〇七
杭氏七種　四五
洪氏集驗方　八〇
高氏塾鐸　一三
香字抄　一三
格子狀共振器　九八
攷事新書　二四
廣慈禪師行業　一五五
黃氏叢書　一四九
江次第鈔　九〇
皇室社會新政　三五・六五
皇室典範　一三九
皇室と國民　一四一
高士傳　八一
孝子傳　一六九
孔子とソクラテス　一四四
黃氏筆記　二七五
庚巳編　二七五
告志篇　二五四
麴街略誌稿　七一
孝子萬古傳　一四八
庚子道の記　二一七
後耳目志　一三五
公僻桂太郎傳　八三
郊社禘祫問　四七・五九

庚辰集　二五六
工人ノ生計及榮養ニ關スル研究　二七五
交梨軒筆記　一三八
上月記　五三・六五
上月系圖　七八
上野國群馬郡褒輪軍記　五三・六五
上野國三碑考　一七六
上野國神名帳　四五・五七
侯鯖一臠　一八
江西觀蓮集　二四五
高麗器に就て　二〇七
高青邱全集　二九四
校正元親征錄　一六九
更生齋集　二〇三・二六〇
更生齋詩餘　二〇三・二六〇
攷正字彙　二六四
廣成子解　一五三
弘正四傑詩集　二四九
江西詩徵　二四九
廣成集　一三六
侯鯖集　二五一
高麗聽珍器（「マグノスコープ」）に就て　二〇九
高麗聽診器の研究　二〇七
校正朝邑志　一三八
江西通志　二六六
考正德清胡氏禹貢圖　二〇六
航西日乘　一二九
康正二年造內裏段錢并國役引付　五六・六七
康正二年八社仁王經御讀經記　八九
興正菩薩傳　四六・五八
侯鯖錄　一四三
黃石齋集　二四五
廣惜字說　一六〇
香石詩話　一六一
公是先生弟子記　一六〇
香雪齋樂事　一六〇
江浙十二家詩選　二四九
公是弟子記　一四五
交戰國民の心理狀態　一〇七
興禪護國論　七〇
浩然齋雅談　一六九
浩然齋視聽抄　三四
峽然集　三四
廣川書跋　一三三・一四一
黃先生文集　三七
紅線傳　三六・三〇・六二・六七
孔叢　二四
廣莊　一二八・一五三・六五・二六七
廣倉學窘叢書　二七
高宗幸張府節次略　一四七
高宗幸張府節略　一四七
孔叢子　一三三
弘宗定智禪師行狀　八一
篁窓抄錄　二四
弘宗禪師行狀　八一
興宗明教禪師行狀　八一
香宗我部氏記錄　九四
後宇多院御幸記　一六〇
小うた打聞　二一九
江談抄　五六・六七・二三・二四
高知縣勢要覽　二七五
高知縣統計書　一六〇
高知縣立圖書館圖書分類目錄　七
廣智國師乾峰和尙行狀　八一
高知大林區署統計書　二七五
廣治平略　二六七
皇朝假名史略　二八二
弘長元年下總國小野繊幡地帳　九三
弘長記　二八三
皇朝金鑑　一四九
皇朝古版譜　一三五
皇朝三種尺圖說　一四一
皇朝史略　二〇三
皇朝新學類纂　一〇一
弘長百首　一〇七
皇朝武功紀盛　八〇
幸張府節次略　一四七
幸張府節略　一四七
皇朝文鑑　一三四
皇朝類苑　一三四
交通平表　一二四・一四三・二〇七
黃帝陰符經　四六・五七
皇帝紀抄　九三
黃帝祠額解　七五
黃帝授三子玄女經　四一・四〇・五三
黃帝宅經　四一
黃帝內經　七七
黃帝內經太素　一六九
黃帝內經明堂　一六九
黃帝八十一難經　一三六
盡徹問答　一〇五
孝傳　一三三
皇典講究所講演　三七
皇典古籍に志しある少年數育の學科書に用ふへきもの　二九八
弘傳略頌抄　八〇
皇道　一八八
鼈頭奧の細道　二一四
高等學校生活の本質　一九〇
高等學校竝に同程度各種專門學校に於ける學生思想危激化に對する一救濟策　一九〇
弘道館記　七〇
弘道館記逸義　一七四・九一
紅豆詩人集　二四五
浩蕩詩程　二九四
紅豆集題詞　一八〇
紅豆樹館集　二四五
皇統授受圖　四〇
高等小學修身訓　二九一
鼈頭節用集大全　三三
懷堂全集　七四
紅豆村人詩稿　一四二
高道傳　一四七
香道傳書　四四
高等天文學　一一

慷堂日歷　一〇一
行都紀事　一三一・一四五
公德訓幷びに圖表　一九五
宏德寺記　九〇
光德寺系圖　七九
鑛毒事件　一九一
厚德錄　一四九・一五九
皇都午睡　三四・七三・二三
江都督願文集　九一
江南魚鮮品　一五九
江南星野辨　一三九
江南通志　二六六
江南別錄　一五八
江南野錄　一四七
江南餘載　一六七
弘仁三年高雄山淮頂曆名　八九
弘仁式式部下斷簡　六八
弘仁式主稅上斷簡　六八
弘仁二年官物勘錄　九六
江甯金石待訪目　一〇九
黃熱を防ぐ法の制定を求むる說　一八六
皇年代略記　四五・五七
江濃記　五三・六五
河野氏系圖　七九
鴻臺後記　八七・一〇四
鴻臺前記　八七
國府臺戰記　八七・一〇四
高坡異纂　一三二・一五四
廣白石發書　一七二
廣文庫　九〇
公文抄　二六〇
弘文莊待賈古書目　一・二六・一六五・二六八
洽聞錄　三〇
康平記　二一四
公平新聞　一六九
航米日錄　一七七
神戶港外國貿易概況　一四九
神戶高等商業學校別置和漢書解題　一五二・一六三・二四四
神戶市市勢調查の結果　五一・六三・九四
神戶市立圖書館和漢書分類目錄　四九・六二
神戶臨時市勢調查人口及職業統計表　一二四
神戶臨時市勢調查要計表　五五・六六
後編女風俗通　九〇
興亡　七七
公法概論　七七
杲寶僧都事實　九四
弘法大師行化記　九六
弘法大師御行狀集記　九五
弘法大師御傳　一一〇
弘法大師弟子傳　九一
弘法大師に對する卑見　九八
江北記　一一二
紅木軒紫泥法定本　一九一
洪北江詩文集　六九
洪北江先生遺集　六九
洪北江先生年譜　四三
洪範口說　一四五
考槃餘事　二六〇
黃眉故事　一二六・一六五・二六八
鮫皮精鑒錄　三〇
合淝相國壽言　二四
廣百川學海　一六九
廣東新語　一七
興風集　一五二・一六四
興福寺現住僧帳　五二・六三・九四
興福寺略年代記　四九・六二
興福寺三綱補任　一二四
興福寺々務次第　五五・六六
興福寺別當次第　七七
興福寺法隆寺牒狀　七七
興福寺濫觴記　九四
興福寺縁起　九五
興福寺伽藍縁起　一六二
興福寺舊記　一六二
興福寺繩床小錄　一六二
興福寺流記　一六二
興福寺流記資財帳　一六二
興福寺流記資財帳　一六二
興福寺流記資財帳

國學季刊　三七
國學叢刊　二九
國學忘貝　三三
國家元氣論　八九
國家興亡圖論　一八九
國家語の問題について　三八
國華索引　二九
國家主義　一〇九
國家道德論　二〇〇
國家と政府　一一六
國家と保健　一一五
國家の進運を論して法政教育の必要に及ぶ　二八七
國歌八論　一〇五
國歌八論斥非評　一七七・一七八
國歌八論斥非再評の評　一七八
國家論　一〇九・八九
國基　七〇
國記談抄　四二
國牛十圖　五六・九七
國教問答　一八八
國教論　一八八
國郡名考　一七五
國劇小史　一九六
國憲編纂起原　一一七
國語　二七・三三
國光　三三七
國號考　一七七・一七八
黑溝凜附近合戰に於ける低氣溫の戰闘・健康・創傷及び衛生勤務に及ぼす關係　二七五
詳報　一八五
國語校文　一九九
國語定本　二八三
國語標註　一七六
國語補註　二〇五・二六一
國際經濟會議に就きて　一〇九
國際公法　二一三
國際私法　一一〇
國際社會史論　一一五
國際商業と交通　一一四
國際道德の成立ち易からざる理由　一九五
國際年鑑　三三
國際法　一〇七
國際聯盟　一〇七
國際聯盟調査委員迎接展覽圖書・手稿解說　一八六
國際論・同續篇・同補遺　一八七
國策地名考　一三三
國山碑考　二五三
穀山筆塵　二五二
國字及び國文に關する論說　一九七
國史經籍志　七・三三
國事建言　一七六・一七五
國字小說通　一七五
國子先生全集　二三五
國史補　一六一・二六三
國志蒙拾　一二七
國秀集　二三五
國書解題　一八五
國書刊行會主催第一回圖書展覽會目錄　一九九
國書刊行會出版圖書總目錄　一七六
國書刊行會出版圖書目錄（第二期）　二〇五・二六一
國書刊行會出版圖書目錄（第一期）　一〇九
國書刊行會叢書　二一三
國書刊行會大正期出版圖書總目錄（第四期）　一一〇
國初十大家詩鈔　一一五
國初品級考　一一四
國書復號紀事　二五六
國書漫抄　三三
國史略　一〇七
國史類史律令格式目錄　一〇七
黑心符　一三三
國勢院統計會講習講演錄　一八七
國勢調査　一八七
國勢調査建議に關する會議の速記　一三三
國勢調査國費豫算　二六二
國勢調査參考書　二五二
國勢調査事務經過概要　一九七
國勢調査準備委員會議事速記錄　二五二
國勢調査申告書記入の栞　二五二
國勢調査速報　二五六
國勢調査と其の他の統計調査　二五六
國勢調査と帝國議會　二五九
國勢調査ニ關スル官制竝職員　二五九
國勢調査ニ關スル法規類　二五八
國勢調査の實行を望む　二五八
國勢調査評議會　二五八
國勢調査評議會經過概要　二五八
國勢調査法　二五八・二六九
國勢調査問題講話　二五八
國勢調査問題ニ關スル沿革摘要　二六九
國勢調査要談　二四九
國性爺合戰評　一九六
國體新論　一七七・一七八
國體と倫理　一〇七
國體論　一八八
黑縫事略箋證　二〇三
小口合　三七
獄中記　四四・八六
獄中消息　四四・八六
獄中俳諧抄　一八六
國朝學案小識　二五三
國朝書畿　二五七
國朝書畿續錄　二九八
國朝漢學師承記　二三三・二五三
國朝畿輔詩傳　二四九
國朝金文審錄表　二四九
國朝經師經義目錄　二四九
國朝元魁鞶萃　二四九
國朝杭郡詩輯（續輯共）　二四九
國朝古文所見集　二五二
國朝山左詩鈔　二四九
國朝三楚存雅（補選共）　二四九
國朝詩人小傳　一六七
國朝詩人徵略　二五一
國朝詞綜　二五六
國朝詩鐸　二四九
國朝詩別裁集（補遺共）　二四九
國朝詮法考　二三九
國朝常州駢體文錄　二五二
國朝松陵詩徵　二四九
國朝書目　七
國朝先正事略　二五八
國朝先正事略續編　二五八
國朝全閩詩錄　二四九
國朝宋學淵源記　二三三・二五三
國朝滄州詩鈔　二四九
國朝中州詩鈔　二四九
國朝二十四家文鈔　二五二
國朝武定詩鈔（補鈔共）　二四九
國朝文類　一七二
國朝駢體正宗評本　二五三
國朝實鑑　九八
國朝未梁遺書志略　七・二四
國朝兩浙科名錄　二五八
國朝歷體金膏　二五八
國朝歷下詩鈔　二四九
國朝六家詩鈔　二四九
國定教科書編纂趣意書　二五六
黑甜瑣語　二三三

獄祕書　二九
黑白染分轡　二九
國風省編　二〇三
克復諒山大略　一四〇
國文學の將來　一六六
國文句讀考　九七
國法學　二一〇
國寶新編　三三・二五五
國防の將來　一九〇
國本論　一〇四・一七六
國民樂の將來　一九四
國民共濟策　二一四
國民功業論　二一三
國民思想叢書　七〇
國民所得の推定　二五五
國民新聞　二四三
國民性情論　二一三
國民精神文化研究所々報　二三五
國民叢書　一九三
國民大會議　二一七
國民統計學　二一三
國民と政治　一九八
國民之友　二三七
國民之友（英文）　二三七
國民の日本史序　一九七
國民百科辭典　三一
國民評論　二三七
克明抄　一七〇
國名風土記　九三
國譯佛遺教經　八九
國譯父母恩重經　八九
國有鐵道貨物運賃及料金規則　二六八
國立銀行は合併を利とす　一九九
國立中央大學商學院圖書館圖書目錄　八
國立北平圖書館水災籌賑圖書展覽會目錄　一五
國立北平圖書館圖書展覽會目錄　一五
黑龍江外記　一九九
黑龍江逸略　二三四
穀梁傳補注　一四四
國老談苑　一三三
國論　七〇
告我黨人　二三七
古訓古事記　一七六
吳郡諸山錄　一四八・一五九
御禊行幸服飾部類　一六一
五刑考略　五
古經題跋　一四一
姑溪題跋　一四一
古經天象考（圖說共）　一三七
御系譜　一三七
古劇脚色考　一三九・二〇三
湖月鈔別記　一七四
古言　一三五
寤言　一三五
古今諺　一三五
古今源流至論　一四三・一四八
古今攷　二三五
古今雜談思出草紙　一八六
古今參考南水漫遊　一八一
古今四場居百人一首　五五・六六・七〇
古今事文類聚　一七七・一七八
古語拾遺抄　一五四
午後十一時　二三三
後小松院御百首　二一八
後小松院御獨吟　一四八
後小松院崩御記　二〇三
志をたつる文　三三
許々路迺阿登　四六五
心の健康を計れ　四六
心の雙紙　四七・五八
心の種　五六・六八
心の夜あけ　五六・六八
試みとしての日本オペラ　五四・六六
古今東名所　一四六
古今夷曲集　三五
古今いろは評林　二六五
古今詢攷　二六五
古今印史　七七
古今印制　四六・五五・七七
古今治革考　一三三・一四八
古今外國名考　一六六
古今夏時表　一四三・一六七
古今官位指圖　九〇
古今僞書考　二六六
古今諺　一
古今源流至論　三
古今攷　一
古今雜談思出草紙　一八六
古今參考南水漫遊　一八一
古今四場居百人一首　五五・六六・七〇
古今事文類聚　一七七・一七八
古語拾遺　一〇四
古今書刻上編　八
古今事類全書　三五
古今人物史　四四
古今注　一二四・一六三・一三一
古今帝王創制原始　一二四・一二九・一六七
古今刀劍錄　一三三
古今圖書集成　一三五
古今圖書集成總目　一〇五
古今圖書集成分類目錄　一三三
古今萬姓統譜　二六六
古今祕苑　二六六
古今佛師比較論　一九一
古今法書苑　二六六
古今無慶生日文　二〇四
古今銘盡大全　二六九
古今要覽稿　一八・二四
古今要覽稿抄　九六
古今類書纂要　三五
古今類聚　二五
後西遊記國字評　四〇
後嵯峨院皇統系圖　七七
後嵯峨院御讓位記　八三
後嵯峨院宸筆御八講之記　五四・六六
故左金吾衛野州太守平公墳記　八〇
小作立法　一〇九
克索考　二三五
五雜組　二三
御產御祈目錄　三一・二六三
固山鞏和尙行狀　五六・六八・九三
御三家方御附人　八一

後三條院御即位記　四七・五八
湖山勝概　一四八
湖山消閑集　二四五
後三條相國抄　九三
御產所記　八八
御產所日記　五四・五五・八八
五山說林　二六三
御散飯供御調進次第　八八
御產部類記　九三
古三墳　二三三
湖山便覽　二五九
湖山樓詩屏風　二四九
吳子　七一・三三
古梓一覽　二
護持院ケ原の敵討　一八三
古詩讀範　二九四
故事海　三元
古事記　七〇・一五
五色絲　二三・二四・三三
五色線　一四二・一四四・一五八
古事記傳　一七七
古事記傳地名目錄　一七一
五色筆　一七三
古詩源　二四九
こしごえ　七三
胡氏雜說　一五四
孤矢算術細草圖解　一三七
越路の家づと　一七四
居士集　一三四
小侍從集　五二・六三・六六・九七
故大德正法大聖國師古岳大和尙道行記　八三
故大德佛宗大弘禪師實傳和尙道行記　八三
古代の研究　一九九
古代弓銭弓箭說　一九一
古代民族宗教　一〇八
五代雨宋監本考　八・一〇三
古代倫理學東西比較論　二〇〇
御大禮紀念陳列會目錄　一五
御大禮奉祝方案　二八七
答へ得ざる問　一九〇
小鷹部　五二・六四
木精　一八二
五壇法日記　九九
吳地記　一三〇・一四八・一五九・六一
吳中往哲記　一三三
檻中鏡　二
吳中故語　二六・三三・五四
吳中勝記　一二六・一五五
蒿中隨筆　二〇六・二三二
壺中贅錄　一四四
吳中判牘　一四〇
壺中攬勝　一三二
胡蝶庵隨筆　二一七
五朝小說　一三九
蝴蝶裝と大和綴　三
小朝拜部類記　八三
五朝名臣言行錄　一三六
滑稽陰陽集　四三
滑稽雜談　七〇
滑稽詩文　九三
骨相學　二一三
後土御門院御百首　八四
後土御門院十三回聖忌記　五四・六六
後土御門院長州一宮住吉社御法樂和歌　八四
後土御門後柏原兩院御百韻　八五
骨董集　一〇三・一三五・二六・三二
骨董熱　一九四
忽那一族軍忠次第　九四
忽那嶋開發記　九四
骨筆題詠竝江南游草　二九四
古弗結核療法類纂　一八六
コツホ氏肺癆新療法の急報　一八六
コツホに繼で出でたる發明者　一八六
コツホの新療法につきて起りし假名文字の說　一八六
湖亭涉筆　二三五・三二
顧亭林先生年譜　一三三・一〇六
古傳和尙　八一
古典考古學　一一二
御殿司職一方系圖　四六・五八
古典派經濟學の復興　二一三
古點譜　九五
壺天錄　一六三・三二
御當家系圖(佐竹)　五七
御東幸御宿割帳之寫　一一六
御東幸御供奉御行列附　一一六
後藤細工口傳書　四四
唐堂集　五六・六七
後藤庄三郎由緒書　九三
鼓棹初集　一三
鼓棹二集　一三
古道大意　八〇
古動物學　六九
別浦八幡緣起　八四
澁都酒美選　八六
後鳥羽院遠島百首御歌　八四
後鳥羽院御自歌合　九四
後鳥羽院御百首　九四
後鳥羽院御記　二九四
後鳥羽院御集　四三
後鳥羽院熊野御幸記　一一三
後鳥羽院御口傳　一三六
後鳥羽院御踐祚次第　三九
後鳥羽院御卽位記　二
後鳥羽院御靈託記　三三
言泉序　一〇〇
詞通路　一〇三
詞の栞打聽　二五二
詞瓊綸　二九四
言葉の德　二六三
詞八衢　八一
詞の八衢講義　八三
詞十八番歌舞妓狂言考　一三七
小友船漂流記　二一〇
諺草　一四四・一六四
御內書案　二三・三三
御內書引付　一九五
五十音小說　二四五
後十五番歌合　七七
五十四郡考　七七
五重十操記　六九
御舟召見恭記　二四五
區從西巡日錄　一一三
湖州竹派　八九
區從東巡日錄　三
五十年の回顧　八三
五十番自謌合　一六九
五十四番詩歌合　二一一
後十輪院內大臣詠草　八八
五十六種書法　三三
孤樹褒談　二六八
御巡行御行列竝御供官員附　二一〇
語小　二四
御讓位部類記　一八八
吳淞圖歌集　二〇六
五松園文稿　二八・五九
後成恩寺關白謀閣記　四八・五九
吳省欽年譜　二四五
五常訓　三元
古城考　三元
湖湘故事　一八三
古穰雜錄　一六三
御精進日帳　一三六
五常內儀抄　一四七
後松日記　四六・五五
後稱念院關白冬平公記　一四六
古詩選　一九五
護持僧次第　二五〇
護持僧補任　七七
古事談　六九
吳詩談叢　二四五
胡子知言　一一三
後七日御修法部類　八九
後七日御修法由緒作法　八九
故侍中左金吾家集　五〇・六二
古史通或問　一六九
五十家訪問錄　二一一
故實聞書　八八
故事附問答　三三
五十サイクル用增幅器　三二六
越の國及び越人の研究　三一〇
越の國の人種　二四
顧氏譜系考　二〇六
故事部類抄　二八六・二九四〇
越部禪尼消息　四八・五九
吳詩補註　二四五
兒島常山軍記　三元
兒島高德事蹟考　三元
小嶋寶素　七三
兒島三宅系圖　一八三
壺矢銘　七
吳社編　一六・一五六・二六七
御寫本譜　二・九六
後拾遺往生傳　八〇
後照念院殿裝束抄　四七・五九
吳船錄　一四八・一五九・一六五
語叢　二三八
五曹算經　一六五
五總志　一四四・一六四
梧窓漫筆　二一三・二三
梧窓漫筆拾遺　一〇三
御卽位次第　八三
御卽位由奉幣部類記　八三
御卽位禮と大嘗祭　二〇一
小袖曾我　三八・七四
小袖物狂　一九四
姑蘇筆記　一四四
古曾部の古甎　二一〇
姑蘇名賢小記　二九八
古染付の皿　二一〇
互尊文庫昭和六年度備付圖書目錄　八
互尊文庫圖書目錄　八
五代紀年表　一四二
後醍醐天皇綏願文　三元
五代史　二六五
五代史記　二六五
古城雜記　三三
五代四季考　一九三
五代史纂誤　一六五
五代詩話　一三三
五代新說　一四七
五代帝王物語　四六・五五
五代登科記　一四六
古代刀鉾圖說　一九一

戶內遊戲方　二五三
後奈良院御百首　六九
後奈良院御撰何曾　二〇五
後奈良院御撰何曾之解　一七七・一九
後奈良院御拾骨之記　七〇
淳南遺老集　一一三
淳南詩話　七八
近衞家略系　三七
木葉衣　四四
此花新書　五〇・六二
木芽說　八四
古柏齋讀書雜識　五二・六四
後花園院御百首　八四
後花園院御讓位下書注文　五二・六三
後花園院御消息　五一・六三
小早川隆景卿傳　四七・五八
小林さん　八三
小春紀行　九三
古版一覽　一八〇
碁盤太平記　一七七・一九
ごばん忠信　一九三
古版展覽會目錄　一四四
御殿司職一方系圖　九七
古板長唄八種　一七七・一九
こはんのみゝ　一九三
御ひいき勸進帳　七三
狐媚記　一〇〇
五百四峰堂詩鈔　一七〇
五百八十七曲　八八
五百番歌合　八八
御評定着座次第　五六・六七
基譜　九八
御諷誦御願文案　九一
吳風錄　一三三
巨福山建長禪寺開山蘭溪和尙行實　八〇
吳服師由緒書　六九
後福照院殿御詠艸　八四
後普光園院殿應百韻連歌　八六
後普光園院殿御百首　八四
觚不觚錄　二六八・二三・五四・二六七
後伏見院宸翰藁物方　五二・六四
御普請方人數御宛行帳　四三
古物學　一一三
虎皐登涉圖儀注　一一一
古文苑　一三六
古文應神紀　三九
古文舊書考　二
古文孝經孔傳　三三
古文參同契集解　一〇〇
古文尙書寃詞　二〇三
古文辭類纂　二五二
古文眞寶　二九四
胡文忠公遺集　二六三
孤擧和尙行實　八一
五木經　一三〇・一四〇・一五一・一五九・一六一
桔木稿　八三
古墨齋金石跋　一三七
吳墨井傳辨誤二則　二一〇
古墓斑狐記　一三九

後堀川院民部卿典侍集　八五
古本節用集の研究　三一
古本辈經内篇　一四〇
古本竹書紀年輯校　一三七・二〇三
御本日記續錄　二一九・二九六
御本日記附注　二一九・二九六
古本賣買の實際知識　二
古本風土記逸文　一七六
古本蒙求　三三
古本用語辭典　二
駒井系圖　七六
狛犬考　三四
小牧戰話　一七三
狛氏系圖　七六
小町集　五一・六三
小町寺略緣起　四一
小松軍記　五三・六五
小松寺緣起　九〇
後水尾院御集　九六
後水尾院當時年中行事　六八
後水尾帝御製　四四
後水尾天皇御製詩集　九五
後妙華寺殿御詠草　八四
後妙華寺殿令聞書　八三
五名家近體詩　二五〇
来由來說略　一九三
古物語類字鈔　一七六
吳門書舫錄（續錄共）　二五九
吳門者舊記　一三八
小山系圖　七六
小山結城系圖　七六
胍膿　一五六・一六三・一八一
後陽成院縣召除目次第　八三
後陽成院御歌合　四九・五六
後葉和歌集　四八・五六
曆　一〇五
御禮拜講之記　七六
古來風體抄　八五
五樂園詩鈔　九九
古琉球の歌謠に就きて　二三
古量考　一九・二一四
壺梁先生遺稿　一〇三
古林和尙行實　八一
五輪書　七〇
五倫名義　七一
五倫名義辨證　一〇〇
古禮今律無繼嗣文　二〇四
後冷泉院根合　五〇・六二
古列女傳（續共）　一三六
惟任退治記　八七
惟房公記　九四
惟宗氏系圖　九五
惟宗廣言集　八四
瑚璉集　八三
古老口實傳　二五〇
古老茶話　一九三
古老茶話　一七六
買浪仙長江集　二五九
梧樓存稿　一三八
梧樓日記　七六
吳錄　一四七
後六々撰　七六
吾盧筆談　一五六・一六三・一八一
壺盧閒漫筆　八三
壺盧閒雜記　四九・五六
閑龍世界博覽會美術品書譜（コロンブス）　四八・五六
こわれ指環の評　一〇五
艮嶽記　七六
困學紀聞　八五
困學紀聞注　九九
婚記　二三
金剛王院門跡列祖次第　一九・二一四
金剛經鳩異　一〇三
金剛抄　八一
金剛談　七〇
金剛般若波羅蜜經　七一
金剛峯寺建立修行緣起　一〇〇
金剛峰寺執行檢校阿闍梨補任略記　二〇四
艮齋閒話　五〇・六二
艮齋日抄　一三六
坤齋儀注　八七
崑山郡志　九四
金色夜叉上中下篇合評　五〇・六三
今昔操淨瑠璃外題年鑑　九三
今昔操年代記　四五・五七
今昔較　三六
今昔物語　三三五
紺珠　一〇〇
今春の宗教大會に對する卑見　九九
懇親會　一四七
根心堂學規　一六〇
昆斯（コンスタン）小兒病門　一七四
昆斯瘴瘋門　一七四
昆崙集（續共）　八五
昆崙館詠集　一二四・一三〇
一二四

サ

Circular Tube に於ける Skin Effect の計算　二〇七
サイアノゼンの接觸酸化及其中間酸化生成物に就て　二〇七
在庵大和尙行業　八一
采異記　一五三
菜園　一一一
西園寺家車圖　六八
歲華紀麗　一四一・一四八
歲華紀麗譜　一四八・一五九・二六六
西鶴側面觀　二一三
采畫錄　一三〇
在監人の疾患に就て　二七五
歲寒堂詩話　一四九・二六五
債鬼　一八四
才鬼記　一五二・一六二・一六七
在窮記　一四七
在京在阪中日記　二一九
西行上人談抄　一〇六
西京博覽會品物目錄　四一
西京繁昌記　二一〇
西行物語　九二
西行物語繪詞　九二
祭儀略　一〇五

最近醫學の諸問題　一〇八
最近一年間の東北帝國大學に於ける電氣通信法の研究に就て　二〇八
最近埃及　二一三
最近化學界の驚異　二一五
最近科學思潮　一〇八
采芹采茆名錄　一〇三
最近思想團體要攬　八
采芹集　一〇三
最近新聞紙學　二〇〇
最近朝鮮事情要覽　二八四
最近本邦生產統計　二七六
最近勞働運動　一〇七
齋宮記　四六・五六
齋宮女御集　五一・六三
細君　一九七
西京雜記　三四・一二六・二九・三四
一四一・一四二・一四八・一六六
歲計豫算論　二八九
歲月錄　四四
採鑛及冶金學科地質學講義の緒言　一九一
西公談抄　五一・六三
西國受領歌合　四九・六一
西國立志編　二九一
最後の一句　八一
最後のドムラン家　一九五
菜根譚講義　八九
歲在歲次龍集考　一〇〇
財產法概論　一〇九
歲時記　一一三
蔡氏月令章句　一三五
祭祀考　一七〇
歲時雜記　一四八
祭日　一八五
歲時幷臨時記　一七一
才子文　一三六
最終の午後　八五
祭主輔親卿集　五〇・六三
叡小志　一四九
寂勝四天王院障子和歌　四八・五〇・八四
最新教育學　二一二
最新工業　一〇七
最新思潮講話　八六
最新電氣學　一一二
最新統計學　一一〇
細推物理　一〇〇
寂須敬重綸詞　八〇
財政學　一〇七・一〇九・一六八
財政學概論　一〇九
再生記　一六二・一七七
濟世危言　一一八
祭征清之役戰歿勇士諸靈文　一八九
祭政說略　一九三
濟生堂五部雜錄　二一九
財政と經濟　一九九
歲星表　一三七
採精便覽　二六七
采石瓜洲鏖兌記　一三五
彩選百官鐸　一九五
再續三十五擧　一三五
西大寺光明眞言緣起　一七〇
西大寺資財流記帳　四八
歲旦所感　一八五
財團法人眉丈文庫圖書分類目錄　一七一
採茶錄　一三六
蔡中郎文集（外傳共）　一八五
才鬼記　一三三
寂鑛記文　一四九
齋庭之穗　一九五
寨程別紀　二六〇
在田錄　一〇七
齋藤朝倉兩家應書　二一三
齋藤三代記　一一二
齋藤親基日記　一一〇
齋藤報恩會　一〇〇
齋藤報恩會學術研究總務　八〇
學術研究報告別刷集　一〇四
齋藤報恩會學術研究總務部事業年報　一〇九
齋藤報恩會學術研究總務部要覽　一一八
齋藤基恒日記　一四五
齋藤流手綱之祕書　一三三
齋藤絲雨　九四
歲八歲出豫算　一〇三
栽培經濟論　二七七
栽培況論　一三五

催馬樂師傳相承　八六
催馬樂抄　九九
催馬樂注祕抄　八六
催馬樂譜入文　一七四
裁判醫の文は宜しく愼なるべし　一八六
裁判至要抄　四六・六八
菜譜　一七〇
在米日本人年鑑　三三
西方寺緣起　一〇三
采茆集　一〇三
財法二施辯　一四九
歲暮感懷　一九六
塞北小鈔　一七七
濟北晁先生雞肋集　八六
採捕鰒鯢總說　四三
細民調查統計表　五四・六六
在民部卿家歌合　二三五
村木定價書　一〇〇
西遊記　三三
西遊記校注　二〇七
才葉抄　二三五
采覽異言　一〇九
採蘭雜志　二三五
採硫日記　九四
西琳寺流記　八八
祭禮通考　一七七
採蓮舞譜　一九九
採精便覽　二六七
さへづり　二八九
左衞門督實國卿家歌合　一一〇
沙翁劇の飜譯に對する私の態度の變遷　九九
沙翁劇の飜譯に就いて　八六
酒井家譜　一七四
左海經辨　一六〇
堺事件　四六・六八
左海全集　一七〇
沙河逸老小稿　三三
堺利彥全集　九〇
堺利彥傳　一〇三
堺利彥略歷及著作年譜　一八九
左海文集　一九九
左海文集乙編　一七七
嵯峨記　一三五
佐柿入道常圓物語　八八
榊のかをり　二七六
榊葉集　八六
さかき葉の日記　一〇五
さか衣　三三
杯　三〇三
酒田文化資料展覽會出品目錄　五六・六七
佐賀圖書館創立滿三年紀念古書展覽會目錄　一七〇・一七五
さかなつくし　一四五
坂上系圖　一三三
坂上是則集　九〇
嵯峨野物語　一〇三
嵯峨本考　一五一
相撲集　一八三

嵯峨物語　八六
月代考　二一四
さかゆく花　四六・五七
相良系圖　七九
サガレン紀行　二一六
坐間筆語　七〇
左記　五五・六二
沙起雲日本雜詠　一三七
佐喜神　一七四
左京大夫顯輔卿集　五〇・六二
砂玉和謌集　三〇・六二
策彦和尙詩集　三七
昨今の劇評　八三
作詩志彀　一九六
作詩法講話　一〇〇・一〇一
作者式法戲財錄　二九四
作者店おろし　七五
作者年中行事　二・一一・二四
作州記　九九
刪潤梅谿遊記　三九
朔雪北征記　一〇〇
朔旦冬至部類記　一五五
作庭記　四七・五八
作の上より見たる我が劇壇　五三・六四
　の現在及び未來
昨非庵日纂　一九六
作文志彀　一六四
作文趣味　一〇一
作文初問　二一〇
作文眞訣　九七・一〇一
作文大體　二九四
朔方備乘札記　四八・五九
さかゆく花　二一四
佐久間軍記　四六・五七
相良系圖　七九
昨夢錄　一二六
遡遊從之　一七〇
櫻井基佐集　五五・六二
櫻島噴火雜感　三七
櫻の林　一七四
櫻之辨　五〇・六二
佐倉風土記　五〇・六二
坐獄日錄　八三
鎖國論　一九六
さごろも下紐　一〇〇・一〇一
佐々木系圖　七九
さゝごおちのさうし　七二・二二四
泊泊筆話　九九
筴舍漫筆　三九
さゝめごと　三九
茶山翁筆のすさび　一〇〇
さし田の磯　一五五
左氏兵戰抄　四七・五八
左氏蒙求　五三・六四
沙州記　九六
沙州地志殘卷　一九六
坐禪に就て　一六四
佐竹系圖　七九
佐竹家系圖　二一〇
佐竹氏舊記　九七・一〇一
佐竹白石系圖　七九
佐竹宗三聞書　四八・五九
蹉跎山緣起　一六八
貞忠御調進案　四七
貞常親王御百首　一二六・一三一・一四五
沙汰未練書　一〇一・一七二
定頼卿集　五五・六二
瑣談片々　一九二
左忠毅公年譜定本　二一七
札迄　三五
雜記　一〇四
皐需曾我橘　一九五
雜藝叢書　一七二
雜劇段數　一〇二
雜交苦口記　八六
雜纂續　九七
雜纂二續　五三・六五・一〇四
雜纂三續　一〇二・二一六
雜纂新續　二一七
雜誌記者論　五一・六三
雜誌修業　二一六
雜事祕辛　一〇〇
雜書　二八二
雜抄　三三
撮壤集　一三六・一四八
雜書琴事　一六二
雜說囊話　一八九
雜訴決斷所結番交名　九七
薩長土肥　九七
薩天錫詩集　九七
薩都宮奉加帳　九七
薩藩舊傳集　八八
薩藩叢書　九二
雜筆往來　八四
雜筆要集　八八
雜祕別錄　五〇・六二
册府元龜　三三九
殺法輪輪　三七八
札幌區區勢調查　三三一
札幌區區勢調查研究　一〇五
札幌區區勢調查原表　三七
札幌區區勢調查例規　六九
札幌在學日記　一四七
雜錄　二二九・二三三
瑣綴錄　一三二・一四九
左傳杜解補正　一三二・一四九
左傳杜注辨證　一三二・五七
左傳補注　一三一
里芋の芽と不動の目　二一〇
茶道祕傳　一三二・六七
里ごと葉　二三三
佐渡事略　一九
里見九代記　三二・九一
里見軍記　一五一
里見系圖　二一七
里見家分限帳　九二
里見代々記　二一〇
讃岐集　一三六
讃岐典侍日記　七六
讃岐直島長三宅氏由緒　七一
讃岐入道集　五〇・六二
讃岐國萬農池後碑文　九三
信明集　五〇・六二
實方朝臣集　五〇・六二
實國卿集　二三五
實任卿改元定記　八二
實冬卿記　九三
實躬卿中納言拜賀記　八三
佐野系圖　七九
さのゝわたり　八六
佐野松田系圖　七九
佐野宗綱記　九四
佐橋甚五郎　一八二
薩婆多宗五事論　一五二
淋敷座之慰　四二・七三
寂しき人人　一八四
作法故實　四七・五五
査浦詩鈔　二四五
沙彌惠空百首　九五
五月雨抄　一七五
五月雨草紙　七二・一〇一・二一四
五月雨日記　五二・六四
侍所沙汰篇　五三・六五
醒めたる女　一九五
さや〳〵草紙　二一四
佐遊李葉　九六
査祆餘錄　九五・一〇五
小夜中山子育觀音夜啼之石　四一
敵討田來　四一
小夜中山無間之鐘之由來　四一
小夜中山刃之雉子之由來　四一
小夜のねさめ　五五・六七
婆羅館逸稿　一六五・二六七
婆羅館清言　一〇五
ザラシツトラ敎　一〇八
さらしな日記　五二・六三
さらしな日記抄　一〇四
沙羅の木　一八三
蓑笠雨談　二三三
猿　一八四
猿樂治革考　三三
申樂聞書　八六
猿樂傳記　三三・三四
さるかに合戰　三七
猿著聞集　二五・二七
ざるべし　二一七
猿丸大夫集　五〇・六二
サロメ　九九
澤內風土記　一八一・一八四
茶話指月集　七〇
澤巽阿彌覺書　八六
澤田川　一七一
佐原比田藤倉系圖　一七
三愛記　五五・六七
杉庵雜攷　一〇六
纂異記　一五二
三異筆談　一六三・一六三
棧雲峽雨日記幷詩草　三五九・三九四
簪雲樓雜說　一五八
三英隨筆　一〇五
三脚稿　八三
參議綏光卿記　八三
三曉庵隨筆　四一
三敎裁判　四〇・七六
産業自治論　三四
産業社會の進化　八〇
參議要抄　一九二
産業消長概覽　三三
三敎大意　八三
産業統計講話　二九
産業の合理化　二九三
産業の人道化　一四三
三敎論衡　四八・六〇
三極眞空管急動繼電器を應　四九・六一
　用した定溫爐竝びに定周
　波裝置に關する實驗
三極眞空管驗波リレーに就て　一三九・一四〇
山居新語　一四九
三魚堂文集（外集共）　九一
纂喜廬叢書　四八・六〇
參軍要略抄　一七二
算經　一一一
纂經　九〇
山經表　三三三
山經考　九〇
三紘元記　八八
山公啓事　三紘根元記　一五一
三江考　八五
參考今昔操淨瑠璃外題年鑑　八三
參考書目錄　三五
參考太平記　八三
參考圖書の知識　七五
參考保元平治物語　一〇五
參考本國神名帳集說　一七九
三五記　一一六
三國遺事　一一三
三國干涉論　四七・五九
三國紀年表　二七五
三國志　一七五
三國史記　二六九
三國志辨疑　二一三
三國職官表　一二五
山谷題跋　一四三
三國通覽　三三・三四
三國通覽圖說　三七
三國典略　二一七
三國連璧談　二〇八
珊瑚鉤詩話　五〇・六二
三錯寺拘留如來緣起　一四六
三錯寺修造勸化疏　一八一・一八四
三才因緣辨疑　九九
三才圖會　八三
三座衆狂言幷由緒書　七〇
三官記　一五一
「三眼」子の加年を祝す　三官記　一一一
三議一統大雙紙　五五・六七
三義一統之辨　一〇六
三器圖義　一五二
參議時直卿集　一六三
參議拜賀部類記　三五九・三九四
參議藤原佐理消息　一五八
三芝居新大改雜書　一〇五
三芝居役者繪本　一七
三芝居吉原由緒書　六九
三社託宣　四三
三社託宣略抄　四〇・七六
三十五擧　四〇・九八
纂輯御系圖指瑕答辨　三四
卅五文集　一七
三十三ヶ條案文　一四二
三十三番無陀所　二五・二六
三十七八年役大阪每日新聞　九七・九八
　戰時事業誌
三州俗聖起請十二箇條事　一四二
三重組織の國家と責任國家論　一四一
三州成瀨國崎隨筆　一四一
三十二番職人哥合　一三九・一四九
卅番歌合　七二
卅六歌撰櫓色紙　一四九
三十六人大歌合　九〇
三十六人歌仙傳　九〇
三十六人撰　一三三
三十六番歌合　一三三
三十六番相撲立詩歌　一三三
三十六灣草廬稿　三五・三六
三樹考　一九〇
三種神寶論　三四・三五
三種根元記　三四
三種說　三四
算術及代數　三四
山書　三五

璽書　一三六・一五一・一六七
讒書　一四二
三條演義　一一八
山樵暇語　一三五・一三一
三條家裝束抄　四七・五九
三條家藏物書　八六
三條相國御百首　八四
さんせう太夫　三八
山椒太夫　一八一
三松堂集　一三五
三條內大臣行狀繪詞稿　一九一
三條中山口傳　六八・八二
璽事要略　一六九
產所之記　五四・六六
三槩記　一三八・一四八
讀人著書墨蹟陳列目錄　一五
三水小牘　一二八・一四三・一三三
三醉人經綸問答　一一七
三遂平妖傳國字評　四〇
纂圖互註禮記　一三三
三聖記　一四六
三星軍傳記　三九
山栖志　一二八
山棲志　一三五
山西通志　二六六
寰正名家敍事　一〇〇
三齊略記　一二九・一四八
三省錄　二一七
三省錄後編　二一七
三節會次第　四七・五八
三絕披露の事　一九七
三道鼎立論　七三
山島民譚集　一〇〇
三德抄　一六九
三內口決　一四七・一五八
三人懺悔册子　一三五
三人冗語　九四
三人法師　一四四
三年服制考　一五九
三年寄三芝居吉原長吏由緒書　五一・六三
三のしるべ　九四
三戶系圖　一〇〇
棧橋　一五一
三巴集　一六四
三備詩選　一六〇
璽尾集（後集共）　一六三
三百首和歌　一六六
三百篇鞮譜　二一〇
三百篇鳥獸草木記　一四六
三百六十番歌合　一三六
三百六十番自歌合　一六八・一四六
纂評唐宋八家文讀本　一九六
參府紀行　二六一
讚佛乘　七五
三墳　一二四・一四三
散文及び韻語の崇高悲壯　一五七・一六八・二〇六
三墳書　二一一
三兵答古知幾　一三五・一六六
三寶院傳法灌頂私記　九六・二三五
三寶院傳法血脉　一〇六
三寶院列祖次第　一〇六
山東通志　三九
山道鼎立論　七三
山島民譚集　一〇〇
三德抄　一六九
三內口決　一四七・一五八
三人懺悔册子　一三五
三人冗語　九四
三人法師　一四四
三年服制考　一五九
三年寄三芝居吉原長吏由緒書　五一・六三
三のしるべ　九四
三戶系圖　一〇〇
棧橋　一五一
三巴集　一六四
三備詩選　一六〇
璽尾集（後集共）　一六三
三百首和歌　一六六
三百篇鞮譜　二一〇
三百篇鳥獸草木記　一四六
三百六十番歌合　一三六
三百六十番自歌合　一六八・一四六
纂評唐宋八家文讀本　一九六
參府紀行　二六一
讚佛乘　七五
三墳　一二四・一四三
散文及び韻語の崇高悲壯　一五七・一六八・二〇六
三墳書　二一一
三兵答古知幾　一三五・一六六
三寶院傳法灌頂私記　九六・二三五
三寶院傳法血脉　一〇六
三寶院列祖次第　一〇六
三寶吉日　二六六
三筆集　一八八
山房集　一〇七
山房隨筆　七〇・九五
山房拇掌談　五五・六七
山房放語　九三
三輔舊事　一八〇
散木奇歌集　九三
散木集注　三五五
三輔決錄　一四三
三輔黃圖　一九一
三輔故事　一三四・一四八
機摩錄　八三
山密往來　一三九
散位源廣綱朝臣歌合　三九
三夢記　一三五
山門堂舍　一三〇・一五三・六一・一六七
山門堂舍記　四八・六〇
殘夜抄　一五五・六六
三友棋譜　一五九
山陽遺稿　三四
山陽外傳　八四
三養雜記　二九一
山陽詩鈔　一〇六
山陽詩註　一六三
山陽死友傳　一六〇
山陽・象山・東湖金玉眞蹟　一四三
山陽先生遺光　一七三
山陽先生書後　一七九
山陽先生題跋　一七八・二〇四
山陽道美作國古城跡　八九
山陽道名所考　九三
纂餘詞　九八
三餘贅筆　一三五
三餘叢談　一三三・一四四
三餘帖　一〇一・一一八
三禮口訣　一四五
三禮抄　一七〇
三禮敍錄　三五〇
驂鸞錄　一四二
三柳軒雜議　一四八・一五九
傘笠考　一三一・一四四
山陵雜記　二一一
山陵志　一四四
山林經濟　一七一
山林經濟策　九八・二三五
山林由來說略　一六〇
シ
使命津記　一九八
而菴詩話　一九九
字彙　三元
詩歌合　二六六
ぢいさんばあさん　五〇・六一
自意識の過ぎた藝術　一八一
思詒堂詩稾　九六
思詒堂文稾　二四五
シーボルト江戶參府紀行　二三五
シーボルト日本交通貿易史　一〇六
詩韻異同辨　一〇六
詩韻含英　二九二・二九三
四隣集　九八
死因統計ニ用キタル職業分類　二六九
施印とポスター　二三八
市營事業　二九〇
シエキスピーヤ筋書　一一九
慈慧大師傳　八〇
慈慧大僧正御遺告　五五・六六
慈慧大僧正傳　四六・五八
ジエルミナール　一九三
史剝　一四三
鹽井先生遺稿　一〇三
デオゲネスの誘惑　一八四
鹽尻　三四・二一八・二三三
鹽尻「蝦夷」之話　四三
志保之里抄　三三
鹽しり抜書　四四
字音假字用格　七七・一七八
字音問答案　一九二
爾雅　二三六・二三三・四〇
俠解　二〇五
詩外傳　一三三・四〇
死灰の中から　一八六
志怪錄　二〇・五二・六二
子夏易傳　一三六
爾雅漢注　一三三
史學　一三三
字格　一五〇
時學及時刻學　一三二
刺客・劍俠　一九三
字學七種　七一
慈覺大師傳　八〇
自覺談　二三三
寺格帳　九五
史學提要　一三六
詩學逢原　一〇一
仕學問答　一〇一
刺客論幷びに圖表　一五五
仕懸文庫　三三
滋賀縣治一班　二七三
滋賀縣統計書　二七三
筍河集　二五三
梔花拾遺序　一八〇
志賀重昂全集　一八五
志賀重昂全集贊助員芳名錄　一八四
志賀松節一代記　九五五
爾雅小箋　二三五
爾雅新義　一三三
爾雅圖贊　二一四
鹿角郡由來記　九九
使俄草　二九九
爾雅草木蟲魚鳥獸釋例　二一七・二〇三
詩家直說　一五六
志雅堂雜抄　一三一・一四四・一六四・一三三
鹿の卷筆　三四四
鹿武左衛門口傳はなし　三七
しからみ　四五・一三三
柵草紙のころ　一八一
柵草紙の山房論文　一七九
しがらみ草紙の本領を論ず　一八一
重之集　五〇・六二
事原　一四三
詞源　一三一・一六六
子元案垢　一五四
慈眼院關白白馬節會次第　八二
自遣往來　九五
四言教講義　七〇・一〇一
試驗國勢調査の結果　二八〇
思軒居士が耳の芝居目の芝居　一八〇
賜硯齋詩鈔　二四五
適言志見　一四四
史記十傳　二三七
史記抄　二三五
四紘秋　二三七
議小編　一八〇
議小錄　九三
式亭雜記　九四
式亭三馬自記　九五
色道大鏡　二三五
思綺堂文集　二三三
士氣と修養とに關する哲學的觀察　二四四
鷄翩掇　九九
四季之略畫　二九九
史記評林　一四五
式部卿邦高親王御集　一四八
式部大輔菅原在良朝臣集　二〇八
式目聞書　二〇一・二〇五
使高屋錄　一七四
四季物語　二二八・二四七
支機問談　一七三
自號錄　一四七
自己を失はない程度の新藝術　七一
詩經　一九六
自敎鑑　一九六
詩經叶韻辨　一四三・一五八
詩經攷異　二〇四
詩經集註　二〇五
詩經稗疏　二五六
詩經名物辨解正誤　一四三
時局と露西亞　二一〇
時局の研究　三四九三
詩紀曆樞　二一七
四吟百首　八七
司空表聖詩集　二六三
司空表聖文集　二六三
市區改正論略　一三三・一五四
市區改正は果して衞生上の問題に非ざるか　一二五・二〇五・二三三
施愚山先生全集　七五
竺仙和尙天柱集　三三
詩句覇王樹の如し　三三
四郡志　二三一
紫荊花院排律　二九一
自警箴　一八〇・一八一
自警編　四四
史劇及び史劇論の變遷　二三五・二五九・二六二
史劇に關する疑ひを再び『太陽』記者に質す　八四
史劇に就きての疑ひ　一三五
史評　一三五
詩訣　八九
滋野氏系圖　一三二
滋野氏三家系圖　一三二
紫花梨記　七一
資暇錄　八〇
史館擬判　二三三
詞館剩藁　九五
詩含神霧　一三六
史館劄子　一〇一
式逸　一〇一
色音論　一九五
私擬國憲類纂　三三
式三獻七五三膳部記　二三五
史記十傳　二三七
史記抄　二三五
議小編　二三七
議小錄　一八〇
式亭雜記　九五
式亭三馬自記　九四
色道大鏡　九五
思綺堂文集　二三五
士氣と修養とに關する哲學的觀察　二三三
鷄翩掇　二四四
四季之略畫　九九
史記評林　二五九
式部卿邦高親王御集　一四五
式部大輔菅原在良朝臣集　二〇八
式目聞書　二〇一・二〇五
使高屋錄　一七四
四季物語　二二八・二四七
支機問談　一七三
自號錄　一四七
自己を失はない程度の新藝術　七一
詩經　一九六
詩語玉林　二九四

四國落　七三
四國御發向幷北國御動座事　八七
子午經　一五三
事語纖志錄　九四
詩語碎錦　二九四
自娛集　一七〇
自娛集文藁　二五三
四庫全書簡明目錄　二六四
四庫全書總目　七
四庫全書總目提要　八・二六四
四庫全書總目提要四部類敍　一
四庫未收書目提要　二六四
思齋摭言　二六二
止齋先生文集　二五六
祇齋題跋　三九
止齋題跋　一四一
子歲漫錄　一五
詩札　二〇四
自殺の分類及び其是非　九五
自殺論　二七
自讀哥注　四四・八三
自讀歌　二九四
枝山前聞　一三二・二五四
詞旨　一三八・二五〇
四時園詩集　一〇三
紫芝園漫筆　七四・二三
詩式　一四九・二五九
自識錄　二〇〇・二九
師子窟緣起　九〇
自恃言行錄　二六三
事斯語　九七
時事小言　二〇一
時事小說年表　一二九
侍兒小名錄　一三一・一四九・一五九
親志緒言　二九一
志士處世論　一八七
時事新報　二四二
時事新報社のK君　二一〇
時事新報は醫者の何者たるを知らず　一八六
子史精華　二六
子氏選　一五七
時事大勢論　二〇一
資治通鑑　一三三・二六五
資治通鑑外紀　一三六
資治通鑑考異　一三五
資治通鑑釋文　一三六
資治通鑑攷評　一五三
資治通鑑目錄　一三五
事實と批評　八七
事實文編　六六
子四天王北國合戰　七四
宍戶系圖　七七
時事年鑑　三三
四時寶鏡　一四八
寺社寶物展閱目錄　九六
時習館學規　一〇三
四十五番哥合　四九・六〇
四州眞景紀行之部　一七
四十張紙牌說　一六〇
詩集傳名物鈔　九七
四十二國人物圖　二〇一
四十二のものあらそひ　一九
四十番謌合　一三一・一四九・一五九
四十六士論　二九一
四種須知　一八七
四逃奇　二四二
耳順養生錄　二一〇
詩序　一八六
四書　四
四書逸箋　六
詩鈔　一五七
四條院御葬禮記　二〇一
四條院御卽位記　一三三・二六五
四條院殿御髮置記　一三六
四條院殿御自歌合　一三五
四條院殿御吟百韻　一三六
四條院殿大將拜賀篇目　一三五
四條院殿年中行事　一八七
慈照院殿義政公御集　六六
治承元年公卿敕使記　七四
詩小序　三三
次將裝束抄　七七
次將拜賀部類　三三
詩歌浦鞭　一四八
四條流庖丁書　九六
自傷錄　一〇三
字觸　四九・六〇
耳食錄　一七
四書攷異　一六〇
靜岡縣人口統計　二八一
靜岡縣統計書　二六四
靜岡縣立葵文庫貴重和漢書目錄　二三三
靜岡縣立葵文庫和漢圖書目錄　一三〇
靜　八
しづか　一八三
賤獄合戰記　三七
閑なるあまり　八七
賤のをだ卷　三三・三四・二一八
市政關係圖書目錄　八
市政關係圖書目錄　二六四
熾盛光法日記　二九一
死生說　八九
死生論　一三三
市勢調査談　一七五
施政ノ要義　二六九
辭世百人一首　二〇〇
思齋漫錄　四三
自省錄　二三一・二八・二三
時勢論　二〇三
事蹟合考　一九九
史籍雜纂　三三
兒世說　六八
詩說　一五五
師說自見集　一三三・一四〇・一四二
侍雪堂詩鈔　八五二
四節八座抄　二六三
四世鶴屋南北の傳　四七・五九
死線を超えた滿鐵　一九六
自然科學史　一九三

自然科學辭典　一〇九
自然科學者研究　一〇八
自然科學と現代思潮　一〇八
自然主義を論じて我が脚本作家に及ぶ　八二
自然主義思潮　一〇八
自然神敎及道德學　一一三
四川總志　二六六
自然と人生と國家　二三九
紙鳶譜　一五六
師善錄　二三三
詞綜　二五六
思想を管理するの要を講ず　二一二
思想家人名辭典　一〇九
思想關係出版物總攬　八
使奏心得之事　二一九
思想と人格　一〇七
思想文獻年表　一一九
地藏菩薩靈驗記　八九
思想名著解題　一〇九
思想用語辭典　一〇七
使相錄　一七二
詩礎階梯　二九三
氏族博攷　二六六
子孫繁昌の話　一九三
しだ　七三
時代おくれの脚本　一九六
四體書勢　一三九・一五〇
士大夫食時五觀　一五〇
時代不同歌合　四九・六二
支諾皐　一〇九
下草　一〇八
下谷通志　一〇八
したれ柳　一〇八
詩談　一〇八
詞壇骨鯁　一一三
時談片片　二六六
七一雜報　二三九
七玉女　一四六
七怪　一五六
七家詩選　二三三
七勸　二五六
七玉集　一三二
師竹庵聞書　一〇九
師竹菴隨筆　八
絲竹口傳　二一九
師竹軒詩集　一〇七
七言今體詩鈔　一一九
七子詩選　八九
七十一番歌合　一〇九
七十五日　一〇九
七十二候考　一七二
七修類藁　二九三
七種寶納記　二六六
七頌堂識小錄　一九三
七大寺日記　七三
七大寺年表　一九六
七佛藥師御修法記　一五〇
七佛藥師法現行記　一五〇
試茶錄　四九・六二
實際上から見た兒童劇　九四
執事補任次第　一六三・二三二
惡樹叢談　二二七
十種勅問　一四五
十種唐詩選　一四五
室新詩評　二八六
執政所抄　二一一
實政錄　二六六
實傳和尙道行記　一四四
拾得詩　一七四
實蜜錄　一六二
惡譜　一四〇
實用館讀例　八
仕的　八
詩輯　八
子姪に俳諧を禁するのふみ　一五九
侍中群要　一六三
此中人語　八五
史籀篇敍錄　七三
史籀篇疏證　三八
視聽抄　一四九・一五六
市町村及水利組合大勢比較圖　一〇〇
市町村制附理由　一八二
思潮評論　二一九・二三九
四朝聞見錄　二〇一
七曜右旋辯論　一六〇
七曜曆日一卷　二五六
詩地理攷　一五九
七略佚文　一四八・六〇
七略別錄　四〇
七略別錄佚文　二三三
七療　五二・六四
慈鎭和尙自歌合　二四五
室鳩巢　二六一
史通　二五〇
質園詩集　五六・七七
十家牌法　三七
質疑刪存　二三六
失業經濟　二六
失業者と共授業制度　二三九
失業問題　二六二
實業論　九〇
實驗論語　九〇
實語敎　五四・六六
物記　七四
十歲以前に讀んだ本　八九
十才子名月詩集　四四
實際上から見た兒童劇　九四
執事補任次第　一六三・二三二
惡樹叢談　二二七
十種勅問　三七・二〇三
十種唐詩選　一四五
室新詩評　二八六
執政所抄　二一一
實政錄　二六六
實傳和尙道行記　一四四
拾得詩　一七四
實蜜錄　一六二
惡譜　一四〇
實用館讀例　八
仕的　八
詩輯　八
子姪に俳諧を禁するのふみ　一五九
四天王若さかり　七四
芝田錄　一三
詩と韻文と　一八〇
士道　七二
士道家訓　七二
兒童劇に關する若干の疑問　一九六
兒童劇に對する種々の杞憂　一九六
兒童劇の扱ひ方　一九六
兒童劇の效用　一九六
兒童劇の三種類　一九六
兒童劇の種類及び使命　一九六
兒童劇の進化　一九六
兒童劇の模範實演の必要　一九六
紫桃軒雜綴　一三三
紫桃軒又綴　一三三
梓潼士女志　二九・一四七
兒童心理學　二一一
兒童生活と其敎養　一一四
思堂先生行狀　一七五
士道美談　七二
兒童問題　一〇九
士道要論　七二
自得語　一三三
寺德集　九〇
使德日記　一六六
至德二年道快僧正拜堂下行物記　九〇
實語敎　四三
自得流畫夜狼煙揚矢傳　七五
四度幣部類記　七五

支那印刷史　二
支那改革論　二〇九
支那開化小史　一九九
支那學　一三
支那學入門書略解　一七
支那學文獻の解題と其研究法　一七
品革威考　一七〇・一七一
支那數學史略　二三八
支那金工に就て　二三三
支那建築と其の裝飾　二三三
支那工藝に關する文獻　二三三
支那國民性と藝術思潮　二三三
支那國民性とその染織　二三三
支那最近の政情　二三三
支那財政ノ眞相ト其革新策ニ就テ　二一〇七
支那思想概說　一〇八
支那漆藝の發達と其趣味　二三三
支那時文讀本　二九四
支那處分案　一八七
支那史略　二八二
支那人文思想研究　一〇八
支那新聞論　二四一
支那總說　二八四
支那哲學史　二一〇
支那哲學史要　一〇八
支那陶器の鑑賞　二三三
支那に於ける新聞發達小史　二四〇
支那年鑑　三三
支那の瓦塼　二三三
支那の關稅改正問題　二〇七
信濃國埴科郡槝原庄中條宮辨財天由來記　七六
信濃國水內曲橋勸進帳　九五
支那佛教史蹟踏査報告　二三三
支那佛教思想史　一〇八
支那文學史　一一〇
支那文學全書　二九四
支那文藝思潮　一〇八
支那文明史　一一〇
支那法制史　一一〇
支那文字傳來考　二四一
支那文樣の特質　二三三
支那譯の日本書籍目錄　八
指南後錄　一四三
死の研究　一一三
詩の昆蟲　一一六
志の字嬢さとし歌　四三
志能數多禮　一〇三
忍晉物語　六九・八六
四宮陸筆　三三三
芝居繪と豐國及び其門下　一九五
戲場樂屋圖會　九九
芝居歸繪集成序　一九五
芝居年中行事　九八
芝居乘合話　七三
詩牌譜　二五・一五六
芝居町ゐ御觸書　三四
司馬溫公稽古錄　一三四
司馬溫公詩話　一四九
柴田退治記　二〇七
柴の戸　七六
司馬法　九五
司馬凌海と松林飯山　二三三
士範　一〇八
市販三極眞空管の二次電子放電射特性　一一〇
紫徽雜記　二九四
紫徽詩話　一四
試筆　一一〇
尸媚傳　一九三
詞評　二三三
詩病五事　八
自評についての異議　一四三
詩品　二四・二九・三九・四一・四九・一五〇・一五九・一六七
詩品二十四則　一一三
詩譜　一〇三
止風雨法記　六九・八六
澁江抽齋　三三三
澁柿　一九五
澁川系圖　九九
子不語（續共）　一九五
澁澤榮一全集　九八
澁澤榮（子爵）一年譜　七三
四部叢刊　二五・一五六
四部叢刊書錄　三四
事物異名　一三四
事物異名類編　一三四
事物異名錄　一四九
事物紀原　三・六五・八七
事物原始一千題　一〇〇
詩譜補亡後訂　七・一三三・二六
紫文蠧の囀　一〇〇
時文刊誤　一八
時文源流　一四一・一四九・一五〇・一五九・一六七
時文國字牘　二〇九
時文摘紕　一四四
時文濃帖　二三四
紫文要領　二六三
時文浪談　一二八・一五〇
思聞錄　一四九
西伯利亞　一四九
時變吉凶聞書　八一
詩辨說　八九
仕法　一四一
死亡原因第二類別調査報告　一三九・一四九
四方指之事　八九
詩法纂論　八三
詩法纂論續編　五五・六七
詩法掌韻大成　七七
司法省監獄局統計年報　一六三
司法省刑事統計年報　一九四
司法省登記統計年報　一九四
司法省民事統計年報　一三三
仕法雛形　八・三七
芝峯類說　三〇
思補齋詩集　三〇
資本及收入論　三〇・七二
資本主義經濟と社會主義經濟　三〇・二六六
資本主義の精髓　三〇
島津家記　一六三
島津系圖　九八
島津家高麗軍祕錄　一〇〇
島津歷代歌　三四・一五二
嶋原天草日記　一〇一
嶋原一揆松倉記　一〇一
嶋原記　九四
嶋原陣覺書　一四
嶋村君について　一五六
島村抱月　一六四
廓回粹通鑑（シマムラ）　一〇七・一一四
自慢白島年中行事　九七
清水千清遺書　二三三
清水宗治事蹟　一三五
紙魚のゑじき　一三五
紙魚之自傳　四四
紙魚室雜記　二一六
蠹魚無駄話　四四
蠹魚破良爲　二
持明院十卷書　二五五
四民月令　一六五
四民用心集　一六五
四民論　七一
誌銘廣例　一八九
紫溟先生遺稿　一三三
紫溟先生詩集　一〇三
下總國小野織幡地帳　一〇三
下總國香取社造進注文事　九三
下總國小金中野牧御鹿狩一件兩度之書留　一〇四
下總國小金本土寺過去帳　九三
下河邊系圖　九五
下京中出入之帳　九六
耳目記　一三八・二三〇・二四五・二六一
史目表　二〇三
除目抄　四七・五九
除目申文抄　八三
下野龍興開山佛嚴禪師行狀　八一
下間系圖（シモツマ）　九八
しもとのまにまに　一〇六
撞木のまにまに附錄　一〇六
下ノ關償金米國上下兩院議事錄　一一七
寺門高僧記　九〇・九一
思聞錄內外篇　二〇五
ヂヤーナリストの生活及勞働條件　二四〇
ジヤーナリズム　二四一
ヂヤーナリズム感覺論　二四〇
ヂヤーナリズム心理學　二四〇
ヂヤーナリズム道德論　二四〇
ヂヤーナリズムと檢閱制度　二四〇
ヂヤーナリズムとセンセエショナリズム　二四〇
ジヤーナリズムの理論と現象　二四〇
釋迦　一九九
社會意識　一〇九
社會遺傳　一二五
社會未だ改まらず銀行焉ぞ獨り改まることを得んや　一九九
社會衞生學の概念及方法　一〇九
社會改造の理想と實際　一二五
社會改良ト耶蘇教トノ關係　二〇・二三
社會學　一〇八
社會學概論　一〇九
社會學者研究　一九九
社會氣運の變化　一九九
社會教育　八
社會局圖書室圖書目錄　一二三
社會經濟學　一九三
社會講談　二一〇
社會事業家の精神　一〇九
社會思想家研究　一〇九
社會思想史　一〇九
社會辭典　一〇九
社會主義經濟學說史　一五五
社會主義批判　一〇九
社會狀態學　一二一
社會進化論　一二五
社會心理學　一〇七・一〇九
社會政策學會論叢　二九〇
社會政策二論　一三三
社會政策より觀たる稅制問題　二九〇
社會組織の解剖　一二六
社會的の制度一斑　二九〇
社會傳統論　一六三
社會統計學　二六九
社會道德上の共同責任　一二五
社會統制論　一九九
社會と人物　二九五
社會之經濟的基礎　一三四・一六二
社會の心理的解剖　七五
社會の話　七五
社會の本質　一五七
社會文藝概論　一五六
社會文獻年表　一五六
社會平權論　一七〇
社會保險　八
社會問題　一二三
社會問題概論　一二三
社會問題雜纂　五三・六五
社會問題と教育問題　四〇
社會問題の改造的解釋　三五
社會問題の建設的解釋　三五
社會より見たる新聞の使命　一五六
社會理想學　一九八
社會力　一〇九
社會倫理學　一二五
社會論策　一二五
社會論叢　一二五
しやか八さう記　七三
釋迦牟尼如來像法滅盡之記　二九〇
由來　一八四
邪教始末　一八三
射御拾遺抄　一六三
詩譯　二四〇
釋家官班記　二一六
釋史　一六三
釋氏往來　二六九
寫眞鏡圖說　一二二
寫生寫意　一九五
謝選拾遺　二九五
謝宣城詩集　一三四・一六二・一五六・一六七
煮泉小品　七五
煮茶夢記　一五七
煮茶夢記　一五七
社倉私議　七五
社頭御八講日記　七五
遮那業相承血脈譜　一七六
車服制度手記　一七〇
寫本考　八
舍密局開講之說　一二二
沙彌洞然長狀　五三・六五
遮羅紀支　四〇
遮羅國風土軍記　三五
遮邏國山田氏興亡記　三五
沙門文雄が九山八海解嘲論の辨　一七八
煮藥漫抄　二五一
射鷹樓詩話　三五一
射禮私記　五四・六五
洒落本目錄　七三
上海新報　四三
シヤンプル・アルダントの集異記　一三〇・一五二・一五九・一六二・一六三

下總國小金中野牧御鹿狩一件兩度之書留　一〇四
下總國小金本土寺過去帳　九三
下河邊系圖　九五
下京中出入之帳　九六
耳目記　一三八・二三〇・二四五・二六一
史目表　二〇三
除目抄　四七・五九
除目申文抄　八三
下野龍興開山佛嚴禪師行狀　八一
下間系圖（シモツマ）　九八
しもとのまにまに　一〇六
撞木のまにまに附錄　一〇六
下ノ關償金米國上下兩院議事錄　一一七
寺門高僧記　九〇・九一
思聞錄內外篇　二〇五
ヂヤーナリストの生活及勞働條件　二四〇
ジヤーナリズム　二四一
ヂヤーナリズム感覺論　二四〇
ヂヤーナリズム心理學　二四〇
ヂヤーナリズム道德論　二四〇
ヂヤーナリズムと檢閱制度　二四〇
ヂヤーナリズムとセンセエショナリズム　二四〇
ジヤーナリズムの理論と現象　二四〇
釋迦　一九九
社會意識　一〇九
社會遺傳　一二五
社會未だ改まらず銀行焉ぞ獨り改まることを得んや　一九九
社會衞生學の概念及方法　一〇九
社會改造の理想と實際　一二五
社會改良ト耶蘇教トノ關係　二〇・二三
社會學　一〇八
社會學概論　一〇九
社會學者研究　一九九
社會氣運の變化　一九九
社會教育　八
社會局圖書室圖書目錄　一二三
社會經濟學　一九三
社會講談　二一〇
社會事業家の精神　一〇九
社會思想家研究　一〇九
社會思想史　一〇九
社會辭典　一〇九
社會主義經濟學說史　一五五
社會主義批判　一〇九
社會狀態學　一二一
社會進化論　一二五
社會心理學　一〇七・一〇九
社會政策學會論叢　二九〇
社會政策二論　一三三
社會政策より觀たる稅制問題　二九〇
社會組織の解剖　一二六
社會的の制度一斑　二九〇
社會傳統論　一六三
社會統計學　二六九
社會道德上の共同責任　一二五
社會統制論　一九九
社會と人物　二九五
社會之經濟的基礎　一三四・一六二
社會の心理的解剖　七五
社會の話　七五
社會の本質　一五七
社會文藝概論　一五六
社會文獻年表　一五六
社會平權論　一七〇
社會保險　八
社會問題　一二三
社會問題概論　一二三
社會問題雜纂　五三・六五
社會問題と教育問題　四〇
社會問題の改造的解釋　三五
社會問題の建設的解釋　三五
社會より見たる新聞の使命　一五六
社會理想學　一九八
社會力　一〇九
社會倫理學　一二五
社會論策　一二五
社會論叢　一二五
しやか八さう記　七三
釋迦牟尼如來像法滅盡之記　二九〇
由來　一八四
邪教始末　一八三
射御拾遺抄　一六三
詩譯　二四〇
釋家官班記　二一六
釋史　一六三
釋氏往來　二六九
寫眞鏡圖說　一二二
寫生寫意　一九五
謝選拾遺　二九五
謝宣城詩集　一三四・一六二・一五六・一六七
煮泉小品　七五
煮茶夢記　一五七
煮茶夢記　一五七
社倉私議　七五
社頭御八講日記　七五
遮那業相承血脈譜　一七六
車服制度手記　一七〇
寫本考　八
舍密局開講之說　一二二
沙彌洞然長狀　五三・六五
遮羅紀支　四〇
遮羅國風土軍記　三五
遮邏國山田氏興亡記　三五
沙門文雄が九山八海解嘲論の辨　一七八
煮藥漫抄　二五一
射鷹樓詩話　三五一
射禮私記　五四・六五
洒落本目錄　七三
上海新報　四三
シヤンプル・アルダントの集異記　一三〇・一五二・一五九・一六二・一六三

拾遺記　二四・一六三
集異志　一五二・一五九・一六二
拾遺抄　四八・五九
拾遺抄註　五二・六三
拾遺百番歌合　五二・六三
拾遺風體和歌集　八三
拾遺名山記　一二九・一四八
重印薩艸序　一八〇
重印四部叢刊書錄　八・三七
周易　一二六・一三三
周易倚數錄（算圖共）　一三七
周易王弼注唐寫本殘卷校字記　一二九
周易晉義　二六四
周易會古　一五三
周易外傳　一五三
周易擧正　二〇二・二〇五
周易虞氏略例　一四〇・一四二
周易稽疑　一三七
周易繫辭精義　一五三
周易攷異　一三六
周易古占　一四二
周易互體卦變考　一三五
周易參同契考異　七一
周易集解　一四〇
周易集解略例　一四〇
周易諸卦合象考　一三五
周易私論　一七六
周易新講義　三三
周易大象解　二〇五
周易通論月令　一三七
周易内傳（發例共）　二〇二・二〇五
周易貴氏學　一三八
周易稗疏　二〇五
周易標註　一七六
周易本義辨證　七一
周易略例　一三二・一四二
秋園雜佩　一三三
自由艷舌女文章　一二九
拾芥雜祕錄　四二
集外三十六歌仙　九五
拾芥抄　一九
集課記　二〇四
從駕記　一三〇・一四六
重學　一二一
十樂毫記　五五・六七
聚學軒叢書　一三七
秀鶴隨筆　七三
十駕齋養新錄（餘錄共）　二三三
拾菓集　一三三
秀歌大略　八六
斜稚堂詩話　三五一
重刊戲曲小說通志序　八〇
周官指掌　一四二
周官新義　一三三
周官隨筆　二五三
秋澗先生大全文集　一三六
衆議院議員選擧法釋義　二八六
衆議院先例彙纂　二八六
衆議院圖書館和漢圖書目錄　二〇七
（洋書目錄附）　二〇二
集議院日誌　一三八
蹴鞠簡要抄　二〇五
蹴鞠條々大概　一七六
蹴鞠圖譜　七一
蹴鞠之目錄九十九ヶ條　一三二・一四二
蹴鞠百五十箇條　一三三
蹴鞠百首和歌　一二九
蹴鞠略記　四二
宗教學概論　九五
宗教家研究　一九
宗教關係文獻年表　二〇四
宗教進化論　一三〇・一四六
宗教眞味　一二一
宗教哲學　五五・六七
宗教道德の必用　一三七
宗教と科學　七三
宗教と樂劇　二三三
宗教と文學　一三三
宗教の眞諦　八六
宗教の話　八三
宗教必用論　三五一
瘦玉詞鈔　八〇
秋玉祕抄　一四二
集虛齋學古文　一三三
集虛草堂叢書　二五三
秋錦山房集　一三六
十九世紀科學の進步　二八六
十九世紀の大勢　二八六
十九世紀末年史　二〇七
習字敎授案　二〇二
俯史試筆　一三五
十七箇條憲法　二〇五
十七憲法　五五・六七
十七憲法和譯　七〇
十七史蒙求　一八八
十七帖述　二五六
修辭通　一七六
秋日陪社壇同詠新雨百首　四八・六〇
就日錄　一二八・一四五
周氏冥通記　一四二
周尺考　一〇五
周尺說　一〇五
拾集記　一〇三
重修政和經史證類備用本草　一〇三
拾集昔語　一〇三
拾集物語　一〇三
自由主義　一〇九
自由主義如何　一八七
遒狗編　一三三
周書　二六五
修城書　二〇七
周書顧命後考　一三七
周書顧命禮徵　一三七
周秦行紀　一三〇・一五三・一六三
修身講話者心得　一九五
修身女訓　一九二
修身入門　一九二
修身奉公訓　一九五
周秦名字解故補　一三八
獸經　一二八・一三八・一五七・一五九
重校鶴山先生大全文集　一三五
重校正唐文粹　一三七
周公年表　一三七
師友行輩議　一三九
集古偶錄　一三三
從吾所好　一六・一七五
集古隨筆　二一四
銑後題言七則　一八〇
十五通志全圖　二六六
十五夜哥合　四九・六一
十五夜三首歌合　四九・五〇
集古錄　一二八・一三〇
秋齋閒語　一〇一・一二五・一三三
秋齋閒語評　一〇一
修訂阿彌陀經　三五
十三經晉略　一三三
十三經詁答問　一三三
十三經註疏　二六四
十三時　一八四
十三洲記　一四七
十三洲志　一三八
十三代集と百錬抄と　八〇
十三代要略　九一
十三日備嘗記　二五八
度詞　一三九
修辭及華文　一三・一八
修史を論ず　二〇九
修辭學　一三八
秋風抄　八七
修文殿御覽殘卷　五三・六四・一〇六
種芋法　四二
鷲峰開山法燈圓明國師行實年譜　五〇・六二
銃法起原考　三三
拾補日本後紀　二八八
衆妙集　七一
自由民權文獻年表　二九一
宗約歌　二三三
十友頌說　一七一
十友圖贊　三八
柔能制剛論　三七
檜林雜話　三九
鷲林拾葉集　二九
集靈記　二八九
拾烈集　一四六
佳蓮山安樂寺略緣起　二〇七
十六國置域志　二一一
十六國春秋　一五
十六國年表　一五〇
十六湯品　一三・一四
重論文齋筆錄　一五〇
柔話　四七・五九
壽永改元定記　一五〇
壽永二年轉法輪法記　五三・六四
首書三體詩　二九五
酒箴　一九五
主津新集　三三一
主秘局統計年報書　二七六
酒政六則　一六〇
修身錄　一七九
修身論　二一二
秀水閒居錄　一四六
秋水詩鈔（續集共）　一四五
秀水董氏五世詩鈔　二六一
修靜庵遺稿拾遺　一七一
修靜庵遺稿　一七一
賜遊西苑記　一五四
秋星閣詩話　一三九
衆星札記　一三八
修正派社會主義　一〇九
周生烈子　一三八
修省錄　一〇四
從政錄　二七・一三三
秋夕夢　一八四
重選徐迪功外集　二四九
集仙傳　一四七
十善法語　七〇
十善略說　七〇
秋邨遺稿　二四五
師友談記　一四三
衆圍心理　一一六
羞恥と貞操　一八六
袖中記　一二九・一四三
袖中書　二〇三
袖珍世界年鑑　二七二
重訂擬惡諸　一四二
重定續三十五舉　一五六
重訂唐詩別裁集　二五〇
周顚仙人傳　一三二・一五七
十道志　一四七
修道指南針　一八九
終南十志　一三〇・一四八・一六一
十二戒　一五九
十二月往來　四八・五九
十二硯齋隨錄　一四〇・一三二
十二支戲文　四二
十二叢書彙刻總目　八
十二の石塚　一八
十二類歌合　五六・六七
雌雄の起原及進化　二三三
自由の合意　一八六
自由太刀餘波鋭鋒　一二九・一九七
自由の燈　二四三
自由の前觸れ　一八六
自由之理　一四七・六七
戒幕閒談　一四六
十八家詩鈔　七〇
十八史略　七〇
十八大通　一四五
十八世紀以降のフランス化　七五・二一七
學界瞥見　二一一
十番狂詩合　九三
十番切　七四
十番物あらそひ　九三
周髀音義　二三三
周髀算經　一三二・一三四・一四〇
周髀算經校勘記　二三三
十番諮　三五
師友風義錄　一三五
趣園志異　二六〇
趣園詩話　二五八
壽筵生彩　一五七
趣園八種　二五〇
趣園蓬縱吟　二五〇
趣園問答篇　二〇四
主客辭　四二
儒棋格　一五一
種菊要法　二一四
儒敎哲學概論　二一一
授業編　一〇一
栽園外集　二四五
栽園雜記　一三二・一五四
栽園記　一三五
塾講規約　九一
夙興語　一五三
鷙子　九三
親子小言　一六六
叔苴子內編　一三三
宿曜運命勘錄　二六三
肅雝集　二五
宿盧稿　八三
酒經　一五〇・一六〇・一六四
須溪先生校本唐王右丞集　一三四
樹堂錄　一四五
主權論　一七
主權論纂　一七
准后考　一七三
准后准三后考　一〇三
殊號事略　四四・七三
守困日歷　一七一
壽齋記　二六〇
酒茶論　二五八
從三位君御年譜略　二五八
從三位頼政卿集　二六〇
酒爾雅　二六〇
朱子感興詩註　二六〇
朱氏經濟學　四二
朱子周易參同契考異　八
朱子靜坐說　一五一
朱氏談綺　二一一
朱子年譜　一〇一
守字の解　二四五
朱雀しのぶずり　一三二・一五四
朱雀遠目鏡　一三九
酒社芻言　一三九
種樹國法　二一四
種樹書　一六六
種々ノ狀態ニ於ケル血中ほるもんニ就テ　一二八・一五一・一六九
朱舜水記念會出品目錄　一一三
酒乘　一五〇
主上御元服上壽作法抄　一五〇
酒小史　一五〇
酒食論　一四五
首書三體詩　一三三
酒箴　一三九
主津新集　一七三
主秘局統計年報書　三三一
酒政六則　二七六

修身錄　一七九
修身論　二一二
秀水閒居錄　一四六
秋水詩鈔（續集共）　一四五
秀水董氏五世詩鈔　二六一
修靜庵遺稿拾遺　一七一
修靜庵遺稿　一七一
賜遊西苑記　一五四
秋星閣詩話　一三九
衆星札記　一三八
修正派社會主義　一〇九
周生烈子　一三八
修省錄　一〇四
從政錄　二七・一三三
秋夕夢　一八四
重選徐迪功外集　二四九
集仙傳　一四七
十善法語　七〇
十善略說　七〇
秋邨遺稿　二四五
師友談記　一四三
衆圍心理　一一六
羞恥と貞操　一八六
袖中記　一二九・一四三
袖中書　二〇三
袖珍世界年鑑　二七二
重訂擬惡諸　一四二
重定續三十五舉　一五六
重訂唐詩別裁集　二五〇
周顚仙人傳　一三二・一五七
十道志　一四七
修道指南針　一八九
終南十志　一三〇・一四八・一六一
十二戒　一五九
十二月往來　四八・五九
十二硯齋隨錄　一四〇・一三二
十二支戲文　四二
十二叢書彙刻總目　八
十二の石塚　一八
十二類歌合　五六・六七
雌雄の起原及進化　二三三
自由の合意　一八六
自由太刀餘波鋭鋒　一二九・一九七
自由の燈　二四三
自由の前觸れ　一八六
自由之理　一四七・六七
戒幕閒談　一四六
十八家詩鈔　七〇
十八史略　七〇
十八大通　一四五
十八世紀以降のフランス化　七五・二一七
學界瞥見　二一一
十番狂詩合　九三
十番切　七四
十番物あらそひ　九三
周髀音義　二三三
周髀算經　一三二・一三四・一四〇
周髀算經校勘記　二三三
十番諮　三五
師友風義錄　一三五
趣園志異　二六〇
趣園詩話　二五八
壽筵生彩　一五七
趣園八種　二五〇
趣園蓬縱吟　二五〇
趣園問答篇　二〇四
主客辭　四二
儒棋格　一五一
種菊要法　二一四
儒敎哲學概論　二一一
授業編　一〇一
栽園外集　二四五
栽園雜記　一三二・一五四
塾講規約　九一
夙興語　一五三
鷙子　九三
親子小言　一六六
叔苴子內編　一三三
宿曜運命勘錄　二六三
肅雝集　二五
宿盧稿　八三
酒經　一五〇・一六〇・一六四
須溪先生校本唐王右丞集　一三四
樹堂錄　一四五
主權論　一七
主權論纂　一七
准后考　一七三
准后准三后考　一〇三
殊號事略　四四・七三
守困日歷　一七一
壽齋記　二六〇
酒茶論　二五八
從三位君御年譜略　二五八
從三位頼政卿集　二六〇
酒爾雅　二六〇
朱子感興詩註　二六〇
朱氏經濟學　四二
朱子周易參同契考異　八
朱子靜坐說　一五一
朱氏談綺　二一一
朱子年譜　一〇一
守字の解　二四五
朱雀しのぶずり　一三二・一五四
朱雀遠目鏡　一三九
酒社芻言　一三九
種樹國法　二一四
種樹書　一六六
種々ノ狀態ニ於ケル血中ほるもんニ就テ　一二八・一五一・一六九
朱舜水記念會出品目錄　一一三
酒乘　一五〇
主上御元服上壽作法抄　一五〇
酒小史　一五〇
酒食論　一四五
首書三體詩　一三三
酒箴　一三九
主津新集　一七三
主秘局統計年報書　三三一
酒政六則　二七六

諺帖　二九五
逃異記　一三四・一三九・一四八・一五八・一六七
逃學　一三六・一六三
出觀集　五一・六二
出家辯　一八九
逃古叢鈔　一三八
逃古堂藏書目　八・一三
出山異數紀　一三九
出使英法義比四國日記　一五九
出使美日祕槻日記　一五九
逃煮茶小品　一五〇
出生當時の死力に就て　二七九
出陣千句　八五
出陣日記　八九
術數記遺　一五二
出世太平記　七三
出發前半時間　一八四
出版月評　一三六
出版年鑑　八
酒天童子　七三
儒道恢復論　一八
壽藤齋詩　二四五
儒道本義　一八
種の起原　一八六
殊批增註七家詩選　一三六
主筆に代て大道社主義を辨ず　一八
殊批六朝文絜　一五
手臂錄　一五
酒譜　一五〇・一六四
守應紀略　一四〇
順德院御百首　八四
順德院御集　八三
順德院御卽位記　八三
淳和天皇御卽位記　二九五
殉難拾遺　一〇三・一一六
春波樓筆記　二九五
春飄遺稿　一六一
純飛館詞續　一五一・一六四
竹譜　一九・一七七
春風情話　一三三・一五五・一六六
春風堂隨筆　一三五
遵開錄　八五
春夢草　一〇四
春夢獨談　一五三
春夢錄　一四六
春明退朝錄　一七五
春遊草　一二四
春融堂集　二五四
春林和尙行實　八二
所安遺集　一三五
諸鞍日記　六八・八八
字樣　一三七
淨阿上人行狀　八〇
正安元年五種歌合　八四
正安元年新院兩社御幸記　七七
正安三年大嘗會記　四七・五九
升菴辭品　一五六
祥異記　一五三
乘異記　一五二・六七
小鳴波館詩鈔　一三八・一三一・一五四
小鳴波館詞鈔　一三五
定爲法印申文　五一・六三
松蔭吟稿　八三
松蔭私語　八七
松陰詩集　一七三
松陰隨筆　一七三
正印禪師行狀　一七三
松陰先生遺著　一三三
勝飮編　一三三
賞雨茅屋詩集（外集共）　二四五
紹運記　八八
湘雲瓚語　三五
彼雲詩集　三五
商芸小說　八五
紹運要略　一〇四
常棠公略譜　一五三
貞永式目　一四六
貞慧傳　一七五
椒園詩鈔　二五四
常緣集　八二
松燈小錄　一三五
賞延素心錄　六八・八八
上苑梅譜　三七
硝煙墨雨記　八〇
涉園漫錄　八四
貞應弘安式目　七七
紹鷗茶湯百首　四七・五九
正應二年卅番哥合　一五六
貞應二年宗清法印立願文　一五三
小鳴波館詩鈔　一五二・六七
小鳴波館詞鈔　一三五
紹鷗袋棚記　八三
正應四年香取檢田帳　八七
正應六年七月十三日公卿勅使御參宮次第　一七三
正應六年太政官牒　二一六
松崖筆記　八一
松崖文鈔　一七三
小華外史　一三三
消夏閑記摘抄　二四五
小學　八八
少學　三五
小學句讀備考　一四三
小學國語讀本はしがき　一四六
小學國語讀本編纂要旨　五六・六七
小學紺珠　九七
正覺寺御由緒　五三・六五
小學修身訓　九四
小學新圖　二六三
小學中等讀本　五一・六三
小學讀本　二六三
小學入門　一六六
常樂副史田員宗啓　一〇五
正覺普通國師塔銘　二六五
小學歷史編纂法　三三四
正覺樓叢書　九四
情學は以て科學として立つるに足るか　八七・四九・六一
銷夏雜記　七五
松下雜抄　二四五
松花集　二四五
承華事略　八七
松花僻案　九三
上下富有の議　一〇三
消夏漫筆　一七三
貞觀公私畫史　七六
消閑雜記　一三七
傷寒總病論　一三七
傷寒百證歌　九八
傷寒問答　一三八
傷寒六經定法　一三八
傷寒論　一三五
照頰錄　一六〇
娼妓畫帳　一七八
蒸氣器械書　一九八
紹熙行禮記　一四〇
上記鈔譯　一四三
銷燬抽燬書目　二九一
蒸瀠篇　四四
承久軍物語　二九五
承久兵亂記　一一八
承久物語　一六三
商業經濟學　八二
上鄕故實　二〇三
商業史歌　一四三
情供證據誤判錄　一七九
商業大辭書　三一
商業的露西亞及西比利亞　一三五
商況論　二〇〇
瑣玉集　一三五
朱文公校昌黎先生文集（外集・遺文共）　一三四
朱文公文集　一三五
酒餅論　七四
守汴日志　一三八
入木抄　五六・六七
酒名記　一三一・一五〇
酒約　一三五
廬餘　一三五
主要鄕土誌料展覽會陳列目錄　一六
周禮　一三三
周禮鄭氏注　一三七
周禮補注　一三七
周禮問　二〇四
聚樂第行幸記　四六・七七
聚樂第之行列　四六・七七
聚樂亭兩度行幸日次記　七七
聚樂物語　九一
種蘭訣　二六
酒律　一五九
儒林外史　二五七
儒林公議　一三一・一四五
儒林瑣記　一四〇
儒林拾要　九三
Schlussbemerkung　一九一
シュレンテルのボルクマン評　一八四
珠樓遺稿　一六三
春閨雜詠　一六九
春雨雜述　一二八・一三四
春霞集　九七
春夏帖　一七三
春華門院御五十日記　一一九
春鑑抄　一三五
春記　七四
淳熙玉堂雜記　一五八
驟牛繪詞　五六・六七
尊鄕贅筆　一三一・一五〇
俊傑眞木泉州　一五五
旬五志　一六
尊菜草紙　一三三
春在堂襍文（續・三篇共）　一三七
春在堂詩編　一三七
春在堂詞錄　二〇四
春在堂隨筆　四六・七七
春在堂尺牘　四六・七七
春在堂全書　七七
春山倚杖　九一
荀子　二六
荀子標註　一五九
春秋　二五七
春秋緯　一三一・一四五
春秋運斗樞　一四〇
春秋家說　九三
春秋簡書刑誤　一九一
春秋感精符　一六三
春秋公羊經傳解詁　一六三
春秋公羊禮疏　一九九
春秋經傳集解　二〇四
春秋元命包　九七
春笑一刻　一七三
春情浮世の夢　一一九
春宵秋夜談　一四三
春渚紀聞　一三一・一四一・一四五
「春色梅開曆」事件　一九七
殉臣錄　一五三
殉身錄　一三八
舜水先生行實竝略譜　九四
春水日記　一七九
詢蒭錄　一五四
俊成卿九十賀記　五六・六八
俊成卿逸懷百首　八四
俊成卿正治奏狀　五一・六三
俊成卿文治六年五社百首　四八・六〇
俊成卿萬葉集時代考　八五
俊成卿女集　五一・六三
純正哲學　二一
春湊記　四一
春窓綺話　一一九・一七七
春湊浪話　三三四・三五・三六
春臺獨語　九六・一〇五・二八・三三
春湊浪話　二六四
春臺獨語　一四三
純炭素鋼の變態點　一六五
春朝秋夕　二〇五
春汀全集　一七一
舜典補亡　二〇四
順德院御琵琶合　一九九
春秋孔演圖　一四三
春秋後語　一四三
春宵秋夜談　一一九
春渚紀聞　一四三
春秋穀梁傳　一〇〇
春秋穀梁傳時月日書法釋例　一三六・一三三
春秋左氏傳校本　二六三・二九一
春秋左氏傳標註　一九七
春秋左氏傳補注　七一
春秋佐助期　一四三
春秋左傳詁　一四三
春秋三家異文翼　一〇三
春秋三傳異同考　三七
春秋逸義　二〇三
春秋條貫篇　三六
春秋說　二〇四
春秋說題辭　一五八
春秋世論　一四三
春秋占筮書　二〇一・二〇五
春秋潛潭巴　一六八・二〇四
春秋屬辭比事記　一四三
春秋傳說例　一六五
春秋稗疏　一四三
春秋繁露　一三五
春秋繁露註釋大全　一三三・一四三
春秋文曜鉤　二五四
春秋辨疑　一四三
春秋名號歸一圖　一三五
春秋毛氏傳　一三五
春秋亂賊考　一三三
春秋倫理思想史　一四三

上宮皇太子菩薩傳　八〇
上宮聖德太子傳補闕記　四六・五八
上宮聖德法王帝說　四六・五八
性空上人傳　四六・五八
將軍家歌合　四九・六一
將軍家百韻　八五
將軍次第　七七
將軍執權次第　四六・五八
將軍宣下記　八八
將軍宣下三拾一度儀不同次第　一七〇
將軍宣下次第　八八
將軍義尙公薨逝記　五六・六八
松溪子　一三九
尙絅堂集　二五四
松溪漫錄　二六三
昭慶門院御屛風押色紙和歌　四八・六〇
ショウ劇梗概　一九三
衝擊試驗より觀たる二三の避雷器の特性に就て　二〇九
衝擊電壓上昇過度中に於ける火花放電に就て　二〇九
賞月雅草抄　一七三
筆月詞　一六六
承元御鞫記　五三・六四
正元元年東宮御元服部類記　八三
正元元年仁王經法雜事　八九
蕉堅稿　二五四
橡軒隨筆　二三四
正源大夫人御墓誌　二八三
正眼知鑑禪師年譜　八一
承華事略　八七
松花僻案　九三
上下富有の議　一〇三
消夏漫筆　一七三
貞觀公私畫史　七六
消閑雜記　一三七
傷寒總病論　一三七
傷寒百證歌　九八
傷寒問答　一三八
傷寒六經定法　一三八
傷寒論　一三五
照頰錄　一六〇
娼妓畫帳　一七八
蒸氣器械書　一九八
紹熙行禮記　一四〇
上記鈔譯　一四三
銷燬抽燬書目　二九一
蒸瀠篇　四四
承久軍物語　二九五
承久兵亂記　一一八
承久物語　一六三
商業經濟學　八二
上鄕故實　二〇三
商業史歌　一四三
情供證據誤判錄　一七九
商業大辭書　三一
商業的露西亞及西比利亞　一三五
商況論　二〇〇
瑣玉集　一三五

正元二年院落書 九三
承元二年東宮御元服記 一三八
證驗百條 一六〇・一六四・一九八
省畫錄 五一・一五三
稱光院御卽位記 一七三
彰考館藏書目錄 八
彰考館圖書目錄 八
小工業問題 二九〇
常光國師行實 八一
上皇御落飾部類 八九
聖光上人傳 八〇
邵康節先生外紀 一六六
商工地理學 一一〇
紹興內府古器評 一四一
正廣日記 五二・一八四
正廣判官地下歌合 一六六
松壺畫贅 一六六
松壺畫憶 一六六
相國寺供養記 五四・一六六
相國寺塔供養記 五四・一六六
相國拜賀部類記 八三
相國歷名 七七
湘湖水利志 二〇四
尙古造紙揷 二一六
上近衞公書 三五・一〇五
蕉齋筆記 二一八
定西琉球物語 四三
常薩見聞談 二八四
常山紀談 二八二
焦山紀遊集 一二三
小窓清紀 二三二
蕉窓文草 七四
蕉窓漫筆 二二四
蕉窓夜話 九二
小滄浪詩話 一六六
消息往來 二五一
裝束雜事抄 九五
裝束色彙 四七・五九
消息耳底秘抄 九三
裝束抄 四八・五九
裝束圖式 八三
細素雜記 一四四
ショー其人及び其作 一九八
正體 一八五
上代衣服考 二一六・二八二
粧臺記 一四九
上代石器考 一九二
昭代選屑 七二
昭代叢書 一三九
昭代名人尺牘小傳 一三六・一三八・一六二・一六七
章臺柳傳 五五・六七
樵談治要 一三七
小畜外集殘本 一三七
小畜集 一三七
松竹問答 一〇三・二一八
松竹幽居小稾 二四六
松竹幽居第二集 二四六
定智禪師行狀 八二
淨智第四世法海禪師無象和尙行狀記 八〇
湘中怨詞 一六二
正中御飾記 六八・七五・九七
湘中記 二九・一四八
掌中群書一覽 八
掌中桂園一枝 二九五
湘中草 二九四
掌中增補詩礎階梯 二九三
掌中萬國一覽 二〇〇
掌中要錄 八六
掌中要錄祕曲 八六
掌中歷 九二
昭忠錄 二二
正長元年記 九一
勝朝彤史拾遺記 一六三
松亭行紀 一六三・一八二
勝定國師年譜 一四九
嘯亭雜錄(續錄共) 一九二
招提千歲傳記 七二
松亭漫筆 一三九
誦荻齋曲 二七・二九八
正徹百首 五五・六七
小農紀年堉攷 一三七
正統下南海和尙傳 一三七
上東門院菊合和哥 一三七
紹陶錄 一〇三・二一八
淨土教版の研究 二四六
常德院畫像贊竝序 二四六
常德院殿御髮置記 八二
常德院殿御集 九五
常德院嚴樣御馬召初らるゝ 八〇
消毒雜說四則 一六二
正法論 二〇〇
城北集 二五四
上木自由之論 二一七
小謨觴館全集 二五四
小謨觴館文集 二五二
正本と臺帳と 一八〇
稱名院右府藏人頭奏慶從事 八三
次第
稱名院右府七十賀記 五六・六八
稱名院殿句題御百首 八四
正德年號辨 九二
正德四年金銀後代御條目 九一
淨土法門源流章 二〇四
淞南夢影錄 一三七
小兒死亡統計表 一八一
商人一枚起請文 一四〇・一四九・一五九・一六一
少年エルテルの憂 一六三・一六五・一八四・二〇四
少年學士序 一六五
少年裁判及監視制度 二五四
少年時に觀た歌舞伎の追憶 二五四
少年時代の蘇峰君 二五四
少年讀書家のために 二五九
少年と道德 八一
少年文學序 二〇〇
少年文集の評者 二〇四
少年論 二五四
小農保護問題 九四
商賣往來 八八
聖賣僧正傳 八八
商法汎論 一四〇
商法篇 一九二
正法論 二〇〇
城北集 二五四
上木自由之論 二一七
小謨觴館全集 二五四
小謨觴館文集 二五二
正本と臺帳と 一八〇
稱名院右府藏人頭奏慶從事 八三
次第
稱名院右府七十賀記 五六・六八
稱名院殿句題御百首 八四
正德年號辨 九二
正德四年金銀後代御條目 九一
淨土法門源流章 二〇四
淞南夢影錄 一三七
小兒死亡統計表 一八一
商人一枚起請文 一四〇・一四九・一五九・一六一
少年エルテルの憂 一六三・一六五・一八四・二〇四
少年學士序 一六五
少年裁判及監視制度 二五四
少年時に觀た歌舞伎の追憶 二五四
少年時代の蘇峰君 二五四
少年讀書家のために 二五九
少年と道德 八一
少年文學序 二〇〇
少年文集の評者 二〇四
少年論 二五四
小農保護問題 九四
商賣往來 八八
聖賣僧正傳 八八
商法汎論 一四〇
紹巴富士見道記 五三・六五
小半斤謠 一四四
薔薇 六八
消費を縛る力 一八八
消費組合論 一九五
娼妓地理記 九三
小票式統計製表法 九三
商品改良會報告 八〇
小品考 一九四
淞濱瑣話 七二
松風閣詩鈔 一七〇
勝福寺鑄鐘勸進帳 四一
聖福寺佛殿記 八〇
小浮山人閉門集 一六三
小浮梅間話 一七九
尙武論 七一
章文毅公詩集 一八〇
小文規則 一八〇
諛聞瑣錄 一〇七
昌平遺響 一九七
昌平學校釋奠式幷御祭供 二一〇
昌平山水記 一九五
昌平叢書 一一四
昌平叢書目錄 八一
昭平茗談 一八〇
勝寶院門跡列祖次第 一八七
松峰山清晉寺略緣起 一九〇
商法修正案 九五
聖賣僧正傳 一四七・一五八
商法汎論 八五
蕭山縣志刊誤 二〇四
焦山古鼎考 一三九
謠政述 一六〇
小四書 二二四
涉史隨筆 一三五
正治奏狀 一三五
正子內親王繪合 八七
將氏日錄 一三五
正治二年院御百首 二九五
貞治二年御鞠記 一三五
正治二年十月一日歌合 一三五
正治二年第二度百首和歌 一〇〇
情死の統計的研究 四八・六〇
焦氏筆乘 二七九
蔣子文傳 一四一
常州江戶系圖 一三三
將就園記幷詩 一八一
淨宗護國論 一三〇・一五一・一五九・一六一
常住寺佛舍利記 一三三・一三七・一三四・一四〇
謹周法訓 一三三・一三六・一四二・一六五
淨修坊雜日記 八三
上藩拜舞記 一七三
小酒令 一三七
尙書 一三三
尙書引義 二一九
至要鈔 一九五
瀟湘怨詞 三七
條々聞書貞丈抄 一九八
惺々曉齋繪目記 二〇七
常照愚草 一四一
鍾情集 一六五
少將中慶次第 八六
貞治七年宮田前大宮司家領記 二〇四
小四書 一三九
涉史隨筆 二二四
正治奏狀 一三五
正子內親王繪合 八七
將氏日錄 一三七
正治二年院御百首 二九五
貞治二年御鞠記 一三五
正治二年十月一日歌合 一三五
正治二年第二度百首和歌 一〇〇
情死の統計的研究 四八・六〇
焦氏筆乘 二七九
蔣子文傳 一四一
常州江戶系圖 一三三
將就園記幷詩 一八一
淨宗護國論 一三〇・一五一・一五九・一六一
常住寺佛舍利記 一三三・一三七・一三四・一四〇
謹周法訓 一三三・一三六・一四二・一六五
淨修坊雜日記 八三
上藩拜舞記 一七三
小酒令 一三七
尙書 一三三
尙書引義 二一九
至要鈔 一九五
瀟湘怨詞 三七
條々聞書貞丈抄 一九八
惺々曉齋繪目記 二〇七
常照愚草 一四一
鍾情集 一六五
少將中慶次第 八六
上庠錄 一四六
笑笑錄 一六三
瀟湘錄 三八・一三〇・一四五・一六一
尙書學 三五
尙書義攷 一三七
尙書誼略(敍錄共) 一三八
尙書故 二〇六
尙書廣聽錄 二〇三
尙書考靈耀 一四二
尙書故實 一四二・一四四・一六四
尙書釋音 二三六
尙書釋文 一三五
尙書旋璣鈐 一四二
尙書大傳 一三三
尙書大傳定本 二六〇
尙書大傳補注 一六八
尙書中候 一四三
尙書帝命期 一四三
貞治四年諒闇終記 九八
尙書補傳 九六
尙書餘論 一三三
尙書隸古定釋文(經文共) 一三七
小自立齋文 一六一
貞治六年中殿御會記 五一・六三
賞心樂事 一五五
涉史偶筆 一九八
常侍言旨 一三〇・一四六・一六一
小兒語 二〇七
貞治三年春日御動座記 一六五
貞治三年舞御覽記 二四四
蕭山縣志刊誤 二〇四
焦山古鼎考 一三九
謠政述 一六〇
小四書 二二四
涉史隨筆 二二四
正治奏狀 一三五
正子內親王繪合 八七
將氏日錄 一三七
正治二年院御百首 二九五
貞治二年御鞠記 一三五
正治二年十月一日歌合 一三五
正治二年第二度百首和歌 一〇〇
情死の統計的研究 四八・六〇
焦氏筆乘 二七九
蔣子文傳 一四一
常州江戶系圖 一三三
將就園記幷詩 一八一
淨宗護國論 一三〇・一五一・一五九・一六一
常住寺佛舍利記 一三三・一三七・一三四・一四〇
謹周法訓 一三三・一三六・一四二・一六五
淨修坊雜日記 八三
上藩拜舞記 一七三
小酒令 一三七
尙書 一三三
尙書引義 二一九
至要鈔 一九五
瀟湘怨詞 三七
條々聞書貞丈抄 一九八
惺々曉齋繪目記 二〇七
常照愚草 一四一
鍾情集 一六五
少將中慶次第 八六
上庠錄 一四六
笑笑錄 一六三
瀟湘錄 三八・一三〇・一四五・一六一
尙書學 三五
尙書義攷 一三七
尙書誼略(敍錄共) 一三八
尙書故 二〇六
尙書廣聽錄 二〇三
尙書考靈耀 一四二
尙書故實 一四二・一四四・一六四
尙書釋音 二三六
尙書釋文 一三五
尙書旋璣鈐 一四二
尙書大傳 一三三
尙書大傳定本 二六〇
尙書大傳補注 一六八
尙書中候 一四三
尙書帝命期 一四三
貞治四年諒闇終記 九八
尙書補傳 九六
尙書餘論 一三三
尙書隸古定釋文(經文共) 一三七
小自立齋文 一六一
貞治六年中殿御會記 五一・六三
賞心樂事 一五五
涉史偶筆 一九八
常侍言旨 一三〇・一四六・一六一
小兒語 二〇七
貞治三年春日御動座記 一六五
貞治三年舞御覽記 二四四
傷逝記 一五五
小星志 一六〇
謠政述 一六〇
椒生隨筆 二三三
情勢論 一八
小石山房叢書 一八
小石帆亭五言詩續鈔 一三三
小石帆亭著錄 二四六
小說舊聞記 一三七
松雪齋文集(外集共) 一三・九七
小說神髓 一八〇
小說中人物の模型 一六三
小說明妃傳殘卷 二四六
邵潛夫先生詩選 一三三・一五七
笑禪錄 目記
正倉院御開封記草書 九六
正倉院御寶物目錄 九六
正倉院寶物御開封事書 九六
蕉窓永言 七四
松窗快筆 一三八
上相君白川侯書 四三
松窓寤言 一五三
松窓雜記 一三〇・一四六
松窓雜錄 一四一・一三五・一三四
小倉山房外集 一四一
小倉山房詩集 一四一
小倉山房尺牘 一四一
小倉山房文集 一四一

小羊子が白日夢　一九八
常陽四戰記　八七
逍遙子と烏有先生と　一九七
逍遙子の朗讀記　八〇
襄陽守城錄　二三
逍遙選集　一九四
逍遙選集の刊行に就きて　一九八
逍遙著譯年表　一九七
將來の煖室爐　一八六
常樂記　五六・五七
條里圖帳考　一七七
商律　一八
焦里堂先生軼文　一二六
承曆元年法勝寺供養記　九〇
昭陵六駿贊辯　一三九
淨瑠璃譜　三三・三四
淨瑠璃本目錄　二一九
昌黎雜說　一四五・一六七
松嶺秀禪師行狀　八一
昌黎先生詩增注証訛　二四六
昌黎先生文集　一三四
青蓮院門跡系譜　七七
宵練匣　一五三
勝蓮社約　一五六
粧樓記　一三〇・一四九・一六一・一六七
粧樓摘豔　二五〇
上萬老女　四四
小盧石詩幷序　八六
松窩雜說　三四
笑話書目　七五
承和二年東寺領國判　八七
貞和四年記　九三
書苑菁華　九一
女誡　一三六
女誡國字解　一四九
書儈贅筆　一七一
書畫金湯　一九八
女學　一九七
初學課業次第　一八六
初學記　五六・六七
初學訓　一七七
書學筌　一七八
初學知要　一七三
書學答書　一六六
初學備忘　一三九
書畫史　三三・三四
書貫集覽　三四
書畫所見錄　一四五・一六七
書畫說鈴　八一
書簡故實　二四六
渚宮故事　一三四
書經蔡傳渾天儀圖攷　七七
女俠傳　一五三
書經稗疏　一五六
書經標註　一五六
書經補遺　二五〇
觸穢考　四四
觸穢問答　八六
職員令　九三
職官志　八七
續紀宣命問目　九一
職業調查の必要　一三六
職業調查類別法　一四九
續紀歷朝詔詞解　一七一
織錦璇璣圖　二・二一・二六
蜀錦譜　一五六
食經　二六一
職原鈔　五六・一〇一
蜀山集　二六
蜀山人全集　一七〇
蜀山百首　一〇一
蜀山文稿　一七〇
食色紳言　一七〇
職事補任　二〇六
蜀秀集　二一八・一五六・一六六
職事要　二
植杖閒譚　一五六・一六一
職事要愚抄　一六六
蜀石經毛詩攷異　八八
蜀牋譜　一四三
蜀中詩話　一〇〇
食珍錄　一三一・一五五
食堂　二〇五
蜀椿杌　一七六
蜀道征討比事　一三五
蜀都雜抄　一七六
蜀難敍略　一六六
續日本後記長歌訓點　一七六
植學啓原　二五四
職官志　九三
續紀宣命問目　九一
職業調查の必要　一三六
職業調查類別法　一四九
續紀歷朝詔詞解　一七一
織錦璇璣圖　二・二一・二六
蜀錦譜　一五六
食經　二六一
職原鈔　五六・一〇一
蜀山集　二六
蜀山人全集　一七〇
蜀山百首　一〇一
蜀山文稿　一七〇
食色紳言　一七〇
職事補任　二〇六
蜀秀集　二一八・一五六・一六六
職事要　二
植杖閒譚　一五六・一六一
職事要愚抄　一六六
蜀石經毛詩攷異　八八
蜀牋譜　一四三
蜀中詩話　一〇〇
食珍錄　一三一・一五五
食堂　二〇五
蜀椿杌　一七六
蜀道征討比事　一三五
蜀都雜抄　一七六
蜀難敍略　一六六
續日本後記長歌訓點　一七六
職人歌仙　六九
職人盡歌合　一七一
食譜　一七六
植物榮養論　二六九
植物學　一七七
植物學啓蒙　一四九
植物學新論　一五一・一五九
植物綱目　一五〇
植物生理學　四六・一五六
植物妖異考　一七三
蜀碧　一七三
植民政策　一七三
殖民政策汎論　一七三
職名錄　一六六
食物製方　一三九
食物服用之卷　四六・一五六
食物篇　二五六
食物論　八三
食料米及一人平均分配量　一三一・一四四
食禮問題　八三
女訓　一六三
諸君詩集　一五一・一五九
諸藝方代物附　一五六
勦經書舍零墨　一五〇
諸藝袖日記　一五三
諸家軍器拔萃　一八三
諸家參會記　一四七
諸家仕法　四四
諸家隱筆集　一二八・一五六・一六七
初月樓古文緒論　一六四
初月樓四種　二五四
初月樓詩鈔　二五四
初月樓聞見錄（續聞見錄共）　一四〇・一六三
初月樓文鈔　一四〇・一四八・一五九
初月樓文續鈔　二五四
諸家點圖　一四二
諸家文集　五六・六七
緒言　二九五
書言故事大全　一三三
女孝經　三〇
除紅譜　一四〇・一四八・一五九
徐公文集　一五一
徐孝穆集　一三六
女紅餘志　一三四
書後緣起　一七七
諸國御關所覺書　二〇四
諸國御關所規定　九五
諸國鍛冶系圖　九二
諸國鍛冶寄　二
書國巡禮記　一〇七
諸國旅雀　二
諸國統計官廳一瞥　二八四
諸國盆踊唱歌　二五九
諸國里人談　三四・七三
敍古千文　二八
書齋快事　二三三
書齋感興　一六〇
庶齋老學叢譚　一九八・二一九
書札作法抄　四八・五九

書札禮　四八・五九
書史　一五〇・一六四
書誌　二三六
助字雅　五五・七二
書誌學　二三六
諸子紀事鈔　二九五
諸寺奇物記　一五五
女子教訓書　一八八
諸寺供養部類　九〇
女子參政蜃中樓　一一九
諸司職掌　八二
書肆說鈴　一三二・一五四
諸史然疑　一六一・一六〇
所思斷片　二〇三
書字動作の實驗的研究　二三六
女子の衛生　一八五
書誌ノ書誌　八
徐氏筆精　二三三・二六七
諸子平議　二〇三
助辭本義一覽　一七四
諸社禁忌　七六
助辭譯通　二九三
書寫山行幸記　四六・五七
書寫山十地坊過去帳　九五
諸宗階級　九五
諸宗勅號記　九一
書集傳纂疏　七一
諸州めぐり　一七一
書蕉　一六六
女粧考　二一四
女丈夫　四八・五九
抒情錄　一四〇・一六四
諸職往來　二三六
諸寺略記　五五・七二
女性　二三六
處世小訓　二九五
徐整長曆　一五五
處世哲學　一八八
女性とヂャーナリズム　九〇
徐星伯說文段注札記　一一九
書籍裝釘の歷史と實際　八二
書說摘要　一三三・一五四
茹草紀事　一六一・一六〇
初祖道元禪師和尙行錄　二〇三
初代櫻田治助の傳　二三六
書大體　一八五
所帶票記入心得　八
諸大名衆御成被申入記　二三三・二六七
諸大名出仕記　二〇三
諸大名紋記　一七四
書斷　七六
徐迪功詩集　二九三
徐迪功外集　四六・五七
書傳輯錄纂註　九五
書傳正誤　九五
諸問屋再興調　九一
諸道勸文　七一
初等教育に於ける演劇　一七一
女德實鑑　一六六
徐都講詩　二一四
汝南先賢傳　一八四
初任大臣大饗雜例　一四四・一六四
處帶趣旨書　九五
諸藩藏版書目筆記　九〇
書評　二三七
書品　一三四・二九・一五〇・一六五
書品優劣　一四七
書譜　一一
書法　二四〇
書法正傳　一三四
書法約言　二
諸法要略抄　七四
書本草　一五一
庶民金融難と其の改善　八〇
助無智祕抄　一九六
書目集覽　九六
書目答問　二六九
書物往來　五五・六五
書物奉秋　八八
書物その起源と發達の物語　四四
書物展望　一四九
諸門跡譜　一五〇・一六四
除夜父師朋友の靈を祭る文　二四九
庶有編　七一
如蘭社話　一五三
諸陵雜事注文　六九
詩話傷永　五五・七七
詩話總龜（後集共）　一九六
史料　二六一
思陵書畫記　一三・一五〇
史料目錄　二
女論語　一四九
ジョン・ガブリエル・ボルクマン　九三
白絲割符由緒書　一八四
白老コタンのアイヌの生活　六九
白髮集　二一三
白河記行　八五四
白河殿七百首　一五〇・一五四・一七一
白川御堂供養記　一五〇・一五一・一五九・一六一
白川結城系圖　二九五
白河結城氏歷世事實　一三六
白河樂翁公傳　八九
志繩幾久　一六〇
新羅社服忌令　一〇九
刺絡　二〇三
シラノ・ド・ベルジュラック　二三六
シラノ・ド・ベルジュラック序　八
（ラノベルタカシヰタルラノヒトワシ）
シラノベルジュラック　八一・一六四
調高矣洋絃一曲　一八四
白峯寺緣起　二三六
知られざる國々　二
絲亂記　九四
尻口物語　二六
詩律兆　二九三
史略　一九七
使琉球紀　一七九
しりうごと　二一七
次柳氏舊聞　六八・九七
史料　二三五
思陵書畫記　二
史料目錄　一三・一五〇
死力・死亡係數及び中央死亡率に就て　二四五
志林　一四四
字林　一五〇
詞林韻釋　一三三
詞林舊稿　二九五
事類統編　二六
驗の杉　一六五
シルレルが醫たりし時の事を記す　一八一
四禮權疑　一三三
四禮疑　二〇七
士禮居黃氏叢書　一三七
士禮居藏書題跋記續　二・一六八
四禮翼　二〇七
白　一八五
しろあらし　二〇一
次郎百首　四八・六〇
四六餘語　一五〇
賜蘆書院藏書目錄　九
詩論　一四九
時論一束　一八七
時論及思索　一九九
史論及史傳　一九九
史論四派　一九七
志和軍戰記　九九
詩話傷永　一五〇
詩話總龜（後集共）　一三七
新安手簡　二九五
新安先集　二五〇

神異經　一三四・一三六・一四八・一六六
人員運動調心得書及雛形草案　二六九
壬寅新民叢報全編　二一一
新院姫宮御行始記　五六・六八
壬寅編　二四六
新浦島　一八四
神詠　一〇四
新英學論　一七〇
清英交際始末　二〇〇
身易　二九
眞惠上人御定　九一
新演劇の現在　一九六
宸垣議略　二六四
新燕石十種　六八・七二
園心叢刻　一四〇
深奥山方廣開基無文選禪師行業　八一
人海記　一四三
神階記　七六
心書軌範　一七〇
新樂劇論　一九四
神學承傳記　九三・一〇一
新學書目提要　九
人格の生活　一〇七
人格養成論　二一四
沈下賢文集　二一四・二三六
岑嘉州詩　一三四
新型超短波用受信機に就て　二〇九
尋花日記　一三九
進化の意義　二一四
進化の話　一三
新嘉坡風土記　一六八
愼夏漫筆　二三四
進化論　一〇八・二一一
申鑒　一三四・一三五
新刊王氏脈經　一三六
秦漢瓦當文字（續共）　二四八
神官敎職兼否論　一八八
人間詞話　二〇三
新刊節用集大全　三三
心關大禪師祖道履歷之記　八一
新刊圖書雜誌月報　二三六
新カント派社會主義　一〇九
臣軌　三三
神祇官行幸御列帳　一一六
神祇官再興論　一八八
神祇官年中行事　四七・五六
沈歸愚詩文全集　二五四
神祇訓　一七〇
新儀式　四七・五六
神祇拾遺　七六
人紀振肅論　一八九
神祇正宗　七六
振綺堂叢書　一四〇
神祇道服紀令祕抄　七六
清議報　二三七
新脚本「生田川」に就いて　一八一
新脚本と其前途　一九六
新舊過渡期の回想　一九七
新舊過渡期の文學　一九七
錢灸甲乙經　一三
新舊雜誌展覽目錄　一六八
清宮詞　二三四
神境記　一〇八・一一一
心敬紀行　一三四・一三五
信行綱領　一三六
心敬集　二四八
心敬僧都十躰和歌　一八八
心敬僧都庭訓　二一〇三
心敬僧都百首　三三
神敬要旨略解　二一四
人鏡論　八一
しんきよく　二三六
新曲浦島　一〇九
新曲赫映姫　三三
眞曲抄　一一六
仁義略說　一八八
神祇靈應記　四七・五六
沈寄廬詩文集　二五四
愼機論　一七〇
呻吟語　四七・五六
清吟堂集　一七六
新近問答　一九六
仁空置文　八三
神宮雜例集　一四〇
新宮撰歌合　七六
神宮祕傳問答　二三七
神宮文庫圖書分類目錄　八一
神宮文庫圖書目錄　一九六
新群書類從　一九六
人口問題と產兒調節及優生學　一〇九
新公論　四四
新古今集美濃の家つと　二三七
新古今和謌集竟宴倭歌　一七二・一七八
新國際良心　四八・六〇
清國商業地理　二一〇
新刻書目便覽　二一
新刻百錢譜　九
新國民演藝としての英米のペーヂエント　二一四
新御式目　一九六
神護寺舊記　八八
神護寺略緣起　九〇
人虎傳　四一
眞言血脈　一六三
眞言諸山符案　九一
眞言烈祖表白集　八〇
仁齋日札　三五
眞西遊記　一〇三
新策　二〇七
新作脚本と舊俳優　一九六
新札往來　八三
新猿樂記　四一・四八・五九
深山和尙行狀　八一
新三十六人撰　四八・六〇
新纂童蒙必用品數　三〇
愼子（補遺・逸文・校語共）　一三三
神璽三辨　一七六
晉史乘　一四七・一五一・一六三
心經　二〇三
信景翁撰書目錄　四四
新經濟學　一一六
新刑法草案　二八六
信玄家法　五三・六五
人賢記　八八
人權新說　二一七・二二
人權新說駁論集　二一七
進賢說　一三九
眞軒先生舊藏書目錄　九
眞源大照禪師龍山和尙行狀　八一
新語　二二四・二三三
人口救窮及保險　二一三
新興國文藝思潮　一〇八
眞香雜記　三三三
眞誥新釋　一〇六
新校正珍貨圖鑑凡例　一〇一
信仰叢書　九三
神巷談苑　一〇四・二五・二八・二三四
晉公談錄　一六四
人口統計及社會問題　二六八
人口統計材料統計小票取扱手續竝同記入心得　二六九
人口統計大意　二六九
人口統計ノ方法及技術　二六九
人口動態統計調查手續　二六九
人口動態統計略說竝死因統計略說　二七九
人口動態ニ關スル統計材料　二七二
人口問題　一〇九
新書　一二四・一三三
新抄格勒符抄　九六
眞娘墓詩　一六一
新城錄　一四七
眞如室詩　一七一
進書趣意書幷目錄　一七一
神女傳　二六・二六一・二七
秦女賣枕記　二七九
晉書補傳贊　二六〇
進書目錄　一七一
新詩料　一八〇
晉司隸校尉傳玄集　一四〇
愼思錄　一四〇
辛壬癸甲錄　二三四
新眞公法論竝附錄　一二九
壬申政表　一二七
清人說薈　三〇
清人答問覺書　五六・六七
壬辰日記　一四五
壬辰封事　一四四
人心論　一四四
人瑞錄　一三九
人性　一三四
新齊諧　一四一
人生觀の檢討　一七〇
人生四季　一七五
眞政大意　一七三
眞正哲學無神論　一七二・一七七
人生と道樂　一七七・一七八
人生の瑣事　一七四
人性の自然と吾邦の前途　一八九
身生餘譚　一八六
人性論　七〇
深雪偶談　一四〇
神仙　二一四
新錢塘波釣叟奇門定局　一四一
新撰應用重學　三三・一五四
新撰解析幾何學　一五五
新撰幾何學　四九・六一
津川紀聞　七〇
新撰座主傳　一八九
新撰三角法　二三四
新撰算術　一七〇
新撰字鏡　一四〇
新撰事蹟通考　一二九
新撰姓氏錄　一四八
新撰臆斷　二一〇
新倩籍　一四〇
震川先生集（別集共）　一九六
新著聞集　二一七
新知錄　一三二・一五四
新撰代數學　一三六
新撰長祿寬正記　九二
新撰筑波祈念百韵　一七〇・七二
新撰苑玖波集　二二四
神仙傳　九三
神僊傳　三七
新撰動物學　一九
心田詩藁　八三
新田十憶圖詠　二六〇
神代正語　一七七・一七八
神代直語　一七四
神代の治療法　一八九
神代卷口訣　七〇
津逮祕書　一四〇
心太平庵隨筆稿　二一四
神代餘波　三三一
震澤紀聞　一五四
震澤長語　三三・一五五
信達勝跡一斑　四一
新玉津嶋社歌合　四九・六一
心地觀經報恩品　七〇
人畜栽判　一八九
新竹州立新竹圖書館分類目錄　九
新秩序の創造　一八六
晉中興書　一四七
秦中歲時記　一四八
新撰姓氏錄　二一九
清朝國號考　二一〇
信徵錄　一五八
新著聞集　二一七
新知錄　九二
心底抄　二三四
進呈之案　二三四
ぢんてき問答　九三
新添江戸之圖　三七
塵添壒嚢鈔　一九
新撰勅物學　八三
心田詩藁　二六〇
新田十憶圖詠　六二
神予禪師行實　八〇
神予禪師年譜　八〇
人事訴訟手續法案　二六六
新時代　二三七
新時代叢書　一〇七
新時代に對する藝術の職能　一九六
新時代不同歌合　四九・六一
進士題名碑錄　二五九
任氏傳　一六三・二七七
神社私考　一七六
神社便覽　九三
心中　一八三
信州滋野氏三家系圖　七九
神習舍玉篇目錄　九
新修廣經　五三・六四
新十二月往來　四八・五九
新修本草（補訓共）　一三三
心中萬年艸合評　一八一
心中操の相知湯　四三
心珠詠藻　八五
人種改良學　二一四
仁壽鏡　九二
新塾月誌　一九・二三九
壬戌紀行　一七三
壬戌羇旅漫錄　二二六
神儒佛三道者の責任　一九〇
人種篇　二一三
人種問題　一〇七
心書　一四三
晉書　二六五
新序　八〇
新書　八〇
新抄格勒符抄　二六六
眞娘墓詩　二三七
新城錄　一〇七
眞如室詩　一九六
新撰六帖題和歌　一三二・一四四・五八
新撰朗詠集　一三二
新撰六旬集　一九三
新撰和歌　一六六
腎臟炎ニ因ル死亡統計　一一一
人像畫法　一一〇
秦箏相承血脈　一一〇
心宗禪師行狀　二二四
申宗傳　九四
神僧傳　一一〇
深窓秘抄　一一〇
心相百二十善　五六・六七
新增補浮世繪類考　一〇二
新增幼學故事瓊林　五五・六六
眞俗交談記　八五
眞率筆記　一三三・一五五
新尊皇攘夷論　一三六
人俗　一一〇
神代紀譬喩山蔭　一九・二三九
神代敎義解　五三・六四
新待賢門院七七忌御願文　八五
新體詩抄　九六
新體詞選　一二三・一二九・一四七・一六六
新體詩談　一一三
晉泰始笛律匡謬　一一〇
新體支那歷史を讀む　二六三
新撰百科全書　二五
新撰萬葉集　一〇七
新撰要記鈔　五一・六三
新撰類聚往來　八三
新撰朗詠集　八三・九三
新撰六旬集　五一・六四
新撰六帖題和歌　九五
新撰和歌　四八・六〇
震澤長語　二七九
信達勝跡一斑　二七九
新玉津嶋社歌合　二八
心地觀經報恩品　八二
人畜栽判　二六〇
新竹州立新竹圖書館分類目錄　二三九・五二
新秩序の創造　四七・五九
晉中興書　一三五
秦中歲時記　二七
新撰姓氏錄　一四〇
清朝國號考　三〇
信徵錄　一四五
新著聞集　一九〇
新知錄　一三二・一五四
心底抄　五三・六四
進呈之案　二六〇
ぢんてき問答　五六・六七
塵添壒嚢鈔　二八
新添江戸之圖　一二三
塵添壒嚢鈔　一八〇
新撰勅物學　一三三
心田詩藁　一四三
新撰年表　二六五
眞善美日本人　二六〇

新天地　三三七
神典讀法の秘訣　一八九
神典問答　一八八
新獨逸の行くべき道　二一〇
臣道　一〇六・一七七・一九八
神道　一〇八
神道を論ずる書牘　一八八
神道擴張論　一八八
神道肝要集　七三
人唐記　八八
神道國教論竝序　一八八
神道者の妄見を破す　一八八
新唐書糾繆　一四三
神道生死之說　九三
神道葬祭濟口證文寫　四三
神道叢說　六八
神道大意　七〇
神道大意註　七〇
神道統一合同檄文を讀む　一八八
神道答義　一八八
神道獨語　三四・七〇
神道之歌　二九八
神道の由來を說明して新神道者に忠告す　一八八
神道の要義を明かす書牘　一八八
神道碑銘　二〇四
神道辨　一七四
神道辨草　九四
神道本義　一八八
神道本義辯　一八八
神道本體論　一八八
神道問答　七〇
新板大坂之圖　一八八
新板ちよんかれほこりたゝき　四三
新婦譜補　三六
人譜補圖　一五九
新舞踊劇の試演に就いて　一九四
新聞及新聞記者　二四二
新聞界人物評傳　二一〇
新聞學　二四一
新聞學概論　二四一
新聞學全書　二四一
新聞記者及び歷史家としての蘇峰先生　二一〇
新聞記者としての司馬遷　五四・六六・八九
新聞記者と新聞　八三
新聞經營論　二四一
新聞經歷談　二九五
新聞研究室研究報告　二四一
新聞研究所報　三九
新聞雜誌　二四一
新聞雜誌の作り方と讀み方　一七四
新聞雜誌貼込帖　二三六・二四〇
新聞雜誌評判誌　一八・二四一
新聞雜誌賣買典籍展覽會　一一九・二四三
新聞實錄　一六
新聞用語集　五
新聞明鑑記　二九五
新聞研究　一四〇
新聞講話　一四〇
新聞紙實歷　一四〇
新聞紙上の露西亞　二四三
新聞紙と文章道　二四一
新聞紙ニ關スル制度ノ比較研究　二一〇
新聞紙になるまで　二四一
新聞紙の小說　一九八
新聞紙の內外　二四一
新聞紙販賣の科學的研究　二四一
新聞時務一家言　二一〇
新聞重要記事日錄　二四一
新聞小說鑑裁の標準　一九八
新文章論　二四一
新聞事略　二四三
新聞製作展覽會の記錄　二四一
新聞全集　二四一
新聞總覽　二四一
新聞そのをりをり　一九七
新文壇の二大問題　一九三
人文地理學講義　二一〇
新聞通信に就て　二四一
新聞展望臺　二四一
新聞と社會　二一〇
新聞について　二一〇
「新聞に就て」に就いて　一一〇・三九
新聞日誌　二四一
新聞になるまで　二四一
新聞年鑑　二四一
新聞遍路　二四一
新聞名鑑　一一九
新聞歷史　一〇〇
新平民回天談　二六三
新編金瓶要略方論　一三六
新編金瓶梅　三七・四〇
新編金瓶梅五集篠默桂三評　四〇
新編金瓶梅第六輯默老評　四〇
新婚神通辯　一九〇
新編追加　八八
新編錄鬼簿　一六九・二〇三
新豐酒法　三〇
神鳳鈔　四五・五七
進步乎退步乎　九三
新民衆藝術の發祥地としての大阪　一九六
新民衆劇を起さんとする理由　一九六
新民叢報　三二七
新民約論　二一三
神明鏡　九一
人名考　三五・一〇三・一三〇
新名所繪歌合　四九・六二
新名數　三〇
神名帳　五六
神名帳考證　一七六
神名帳考證土代附考　一七六
神馬引付　四五・五七
新文字ゑつくし　三八
晉問　一四四
津門雜記　一六三・二六五
津門詩鈔　三五〇
津門詩鈔　二四六
新譯源氏物語序　一八〇
新譯大方廣佛華嚴經音義　一三三
新役龍の庖丁　二一九
幸野棄聞　一三二・一五四
幸野茗談　七五・二一八
新野問答　一七〇
辛酉記行　八八
淨陽記　一六九・二〇三
晉陽秋　三五
新編追加　四九・六二
新名數　三〇
神名帳　五六
神名帳考證　一七六
神名帳考證土代附考　一七六
神馬引付　四五・五七
新文字ゑつくし　三八
晉問　一四四
津門雜記　一六三・二六五
津門詩鈔　三五〇
津門徵獻詩　二四六
新譯源氏物語序　一八〇
新譯大方廣佛華嚴經音義　一三三
新役龍の庖丁　二一九
幸野棄聞　一三二・一五四
幸野茗談　七五・二一八
人類の大權　一七〇
眞靈位業圖　八六
心靈生活　一四八
眞曆考　一四七
眞曆不審考辨　九六
眞臘風土記　三四
爐錄　三三
清六大家絕句鈔　二一四
新露西亞及其合衆國との關係　八〇
新廬面命　一一八
新論　一〇八・一一〇
秦淮感舊集　一〇〇
秦淮劇品　一一八
秦淮士女表　一四一
秦淮春泛圖詠　一四一
新和歌集　一五九
新早稻田叢書　二六六
人類の大權　一七〇
眞靈位業圖　八六
心靈生活　一四八
眞曆考　一四七
眞曆不審考辨　九六
眞臘風土記　三四
爐錄　三三
清六大家絕句鈔　二一四
新露西亞及其合衆國との關係　八〇
新廬面命　一一八
新論　一〇八・一一〇
秦淮感舊集　一〇〇
秦淮劇品　一一八
秦淮士女表　一四一
秦淮春泛圖詠　一四一
新和歌集　一五九
新早稻田叢書　二六六
隨園續同人集　一四二
隨園八十壽言　一四二
醉翁瘋語　一四五
瑞應圖記　三三
水害を弔ず　八九
垂加文集　九五
瑞岩禪師行道記　三四
醉鄉日月　一三〇・五〇・六一
醉鄉律令　一五六
萃錦唫　二四六
水經　一三四・一五二
隋經籍志考證　九
水經注　一三三・一六五
瑞桂堂暇錄　一四四
水月令　一六〇
水言鈔　一四〇
隨見隨抄　一四一
吹劍錄　八三
吹劍錄外集　一四四
水衡記　一四四
水黃記抄　八三
綴寤紀略　一四四
隨幸私記　一四四
水坑石記　一四四
水滸傳　二九七
瑞阜堂方集　一四三
水滸後傳　二五七・二九五
水滸後傳序評　四〇
水滸後傳批評半閑窓談　四〇
醉古堂劍掃　二九五
隨園續同人集　一四二
隨園八十壽言　一四二
醉翁瘋語　一四五
瑞應圖記　三三
水害を弔ず　八九
垂加文集　九五
瑞岩禪師行道記　三四
醉鄉日月　一三〇・五〇・六一
醉鄉律令　一五六
萃錦唫　二四六
水經　一三四・一五二
隋經籍志考證　九
水經注　一三三・一六五
瑞桂堂暇錄　一四四
水月令　一六〇
水言鈔　一四〇
隨見隨抄　一四一
吹劍錄　八三
吹劍錄外集　一四四
水衡記　一四四
水黃記抄　八三
綴寤紀略　一四四
隨幸私記　一四四
水坑石記　一四四
水滸傳　二九七
瑞阜堂方集　一四三
水滸後傳　二五七・二九五
水滸後傳序評　四〇
水滸後傳批評半閑窓談　四〇
醉古堂劍掃　二九五
水產學　二一〇
隨志　二一七
隨時少年訓　一九五
垂示の病人に示す　八九
隨手雜錄　一四六・一六四
隨書　二六五
遂昌雜錄　一四六・一五九
隋書經籍志　一三
遂初堂集　一五六
遂初堂書目　九・一四三
水心先生文集　一三五
水心題跋　一四一
吹塵錄　一八七
吹塵餘錄　一八七
水拙手簡　八三
推薦圖書目錄　九
水曹清暇錄　二六二
醉叟傳　一五七
膝臟內分泌ト迷走神經　二〇七
水族加恩簿　一三一・一四九
水鳥記　四一
粹町甲閨　一七三
水運　一六一
推易始末　八九
隨園三十種　一四
隨園食單　一三七
隨園女弟子詩選　一三九
隨園詩話　一六
隨園詩話補遺　一四
隨園隨筆　一六

水南翰記　一三二・一五四・三二・二六三
隨筆　四四
醉筆堂三十六善　一六〇
隨筆文學選集　三一四・三二五
水品　一五六
水府公獻策　四四
水府雜錄　四三
隨兵日記　五四・六五
隨兵之次第事　五四・六五
推蓬窘語　一三三・一五五
膵ほるもん注射ニヨル血液ノ物理的性質及ビ血液像　二〇七
膵ほるもん注射ニヨル血液ノ影響　二〇八
膵ホルモンノ吸收ニ就テ　二〇七
炊米試驗成績　一八五
吹網錄　一六三・二三三
睡餘小錄　二一五・二一六・二一四
醉綠圖　一五一
垂綸子　一七五
隨葦集　一五四
隨葦續集　一五四
趨異・遺傳及進化　一一三
數學　一二一
數學啓蒙　一九二
崇雅堂駢體文鈔　一五二
數術記遺　一三三・一四〇
數種の有機溶劑二成分系の比熱　二〇八
芻蕘奧論　二一三
數錢葉譜　一五六
素誦世々之蹟　二一九
漩根惡太郎　一四六
椙原品　一四六
杉村兄弟文庫目錄　三八
杉谷代水　二一七
スクリーン・グリット眞空管に依る增幅に就て　二〇八
スタイン氏發見の敦煌畫に就て　二一一
スタイン氏發見の敦煌畫ニ就テ　二〇八
スタイン氏講義筆記　一九七
須多因氏講義筆記　二一七
須賀侯日記　一〇〇
相撲立詩歌　八四
相撲傳書　三三・三四
相撲之圖式　三八
角力め組高人足一條　二一九
駿河臺志　三三
駿河國風土記　五六・六七
諏方正一位大明神略社記　四一
諏訪大明神繪詞　七六
寸錦雜綴　二一四・二五・二六
寸光集　一〇一
駿臺雜話　二一五・二八・三三
駿臺雜話選釋　三三
駿臺雜話拔萃　三三
寸鐵集　一九三

セ

性愛　一二六
井蛙抄　八五
井哇漫錄　三一四
聖安紀事　二〇六
西崦先生餘稿　一七六
靜庵謄稿　一六三
旌異記　一五二・一六七
西域記　三九・一三四
西域物語　一九九
省閑日紀　三一
誠意伯劉文成公文集　一三五
鈴迺屋翁略年譜　一三五
鈴屋消息　一〇〇
すゞみ草　七五
相撲傳書　三三・三四
相撲之圖式　三八
角力め組高人足一條　二一九
駿河臺志　三三
駿河國風土記　五六・六七
諏方正一位大明神略社記　四一
諏訪大明神繪詞　七六
寸錦雜綴　二一四・二五・二六
寸光集　一〇一
駿臺雜話　二一五・二八・三三
駿臺雜話選釋　三三
駿臺雜話拔萃　三三
寸鐵集　一九三
杉先生略傳　一五六
漩根惡太郎　一四六
椙原品　一四六
杉村兄弟文庫目錄　三八
杉谷代水　二一七
スクリーン・グリット眞空管に依る增幅に就て　二〇八
管笠日記　七四
資賢卿集　一四三
祐清私記　一三五
助鄕免除歎願書　八八
資定卿改元定記　一三
資賞長兼兩卿百番詩合　二六八
輔親卿集　七四
輔仁本草　三五・六五
助六は下劣か　一四一
蘇格蘭地誌　八一
洲崎吉祥寺辨財天緣起　一四一
斯氏教育論　一四一
朱雀院女郎花合　三三
朱雀しのぶずり　九四
朱雀遠目鏡　五〇・六三
豆州熱海繪圖　四六・五八・七九
崇神帝以前無年貢考　一九八
鈴木傳考異　七四
鈴木藤吉郎　一九六
鈴木藤吉郎　九四
鈴木藤吉郎の產地　一六三
鈴木藤吉郎の墓　二一三
鈴迺屋翁略年譜　二一三
鈴屋集　一五九

青鳥先生葬經　一四〇
栖雲閣詩（谷遺共）　二四六
清悅物語　一〇〇
西園詩麈　一五六
西園叢子　三二四
青淵百話　一九四
西垣類藁　三三
西王母傳　二二九・二三一　九九・二二三
晴翁漫筆　四一
清晉寺略緣起　二三六
姓解　一四〇
清戒　八一
性悔和尙行實　四七・五九
清獅眼抄　七〇
聖誡三章　一九五
政界叢話　二一七
齊諧俗談　二五六
精楷同館詩律　二〇三・二〇四・二六七
西河合集　一三八
西河記　一三八
西河舊事　二四六
星學　一一〇
西學啓蒙十六種　一四三
西客堅協鹿日本紀事第四篇抄譯　三五
正學指掌　一〇一
聖學隨筆　二一五
政學提綱　二六七
西樂と幸田氏と性格と性根　一七九・一八一
聖學範圍圖說　二一七・一三五
正學編　二四六
聖學問答　一〇〇
星學略記　一五六
西學略述　二一四
制科雜錄　三三
聲畫集　一三九・二三一
清河書畫勒　九九・二二三
青化水素の研究　一四一
青化水素の蒸氣壓　一二六
青化水素の蒸氣及液體密度に就て　一六〇
惺窩先生行狀　八一
惺窩先生文集　四七・五九
惺窩先生倭訓集　七〇
西華仙錄　一九五
生活　二一七
生活と處世　二五六
生活と書籍　二〇三・二〇四・六七
生活費省減問題　一三八
靜嘉堂祕籍志　一三八
靜嘉堂文庫漢籍分類目錄　一一〇
靜嘉堂文庫國書分類目錄　一四三
靜嘉堂文庫宋本書影　三五
政家年鑑　一〇一
盛夏の候夏山水の御製を拜誦して　二一五
清河祕錄書書表　二六七
西河文選　一七九
性格と性根　一八一

セイ

聖君初政記　一八四
星經　一二四・一二九・一三一
政經　一一〇
清溪和尙行實　一五六
清溪暇筆　一三二・一三五
清溪稿　三九
青溪寇軌　一四六・一五九
西溪叢語　一二五・一三一・一四一・四五・一三三
盛京通志　一五五
生計費問題　一〇〇
清言　一三三・一五三
靖獻遺言　一一〇
西軒客談　一四五
正言覺非　一一五
聖賢群輔錄　一一七
精楷同館詩律　一八六
西軒詩艸　一七一
聖賢證語國字解　四四
西玄青鳥記　一七四
靜軒痴談　一三五・一一八
西原約言　一三三
政語　一〇一
贅語　一三三
齊行記　一三九
西阜雜記　一三五
精工舍創業貳拾週年紀念　八五
靖康傳信錄　七三
西樂と幸田氏と性格と性根　一七九・一八一
聖君初政記　一三三
聖經　一四〇・一五九・一五一
聖學問答　一四八・二〇三
星學略記　八一
西學略述　一三二・一五五
聲畫集　一四六・一五九
清河書畫勒　一四五・一三三
青化水素の研究　二五九
青化水素の蒸氣壓　二五〇
青化水素の蒸氣及液體密度に就て　二五八・一五六
惺窩先生行狀　一四五
惺窩先生文集　九七
惺窩先生倭訓集　一四七
聖賢群輔錄　一四六
聖賢證語國字解　七〇
西玄青鳥記　一五七
靜軒痴談　二一七・二三四
西原約言　一三三
政語　一七五
贅語　一三三
齊行記　一三九
西阜雜記　一三五
精工舍創業貳拾週年紀念　八五
靖康傳信錄　七三
清江貝先生文集（詩集・詩餘共）　一三四
靜香樓醫案　一三三
西湖四十字詩集　二九五
西吳枝乘　一五五
星湖僿說　一九
星湖僿說類選　一九・九八
勢語七考　一〇四
舜湖詩話　二六二
西湖蘇文忠公祠從祀議　一六二
西湖竹枝詞　一五八
勢語通　三五
西湖游記　一五八
西湖六橋桃評　一五八
西湖老人繁勝錄　一三五
西崑酬倡集　一三三・一三五
清齋位置　九六
清齋雜記　一三五
靜齋詩稿　一三七
靜齋詩話　一〇五
誠齋集　一九三
誠齋雜記　一三五
誠齋詩話　一四・一四五
誠齋書籍考　九・一七三
正齋書籍考　七三
誠齋隨筆　一〇〇
靜齋詩話　一四五
西齋話記　一四五
正朝考　一二七・一四三
制作論　一八八
青瑣高議　一四四
青瑣詩話　一四九
西山遺事　二八三
栖傘雨談序　四〇
西山公隨筆　二一七
西山先生眞文忠公文集　一三五

西山題跋　一四一
西山日記　一三五
西山年譜　二〇三
西山文集　二〇三
西山夜話　八一
成山錄　二三四
政治及び政黨論集　一八七
政治學　一三一
政治學概論　一〇九
政治學史　一二一
政治家研究　一〇九
政治家と新聞　二一〇
西使記　一四七・一五六
政治紀行　一八七
靜志居詩話　二五一
政治經濟年鑑　三三
政事刑事の本義　一九二
政治史　一二〇
政治思想史　一〇九
政治地理學　二一〇
生日會約　一五六
政治的發展の一世紀　一二三
政治哲學　一〇九
政治統計學講義　二六九
政治讀本　一八七
政治とヂャーナリズム　二四〇
生死の事を辯ずる書牘　一八九
政治汎論　一〇七・一一〇
盛事美談　一四五
政治文獻年表　二一七

政治・法律辭典　一〇九
征清詩史　一三二・一五五
勢州合譜　八七
清眞詩話　一三五
勢州軍記　二〇三
聖ニコラスの夜　八四
西州後賢志　二二九・二四七
西清筆記　一五五・一六五
勢州四家記　二三四
精神病者調査票記入參考　一五六
靜修先生文集　一八七
精神病者の書窟　一九三
聖ジュリアン　三〇
青年に訴ふ　一八六
齊春秋　一八四
青年日本基督者の自覺　一四七
省心錄　二一七
青年文學　一四六
醒睡笑　一四〇
青年雄辯　八八・一〇三
西征記　二三五
青年小說評判　一二六
西征紀略　一二五
性の決定　一二六
清少納言集　一二七
生の神祕　一二五
清少納言傳　五一・六三
清白士集校補　二六三
青坡劇談　二一一
青年と教育　一二七
清波雜志　一四四・一六四
征番功次　一五四
西征日記　二〇八
聖藩抵觸　一〇〇
醒世諭言　一四四
西番譯語　一六六
清石問答　一四九
清祕藏　三八
清拙大鑑禪師塔銘　一四四
政表學論　二一八・二三一
精選黃眉故事　一九二
製表心得　二六九
精選名儒草堂詩餘　一五三
清風瑣言　二一七
精選陸放翁詩集　九一
請諷誦文　二〇三
聖武記　二五九
聖像　一四三
制府雜錄　二五七
西藏記　二六七
聖像考　一二七
聖宋高僧詩選　二三七
聖武親征錄　一六九・二〇三
青箱雜記　二〇五
西浮籍　一〇五
生物學　一五五
生物學的人性觀　一〇八・一一二
靜觀辭　八一
征南射法　一三二・一五五
聖ニコラスの夜　一四〇
西清筆記　八四
青年　一二九・一四七
青年小說評判　一五五・一六五
青年と教育　一八七
青年に訴ふ　一九三
青年日本基督者の自覺　一八六
青年文學　一八〇
青年雄辯　一四六
性の決定　一三二
生の神祕　一二六
清白士集校補　一二五
清坡劇談　二六三
清波雜志　二六二
征番功次　一四四・一六四
聖藩抵觸　一五四
西征日記　一〇〇
醒世諭言　一四四
西番譯語　一六六
清祕藏　三八
清拙大鑑禪師塔銘　一四四
精選黃眉故事　一九二
清風瑣言　二一七
精選名儒草堂詩餘　一五三
精選陸放翁詩集　九一
聖像　二五九
西藏記　二六七
聖像考　一二七
聖宋高僧詩選　二三七
聖武親征錄　一六九・二〇三
青箱雜記　二〇五
西浮籍　一〇五
生物學　一五五
生物學的人性觀　一〇八・一一二
正續大宗禪師行狀　八一
清尊錄　一二八・一三一・一四五
生體論　一一五
世澤堂遺稿　一二五
政談　一六九
清譚と逸話　一八七
精註雅俗故事讀本　三〇
西曙常言　一六四
西朝寶訓　一四六
性的知識　一四六
靜惕堂宋元集書目　一三三・一四八・一五四
西哲夢物語　一五七
青田山廬詩鈔　一一七
青田山廬詞鈔　二六二
政黨關係に就て　八一
青藤山人路史　一八九
征東實紀　一二四
政黨社會學　一二四
西堂全集　一二五
西堂日記　二六七
政黨評判記　二六七
正唐文粹　三〇
齊東埜語　一三七
聖堂略志　一三一・一四二・一四四
西濤老人常言　四四
政德篇　一四三
成都古今記　一六七
西都雜記　三三
制度通　一四八
西南學院創立十五周年紀念　二六六

生物學的戰爭觀　二一五
生物の世界　二一三
生物の哲學　二一五
政府に望む　一九〇
聲文私言　二三四
清芬堂集（續集共）　二四六
清芬樓遺藁　二五三
性法講義　一八
稅法整理論　二六九
西峰淡語　一五五
西方要紀　二三九
性法略　一二七
西北紀行　一二七
正卜考　一七一
西北水利議　一七五
聖玫瑰花冠記錄　三五
齊民要術　二八
稅務統計　二二九・二三三・二四〇・二四九・二六九
稅務統計臺帳樣式　二三五
正名考　二六九
西銘參考　一七九
生命の道德　三五
生命の輝路　一八六
生命保險論　二一六
性名錄抄　二一八
生命論　九三
聖門事業圖　一〇九
聖門釋非錄　一四三・一六四
靑楚謏聞　二〇四
淸夜錄　九八
西遊詩稿　一三一
西遊譚抜萃　二一三
西遊日記附錄抄　一一五
西遊日簿　一九〇
西遊錄注　二三四
西游錄略　二三四
西游錄略注補　二三五
聖諭樂本解　一一八
西洋衣食住　二一九
西洋印刷文化史　一五五
西洋音樂概說　二三九
西洋音樂史　二一七
西洋開拓新說　一九四
西洋學家譯述目錄　一七一
西洋學校軌範　一一〇
西洋各國度量衡表　一一八
西洋家作纖形　二三
西洋畫贊譯文稿　二四一
西洋畫談　二三六
西洋歌舞伎種本　一一五
西洋紀聞　三五
西洋脚本の幕切　二一九
西洋古代哲學史　二一六
西洋古代哲學史　二一六
西洋雜誌　九三
西洋事情　一〇八
西洋事情御答　一四三・一六四
西洋芝居の番附　二〇四
西洋將棊指南　九八
西洋書誌學要略　二三一・二四五
西遊詩稿　二一五
西遊譚抜萃　四三
西遊日記附錄抄　二一三
西遊日簿　一七三
西遊錄注　三七
西游錄略　二三七・二六八
西游錄略注補　三七
聖諭樂本解　二三四
西洋衣食住　二〇〇
西洋印刷文化史　二
西洋音樂概說　一四八
西洋音樂史　一九八
西洋開拓新說　二一一
西洋學家譯述目錄　二一三
西洋學校軌範　六九
西洋各國度量衡表　二三五
西洋家作纖形　二三
西洋畫贊譯文稿　二三五
西洋畫談　三五
西洋歌舞伎種本　一一九
西洋紀聞　二一六
西洋脚本の幕切　一九九
西洋古代哲學史　一九九
西洋古代哲學史　一九九
西洋雜誌　二六九
西洋事情　一九九
西洋事情御答　一七一
西洋芝居の番附　一八〇
西洋將棊指南　一八〇
西洋書誌學要略　二一〇
清和源氏諸家分流　二九五
世界一の贅澤新聞　四四
世界印刷通史　二一〇
世界貝塚發見史としての大森貝塚　二一〇
世界改造叢書　一〇七
世界教育史要　二三
世界國盡　二〇〇・二〇五
世界經濟發展の現況　二七六
世界綱目　九八
世界產業制度論　二一
世界山水圖說　一九四
世界寫眞圖說　二〇八・二一〇
世界宗教史　一一〇
世界宗教制度論　一一〇
世界出版美術史　二
世界新聞鳥瞰論　二四一
世界新聞早わかり　二四一
世界政治へまで　一一五
世界大戰の獨逸教育に及ぼしたる影響　一九
世界大戰批判　一〇七
世界的米合衆國　二一
世界當代地理　二一四
世界七不思議　一九九
世界に類例のないわが芝居繪の價値　一九九
世界年鑑　一七一
世界の改造と日本の將來　二一五
世界の奇觀　二一九
世界の宗教　一一三
世界之日本　三三七
世界の文化發展に對する獨逸民の貢獻　二一三
世界の變遷と勞働　二一五
世界美術史　二一
世界文學史　二一
世界文明史　二一〇
世界文明史及近世美學　一九九
世界文明史物語序　一九七
世界文明の統一　二一六
世界娛節用　一八五
世界料理通　二八五
世界倫理學史　九
世界名著解題　一八一
世界名著文庫序　一三〇・一四七・一六三
摭異記　八七
關岡家始末　一六一・一六七
石屋禪師塔銘　八一
赤雅　一〇三
夕佳園遺稿　二六三
關原役　一七三
關原正謁　一三三
石渠隨筆　一三三
石經閣金石跋文　一三三
石經考　七一・二〇六
石經考異　二六〇
赤溪雜志　二五九
石桂堂の逸事　一八〇
石溪舫詩話　二六〇
摭言　一三〇・一四五・一六一

石交　二六〇
晰獄龜鑑　一四四・一六七
石湖居士詩集　一三四
積古齋藏器目　一六八
尺五先生全集　九五
析骨分經　一五六
石齋先生年譜　八三
惜字雜鈔　四〇
石筍山房集　二五四
斥邪漫筆　一九九
斥邪二筆　一九九
斥邪三筆　一九五
赤十字條約竝に其略評　一三三
石洲詩話　一三一・一四四・一六六
席上腐譚　二一六・二一七
積翠閑話　一〇五
赤水雜錄　一三一・一四三・一六七
摭青雜說　一七九
積善組合巡回文庫圖書總目錄　九
責善集（別集共）　二〇五
石泉書屋館課詩　二〇五
石泉書屋詩鈔　二〇五
石泉書屋制藝　二〇五
石泉書屋制藝補鈔　二〇五
石泉書屋尺牘　二〇四
石泉書屋全集　一九九
石泉書屋藏器目　二〇五
石泉書屋律賦　二〇五
石泉書屋類稿　二〇四
石倉十二代詩選　一六五
尺素往來　四八・五九
碩鼠漫筆　二三四
石柱記箋釋　二三三
赤鳥記　二三〇
浙程備覽　二三四
關寺緣起　九〇
釋貧供物圖　六八・九七
釋貧考　一五九
釋尊次第　四七・五八
釋尊永日緒論內篇　二〇五
釋尊永日緒論外篇　二〇五
夕堂戲墨　二〇五
石頭山人遺稿　二六三
尺牘彙材　二九五
石楠堂隨筆　一七三
責任內閣　一二六
關の秋風　四三・一〇三・一九五・二一八
關の驛　一七七・一八
夕拜備急至要抄　四七・五九
石帆詩鈔　二四六
石譜　一五九
惜抱軒九經說　二〇五・二六一
惜抱軒詩集　二〇五・二六一
惜抱軒詩後集　二〇五・二六一
惜抱軒外集　二〇五・二六一
惜抱軒全集　二〇五・二六一
惜抱軒筆記　二〇五・二六一
惜抱軒文集　二〇五・二六一
惜抱軒文後集　二〇五・二六一
惜抱軒法帖題跋　二〇五・二六一
石墨鐫華　四八・五九
積米法　二三四
石門題跋　二三三
石門文字禪　二三〇
碩由大禪師行實之狀　二三〇
青鷹似鳩拙抄　九〇
世鏡抄　六八・九七
赤傑傑　一五九
石蘭堂詩稿　四七・五八
石林燕語　二〇五
石林家訓　二〇五
石林詩話　二〇五
夕郎五代拜賀次第　二六三
世間と人間　二九五
世諺問答　一五三
世事百談　一五七
世說舊注　二六三
世說新語　一六〇
世說新語補　四七・五九
世相錄　二四六
世俗諺文　一四二・二六七
世俗淺深祕抄　一五七
世俗立要集　一五七
世尊寺侍從行季二十ケ條追加　一三五・一五七・二六七
世田谷私記　二一三
瀨田問答　一五七
雪庵字要　三三・三四・一七三・二一八
絕域紀略　二四一
說夢　二五六
說文　一〇〇
說文引經攷　三九
雪青洞詩鈔　二九五
攝生要錄　一四九
浙西六家詩鈔　二五〇
雪泉詩存　二〇四
雪村大和尙行道記　二四六
雪中人　八一
攝津大坂名所記　二五七
攝津親秀讓狀　四一
攝津守有綱家歌合　五四・六〇
攝津寶勝寺緣起　四一
攝津名所圖會大成　九九
說篆　二六三
雪堂校刊羣書敍錄　二六六
雪濤詩評　二
雪濤小說　一五九
雪濤譚叢　一五七
拙堂文話評　一三三
雪堂墨品　一〇〇
絕倒錄　一六〇
說郛　一四四
說郛雜著　一四二・二六七
說郛正續抄　一六八
說郛續　一五七
說郛裏　一三・一五・二六七
接物論　一一三
說郛裏　一五七
薛文清公從政錄　一六六
雪庵字要　一六六
絕妙好詞箋（續鈔共）　二五六
說夢　一四〇
說文　三九
說文引經攷　一三三
攝生要錄　一四九
浙西六家詩鈔　二五〇
雪泉詩存　二〇四
雪村大和尙行道記　八一
雪中人　二五七
攝津大坂名所記　四一
攝津親秀讓狀　二五七
攝津守有綱家歌合　五四・六〇
攝津寶勝寺緣起　四一
攝津名所圖會大成　九九
說篆　二六三
雪堂校刊羣書敍錄　二
雪濤詩評　一五六
雪濤小說　一五七
雪濤譚叢　一三三
拙堂文話評　一〇〇
雪堂墨品　一六〇
絕倒錄　一四四
說郛　一四二・二六七
說郛雜著　一六八
說郛正續抄　一五七
說郛續　一三・一五・二六七
接物論　一一三
說郛裏　一五七
薛文清公從政錄　一六六
絕妙好詞箋（續鈔共）　一四〇
說夢　三九
說文　一三三
拙翁語　二九〇
絕海錄　二三三
折客辨學文　二〇四
舌華錄　一二六・二三
攝關補任次第　四六・五六
說經かるかや　三八
說經さんせう太夫　二四六
絕句類選　一七九
雪月花自歌合　一六五
拙軒集　九九
雪鴻詞　二六六
浙江通志　二
浙江通志考異殘稿　二〇三
浙江通省志圖說　二五四
拙效傳　一五七
節齋遺稿　二五三・二九五
節齋先生行狀　二八三
節齋先生年譜　二八三
說詩晬語　二五四
攝州大坂大繪圖　九九
攝州大阪地圖　九九
攝州河邊郡紫雲山中山寺來由記　九〇
拙修齋叢書　七四
雪舟誹語　一四五
攝州築島寺略緣起　四一
攝政家月十首哥合　四九・六一
折薔薇　一八四
拙政園詩詞　一六三
說苑　一二四・一三三
拙翁語　一六〇
絕海錄　二三三
折客辨學文　二〇四
舌華錄　一二六・二三
攝關補任次第　四六・五六
說經かるかや　三八
說經さんせう太夫　二四六
絕句類選　一七九
雪月花自歌合　一六五
拙軒集　九九
雪鴻詞　二六六
浙江通志　二
浙江通志考異殘稿　二〇三
浙江通省志圖說　二五四
拙效傳　一五七
節齋遺稿　二五三・二九五
節齋先生行狀　二八三
節齋先生年譜　二八三
說詩晬語　二五四
攝州大坂大繪圖　九九
攝州大阪地圖　九九
攝州河邊郡紫雲山中山寺來由記　九〇
拙修齋叢書　七四
雪舟誹語　一四五
攝州築島寺略緣起　四一
攝政家月十首哥合　四九・六一
折薔薇　一八四
拙政園詩詞　一六三

說解字　一三三
說文解字索隱　一六八
說文解字通正　九
說文諧聲孳生述　一七三
說文管見　二一六
說文繫傳　一三五
說文繫傳通釋　一六八
說文檢字（補遺共）　一三三
說文廣義　二〇五
說文述誼　一三一・一三二
說文審音　一三五
說文新附字考攷正合編　七三
說文攝系　九〇
說文段注札記　一三三
說文段注鈔（補鈔共）　一二四
說文答問疏證　一三三
說文辨疑　一三五
說文補例　一六八
攝陽落穗集　一六八
攝陽奇觀　一七三
節用集　九九
節用集大全　三三
說略　三三
說鈴　一三五
薛靈芸傳　一三六・一四〇・一五七・一六一・二六一
雪浪齋日記　一三五
世本　一四三
瀨見小河　一三六
日耳曼研究　一六五
善惡根柢一覽　一三三
船菴集　一〇三・一二四・一三五・一六八・二一四
撰評合　一六八
撰評合（き?海?經　一三六
山海經圖贊　一三六
山海經補注　一三六
全堺詳志　一三五
千學集抄　一三三
錢貨譚叢　二〇五
前漢紀　一三六
前漢書　一六九
前漢書藝文志　一〇〇
前期青本書目　一三三
全燬書目　一二四
前期文藝協會　一三三
善講集　一三六
千九百十七年前半期に於ける露國企業の狀況　一六八
千九百年何牙利國人口調査　九九
職業別人口に就て　三三
潛盧　三三
船渠開發の議　一三五
選擧法講話　一三五
潛居錄　一三六
前徵錄　一三五
千金月令　一四三
千金譜錄要　一三六・一三八
前九鬼長門守守隆働拔書　一七六
先君子歌集　一三三
潛溪詩眼　一九五
全國民事慣例類集　二八六
戰後の經營果して如何　一九〇
戰後の經濟問題　一〇七
戰後の列强　一〇七・八七
千五百番歌合　九五
千歲一遇の機　一九五
千載佳句　九九
全齋墨叢　一〇一
船山遺書　二〇五
前參議敎長卿集　六九・九七
船山詩草　二四六・二四九
船山詩草選　一三七
泉志　一四一・一五一
戰時衞生勤務令中改正意見　一八五
一斑　一八五
戰時及び時疫流行時の養衆法　一八六
戰時及戰後に於ける列國の人口問題　二八八
戰時及戰後の經濟　一二四
泉志校誤　一三五
泉志校誤　一三〇・一四六・一四四
錢氏私誌　一三九
然脂集例　一三九
錢子測語　二六四
宣室志　一三三
賤者考　一四五・一六一・一六四
前徵遺事　一七六・一八七
前十五番歌合　四七
善秀才宅詩合　四七・五九
前住相摸州亘福山建長興國禪師勅謚佛國應供廣濟國師行錄　八〇
撰集作者異同考　八五
撰集抄　九三
千首和歌　八三
千首和歌太神宮法樂　四八・六〇
戰捷紀念郵券を拜觀して有感　二八九
前相國無求伸禪師行實　八一
戰勝新年の所感　一八九
翦勝野聞　一〇四
洗硯新錄　二〇五
潛研堂文集　一〇一
錢考功集　一三五
善光寺　二六五
善光寺緣起　一三三
善光寺紀行　七三
善光寺御傳記　九
先公徐印香先生先妣陸太淑人傳志　一九七
先公談錄　二三五
千紅萬紫　三三
先考三浦虎角居士行狀　二七九
千石以上家督順ノ記　一四三
全國工場統計表　一九九
戰國策　一〇九
戰國策校注　一四五
全國社債券明細表　一四五
全國新聞紙雜誌總目錄　一三三
全國新聞名鑑　一四八
全國徵兵論　一四八
全國鐵道營業統計表　九九
全國土地人口及生產比較統計　一〇三
全浙詩話刊誤　一四三
全浙兵制　九八
師行錄　八〇
撰集作者異同考　八五
撰集抄　九三
千首和歌　八三
千首和歌太神宮法樂　四八・六〇
戰捷紀念郵券を拜觀して有感　二八九
前相國無求伸禪師行實　八一
戰勝新年の所感　一八九
翦勝野聞　一〇四
洗硯新錄　二〇五
潛研堂文集　一〇一
錢考功集　一三五
善光寺　二六五
善光寺緣起　一三三
善光寺紀行　七三
善光寺御傳記　九
先公徐印香先生先妣陸太淑人傳志　一九七
先公談錄　二三五
千紅萬紫　三三
先考三浦虎角居士行狀　二七九
千石以上家督順ノ記　一四三
全國工場統計表　一九九
戰國策　一〇九
戰國策校注　一四五
全國社債券明細表　一四五
全國新聞紙雜誌總目錄　一三三
全國新聞名鑑　一四八
全國徵兵論　一四八
全國鐵道營業統計表　九九
全國土地人口及生產比較統計　一〇三
全浙詩話刊誤　一四三
全浙兵制　九八

戰僧　一八四
淺草寺緣起　九〇
戰爭と經濟關係　一一五
戰爭とその記錄者　二一〇
船窓夜話　一三一・一四四
踐祚部類鈔　四五・五七
仙臺間語　二一六
先代舊事本紀　二六五
仙臺市統計一斑　二七三
前大納言公任卿集　五〇・六二
前大納言實國卿集　五〇・六二
前大納言爲廣卿集　八五
前大納言親長卿百首　八四
先代破裂集　九二
仙臺百首　七四
仙臺本城銃器佛郎機考　一七五
梅檀瑞像考　一〇五
煎茶七類　一五六
煎茶水記　一三〇・一五〇・一五九・一六一
箋註陶淵明集　一三四
選注六朝唐賦　二五六
前定錄　一三〇・一四九・一六二
前定錄補　一三二・一五四
先哲著作目錄　九
先哲年表　一〇一
仙傳抄　五三・六四
前天龍心關大禪師祖道履歷之記　八一
仙道會津元和八年老人覺書　九五
錢塘遺事　一四六
善だう記　七二
仙道記　八七
仙洞御儀法講記　九〇
仙洞五十首　八四
仙洞五十番哥合　四九・五六・六七
仙洞御文書目錄　九九・五六・六七
錢塘瑣記　一三・一四八
仙洞十人歌合　四九・六〇
全唐詩錄　二四九
全唐詩話　一四一・一六四
先德略名口決　九一
宣和遺事　二七
宣和畫譜　二四一
宣和書譜　二四一
宣和石譜　一五〇
宣和牌譜　一五六
宣和奉使高麗圖經　九七
宣和北苑貢茶錄　一三一・一五〇
錢南園先生遺集　二五四
泉南雜志　二六・一五五・一六六
前南禪一庵麟禪師行狀　八一
前南禪瑞岩禪師行道記　八一
仙人龍王威勢諍　三六
千利休傳　四一
專賣局年報　二七六
船舶論　一一〇
千八百十二年拿崙第一世露國侵入時の軍隊病類　一八五
扇馬譯說　一七五
千百年眼　四九・六〇・六一
全閩詩話　七二
錢譜　八七
先府君學山先生行狀　九〇
淺浮抄　八四
賤譜銘　四九・五六
膳夫錄　九九・五六・六七
潛夫論　一三・一四八
甎文考略　四九・六〇
蟬晃翼抄　二四九
仙北郡町村豫算展覽會出陳參考圖表　一四一・一六四
錢牧齋先生箋註杜工部集　九
錢牧齋先生年譜　二一
禪本草　二一
扇面古寫經　一五〇
禪門本草補　一五六
先友記　九七
善誘文　一三一・一五〇
泉涌寺諷誦類　二五四
泉涌寺不可棄法師傳撰要目錄卷　八一
纖餘綺語　八一
仙吏傳　三六
千里面譚　四一
川柳稿本　二七六
善隣國寶記　二一〇
善隣國寶別記　二一〇
禪林小歌選例　一六五
然藜餘筆　一四五
宣爐歌註　一三九
錢錄　一七三
戰論　一七五
戰論譯本の來歷　一八五

ソ

徂異記　一二三
草菴集玉箒　一七六
造伊勢二所太神宮寶基本記　四四七・五九
僧院　二七三
宗因東の記行　二五四
相雨書　二五四
早雲寺殿廿一箇條　一三一・一四九
宗惠大照禪師行狀　三九
僧圓位書牘　一五六
藏園九種曲　一四六
蒼海遺稿　一四六
雙槐歲抄　一四九・一六四・二六四
藏海詩話　九一
壯悔堂集　八〇
造家衛生の要旨　八六
想華及感激　一六六
桑家漢語抄　一二六・一六二・一六七
相鶴經　一五六
船舶論　四四
相學齋雜鈔　九一
曹學士帖體詩　九三
宋學士文集　八六
增賀上人行業記　八六
草花譜　一五七
造家法　一三九
宋雅道すがら之記　一一三
戰論　一一三
窓間記聞　九五
增刊校正王狀元集註分類東坡先生詩　一四四
造岩鑛物の干涉圖に依りて岩石薄片の厚さを測定すること　一四四
贈官宣下記　一九一
僧官補任　五五・六八
曹議金疏　四六・五八
宋季三朝政要　一六三
宋祇終焉記　一六三
宋祇補下　五六・六八
倉頡篇　八五
倉頡篇殘簡考釋　二四四
宗祇傳　一二七
宗祇法師集　四三
宗祇法師長うた　五二・六二
相牛經　九二
雙橋小築詞存（集餘共）　二五六
宗鏡禪師傳　八一
操曲入門口傳之卷　八一
藏玉和歌集　二一九
喪儀略　五二・六三
搜奇錄　一〇五
雙虞壺齋藏器目　二一四
曹溪院行狀記　一六九
雙溪雜記　一九四
雙溪集　一三三
雜言奉和　一四六
喪祭雜記　二〇六
葬祭辨論　一七九
草山和歌集　三三
宋史　一四三
宋詩　一四〇
草字彙　五六・六八
莊子因　二〇三
莊子解　二〇五
相議人物志　二〇五
相兒經　二二五
宋史藝文志　二二
宋史藝文志補　一三八・一三九
莊子闕誤　二四六
莊子鬳齋口義　四二
曹子建集　七二
莊子故　一三七
總持第二世巽山和尙行狀　一六三
宋史忠義傳王禀補傳　三
莊子通　一三四
喪志編　一五七
曾子問講錄　四六・五八
雙雀亭自著叢刻　一三三
宋拾遺錄　五四・六五
增修改正播州大阪地圖　七
增梧雜志　一四四
操觚十六觀　一五九
蒼梧隨筆　一〇三・二六・二八
相互扶助論　一八六
草根集　六九・九七
增修鹽註妙選羣英草堂詩餘　一三五
總州相馬系圖　二〇六
相州兵亂記　一〇一
滄洲樓家集　九六
相手版經　二六五
雙樹落葉　二九三
宋書　二九一
藏書　二九一
相承次第　一〇〇・七六・一〇五
草書淵海　一〇〇
藏書紀事　一五二
藏書紀事詩序　一三
藏書記要　一三
藏書紀要鈔　一三五
叢書擧要　二九一
叢書擧要校誤記　一三四
相如集　一三八
叢書書目彙編　八一
藏書票の話　一三七
搜神記　二三四・二六・二九・一四一・一五二・一六六
搜神後記　一二九・一四一・一五二・一六七
宋人陳和卿濫妨停止下文　一九六
搜神祕覽　一四七
葬圖　九九
宗清法印勸進文　二六〇
宗清法印立願文　一五四
漱石閒談　一四六・一六七
藏說小萃　一三七
爭船詞　一三七
增訂心相百二十善　一三九
銀雨亭隨筆　二三四
增訂武江年表　六九
造殿儀式　四五・五七
相傳極祕切紙　四四
送電綱の双曲線函數理論　二〇八・二〇九
葬度　一五六
走湯山緣起　四五・五七
草堂詩箋　一三七
草堂詩餘　一三五
雙藤書屋詩集　二四六
象の貢獻　二一五
相貝經　一五一
糟粕手鏡　一〇五
相馬書　一五一
宋祕書省續編到四庫闕書目　一〇・一三四
增評唐宋八家文讀本　二九五
操風瑣錄　一二七
雜物出入帳　九六
雜物出入繼文　九六
造物餘譚　一七五
相武名勝獨案內　二八五
想夫戀　一二九
曾文正公榮哀錄　二六一
曾文正公家訓　二六一
曾文正公家書　二六一
曾文正公雜纂　二〇五・二三五・二六一
曾文正公詩集　一三四・二〇五・二六一
曾文正公書札　二〇五・二六一

增修鹽註妙選羣英草堂詩餘　一三五
總州相馬系圖　二〇六
相州兵亂記　一〇一
滄洲樓家集　九六
相手版經　二六五
雙樹落葉　二九三
宋書　二九一
藏書　二九一
相承次第　一〇〇・七六・一〇五
草書淵海　一〇〇
藏書紀事　一五二
藏書紀事詩序　一三
藏書記要　一三
藏書紀要鈔　一三五
叢書擧要　二九一
叢書擧要校誤記　一三四
相如集　一三八
叢書書目彙編　八一
藏書票の話　一三七
搜神記　二三四・二六・二九・一四一・一五二・一六六
搜神後記　一二九・一四一・一五二・一六七
宋人陳和卿濫妨停止下文　一九六
搜神祕覽　一四七
葬圖　九九
宗清法印勸進文　二六〇
宗清法印立願文　一五四
漱石閒談　一四六・一六七
藏說小萃　一三七
爭船詞　一三七
增訂心相百二十善　一三九
銀雨亭隨筆　二三四
增訂武江年表　六九
造殿儀式　四五・五七
相傳極祕切紙　四四
送電綱の双曲線函數理論　二〇八・二〇九
葬度　一五六
走湯山緣起　四五・五七
草堂詩箋　一三七
草堂詩餘　一三五
雙藤書屋詩集　二四六
象の貢獻　二一五
相貝經　一五一
糟粕手鏡　一〇五
相馬書　一五一
宋祕書省續編到四庫闕書目　一〇・一三四
增評唐宋八家文讀本　二九五
操風瑣錄　一二七
雜物出入帳　九六
雜物出入繼文　九六
造物餘譚　一七五
相武名勝獨案內　二八五
想夫戀　一二九
曾文正公榮哀錄　二六一
曾文正公家訓　二六一
曾文正公家書　二六一
曾文正公雜纂　二〇五・二三五・二六一
曾文正公詩集　一三四・二〇五・二六一
曾文正公書札　二〇五・二六一

曾文正公全集　二〇五・二〇六・二〇七
曾文正公奏稿　二〇五・二〇六
曾文正公大事記　二〇六
曾文正公年譜　二〇六・二〇七
曾文正公批牘　二〇五・二〇六
曾文正公文集　一三四・二〇五・二〇六
曾文定公文抄　七二
造幣局長年報書　二七六
造幣寮首長年報　一二八
增補青本年表　七三
增補伊呂波韻集成　二〇九
草茅危言　二九三
增補浮世繪類考　七五
造邦賢勳錄　三四
雙峯國師年譜略　二七
僧房夢　八一
增補大坂圖　八四
增補男重寶記　九九
增補華夷通商考　三四
竈北瑣語　二五
增補雜廿一史約編　一八
增補事類統編　二六
編補齊省堂儒林外史　二六
增補續青本年表　七三
增補蘇批孟子　二九一
增補田園類說　九四
增補稗史外題鑑默老批評　四〇
增補文獻備考　九九
增補松の落葉　七三
增補幼學故事纂芳　三〇
喪禮私說　一六七
喪禮詳考　一六〇
宋本古文孝經　一六
相馬系圖　一六
相馬日記抄　一〇四
相馬則胤覺書　一六
相馬義胤分限帳　八九
相馬略譜　一六
蔵密齋集　二五四
僧妙達蘇生注記　九六
蔵名山房雜著　一九八
蔵名山房文　二九五
蔵名臣言行錄　二八三
草木子　三四
相閒序　三七
遭厄日本紀事　一四三
桑楡漫志　八一
桑楊庵一夕話　八四
總葉概錄　九九
壻葉抄房薬鈔　三四
僧用集　九一
宋李忠定公奏議選　二八七
宋遼金元四史朔閏攷　一五八
莊陵誌　二六
造林學　二五七
棗林雜俎　七三
雙林寺傳記　九四
雙林二世中興開山一州和尚　八一
行實記　二〇四
喪禮吾說篇　九九
喪禮雜說　二五九
增補松の落葉　七三
疏儀莊記　一五三
續青本年表　七一
續飛鳥川　一四一・一四九
續夷堅志　二〇五・二〇六
續印人傳　一三四・二〇五・二〇六
續浦嶋子傳記　七二
續燕石十種　二一三
續豔品　二一四
測海集　二〇八
續學古編　二一七
俗樂問答　一四九
續歌仙落書　二〇一・二〇五
續觀骰說　二六三
續畫品　二五四
續畫品錄　一三〇・一四一・一五〇・一五九・二六一
續歌舞伎年代記　一二九
續歌林良材集　七九
續川くるみ狀　三五
續翰林志　一八三
續疑年錄　一三三・一三九
續狂雲詩集　七九
卽興詩人　一二九
卽興詩人時代と現時の飜譯　八八
卽興詩人不翻語一覽　八八
續金石稱例　九六・二九六
續群書一覽　七九
續群書類從　一〇
續群書類從目錄　一〇
續詩傳鳥名卷　九三
楚漢諸侯疆域志　一三三
續元怪錄　一六七
續玄怪錄　一〇五
俗言集　七三
續現葉和歌集　一〇〇
粟香五筆　四八・八〇
續高士傳　二六二
續皇年代略記　一六五
續後漢儒林傳補逸　三四
續古今和歌集竟宴倭歌　九六
續國家道德論　四八・八〇
續古經題跋　一〇〇
俗語考　五
續古事談　一七四
俗呼小錄　一五五
續後通俗三國志後編　一六五
俗語問屋場始末　二六五
續古文苑　二九
續古文辭類纂　二五六
續昆陽漫錄　二五一
俗祭說略　一〇二・二一七
續西遊記國字評　一九二
續婆羅館清言　四〇
續三王外記　一六五
續三十五舉　三四
續詞花和歌集　一三三・二五六
卽事考　四八・八四
俗耳鼓吹　九六
續自識錄　三三・三四・七三・二一八
續資治通鑑　一〇〇
續北山酒經　二五
續本事詩　一九四
續南方隨筆　四三
俗夢鷺談　一〇三
續名賢小紀　四八・八九
續明道雜志　一四九・二六四
續圖雨談草稿　九一
續門葉和歌集　一七六
續幽怪錄　九三・九六
續幽明錄　二六三
續葉子譜　一三一
俗諺選集　九九
續吉原書籍目錄　九六
ソクラテスの死　一七五
測量日誌　九四
續呂氏家塾讀詩記　二六三
續和漢名數　三四
素絹記　二一三
十河系圖　九七
詖香詞　四二
十河物語　一六三・一三三
楚國先賢傳　一五八
祖國民衆主義と基督教　七
無底囊（ソコナシ）　一六
蘇齋唐碑選　二九六
蘆細略記　二〇五
楚辭　二〇五
蘇氏易傳　二六
楚辭音　一三七

續市統計所小觀　二七〇
測字祕訣　二六三
測字祕牒　二六三
俗事百工起源　三〇・二一九
續巳編　一三二・一四三
續釋常譚　一二六
續收原本玉篇　九六
續修東大寺正倉院文書　二〇一・二〇五
續春秋左氏傳博義　二〇七
續小兒語　一五九
續證人社約誡　一四七
續松漢記開　一四七
促織志　一七一
續諸州めぐり　一四〇
俗書證誤　一四〇
續書品　一四〇
續書譜　一五〇・一六四
續志林　一三二・一五三
續詩話　一四一
足薪翁記　一〇三・二一七
續新齊諧　一四一
續神仙傳　一四七
續神皇正統記　四五・五七
息心筆記　二三四
續晉陽秋　一四七
淚水家儀　一四九
淚水紀聞　一四六・一六五
續聚詩集　八三
卽成院緣起　九〇
續齊諧記　一二四・一二九・一五二・一六三
續清言　一二八・一五六
續世界山水圖說　一四四
續世事談　四三
續撰清正記　四八・五九
續千字文　一四九・一六四
續前定錄　九一
續善隣國寶記　九一
續善隣國寶外記　一七六
續草菴集玉箒　九三・九六
續々群書類從　二六三
續續皇朝史略　二五
續竹譜　一五七
續地租增否論　九九
續道聽塗說　九六
俗牘　一七五
續南行雜錄　九四
續日本外史　二六三
續日本史　三四
續日本隨筆索引　二一三
續燃藜室記述　九七
俗の歲時記　一六三・一三三
續博物志　一六五
續百川學海　一六八
續日吉山王利生記　七六
續開見近錄　一四六
續文章軌範百家批評註釋　二九六
俗砭　一六〇
續方言　二六〇
續方言又補　二六
續靈客揮犀　一三五・一三三
續市統計所小觀　二七〇
測字祕訣　二六三
測字祕牒　二六三
俗事百工起源　三〇・二一九
續巳編　一三二・一四三
續釋常譚　一二六
續收原本玉篇　九六
續修東大寺正倉院文書　二〇一・二〇五
續春秋左氏傳博義　二〇七
續小兒語　一五九
續證人社約誡　一四七
續松漢記開　一四七
促織志　一七一
續諸州めぐり　一四〇
俗書證誤　一四〇
續書品　一四〇
續書譜　一五〇・一六四
續志林　一三二・一五三
續詩話　一四一
足薪翁記　一〇三・二一七
續新齊諧　一四一
續神仙傳　一四七
續神皇正統記　四五・五七
息心筆記　二三四
續晉陽秋　一四七
淚水家儀　一四九
淚水紀聞　一四六・一六五
續聚詩集　八三
卽成院緣起　九〇
續齊諧記　一二四・一二九・一五二・一六三
蘇氏家語　一五〇
蘇詩查注補正　一四九
楚辭集註　二六三
蘇氏族譜　三
楚辭通釋　一七
楚史檮杌　一三五
楚辭辯證　一四六
楚辭芳草譜　四〇
蘇詩補注　四八・六〇
素書　一三〇・一五二・一六七
楚小志　二九・一五三
素性法師集　一七七
蔬食譜　一三〇
素女經　七三
そしり草　八四
蘇生の日序　一〇四
租稅論　一六五
楚騷品　一七〇
そぐろ物語　九一
曾々路物語　九三
蘇談　一三三・一五四
率章錄　五三・六五
卒堵婆小町合評より　一四七
蘇那易叱知來朝考　一九〇
ソネットの黑婦人に就いて　二三四
曾禰好忠集　一三三
其粉色陶器交易　一〇五
其意は違へり　一九
其梅　一〇〇
襲國僞僭考　一〇六
蘇氏家語　一五〇
蘇詩查注補正　一四九
楚辭集註　二六三
蘇氏族譜　三
楚辭通釋　一七
楚史檮杌　一三五
楚辭辯證　一四六
楚辭芳草譜　四〇
蘇詩補注　四八・六〇
素書　一三〇・一五二・一六七
楚小志　二九・一五三
素性法師集　一七七
蔬食譜　一三〇
素女經　七三
そしり草　八四
蘇生の日序　一〇四
租稅論　一六五
楚騷品　一七〇
そぐろ物語　九一
曾々路物語　九三
蘇談　一三三・一五四
率章錄　五三・六五
卒堵婆小町合評より　一四七
蘇那易叱知來朝考　一九〇
ソネットの黑婦人に就いて　二三四
曾禰好忠集　一三三
其粉色陶器交易　一〇五
其意は違へり　一九
其梅　一〇〇
襲國僞僭考　一〇六
園の池水　二八
園部狀　八七
其昔談　七五
蘇批孟子　二九一
ソヴェート聯邦の國內狀態　二三五
ソヴェート聯邦の國內問題　二三五
ソヴェート聯邦の單一農業稅・所得稅及社會保險　二三五
ソヴェート聯邦の民族共和國及自治州　二三五
ソヴェート聯邦の利權政策　二三五
ソヴェート聯邦民の租稅負擔に關する研究　二三五
ソヴェート聯邦利權政策の積極化　二三五
ソビエート・ロシア新聞論　二四一
ソヴェート・ロシヤに於ける經濟政策の變遷　二三五
ソヴェート・ロシヤに於ける產業組合　二三五
ソヴェート・ロシヤの鑛業　二三五
ソヴェート・ロシヤの勞働賃銀制度　二三五
祖父物語　八七
蘇文公文抄　七三
素文女子遺藁　一四三
蘇文忠公文抄　七三
蘇文定公文抄　七三
蘇米齋蘭亭攷　二三
蘇平仲文集　二三七

蘇峰兄と小生　二一〇
蘇峰先生古稀祝賀知友新稿　二一〇九
蘇峰先生の誠實　二一〇
蘇峰先生の存在　二一〇
蘇峰叢書　一九九
鼠璞　一四三
鼠璞十種　七〇・九六
そめちがへ　一八二
疏瀹提要　一七二
祖雄禪師之行實　八一
そよふく風　一二〇・二九・一四三
徂徠學　二三六
徂徠先生答問書　一〇一
徂徠先生南留別志　一〇二・二五・二七・二四
空おぼへ　七三
反町大膳訴狀　八七
夫從以來記　三六
ソ聯邦一九二六年の國勢調査に就いて　二三五
蘇聯邦とアメリカとの經濟關係　二三五
ソ聯邦の都市公益事業利權計畫　二三五
蘇聯邦民間飛行と其の計畫　二三五
村庵小稿　八三
尊意贈僧正傳　八〇
孫宇古集　二五四
孫淵如詩文集　一三六
孫淵如先生全集　二五四
存悔齋集（外集共）　二五四
存覺上人一期記　九四
尊經閣募捐藏書章程　一六九
巽軒叢書　一〇七
存研樓文集　二五二
巽軒論文　二一
孫公談圃　一四三・一五六
遜國記　一五三
尊語集抄　九四
孫吳副詮　二九六
存齋遺集　一七二
存採叢書　九六・九七
存採叢書總目　七二・二六三
孫子　二九八
孫子合契　二五五
遜志齋集　二五五
孫子算經　二五五
孫氏爾雅正義拾遺　二三三
孫氏周易集解　二三三
孫子集註　二三五
孫子書畫鈔　二三五
孫氏瑞應圖　二九〇
遜志堂雜鈔　一四二
孫勝寺供養記　二五四・六六
孫樵集　一三五
尊勝寺略緣起　四一
存心　一〇五
村撫記　二一九
存素堂集　二五四
尊祖餘功　九四
尊玉論　一六九
尊卑分脈脫漏　一〇七
尊經閣叢書　二五二
孫武兵法擇副言　二一
遜謨兒四星編　一四三・一五六
存餘堂詩話　一五三

タ

Ternary system (CaO-Al_2O_3-SiO_2)の水化作用に就て　二〇八
大安寺緣起　五五・六六
大安寺緣起流記資財帳　五五・六六
大安寺伽藍緣起流記資財帳　九六
大安寺碑文　二五五
退庵隨筆　二五五
第一樓叢書　二五三
第一回國勢調査關係書類　二三三
第一回國勢調査宣傳官報廣告集　二三五
第一期國會始末　二七〇
太乙經　一三三
太乙照神經　五五・六六
對雨編　一三五
大雲院開山貞安上人傳　四一
大雲山房雜記　一〇五
大雲山房十二章圖說　一七二・一七八
大雲山房文稾（言事共）　五五・六七
大雲山房文鈔　二三二
大雲寺緣起　九〇
大雲寺諸堂記　一六九
大英國民　一一三
大永五年石清水八幡遷宮日時定　一〇七
大永三年室町殿護摩記　一七五
大英商業史　八九
大永二年殿上淵醉記　二六九
大永二年八月四日御會和歌　八二
代奕雜抄　八四
大役小志　二三四
體液無機硫酸ノ微量比色定量法　一九四
大圓禪師傳　二一〇七
大翁手記　八〇
滯歐通信　二三四
戴恩記　二一〇
大槐祕抄　九二・九六
帶格　二一七
大鶴庵塊翁撰月次　一五一
大學衍義　四二
大學學生生活の方法　二〇三
大學古本　一九〇
大獄志　一四二
大學士高中玄公伏戎紀事　二三八・一四八
退學詩齋詩集　二六七
大覺寺門跡次第　二四六
大覺寺門跡略記　七七
大學小解　七七
大學證文　七〇
大學新聞街　一六八・二〇四
大學石經　二四一
大覺禪師鏡像紀實　一四三・一六四
大學知本圖說　八三
大學標註　二一〇四
泰嶽府君記　一七六
大學問　一七
大學或問　二〇四
大がらん寶物鏡　一〇一
大觀　三七
大韓疆域考　九八
退閑雜記　九六
大間書　二三五・二三四
大鑑禪師塔銘　四七・五九
大觀茶錄　八一
大機弘宗禪師行狀　一五〇
代議政體　八一
大逆無道論　二一七
退享園詩鈔　一八九
大饗御裝束問事　二四六
大業楔記　五五・六七
大饗雜具目錄　二二九・三三
大饗雜事　九三
大饗次第　五五・六七
大業拾遺記　一三五
大業拾遺錄　一四七
大饗札之考證　一〇五
大饗略次第　一七七・七八
大極圖說遺議　五五・六七

退去日錄　八七
大疑錄　一七〇
第九日曜講壇　一九三
退溪集　九八
帶經堂　二五四
帶經堂詩話　二五二
大家笛血脉　八六
泰軒易傳　三三
大元官制雜記　二七
太玄經（說玄・釋文共）　二四四
大現國師行狀　八二
大元甚國工物記　二七
太元聞祕　一三六
大元倉庫記　二七
大元馬政記　二七
待賢門院堀川集　五二・六三
太湖　二三六
大廣益會玉篇　一三六
太吳古曆傳　一〇六
大興心宗禪師行狀　八三
大弘禪師道行記　八三
太皇太后宮亮平經盛朝臣家歌合　四九・六〇
太皇太后宮大進清輔朝臣家歌合　四九・六〇
太康地記　一四八
太公兵法逸文　二六
退耕錄　三六
第五回內國勸業博覽會出陳敎育統計表圖　二七五
醍醐雜抄　一七〇
太古靈馬記　一九三
太古史　九八
醍醐寺緣起　五四・六六
醍醐寺座主讓補次第　二五二
醍醐寺雜事記　八六
醍醐寺初度具書　三三
醍醐寺要書　二七
醍醐枝葉抄　二四
醍醐隨筆　八二
太湖石志　二七
太湖泉志　一三六
大氣堂詩錄　二七
醍醐報恩院血脉　二七
醍醐無量壽院法流相承　二七
退齋雅閑錄　二三六
退齋筆錄　一三六
太山記勝　一〇六
太神宮諸雜事記　八三
太神宮ぶつきりやう　八三
太神宮法樂伊與千句　八三
大震災より得たる敎訓　四七・五八
苔岑集（二一集共）　四七・五八
大身小身　二八
對淸對韓論策　二六七
大臣大饗記　二〇三
大盡舞考證（追加・考餘附）　二三
退途齋詩鈔（續集共）　九七
代醉編　二六
大豆由來說略　八三
大正五年の我か劇壇　一九六
大小宗通釋　二〇四
大小二乘の比較論　二〇〇
大正二年末人口靜態調査結果速報　二七九
大正二年末人口靜態調査ノ結果ニ據ル帝國人口概說　二七九
大乘入道四行觀講義　一八九
大乘佛數の使命　二一三
對牀夜話　一六一
大上臈御名之事　五四・六五
大纖冠　七三
大纖冠傳　四六・五六
退私錄　一七〇・二三五
退私錄附言　九一
代始和抄　一四三
太神宮御相傳袈裟記　五五・六七
太神宮參詣記　五四・六六
太神宮諸雜事記　四五・五七・七五
太神宮ぶつきりやう　四五・五七
大震災より得たる敎訓　四五・五七
苔岑集（二一集共）　四五・五七
大身小身　二八七
對淸對韓論策　二〇三
大臣大饗記　三三
大盡舞考證（追加・考餘附）　九七
退途齋詩鈔（續集共）　一五四・六七
代醉編　一九二
大豆由來說略　一三
泰四高等學校和漢叢書細目　一二八・一五四・六七
大師御行狀集記　八〇
太子祭典展覽目錄　一一二
太師誡意伯劉文成公集　五四・六六
大思想エンサイクロペヂア　七七
第七日曜講壇　五五・六六・九三
第十回國際醫學會軍陣衛生部　九〇
對支投資の根本精神　九三
大治二年曼陀羅供次第　一〇三
大邪政事梳　一五一
合宗綱要　一五五
第十五回共產黨大會に就て　一二五
第十三回萬國統計協會會議報告　九一
大受堂札記　一四三
大乘院日記目錄　一四五
大乘院門跡次第　一〇〇
大佛會延引勘例　一四五・一四六
大佛會小忌抄　八五
大佛會御禊事　一九六
大佛會御禊節下次第　一二九
大佛會御禊日例　一六〇
大小學校建議　八〇
太上感應篇經傳　八三
太上感應篇纘義　二六七
太上感應篇注　一四六
大照公略譜　二四
大正公論　一三七
大聖國師道行記　一三
泰西英傑傳　一三
太淸和尙履歷略記　八一
太淸記　一五三
泰西胸水新書　一七三
泰西國法論　一二八・二六六
泰西地震說　一七三
泰西政事類典序　一九九
泰西二十四方　一七三
泰西名家幼傳　一八七
太淸樓侍宴記　一三〇・一五三
大山寺緣起　九〇
大膳大夫有盛記　九三
大戰と戰後の新局面　一〇七
大全早引節用集　三三
體操及戶外遊戲　一一三
大宋重修廣韻　一三六
大宗禪師行狀　八一
大藏治病藥　一三〇・一六一
胎息經　一四〇
胎息經疏　一五六
大租取調書　二六九
大帶寺緣起　三九
題詞題端　二〇四
代々先皇法語集　九一
大內裏抄　九三
大地を歩路とせる交流回路の誘導作用を利用せる通信法　二〇八
大中遺事　一四六
臺中州立圖書館圖書目錄　一〇

大通人好記　三八
大通禪師行實　八〇
大通餅大通燒　二一〇
大帝國　三三八
大的躰拜記　五四・六五
大典會通　九七
大傳法院本願聖人御傳　八〇
大典奉祝陳列品目錄　一六
大電力放送受信に關する實驗竝に放送受信機に現はれた新傾向　二〇八
大東　三八
大東韻府羣玉　一九
大唐王居士甎塔銘　二五八
大道和尙行狀　八二
大統歌　七二
大道學館開講式　一八八
大道學館開校式の景況　一八八
大道學館揭示講義　一八八
大道學館新年式　一八八
大道學館生徒の參宮に餞す　一八八
大道學館設立趣意　一八八
大道學館設立に付哀願書　一八八
大道學館統一會設立事情　一八八
大唐奇事　一四六
大刀契考　一七六
戴東原集　二五五
大燈國師行狀　八一
大道寺家松井田城主三節寄騎家中姓名　四三
大道社擴張主意書　一八八
大道社基本金を募るの檄　一八八
大道社主義辯　一八八
大道社成立の精神　一八八
大道社設立に就て　一八八
大道社と政黨の關係　一九〇
大道社の希望一斑　一九〇
大道社は雜炊屋なりや　一八八
大唐新語　一四六・六二
大唐西域記　三九・三四
大唐創業起居注　一四一・四六
大道叢誌第五十一號に上るを自祝す　一八八
大道叢誌第百一號に達せるを自祝す　一九〇
大唐傳載　一六二
大道の汚點　一八八
大東寶鑑　一九
大塔物語　八七
大東野乘　九七
大道論　一八八
大德宗峯達磨大師云々文書　三九
對獨賠償問題に就て　二三
大納言家歌合　四八・六〇
大納言經信卿集　六九
大納言拜賀部類記　八三
偕南閣集　一三五
臺南曬統計書　二七三
第二回東京市統計年報校閱ニ就テノ意見　二七〇
臺灣戶口調査に就て　二七〇
臺灣雜記　一五八・一六八
臺灣產業調查錄　二六九
臺灣事情　二七五
臺灣十年間之進步　二七三
臺灣諸開港外國貿易概覽　二七四
臺灣職業名豫察報文　二六二
臺灣人口動態統計　二六二
臺灣人口動態統計記述報文　二六二
臺灣人口動態統計五年報　二六二
臺灣人口動態統計十年報　二六二
臺灣總督府統計書　二七三
臺灣總督府圖書館選定圖書目錄　一〇
臺灣總督府圖書館和漢圖書分類目錄　一〇
臺灣總督府法規提要　二六六
臺灣總督府報告例　二七〇
臺灣總督府民政事務成績提要　二六七
臺灣鐵道史　二六八
臺灣統計摘要　二七三
臺灣統計要覽　二七三
臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律其ノ沿革竝現行律令　二六六
臺灣日日新報壹萬號及創立三十周年記念講演集　二三
臺灣之米作統計　二七四
臺灣犯罪統計　二七四
臺灣蕃政志　二六三
臺灣蕃地交涉年表　二六三
臺灣府噶瑪蘭廳志　一四四
タウンセンド・ハリスの一私信　三七・九五
高尾考　二一四
高尾追々考　一五四
鷹聞書　九五
高木利太遺書古活字版展觀目錄　四四
高木文庫古活字版目錄　二六九
鷹經辨疑論　二四六
鷹口傳　二五五
高倉院嚴島御幸記　一九九
高倉院御元服記　二〇〇
高倉院御卽位記　七九
高倉院升遐記　九八
高倉社勸進帳　八七
高藏神社杵舞記　二八
鷹詞百韻連歌　八七
鷹三百首和歌　八九
高階氏系圖　四八・四九・六〇・六一
高島炭坑問題　八八
高城下野家記　八八
高瀨舟　六七
高瀨舟緣起　四六・五八
高田早苗博士大講演集　五二・六三
高忠聞書　六七
たかたち　六七
泰平年表　二八三
太平洋　二三八
大法師淨藏傳　九四
臺北高等商業學校圖書館和漢書分類目錄　一〇
當麻中將姬まんだらの由來　七三
當麻曼陀羅緣起　五五・六六
大明一統志　二六六
大明京省九邊外國府州縣路程圖　二八五
大明九邊萬國人跡路程全圖　二八五
大明國師無關大和尙塔銘　八〇
大明仁孝皇后內訓　七一
大明禪寺開山月菴和尙行實　八一
隊務日記　八五
對面會我　七三
對問　一〇五
待問雜記　一七四
待問雜記後編　一七四
大獻公御上洛中の詠歌（附神詠）　一〇四
太陽　三三八
大陽和尙行實　八一
大洋洲地誌　一一三
太陽の畫論　一七九
退餘叢話　一三八
平忠度朝臣集　五〇・六三
平忠盛朝臣集　八五
平知信朝臣記　九四
內裡歌合　四八・四九・六〇・六一
第二十世紀豫想論　一八八
第二十七回圖書館大會ノ際末に書す　一九九
大日本租稅志　二八九
大日本帝國憲法義解　二七六
大日本帝國文部省年報　三三
大日本百科辭書　一二
大日本船路細見記　八一
大日本史論讚集　二四六
大日本外國貿易二十五年對照表　三九・三四
大日本外國貿易年表　一四一・四六
大日本學術叢書　一〇〇
大日本合衆國新定條約竝附錄草案　一四
大日本憲法講義　一四
大日本國一宮記　一四
大日本國皇城東五山之上瑞龍山第一世祖佛心禪師大明國師無關大和尙塔銘　一四
大日本國政典に就いて　一七四
大日本國東海道相州路鎌倉縣亘福山建長興國禪寺第十代勅諡大通禪師行實　一四
大日本國特賜佛燈國師約翁和尙無相之塔銘　一三
大日本山林會創立二十五年紀念號　一三八
大日本私立衞生會雜誌編輯掛に與ふ　九四
大日本史論讚集　二八三
泰平年表　二八三
太平洋　二三八
大法師淨藏傳　九四
臺北高等商業學校圖書館和漢書分類目錄　一〇
當麻中將姬まんだらの由來　七三
當麻曼陀羅緣起　五五・六六
大明一統志　二六六
大明京省九邊外國府州縣路程圖　二八五
大明九邊萬國人跡路程全圖　二八五
大明國師無關大和尙塔銘　八〇
大明仁孝皇后內訓　七一
大明禪寺開山月菴和尙行實　八一
隊務日記　八五
對面會我　七三
對問　一〇五
待問雜記　一七四
待問雜記後編　一七四
大獻公御上洛中の詠歌（附神詠）　一〇四
太陽　三三八
大陽和尙行實　八一
大洋洲地誌　一一三
太陽の畫論　一七九
退餘叢話　一三八
平忠度朝臣集　五〇・六三
平忠盛朝臣集　八五
平知信朝臣記　九四
內裡歌合　四八・四九・六〇・六一

內裏歌合右方後番大陸　八四
大理行記　三三八
內裏御屛風　一三五
內裏詩歌合　八四
內裏式　五〇・六二
內裏遷幸部類　四七・五八
內裏名所百首　七七
大略天學名目鈔　四八・六〇
大龍寺緣起　一七四
大林和尙塔銘　九一
大禮記念通俗講演集　八二
耐冷譚　八三
大禮の要旨　二五一
大禮要義　二六六
大連圖書館和漢圖書分類目錄　二六六
第六日曜講壇　一〇
太和正音譜　一九三
臺灣及琉球の音樂に就きて　一二五
臺灣外記　二一三
臺灣外國貿易概覽　一六四
臺灣外國貿易十五年對照表　二七五
臺灣外國貿易年表　二七五
臺灣各種學校生徒及兒童疫育統計　二七五
臺灣關係資料展觀目錄　一六
臺灣紀略　一六・六八
臺灣銀行十年志　二六九
臺灣金融事項參考書　二七五
臺灣現住人口統計　二六一
臺灣戶口調查に就て　二七〇
臺灣雜記　一五八・一六八
臺灣產業調查錄　二六九
臺灣事情　二七五
臺灣十年間之進步　二七三
臺灣諸開港外國貿易概覽　二七四
臺灣職業名豫察報文　二六二
臺灣人口動態統計　二六二
臺灣人口動態統計記述報文　二六二
臺灣人口動態統計五年報　二六二
臺灣人口動態統計十年報　二六二
臺灣總督府統計書　二七三
臺灣總督府圖書館選定圖書目錄　一〇
臺灣總督府圖書館和漢圖書分類目錄　一〇
臺灣總督府法規提要　二六六
臺灣總督府報告例　二七〇
臺灣總督府民政事務成績提要　二六七
臺灣鐵道史　二六八
臺灣統計摘要　二七三
臺灣統計要覽　二七三
臺灣ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律其ノ沿革竝現行律令　二六六
臺灣日日新報壹萬號及創立三十周年記念講演集　二三
臺灣之米作統計　二七四
臺灣犯罪統計　二七四
臺灣蕃政志　二六三
臺灣蕃地交涉年表　二六三
臺灣府噶瑪蘭廳志　一四四
タウンセンド・ハリスの一私信　三七・九五
高尾考　二一四
高尾追々考　一五四
鷹聞書　九五
高木利太遺書古活字版展觀目錄　四四
高木文庫古活字版目錄　二六九
鷹經辨疑論　二四六
鷹口傳　二五五
高倉院嚴島御幸記　一九九
高倉院御元服記　二〇〇
高倉院御卽位記　七九
高倉院升遐記　九八
高倉社勸進帳　八七
高藏神社杵舞記　二八
鷹詞百韻連歌　八七
鷹三百首和歌　八九
高階氏系圖　四八・四九・六〇・六一
高島炭坑問題　八八
高城下野家記　八八
高瀨舟　六七
高瀨舟緣起　四六・五八
高田早苗博士大講演集　五二・六三
高忠聞書　六七
たかたち　六七
泰平年表　二八三
太平洋　二三八
大法師淨藏傳　九四
臺北高等商業學校圖書館和漢書分類目錄　一〇
當麻中將姬まんだらの由來　七三
當麻曼陀羅緣起　五五・六六
大明一統志　二六六
大明京省九邊外國府州縣路程圖　二八五
大明九邊萬國人跡路程全圖　二八五
大明國師無關大和尙塔銘　八〇
大明仁孝皇后內訓　七一
大明禪寺開山月菴和尙行實　八一
隊務日記　八五
對面會我　七三
對問　一〇五
待問雜記　一七四
待問雜記後編　一七四
大獻公御上洛中の詠歌（附神詠）　一〇四
太陽　三三八
大陽和尙行實　八一
大洋洲地誌　一一三
太陽の畫論　一七九
退餘叢話　一三八
平忠度朝臣集　五〇・六三
平忠盛朝臣集　八五
平知信朝臣記　九四
內裡歌合　四八・四九・六〇・六一
瀧ノ口落城記　三九
蒸物之記　四四
唾玉集　一四四
澤庵和尙鎌倉記　三七・九五
澤庵禪師書簡　二一四
卓異記　一三〇・一四〇・一六二・一六四
濯纓亭筆記　一五四
謫居童問　九五
宅經　四一・四〇・五三
諸阜記　一二六・一五二・一六二・一六七
澤山雜記　一五三
拓殖博覽會事務報告　二八九
擇石齋詩集　二四六
託素齋詩文集　二五五
田口卯吉全集　一九九
田口先生略歷及び年譜　二〇〇
宅間系圖　七九
樗里誌　九八
竹崎五郎繪詞　八七
多氣寤螢　二一八
武田勝賴滅亡記　八七
武田弓箭故實　八八
武田系圖　八九
武田家諸士起請文　八八
武田射禮日記　八八
武田法印系圖　七八
竹田雄譽光英法印壽像讚　八〇
武智麿傳　四六・五八
竹とりの翁物語　七八
竹內系圖　六七

竹内僧正句題歌　八四
竹内綱獄中日記抄錄　一二〇
竹内綱自敍傳　一二〇
竹之丞　三七
竹本豐竹淨瑠璃譜　三三・三四
多胡辰敬家訓　九二
太宰春臺獨言拔抄　三三五
多歲堂詩集（詩載歷集・試律詩集・賦集共）　二四六
太宰府官符　三九
太宰府天滿宮故實　一七一
唾作詩志發　一〇〇
多氏系圖　七九
但馬國太田文　九六・一〇六
多治見系圖　七八
田牧種及小租調查書　二八九
太政官日誌　四二
太上法皇御受戒記　五四・六六
田尻系圖　七九
田代系圖　七八
打槩譜　一三一
だぞーるニ依ルあるかろい　ど吸着　二〇七
だぞーるノ生物學的意義　二〇七
黃昏隨筆　二三五
只今御笑草　七五・二八
大藏禮逸　一四三
大藏禮記　七二・二三・三三
大藏禮記補注　七二
多田系圖　七八
田中桐江傳　五三・六四
たなくひあはせ　七五
七夕七十首　九七
田邊城合戰記　五二・六二
棚守房顯手記　五二・六二
谷阿闍梨傳　八七
谷川の水　一〇二
谷間の姬百合　七八
田能村竹田全集　三九
田賣買價格及金利調查書　四六・六八・七九　五〇・六二
煙草傳來說略　一七四
煙草由來說略　八〇
打馬圖　一九八
打馬圖經　八三
旅路のうちきゝ　二四八
ダビット・モルレー申報　四五
田盧歌集　一七四
玉あられ　一〇三
玉を懷いて罪あり　一八六
玉かつま　一七二・一七八・二六・三三五
玉川參登鯉傳　三三三
玉川砂利　一六六
玉川披砂　一四九
玉くしげ　一四四
玉簇兩浦嶼　一五八
玉簇兩浦嶼自註　九〇
玉簇兩浦嶼の初度の興行に就て　一九二
多磨郡深大寺鐘銘　一九一
玉島紀聞　八五
玉造小町子壯衰書　四八・五九
玉津島社法樂假名題目百首　和歌　八四
玉津しまの御本地　七三
玉に對する古代亞細亞民族の先天的崇敬心に就ての考察　二一〇
玉の緒變格辨　一九二
玉鉾百首　三九
玉鉾百首解　一七二・一九
玉藻册子　三九
民草婦利　一九
手向草　一九
たむけの說　一〇一
田邑麻呂傳記　三九
爲家卿千首　一三〇・一四五・六四
爲家卿藤川題百首　八四
爲和卿集　三五
爲兼卿家集補遺　九六
爲兼卿家歌合　四九・六二
爲兼卿鹿百首　四八・六〇
爲兼卿和歌抄　九九
爲兼集　八五
爲定卿藤川題百首　八四
爲重卿集　五〇・六二
爲相卿千首　八三
爲相卿百首　八四
爲尹卿千首和歌　四八・六〇
爲廣卿集　八五
爲冬集　八五
爲盛發心集　九一
爲恭筆重盛諫言圖　三七
爲賴朝臣集　五〇・六二
大夫尉義經長申記　四七・九九
足土根記　一〇一
陁羅尼殘缺　三九
墮涙口碑　三九
ダル・エミッターに就て　二一〇
誰が讀んでくれるか　一九七
田原榮　一〇五・二五・二一七・二五
たはれぐさ　二四八
澹庵先生遺稿　四五
談瀛錄　二六〇
談淵　一三〇・一四五
湛園札記　二六二
湛園雜錄　一四四
湛園未定藁　三五二
談往　一五八
談海　一八七
譚海　八三
丹鶴圖譜　八四
丹鶴叢書　九九
丹鉛總錄　六八・七九
丹鉛續錄經說　三三三
丹淵集（拾遺共）　一七七・一七八・二六・三三五
丹波雜錄　九九
丹波與作無問鐘　四四
單刀直入錄　八七
檀那山人藝舍集　一四四
檀那院公記　一四五
檀那院文書　一四五
檀樂集　二六〇
譚林　一二八・一五六
談話之種草　一〇三
一四五
チ
治安小言　一三八
智覺普明國師行業實錄　一四〇
智覺禪師開山大道和尙行狀　七七
地學往來　七三
知覺普明國師行業實錄　一四〇
近頃の劇の面白からぬ理由　一九三
親綱卿記　一七三
親長卿百首　九五
親房卿被贈結城狀　二六三
近松が時代物　三五
近松研究會發會の辭　一四九
近松對シエークスピヤ對イ　プセン　八一
近松とシエークスピヤ　二〇九
近松二百年記念事業に對する希望　一〇三
近松二百年記念事業に就いて　一〇三
近松の淨瑠璃　一六〇
近松の新改作　一〇〇
近松ペーヂェント　八三
「智環啓蒙」香港第一版長崎にて發見せらるゝ我校所藏ジョサイア・チャイルド著「新貿易論」の各版に就て　三一六
弛緩心理論　一三一・一五五
淡水龜志　一八一
彈棋經　一五一
檀几叢書　一五九・二六七　二一五・二一七
耽奇漫錄　一五
單騎要略被甲辨　一六六
端谿硯史　一五九
端谿硯譜　一五〇・六四
簞溪自課　一六〇
談藝錄　一五六
談言　一五七
短艇を持ちたる女　一八四
團子坂　一八二
丹後守爲忠朝臣家百首　四八・六〇
坦齋通編　一三一・一四四
譚山雜談　一三一・一四四
譚子化書　一四三・一四四・一六六
段氏逸筆法　二五六
坦室遺文　二〇五
坦室雜著　二〇五
丹州三家物語　一九七
探奉歷記　二七
談剩　一五五
誕生寺略緣起　三九
男女關係の進化　一八六
男女共學問題　一九〇
男女交際論　二〇一
男女紳言　一六六
男女文明論　二五三
丹陽記　一八八
譚幹　一三一・一五五

知鑑禪師年譜　二九六
地球　二三九
地球と太陽　二三九
地球略解　一六
地境圖　一四七
致虛雜俎　一四五
竹雨吟鈔　二四六
竹榮祕抄　一七六
竹嶼庵傳鈔書目　一〇・二四
竹園抄　八五
竹下詩鈔　二四六
竹橋餘筆　一四九
竹居清事　八四
竹居禪師塔銘　八三
竹溪雜述　五三・六五
竹溪詩文鈔　一九五
筑後國神名帳　一九六
竹齋老賓山吹色　一九六
千草結び色葉八卦　一九六
畜產各論　一九六
畜產計畫書　一九六
竹山國宇牘　一九六
畜產汎論　一九五
築城記　一九六
竹嘯軒詩鈔　一九六
竹書紀年　一二三・一三三・一六三
竹書紀年校補　一三七
竹泉閑話　二三五
筑前州大宰府安樂寺實丞相「祠堂記」　一五五・二三・二六二
筑前名寄　一七〇
筑前國諸社緣起　一七〇
筑前國續諸社緣起　一七一
筑前國續風土記　一七〇
竹窻詞　二五四
竹抓子　三三五
畜德錄　一五五
竹派　二六・一五六・六六
逐波居士安心談　一八九
竹馬抄　五五・六七
竹坡詩話　一四一
竹坡老人詩話　一四九
竹譜　一二四・一五一・六四・六七
竹生島緣起　四五・五七　七三・九九
竹豐故事　七三・九九
竹林詩評　一四九
竹林抄　八五
竹蓮珠　一六〇
逐鹿記　一二七・一五三　四九・六二
地下歌合　八六
知顯抄　一五九
稚黃子　一八九
雉岡隨筆　二一七
治國の大本　一八九
兒敎訓　五一・六三・七一
知止歌小解　一〇一
地志啓蒙　一四二
地質學　一二〇・一二一・一三・五二
地質學特別講義　一九一
千島艦事件　一二七

池上草堂筆記　二六三
智證大師傳　八〇
癡人と死と　一八四
致身錄　二六・一五三
「地層の斷面圖製作に便利なる曲線圖」及び其算式に就て　一九一
地租改正私議　一八七
知足齋詩集　二四六
地租增否論　一九九
地租論　二〇一
父　一八四
父と妹　一八四
父の讎　一八五
知恥篇　三五
蟄居紀談　一〇〇
池底叢書要目　一〇
地的環境と人生　一一四
知德發達論　二〇〇
千とせの門　一七三
智嚢補　一六三
千葉上總系圖　六八・一〇四
知白齋詩鈔　二四七
千葉系圖　六八・一〇四
千葉家盛衰記　一〇四
千葉縣學事年報　二七六
千葉縣勸業年報　二七六
千葉縣君津郡家畜調查ノ概要　二七六
千葉縣戶口統計　二八一
千葉縣產業要覽　二七六
千葉縣統計書　二七三
千葉支流系圖　六八・一〇四
知彼一助　一七三
致富小記　二九九
知不足齋叢書　一〇〇
地文學　一一一
西藏記　一六八
地方衛生技術官協議會講演集　二九六
地方官會議日誌　一一七
地方機關の統計事務に對する一般の心得　二七〇
地方經濟參考表　二八八
地方財政　二七七
地方財政及其統計概說　二七〇
地方自治ト社會的制度　二六七
地方人口年齡別死亡率及其ノ記述　二七一
地方新聞廣告行數統計月報　二四一
地方稅勸業費豫算決定額表　二七七
地方良民の生血を吸ひ取る惡蟲驅除法　二八九
池北偶談　一六三・三三・六三
地名河川兩字通用考　一七〇
知命記　一〇一
地名字音轉用例　一七二・一六七
知命錄　二六七
千本系圖　六八
茶解　一五六
茶器名物集　八七
茶經　三三〇・一五〇・六一・六四
茶香室叢鈔（續鈔・三鈔共）　一六四・三一
茶山集　九六
茶神の由來　一七三
茶籠　二九九
茶蔬　一六〇
茶番三階圖繪　三三
茶譜　一一六
茶味論　一六三・
茶餘客話　一一七
茶寮記　三一・一五〇・
茶錄　一五六・六四
中亞細亞探檢談　四七・五九
仲安遺草　二七七
中州樂府　一三六
中州金石目　一三三
中州金石目錄　一二六
中州集　三六・三五〇
中洲文稿　二五三
中洲野錄　一三二・一五四
中壽ノ說　二七九
中性院法印灌頂資記　八九
丑庄日記　一二五
中條宮辨財天由來記　七六
中書王御屛風　八四
廚事類記　三三・六四
知友新稿　三〇九
痴遊隨筆　三一九
中西算學　一五六
中正子　五六・六七
蟲擘鳥語集　二九六
中華事始　三〇・七〇
中家實錄　九六
忠雅堂詩詞全集　三
忠雅堂詩集　二四七
忠雅堂評選四六法海　二五二
忠雅堂文集　三三
中古劇場說　一七六
中古雜唱集　一一二
中古史　八三
中古六歌仙　一一三
中山詩話　一四一
中山日錄　九五
中山狼傳　一三一
仲氏易　三〇三
柱史抄　四七・五九
中州樂府　一三六
中州金石目　一三三
中州金石目錄　一二六
中州集　三六・三五〇
中洲文稿　二五三
中洲野錄　一三二・一五四
中壽ノ說　二七九
中性院法印灌頂資記　八九
丑庄日記　一二五
中條宮辨財天由來記　七六
中書王御屛風　八四
廚事類記　三三・六四
知友新稿　三〇九
痴遊隨筆　三一九
中西算學　一五六
中正子　五六・六七
蟲擘鳥語集　二九六
中國逸藝文志　一〇・一二
中國雕板源流考　三
中國治亂記　三五・六五
中國兵亂記　三九
中古劇場說　三三
中古雜唱集　一七六
中古史　一一二
中古六歌仙　八三
中山詩話　一四一
中山日錄　九五
中山狼傳　一三一
仲氏易　三〇三
柱史抄　四七・五九
中州樂府　一三六
中州金石目　一三三
中州金石目錄　一二六
中州集　三六・三五〇
中洲文稿　二五三
中洲野錄　一三二・一五四
注解傷寒論　二七九
中外商業新報　三一・一五〇・
中外時論　四三・一一九・四二・
中外新聞　四三・一一九・四二・
中外新聞外篇　八四
中外新聞紙　三三・六四
中外新報　二六七
中學修身訓の主旨　三元
中學新讀本編纂の主意　一五六
中學新讀本編纂方針　四三・一五六・
中華古今注　二九六

中西度量權衡表　一六八
中世佛蘭西文學研究　一二三
中說　一二四・一三三
中禪寺私記　五五・六六
中朝故事　一三〇・一四六・一六一
中朝事實　七〇
忠傳　一三五
中殿御會部類記　五一・六三
中東戰紀本末　二五九
中等百科辭典　三一
中納言拜賀部類記　八三
中納言雅兼卿集　五〇・六二
中日戰辯　二五九
中日文化協會事業報告　一六七
仲文章　九二
中本書目　七三
稠密ナル本邦人口　二七九
蟲鳴漫錄　一六三・一三三
中庸古本　一四三
中庸說　二〇四
中庸標註　一七六
中庸篇義　一三八
中陵漫錄　二一八
忠烈文選　七一
嚢簽緒論　一六四
中論　一三四・一三三
中倭戰守始末記　二六三
彫朱梁紀年論　一五九
帳合之法　二〇〇
長安客話　一三二・一五四
長安看花記　二四七
長安宮詞　一二四・一三三
長安志　五五・六六
鍵庵詩鈔　一三〇・一四六・一六一
長閒堂記及家傳遺誡　七〇
鍵庵賦鈔箋註　一三五
聽雨紀譚　五一・六三
聽雨軒筆記　二五九
聽園西疇雜述詩　三一
澄懷園詩選　八三
澄懷錄　五〇・六二
釣客傳　二三五
長河志籍考　九二
長歌選格　七三
潮嘉風月　二六七
長寬勘文　一六三・一三三
長寬二年朔旦冬至記　一四三
調講篇　二〇四
釣魚　一七六
長享元年九月十二日常德院殿樣江州御動座當時在陣衆着到　一三八
長享三年諒闇終記　五六・六七
長享二年還御次第　一六四
長享二年渡御倚廬次第　二六三
長享年後幾內兵亂記　一五九
瑤玉集　二〇〇
彫玉飛屑　一三二・一五四
釣者風　二四七
長壽院內府九十賀記　七七
長壽院內府九十賀和歌　七七
長周叢書　一九三
長周叢書解題目錄　三九
暢春苑御試恭記　一九二
長春眞人西遊記校注　一四九
蝸笑偶言　一五六
聽松濤館詩鈔　一二六・一五四・六七
聽松盧詩略　四七・五九
長嘯蟲歌合　八八
聽松盧詩略　三九
暢敍譜　一五二・一六八・一六七
長眞閣集　二六〇
澄心寺緣起　一九二
長水日抄　三五
長頭丸隨筆　二六
長生新浦島　一一三
長生殿傳奇　一〇
長生療養方　一七九
朝夕禮拜略式及拜辭　一九
聽雪齋詩鈔　一四七
張說之文集　二六三
朝鮮印刷史　一六四
朝鮮外寇史　一三四・一三三
朝鮮活字印刷資料展觀目錄　二六三
朝鮮冠服の事　一五九
朝鮮記　一六三
朝鮮歸好餘錄　一三二・一五四
朝鮮紀事　一四〇
朝鮮宮中物語　一四七
朝鮮群書大系　一四〇
朝鮮京城事變始末書　一四八
朝鮮研究會叢刊　九三
朝鮮國遣使ニ付閣議分裂事件　九七
朝鮮國信書の式の事　八七
朝鮮古書目錄　一二〇
朝鮮書籍目錄　一二三・一四五
長泉寺略緣起　一二五
朝鮮信使議　一二四
朝鮮信使辭見儀注　一二四
朝鮮信使賜饗儀注　一二四
朝鮮信使進見儀注　一二四
朝鮮人來歸錄　一二四
朝鮮人來朝記　一二四
朝鮮人來聘留　一二四
朝鮮叢書　一〇一
朝鮮總督府及所屬官署主要刊行圖書目錄　五五・六七
朝鮮總督府古圖書目錄　一九一
朝鮮總督府施政年報　一四〇
朝鮮總督府鐵道局年報　一二四六
朝鮮總督府統計年報　一二五
朝鮮總督府統計要覽　一二五
朝鮮通交錄　九六
朝鮮典籍の一考察　一六
朝鮮統治三年間成績　一六六
朝鮮圖書解題　八七
朝鮮人參　二〇五
釣磯立談　一四〇
長吟閣詩集　一四〇
朝覲行幸御供奉事　一四八
朝覲行幸部類　一四七
蝶くらぶ　八七
長慶院御願文　二四七
長慶院非讓位辨　一三三・一五四
苕溪漁隱叢話　一四三
朝京打馬格　一四八
長元大嘗會御屛風本文　一四九
長元物語　一四七
長語　一四六
趙后遺事　一四四
聽香館叢錄　一五二・一六八・一六七
朝綱史　一四九
長江集　一四九
澄江集　一四〇
彫刻及捉影術　一四四
徵刻南北宋人集小啓　一四四
彫刻の話　一九八
長恨歌傳　一二六・一三〇・一五二・一六二・一六四
長沙耆舊傳　一二八・一三二・一五五・一六六・一六四
長山公自書年譜　一四七
晁氏客語　七一・一四三・一五八・一三三
晁氏家法筆記　一三五
晁司業詩集　九三
晁氏勳德記殘卷　八七
晁氏儒言　一三六
張子正蒙注　一八六

朝鮮之光　二六
朝鮮博物志　九六・二三五
朝鮮美術大觀　九七
朝鮮聘使後議　一六九
朝鮮聘禮事　一六九
朝鮮本書名目錄稿本　一〇
朝鮮野談集　九六
朝鮮李王家の古樂舞―我が宮中の舞樂との關係　二一一
朝鮮龍山鐵道圖書館藏書目錄　一〇
朝鮮論　一八七
頂相靈驗記　八三
長曾我部系圖　七九
長宗我部信親　一八三
長曾我部元親記　八八
長曾我部元親式目　五三・六五
長曾我部元親百箇條　二七〇
町村是調査綱要　一三六
張太常集　一三六
超短電波發生用眞空管及び其れに依つて起る二三の電子的異常現象に就て　二〇八
張仲景註解傷寒百證歌　一三六
雕蟲集　一三
張長史十二意筆法　一五〇
窕懲富保　二一四
調度歌合　五六・六七
長德二年大間書　八三
町人考見錄　六九
張良　六九
長祿寬正記　一七四
長祿記　一六〇
長祿三年曆　三三
長祿二年以來申次記　一二九・一三二
長祿年中御對面日記　九七
楮記室　一七三
楮牛全集　一四〇・一三三
直講李先生文集（外集共）　一六九
直齋書錄解題　九一
勅諡大機弘宗禪師行狀　七九
勅諡南院國師規庵和尙行狀　四三
勅諡寶覺直空禪師前住大唐京兆梨嶽寺後住日本京城東山建仁禪寺雪村大和尙行道記　二〇九
直稅開稅の區別を論ず　一四六・一五六
勅撰法相宗章疏目錄　六六
勅版官版及藩版圖書展觀目錄　一七一
勅封藏開檢目錄　一三六
著作堂一夕話　二四三
著作評論　三四・三五・二六・三五
楮氏遺書　一三六
楮囊抄　一三五
千代ノタメシ　九三
千代の友つる　二六〇
ちよほくれ武士　一〇三
千代もと草　七四
地理科學　一一二
地理學　一九四
地理啓蒙　一四二
地理質學啓蒙　一四三
塵塚談　三三・三四
塵塚物語　二一六
塵袋　一六・一九九
塵袋抄　一〇〇
地理驪珠　一五九
治療續開　一八六
陳迦陵文集（儷體文集・湖海樓詩集・詞全集共）　一三六
賃銀政策　一〇九
陳檢討四六　三五三
鎭魂傳　一〇四
枕山詩抄　一〇四
陳氏安瀾園記　一〇〇
陳州牡丹記　一五一
陳書　二六五
追遠集　二九六
追記　五五・六六
追贊一話　一八七
追儛　一八三
通貨論　九八
通議　三〇一
通經表　一〇
通玄算法記　七五・二八七
通語　三〇三
通航一覽　四一
通詩選笑知　一七五・二八七
通志堂經解目錄　六九
枕中書　一三三・一六七
枕頭雜筆　一一二
陳伯玉文集　一九四
陳眉公太平清話　一一三
陳眉公筆記　一六六・二六七
陳眉公祕笈　一六五・二六七
珍文叢書　四三
陳輔之詩話　一九九
珍本物語　一四九
沈默の塔　三
椿葉記　一八三
陳留耆舊傳　四五・五七
陳留川文鈔　一四七
陳留風俗傳　二九六
　　一四八

通古大象曆星經　一四〇
通俗外交論　二〇一
通俗漢楚軍談　二五五
通俗傾城三國志　七三
通俗皇明英烈傳　二五五
通俗國權論　二〇一
通俗三國誌　二五五
通俗史談　二八三
通俗戰國策　二五五
通俗宋史太祖軍談　二五五
通俗續後三國志　二五五
通俗續三國志　二五五
通俗臺灣軍談　二五五
通俗通鑑五代軍談　二五五
通俗統計學大意　二七〇
通俗唐玄宗軍談　二五五
通俗唐太宗軍鑑　二五五
通俗圖書館良書目錄　一〇
通俗圖書選擇目錄　二五五
通俗南北朝梁武帝軍談　二五五
通俗二十一史　二五五
通俗編　二七
通俗北魏南梁軍談　二五五
通俗民權論　二〇一
通俗無上政法論　二一七
通俗兩漢紀事　二五五
通俗兩國志　二五五
通俗列國志　二五五
通俗列國志吳越軍談　二五五
通俗列國志十二朝軍談　二五五
通文館志　一〇六
通略延約辨　一八〇
通例人の一生序　一三四
通鑑紀事本末　二五五
通鑑直解　一四〇
通鑑地理通釋　一四〇
通鑑問疑　二九六
月瀨記勝　二八一
月草序　一七九
月草の波　一〇六
撞賢木　七三
つきしま　一三五
築島寺略緣起　四一
月千句　八五
月次のあそび　三六
槻の落葉信濃下向病床漫錄　三三五
槻の落葉信濃漫錄　二六・三三五
月能桂　九三
月刈藻集　二四
月舍遺抄　二四
月詣和歌集　八三
月雪花寢物語　二五
筑紫四面考　一〇六
筑紫道記　五三・六四
筑土大明神略緣起　四一
筑波祈念百韵　八五
つくば山戀明書竝名所　三六
筑波問答　八三
津下四郎左衞門　一八三
辻馬車　一八五
土屋忠兵衞知貞私記　八五
堤中納言物語　八四
津戸三郎　九三
繋升三升繋　八四
綱金時最後　八五
綱島梁川　八六
恒貞親王傳　三六
經信卿集　二一八
經信卿母集　三六
經光卿改元定記　七二・八三
椿新田記　九三
ツベルクリン驗績一覽　二六〇
坪内遺遙君　九九
坪内大造　二三五
壺阪寺　一〇六
壺すみれ　五三・六四
津守國基集　四一
通夜の說法　八五
露川責　三六
露草雙紙　五一・六三
釣　八三
釣書ふきよせ　八三
釣舟　二五
釣船物語　一七・二一四
鶴岡事書案　二六三
鶴岡社學頭次第　八四
鶴岡社執行次第　五〇・六一
鶴岡社家執事職次第　八三
鶴岡社職系圖　六八
鶴岡八幡宮御殿司職一方系圖　九四
鶴岡八幡宮御殿司職次第　九六
鶴岡八幡宮寺供僧次第　七三
鶴岡八幡宮寺社務職次第　三六
鶴岡八幡遷宮記　七四
鶴岡放生會職人歌合　一七九
鶴岡兩界壇供僧次第　八〇
鶴岡脇堂供僧次第　九七
つるぎさんだん　五一・六三
つれ〴〵草拾遺　八三
ツンベルグ日本紀行　一〇四
　　一八六

テ

定鑑文集（續集等五種共）　一九七
延尉故實　一八一
停雲集　七五
帝王世記　五〇・六三
帝王姓系　一八九
帝王譜略國朝記　一四七
帝王編年記　二一
低溫度に於けるエチルエーテル・アセトン及び木精の粘度　二一四
定家　二〇八
庭槐抄　七三
丁亥入都紀程　四六・七七
定家家隆兩卿撰歌合　二六三
定家卿自歌合　一四〇
定家卿色紙開百韻　五〇・六一
定家卿消息　八五
定家卿獨吟詩歌　四九・五九
定家卿筆諫口訣　八四
定家卿百番自歌合　九三
定家卿藤川百首　八四
定家長歌短歌之說　八四
定家問答　八五
訂謬雜錄　八六
逓譽錄　七三・二三
貞居先生詩集　二一八
經信卿母集　三六
庭訓往來　七二・八三
帝京歲時紀勝　二六〇
鼎軒田口卯吉全集　一九九
定香亭筆談　一三三
帝國學士院第一部論文集　二三
帝國議會圖書館和漢圖書目錄　一〇
帝國劇場と歌舞伎劇　一九六
帝國憲法發布奉祝文　一八九
帝國歲計豫算史　二八九
帝國財政意見　一九九
帝國主義論　一〇九
帝國大學圖書館和漢書分類目錄　二

帝國大學圖書館和漢書目錄　一一
帝國鐵道廳統計圖表　二七七
帝國鐵道廳年報　二六
帝國圖書館開館式陳列書目　二六
帝國圖書館增加書目錄　二一
帝國圖書館增築記念展覽會目錄　一六
帝國圖書館創立五十年記念陳列圖書目錄　一六
帝國圖書館報　一一
帝國圖書館和漢書件名目錄　一一
帝國圖書館和漢圖書書名目錄　一一
帝國圖書館和漢圖書分類目錄　一一
帝國ニ於ケル特許發明ノ發達一斑　二九
帝國博物館陳列蒔繪品年代考　一九一
帝國百科全書　一一〇
帝國民　三六
艇齋詩話　一四九
貞山公詩鈔　九五
定山堂詩集　二四七
程史　一三一・一四一・一四四・一六七
鄭志　一三一・一六五
亭子院有心無心歌合　四八・八〇
亭子院歌合　四八・八〇
亭子院賜酒記　三五・六四
程氏家塾讀書分年日程　七一
鄭氏家範　一四九
梯子型位相矯正回路に就いて　二〇八
天隱子養生書　一四九
篆印發微　二五六
田園地方紀原　一〇一
天延二年記　九一
田園類說　九四
天應大現國師行狀　八一
天海僧正血統考　一三
天海僧正年齡考　二〇九
篆學瑣著　二五八
篆學指南　二五八・二五六
田家五行　二五四・六五
天下南禪寺記　一〇五
田家曆　一五六
田間書　一四四
天關禪師行實　八一
電氣及磁石　一一
電氣香響傳達系の設計に關する考察　二〇九
電氣工業幼年時代の思出　二三
傳奇作書　七三
傳奇作書追加　七三
天基聖節排當樂次　一四七
電氣聽診器（Diagnoscope）の研究　二〇八
電氣通信研究論文表　二〇九
傳奇トオニイ　一八一
田居乙記　一三二・一五四
傳敎大師行業記　八〇
傳敎大師行狀　八〇
傳敎大師消息　九一
傳疑錄　一六六
天狗藝術論　七〇
天狗騷動實錄　二九
天狗狩打　七四
傳經堂詩鈔　一四七
傳經表　一四四
傳經廬文鈔　七三
天經或問　七四
滇黔紀遊　一五七・一六六
天元三年中堂供養願文　五五・六六
天言筆記　七三
天鼓　一八一
天香閣集　三三
天香閣隨筆　三三
滇行紀程　一五七・一六六
滇行紀略　一五五
傳講雜記　一四四
天口事書　九三
天香樓偶得　一五六
天弘錄　六九
簽刻十三略　二五六
傳載　一四五
滇載記　二六
傳載略　一三一・一四五
天山客話　二〇五・二六〇
點竄問題集　二九二
田氏家集　四七・五九
天子冠禮部類記物錄　四五・五九
天竺行路次所見　二九
天竺渡海物語　一〇一
天正日記　九四
天正二年織香記　九六
天正年中御對面記　八八
天正年中豪樂亭兩度行幸日次記　七七
殿上閻討女袖鑑　七四
展城式問　七〇
天心遺稿　一三一・一五五
天眞閣集（外集共）　一八三
傳信記　一四七・一六四
天神講式　七六
天神祭十二時　九七
天神山記　一〇五
天人二道辯　二七九
天聖明道本國語　八八
典籍概見　一一
典籍考叢　一七一
典籍散語　八三
典籍秦鏡　八三
典籍叢談　一六六
傳宣草　一二九
傳染病分類圖　八四
傳染病豫防に就て　四七・五九
傳奏次第　八五
天蘇閣叢刊二集　八五
天則百話　八八
天祖都城辨辨　二三九
天祚禮祀職掌錄　一七七・一七八
天台座主記　四五・五七
天台座主祇園別當並同執行　四六・五六・七七
殿試策　一六六
天日　七〇
天字讀法考　二九
傳屍病廿五方　七四
天治本催馬樂抄　二四七
天僻堂壽言　二〇三
天僻堂壽詩　七四
天僻堂筆餘　一七四
電車の窗　一五七・一六六
傳習錄　五五・六六
天樹公略譜　七三
天壽隨筆　一八一
天壽ノ說　一三三
天壽補元丹來由功能書　一三三
天順日錄　一五七・一六六
田畯年中行事　一五五
殿上淵醉部類　一四四
殿上燕醉部類　九三
天壤閒雜記　一五六
天上玉女記　六九
天正五年親王家五十首　二五六
殿上詩合　一四五
天正七年正月十六日定　一八一
色紙開百韻　二〇五・二六〇
天正十年安土御獻立　二九二
天正十八年毛利亭御成記　一七七・一七八
天正十六年聚樂亭御會御歌　四五・五七
天正事錄　四七・五九
天正二十年正月二十六日行幸聚樂第之行列　四六・五七
補任次第　七六・七七
天台座主登山次第　九〇
天台座主補任式　九〇
天台山記　一一七
天臺摩明譜　一一二
天台正嫡梶井門跡略系譜　七七
天台道士敎育論纂　二〇〇
天台道士著作集　二〇〇
天台南山無動寺建立和尙傳　四六・五六
天台要曆　九四
天地人　二三六
天地圖　一五六
天地選　一五七
天智帝時代文學及社會文化狀況　一九二
殿中以下年中行事　五四・六五
天中記　二六二
殿中十五番御歌合　四九・六二
一〇〇・一〇三・一七一
轉注說　一七一
轉注說附錄　五四・六五
天寵　一八一
天朝墨談　一〇三・二一八
天朝無窮曆　一〇六
天定錄　一四五
天道案內　一一八
傳道諸儒評　二〇六
天德三年八月十六日闕詩行事略記　四七・五九
天和笑委集　七三
適吾廬詩存　二四七
溺死の新實驗　五一・六三
笛相傳　一五五
笛律　三
荻樓雜抄　二四七
田舍目の記　二三七
鐵園山叢談　二三七
一三二・一四六・一五九
囊筵小牘　二三七
鐵崖詩集　二四七
鐵崖先生古樂府　二三七
哲學　二一二
哲學概論　三七
哲學こなし　二四七
哲學辭典　一二六
哲學者研究　一二六
哲學大辭書　一七七
哲學と社會問題　一二五
哲學に於ける科學と宗敎　一二六
哲學の話　二一二
哲學汎論　二一〇
哲學變遷史　一四三
哲岩禪師行實　八一
鐵橋金石跋　三七
鐵琴銅劍樓藏書目錄　一一
鐵研齋輔軒書目　六九
輟畊錄　一四一・一三三
鐵樓山房見聞錄　二六二
鐵舟和尙閒浮集　八三
鐵舟不蕘　一八八
鐵舟佛法答話　一八八
徹書記物語　五一・六三
輟築記　一五五
粘葉考　三
鐵兜遺稿　二四七
鐵道院統計圖表　二四五
鐵道院年報　三三九
鐵道局年報　二三七
鐵道作業局年報　二三七
鐵道省圖書館圖書目錄　一一
鐵道統計圖表　二三七
鐵道に關する衛生法　一八六
鐵炮洲燈籠略圖　三七
鐵檻詩存　二四七
哲烈禍福譚　一二九
てにをは童訓　一四四
天爾遠波飛母鏡　一七七
テニソンの抒情詩及び物語歌　一九六
傳仁演說集　二三
手袋　八四
出法師落書　五四・六五
テムペスト　九四
デモクラシー　一〇七
デモグラフイー　三七
寺川鄕談　一〇五
輝元公上洛日記　九七
出羽國湯殿山略緣起　四一
出羽辨集　五一・六三
鼎錄　一一
天一閣見存書目　八三
天陰語錄　一八八
簟陰集　三五

天和長久四季あそび　三六
天和二年分限帳　四四
天南行記　一四七
溫南慟哭記　一五四
天然と人　一九三
天の網島評　一九五
天皇冠禮部類記　四七・五九
天皇元服部類　四七・五九
天皇御華押考　一九二
天王寺舊記　九〇
天王寺彼岸中日付タリ本朝　三七
　部郡之枕　七七
天王寺別當次第　七七
天皇禮冠考　一九二
天馬異聞　六九
天妃緣起　一〇〇
天平時代文學及社會狀況　一九三
天平勝寶始築筑前怡土城舊　二八五
　跡記　一九三
天禧安樂經　一七七
天賦人權辨　一二七・二二
傳聞過去帳　四四
田雯年譜　三五三
天變地異　一二二
傳法院座主次第　七七
傳法院座主補任次第　七七
天保改革雜談　二一九
天保佳話　二四・二三五
傳法灌頂日記　八九
天保三十六家絕句　二九六
天保山名所圖會　九九
天保新政錄　二一九
天保風聞見聞祕錄　一五二・六五
天彭牡丹記　四五・五七
天滿宮託宣記　一九五
天滿大自在天神寶號記　卷六
轉迷開悟のしをり　一八九
天明紀聞　二一九
天目游記　一六六
天文學　二一・二一三
天文義論　一七四
天文啓蒙　四三
天文書　三五
天文圖說　一八
天文精要　一七四
天文二三・二四貞忠御調進案　八八
天文廿年大間　卷六
天文年中春日祭次第　二〇四・二一三
天問補註　二一三
天文本草經論語校勘記　一二四・六三
天野山金剛寺古記寫　九四
天覽圖書目錄　一六
展覽目錄五種　一六
天理教論　一九〇
天理圖書館圖書分類目錄　一一
天龍開山特賜夢窓正覺心宗　八一
　國師塔銘
天龍開山夢牕正覺心宗普濟　八一
　國師年譜
天龍紀年考略　二九六
天龍寺供養記　九九
點例　二一九
豪隸萬象名義　二一九
天祿閣外史　一五二・六五
天祿議餘　四五・五七

ト

十市遠忠自歌合　二六六
十市遠忠百首　二一・二一三
獨逸醫界近事　一七四
獨逸演劇の現狀に就て　四三
獨逸學者の理化學研究に與　三五
　へたる敎訓　一八
獨逸側より觀たる賠償金問題　一七四
獨逸軍醫總監六十年勤務祝　八三
　典の景況　卷六
獨逸經濟沿革史　一六九
獨逸國土地抵當銀行視察報　二〇四・二一三
　告書　九四
獨逸思想界の現狀　一六
獨逸殖民新論　一六
獨逸人の拉句詩　一九〇
ドイツ新聞論　二一四
獨逸帝國職業調査　一六〇
獨逸帝國農事統計ニ關スル　三五
　重要調査概說
獨逸の學校制度に於ける新　二一七
　方針竝びに新組織　二六二
獨逸の近況　二一七
獨逸の劇場年報　八〇
獨逸の合理化運動　二一三
獨逸の職業組織　九五
獨逸の新戲曲　二八
獨逸博物館とミラ博士　一五
獨逸文學の特色　二六〇
獨逸法　三三
獨逸法律書　一一
東亞　二六六
悼青森歩兵第五聯隊凍死將卒　二一
東亞經濟調査局記錄分類　一七四
　一覽　八八
東亞經濟調査局記錄分類　二八八
　一覽　二三
東亞攻究會圖書館圖書目錄　一一
東亞同文會出版目錄及解題　一一
東亞同文書院圖書館和漢圖　一一
　書分類目錄
侗庵非詩話　一四
侗菴筆記　一五
陶庵夢憶　一三
東域傳燈目錄　九一
東維子文集　一七
唐韻佚文　一六
桐陰舊話　一六
陶隱居集　一四
島隱漁唱　一四
陶隱居內傳　一四
洞院公賢公家集　一四
唐韻四聲正　一七
桐陰清話　一七
唐韻別考　一七
桐陰論畫（續・畫訣共）　一八
踏雲錄事　一五
東榮歲臺之圖　八
東越祭蛇記　一九
東越儒林後傳　二〇
道園學古錄　一四
陶淵明集　一四
東園友聞　一〇〇
東奧紀行　七
東奧軍記　九五
東奧白河往昔之記　一四
投壺隨筆　三
東奧年鑑　一四
唐王右丞集　一四
唐音十八考　一九
東音譜　一九
東雅　一六
冬花庵燼餘藁　一六
東海一休和尙年譜　八
道快僧正拜堂下行物記　九〇
東海談　一五
東海道中膝栗毛　三
東海道名所記　三
東海道名所圖會　三
桐楮副墨　一六
東涯漫筆　三五
燈下閒談　四五
登華記　一五
唐樂曲譜　一五

東嶽文抄　二九六
桃華雜抄　九三
唐雅纂　一三
桃花藥葉　五五・六七
桃花扇　一〇三
桃花扇傳奇　三七
道我僧正加任拜堂下行物日記　九〇
道家祖看記　八七
投轄錄　一三・一四四
藤花亭十種　二〇六
童華亭書畫錄　一六八
櫂歌二百首　二四七
東金記錄　二〇四
東金城明細記　一〇四
唐科名記　一四六
銕歌餘響　二九六
東華錄　二五九
悼川尼寶岑老居士　一九〇
唐鑑　二六三
東巖安禪師行實　八〇
東關紀行　五二・六三
東遷紀程　一五七・一六八
東官舊事　一三九
童觀抄　七〇
東溥事略　三五
東觀奏記　一三八・一四六・一五六
東觀存藁　二六〇
統監府統計年報　二七四
東觀餘論　二七四
東寶錄　一四一
　九六

書名索引　トウ

冬期醫療勤務綱要竝に冬季　一八五
　立哨に關する衞生意見　二二五
陶器樂草　二〇〇
道義起源論　八五
冬期作業準備報告　二五七
湯義仍先生邯鄲夢記　二五七
湯義仍先生南柯夢記　九八
黨議通畧　二〇〇
道義哲學概　一九七
東儀鐵笛　二四二
東京朝日新聞　二四三
東京朝日新聞（縮刷版）　二四三
東京繪入新聞　二三八
東京學士會院雜誌　二九〇
糖業記事　一九六
東京劇壇の現況と外國劇界　一九六
　の趨勢　二九八
東京現在著作家案內　一九〇
東京高等師範學校沿革略志　二九八
東京高等師範學校圖書館和　一一
　漢書書名目錄
東京高等商業學校圖書館和　一一
　漢圖書分類目錄
東京市學事年報　二七七
東京市現住戶數及現住人口　二八一
東京市市勢調査概數表　二八一
東京市市勢調査原表　二八一
東京市市勢調査職業別現在　二八一
　人口表
東京市市勢調査比例篇　二八一
東京市收藏圖書目錄　一一
東京市勢調査詳解　二七〇
東京市市勢調査の沿革　二七四
東京市中に販賣せる生乳中　二七五
　の牛糞に就て
東京市町別現住戶數及現住　九八
　人口
東京市町名別戶數及人口　二〇〇
東京市統計講習會講演集　一九七
東京市統計圖表　二四三
東京市統計年報　二四三
東京市內通信業務概況　二四三
東京城日誌　二三八
東京書籍商組合員圖書總目錄　二九〇
東京市立圖書館增加圖書目錄　二七一
東京新繁昌記　二七四
視東京專門學校之開校　一九六
東京專門學校文學科の創設　一九七
東京帝國大學附屬圖書館藏　一六
　本第二回展覽會目錄
東京帝國大學附屬圖書館和　一一
　漢書名目錄
東京帝國大學附屬圖書館和　一一
　漢書目錄
東京帝國勸讀錄　二七七
東京冠禮部類記　二七一
東京舊事　二七一
東京御元服祝文　四七・五六
東京御書始部類記　四七・五六
東京年中行事　七七
東京圖書館增加書目錄　二一
東京圖書館和漢書假名目錄　二二
東京圖書館和漢書分類目錄　二二
東京ニ於ケル二十職工家計　二七七
　調査
東京日日新聞　二四三
東京國回新聞　二四三
東京日日新聞事業史　二四一
東京繁華一覽　二三〇
東鄉風土記　二六〇
東京府學事統計書　二七七
東京府下懲役場盜賊調　二七七
東京府工場統計書　二七七
東京府小學讀本の採用如何　一九九
東京府職業別死亡統計表　二七一
東京府統計書　二七四
東京府勢要覽　二七四
東京文理科大學文科紀要　二三八
東京每日新聞　二四三
道敎要論　一〇八
東京流行細見記　二三〇
島居隨錄　二六三
東京勸讀錄　二六三
東京冠禮部類記　二七七
東京舊事　二七一
東京御元服祝文　二七一
東京御書始部類記　二七一
東京年中行事　四七・五六
泰宮坊宮補任　七七
童訓略頌類纂　九三
詔卦　一六〇
統計一般　二六八
統計學研究　二七〇
桃溪客語　一六二・二三三
統計學講義　二七〇
統計學講義錄　二七〇
統計家那破烈翁大帝逸話　二八三
桐溪耆歷集　一六九
統計協議會議事要領　二七〇
統計原論　二七〇
統計講演筆記　二七一
統計講義　二七〇
統計講習會報告　二七〇
統計講話　二七〇
統計講話摘要　二七〇
統計講話筆記　二七〇
統計材料蒐集ノ難易　二七一
東京雜記　九七・九八
統計三家論を讀む　一八六
統計思想ニ就テ　二七一
統計集誌總目錄　二七一
統計上より觀たる我邦婦人　二七一
　の暗黑面
峒谿纖志　一五六・一六八
統計大意　二七一
統計大意國勢調査講義錄　二七一
統計通論　二七一
統計に就て　一八六
統計に就ての分疏　一八六

統計年鑑　二七二
統計年報　二七七
統計ノ行政及組織　二七二
統計之神髄　二七二
統計の大意及人口動態統計の效用　二七二
統計の方法及技術　二七二
統計の譯語は其定義に負かず　二八六
統計ノ理論及方法　二七二
統計の理論に就て　二七二
統計方法原論　二七二
東京夢華錄　一四一・一四八
統計理論　二七二
當家弓法集　八八
唐闕史　一四六
東家秘傳　四五・五七
どうけ百人一種　三七・二一〇
桃源遺事　九四
東見記　三三五
唐賢三昧集　二四〇
桃源手聽　一四四
陶犬新書　三三五
道元禪師和尚行錄　八〇
陶峴傳　一六二
東軒筆錄　一三二・一四六
道堅法師詠草　八五
道堅法師自歌合　五〇・六一
道堅法師百首　八四
桃元問答　一〇三
刀劍錄　一五〇
刀劍或問　一〇三
東湖遺稿　一七四
東湖詩文拾遺　一〇三
銅鼓書堂遺稾　一五
投壺新格　三八
東湖隨筆　一三二・一四四・一四六
東湖全集　一五九
東湖先生遺文　二九六
唐五代二十一家詞輯　二九二
道古堂集　四〇
道古堂全集　四〇
唐語林　一四九
唐賈浪仙長江集　一〇一
當今年中行事　一三七
東齋記事　一七二
東西紀聞　八五
陶齋誌果　一七四
唐才子傳　一三五・一四六
東西新聞　一七四
東齋隨筆　九七
陶齋隨筆　九八
東西南北に題す　一四一・一四六
東西二漢水辯　一三二・一四九・一六四
東西評林　三二・六四
東西文明の調和　一三二・一五四・一六六
東楼紀略　九七・九八
東作遺稿　九八
討作詩志贅　九七
討作詩志贅附錄　九七
洞山岩茶系　八五
陶山集　一六五
道山清話　一三二・一四六・一五二
答三辨文　一七四
等持院御八講記　二五五
等持院殿御百首　一五一
等持院殿御集　一七四・二二五
東寺王代記　一七四
唐詩解　二九八
統治關係の基本思想と「まつり」及び「まつりごと」の意義　二〇三
唐詩紀事　二五五
童子教　一四八
童子教故事要覽　一四八
唐詩金粉　九四
陶磁工　一三二
東寺光明講過去帳　二五七
東史綱目　三三
唐詩三體家法　二四三
唐詩十集　二〇五・六七・二三五
唐詩酒箴　二三五
骰子選格　一四三
童子先師　一八三
唐詩選評釋　一三九
東寺造營文書符案　四二・九九
東寺大塔升形銘　二六三
東寺長者拝高野檢校等次第　一一五
東寺長者拝堂記　七三
東寺長者補任　一〇〇
當時珍說要祕錄　四六・五六・九四
東寺塔供養記　一〇〇
唐詩品彙（拾遺共）　一三二・一四六・一五六
唐詩別裁集　二五〇
東寺寶泉院結緣灌頂雜記　八九
堂島舊記　六九
塔寺村八幡宮長帳　八四
塔誌銘　九一
當社御造替日記　二六四
當社學頭職次第　四六・五六
當社執行次第　四〇
唐寫本唐韻校記　二三
東洲几上語　二五・二三五
東洲艸堂詩鈔（詩餘共）　二四七
東洲枕上語　七一
東塾叢書　二五一
東塾讀書記　二三三
陶朱新錄　一三一・一四六
藤樹全書　七四
藤樹先生年譜　七四
桃樹の水素イオン濃度と二種のVallisa菌の發育に就て　二〇八
東巡記　一三〇・一四六
洞春公略譜　九七
東巡日誌　一二六
東巡錄　一七
唐書　二六五
洞簫記　一三二・一五七
東照宮大權現緣起　九三
道照愚草　八八
同昌公主傳　一五二

桐城吳先生全書　二〇六
東城雜記　一二
道成寺繪詞　九一
道成寺考　三四
道成寺鐘略緣起　四一
東寺要集　九〇
唐丞相曲江張先生文集　一三七
道成寺略緣起　四二
東照大權現御祭禮之次第　四三
道場法師傳　四六・五六
唐昭陵石蹟考略　一二四
東城老父傳　一三〇・一五二・一六二
動植名彙　一七六
唐書藝文志　一三
頭書字彙　二九三
頭書增補訓蒙圖彙　一七
頭書大成節用集　三三
唐書日書文字次第　九二
道助法親王家五十首和歌　四八・六〇
唐女郎魚玄機詩　二〇四・二〇七
東寺領國判　九二
唐史論斷　一三
同人　二九六
東晉置域志　二〇三
冬心齋研銘　一二六
唐人試帖　二五六
同人集　二五六
冬心集拾遺　二六二
同人唱和詩　一二七
唐人試律說　二五六
東人詩話　二〇六
唐人說薈　一二二
冬心先生畫記五種　九二
冬心先生畫竹題記　一三
冬心先生雜著　四二
冬心先生三體詩　九〇
冬心先生自度曲　一三七
冬心先生集　四二
冬心先生隨筆　四三
冬心先生續集　九六
同心名雜記書拔　二六〇
當世品定　一三六
冬青樹　二九六
東征集　一三
當世書生氣質　二九三
動靜水學　一七
陶靖節先生詩　三三
登西臺慟哭記　九二
東征傳　一四
當世風俗通　一四
當世二人女婿　九二
當世武野俗談　一三
當世名家評判記後編　二三六
唐石經考異補　二〇三
唐石經巧異　一二六
鄧析子　二五六
陶說　二五六
唐折衝府考　二六二
唐折衝府考補　一二七
燈前一睡夢　二五六
東漸和尚傳　九七
東漸雜誌に就きて巖巖生に言ふ　一六二
東旋詩紀　一三九
東潛夫論　二六一
燈前漫筆　二六一
投扇例　二六一
東撰和歌六帖　二六一
唐宋時賢千家詩選　二六一
唐宋時醇　二六一
唐宋小樂府　四三
唐宋諸賢絕妙詞選　一九三
唐宋千家聯珠詩格　二三七
鐙窗叢錄　二六二
唐宋大曲考　一九七
唐宋白孔六帖　二一二
唐宋八家文讀本　一六二
唐宋八大家文讀本　一三二・一五二
糖霜譜　四六・五六
唐宋名家歷代史論奇鈔　三五
銅像論　二九六
東塞山消息　三三
統率に關する原理の研究　二三五
唐孫樵集　二三五
當代江都百化物　二三五
唐大和上東征傳　一三三
東台看花記　一六二
東台見聞誌　二三六
東大寺越前國桑原莊券　一二七・二二六
東大寺繪所日記　二六二
東大寺繪起　二〇・一五二・一六二
東大寺戒壇院四天王像考證　一九二
東大寺具書　九〇
東大寺獻物帳考證　一三二
東大寺古文書目錄　九六
東大寺金銅碑文　一九二
東大寺三月堂諸佛像考證　一九二
東大寺三倉開封勘例　九六
東大寺三藏御寶物御改之帳　九六
東大寺正倉院開封記　九六
東大寺正倉院藏子日鋤及子日考證　一九三
東大寺正倉院美人屏風考證　一九二
東大寺所藏善財童子繪卷考證　一九二
東大寺造立供養記　五五・六六
東大寺續要錄　九五
東大寺大佛記　五五・六六
東大寺大佛の頭頂を補鑄せる山田道安に就いて　一三二・一五二
東大寺勅封藏目錄記　二〇九
東大寺奴婢籍帳　九六
東大寺八幡驗記　五六・六七
東大寺八幡轉害會記　九六
東大寺別當次第　四六・五六
東大寺法隆寺の美術　一九二
東大寺法花堂要錄　九四
東台春遊記　一四八
東大寺要錄　一四〇
唐太宗告少林寺　八二
唐代叢書　九三
唐段少卿酉陽雜俎（續集共）　一三五
鬪茶記　一五〇
堂中杖目錄　四四
道中粹語錄　一七三
東朝記　一二七・一五三
東長儀　九〇
唐張司業詩集　一三六
道聽塗說　九六
東潮封事　一七四
洞庭秋詩　二〇五
榻鳴曉筆　二三五
東天紅　一二
東田辜言　一五三
動轉愁記　九九
洞天清錄　一五〇
洞天清祿集　七一
洞天福地記　一三〇・一四八・一六二・一六五
唐土一代男　一八〇
桃洞遺筆　二九二
堂洞軍記　八七
當道拾要錄　九六
東塔東谷歌合　一〇四
東塔東谷歌合　四八・六〇
遠江國御神領記　九三
統率に關する原理の研究　四四
唐孫樵集　四四
東都紀行　一三五
唐土訓蒙圖彙　七二
道德恢復論　三〇
道德興起論　一八八
道德指歸論　一八八
冬讀書餘　一四〇
七五・二二五